本書の構成

本書をお読みになる前に

安全にお使いいただくための注意事項や、本書で使用している表記について説明しています。

第 1 章　ServerView の概要

この章では、ServerView の概要、管理形態、システム要件について説明しています。ServerView をお使いになる前に必ずお読みください。

第 2 章　インストール

この章では、ServerView のインストール方法について説明しています。

第 3 章　ServerView の使用方法

この章では、ServerView で行うさまざまなサーバの監視機能の使用方法について説明しています。

第 4 章　他のソフトウェアとの連携

この章では、他のソフトウェアとの連携について説明しています。

第 5 章　RemoteControlService の使用

この章では、RemoteControlService の使用方法について説明しています。

第 6 章　リモートサービスボード （PG-RSB101）の使用

この章では、リモートサービスボード（PG-RSB101）の使用方法について説明しています。リモートサービスボード（PG-RSB101）を搭載しているサーバのみ使用可能です。

第 7 章　リモートサービスボードの使用

この章では、リモートサービスボード（PG-RSB102 / PG-RSB103 / PG-RSB104 / PG-RSB105）の使用方法について説明しています。搭載しているサーバのみ使用可能です。

第 8 章　リモートマネジメントコントローラの使用

この章では、リモートマネジメントコントローラの Web インターフェース機能および設定方法について説明します。

付録

この章では、トラブルシューティングや各種リスト、技術情報などの補足情報について説明しています。

本書をお読みになる前に

■ 本書の表記

● 本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

重要	お使いになる際の注意点や、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
POINT	ハードウェアやソフトウェアを正しく動作させるために必要なことが書いてあります。必ずお読みください。
→	参照ページや参照マニュアルを示しています。

● キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

例：【Ctrl】キー、【Enter】キー、【→】キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「+」でつないで表記しています。

例：【Ctrl】+【F3】キー、【Shift】+【↑】キーなど

● 連続する操作の表記

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「→」でつないで表記しています。

例：「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」をポイントし、「アクセサリ」をクリックする操作

↓

「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」の順にクリックします。

● コマンド入力（キー入力）

本文中では、コマンド入力を以下のように表記しています。

```
diskcopy  a:  a:
          ↑   ↑
```

- ↑の箇所のように文字間隔を空けて表記している部分は、【Space】キーを1回押してください。
- 上記のようなコマンド入力について、英小文字で表記していますが、英大文字で入力してもかまいません。
- ご使用の環境によって、「¥」が「\」と表示される場合があります。
- CD-ROMドライブのドライブ名を、［CD-ROMドライブ］で表記しています。入力の際は、お使いの環境に合わせて、ドライブ名を入力してください。

  ［CD-ROMドライブ］:¥setup.exe

● Linux の操作について

お使いのバージョンにより、CD-ROM ドライブおよびフロッピーディスクドライブへのマウントコマンドが異なります。本書で「/mnt/cdrom/ または /media/cdrom/ または /media/cdrecorder/」、「mnt または media/floppy」と記載している操作については、お使いのバージョンにより、以下の操作に読み替えてください。

- RHEL-AS4(x86)/ES4(x86)/AS4(IPF) の場合
  /media/cdrecorder、/media/floppy
- RHEL-AS4(EM64T)/ES4(EM64T) の場合
  /media/cdrom、/media/floppy
- RHEL-AS3(x86)/AS3(IPF)/ES3(x86)/ の場合
  /mnt/cdrom、/mnt/floppy

● 画面例およびイラストについて

表記されている画面およびイラストは一例です。実際に表示される画面やイラスト、およびファイル名などが異なることがあります。また、このマニュアルに表記されているイラストは説明の都合上、本来接続されているケーブル類を省略していることがあります。

● 製品の呼び方

本文中の製品名称を、次のように略して表記します。

表：製品名称の略称

製品名称	本文中の表記		
Microsoft® Windows Server® 2003, Standard Edition Microsoft® Windows Server® 2003, Enterprise Edition Microsoft® Windows Server® 2003, Standard x64 Edition Microsoft® Windows Server® 2003, Enterprise x64 Edition Microsoft® Windows Server® 2003, Enterprise Edition for Itanium-based Systems	Windows Server 2003		Windows
Microsoft® Windows Server® 2003 R2 Standard Edition Microsoft® Windows Server® 2003 R2 Enterprise Edition Microsoft® Windows Server® 2003 R2 Standard x64 Edition Microsoft® Windows Server® 2003 R2 Enterprise x64 Edition		Windows Server 2003 R2	
Microsoft® Windows® 2000 Server Microsoft® Windows® 2000 Advanced Server	Windows 2000 Server		
Microsoft® Windows® Server Network Operating System Version 4.0 Microsoft® Windows NT® Server, Enterprise Edition 4.0	Windows NT		
Microsoft® Windows® XP Professional	Windows XP		
Microsoft® Windows® 2000 Professional	Windows 2000 Professional		
Microsoft® Windows NT® Workstation Operating System 4.0	Windows NT Workstation 4.0		
Red Hat Enterprise Linux AS（v.4 for x86）	Red Hat Linux	RHEL-AS4(x86)	Linux
Red Hat Enterprise Linux ES（v.4 for x86）		RHEL-ES4(x86)	
Red Hat Enterprise Linux AS（v.4 for EM64T）		RHEL-AS4(EM64T)	
Red Hat Enterprise Linux ES（v.4 for EM64T）		RHEL-ES4(EM64T)	
Red Hat Enterprise Linux AS（v.3 for x86）		RHEL-AS3(x86)	
Red Hat Enterprise Linux AS（v.3 for Itanium）		RHEL-AS3(IPF)	
Red Hat Enterprise Linux ES（v.3 for x86）		RHEL-ES3(x86)	
SUSE™ Linux® Enterprise Server 9 for x86	SUSE Linux	SLES9(x86)	
Intel LANDesk® Server Manager	LDSM		
リモートサービスボード （PG-RSB102 / PG-RSB103 / PG-RSB104 / PG-RSB105 ）	リモートサービスボード		

■ 参考情報

● ソフトウェア説明書について

ServerView では、本書で説明する事項以外で、参考となる情報や留意事項は、「ソフトウェア説明書」に記載されています。ServerView をお使いになる前に、必ずお読みください。
「ソフトウェア説明書」は、"Hints.txt" というファイル名で、PRIMERGY ドキュメント & ツール CD に登録されています。テキストエディタなどで開いてお読みください。

● 機種による制限事項、サポート OS について

お使いの機種によっては一部機能が制限される場合があります。機種ごとの制限事項については、「ソフトウェア説明書」（Hints.txt）内に記載されています。ServerView をお使いになる前に、ご確認ください。
本書に記載されている OS は、機種によってはサポートされていない場合があります。サーバのサポート OS については、各サーバに添付のマニュアルでご確認ください

● ServerView に関する最新情報について

ServerView に関する最新の情報は、インターネット情報ページ（http://primeserver.fujitsu.com/primergy/）に記載されています。

■ 商標

VGA、PS/2 は、米国 IBM の米国での登録商標です。
Microsoft、Windows、MS、MS-DOS、Windows Server は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
インテル、Intel、Pentium は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標または登録商標です。
Linux は、Linus Torvalds 氏の米国およびその他の国における登録商標あるいは商標です。
Red Hat および Red Hat をベースとしたすべての商標とロゴは、米国およびその他の国における Red Hat, Inc. の商標または登録商標です。
SUSE は、米国およびその他の国における Novell Inc. の商標です。
その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。
その他の各製品は、各社の著作物です。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2006

画面の使用に際して米国 Microsoft Corporation の許諾を得ています。

目　次

第 1 章　ServerView の概要

1.1 ServerViewとは 14

1.1.1 ハードウェアの監視 15

1.1.2 異常発生の通知／サーバ状況の確認 17

1.1.3 自動再構築 & 再起動 18

1.1.4 他のソフトウェア（LDSM、Systemwalker）との連携 18

1.1.5 リモート管理 19

1.1.6 リモートサービスボードを使用した高度なサーバ管理 19

1.1.7 信号灯制御プログラムとの連携（ラック管理） 20

1.1.8 留意事項 20

1.2 ハードウェアの管理形態 21

1.3 システム要件 22

第 2 章　インストール

2.1 インストールの流れ 30

2.2 インストール前の確認 31

2.2.1 TCP/IP プロトコルと SNMP サービスのインストール 31

2.2.2 バインド順序の変更 35

2.2.3 Service Pack の適用 36

2.2.4 Web サーバのインストール 36

2.2.5 カーネルと RPM のチェック 37

2.3 インストール 38

2.3.1 ［Windows］ServerView Windows コンソールのインストール 38

2.3.2 ［Windows］ServerView Windows エージェントのインストール（監視対象サーバ） 43

2.3.3 ［Windows］ServerView AlarmService のインストール（監視対象サーバ）45

2.3.4 ［Linux］ServerView Linux エージェントのインストール 50

2.3.5 ［Linux］ServerView Linux コンソールのインストール 59

2.4 インストール後の設定 67

2.4.1 Web ブラウザのインストール 68

2.4.2 Java™ 2 Runtime Environment Standard Edition のインストール 69

2.4.3 管理ユーザの設定 71

2.4.4 オプション装置の割り込み（MIB）情報の登録 73

2.4.5 Web サービスの拡張 76

2.4.6 ［Linux］各サービスの設定（監視対象サーバの場合） 77

2.4.7 ［Linux］各サービスの設定（監視対象サーバに ServerView Linux エージェントのみインストールする場合） 84

2.4.8 インストール後のコンピュータ情報変更 89

第 3 章　ServerView の使用方法

3.1 ServerView S2の起動と終了 92
3.1.1 ServerView S2 の起動 92
3.1.2 ServerView S2 のメニュー（機能一覧） 95
3.1.3 監視対象サーバの登録 97
3.1.4 サーバ設定の確認／変更 100
3.1.5 MIB の登録（MIB INTEGRATION） 103
3.2 サーバの監視 104
3.2.1 サーバの状態確認 104
3.2.2 サーバの各監視項目の詳細確認 108
3.2.3 構成情報の表示 111
3.2.4 アクション 116
3.2.5 オペレーティングシステムの情報表示 118
3.2.6 外部記憶装置の状態確認 119
3.2.7 ベースボードの状態確認 124
3.2.8 コンポーネントの状態確認 128
3.2.9 バージョンマネージャ（インベントリ） 132
3.2.10 リモートマネージャ 133
3.3 ブレードサーバの監視 134
3.4 異常発生時の対処（ASR） 138
3.4.1 設定方法 138
3.5 アラームサービス. 146
3.5.1 アラームモニタ 147
3.5.2 アラームマネージャ 154
3.5.3 アラーム設定 156
3.6 パフォーマンスマネージャ. 186
3.6.1 パフォーマンスマネージャの起動 187
3.6.2 しきい値の定義／変更 188
3.6.3 しきい値セットの新規作成／編集 193
3.6.4 レポートの定義／変更 194
3.6.5 レポートセットの新規作成／編集 196
3.6.6 サーバへの適用 197
3.6.7 レポートの参照／設定 197
3.6.8 相違点の確認と解消 205
3.7 アーカイブデータの管理 206
3.7.1 アーカイブマネージャの起動 206
3.7.2 アーカイブデータを作成する 207
3.7.3 アーカイブデータ取得のタスク設定 208
3.7.4 アーカイブデータの表示／比較／削除 210
3.7.5 アーカイブデータのログ 213
3.7.6 インポートアーカイブ 214
3.8 エクスポートマネージャ 215
3.8.1 エクスポートデータの取得 215

3.8.2 エクスポートデータ取得の設定 218
3.8.3 エクスポートデータを表示する 220
3.9 管理コンソールを使用したServerViewの操作 222
3.9.1 管理コンソールの起動 222
3.9.2 監視対象サーバ（オブジェクト）の追加 227
3.9.3 サーバ情報の確認／変更 231
3.9.4 しきい値マネージャ 232
3.9.5 レポートマネージャ 236
3.9.6 設定値を他のサーバへコピーする 240
3.9.7 ハードウェアの監視 241
3.9.8 ブレードサーバの状態確認 258
3.10 ServerView エージェントの設定 260
3.10.1 設定値の退避／復元（Configuration Tools） 260
3.11 ［Linux］ServerView Linux の使用方法 266

第 4 章　他のソフトウェアとの連携

4.1 Systemwalker連携 270
4.1.1 Systemwalker と ServerView 連携による管理 270
4.1.2 Systemwalker との連携による機能 271
4.1.3 Systemwalker との連携手順 272
4.2 Network Node Manager（hp OpenView ／日立 JP1）連携 279
4.2.1 連携できる NNM のバージョン 279
4.2.2 概要 279
4.2.3 NNM との連携手順 280
4.3 信号灯制御プログラムとの連携（ラック管理） 285
4.3.1 概要 285
4.3.2 信号灯制御プログラムの設定 288
4.3.3 ServerView 監視対象への信号灯追加／設定 289
4.3.4 アラームサービスの設定 290
4.3.5 信号灯の消灯 294
4.4 UPS管理ソフトウェア連携 295
4.4.1 UPS 管理ソフトウェア連携の概要 295
4.4.2 UPS 管理ソフトウェア連携の設定（Windows） 296
4.4.3 UPS 管理ソフトウェア連携の設定（Linux） 300
4.5 LDSM連携 303
4.6 RAID Manager連携 305
4.6.1 RAID Manager 連携の概要 305
4.6.2 ServerView RAID Manager（Web クライアント）の起動方法 306

第 5 章　RemoteControlService の使用

5.1 RemoteControlServiceの概要 310
5.1.1 機能 311
5.1.2 システム要件 312

5.1.3 留意事項 312
5.2 準備 313
5.2.1 RemoteControlService/Web のインストール／アンインストール 313
5.2.2 iRMC を使用するための設定 314
5.2.3 IPMI を使用するための設定 315
5.3 起動と終了 317
5.3.1 RemoteControlService/Web の起動と終了（iRMC Telnet 接続） 317
5.3.2 RemoteControlService/Web の起動と終了（iRMC/BMC IPMI 接続） 320
5.3.3 RemoteControlService/Web の起動と終了（RSB Telnet 接続） 323
5.3.4 RemoteControlService/Web の起動と終了（ManagementBlade 接続） . . . 325
5.4 使用方法 327
5.4.1 iRMC Telnet 接続 327
5.4.2 BMC 接続 329
5.4.3 RSB Telnet 接続 330
5.4.4 ManagementBlade Telnet 接続 337

第 6 章　リモートサービスボード（PG-RSB101）の使用

6.1 概要 340
6.1.1 機能 340
6.1.2 留意事項 341
6.2 準備 343
6.2.1 ドライバのインストール 343
6.2.2 通信インターフェースの設定 344
6.2.3 管理ユーザの設定 351
6.3 各種監視情報の表示 353
6.3.1 Web インターフェースの起動 353
6.3.2 ［Overview］ページ 356
6.3.3 ［Recovery］ページ 361
6.3.4 ［Storage Subsystems］ページ 377
6.3.5 ［Console Redirection］ページ 378
6.4 ダイヤルアップ接続 387

第 7 章　リモートサービスボードの使用

7.1 概要 400
7.1.1 機能 400
7.1.2 留意事項 400
7.2 準備 402
7.2.1 LAN インターフェースの設定 402
7.2.2 Management Server Application（MSA）のインストールと設定 405
7.2.3 ディレクトリサービス機能の設定 407
7.3 各種監視情報の表示 409
7.3.1 Web インターフェースの起動 409
7.3.2 ［Manage］ページ 412

7.3.3 ［Sensors］ページ 432
7.3.4 ［Card Config］ページ 433
7.3.5 ［Server Config］ページ 437
7.3.6 ［Alarm Config］ページ 439
7.3.7 ［User Config］ページ 440
7.3.8 ［Web/SSL Config］ページ 444
7.3.9 ［DS Config］ページ 448

第 8 章　リモートマネジメントコントローラの使用

8.1 概要 452
8.1.1 対応機種と機能 452
8.1.2 留意事項 453
8.2 準備 454
8.2.1 IP アドレスの設定 454
8.2.2 ユーザ名とパスワードの設定 454
8.3 起動と終了 456
8.3.1 リモートマネジメントコントローラ Web インターフェースの起動 456
8.3.2 リモートマネジメントコントローラ Web インターフェースの終了 459
8.4 情報の参照と設定 460
8.4.1 System Information 460
8.4.2 iRMC Information 461
8.4.3 Power On/Off 463
8.4.4 Sensors 466
8.4.5 System Event Log 474
8.4.6 Server Management Information 475
8.4.7 Network Settings 477
8.4.8 Alerting 480
8.4.9 User Management 483
8.4.10 Console Redirection 488
8.4.11 Remote Storage 496

付　録

A トラブルシューティング 498
A.1 インストールスクリプトのトラブルシューティング 498
A.2 管理コンソールのトラブルシューティング 502
A.3 アラームサービスのトラブルシューティング 508
A.4 ServerView S2 のトラブルシューティング 514
A.5 その他 516
B アンインストール 523
B.1 ServerView のアンインストール 523
C アイコンリスト 526
C.1 Server List 526
C.2 ServerView メニュー 527
C.3 Mylex の Device View ウィンドウ 528

C.4 DPT Disk Array Devices ウィンドウ 528
C.5 ネットワークインターフェースウィンドウ 528
C.6 バスとアダプタウィンドウ 529
C.7 Alarm Manager ウィンドウと Alarm Monitor ウィンドウ 529
C.8 クラスタのステータス（未サポート） 530
C.9 ブレードサーバのステータス 533
C.10 その他のアイコン 534
D トラップリスト 536
E しきい値リスト 537
E.1 監視される値 537
E.2 各値の意味 537
F 技術情報 543
F.1 エージェントと管理コンソール 543
F.2 Management Information Base 544
F.3 SNMP の基本原理 544
F.4 バージョン管理（Inventory View） 548
F.5 エクスポートされるコンテンツの一覧 549
F.6 SNMP 設定の変更方法 551
F.7 リモートサービスボード（RSB）のファームウェア版数 553
F.8 アクセス権設定 553

第 1 章

ServerView の概要

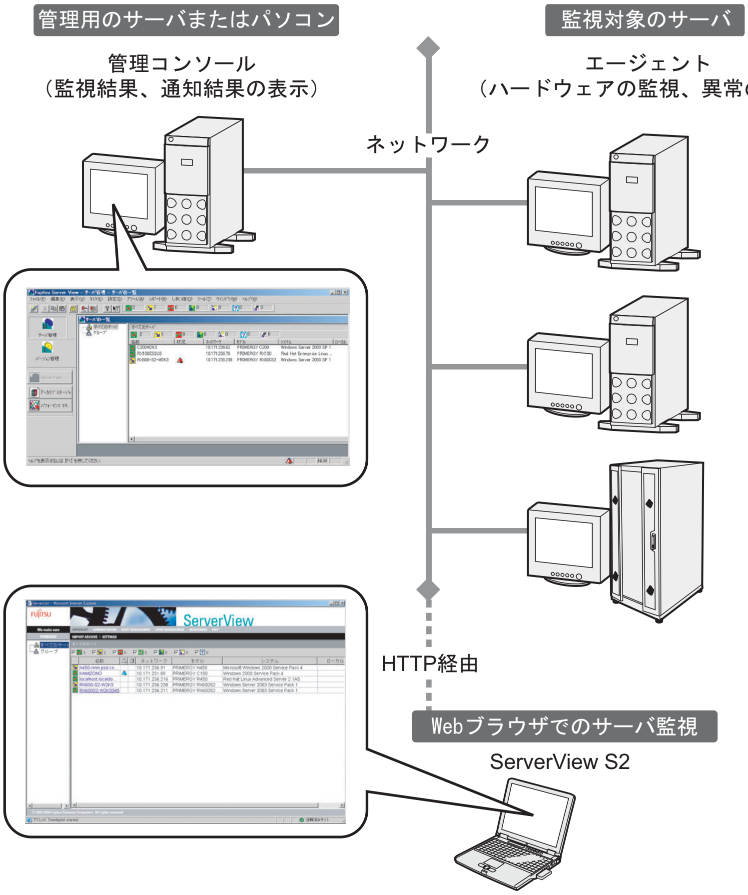
この章では、ServerView の機能、管理形態、システム要件について説明します。

1.1 ServerView とは 14
1.2 ハードウェアの管理形態 21
1.3 システム要件 22

1.1 ServerView とは

ServerView は、サーバのハードウェアが正常な状態にあるかどうかを、ネットワーク経由で監視するソフトウェアです。ServerView を使用すると、サーバが常時監視下に置かれ、異常が検出された場合には、サーバの管理者にリアルタイムに通知されます。
ここでは、ServerView の機能を紹介します。

ServerView には複数のコンポーネントがあり、監視対象のサーバで実際に監視を行ったり、異常を通知したりするソフトウェアを「エージェント」と呼び、管理用のサーバまたはパソコンで、監視結果を参照したり、監視対象サーバをコントロールしたりするソフトウェアを「管理コンソール」と呼びます。
また、Web ブラウザでサーバの監視を行う ServerView S2 の機能があり、管理コンソールをインストールしていないサーバ、またはパソコンからでもサーバの監視が行えます。管理コンソールとエージェントの両方をインストールするか、または管理コンソールとエージェントのそれぞれを個別にインストールするかを、ネットワーク構成やサーバの OS に合わせて選択できます。



■ サーバの監視方法

サーバの状態を確認したり、サーバ監視のための設定など、管理コンソール機能は、管理コンソールをインストールした管理端末で行う方法と、Web ブラウザを使用する方法があります。

● Web ブラウザを使用したサーバ監視

ServerView の機能「ServerView S2」を使用すると、Web ブラウザを使用して監視対象サーバを監視できます。管理者は、出張先のパソコンに管理コンソールがインストールされていなくても、Web ブラウザを使用して ServerView を使用できます。
ServerView S2 の起動や操作方法については「3.1 ServerView S2 の起動と終了」（→ P.92）を参照してください。

● 管理コンソールを使用したサーバ監視

ネットワークに接続されたサーバまたはパソコンに ServerView Windows コンソールをインストールし、監視対象サーバを監視します。管理コンソールの起動や操作方法については、「3.9 管理コンソールを使用した ServerView の操作」（→ P.222）を参照してください。

■ ServerView の機能

ServerView をインストールすることで、サーバの確実な運用を支援する、以下のような機能が利用できます。

- ハードウェアの監視（→ P.15）
- 異常発生の通知／サーバ状況の確認（→ P.17）
- 自動再構築 & 再起動（→ P.18）
- 他のソフトウェア（LDSM、Systemwalker など）との連携（→ P.18）
- リモート管理（→ P.19）
- リモートサービスボードを使用した高度なサーバ管理（→ P.19）
- 信号灯制御プログラムとの連携（ラック管理）（→ P.20）

1.1.1 ハードウェアの監視

ServerView は、サーバ本体のハードウェアコンポーネント、および搭載オプション装置の監視を行います。

■ 監視できるハードウェア

ServerView で監視できる、サーバ本体のハードウェアコンポーネント、およびオプション装置は、以下のとおりです。
これらの監視は ServerView エージェントをインストールすることにより、自動的に開始されます。監視項目に対しての特別な設定は必要ありません。
ただし、以下の場合は監視対象サーバに ServerView AlarmService がインストールされている必要があります。

- RAID 監視（RAID Manager 連携）

- REMCS 連携
  REMCS については、『REMCS エージェント運用ガイド』を参照してください。

● サーバ本体のハードウェアコンポーネント

機種により、監視できるハードウェアコンポーネントは異なります。詳しくは、PRIMERGY ドキュメント & ツール CD 内の「ソフトウェア説明書」(Hints.txt) を参照してください。

表：ハードウェアコンポーネント

監視できるコンポーネント	監視内容
電圧センサ	サーバの電圧
温度センサ	CPU・筐体内の温度
CPU	搭載 CPU 情報の表示、エラー
ファン	CPU・筐体内・電源のファン
筐体	筐体の開閉
メモリ	搭載情報の表示
電源	故障

● オプション装置

オプションで MIB ファイルが提供されている場合には、「2.4.4 オプション装置の割り込み (MIB) 情報の登録」(→ P.73) を参照して割り込み情報を登録してください。

表：オプション装置

監視できるオプション装置	監視概要
オンボード SCSI に取り付けた内蔵ハードディスクユニット	デバイス情報の表示
SCSI カード	カード情報の表示
LAN カード	インターネット情報の表示 イーサネット MAC 統計情報の表示
SCSI アレイコントローラカード	ドライブ一覧の表示 カード情報の表示 デバイス情報の表示
IDE-RAID コントローラカード	ドライブ一覧の表示 カード情報の表示 デバイス情報の表示

POINT

SCSI アレイコントローラカードを監視する場合

- SCSI アレイコントローラカードに添付されている SCSI-RAIDmanager (ServerView RAID Manager、GAM（Global Array Manager)、StorageManager）のインストールが必要です。

IDE-RAID コントローラカードを監視する場合

- IDE-RAID コントローラカードに添付されている IDE-RAIDmanager（PROMISE Fasttrak、PAM（PROMISE ARRAY MANAGEMENT)）のインストールが必要です。

1.1.2 異常発生の通知／サーバ状況の確認

ServerView は、異常の発生を管理コンソールに通知したり、サーバの状況を確認したりするための手段を提供します。
管理者は、サーバの現在の状況とトラブルの原因を確実に把握でき、トラブルに早期に対応できます。
通知するアラームの内容などは、柔軟に設定することが可能になっており、システムの運用形態に合わせて詳細に設定できます。

■ 異常発生の通知

ServerView は、サーバのハードウェアに異常を発見すると、監視プログラム（エージェント）がサーバのイベントログにイベントを格納し、SNMP トラップを通知します。
管理者は、ServerView のアラームサービスを使用して、アラームの参照、編集、通知方法の設定などを行えます。詳細は「3.5 アラームサービス」（→ P.146）を参照してください。
また、管理者は「しきい値」と呼ばれる監視基準を独自に設定でき、設定したしきい値を超えたら通知を行うよう、ServerView を設定できます（なお、しきい値の設定の有無にかかわらず、機種ごとに設定されている初期値での監視は常に行われています）。
しきい値の設定については、「3.6 パフォーマンスマネージャ」（→ P.186）管理コンソールの場合は「3.9.4 しきい値マネージャ」（→ P.232）を参照してください。

POINT

- ServerView Windows エージェントが格納するイベントログは、以下のとおりです。
  ログの種類：アプリケーション
  ソース名：ServerView Agents
- ServerView Linux エージェントが格納するシスログは、以下のとおりです。
  先頭の文字列が「Serverview:」

■ サーバ状況の確認

ServerView は、サーバ状況を確実に把握するための、以下の機能を備えています。
- サーバのハードウェアおよびソフトウェアのバージョンを管理する「バージョン管理機能」
- サーバの状況を記録する「アーカイブ機能」
- サーバの状況を出力する「レポーティング機能」

● バージョン管理機能

サーバのハードウェアコンポーネント、ソフトウェアの一覧を管理コンソール画面で確認できます。これらのバージョンを確認することで、サーバの各コンポーネントの状況を把握できます。バージョン管理機能については、「3.2.9 バージョンマネージャ（インベントリ）」（→ P.132）を参照してください。

● アーカイブ機能

ServerView のアーカイブサービスを利用して、サーバの状況を定期的に「アーカイブデータ」として記録できます。記録したアーカイブデータとトラブル発生後のアーカイブデータを比較することで、トラブルの原因を調査することができます。
アーカイブデータの作成や比較などの操作は、「アーカイブマネージャ」で行います。詳細は「3.7.1 アーカイブマネージャの起動」（→ P.206）を参照してください。

● レポーティング機能

レポート作成では、選択した項目に対して、一定の期間定期的に測定した値を記録して、評価のために、表またはグラフの形で表示できます。これにより、サーバを長期的に監視することができます。詳細は「3.6 パフォーマンスマネージャ」（→ P.186）を参照してください。
管理コンソールを使用した場合は「3.9.5 レポートマネージャ」（→ P.236）も使用できます。

■ 設定値の他のサーバへのコピー

上記のアラーム、しきい値、レポート出力などの各設定項目の設定値は、他のサーバにコピーできます。そのため、多数のサーバを同じ設定にする場合に設定の手間が省けます。
設定値を他のサーバにコピーする方法については、「3.9.6 設定値を他のサーバへコピーする」（→ P.240）を参照してください。

重要

- OS が Linux の場合、レポーティング機能および設定値の他のサーバへのコピー機能は、サポートされません。
  ただし、アーカイブは Linux 上の ServerView S2 より取得することができます。
- レポーティング機能および設定値のコピー機能を使用するには、Windows の管理コンソールから監視を行う必要があります。

1.1.3 自動再構築 & 再起動

ServerView は、「ASR（Automatic Server Reconfiguration & Restart：自動再構築 & 再起動）」と呼ばれる、異常発生時にサーバを自動的に再起動したりシャットダウンしたりする機能を備えています。この機能を使用することで、異常が発生したサーバを安全にシャットダウンしたり、再起動後に異常箇所のみを使用不能にしてサーバ運用を継続したりすることができます。
ASR の設定方法については、「3.4 異常発生時の対処（ASR）」（→ P.138）を参照してください。

1.1.4 他のソフトウェア（LDSM、Systemwalker）との連携

ServerView は、サーバ管理ソフトウェア LDSM（Intel LANDesk® Server Manager）の機能を呼び出したり、統合管理ソフトウェア Systemwalker の統合管理サーバに情報を送信したりするなど、他のソフトウェアと連携して動作できます。

■ LDSM 連携

LDSM V6.0 をお使いの場合、LDSM で管理しているサーバを ServerView の管理コンソールに表示することができます。また、ServerView の管理コンソールから LDSM コンソールを起動することもできます。
LDSM との連携方法については、「4.5 LDSM 連携」（→ P.303）を参照してください。

■ Systemwalker 連携

Systemwalker と連携することで、より統合的なサーバ管理が可能になります。ServerView での監視結果を Systemwalker の統合管理サーバに送信したり、Systemwalker から ServerView の管理コンソールを起動したりできます。
Systemwalker との連携方法については、「4.1 Systemwalker 連携」（→ P.270）を参照してください。

1.1.5　リモート管理

ServerView に添付されている「RemoteControlService」のインストールと、サーバの BIOS 拡張機能を設定することにより、サーバの管理者のパソコンからサーバの再起動やシャットダウン、BIOS セットアップなどを行えます。管理者は、サーバの設置場所に移動することなく、サーバの管理を行えます。
RemoteControlService のインストール方法、BIOS の設定方法などについては、「第 5 章 RemoteControlService の使用」（→ P.309）を参照してください。

重要

- RemoteControlService は、BIOS セットアップなどサーバ運用にかかわる重要な設定をパソコンから操作できてしまいます。サーバの管理者など、十分な知識を持った方のみ、操作を行ってください。
- RemoteControlService/LAN は、Windows の管理コンソールのみでサポートされています。

1.1.6　リモートサービスボードを使用した高度なサーバ管理

リモートサービスボード（RSB：Remote Service Board）は、専用の CPU・OS・通信インターフェース・電源を備えたオプションの拡張カードです。サーバの状態にかかわらず動作し、サーバがダウンしてサーバ単独で異常状態の通知ができない状態でも、監視や情報の通知を行います。サーバの管理者は、パソコンの管理コンソールか Web ブラウザから、RSB を通じてサーバの状況を把握し、強制的に電源を入れたり、リセットしたりするなどの復旧作業を行えます。
RSB を使用するためには、ドライバのインストールなど事前に準備が必要です。詳細は「第 6 章 リモートサービスボード （PG-RSB101）の使用」（→ P.339）、または「第 7 章 リモートサービスボードの使用」（→ P.399）を参照してください。

1.1.7 信号灯制御プログラムとの連携（ラック管理）

信号灯制御プログラムとの連携により、ラックに搭載された PRIMERGY サーバの状態を信号灯（パトライト製）に表示し、視覚的にサーバの状態管理が行えます。
複数サーバ、複数ラックの管理も行えます。

1.1.8 留意事項

● セキュリティについて

ServerView コンソール（ServerView S2、管理コンソール、AlarmService）の扱う情報の中には、管理者名等の個人情報や、その他の重要情報が含まれています。外部からアクセスできるドメインに設置する装置には、ServerView コンソールをできるだけインストールしないようお勧めします。インストールする場合は、設定した情報が外部からアクセスされないようセキュリティに十分ご注意いただくと共に、設定する内容についても必要最小限に留めるようご対応をお願いします。

POINT

- 設定例については、「F.8 アクセス権設定」（→ P.553）を参照してください。

1.2 ハードウェアの管理形態

サーバの管理者は、サーバのハードウェアの状態を、管理コンソールで確認できます。
使用するコンポーネントにより、ハードウェアの管理形態が異なります。

■ 管理コンソールとエージェントのコンポーネント

ServerView には、以下のコンポーネントが含まれています。

表：管理コンソールとエージェントのコンポーネント

コンポーネント名	対応 OS	役割
ServerView コンソール		
ServerView Windows コンソール ServerView S2 管理コンソール AlarmService	Windows Server 2003 R2 Windows Server 2003 Windows 2000 Server Windows XP Professional Windows 2000 Professional	全ての監視対象サーバの状態を一括監視／集中管理できます。監視対象サーバ、管理用のサーバまたはパソコンにインストールします。 ・ServerView S2 Web ブラウザでサーバを管理するクライアント機能を提供します。 ・管理コンソール Windows アプリケーションのサーバ管理クライアントソフトウェアです。 ・AlarmService エージェントからの SNMP トラップを受信し、イベントアクションを実行します。
ServerView Linux コンソール ServerView S2 AlarmService	Linux	全ての監視対象サーバの状態を一括監視／集中管理できます。監視対象サーバにインストールします。 ・ServerView S2 Web ブラウザでサーバを管理するクライアント機能を提供します。 ・AlarmService エージェントからの SNMP トラップを受信し、イベントアクションを実行します。
ServerView エージェント		
ServerView Windows エージェント エージェント	Windows Server 2003 R2 Windows Server 2003 Windows 2000 Server	監視対象サーバにインストールします。 ハードウェアの監視を行います。
ServerView Linux エージェント エージェント	Linux	監視対象サーバにインストールします。 ハードウェアの監視を行います。

POINT

- 管理コンソールは OS が Windows の場合のみインストールできます。OS が Linux の場合、管理コンソールはサポートしていません。
- 対応 OS の詳細については、「1.3 システム要件」（→ P.22）を参照してください。

1.3 システム要件

ServerView を使用するための、サーバおよびパソコンのシステム要件は以下のとおりです。

■ ServerView Windows エージェント（サーバへのインストール）

サーバに、ServerView Windows エージェント をインストールするときのシステム要件は、以下のとおりです。

表：ServerView Windows エージェント インストール時システム要件

サーバのシステム		動作条件
ハードウェア	使用メモリ	256MB 以上
	ハードディスク	空き領域が 100MB 以上
	ディスプレイ	SVGA（800 × 600）以上の解像度（推奨：1024 × 768）
	LAN カード	必要（オンボード LAN でも可）
	マウス	必要
ソフトウェア	OS	・Windows Server 2003 R2 ・Windows Server 2003 ・Windows 2000 Server ServicePack 4 以降
	プロトコル	TCP/IP が動作していること
	サービス	SNMP（サービスおよびトラップ）が動作していること
	アカウント	Administrator と同等の権限が割り当てられていること

重要

- ServerView Windows エージェントは PRIMERGY シリーズ専用です。PRIMERGY シリーズ以外のサーバにはインストールしないでください。

■ ServerView Windows コンソール（サーバまたはパソコンへのインストール）

パソコンにあるいはサーバに、ServerView Windows コンソールをインストールするときのシステム要件は、以下のとおりです。

表：ServerView Windows コンソールインストール時システム要件

パソコンのシステム		動作条件
ハードウェア	パソコン	IBM PC 互換機
	プロセッサ	Pentium® 以上
	使用メモリ	256MB 以上
	ハードディスク	空き領域が 400MB 以上
	ディスプレイ	SVGA（800 × 600）以上の解像度（推奨：1024 × 768）
	LAN カード	必要（オンボード LAN でも可）
	マウス	必要
	モデム	サポートしているモデムについては、弊社の「PRIMERGY システム構成図」をご覧ください。
ソフトウェア	OS	・Windows Server 2003 R2 ・Windows Server 2003 ・Windows 2000 Server ServicePack 4 以降 ・Windows XP Professional ・Windows 2000 Professional ServicePack 4 以降
	Web サーバ	・Microsoft Internet Information Server（Windows 場合） または ・ServerView Web-Server（Apache for Win32 ベース） （ServerView のインストール時に選択すると自動インストールされます） または ・Apache2
	プロトコル	TCP/IP が動作していること
	サービス	SNMP（サービスおよびトラップ）が動作していること
	Web ブラウザ	Microsoft Internet Explorer 5.5 以降（推奨 6.0 以降）がインストールされていること。 また、Java™ 2 Runtime Environment Standard EditionV1.4.2_08 以降がインストールされていること。（PRIMERGY ドキュメント & ツール CD 内からインストールできます。）
	アカウント	Administrator と同等の権限が割り当てられていること

重要

- ServerView V3.40 以降では、Mictosoft VirtualMachine は未サポートです。
- RAID 監視（RAID Manager 連携）または REMCS 連携を行う場合には、監視対象サーバに必ず AlarmService をインストールしてください。正しくインストールされていない場合には、シスログにエラーが記録されず連携できません。

■ ServerView Linux エージェント（サーバへのインストール）

サーバに、ServerView Linux エージェントをインストールするときのシステム要件は、以下のとおりです。

表：ServerView Linux エージェントインストール時システム要件

パソコンのシステム		動作条件
ハードウェア	使用メモリ	32MB 以上
	ハードディスク	空き領域が 30MB 以上（／ lib 3MB ／ var 3MB ／ etc 3MB ／ sbin 1MB ／ usr 20MB）
	ディスプレイ	SVGA（800 × 600）以上の解像度（推奨：1024 × 768）
	LAN カード	必要（オンボード LAN でも可）
	マウス	必要
ソフトウェア	OS	・ Red Hat Enterprise Linux AS（v.4 for x86）（略称：RHEL-AS4(x86)） ・ Red Hat Enterprise Linux ES（v.4 for x86）（略称：RHEL-ES4(x86)） ・ Red Hat Enterprise Linux AS（v.4 for EM64T）（略称：RHEL-AS4(EM64T)） ・ Red Hat Enterprise Linux ES（v.4 for EM64T）（略称：RHEL-ES4(EM64T)） ・ Red Hat Enterprise Linux AS（v.3 for x86）（略称：RHEL-AS3(x86)） ・ Red Hat Enterprise Linux AS（v.3 for Itanium）（略称：RHEL-AS3(IPF)） ・ Red Hat Enterprise Linux ES（v.3 for x86）（略称：RHEL-ES3(x86)） ・ Novell SUSE LINUX Enterprise Server 9 for x86（略称：SLES9(x86)）
	プロトコル	TCP/IP が動作していること
	サービス	SNMP（サービスおよびトラップ）が動作していること
	パッケージ (RPM)	RHEL-AS4(x86)/ES4(x86)/AS4(EM64T)/ES4(EM64T)/ RHEL-AS3(x86)/AS3(IPF)/ES3(x86) の場合 ・ net-snmp ・ net-snmp-utils ・ compat-libstdc++ ・ gcc ・ glibc ・ glibc-devel ・ binutils ・ libstdc++ ・ make ・ gawk ・ rpm ・ kernel-source（RHEL-AS3(x86)/ES3(x86)/AS3(IPF) の場合） ・ kernel-devel（RHEL-AS4(x86)/ES4(x86)/AS4(EM64T)/ES4(EM64T) の場合） ・ at SLES9(x86) の場合 ・ net-snmp ・ gcc ・ glibc ・ glibc-devel ・ binutils ・ make ・ gawk ・ rpm ・ kernel-source ・ at
	アカウント	スーパーユーザ

重要

- ServerView Linux エージェントは PRIMERGY シリーズ専用です。PRIMERGY シリーズ以外のサーバにはインストールしないでください。

■ ServerView S2 ／ AlarmService（OS が Linux の場合）

OS が Linux のサーバに、ServerView S2 ／ AlarmService をインストールするときのシステム要件は、以下のとおりです。

表：ServerView S2 ／ AlarmService インストール時システム要件

サーバのシステム		動作条件
ハードウェア	使用メモリ	128MB 以上
	ハードディスク	空き領域が 70MB 以上（／ var 60MB ／ etc 3MB ／ usr 7MB）
	ディスプレイ	SVGA（800 × 600）以上の解像度（推奨 : 1024 × 768）
	LAN カード	必要（オンボード LAN でも可）
	マウス	必要
	モデム	ポケットベルを使用して公衆回線経由で通信を行う場合にのみ必要です。サポートしているモデムについては、『PRIMERGY システム構成図』を参照してください。

表：ServerView S2 ／ AlarmService インストール時システム要件

サーバのシステム		動作条件
ソフトウェア	OS	・Red Hat Enterprise Linux AS（v.4 for x86）（略称：RHEL-AS4(x86)） ・Red Hat Enterprise Linux ES（v.4 for x86）（略称：RHEL-ES4(x86)） ・Red Hat Enterprise Linux AS（v.4 for EM64T）（略称：RHEL-AS4(EM64T)） ・Red Hat Enterprise Linux ES（v.4 for EM64T）（略称：RHEL-ES4(EM64T)） ・Red Hat Enterprise Linux AS（v.3 for x86）（略称：RHEL-AS3(x86)） ・Red Hat Enterprise Linux AS（v.3 for Itanium）（略称：RHEL-AS3(IPF)） ・Red Hat Enterprise Linux ES（v.3 for x86）（略称：RHEL-ES3(x86)） ・Novell SUSE LINUX Enterprise Server 9 for x86（略称：SLES9(x86)）
	Web サーバ	Apache（RPM を利用してインストールします）
	プロトコル	TCP/IP が動作していること
	サービス	インストール時に atd（サービス）が動作していること
	Web ブラウザ	RHEL-AS4(x86)/ES4(x86)/AS4(EM64T)/ES4(EM64T)/ RHEL-AS3(x86)/AS3(IPF)/ES3(x86) の場合 ・Mozilla V1.3 以降 ・Mozilla FireFox 1.0.4 以降 ・Java™ 2 Runtime Environment Standard Edition V1.4.2_08　以降 （PRIMERGY ドキュメント & ツール CD からインストールできます。） SLES9 (x86) の場合 ・Mozilla V1.7.8 以降
	パッケージ（RPM）	RHEL-AS4(x86)/ES4(x86)/AS4(EM64T)/ES4(EM64T)/ RHEL-AS3(x86)/AS3(IPF)/ES3(x86) の場合 ・net-snmp ・net-snmp-utils ・compat-libstdc++ ・httpd ・gnome-libs ・rpm ・gawk ・openssl ・mod_ssl ・at SLES9(x86) の場合 ・net-snmp ・apache2 ・gnome-libs ・rpm ・gawk ・openssl ・at
	アカウント	スーパーユーザ

重要

- ServerView S2、および AlarmService は、個別で使用することはできません。両方をインストールする必要があります。
- RAID 監視（RAID Manager 連携）または REMCS 連携を行う場合には、監視対象サーバに必ず ServerView S2 および AlarmService をインストールしてください。正しくインストールされていない場合には、シスログ（syslog）にエラーが記録されず連携できません。

■ ServerView S2 の表示条件

ServerView S2 の Web 画面を表示するための Web ブラウザ、および Java の条件を示します。

● Web ブラウザ

表：Web ブラウザの条件

OS	ブラウザ
Windows	Microsoft Internet Explorer 5.5 以降 （推奨 6.0 以降）
RHEL-AS4(x86)/ES4(x86)/AS4(EM64T)/ES4(EM64T) RHEL-AS3(x86)/AS3(IPF)/ES3(x86)	・Mozilla V1.3 以降 ・Mozilla FireFox 1.0.4 以降
SLES9(x86)	Mozilla V1.7.8 以降

● サービス

インストール時に atd（サービス）が動作していること。

● Java

Java™ 2 Runtime Environment Standard EditionV1.4.2_08 以降
（PRIMERGY ドキュメント & ツール CD 内からインストールできます。）

重要

- ServerView V3.40 以降では、Mictosoft VirtualMachine は未サポートです。

第 2 章

インストール

この章では、ServerView のインストール方法を
説明します。

2.1 インストールの流れ 30
2.2 インストール前の確認 31
2.3 インストール 38
2.4 インストール後の設定 67

2.1 インストールの流れ

ServerView のインストールは、以下の流れで行います。

インストール前の確認

インストール前に、次の確認を行います。

Windows の場合

- TCP/IPとSNMPサービスのインストール
- ServicePackの適用
- バインド順序の変更
- Webサーバのインストール

Linux の場合

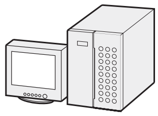
- Webサーバのインストール
- カーネルとRPMのチェック

インストール

ネットワーク構成に応じて、必要なコンポーネントをインストールします。

- シングルサーバ環境の場合は、OSの種類によってインストールするコンポーネントが異なります。
- マルチサーバ環境の場合は、OSの種類、通常のサーバ／ブレードサーバ、監視方法によって
  インストールするコンポーネントが異なります。

シングルサーバ環境



Windows の場合

- ServerView Windows エージェント
- ServerView Windows コンソール

Linux の場合

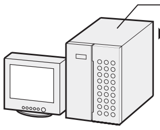
- ServerView Linux エージェント
- ServerView Linux コンソール

マルチサーバ環境

管理用のサーバまたはパソコン：管理コンソール

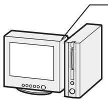
Windows の場合

管理をサーバで行う場合



- ServerView Windows コンソール

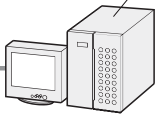
管理をパソコンで行う場合



- ServerView Windows コンソール

監視対象のサーバ：エージェント

通常のサーバの場合



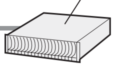
Windows の場合

- ServerView Windows エージェント
- ServerView AlarmService *1

Linux の場合

- ServerView Linux エージェント
- ServerView Linux コンソール

ブレードサーバの場合



Windows の場合

- ServerView Windows エージェント
- ServerView AlarmService *1

Linux の場合

- ServerView Linux エージェント
- ServerView Linux コンソール

*1：ServerView AlarmServiceは、RAID監視（RAID Manager連携）またはREMCS連携を行う場合に、インストールします。

インストール後の設定

インストール後、OSのコンポーネントをインストールしたり、各種設定を行ったりします。

Windows の場合

- Microsoft InternetExplolerのインストール
- Java 2 Runtime Enviroment Standard Edisionのインストール
- 管理ユーザの設定
- オプション装置の割り込み情報の登録

Linux の場合

- 各サービスの設定（通常のサーバの場合）
- 各サービスの設定（ブレードサーバの場合）
- Java 2 Runtime Environment Standard Editionのインストール
- オプション装置の割り込み情報の登録

2.2 インストール前の確認

ServerView をインストールする前に、以下の事項を確認してください。

2.2.1 TCP/IP プロトコルと SNMP サービスのインストール

ServerView が正しく動作するためには、監視対象のサーバに、TCP/IP プロトコルと SNMP サービスがインストールされている必要があります。
以下の説明では、SNMP サービスのコミュニティ名の例を「public」として記述しています。必要に応じてコミュニティ名を変更してください。コミュニティ名の変更については、技術情報を参照してください。「付録 F 技術情報」（→ P.543）

■ Windows Server 2003 の場合

1 コントロールパネルを起動します。

2 ［ネットワーク接続］をダブルクリックします。

3 「詳細設定」メニュー →「オプションネットワークコンポーネント」の順にクリックします。

4 以下のいずれかの操作を行います。

「オプションネットワークコンポーネントウィザード」で「管理とモニタツール」がすでにチェックされていた場合

1.「管理とモニタツール」をクリックし、［詳細］をクリックして、「簡易ネットワーク管理プロトコル（SNMP」がチェックされているかを確認します。
チェックされている場合は、すでに SNMP サービスがインストールされています。この場合は、手順 5 に進んでください。

「オプションネットワークコンポーネントウィザード」で「管理とモニタツール」がチェックされていなかった場合

以下の操作で SNMP サービスをインストールします。

1.「オプションネットワークコンポーネントウィザード」で「管理とモニタツール」をチェックします。
2.［詳細］をクリックし、「簡易ネットワーク管理プロトコル（SNMP）」がチェックされていることを確認し、［OK］をクリックします。
3.「オプションネットワークコンポーネントウィザード」で［次へ］をクリックします。
メッセージに従って操作します。

5 コントロールパネルを起動し、［管理ツール］アイコンをダブルクリックします。

6 ［コンピュータの管理］をクリックします。

7 左側のツリーで「サービスとアプリケーション」→「サービス」の順にクリックします。

8 右側のウィンドウで［SNMP Service］をクリックします。

9 「操作」メニュー →「プロパティ」の順にクリックします。

10 ［全般］タブの、「スタートアップの種類」項目が「自動」に設定されていることを確認します。
「自動」になっていなかった場合は、「自動」に設定してください。

11 ［トラップ］タブをクリックします。

12 「コミュニティ名」にすでに「public」がある場合は、「public」を選択します。存在しない場合は、「コミュニティ名」に「public」を入力し、［一覧に追加］をクリックします。

13 「トラップ送信先」の［追加］をクリックします。

14 ServerView Windows コンソールをインストールするサーバのホスト名、IP アドレスを入力し、［追加］をクリックします。
シングルサーバ環境で ServerView Windows コンソールをインストールする場合、自分自身のホスト名、IP アドレスを入力します。複数の ServerView Windows コンソールを運用する場合には、それぞれのホスト名、IP アドレスを入力します。

15 ［セキュリティ］タブをクリックします。

16 「public」をクリックし、［編集］をクリックします。

17 「コミュニティの権利」から「読みとり、書き込み」または「読みとり、作成」を選択し、［OK］をクリックします（「読みとり、書き込み」を推奨）。

<u>「受け付けるコミュニティ名」のリスト中に、「public」が存在しない場合</u>

以下の操作でコミュニティを追加します。

1. ［追加］をクリックします。
2. 「コミュニティの権利」から「読みとり、書き込み」または「読みとり、作成」を選択します（「読みとり、書き込み」を推奨）。
3. 「コミュニティ」に「public」と入力し、［追加］をクリックします。

18 SNMP パケットを受け付けるホストの設定を行います。

すべてのホストのパケットを受け付ける場合

1.「すべてのホストからの SNMP パケットを受け付ける」をクリックします。

指定したホストのパケットのみを受け付ける場合

1.「次のホストからの SNMP パケットを受け付ける」をクリックします。
2. ［追加］をクリックします。
3. ServerView をインストールするサーバのホスト名、IP アドレスを入力し、［追加］をクリックします。
ServerView Windows エージェントをインストールするサーバでは、必ずループバックアドレス（127.0.0.1）を含めてください。

19 ［OK］をクリックします。

POINT

- Windows Server 2003 ではメッセージの PopUp（Messenger）の初期設定は無効になっています。ServerView の監視機能でメッセージの PopUp を行う場合は以下の手順で設定を行います。
  1.「スタート」ボタン→［管理ツール］の順にクリックします。
  2. ［コンピュータの管理］をクリックします。
  3. 左側のツリーで「サービスとアプリケーション」→「サービス」の順にクリックします。
  4. 右側のウィンドウで［Messenger］をクリックします。
  5.「操作」メニュー →「プロパティ」の順にクリックします。
  6. ［全般］タブをクリックします。
  7.「スタートアップの種類」の「自動」を選択し、［OK］をクリックします。

■ Windows 2000 Server の場合

1 コントロールパネルを起動します。

2 ［ネットワークとダイヤルアップ接続］アイコンをダブルクリックします。

3 「詳細設定」メニュー →「オプションネットワークコンポーネント」の順にクリックします。

4 以下のいずれかの操作を行います。

「オプションネットワークコンポーネントウィザード」で「管理とモニタツール」がすでにチェックされていた場合

1.「管理とモニタツール」をクリックし、［詳細］をクリックして、「簡易ネットワーク管理プロトコル（SNMP」がチェックされているかを確認します。
チェックされている場合は、すでに SNMP サービスがインストールされています。この場合は、手順 5 に進んでください。

「オプションネットワークコンポーネントウィザード」で「管理とモニタツール」がチェックされていなかった場合

以下の操作で SNMP サービスをインストールします。

1.「オプションネットワークコンポーネントウィザード」で「管理とモニタツール」をチェックします。
2. ［詳細］をクリックし、「簡易ネットワーク管理プロトコル（SNMP）」がチェックされていることを確認し、［OK］をクリックします。

3.「オプションネットワークコンポーネントウィザード」で［次へ］をクリックします。
4. メッセージに従って操作します。

5 コントロール パネルから［管理ツール］アイコンをダブルクリックします。

6 ［コンピュータの管理］アイコンをダブルクリックします。

7 左側のツリーで「サービスとアプリケーション」→「サービス」の順にクリックします。

8 右側のウィンドウで［SNMP Service］をクリックします。

9 「操作」メニュー →「プロパティ」の順にクリックします。

10 ［全般］タブの、「スタートアップの種類」項目が「自動」に設定されていることを確認します。

「自動」になっていなかった場合は、「自動」に設定してください。

11 ［トラップ］タブをクリックします。

12 「コミュニティ名」にすでに「public」がある場合は、「public」を選択します。

存在しない場合は、「コミュニティ名」に「public」を入力し、［一覧に追加］をクリックします。

13 「トラップ送信先」の［追加］をクリックします。

14 ServerView Windows コンソールをインストールするサーバのホスト名、IP アドレスを入力し、［追加］をクリックします。

シングルサーバ環境で ServerView Windows コンソールをインストールする場合は、自分自身のホスト名、IP アドレスを入力します。

複数の ServerView Windows コンソールを運用する場合には、それぞれのホスト名、IP アドレスを入力します。

15 ［セキュリティ］タブをクリックします。

16 「public」をクリックします。

17 ［編集］をクリックします。

18 「コミュニティ権利」から「READ_WRITE」または「READ_CREATE」をクリックし、［OK］をクリックします（「READ_WRITE」を推奨）。

<u>「受け付けるコミュニティ名」のリスト中に、「public」が存在しない場合</u>

以下の操作でコミュニティを追加します。

1.［追加］をクリックします。

2.「コミュニティ権利」から、「READ_WRITE」または「READ_CREATE」をクリックします（「READ_WRITE」を推奨）。
3.「コミュニティ」に「public」と入力します。
4.［追加］をクリックします。

19 SNMP パケットを受け付けるホストの設定を行います。

すべてのホストのパケットを受け付ける場合

1.「すべてのホストからの SNMP パケットを受け付ける」をクリックします。

指定したホストのパケットのみを受け付ける場合

1.「次のホストからの SNMP パケットを受け付ける」をクリックします。
2.［追加］をクリックします。
3. ServerView をインストールするサーバのホスト名、IP アドレスを入力し、［追加］をクリックします。
ServerView Windows エージェントをインストールするサーバでは、必ずループバックアドレス（127.0.0.1）を含めてください。

20 ［OK］をクリックします。

2.2.2 バインド順序の変更

複数枚の LAN カードを搭載するなどして、サーバに複数の IP アドレスが存在する場合、ServerView はネットワークのバインドで設定された順序に従って、IP アドレスを検索します。
バインド順序は、管理コンソールとの通信を行うアダプタを最初に検索するよう、設定してください。
ネットワークのバインド順序を変更する手順は、以下のとおりです。

1 コントロールパネルを起動します。

2 「ネットワーク接続」をダブルクリックします。
「ネットワーク接続」画面が表示されます。

3 「ネットワーク接続」画面で、「詳細設定」メニューの「詳細設定」をクリックします。
「詳細設定」画面が表示されます。

4 「アダプタとバインド」タブをクリックします。

5 変更したい接続をクリックして、右にある矢印ボタンで順序を変更します。

2.2.3 Service Pack の適用

ServerView の各コンポーネントをインストールするすべてのサーバおよびパソコンに、Service Pack を適用してください。ただし、Windows Server 2003 R2 の場合は必要ありません。

- Windows 2000 Server の場合、Service Pack 4 以降を適用します。
- Windows Server 2003 の場合、Service Pack1 を適用します。

重要

- Service Pack は必ず適用してください。Service Pack を適用しない場合、動作は保証できません。すでに Service Pack が適用されている場合には、再度適用の必要はありません。
- 必ず SNMP サービスがインストールされていることを確認してから、Service Pack を適用してください。

2.2.4 Web サーバのインストール

アラームサービス（「■ 異常発生の通知」（→ P.17）参照）、アーカイブ機能（「● アーカイブ機能」（→ P.18）参照）、Web ブラウザによるサーバ監視（「● Web ブラウザを使用したサーバ監視」（→ P.15）参照）は、Web ブラウザから利用する機能です。これらの機能を利用するためには、サーバに Web サーバソフトのインストールが必要です。
ServerView がサポートする Web サーバソフトは、以下のとおりです。

- **OS が Windows の場合は、以下のいずれか**
  - ServerView Web-Server（Apache for Win32 ベース）
  - Microsoft Internet Information Server（IIS）
  - Apache2
- **OS が Linux の場合は、以下のいずれか**
  - Red Hat Linux：httpd
  - SUSE Linux：apache2

POINT

- OS が Linux の場合、ServerView S2 ／ AlarmService を使用しない場合は、Web サーバのインストールは不要です。
- ServerStart により ServerView を自動インストールする場合、ServerView Web-Server または IIS を選択可能です。

■ ServerView Web-Server

ServerView Windows コンソールのインストール時に、ServerView Web-Server のインストールを選択すると、自動的にインストールされます。

■ Microsoft Internet Information Server（IIS）

IIS を使用する場合は、ServerView のインストール前にインストールしておきます。

■ Apache2（Windows）

独自に Apache2 を使用する場合は、ServerView のインストール前に Apache2 をインストールしておきます。

■ httpd ／ apache2

OS が Linux の場合は、ServerView Linux コンソールのインストール前に、以下の RPM をインストールしておきます。

- Red Hat Linux：httpd
- SUSE Linux：apache2

2.2.5 カーネルと RPM のチェック

PRIMERGY ドキュメント & ツール CD をセットし、以下のコマンドを実行してください。

```
# mount /mnt/cdrom/または/media/cdrom/または/media/cdrecorder/
# cd /mnt/cdrom/または/media/cdrom/または/media/cdrecorder/Svmanage/
# /LinuxSVAgent/chksys（監視対象サーバにServerView Linux エージェントのみインストールする場合）
# /LinuxSVConsole/chksys（監視対象サーバにServerView Linux コンソールのみインストールする場合）
```

ServerView Linux エージェントと ServerView Linux コンソールの両方をインストールする場合は、双方のコマンドを実行してください。
カーネルバージョンについてのエラーが表示された場合は、カーネルのアップデートが正常に行われているか確認してください。
RPM パッケージが不足している旨のエラーメッセージが表示された場合は、Red Hat Linux または SLES9(x86) の CD-ROM から RPM パッケージをインストールしてください。

重要

- カーネルのアップデートを実施した場合は、カーネル版数と、kernel-sourse の版数が一致しているかどうかを確認してください。カーネル版数と、kernel-sourse の版数が一致していないと、ServerView のインストールができません。カーネル版数は "uname -r" 、kernel-sourse の版数は "rpm -q kernel-source" の出力結果で確認できます。

2.3 インストール

ServerView の各コンポーネントのインストール方法を説明します。

2.3.1 ［Windows］ServerView Windows コンソールのインストール

Windows で管理コンソールを使用する場合は、ServerView Windows コンソール（管理コンソール／ ServerView S2 ／ AlarmService）をインストールします。

重要

- ServerView Windows コンソールのインストール後、Web サーバ（Apache2、IIS）を変更したい、またはアップデートする場合は、アンインストール実施後、インストールを行ってください。なお、ServerStart で ServerView を自動インストールした場合、Web サーバは ServerView Web-Server または IIS が選択されています。
  アンインストールについては、「付録 B アンインストール」（→ P.523）を参照してください。
- ターミナルサーバがインストールされているシステムでは、アプリケーションのインストール方法が通常とは異なります。ターミナルサーバ環境に ServerView をインストールする場合は、下記手順 3 の操作を、コントロールパネルを起動し、「プログラムの追加と削除」→「プログラムの追加」から行ってください。
- ServerView Windows コンソール をインストールする前に Java がインストールされていない場合、以下のメッセージが表示されます。
  「Java Virtual Machine が検出されません。Java Virtual Machine をインストールするまで、適切に動作されない機能があります。」
  ［OK］をクリックすると、インストールが継続されます。ServerView Windows コンソールのインストール終了後、Java のインストールを行ってください。
- ServerView Windows コンソールは上書きインストールができません。ServerView AlarmService をインストールしている場合でも、上書きインストール、および他機能の追加インストールを行うことはできません。現在インストールされている ServerView Windows コンソールまたは ServerView AlarmService をアンインストールしたあと、インストールを行ってください。
- 複数のバージョンの ServerView をお持ちの場合は、ServerView Windows コンソールは必ず最新のものをインストールしてください。

1 管理者または管理者と同等の権限を持つユーザ名でログインします。

2 実行中のアプリケーションをすべて終了します。

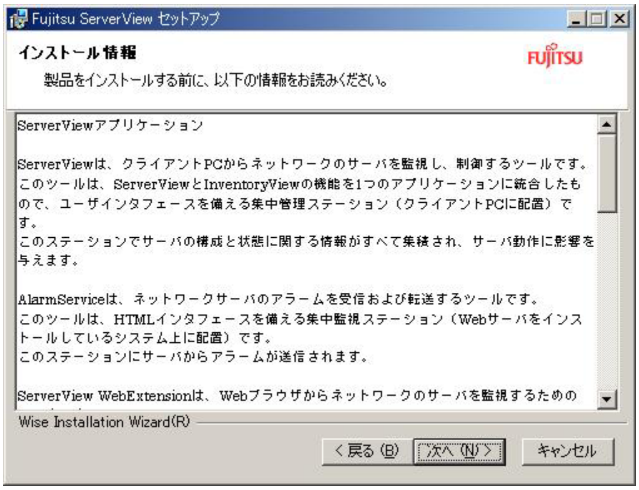
3　**PRIMERGY ドキュメント＆ツール CD をセットし、以下のインストーラをダブルクリックします。**

［CD-ROM ドライブ］:¥Svmanage¥WinSVConsole¥SV_Console.bat

「Fujitsu ServerView セットアップ」画面が表示されます。

4　**［次へ］をクリックします。**

「インストール情報」画面が表示されます。



5 ［次へ］をクリックします。

「インストール先フォルダ」画面が表示され、ServerView Windows コンソール の格納先フォルダが表示されます。

6 ［次へ］をクリックします。

「WebServer の選択」画面が表示されます。
ただし、IIS がインストールされていない場合は「WebServer の選択」画面は表示されません。

重要

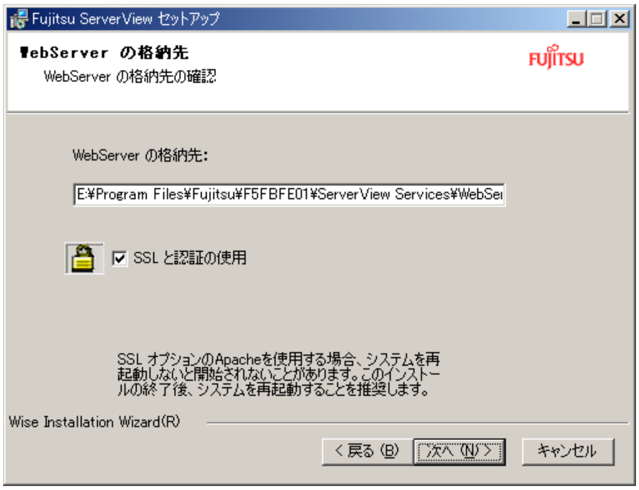
- ServerView Web-Server を選択した場合、Apache2 for Win32 をベースとした Web サーバが ServerView とともにインストールされます。また、Windows のタスクスケジューラに「At**（** : タスク ID）」のタスク名でタスクが追加されます。
- IIS を選択した場合、インストール済みの IIS を Web サーバとして使用します。
- Web サーバとして既に Apache2 がインストールされている場合、「WebServer の選択」画面の選択項目は、「ServerView Web-Server」ではなく「Apache2(Installed Apache2 server)」が表示されます。

7　使用する Web サーバを選択し、［次へ］をクリックします。

「WebServer の格納先」画面が表示されます。

選択した WebServer により、画面が異なります。

<u>Web サーバに「ServerView Web-Server」を選択した場合</u>



<u>Web サーバに「IIS」、または「Apache2(Installed Apache2 server)」を選択した場合</u>

POINT

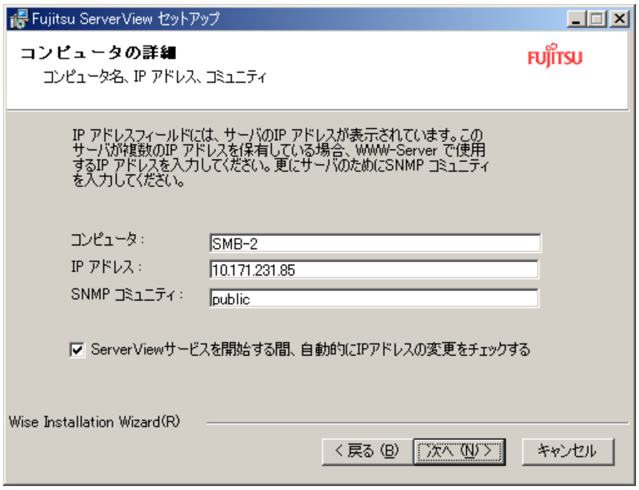
- 「Web サーバの選択」画面で ServerView Web-Server を選択した場合、「SSL と認証を使用する」チェックボックスが表示されます。
  チェックボックスを有効にすると、Web 接続時に SSL 接続が使用できるようになり、また接続時に認証が要求されるようになります。
  なお、このオプションを選択した場合は、インストール終了後、システムを再起動することを推奨します。

重要

- 表示されている格納先のフォルダは変更しないでください。
- IIS のポート番号を自動に取り込むことはできません。IIS のポート番号を変更した場合、変更したポート番号を入力し直してください。
- ServerStart で ServerView を自動インストールした場合、SSL と認証の使用は有効になっています。無効にしたい場合は、ServerView をアンインストールし、再度 ServerView のインストーラを起動してインストールしてください。
  認証に使用するユーザ名とパスワードは、デフォルトでユーザ名「svuser」、パスワード「fsc」に設定されています。
  ユーザ名とパスワードの追加、変更については、「● ServerView Web-Server と SSL について」（→ P.520）を参照してください。

8 ［次へ］をクリックします。

「コンピュータの詳細」画面が表示されます。



9 ［次へ］をクリックします。

「アプリケーションのインストール開始」画面が表示されます。

10　［次へ］をクリックします。

インストール処理が開始されます。
完了すると、「終了」画面が表示されます。

11　［終了］をクリックします。

これでインストールは終了です。インストール終了後、「2.4 インストール後の設定」（→ P.67）を参照し、ServerView を運用するための設定を行ってください。

2.3.2 ［Windows］ServerView Windows エージェントのインストール（監視対象サーバ）

Windows 監視対象サーバに、ServerView Windows エージェントをインストールします。

重要

- RAS 支援サービス V3.0 L10 をインストールする場合は、必ず RAS 支援サービスをインストールしたあとに、ServerView をインストールしてください。誤って RAS 支援サービスを後からインストールした場合は、ServerView エージェントを再度インストールしてください。
- RAS 支援サービスについては、サーバに添付の『ソフトウェアガイド』を参照してください。
- ServerView Windows エージェント をアップデートしたい場合は、ServerView Windows エージェント のアンインストール実施後、インストールを行ってください。
アンインストールについては、「付録 B アンインストール」（→ P.523）を参照してください。
- ターミナルサーバがインストールされているシステムでは、アプリケーションのインストール方法が通常とは異なります。ターミナルサーバ環境に ServerView Windows エージェントをインストールする場合は、下記手順 3 の操作を、コントロールパネルを起動し、「プログラムの追加と削除」→「プログラムの追加」から行ってください。
- Windows Server 2003 R2 上で ServerView を使用するときは、「プログラムの追加と削除」の「Windows コンポーネントの追加と削除」で、「管理とモニタツール」の「ハードウェアの管理」をインストールしないでください。「ハードウェアの管理」をインストールしている場合は、先にアンインストールしてください。

POINT

- 監視対象サーバにおいて、RAID 監視（RAID Manager 連携）または REMCS 連携を行う場合は、AlarmService をインストールする必要があります。この場合は、ServerView Windows コンソールまたは ServerView AlarmService をインストールしてください。それぞれのインストールについては、以下を参照してください。
  ・ServerView Windows コンソールのインストール
  →「2.3.1 ［Windows］ServerView Windows コンソールのインストール」（P.38）
  ・ServerView AlarmService のインストール
  →「2.3.3 ［Windows］ServerView AlarmService のインストール（監視対象サーバ）」（P.45）

1　管理者または管理者と同等の権限を持つユーザ名でログインします。

2　実行中のアプリケーションをすべて終了します。

3 PRIMERGY ドキュメント＆ツール CD をセットし、以下のインストーラを起動します。

［CD-ROM ドライブ］:¥Svmanage¥WinSVAgent¥Agents_setup.EXE

「ServerView System Requirements」画面が表示されます。

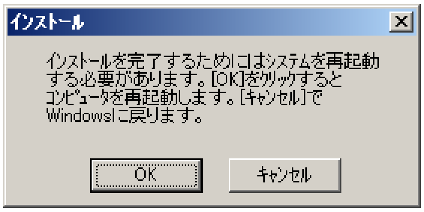
4 ［OK］をクリックします。

「ServerView Hints」画面が表示されます。

5 ［OK］をクリックします。

インストールが完了すると、再起動メッセージが表示されます。

6 ［OK］または［キャンセル］をクリックします。



インストール終了後、「2.4 インストール後の設定」（→ P.67）を参照し、ServerView を運用するための設定を行ってください。

2.3.3 ［Windows］ServerView AlarmService のインストール（監視対象サーバ）

Windows 監視対象サーバにおいて、RAID 監視（RAID Manager 連携）または REMCS 連携を行う場合は、ServerView AlarmService をインストールします。

重要

- ServerView AlarmService のインストール後、Web サーバ（Apache2、IIS）を変更したい、またはアップデートする場合は、アンインストール実施後、インストールを行ってください。なお、ServerStart で ServerView を自動インストールした場合、ServerView Windows コンソールがインストールされ、Web サーバは ServerView Web-Server または IIS が選択されています。
  アンインストールについては、「付録 B アンインストール」（→ P.523）を参照してください。
- ターミナルサーバがインストールされているシステムでは、アプリケーションのインストール方法が通常とは異なります。ターミナルサーバ環境に ServerView をインストールする場合は、下記手順 3 の操作を、コントロールパネルを起動し、「プログラムの追加と削除」→「プログラムの追加」から行ってください。
- ServerView AlarmService をインストールする前に Java がインストールされていない場合、以下のメッセージが表示されます。
  「Java Virtual Machine が検出されません。Java Virtual Machine をインストールするまで、適切に動作されない機能があります。」
  ［OK］をクリックすると、インストールが継続されます。ServerView AlarmService のインストール終了後、Java のインストールを行ってください。
- ServerView AlarmService は、ServerView Windows コンソールがインストールされている場合でも、上書きインストールができません。現在インストールされている ServerView Windows コンソールまたは ServerView AlarmService をアンインストールしたあと、インストールを行ってください。
- 複数のバージョンの ServerView をお持ちの場合は、ServerView AlarmService は必ず最新のものをインストールしてください。

POINT

- 監視対象サーバに、ServerView S2 ／ ServerView 管理コンソールもインストールする場合は、ServerView AlarmService ではなく、ServerView Windows コンソールをインストールします。
  ServerView Windows コンソールのインストールについては、「2.3.1 ［Windows］ServerView Windows コンソールのインストール」（→ P.38）を参照してください。

1 管理者または管理者と同等の権限を持つユーザ名でログインします。

2 実行中のアプリケーションをすべて終了します。

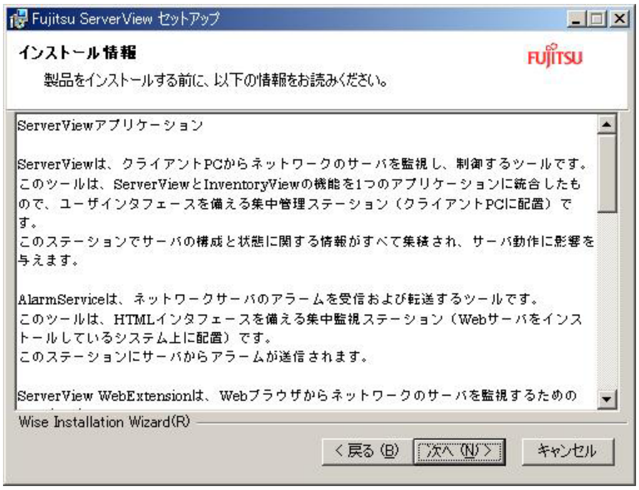
3 PRIMERGY ドキュメント＆ツール CD をセットし、以下のインストーラをダブルクリックします。

［CD-ROM ドライブ］:¥Svmanage¥WinSVConsole¥SV_AlarmSV.bat

「Fujitsu ServerView セットアップ」画面が表示されます。

4 ［次へ］をクリックします。

「インストール情報」画面が表示されます。



5　［次へ］をクリックします。

「インストール先フォルダ」画面が表示され、ServerView Windows コンソール の格納先フォルダが表示されます。

6　［次へ］をクリックします。

「WebServer の選択」画面が表示されます。

ただし、IIS がインストールされていない場合は「WebServer の選択」画面は表示されません。

重要

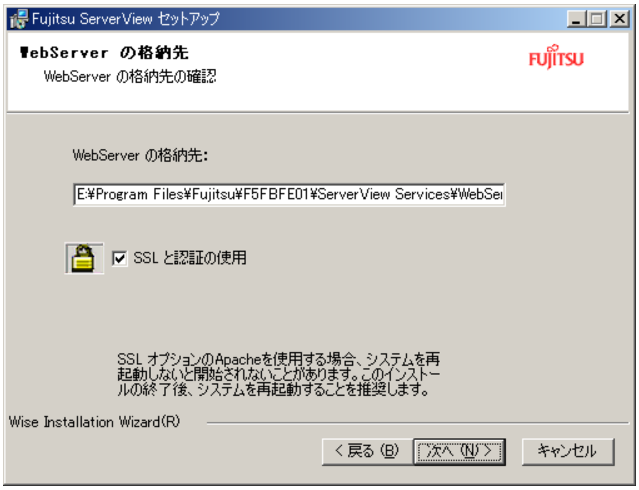
- ServerView Web-Serverを選択した場合、Apache2 for Win32をベースとしたWebサーバが ServerView とともにインストールされます。また、Windows のタスクスケジューラに「At**（** : タスク ID）」のタスク名でタスクが追加されます。
- IIS を選択した場合、インストール済みの IIS を Web サーバとして使用します。
- Webサーバとして既にApache2がインストールされている場合、「WebServerの選択」画面の選択項目は、「ServerView Web-Server」ではなく「Apache2(Installed Apache2 server)」が表示されます。

7　使用する Web サーバを選択し、［次へ］をクリックします。

「WebServer の格納先」画面が表示されます。

選択した WebServer により、画面が異なります。

Web サーバに「ServerView Web-Server」を選択した場合



Web サーバに「IIS」、または「Apache2(Installed Apache2 server)」を選択した場合

POINT

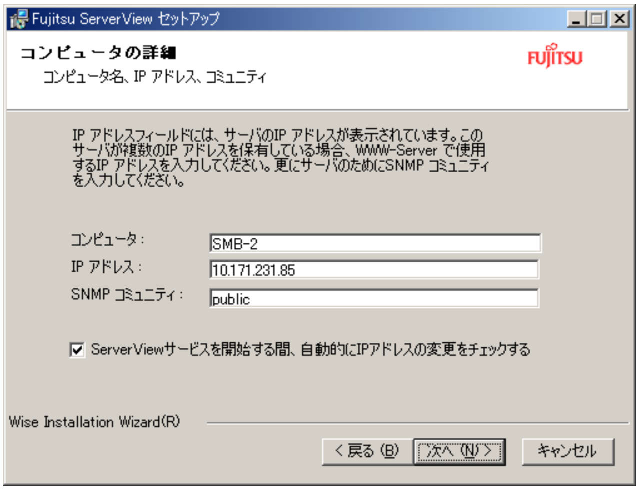
- 「Web サーバの選択」画面で ServerView Web-Server を選択した場合、「SSL と認証を使用する」チェックボックスが表示されます。
  チェックボックスを有効にすると、Web 接続時に SSL 接続が使用できるようになり、また接続時に認証が要求されるようになります。
  なお、このオプションを選択した場合は、インストール終了後、システムを再起動することを推奨します。

重要

- 表示されている格納先のフォルダは変更しないでください。
- IIS のポート番号を自動に取り込むことはできません。IIS のポート番号を変更した場合、変更したポート番号を入力し直してください。
- ServerStart で ServerView を自動インストールした場合、SSL と認証の使用は有効になっています。無効にしたい場合は、ServerView をアンインストールし、再度 ServerView のインストーラを起動してインストールしてください。
  認証に使用するユーザ名とパスワードは、デフォルトでユーザ名「svuser」、パスワード「fsc」に設定されています。
  ユーザ名とパスワードの追加、変更については、「● ServerView Web-Server と SSL について」（→ P.520）を参照してください。

8　［次へ］をクリックします。

「コンピュータの詳細」画面が表示されます。



9　［次へ］をクリックします。

「アプリケーションのインストール開始」画面が表示されます。

10 ［次へ］をクリックします。

インストール処理が開始されます。
完了すると、「終了」画面が表示されます。

11 ［終了］をクリックします。

これでインストールは終了です。インストール終了後、「2.4 インストール後の設定」（→ P.67）を参照し、ServerView を運用するための設定を行ってください。

2.3.4 ［Linux］ServerView Linux エージェントのインストール

Linux 監視対象サーバに、ServerView Linux エージェントをインストールします。
インストール方法は、以下の 2 通りあります。

- インストールスクリプトを使ったインストール（→ P.51）
- 手動でのインストール（→ P.55）
  インストールスクリプトを使ったインストールができない場合、または snmpd.conf の設定を変更しないで再インストールを行いたい場合は、ServerView Linux エージェントを手動でインストールします。

POINT

- 本書では、ServerView Linux エージェントをドキュメント & ツール CD からインストールする記述になっています。弊社 Web ページから ServerView Linux エージェントをダウンロードしてインストールする場合には、ディレクトリの指定部分を、ファイルを転送／展開したディレクトリに読み替えてください。
- ServerView S2 / AlarmService をインストールしない場合でも、Windows 管理コンソールから監視対象サーバ（ServerView Linux エージェント）の監視は行えます。
- 監視対象サーバにおいて、RAID 監視（RAID Manager 連携）または REMCS 連携を行う場合は、AlarmService をインストールする必要があります。この場合、「2.3.5 ［Linux］ServerView Linux コンソールのインストール」（→ P.59）の手順で ServerView Linux コンソールをインストールしてください。

重要

- インストールスクリプトを使用してインストールを行う場合、あらかじめ SNMP サービスが起動している必要があります。以下のコマンドを実行して、SNMP サービスが起動していることを確認してください。

```
# /etc/init.d/snmpd status
```

正常に起動している場合は、以下のように表示されます。
・Red Hat Linux の場合

```
snmpd (pid xxxx) is running...
```

・SUSE Linux の場合

```
Checking for service snmpd : running
```

起動していない場合は、以下のコマンドを実行してください。

```
# /etc/init.d/snmpd start
```

■ インストールスクリプトでの ServerView Linux エージェントのインストール

PRIMERGY ドキュメント & ツール CD 内のインストールスクリプトを利用して、ServerView Linux エージェントのインストール、および SNMP サービス設定ファイル（snmpd.conf）の編集ができます。
再インストールを行う場合にインストールスクリプトを使用しても snmpd.conf の設定は変更されません。そのため変更が必要な場合は、必ずインストールスクリプトを実行する前に snmpd.conf の編集を行ってください。
インストールスクリプトがエラーメッセージを表示して終了した場合は、「A.1 インストールスクリプトのトラブルシューティング」（→ P.498）を参照してください。

POINT

- OS により、SNMP サービス設定ファイル（snmpd.conf）のパスが異なります。
  - ・Red Hat Linux：/etc/snmp/snmpd.conf
  - ・SUSE Linux：/etc/snmpd.conf
- snmpd.conf は、ServerView のインストール後に手動で編集することもできます。
  手動で編集したあとは、以下のコマンドを実行してください。
  /etc/init.d/snmpd restart

重要

Red Hat Linux の場合

- snmpd.conf は、/usr/share/snmp ディレクトリ配下にも存在する場合があります。
  snmpd は /usr/share/snmp/snmpd.conf の設定も読み込みます。
  必要に応じて、/usr/share/snmp/snmpd.conf の編集を行ってください。
- RHEL-AS4/ES4(x86) または RHEL-AS4/ES4(EM64T) において SELINUX が有効の場合は、インストール前に必ず以下の手順を実行して無効にしてください。
  /etc/selinux/config 内の以下の項目の値を変更し、サーバを再起動します。
  - ・（編集前）SELINUX=enforcing
  - ・（編集後）SELINUX=disabled

● インストールスクリプトの起動方法

インストールスクリプトによるインストールは、スーパーユーザでログインして PRIMERGY ドキュメント & ツール CD をセットし、以下のコマンドを実行して行います。

- Red Hat Linux の場合

```
# mount /mnt/cdrom/または/media/cdrom/または/media/cdrecorder/
# cd /mnt/cdrom/または/media/cdrom/または/media/cdrecorder/Svmanage/
LinuxSVAgent/
# ./insagt
```

- SUSE Linux の場合

```
# mount /media/cdrom/または/media/dvd/
# cd /media/cdrom/または/media/dvd/Svmanage/LinuxSVAgent/
# ./insagt
```

● SNMP トラップ送信先 IP アドレスの入力

インストールスクリプトを使用して ServerView Linux エージェントを初めてインストールする場合、インストールスクリプトのタイトル表示後、SNMP トラップ送信先 IP アドレスの入力が要求されます（すでに ServerView Linux エージェントがインストールされていた場合はアンインストールが行われたあと、SNMP トラップ送信先 IP アドレスの入力が要求されます)。
SNMP トラップを送信したい IP アドレスを入力して【Enter】キーを押してください。
サーバ自身の IP アドレス（127.0.0.1）は自動的に設定されるので、ここで入力する必要はありません。複数装置に送信したい場合は、各装置の IP アドレスを入力します。入力した IP アドレスは、snmpd.conf に書き込まれます。
IP アドレスを入力し終えたら【e】キーを押してください。以下の処理に進みます。
以下は出力結果例です。

```
ServerView Console install script version V1.0
Copyright(C) FUJITSU LIMITED 2006

Install in Red Hat Linux system.

checking necessary RPMs ...
RPMs check [OK]

available disk space check [OK]
(ServerView Linuxエージェントがすでにインストールされていた場合はアンインストール
が行われます)

Please input IP-addresses to where you want to send SNMP-traps.
(Note : No need to input the IP address of this server,
        it will be added automatically by the installer.)

Press "e" key to continue.

>192.168.1.10
>192.168.1.20
>e
```

● ロケーションの入力

インストールスクリプトを使用して ServerView Linux エージェントを初めてインストールする場合、サーバのロケーション（設置場所）の入力が要求されます。
入力されたロケーションは、snmpd.conf 内の syslocation 項目に書き込まれ、ServerView のプロパティで開いた際に、「場所」として表示されます。
半角文字で 64 バイトまで入力できます。
ロケーションを入力したら、【Enter】キーを押してください。以下の処理に進みます。
何も入力しないで【Enter】キーを押すと、デフォルト値が書き込まれます。

```
Please input a location of the server.
The specified location will be shown as a property of the server at the
ServerView console.
You can change the location of the server later,
by editing the /etc/snmp/snmpd.conf.
>(Example: computer room L200)
```

POINT

- サーバ本体にLCDパネルが搭載されている場合、ここで入力されたロケーション情報がLCDパネルに表示されます。ロケーションが未入力の場合は、「Unknown」と表示されます。

● 管理者の入力

インストールスクリプトを使用して ServerView Linux エージェントを初めてインストールする場合、サーバの管理者名の入力が要求されます。
入力された管理者名は、snmpd.conf の syscontact 項目に書き込まれ、ServerView のプロパティで開いた際に、「管理者」として表示されます。
半角文字で 64 バイトまで入力できます。
管理者名を入力したら、【Enter】キーを押してください。以下の処理に進みます。
何も入力しないで【Enter】キーを押すと、デフォルト値が書き込まれます。

```
Please input a name of the root user.
The specified name will be shown as a property of the server at the
ServerView console.

You can change the name of the root user later,
by editing the /etc/snmp/snmpd.conf.
>(Example: Your name)
```

2
インストール

● RPM を実行

ServerView Linux エージェントの RPM が実行されます。各 RPM の出力結果が表示されます。以下は、正常時の出力結果例です。

```
install srvmagt-mods_src, please wait...
Compiling ServerView modules for 2.4.21-32.EL
copa(Ok) ipmi(Ok) smbus(Ok) [  OK  ]
Loading ServerView modules: copa ipmi smbus [  OK  ]
1807

install srvmagt-eecd, please wait...
Starting eecd[  OK  ]

install srvmagt-agents, please wait...
Stopping snmpd: [  OK  ]
Starting snmpd: [  OK  ]
Starting snmpd: [  OK  ]
Starting agent scagt[  OK  ]
Starting agent sc2agt[  OK  ]
Starting agent busagt[  OK  ]
Starting agent hdagt[  OK  ]
Starting agent unixagt[  OK  ]
Starting agent etheragt[  OK  ]
Starting agent biosagt[  OK  ]
Starting agent securagt[  OK  ]
Starting agent statusagt[  OK  ]
Starting agent invagt[  OK  ]
Starting agent thragt[  OK  ]
Starting agent vvagt[  OK  ]

Collecting Inventory data, please wait...
Executing...         ############################ [done]

Restarting eecd and srvmagt, please wait...
```

● 実行結果の確認

ServerView Linux エージェントが正常にインストールされた場合、最終行に下記の正常終了メッセージが表示されます。

```
ServerView's RPMs are installed successfully.
```

上記メッセージが表示されない場合は、「A.1 インストールスクリプトのトラブルシューティング」（→ P.498）を参照してください。
上記メッセージが表示された場合は、以下のコマンドを実行して CD をアンマウントし、PRIMERGY ドキュメント & ツール CD を取り出したあと、「2.4.7 ［Linux］各サービスの設定 （監視対象サーバに ServerView Linux エージェントのみインストールする場合）」（→ P.84）を実施してください。

- Red Hat Linux の場合

```
# cd
# umount /mnt/cdrom/または/media/cdrom/または/media/cdrecorder
```

• SUSE Linux の場合

```
# cd
# umount /media/cdrom/または/media/dvd/
```

PRIMERGY ドキュメント & ツール CD を取り出したあと、「2.4.6［Linux］各サービスの設定（監視対象サーバの場合）」（→ P.77）を実施してください。

■ 手動での ServerView Linux エージェントのインストール

インストールスクリプトでのインストールができない場合、または snmpd.conf の設定を変更しないで再インストールを行いたい場合は、スーパーユーザでログインし、以下の手順に従って手動でインストールしてください。

1 動作環境を確認します。

「1.3 システム要件」（→ P.22）を参照して、ServerView Linux エージェントのインストールの条件を満たしていることを確認してください。

2 パッケージ（RPM）のインストール状態を確認します。

ServerView に必要な確認するには、PRIMERGY ドキュメント & ツール CD をセットして、以下のコマンドを実行します。

・Red Hat Linux の場合

```
# mount /mnt/cdrom/または/media/cdrom/または/media/cdrecorder/
# cd /mnt/cdrom/または/media/cdrom/または/media/cdrecorder/Svmanage/
LinuxSVAgent/
# ./chksys
```

・SUSE Linux の場合

```
# mount /media/cdrom/または/media/dvd/
# cd /media/cdrom/または/media/dvd/Svmanage/LinuxSVAgent/
# ./chksys
```

PRIMERGY ドキュメント & ツール CD 内の ServerView がインストールされている場合、下記のメッセージが表示されます。

```
RPMs check [OK]
```

RPM パッケージが不足している旨のエラーメッセージが表示された場合は、Red Hat Linux または SUSE Linux の CD-ROM から RPM パッケージをインストールしてください。

3 すでに ServerView Linux エージェントがインストールされている場合は、ServerView Linux エージェントをアンインストールします。

以下のコマンドを実行します。カッコ内は、アンインストールのコマンドです。

```
rpm -q srvmagt-agents   (rpm -e srvmagt-agents)
rpm -q srvmagt-eecd     (rpm -e srvmagt-eecd)
rpm -q srvmagt-mods_src (rpm -e srvmagt-mods_src)
```

4 snmpd.conf のバックアップファイルを作成します。

以下のコマンドを実行します。

2
インストール

・Red Hat Linux の場合

```
# ls /etc/snmp/
```

・SUSE Linux の場合

```
# ls /etc/
```

snmpd.conf.org が存在しない場合のみ、以下のコマンドを実行してください。
・Red Hat Linux の場合

```
# cp /etc/snmp/snmpd.conf /etc/snmp/snmpd.conf.sv
```

・SUSE Linux の場合

```
# cp /etc/snmpd.conf /etc/snmpd.conf.sv
```

5 PRIMERGY ドキュメント & ツール CD から snmpd.conf をコピーします。

デフォルト値を設定済みの snmpd.conf を、CD-ROM からコピーします。

以下のコマンドを実行します。
・Red Hat Linux の場合

```
# mount /mnt/cdrom/または/media/cdrom/または/media/cdrecorder/
# cd /mnt/cdrom/または/media/cdrom/または/media/cdrecorder/Svmanage/
LinuxSVAgent/Agent/snmpd.conf /etc/snmp/snmpd.conf
# chmod 644 /etc/snmp/snmpd.conf
```

・SUSE Linux の場合

```
# mount /media/cdrom/または/media/dvd/
# cd /media/cdrom/または/media/dvd/Svmanage/LinuxSVAgent/Agent/
snmpd.conf /etc/snmpd.conf
# chmod 644 /etc/snmpd.conf
```

6　snmpd.conf を編集します。

snmpd.conf 内の以下の項目を編集します。
なお、snmpd.conf の詳細は、snmpd.conf 内のコメントを参照してください。

表：snmpd 項目

項目	設定内容
com2sec	com2sec 項目に下記の設定例を追加します。 ・com2sec svSec default public ・com2sec svSec localhost public ・com2sec svSec *** public *** には以下のいずれかの設定値を代入してください。 ・default：すべてのサーバ／クライアントからのアクセスを許可します。 ・localhost：自サーバのみアクセスを許可します。 ・<IP アドレス＞：特定のサーバ／クライアントからのアクセスを許可します。 ・<subnet>/<netmask>：特定のネットワークからのアクセスを許可します。
trapsink	trapsink 項目に下記の設定例を追加します。 ・trapsink 127.0.0.1 public ・trapsink <IP アドレス＞ public SNMP トラップを送信したい IP アドレスを指定します。 サーバ自身の IP アドレス（127.0.0.1）はすでに設定されているので、改めて記述する必要はありません。複数装置に送信したい場合は、同じ記述で IP アドレスが異なるものを複数行記述します。
syslocation	syslocation 項目に下記の設定例を追加します。 ・syslocation computer room L200 サーバのロケーション（設置場所）を半角文字で入力します。 ServerView のプロパティで開いた際に、「場所」として表示されます。
syscontact	syscontact 項目に下記の設定例を追加します。 ・syscontact Your name サーバの管理者名を半角文字で入力します。 ServerView のプロパティで開いた際に、「管理者」として表示されます。

重要

- snmpd.conf の変更を反映するには、以下のコマンドを実行する必要があります。
/etc/init.d/snmpd restart

7　RPM コマンドを実行します。

・Red Hat Linux の場合

```
# /etc/init.d/snmpd restart
# cd /mnt/cdrom/または/media/cdrom/または/media/cdrecorder/Svmanage/
LinuxSVAgent/Agent
# rpm -i srvmagt-mods_src-X.XXXX.redhat.rpm
# rpm -i srvmagt-eecd-X.XXXX.redhat.rpm
# rpm -i srvmagt-agents-X.XXXX.redhat.rpm
(xxはバージョンを示します。)
```

・SUSE Linux の場合

```
# /etc/init.d/snmpd restart
# cd /media/cdrom/または/media/dvd/Svmanage/LinuxSVAgent/Agent
# rpm -i srvmagt-mods_src-X.XXXX.suse.rpm
# rpm -i srvmagt-eecd-X.XXXX.suse.rpm
# rpm -i srvmagt-agents-X.XXXX.suse.rpm
(xxはバージョンを示します。)
```

8 RPM コマンドの実行結果を確認します。

正常にインストールできたかどうかを確認するため、以下のコマンドを実行します。RPM コマンドが正常に終了している場合は、インストールされている RPM パッケージのバージョンが表示されます。

```
# rpm -q srvmagt-mods_src ←コマンド
srvmagt-mods_src-X.XX-XX ←実行結果

# rpm -q srvmagt-eecd
srvmagt-eecd-X.XX-XX

# rpm -q srvmagt-agents
srvmagt-agents-X.XX-XX
(xxはバージョンを示します。)
```

9 ServerView Linux エージェントのデフォルト設定を行います。

以下のコマンドを実行します。

・Red Hat Linux の場合

```
# groupadd svuser
# cd /mnt/cdrom/または/media/cdrom/または/media/cdrecorder/Svmanage/
LinuxSVAgent/Agent/config /etc/srvmagt/config
# chmod 644 /etc/srvmagt/config
# cd /
# /etc/init.d/srvmagt stop
# /etc/init.d/eecd stop
# /etc/init.d/eecd start
# /etc/init.d/srvmagt start
```

・SUSE Linux の場合

```
# groupadd svuser
# cd /media/cdrom/または/media/dvd/Svmanage/LinuxSVAgent/Agent/
config /etc/srvmagt/config
# chmod 644 /etc/srvmagt/config
# cd /
# /etc/init.d/srvmagt stop
# /etc/init.d/eecd stop
# /etc/init.d/eecd start
# /etc/init.d/srvmagt start
```

10 インストール終了後の設定を行います。

以下のコマンドを実行します。

・Red Hat Linux の場合

```
# cd
# umount /mnt/cdrom/または/media/cdrom/または/media/cdrecorder
```

・SUSE Linux の場合

```
# cd
# umount /media/cdrom/または/media/dvd/
```

PRIMERGY ドキュメント & ツール CD を取り出したあと、「2.4.7 ［Linux］各サービスの設定 （監視対象サーバに ServerView Linux エージェントのみインストールする場合)」（→ P.84）を実施してください。

■ RPM バージョンの確認

インストールされている RPM パッケージのバージョンは、以下のコマンドを実行して確認できます。

```
# rpm -q srvmagt-mods_src ←コマンド
srvmagt-eecd-X.XX-XX ←実行結果

# rpm -q srvmagt-eecd
srvmagt-eecd-X.XX-XX

# rpm -q srvmagt-agents
srvmagt-agents-X.XX-XX
(xxはバージョンを示します。)
```

2.3.5 ［Linux］ServerView Linux コンソールのインストール

Linux 監視対象サーバに、ServerView Linux コンソール（ServerView S2 ／ AlarmService）をインストールします。以降の操作を行うと、ServerView S2、アラームサービスの Linux 版を同時にインストールできます。
ServerView S2 ／ AlarmService は、Linux のみの環境下で 1 台のサーバにインストールすると、他のサーバの状態も監視できます。

POINT

- Linux 監視対象サーバに、ServerView Linux エージェントのみ（ServerView S2 ／ AlarmService は使用しない）をインストールしたい場合は、「2.3.4 ［Linux］ServerView Linux エージェントのインストール」（→ P.50）を参照してください。
  ServerView S2 ／ AlarmService をインストールはするが使用しない場合は、以下のパッケージ（RPM）は不要です。
  ・Red Hat Linux：httpd、openssl、mod_ssl
  ・SUSE Linux：apache2、openssl

重要

- ServerView S2 / AlarmService をインストールする場合、atd のサービスが動作している必要があります。インストール前に atd のサービスを起動し、インストール後に atd のサービスを停止してください。atd の起動の確認およびサービスの起動方法は、以下のようになります。
  - Red Hat Linux の場合

    起動していない状態

    ```
    # /etc/init.d/atd status
    atd is stopped
    ```

    起動方法

    ```
    # /etc/init.d/atd start
    Starting atd :            [OK]
    # /etc/init.d/atd status
    atd (pid xxxxxx) running....
    ```

    停止方法

    ```
    # /etc/init.d/atd stop
    Stopping atd :            [OK]
    # /etc/init.d/atd status
    atd is stopped
    ```

  - SUSE Linux の場合

    起動していない状態

    ```
    # /etc/init.d/atd status
    Checking for at daemon :       unused
    ```

    起動方法

    ```
    # /etc/init.d/atd start
    Starting service at daemon     done
    # /etc/init.d/atd status
    Checking for at daemon :       running
    ```

    停止方法

    ```
    # /etc/init.d/atd stop
    Shutting down service at daemon     done
    # /etc/init.d/atd status
    Checking for at daemon :            unused
    ```

- 本書では、ServerView Linux コンソールをドキュメント & ツール CD からインストールする記述になっています。弊社 Web ページから ServerView Linux コンソールをダウンロードしてインストールする場合には、ディレクトリの指定部分を、ファイルを転送／展開したディレクトリに読み替えてください。
- RHEL-AS4/ES4(x86) または RHEL-AS4/ES4(EM64T) において SELINUX が有効の場合は、インストール前に必ず以下の手順を実行して無効にしてください。
  /etc/selinux/config 内の以下の項目の値を変更し、サーバを再起動します。
  - （編集前）SELINUX=enforcing
  - （編集後）SELINUX=disabled

■ インストールスクリプトでの ServerView Linux コンソールのインストール

PRIMERGY ドキュメント & ツール CD 内のインストールスクリプトを利用して、ServerView S2 ／ AlarmService のインストールができます。

インストールスクリプトがエラーメッセージを表示して終了した場合は、「A.1 インストールスクリプトのトラブルシューティング」（→ P.498）を参照してください。

POINT

- OS により、SNMP サービス設定ファイル（snmpd.conf）のパスが異なります。
  - ・Red Hat Linux：/etc/snmp/snmpd.conf
  - ・SUSE Linux：/etc/snmpd.conf
- snmpd.conf は、ServerView のインストール後に手動で編集することもできます。
  手動で編集したあとは、以下のコマンドを実行してください。
  /etc/init.d/snmpd restart

● インストールスクリプトの起動方法

インストールスクリプトによるインストールは、スーパーユーザでログインして PRIMERGY ドキュメント & ツール CD をセットし、以下のコマンドを実行して行います。

- Red Hat Linux の場合

```
# mount /mnt/cdrom/または/media/cdrom/または/media/cdrecorder/
# cd /mnt/cdrom/または/media/cdrom/または/media/cdrecorder/Svmanage/
LinuxSVConsole/
# ./inssv
```

- SUSE Linux の場合

```
# mount /media/cdrom/または/media/dvd/
# cd media/cdrom/または/media/dvd/Svmanage/Linux/LinuxSVConsole/
# ./inssv
```

以下は出力結果例です。

```
ServerView install / RPM control script version V1.2
Copyright(C) FUJITSU LIMITED 2006

Install in Red Hat Linux system.

checking necessary RPMs ...
RPMs check [OK]

install Alarm Service,please wait ...
Stopping trpsrvd: [OK]

Starting sv_fwdserver ...
job 118 at 2006-07-20 15:58
Starting snmptrapd: [OK]
Starting trpsrvd: [OK]

install ServerView_S2,please wait ...

Starting sv_ainit ...
job 119 at 2006-07-20 15:59
```

● 実行結果の確認

ServerView S2 ／ AlarmService が正常にインストールされた場合、最終行に下記の正常終了メッセージが表示されます。

```
ServerView's RPMs are installed successfully.
```

上記メッセージが表示されない場合は、「A.1 インストールスクリプトのトラブルシューティング」（→ P.498）を参照してください。
上記メッセージが表示された場合は、以下のコマンドを実行して CD をアンマウントし、PRIMERGY ドキュメント & ツール CD を取り出したあと、「2.4.6 ［Linux］各サービスの設定（監視対象サーバの場合）」（→ P.77）を実施してください。

- Red Hat Linux の場合

```
# cd
# umount /mnt/cdrom/または/media/cdrom/または/media/cdrecorder
```

- SUSE Linux の場合

```
# cd
# umount /media/cdrom/または/media/dvd
```

■ 手動での ServerView Linux コンソールのインストール

● Red Hat Linux の場合

1 動作環境を確認します。

「1.3 システム要件」（→ P.22）を参照して、インストールの条件を満たしていることを確認してください。

重要

- インストールを実行する前に、以下のコマンドを実行し、atd のサービスが動作していることを確認してください。

```
#/etc/init.d/atd status
```

2 パッケージ（RPM）のインストール状態を確認します。

以下のコマンドを実行して、ServerView S2 / AlarmService が動作するのに必要な RPM のインストール状態を確認します。

```
# rpm -q net-snmp
# rpm -q net-snmp-utils
# rpm -q compat-libstdc++
# rpm -q httpd
# rpm -q gnome-libs
# rpm -q rpm
# rpm -q gawk
# rpm -q openssl
# rpm -q mod_ssl
# rpm -q at
```

RPM がインストールされている場合は、"RPM 名 -XX.XX-XX" が表示されます（XX はバージョンを示します）。
インストールされていない RPM は、Red Hat Linux の CD-ROM からインストールしてください。

3 RPM コマンドを実行します。

```
# mount /mnt/cdrom/または/media/cdrom/または/media/cdrecorder/
# cd /mnt/cdrom/または/media/cdrom/または/media/cdrecorder/Svmanage/
LinuxSVConsole/Console
# ./InstallAlarmService.sh AlarmServiceStarter-X.X-X.i386.rpm
# ./InstallServerView_S2.sh ServerView_S2Starter-X.X-X.i386.rpm
(xx はバージョンを示します。)
```

4 RPM コマンドの実行結果を確認します。

正常にインストールできたかどうかを確認するため、以下のコマンドを実行します。
RPM コマンドが正常に終了している場合は、インストールされている RPM パッケージのバージョンが表示されます。

```
# rpm -q AlarmService ←コマンド
AlarmService-X.X-X ←実行結果

# rpm -q ServerView_S2
ServerView_S2-X.X-X
(xx はバージョンを示します。)
```

5 httpd サービス設定ファイルを編集します。

/etc/httpd/conf/httpd.conf （Apache HTTP サーバの設定ファイル）内の ServerName ディレクティブを編集します。
ServerName ディレクティブについては、Red Hat Linux のマニュアルおよび httpd.conf のコメント文を参照してください。

重要

- ServerView S2 / Alarm Service を Linux でご使用になる場合、Red Hat の CD-ROM に収録されている Apache を Web サーバとして使用し、DocumentRoot/ServerRoot の設定をデフォルトのままでご使用ください。
  これらの設定を変更した場合、動作保証の対象外となります。

サーバの OS が 64bit 版の RHEL-AS3(IPF) の場合

http.conf へ以下（下線部分）を追記します。

なお、ServerView Linux エージェントのみをインストールした場合は必要ありません。

```
# "/var/www/cgi-bin" should be changed to whatever your ScriptAliased
# CGI directory exists, if you have that configured.
#
<Directory "/var/www/cgi-bin">
  AllowOverride None
  Options None
  Order allow,deny
  Allow from all
</Directory>
#
<Directory "/var/www/cgi-bin/ServerView">
  SetEnv LD_ASSUME_KERNEL 2.4.19
</Directory>
#
```

Apache（httpd）のバージョンが 2 以降の場合

http.conf の以下（下線部分）を変更します。

なお、ServerView Linux エージェントのみをインストールした場合は必要ありません。

```
変更前)LanguagePriority en da nl et fr de el it ja kr no pl pt pt-br ltz
ca es sv tw
変更後）LanguagePriority ja  en da nl et fr de el it kr no pl pt pt-br
ltz ca es sv tw

変更前）AddDefaultCharset ISO-8859-1 または AddDefaultCharset UTF-8
変更後）AddDefaultCharset off
```

httpd.conf では、AddDefaultCharset ディレクティブのデフォルト値が「ISO-8859-1」、もしくは「UTF-8」に設定されており、日本語を表示した場合に文字化けが発生します。HTTP 設定ツール（redhat-config-httpd）を使用すると、AddDefaultCharset ディレクティブ値がデフォルト値に戻るので、手動で「off」に変更してください。

6 httpd サービスを再起動します。

以下のコマンドを入力し、httpd サービスを再起動します。

```
# /etc/init.d/httpd restart
```

7 httpd サービスの自動起動を設定します。

setup コマンドを使用して、httpd サービスの自動起動を設定します。

setup コマンドについては「● SNMP サービス／ httpd サービスの自動起動設定」（→ P.78）を参照してください。

8 Firewall の設定を行います。

「■ Firewall の設定」（→ P.84）を参照してください。

● SUSE Linux の場合

1 動作環境を確認します。

「1.3 システム要件」（→ P.22）を参照して、インストールの条件を満たしていることを確認してください。

2 パッケージ（RPM）のインストール状態を確認します。

以下のコマンドを実行して、ServerView S2 / AlarmService が動作するのに必要な RPM のインストール状態を確認します。

```
# rpm -q net-snmp
# rpm -q apache2
# rpm -q rpm
# rpm -q gnome-libs
# rpm -q gawk
# rpm -q openssl
# rpm -q at
```

RPM がインストールされている場合は、"RPM 名 -XX.XX-XX" が表示されます（XX はバージョンを示します)。
インストールされていない RPM は、SUSE Linux の CD-ROM からインストールしてください。

3 RPM コマンドを実行します。

```
# mount /media/cdrom/または/media/dvd/
# cd /media/cdrom/または/media/dvd/Svmanage/LinuxSVConsole/Console
# ./InstallAlarmService.sh AlarmServiceStarter-X.X-X.i386.rpm
# ./InstallServerView_S2.sh ServerView_S2Starter-X.X-X.i386.rpm
(xx はバージョンを示します。)
```

4 RPM コマンドの実行結果を確認します。

正常にインストールできたかどうかを確認するため、以下のコマンドを実行します。
RPM コマンドが正常に終了している場合は、インストールされている RPM パッケージのバージョンが表示されます。

```
# rpm -q AlarmService ←コマンド
AlarmService-X.X-X ←実行結果

# rpm -q ServerView_S2
ServerView_S2-X.X-X
(xx はバージョンを示します。)
```

5 apache2 サービス設定ファイルを編集します。

/etc/apache2/mod_mime-defaults.conf の以下（下線部分）を変更します。
なお、ServerView Linux エージェントのみをインストールした場合は必要ありません。

```
変更前）LanguagePriority en ca cs da de el eo es et fr he hr it ja ko ltz
nl nn no pl pt pt-BR ru sv zh-CN zh-TW
      ForceLanguagePriority Prefer Fallback
変更後）LanguagePriority ja en ca cs da de el eo es et fr he hr it ko ltz
nl nn no pl pt pt-BR ru sv zh-CN zh-TW
      ForceLanguagePriority Prefer Fallback

変更前）AddDefaultCharset ISO-8859-1
変更後）AddDefaultCharset off
```

/etc/apache2/mod_mime-defaults.conf では、AddDefaultCharset ディレクティブのデフォルト値が「ISO-8859-1」に設定されており、日本語を表示した場合に文字化けが発生します。

6 apache2 サービスを再起動します。

以下のコマンドを入力し、apache2 サービスを再起動します。

```
# /etc/init.d/apache2 restart
```

7 apache2 サービスの自動起動を設定します。

chkconfig コマンドを使用して、apache2 サービスの自動起動を設定します。
chkconfig コマンドについては「● SNMP サービス／ apache2 サービスの自動起動設定」（→ P.82）を参照してください。

8 Firewall の設定を行います。

「■ Firewall の設定」（→ P.84）を参照してください。

2.4 インストール後の設定

ServerView をインストールしたあとは、ServerView を正しく運用できるように以下の設定を行います。

設定は、OS により異なります。

- Windows の場合
  - ・Microsoft InternetExploler のインストール（→ P.68）
  - ・Java™ 2 Runtime Environment Standard Edition のインストール（→ P.69）
  - ・管理ユーザの設定（→ P.71）
  - ・オプション装置の割り込み情報の登録（→ P.73）
  - ・Web サービスの拡張（Windows Server 2003 で、Web サーバに IIS を選択した場合）（→ P.76）
- Linux の場合
  - ・Mozilla1.3 以降、または Mozilla FireFox 1.0.4 以降のインストール（→ P.68）
  - ・Java™ 2 Runtime Environment Standard Edition のインストール（→ P.69）
  - ・オプション装置の割り込み情報の登録（→ P.73）
  - ・各サービスの設定（監視対象サーバの場合）（→ P.77）
  - ・各サービスの設定（監視対象サーバに ServerView Linux エージェントのみインストールする場合）（→ P.84）

POINT

- ▶ インストール後にサーバのコンピュータ名や IP アドレスを変更した場合は、「2.4.8 インストール後のコンピュータ情報変更」（→ P.89）を参照して設定を行ってください。
- ▶ ServerView V3.40 以降では、Microsoft Virtual Machine は未サポートです。

2.4.1 Web ブラウザのインストール

ServerView を使用するサーバおよびパソコンに、Web ブラウザをインストールしてください。

■ サーバおよびパソコンの OS が Windows の場合

次のサーバ、およびパソコンに Microsoft Internet Exploler 6.0 以降をインストールしてください。

- ServerView Windows コンソール をインストールしたサーバおよびパソコン
- ServerView S2 のサーバ監視画面を表示するサーバおよびパソコン
- RSB Web インターフェース画面を表示するサーバ、およびパソコン

Windows OS でご利用になる場合は、Microsoft Internet Exploler インストール後、以下の手順に従って、Web サイトの追加設定を行ってください。

1 Microsoft Internet Explorer を開きます。

2 「ツール」メニューから、「インターネット オプション」を選択します。

3 ［セキュリティ］タブをクリックし、「イントラネット」または「信頼済みサイト」を選択します。

4 ［サイト］をクリックし、それぞれ以下の URL（http:// ＜サーバの IP アドレス＞）を追加します。

<u>ServerView Windows コンソールをインストールしたサーバの場合</u>

・自サーバの URL

・ServerView S2（Windows / Linux）をインストールしたサーバの URL

<u>ServerView S2 のサーバ監視画面を表示するサーバの場合</u>

・ServerView S2（Windows / Linux）をインストールしたサーバの URL

<u>RSB Web インターフェース画面を表示するサーバの場合</u>

・RSB に設定した URL

■ サーバおよびパソコンの OS が Linux の場合

次のサーバ、およびパソコンに Mozilla1.3 以降、または Mozilla FireFox 1.0.4 以降をインストールしてください。

- ServerView Linux コンソールをインストールしたサーバ
- ServerView S2 のサーバ監視画面を表示するサーバおよびパソコン
- RSB Web インターフェース画面を表示するサーバ、およびパソコン

2.4.2 Java™ 2 Runtime Environment Standard Edition のインストール

ServerView を使用する以下のサーバ、およびパソコンに、Java™ 2 Runtime Environment Standard Edition をインストールしてください。

Java™ 2 Runtime Environment Standard Edition のインストーラは、PRIMERGY ドキュメント＆ツール CD に格納されています。ただし、OS、およびブラウザのバージョンによっては、格納されている Java のバージョンが適応していない場合があります。また、以下に Linux ブラウザ（Mozilla）への Plugin の設定方法を一例として記載していますが、使用される OS、およびブラウザのバージョンによっては設定内容（Java の Plugin のディレクトリパス）が異なる場合があります。お使いの OS、およびブラウザの適応条件をあらかじめ確認してください。

● OS が Windows の場合

- ServerView Windows コンソール をインストールしたサーバ、およびパソコン
- Web ブラウザで ServerView S2 のサーバ監視画面を表示するサーバ、およびパソコン
- RSB Web インターフェース画面を表示するサーバ、およびパソコン

● OS が Linux の場合

- ServerView Linux コンソールをインストールしたサーバ
- Web ブラウザで ServerView S2 のサーバ監視画面を表示するサーバ、およびパソコン
- RSB Web インターフェース画面を表示するサーバ、およびパソコン

■ インストール手順

● OS が Windows の場合

1 PRIMERGY ドキュメント & ツール CD をセットし、以下のいずれかのインストーラを起動します（xx はバージョンを示します）。

［CD-ROM ドライブ］:¥Svmanage¥WinSVConsole¥Tools¥Jre¥j2re-x_x_x_xx-windows-i586-p.exe
［CD-ROM ドライブ］:¥Svmanage¥WinSVConsole¥Tools¥jre-x_x_x_xx-windows-i586-p.exe

● OS が Linux の場合

1 PRIMERGY ドキュメント＆ツール CD をセットし､以下のインストーラを起動します（xx はバージョンを示します）。

Red Hat Linux の場合

POINT

- 本手順に記載されている「使用ブラウザのフォルダ」は、以下の例のようなフォルダ名を示します。
  ・Mozilla：/usr/lib/mozilla-x.x.x
  ・firefox：/usr/lib/firefox-x.x.x

```
# mount /mnt/cdrom/または/media/cdrom/または/media/cdrecorder
# cd /mnt/cdrom/または/media/cdrom/または/media/cdrecorder/Svmanage/
LinuxSVConsole/Tools/Jre
# rpm -iv j2re-x_x_x_xx-linux-i586.rpm
または # rpm -iv jre-x_x_x_xx-linux-i586.rpm
# cd /使用ブラウザのフォルダ/plugins
# ls

すでにlibjavaplugin_oji.soがある場合
# rm -fr /使用ブラウザのフォルダ/plugins/libjavaplugin_oji.so
使用ブラウザがMozilla / Mozilla FireFox の場合
# ln -s /usr/java/j2re1.x.x_xx/plugin/i386/ns610-gcc32/
libjavaplugin_oji.so
または # ln -s /usr/java/jre1.x.x_xx/plugin/i386/ns7/
libjavaplugin_oji.so
# cd
# umount /mnt/cdrom/または/media/cdrom/または/media/cdrecorder
（xx はバージョンを示します。）
```

重要

- EM64T 用の java（jre）プラグインは、提供されておりません。
  このため、java をブラウザ（firefox, mozilla）にプラグインできません。ServerView S2 の画面表示、AlarmService のアラーム設定画面表示を行う場合は、別のパソコンのブラウザを使用してください。
- RHEL-AS4(x86) / RHEL-ES4(x86) で Java™ 2 Runtime Environment Standard Edition V1.4.2_08 を使用すると、ServerView S2 の画面表示、AlarmService のアラーム設定画面表示で文字化けが発生する場合があります。
  以下の手順でファイルをコピーしてください。

```
# mount /mnt/cdrom/または/media/cdrom/または/media/cdrecorder/
# cp /mnt/cdrom/または/media/cdrom/または/media/cdrecorder/
Svmanage/LinuxSVConsole/Tools/Font/font.properties.ja_JP /usr/
java/j2re1.4.2_08/lib
# umount /mnt/cdrom/または/media/cdrom/または/media/cdrecorder
```

SUSE Linux の場合

POINT

- 本手順に記載されている「使用ブラウザのフォルダ」は、以下の例のようなフォルダ名を示します。
  ・Mozilla：/opt/mozilla/lib/

```
# mount /media/cdrom/または/media/dvd
# cd /media/cdrom/または/media/dvd/Svmanage/LinuxSVConsole/Tools/
Jre/
# rpm -iv j2re-x_x_x_xx-linux-i586.rpm
または # rpm -iv jre-x_x_x_xx-linux-i586.rpm
# cd /使用ブラウザのフォルダ/plugins
# ls

すでにlibjavaplugin_oji.soがある場合
# rm -fr /使用ブラウザのフォルダ/plugins/libjavaplugin_oji.so
# ln -s /usr/java/j2re1.x.x_xx/plugin/i386/ns610-gcc32/
libjavaplugin_oji.so
または # ln -s /usr/java/jre1.x.x_xx/plugin/i386/ns7/
libjavaplugin_oji.so
# cd
# umount /media/cdrom/または/media/dvd
(xx はバージョンを示します。)
```

2.4.3 管理ユーザの設定

ServerView の管理権限をもつグループ（FUJITSU SVUSER）に属するユーザのみ、監視対象サーバの設定変更、シャットダウンなどを行えます。
FUJITSU SVUSER グループ、および属するユーザは自動的に作成されません。監視対象サーバごとに FUJITSU SVUSER グループを作成し、ServerView の管理者を FUJITSU SVUSER グループに追加してください。

POINT

- ServerView での管理ユーザとは、「FUJITSU SVUSER」グループに所属しているユーザです。
- Windows Server 2003 では、管理者ユーザアカウントにパスワードを設定しない場合、管理権限が与えられません。必ずパスワードを設定してください。
- FUJITSU SVUSER グループに、（グローバル）グループを追加しても、追加されたグループに含まれているユーザには管理権限は与えられません。FUJITSU SVUSER グループには、ユーザのみを追加してください。
- リモートサービスボードを取り付けている場合は、サーバのシステム上で「FUJITSU SVUSER」グループに登録したユーザアカウントと同一のユーザ名とパスワードを持つユーザアカウントを、リモートサービスボードにも作成してください。リモートサービスボードのユーザアカウントの作成については、「6.2.3 管理ユーザの設定」（→ P.351）を参照してください。
- 管理ユーザを SVUSER 以外に設定した場合、プログラムの起動直後にログオンを行うと失敗する場合があります。この場合、いったん［キャンセル］をクリックしログオン画面から閉じます。その後、サーバのプロパティの［ログイン］タブでログオンの設定を再度行ってください。
- ServerView の管理ユーザは、Administrators グループに所属している必要があります。管理ユーザが Administrators グループに所属していない場合、ServerView から Shutdown や ASR の設定が行えなくなります。そのため、ServerView の管理ユーザを、Administrators グループに追加してください。

■ OS が Windows の場合

1 コントロールパネルを起動し、［管理ツール］アイコンをダブルクリックします。

2 ［コンピュータの管理］アイコンをダブルクリックします。

「コンピュータの管理」画面が表示されます。

3 左側のツリーで「ローカルユーザーとグループ」→「グループ」の順にクリックします。

4 「操作」メニュー →「新しいグループ」の順にクリックします。

5 「グループ名」に「FUJITSU SVUSER」と入力し、［作成］をクリックします。

新しいグループが作成されます。
作成後、［閉じる］をクリックして「新しいグループ」画面を閉じます。

6 左側のツリーで「ローカルユーザーとグループ」→「ユーザー」の順にクリックします。

7 「操作」メニュー →「新しいユーザー」の順にクリックします。

8 必要な項目を入力し、［作成］をクリックします。

新しいユーザが作成されます。
作成後、［閉じる］をクリックして「新しいユーザー」画面を閉じます。

9 追加したユーザを選択し、「操作」メニュー →「プロパティ」の順にクリックします。

10 「所属するグループ」タブをクリックし、[追加]をクリックします。

「グループの選択」画面が表示されます。

11 [詳細設定]をクリックします。

12 [今すぐ検索]をクリックします。

13 「Administrators」、「FUJITSU SVUSER」グループを選択し、[OK]をクリックします。

「Ctrl」キーを押しながら選択すると、同時に選択できます。
「グループ選択」画面に戻ります。

14 [OK]をクリックします。

ユーザーの「プロパティ」画面に戻ります。
「所属するグループ」に「Administrators」、「FUJITSU SVUSER」グループグループが追加されていることを確認してください。

15 [OK]をクリックします。

「コンピュータの管理」画面を閉じて終了してください。

■ OS が Linux の場合

「■ ServerView コンソールから ASR 設定やシャットダウン、再起動するための設定」(→P.87)を参照し、設定を行ってください。

2.4.4 オプション装置の割り込み(MIB)情報の登録

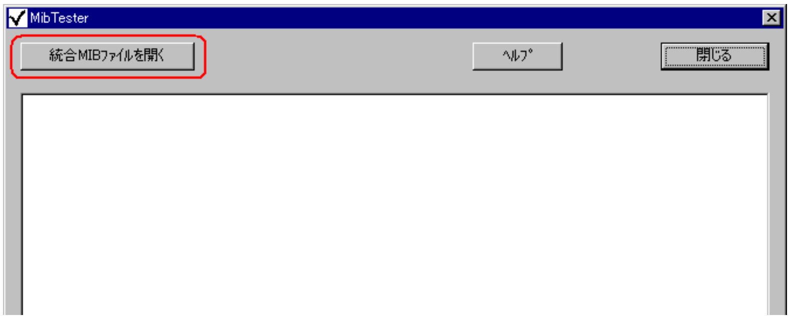
管理用のサーバまたはパソコン に、オプション装置の割り込み(MIB)情報を登録します。

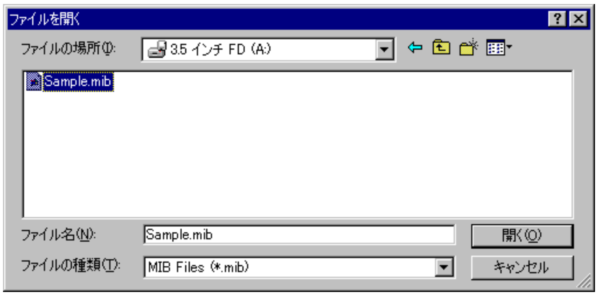
■ OS が Windows の場合

1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「Fujitsu ServerView」→「MIB Integrator」の順にクリックします。

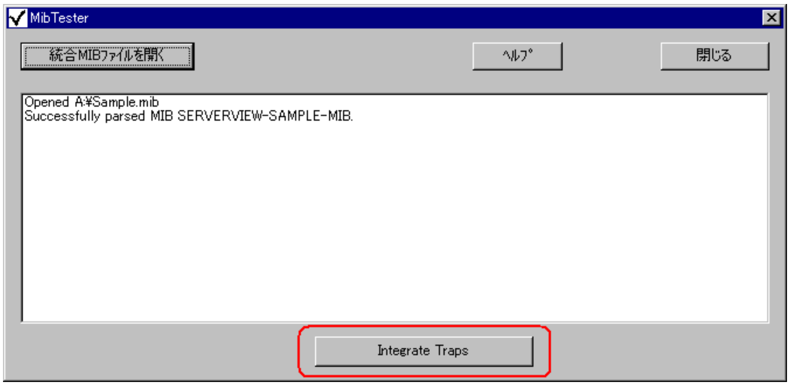
割り込み情報の登録処理が起動し、「Mib Tester」画面が表示されます。

2 ［統合 MIB ファイルを開く］をクリックし、登録する MIB ファイルを選択します。

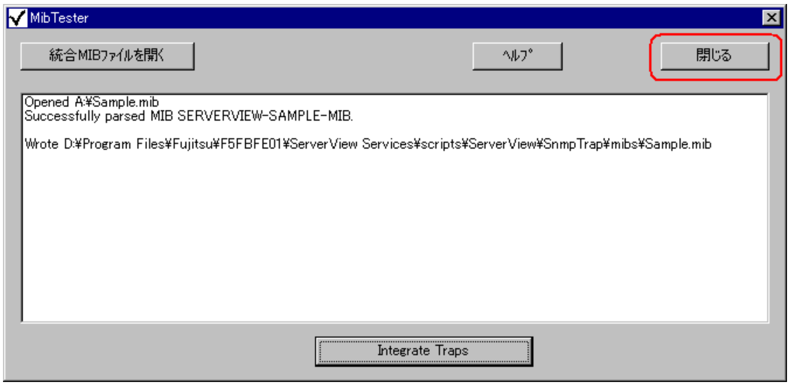




3 手順 2 で選択したファイルが選択されていることを確認し、［Integrate Traps］をクリックして登録処理を行います。



4 下記のメッセージが表示されていることを確認し、［閉じる］をクリックして登録処理を終了します。



5 Fujitsu ServerView Services を再スタートします。

1. コントロールパネルを起動し、「管理ツール」→「コンピュータの管理」の順にクリックします。
2. 「サービス」をクリックし、表示された一覧から Fujitsu ServerView Services を選択します。
3. 「操作」メニューから、再起動を実行します。

■ OS が Linux の場合

1 下記のフォルダに対象の mib ファイルをコピーします。

<u>Red Hat Linux の場合</u>

/var/www/cgi-bin/ServerView/SnmpTrap/mibs

<u>SUSE Linux の場合</u>

/srv/www/cgi-bin/ServerView/SnmpTrap/mibs

2 以下のコマンドを入力し、Fujitsu Alarm Service を再起動します。

#/etc/init.d/sv_fwdserver restart

重要

- 既に登録済みの mib ファイルを置き換える場合は、mib のファイル名の大文字と小文字の違いに注意してください。誤って登録した場合は、新規 mib として登録されます。

■ ServerView S2 で行う場合

操作方法は「3.1.5 MIB の登録（MIB INTEGRATION）」（→ P.103）を参照してください。

重要

- Linux 上で稼動している ServerViewS2 に対しては、MIB の登録は未サポートです。
  Linux の場合は、MIB ファイルをコピーする方法（「■ OS が Linux の場合」（→ P.75）参照）を行ってください。

2.4.5 Web サービスの拡張

ServerView Windows コンソールを Windows Server 2003 の環境にインストールした場合で、Web サーバに IIS を選択した場合は、「すべての不明な CGI 拡張」の許可を行うか、「新しい Web サービス拡張を追加」処理を行ってください。
以下に、それぞれの手順を記載します。

■ すべての不明な CGI 拡張の許可

1 IIS マネージャで、ローカルコンピュータを展開し、［Web サービス拡張］をクリックします。

2 詳細のウィンドウ領域で、無効になっている「すべての不明な CGI 拡張」を選択し、［許可］をクリックします。

3 ［OK］をクリックします。

■ 新しい Web サービス拡張を追加

1 IIS マネージャで、ローカルコンピュータを展開し、［Web サービス拡張］をクリックします。

2 詳細のウィンドウ領域で、［新しい Web サービス拡張を追加］をクリックします。

3 ［拡張名］ボックスに、新しい Web サービス拡張の名前を入力します。
例）「ServerView」

4 ［追加］をクリックします。

5 ［ファイルのパス］ボックスにパスを入力するか、または［参照］をクリックして新しい Web サービス拡張が要求するファイルに移動し、［OK］をクリックします。
以下のフォルダ配下のすべての exe ファイルを追加してください。
¥Inetpub¥scripts¥ServerView¥SnmpTrap
¥Inetpub¥scripts¥ServerView¥SnmpArchive
¥Inetpub¥scripts¥ServerView¥common
¥Inetpub¥scripts¥ServerView¥SnmpView

6 すべてのファイルの追加が終了したら、［OK］をクリックします。

7 ［Web サービス拡張］ウィンドウに戻って、上記手順 3 で追加した拡張名上で右クリックし、［許可］をクリックします。

2.4.6 ［Linux］各サービスの設定（監視対象サーバの場合）

■ Red Hat Linux の場合

● httpd サービス設定ファイルの編集

1 /etc/httpd/conf/httpd.conf を編集します。

/etc/httpd/conf/httpd.conf （Apache HTTP サーバの設定ファイル）内の ServerName ディレクティブを編集します。
ServerName ディレクティブについては、Red Hat Linux のマニュアルおよび httpd.conf のコメント文を参照してください。

重要

- Alarm Service / ServerView S2 を Linux でご利用の場合、Red Hat の CD-ROM に収録されている Apache を Web サーバとして使用し、DocumentRoot/ServerRoot の設定はデフォルトのまま使用してください。
これらの設定を変更した場合、動作保証の対象外となります。

サーバの OS が 64bit 版の RHEL-AS3(IPF) の場合

http.conf へ以下（下線部分）を追記します。
なお、ServerView Linux エージェントのみをインストールした場合は必要ありません。

```
# "/var/www/cgi-bin" should be changed to whatever your
ScriptAliased
# CGI directory exists, if you have that configured.
#
<Directory "/var/www/cgi-bin">
  AllowOverride None
  Options None
  Order allow,deny
  Allow from all
</Directory>
#
<Directory "/var/www/cgi-bin/ServerView">
  SetEnv LD_ASSUME_KERNEL 2.4.19
</Directory>
#
```

Apache（httpd）のバージョンが 2 以降の場合

http.conf の以下（下線部分）を変更します。

なお、ServerView Linux エージェントのみをインストールした場合は必要ありません。

```
変更前）LanguagePriority en da nl et fr de el it ja kr no pl pt pt-br ltz ca es sv tw
変更後）LanguagePriority ja  en da nl et fr de el it kr no pl pt pt-br ltz ca es sv tw

変更前）AddDefaultCharset ISO-8859-1 または AddDefaultCharset UTF-8
変更後）AddDefaultCharset off
```

httpd.conf では、AddDefaultCharset ディレクティブのデフォルト値が「ISO-8859-1」、もしくは「UTF-8」に設定されており、日本語を表示した場合に文字化けが発生します。HTTP 設定ツール（redhat-config-httpd）を使用すると、AddDefaultCharset ディレクティブ値がデフォルト値に戻るので、手動で「off」に変更してください。

2 httpd サービスを再起動します。

以下のコマンドを入力し、httpd サービスを再起動します。

```
# /etc/init.d/httpd restart
```

● SNMP サービス／ httpd サービスの自動起動設定

以下のコマンドを実行してサービスの自動起動設定を行ってください。

```
# /sbin/chkconfig httpd on
# /sbin/chkconfig snmpd on
```

以下のように表示されれば、正しく設定が行われています。

```
#/sbin/chkconfig --list |grep httpd
      httpd       0:オフ  1:オフ  2:オン  3:オン  4:オン  5:オン  6:オフ
#/sbin/chkconfig --list |grep snmpd
      snmpd       0:オフ  1:オフ  2:オン  3:オン  4:オン  5:オン  6:オフ
```

● Firewall の設定

POINT

- Firewall の設定は、Firewall を使用する場合にのみ実行する必要があります。
  Firewall を使用しないのであれば、設定は不要です。

Firewall の設定は、Linux インストール時または setup コマンドで行います。

ここでは、setup コマンドでの設定方法を説明します。

なお、Linux インストール時と setup コマンド実行時で画面が異なりますが、設定項目は同じです。Linux インストール時の設定方法については、Red Hat Linux のマニュアルおよび以下の設定方法を参考にしてください。

重要

- 以下の Firewall の設定は、ServerView の動作に必要な設定です。
  Firewall の設定についての詳細は、Red Hat Linux のマニュアルを参照してください。

1 スーパーユーザでログインし、以下のコマンドを実行します。

```
# /usr/sbin/setup
```

メニュー画面が表示されます。

2 「Firewall configuration」を選択し、【Enter】キーを押します。

「ファイアーウォールの設定」画面が表示されます。

3 「Enabled」に「*」印を付け、【Tab】キーで「カスタマイズ」にカーソルを合わせ【Enter】キーを押します。

「ファイアーウォール設定－カスタマイズ」画面が表示されます。

重要

- ここで「Disabled」を選択した場合は、以下の設定は必要ありません。

4 使用するプロトコルを設定します。

以下のプロトコルを設定します。

1. WWW（HTTP）を選択します。
   [*] 印を付けます。
2. その他のポートに「snmp:udp https:tcp」と記述します。

POINT

- プロトコルの設定
  - ・http、https は、WebServer を立ち上げるのに必須です。
  - ・snmp は、snmp サービスを立ち上げるのに必須です。

3. 【Tab】キーで「OK」にカーソルを合わせ、【Enter】キーを押します。

POINT

- その他の機能を有効にする場合、この Firewall を設定する必要がある場合があります。

5 【Tab】キーで「OK」にカーソルを合わせ、【Enter】キーを押します。

6 「停止」を選択し、【Enter】キーを押します。

7 パケットフィルタリングの設定を編集します。

/etc/sysconfig/iptables を編集します。
以下の 4 行を追加してください。

```
-A RH-Firewall-1-INPUT -m state --state NEW -m udp -p udp --dport
161 -j ACCEPT
-A RH-Firewall-1-INPUT -m state --state NEW -m udp -p udp --sport
161 -j ACCEPT
-A RH-Firewall-1-INPUT -m state --state NEW -m udp -p udp --dport
162 -j ACCEPT
-A RH-Firewall-1-INPUT -m state --state NEW -m udp -p udp --sport
162 -j ACCEPT
```

8 パケットフィルタリングの設定を反映します。

以下のコマンドを実行します。

```
# /etc/init.d/iptables restart
```

● ServerView コンソールから ASR 設定やシャットダウン、再起動するための設定

管理コンソールから、ASR（Automatic Server Reconfiguration & Restart）設定（ファン／温度／再起動設定など）や電源の投入／切断を行うには、管理ユーザのユーザ名とパスワードの入力が求められます。
管理ユーザは、以下の手順で設定します。

重要

- ServerView での管理ユーザとは、「svuser」グループに所属しているユーザです。
  ServerView をインストールスクリプトでインストールした場合、「svuser」グループは自動的に作成されます。

1 新規ユーザを管理ユーザとして作成します。

スーパーユーザでログインし、以下のコマンドを実行します。

```
# useradd -G svuser <ユーザ名>
# passwd <ユーザ名>
```

- useradd コマンドの G オプションでは、「svuser」グループを指定します。
  < ユーザ名 > には、作成するユーザのユーザ名を指定します。
- passwd コマンドでは、作成したユーザのパスワードを設定します。パスワードは、確認のため、2 回入力します。なお、作成したユーザ名は、パスワードを設定すると有効になります。
- 各コマンドの詳細は、useradd（8）,passwd（1）の man ページを参照してください。

2 既存ユーザを管理ユーザとして設定します。

設定する既存ユーザが、複数のグループに属しているかどうかをシステム管理者に確認し、以下のコマンドを実行してください。

ユーザがメイングループにのみ属している場合

```
# usermod -G svuser <ユーザ名>
```

ユーザが複数のグループに属している場合

```
# usermod -G svuser,<所属グループ,…> <ユーザ名>
```

- usermod コマンドの G オプションでは、「svuser」グループを指定します。複数のグループを指定する場合は、カンマ（,）で区切って指定します。なお、以前所属していたグループをここで指定しなかった場合は、そのグループからは削除されます。所属すべきグループは、すべて指定してください。< ユーザ名 > には、管理ユーザにするユーザ名を指定します。
  usermod コマンドの詳細については usermod（8）の man ページを参照してください。
- vigr コマンドを使用して直接グループを設定することや、GUI ツールを使用して設定を行うこともできます。詳細は vigr（8）の man ページ、Red Hat Linix のマニュアルを参照してください。

■ SUSE Linux の場合

● apache2 サービス設定ファイルの編集

1 apache2 サービス設定ファイルを編集します。

/etc/apache2/mod_mime-defaults.conf の以下（下線部分）を変更します。
なお、ServerView Linux エージェントのみをインストールした場合は必要ありません。

```
変更前）LanguagePriority en ca cs da de el eo es et fr he hr it ja
ko ltz nl nn no pl pt pt-BR ru sv zh-CN zh-TW
ForceLanguagePriority Prefer Fallback

変更後）LanguagePriority ja en ca cs da de el eo es et fr he hr it
ko ltz nl nn no pl pt pt-BR ru sv zh-CN zh-TW
ForceLanguagePriority Prefer Fallback

変更前）AddDefaultCharset ISO-8859-1

変更後）AddDefaultCharset off
```

/etc/apache2/mod_mime-defaults.conf では、AddDefaultCharset ディレクティブのデフォルト値が「ISO-8859-1」に設定されており、日本語を表示した場合に文字化けが発生します。

2 apache2 サービスを再起動します。

以下のコマンドを入力し、apache2 サービスを再起動します。

```
# /etc/init.d/apache2 restart
```

● SNMP サービス／ apache2 サービスの自動起動設定

以下のコマンドを実行してサービスの自動起動設定を行ってください。

```
# /sbin/chkconfig apache2 on
# /sbin/chkconfig snmpd on
```

以下のように表示されれば、正しく設定が行われています。

```
#/sbin/chkconfig --list |grep apache2
  apache2 0:オフ 1:オフ 2:オフ 3:オン 4:オフ 5:オン 6:オフ
#/sbin/chkconfig --list |grep snmpd
  snmpd   0:オフ 1:オフ 2:オン 3:オン 4:オフ 5:オン 6:オフ
```

● Firewall の設定

以下の順序で SuSE Firewall2 の設定画面を開き設定してください。
YaST コントロールセンター → セキュリティとユーザ → ファイアウォール
ただし、ポート 161、162 は udp の通信で使用するため開けてください。

● ServerView コンソールから ASR 設定やシャットダウン、再起動するための設定

管理コンソールから、ASR（Automatic Server Reconfiguration & Restart）設定（ファン／温度／再起動設定など）や電源の投入／切断を行うには、管理ユーザのユーザ名とパスワードの入力が求められます。
管理ユーザは、以下の手順で設定します。

重要

- ServerView での管理ユーザとは、「svuser」グループに所属しているユーザです。
  ServerView をインストールスクリプトでインストールした場合、「svuser」グループは自動的に作成されます。

1　新規ユーザを管理ユーザとして作成します。

スーパーユーザでログインし、以下のコマンドを実行します。

```
# useradd -G svuser <ユーザ名>
# passwd <ユーザ名>
```

- useradd コマンドの G オプションでは、「svuser」グループを指定します。
  ＜ユーザ名＞には、作成するユーザのユーザ名を指定します。
- passwd コマンドでは、作成したユーザのパスワードを設定します。パスワードは、確認のため、2 回入力します。なお、作成したユーザ名は、パスワードを設定すると有効になります。
- 各コマンドの詳細は、useradd（8）,passwd（1）の man ページを参照してください。

2　既存ユーザを管理ユーザとして設定します。

設定する既存ユーザが、複数のグループに属しているかどうかをシステム管理者に確認し、以下のコマンドを実行してください。

ユーザがメイングループにのみ属している場合

```
# usermod -G svuser <ユーザ名>
```

ユーザが複数のグループに属している場合

```
# usermod -G svuser,<所属グループ,…> <ユーザ名>
```

- usermod コマンドの G オプションでは、「svuser」グループを指定します。複数のグループを指定する場合は、カンマ（,）で区切って指定します。なお、以前所属していたグループをここで指定しなかった場合は、そのグループからは削除されます。所属すべきグループは、すべて指定してください。＜ユーザ名＞には、管理ユーザにするユーザ名を指定します。
  usermod コマンドの詳細については usermod（8）の man ページを参照してください。
- vigr コマンドを使用して直接グループを設定することや、GUI ツールを使用して設定を行うこともできます。詳細は vigr（8）の man ページ、SUSE Linux のマニュアルを参照してください。

2.4.7 ［Linux］各サービスの設定（監視対象サーバに ServerView Linux エージェントのみインストールする場合）

■ SNMP サービスの自動起動設定

以下のコマンドを実行してサービスの自動起動設定を行ってください。

```
# /sbin/chkconfig snmpd on
```

以下のように表示されれば、正しく設定が行われています。

```
#/sbin/chkconfig --list |grep snmpd
     snmpd         0:オフ  1:オフ  2:オン  3:オン  4:オン  5:オン  6:オフ
```

■ Firewall の設定

● Red Hat Linux の場合

POINT

- Firewall の設定は、Firewall を使用する場合にのみ実行する必要があります。
  Firewall を使用しないのであれば、設定は不要です。

Firewall の設定は、Linux インストール時または setup コマンドで行います。
ここでは、setup コマンドでの設定方法を説明します。
なお、Linux インストール時と setup コマンド実行時で画面が異なりますが、設定項目は同じです。Linux インストール時の設定方法については、Red Hat Linux のマニュアルおよび以下の設定方法を参考にしてください。
なお、RedHat のディストリビューションによって setup コマンドの画面が異なりますが、設定項目は同じです。

重要

- 以下の Firewall の設定は、ServerView の動作に必要な設定です。
  Firewall の設定についての詳細は、Red Hat Linux のマニュアルを参照してください。

1　スーパーユーザでログインし、以下のコマンドを実行します。

```
# /usr/sbin/setup
```

メニュー画面が表示されます。

2　「Firewall configuration」を選択し、【Enter】キーを押します。

「ファイアーウォールの設定」画面が表示されます。

3　「Enabled」に「*」印を付け、【Tab】キーで「カスタマイズ」にカーソルを合わせ【Enter】キーを押します。

重要

- ここで「Disabled」を選択した場合は、以降の設定は必要ありません。

「ファイアーウォール設定－カスタマイズ」画面が表示されます。

4 使用するプロトコルを設定します。

以下のプロトコルを設定します。

1. WWW（HTTP）を選択します。
   [*] 印を付けます。
2. その他のポートに「snmp:udp https:tcp」と記述します。

POINT

- プロトコルの設定
  - http、https は、WebServer を立ち上げるのに必須です。
  - snmp は、snmp サービスを立ち上げるのに必須です。

3. 【Tab】キーで「OK」にカーソルを合わせ、【Enter】キーを押します。

POINT

- その他の機能を有効にする場合、この Firewall を設定する必要がある場合があります。

5 【Tab】キーで「OK」にカーソルを合わせ、【Enter】キーを押します。

6 「停止」を選択し、【Enter】キーを押します。

● SUSE Linux の場合

以下の順序で SuSE Firewall2 の設定画面を開き設定してください。
YaST コントロールセンター → セキュリティとユーザ → ファイアウォール
ただし、ポート 161、162 は udp の通信で使用するため開けてください。

■ ServerView コンソールから ASR 設定やシャットダウン、再起動するための設定

管理コンソールから、ASR（Automatic Server Reconfiguration & Restart）設定（ファン／温度／再起動設定など）や電源の投入／切断を行うには、管理ユーザのユーザ名とパスワードの入力が求められます。
管理ユーザは、以下の手順で設定します。

POINT

- ServerView での管理ユーザとは、「svuser」グループに所属しているユーザです。
  ServerView をインストールスクリプトでインストールした場合、「svuser」グループは自動的に作成されます。

1 新規ユーザを管理ユーザとして作成します。

スーパーユーザでログインし、以下のコマンドを実行します。

```
# useradd -G svuser <ユーザ名>
# passwd <ユーザ名>
```

- useradd コマンドの G オプションでは、「svuser」グループを指定します。
  ＜ユーザ名＞には、作成するユーザのユーザ名を指定します。
- passwd コマンドでは、作成したユーザのパスワードを設定します。パスワードは、確認のため、2 回入力します。なお、作成したユーザ名は、パスワードを設定すると有効になります。
- 各コマンドの詳細は、useradd（8）,passwd（1）の man ページを参照してください。

2 既存ユーザを管理ユーザとして設定します。

設定する既存ユーザが、複数のグループに属しているかどうかをシステム管理者に確認し、以下のコマンドを実行してください。

ユーザがメイングループにのみ属している場合

```
# usermod -G svuser <ユーザ名>
```

ユーザが複数のグループに属している場合

```
# usermod -G svuser,<所属グループ,…> <ユーザ名>
```

- usermod コマンドの G オプションでは、「svuser」グループを指定します。複数のグループを指定する場合は、カンマ（,）で区切って指定します。なお、以前所属していたグループをここで指定しなかった場合は、そのグループからは削除されます。所属すべきグループは、すべて指定してください。＜ユーザ名＞には、管理ユーザにするユーザ名を指定します。

2 インストール

usermod コマンドの詳細については usermod（8）の man ページを参照してください。

・vigr コマンドを使用して直接グループを設定することや、GUI ツールを使用して設定を行うこともできます。詳細は vigr（8）の man ページ、Red Hat Linux または SUSE Linux のマニュアルを参照してください。

■ ServerView Linux エージェントのシスログ（/var/log/messages）書き込みフォーマットについて

ServerView Linux エージェントは、以下のフォーマットで、シスログ（/var/log/messages）にログを書き込みます。なお、「Specific 番号」、「重要度」、「詳細メッセージ」については、トラップリストに記載しているものと同様です。詳細については、トラップリストを参照してください。

フォーマット：日付 ホスト名 Serverview: [Specific 番号][重要度] 詳細メッセージ ホスト名 .

例）

```
Sep 19 20:13:44 host01 Serverview: [1100][INFORMATIONAL] System status has
changed at server host01.
```

● [Specific 番号][重要度] を記録しないログフォーマットに変更する場合

1 /etc/init.d/srvmagt ファイルを vi などのエディタで開きます。

2 先頭から「export …」の行を検索します。

3 「export …」の次の行に「export SRVMAGT_OLDTRAPLOG=1」を追加します。

例）

```
export LD_LIBRARY_PATH=/usr/lib:/usr/lib/srvmagt
export SRVMAGT_OLDTRAPLOG=1
```

4 ファイルを保存し、エディタを閉じます。

5 ServerView Linux エージェントを再起動します。

```
# /etc/init.d/srvmagt stop
# /etc/init.d/srvmagt start
```

2.4.8 インストール後のコンピュータ情報変更

ServerView をインストール後に、インストールしたマシンのコンピュータ名、または IP アドレスを変更した場合、次の操作を行います。

● Windows の場合

1 ServerView およびアラームサービスを起動している場合は、すべて終了します。

2 「スタート」ボタン→「プログラム」→「Fujitsu ServerView」→「Change Computer Details」の順にクリックします。

3 新しいコンピュータ情報を設定します。

4 コンソールを再起動します。

5 ServerView を起動し、「サーバの一覧」でコンピュータ名、IP アドレスを確認します。

変更されていない場合、次の設定を行ってください。

IP アドレスが変更されていない場合

1. サーバの一覧から、対象のコンピュータを選択します。
2. 「ファイル」メニュー →「サーバのプロパティ」の順にクリックします。
3. ［サーバのアドレス］タブをクリックし、変更後の IP アドレスを入力します。
4. ［OK］をクリックします。

コンピュータ名が変更されていない場合

1. サーバの一覧から、対象のコンピュータを選択します。
2. 「ファイル」メニュー →「削除」の順にクリックし、いったんサーバを削除します。
3. 「ファイル」メニュー →「新しいサーバ」の順にクリックし、対象のコンピュータを再度登録します。
   コンピュータの登録について、詳細は「3.9.2 監視対象サーバ（オブジェクト）の追加」（→ P.227）を参照してください。

● Linux の場合

操作の必要はありません。

第 3 章

ServerView の使用方法

この章では、ServerView によるサーバ監視機能の使用方法について説明しています。

3.1	ServerView S2 の起動と終了	92
3.2	サーバの監視	104
3.3	ブレードサーバの監視	134
3.4	異常発生時の対処（ASR）	138
3.5	アラームサービス	146
3.6	パフォーマンスマネージャ	186
3.7	アーカイブデータの管理	206
3.8	エクスポートマネージャ	215
3.9	管理コンソールを使用した ServerView の操作	222
3.10	ServerView エージェントの設定	260
3.11	［Linux］ServerView Linux の使用方法	266

3.1 ServerView S2 の起動と終了

ServerView S2 は、Web ブラウザによるサーバの監視および各種設定を行います。

POINT

管理コンソールを使用する場合

- ServerView Windows コンソールをインストールしたサーバまたはパソコンから ServerView 管理コンソールを起動して操作することもできます。「3.9 管理コンソールを使用した ServerView の操作」（→ P.222）を参照してください。

3.1.1 ServerView S2 の起動

1 Web ブラウザを起動します。

重要

- Web ブラウザに Internet Explorer を使用する場合、Web ブラウザ起動後、以下の操作を行って Web サイトを追加してください。
  1. 「ツール」メニューから、「インターネット オプション」を選択します。
  2. ［セキュリティ］タブをクリックし、「イントラネット」または「信頼済みサイト」を選択します。
  3. ［サイト］をクリックし、ServerView S2 をインストールしたサーバの URL を追加します。
- Web ブラウザに Mozilla または Netscape を使用する場合、Web ブラウザ起動後、以下の操作を行い、ポップアップウィンドウの抑止の解除を行ってください。
  1. 「編集」メニューから「設定」を選択します。
  2. カテゴリから「プライバシーとセキュリティ」配下の「ポップアップ ウィンドウ」を選択します。
  3. 「要求していないポップアップ ウィンドウを抑止」のチェックを外します。
- Web ブラウザに Mozilla または Mozilla FireFox を使用する場合、Web ブラウザ起動後、以下の操作が必要です。

  ・Web サイトの日本語表示（Mozilla の場合）
  1. 「View」メニュー →「Charactor Encording」→「Auto-Detect」の順にクリックし、「Japanese」を選択します。
  2. 「Edit」メニューから「Preferences」を選択します。
  3. 「Category」欄の「Advanced」より「Cache」を選択します。
  4. 「Clear Cache」をクリックします。
  5. 「Preferences」画面で［OK］をクリックしたあと、Web ブラウザをいったん閉じて再起動します。

  ・Web サイトの日本語表示（Mozilla FireFox の場合）
  1. 「表示」メニュー →「文字エンコード」→「自動判別」の順にクリックし、「日本語」を選択します。
  2. 「編集」メニューから「設定」を選択します。
  3. 「プライバシー」を選択し、「データキャッシュ」の「クリア」をクリックします。
  4. 「設定」画面で［OK］をクリックしたあと、Web ブラウザをいったん閉じて再起動します。

2 次のいずれかの URL を入力し、【Enter】キーを押します。

IIS、または Linux を使用している場合

http://< サーバ名またはサーバの IP アドレス >/ServerView/

http://< サーバ名またはサーバの IP アドレス >/sv_www.html

ServerView Web-Server を使用している場合（通常の接続）

http://< サーバ名またはサーバの IP アドレス >:3169/ServerView/

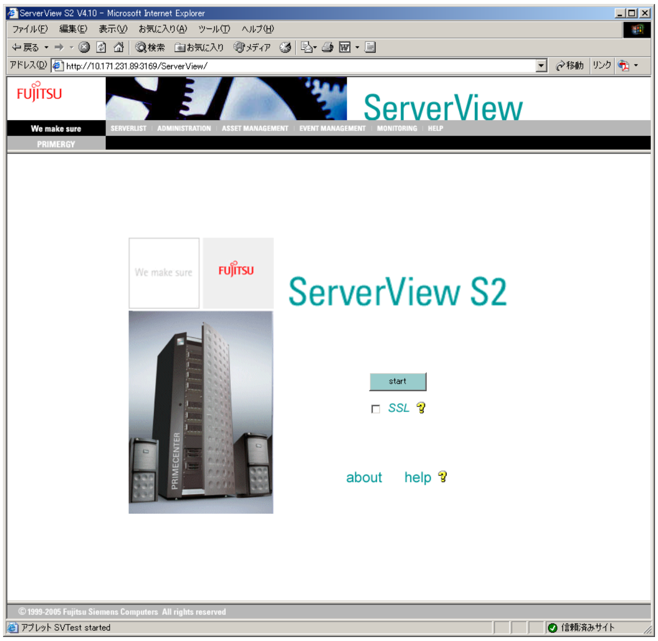
http://< サーバ名またはサーバの IP アドレス >:3169/sv_www.html

ServerView Web-Server を使用している場合（SSL 接続）

https://< サーバ名またはサーバの IP アドレス >:3170/ServerView/

https://< サーバ名またはサーバの IP アドレス >:3170/sv_www.html

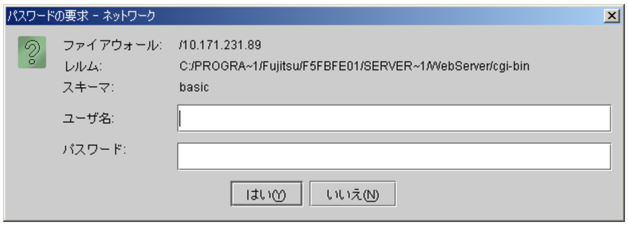
ServerView S2 の画面が表示されます。



POINT

ユーザ名とパスワードを要求された場合

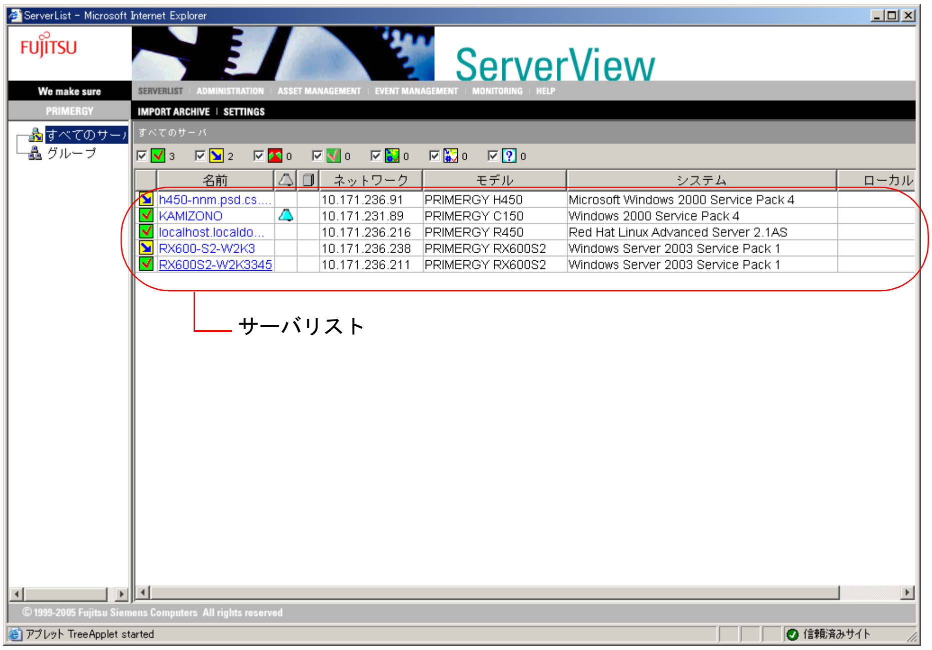
- ServerView Web-Server を指定して SSL 接続を行った場合は、以下のような認証画面が表示される場合があります。



認証は、デフォルトでユーザ名「svuser」、パスワード「fsc」に設定されています。セキュリティのため、このユーザを削除して、任意のユーザを追加してください。追加手順については、「● ServerView Web-Server と SSL について」（→ P.520）を参照してください。

3 ［Start］をクリックします。

「Server List」画面が表示され、登録されているすべてのサーバがリスト表示されます。



重要

- Web ブラウザに Internet Explorer を使用して Linux 監視対象サーバを参照する場合、「Server List」画面が正常に表示されない場合があります。
以下の手順を行ってください。
  1. Linux 監視対象サーバのサービス設定ファイル（Red Hat Linux の場合は httpd サービス設定ファイル、SUSE Linux の場合は apache2 サービス設定ファイル）の内容を確認します。
詳しくは、「■ 手動での ServerView Linux コンソールのインストール」（→ P.62）の手順 5 を参照してください。
  2. Web ブラウザ（Internet Explorer）の「ツール」メニューから、「インターネット オプション」を選択します。
  3. ［全般］タブの「インターネット一時ファイル」で［ファイルの削除］をクリックします。
  4. 「ファイルの削除」画面で「すべてのオフラインコンテンツを削除する」をチェックし、［OK］をクリックします。
  5. 「インターネット オプション」画面の［OK］をクリックしたあと、Web ブラウザをいったん閉じて再起動します。

3.1.2 ServerView S2 のメニュー（機能一覧）

ServerView S2 では、画面上部にあるメニューバーから各機能を実行します。各メニューにカーソルをポイントするとサブメニューが表示されます。

表：ServerView S2 の機能

メニュー名		説明
SERVERLIST		
	IMPORT ARCHIVE	他の管理サーバで取得したアーカイブデータをインポートします。→「3.7.6 インポートアーカイブ」（P.214）
	SETTINGS	サーバリストの更新間隔を設定します。 →「■ サーバリストの更新間隔の設定」（P.107）
ADMINISTRATION		
	SERVERBROWSER	サーバリストに監視対象サーバを追加します。 →「3.1.3 監視対象サーバの登録」（P.97）
	MIB INTEGRATION	MIB ファイルを追加します。 →「3.1.5 MIB の登録（MIB INTEGRATION）」（P.103）
ASSET MANAGEMENT		
	ARCHIVE MANAGER	アーカイブデータの取得、管理を行います。 →「3.7.1 アーカイブマネージャの起動」（P.206）
	EXPORT MANAGER	サーバのエクスポートデータの取得、ファイルへの保存を行います。→「3.8 エクスポートマネージャ」（P.215）
EVENT MANAGEMENT		
	ALARM MONITOR	受信したアラームを表示します。 →「3.5.1 アラームモニタ」（P.147）
	ALARM MANAGER	受信したアラームを管理します。 →「3.5.2 アラームマネージャ」（P.154）
	ALARM SETTINGS	アラームに関する設定を行います。 →「3.5.3 アラーム設定」（P.156）
MONITORING		
	PERFORMANCE MANAGER	しきい値やレポートの設定、監視、表示を行います。 →「3.6 パフォーマンスマネージャ」（P.186）
HELP		
	ABOUT	ServerView S2 のバージョン情報を表示します。
	CONTENTS	ヘルプの目次を表示します。
	ON VIEW	現在表示されている画面のヘルプを表示します。

■ 右クリックメニュー一覧

サーバリスト画面で右クリックすると、以下のメニューが表示されます。
右クリックする位置（対象）によって表示される項目が異なります。

表：右クリックメニュー

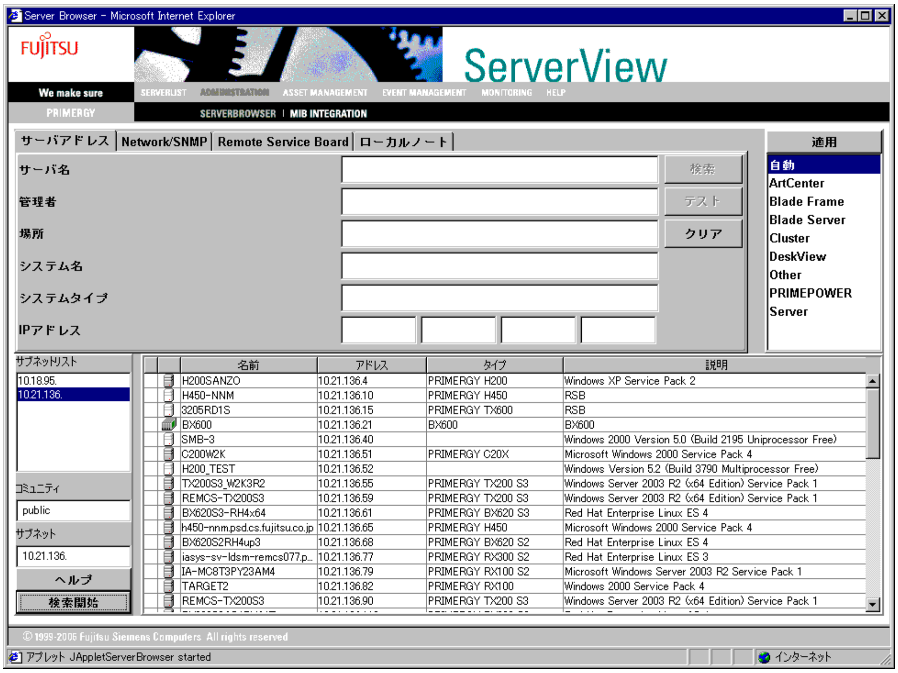
メニュー項目	説明
新しいサーバ	「Server Browser」画面が開きます。監視対象サーバを追加できます。 →「3.1.3 監視対象サーバの登録」（P.97）
新しいグループ	新規グループを作成します。選択したグループの下位に作成されます。「すべてのサーバ」の下位にはグループは作成できません。
グループへ移動	選択したグループを別のグループに移動します。
グループへコピー	選択したサーバをグループに登録します。
リネーム	グループ名を変更します。
削除	選択したサーバ、グループを削除します
サーバのプロパティ	サーバのプロパティ ウィンドウを表示します。サーバ情報を確認、変更できます。→「3.1.4 サーバ設定の確認／変更」（P.100）
ASR のプロパティ	ASR ウィンドウを表示します。異常発生時の対処方法などを設定できます。→「3.4 異常発生時の対処（ASR）」（P.138）
接続テスト	サーバへの接続テストを行います。→「■ サーバの接続確認」（P.105）
サーバの再検出	サーバステータスを再検出します。→「■ サーバの再検出／すべてのサーバの再検出」（P.106）
すべてのサーバの再検出	すべてのサーバステータスを再検出します。→「■ サーバの再検出／すべてのサーバの再検出」（P.106）
Refresh From DB	データベースを更新します。
アラームを受領	未受領のアラームを受領します。
すべてのアラームを受領	未受領のアラームをすべて受領します。
Archive の削除	取得済のアーカイブデータを削除します。 （アーカイブデータが存在する場合のみ表示されます）
今すぐ Archive を取得	選択しているサーバのアーカイブデータを取得します。

3.1.3 監視対象サーバの登録

ServerView S2 によるネットワーク上のサーバ監視を行うには、サーバリストに監視対象サーバを登録する必要があります。以下の手順でサーバを登録してください。

1 「ADMINISTRATION」メニュー →「SERVERBROWSER」の順にクリックします。または、サーバリスト上で右クリックして、表示されたメニューから「新しいサーバ」をクリックします。

「Server Browser」画面が表示され、ネットワーク上に存在するノードが一覧で表示されます。



2 「IP アドレス」欄に登録したいサーバの IP アドレスを入力し、[検索] をクリックします。

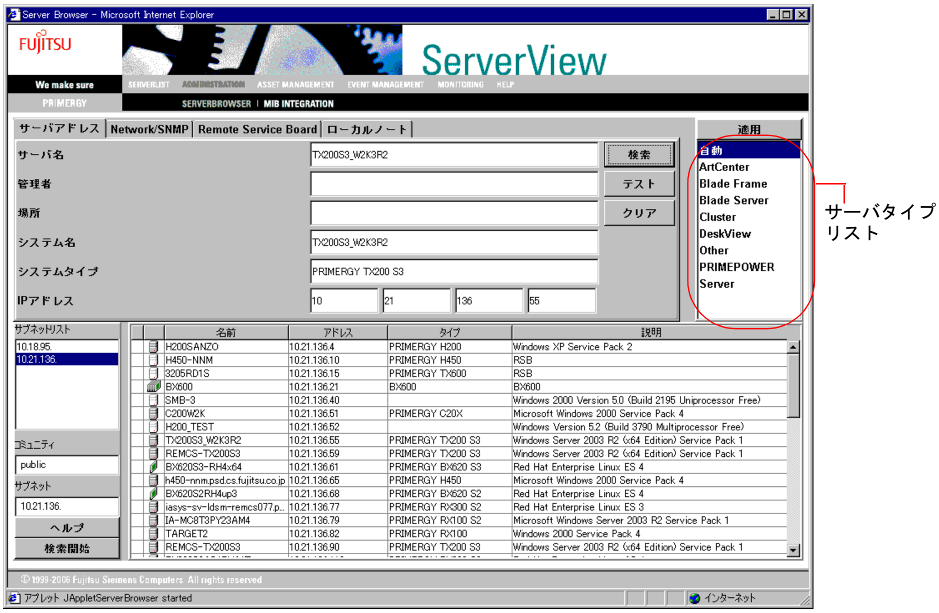
サーバの DNS 名などの情報が自動的に取得され、各項目に表示されます。

表示されない場合は、対象サーバのネットワーク設定を確認してください。

POINT

- [テスト] をクリックすると、サーバの接続テストが行われます。[クリア] をクリックすると、入力値がすべて消去されます。

3 サーバタイプリストから、サーバのタイプを選択します。

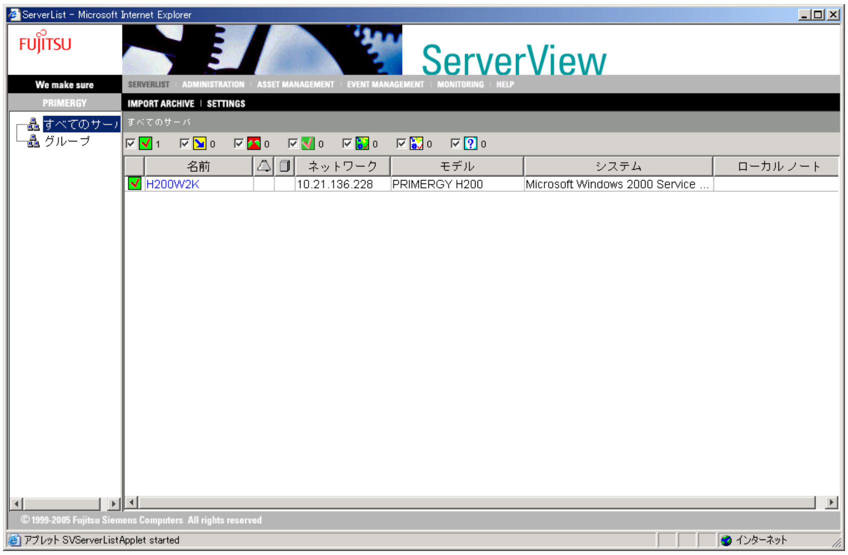


表：サーバのタイプ

タイプ名	説明
自動	追加するサーバのタイプを自動検出します。
ArtCenter	未サポートです。
Blade Frame	未サポートです。
Blade Server	ブレードサーバを追加します。
Cluster	クラスタシステムを追加する場合に選択します。未サポートです。
DeskView	デスクトップを追加する場合に選択します。未サポートです。
Other	サーバ以外の TCP/IP オブジェクトを追加する場合に選択します。
PRIMEPOWER	PRIMEPOWER システムを追加する場合に選択します。未サポートです。
Server	ServerView エージェントで監視するサーバを追加します。

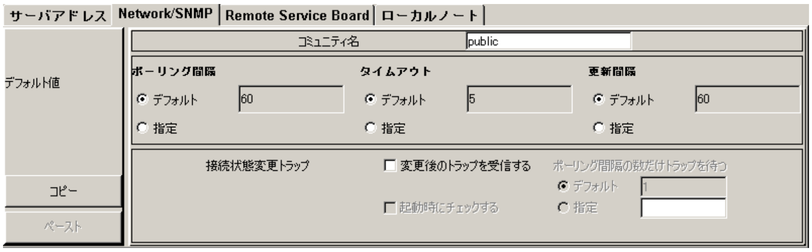
4 ［適用］をクリックします。

サーバリストにサーバが登録されます。

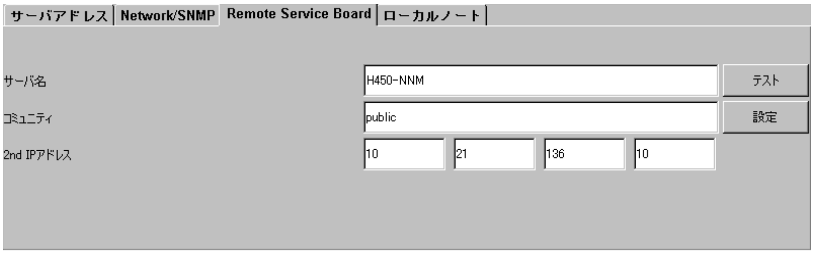


POINT

- 各タブ画面では、それぞれ情報が表示されます。必要に応じて設定してください。
  - ［Network/SNMP］タブ
    コミュニティ名、ポーリング間隔、タイムアウト値、更新間隔、接続状態変更トラップのデフォルト値が表示されています。



  - ［Remote Service Board］タブ
    サーバに搭載されているリモートサービスボードの情報が表示されます。
    ［テスト］をクリックすると、リモートサービスボードに対して接続テストが行われます。［設定］をクリックすると、リモートサービスボードの Web インタフェースが表示されます。



  - ［ローカルノート］タブ
    サーバのローカルノートが表示されます。

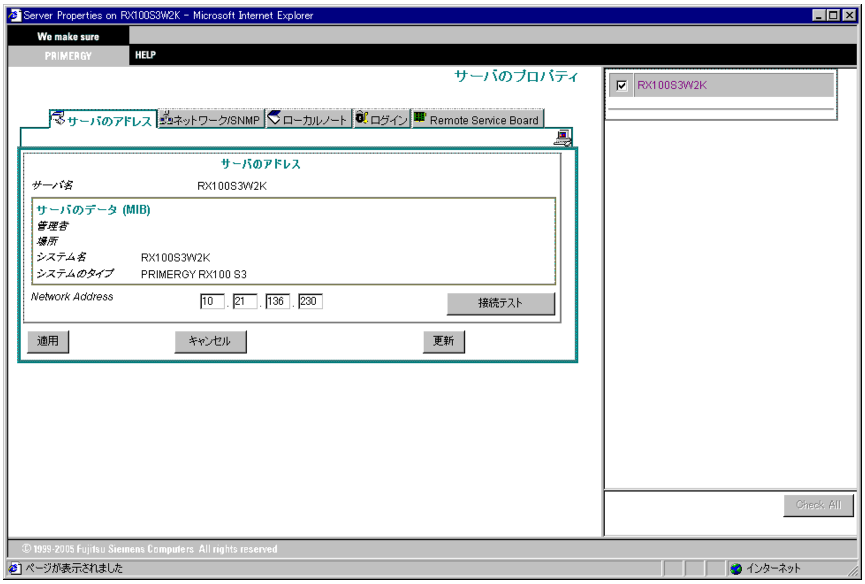
- 「Server Browser」画面のサーバ一覧上で 2 つ以上のサーバを選択した場合は、「サーバ名」には「複数選択」と表示されます。この状態で［適用］をクリックすると、選択したすべてのサーバがサーバリストに登録されます。
  サーバ一覧で右クリックして、表示された以下を選択することにより、複数のサーバを選択できます。
  ・「すべてを選択」: 一覧上のすべてのサーバが選択されます。
  ・「管理可能を選択」: 管理可能（灰色のサーバアイコン）なすべてのサーバが選択されます。
  すでにサーバリストに登録済みのサーバと同じ名前、または同じネットワークアドレスのサーバは追加できません。

3.1.4 サーバ設定の確認／変更

サーバの各設定内容を確認／変更する場合は、以下の操作を行います。

1 サーバリストから対象サーバを選択し、右クリックして表示されたメニューから、「サーバのプロパティ」をクリックします。

「Server Properties」画面が表示されます。



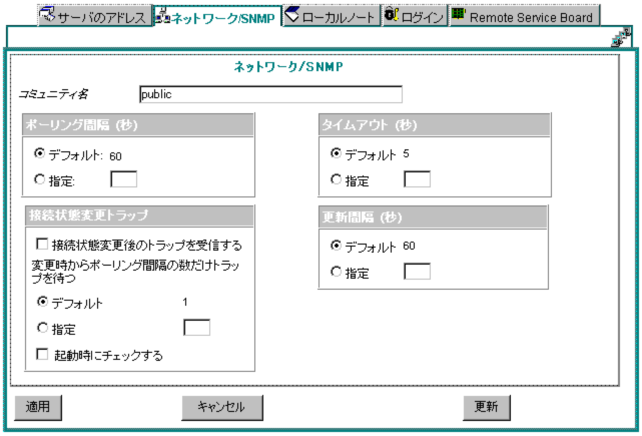
2 各タブ画面で、設定を確認／変更します。

各タブ画面で項目を設定した場合は、必ず［適用］をクリックして別のタブ画面をクリックしてください。

［サーバのアドレス］タブ

サーバの IP アドレスを確認／変更できます。IP アドレスを変更した場合、［接続テスト］をクリックすると、正しく接続できるかどうかの確認が行われます。

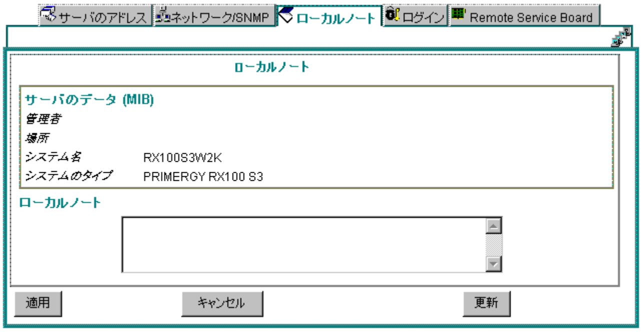
［ネットワーク／ SNMP］タブ



ネットワークのパラメータを確認／変更できます。設定できる項目は、「コミュニティ名（ユーザコミュニティの名前）」／「ポーリング間隔」／「タイムアウト値」／「接続状態変更トラップ（サーバのステータスが変化したときにトラップを送信する）」／「更新間隔」（開いたウィンドウを更新する間隔）です。

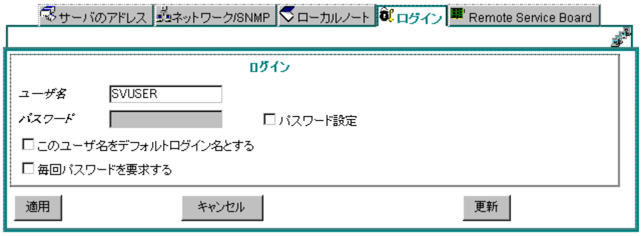
ネットワークやサーバの負荷が高い場合は、「ポーリング間隔」、「タイムアウト値」、「更新間隔」を変更することによって改善することができます。

［ローカルノート］タブ



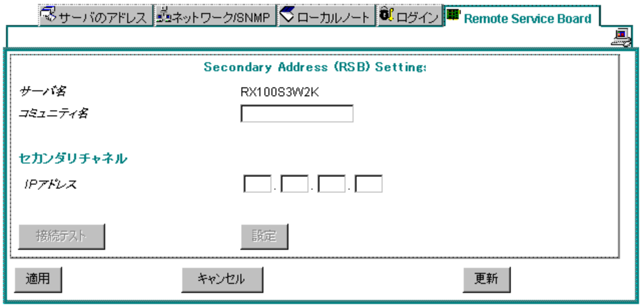
サーバのローカルノートを編集できます。ローカルノートは、「Server List」画面でサーバを見つける際に役立ちます。

［ログイン］タブ



サーバへ設定値の書き込みを行う際に使用する「ユーザ名」および「パスワード」を設定します。パスワードを設定するには、「パスワード設定」チェックボックスをチェックしてから設定します。また、セキュリティ上の理由から、パスワードはデータベースに保存されません。

［Remote Service Board］タブ



サーバのセカンダリチャネルの IP アドレス／コミュニティ名を確認／変更できます。
［接続テスト］をクリックすると、リモートサービスボードとの接続を確認できます。
［設定］をクリックすると、リモートサービスボードの Web インターフェースが起動し、「ユーザ名」と「パスワード」を入力する画面が表示されます。
Web インターフェースについては、それぞれ以下を参照してください。

- リモートサービスボード（PG-RSB101）の場合 :「6.3.1 Web インターフェースの起動」（→ P.353）
- リモートサービスボードの場合 :「7.3.1 Web インターフェースの起動」（→ P.409）

［TCP アプリケーション］タブ

TCP/IP 機器用の Web アプリケーションの設定ができます。
サーバの種類で TCP/IP 機器を選択した場合のみ表示されます。

3 ［キャンセル］をクリックして、プロパティを終了します。

3.1.5　MIB の登録（MIB INTEGRATION）

ServerView S2 に MIB ファイルを登録します。

重要

- Linux 上で稼動している ServerView S2 に対しては、MIB の登録は未サポートです。
  Linux の場合は、MIB ファイルをコピーする方法を行ってください。操作方法については、「2.4.4 オプション装置の割り込み（MIB）情報の登録」（→ P.73）を参照してください。

1　ServerView S2 のメニューから「ADMINISTRATION」→「MIB INTEGRATION」をクリックします。

MIB ファイルの登録画面が表示されます。

2　［参照］をクリックし、MIB ファイルを指定します。

3　［Upload］をクリックします。

MIB ファイルが登録されます。

3.2　サーバの監視

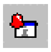
サーバの状態、サーバの各コンポーネントの詳細状況を確認します。

3.2.1　サーバの状態確認

■ サーバの状態表示（アイコン）

サーバリストに、サーバごとに状態が以下のアイコンで表示されます。

表：アイコンの意味

アイコン	意味
	すべてのコンポーネントは正常に動作しています。
	1 つまたは 1 つ以上のコンポーネントでエラーが発生しています。
	1 つまたは 1 つ以上のコンポーネントのステータスが悪化しています。
	サーバが反応せず、管理不可能です。
	サーバ状況を調査中です。
	サーバにアクセスできません。サーバがネットワークに接続されているか、またはサーバが ServerView に正しく設定されているかを確認してください。
	サーバが反応しないため、RSB がセカンダリチャネルを介して応答しました。RSB モードでサーバ状況を確認できます。
	DeskInfo ツールを開始できます。未サポートです。
	拡張サーバマネージャを起動できます。
	Intel LANDesk® Server Manager（LDSM）を起動できます。
	ServerView がサーバからアラームを受信しました。
	しきい値測定を開始しています。
	アーカイブデータが作成されています。
	ブレードサーバのステータス（すべてのブレードのステータス）は正常です。
	ブレードサーバのステータスを調査中です。

表：アイコンの意味

アイコン	意味
	ブレードサーバのステータス（少なくとも 1 つのブレードのステータス）が悪化しています。
	ブレードサーバのステータス（少なくとも 1 つのブレードのステータス）でエラーが発生しています。
	ブレードサーバが応答せず、管理不可能です。
	ブレードサーバにアクセスできません。
	クラスタのステータスは正常です。
	クラスタ状況を調査中です。
	クラスタの 1 つ以上のコンポーネントでエラーが発生しています。
	クラスタのすべてのコンポーネントは正常に動作しています。
	クラスタが反応せず、管理不可能です。
	クラスタにアクセスできません。クラスタがネットワークに接続されているか、またはクラスタが正しく ServerView に設定されているかを確認してください。
	クラスタの 1 つ以上のコンポーネントのステータスが悪化しています。

■ サーバの接続確認

サーバが正しく ServerView で使用できるかどうか、接続テストを行います。これにより、監視機能が自動的に起動され、システム全体とそのサブシステムのステータスが表示されます。

重要

- サーバの一覧のセットアップを行う場合は、サーバの一覧で設定するコンピュータ名が有効であることを確認する必要があります。コンピュータ名は、OS のインストール中にサーバに割り当てられた名前です。1 つの IP アドレスに複数のコンピュータ名を同時に割り当てることはできません。

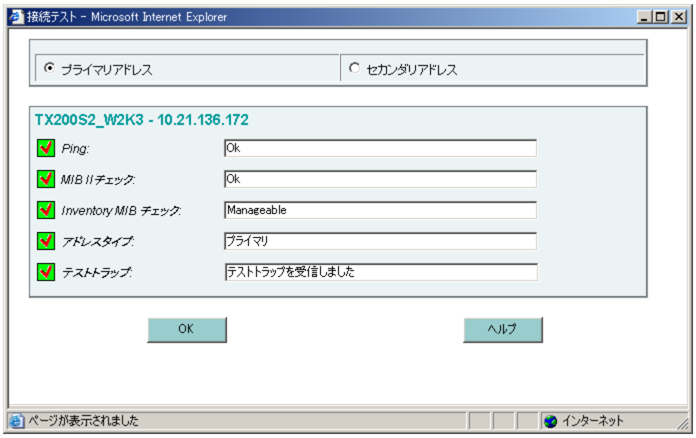
1 サーバリストに、サーバ名と IP アドレスが正しく表示されていることを確認します。

3

ServerView の使用方法

2　**サーバリストからサーバを選択し、右クリックして表示されたメニューから、「接続テスト」をクリックします。**

「接続テスト」画面が表示されます。



指定されたタイムアウト時間内にサーバが応答するかどうかをテストします。
以下の 5 種類のテストが行われます。

表：接続テスト

テスト項目	説明
Ping	サーバがネットワークに接続されているかを確認します。
MIB Ⅱチェック	MIB Ⅱエージェントがインストールされているかどうかを確認します。
Inventory MIB チェック	ServerView エージェントのインベントリ MIB がインストールされているかどうかを確認します。
アドレスタイプ	アドレスのタイプが、本体／RSB でプライマリかセカンダリかの識別を確認します。
テストトラップ	サーバからのトラップが受信可能かどうかを確認します。

3　**手順 2 を、各サーバに対して行います。**

■ サーバの再検出／すべてのサーバの再検出

現在のサーバのステータスをチェックするには、「サーバの再検出」（すべてのサーバに対して行う場合は「すべてのサーバの再検出」）を行います。

● サーバの再検出

1　**サーバリストから確認したいサーバを選択し、右クリックして表示されたメニューから、「サーバの再検出」をクリックします。**

ステータスチェックが開始され、各サーバの接続状況および現在の状況が正常かどうかチェックされます。

● すべてのサーバの再検出

1 サーバリストで右クリックして表示されたメニューから、「すべてのサーバの再検出」をクリックします。

サーバリストに登録されているすべてのサーバに対して、ステータスチェックが開始されます。

■ サーバリストの更新間隔の設定

サーバリストの更新間隔を設定できます。設定した時間毎に、サーバリストに登録されている各サーバのステータスが更新されます。

1 ServerView S2 のメニューから「SERVERLIST」メニュー →「SETTINGS」をクリックします。

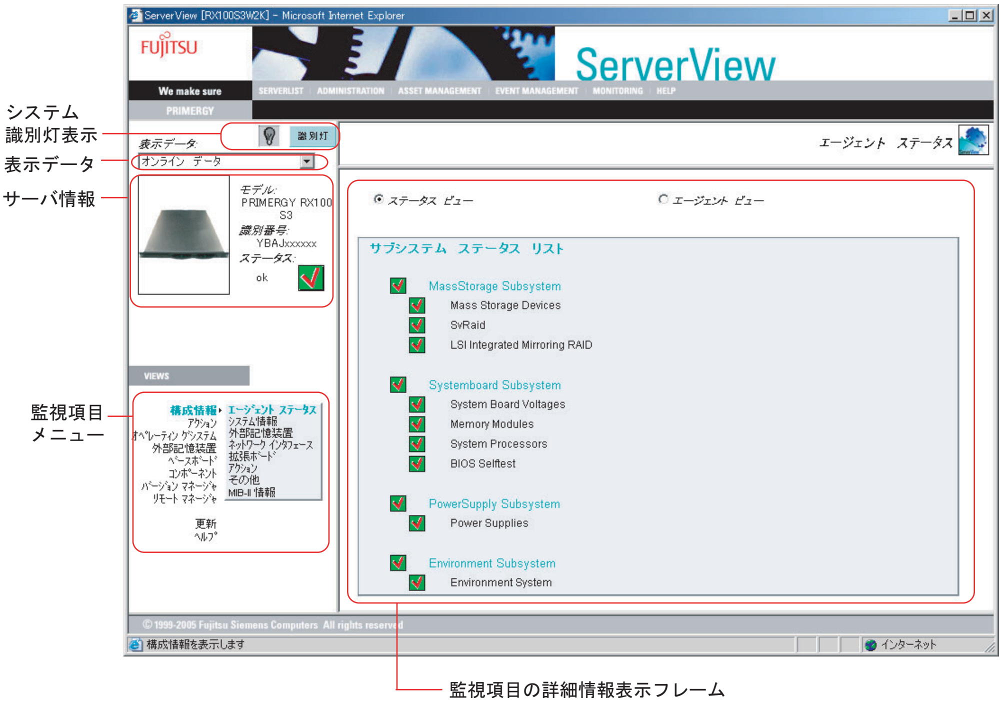
2 更新間隔を入力し、[OK] をクリックします。

3.2.2　サーバの各監視項目の詳細確認

各サーバの状態を詳細に確認します。

1　サーバリストから対象サーバをクリックします。

「ServerView ［サーバ名］」画面が表示され、選択したサーバに関する詳細情報が表示されます。



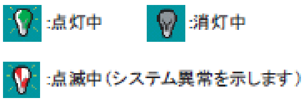
POINT

- ブレードサーバを選択した場合は、監視対象や監視機能が制限されるため、表示される画面が異なります。ブレードサーバの詳細確認については、「3.3 ブレードサーバの監視」（→ P.134）を参照してください。

● システム識別灯表示

システム識別灯表示の切り替えができます。サーバがシステム識別灯表示をサポートしている場合のみ有効です。システム識別 LED の現在の状態がアイコンで表示されます。

次の 3 種類のアイコンがあります。



● 表示データ

オンラインデータか、アーカイブデータかを指定できます。
オンラインデータは、リアルタイムのサーバ情報を表示します。
アーカイブ データは作成日時のサーバ情報を表示します。アーカイブデータについては、「3.7.1 アーカイブマネージャの起動」（→ P.206）を参照してください。

● サーバ情報

サーバのモデル名、識別番号、ステータスが表示されます。
ステータスはアイコン表示されます。アイコンの意味については、「■ サーバの状態表示（アイコン）」（→ P.104）を参照してください。

● 監視項目メニュー

各項目にカーソルをポイントすると、それぞれの下位項目が表示されます。参照したい項目をクリックすると、詳細情報表示フレームに情報が表示されます。

表：監視項目

項目	説明
構成情報	
エージェントステータス	ステータス、またはエージェントの情報を表示します。 →「■ エージェントステータス」（P.111） ・ステータスビュー サブシステムのステータスが表示されます。それぞれのサブシステムへリンクされています。 ・エージェントビュー ServerView エージェントのバージョン、MIB リビジョン、SNMP エージェントの構成が表示されます。
システム情報	システムの情報が表示されます。→「■ システム情報」（P.112）
外部記憶装置	サーバに接続されている外部記憶装置とそのファイルシステムが表示されます。→「■ 外部記憶装置の情報」（P.113）
ネットワーク インタフェース	サーバに搭載されているネットワーク インタフェースが表示されます。→「■ ネットワーク インタフェースの情報」（P.113）
拡張ボード	サーバの各種バスや拡張ボードが表示されます。→「■ 拡張ボードの情報」（P.114）
アクション	イベントログ、エラーログなど、サーバの挙動に関する情報が表示されます。→「■ アクション情報」（P.114）
その他	ファンや温度センサーの情報が表示されます。 →「■ その他の情報」（P.115）
MIB- Ⅱ情報	MIB Ⅱ情報が表示されます。→「■ MIB- Ⅱ情報」（P.115）
アクション	
アクション	エラーメッセージ、ブートオプションなどが表示されます。また、再起動オプションを設定すると、サーバのシャットダウン、再起動が行えます。→「■ アクション」（P.116）
メンテナンス	内蔵の CMOS バッテリの使用期間やファンに関する情報が表示されます。→「■ メンテナンス」（P.118）
ASR	ASR（Automatic Server Reconfiguration & Restart）機能の設定を行うことができます。→「3.4 異常発生時の対処（ASR）」（P.138）

表：監視項目

項目		説明
オペレーティングシステム		サーバにインストールされている OS に関する情報が表示されます。→「3.2.5 オペレーティングシステムの情報表示」（P.118）
外部記憶装置		
	外部記憶装置	サーバに搭載されているアダプタと、アダプタに接続されている外部記憶装置の情報が表示されます。 →「3.2.6 外部記憶装置の状態確認」（P.119）
	ロジカルビュー	サーバの論理ドライブ上のファイルシステムの情報が表示されます。
	パーティションビュー	パーティションに関する情報が表示されます。
ベースボード		
	ベースボード	プロセッサ、メモリ、電圧などのベースボードに付随する情報が表示されます。 →「3.2.7 ベースボードの状態確認」（P.124）
	バスとアダプタ	サーバ上のバスと接続されたアダプタがツリー表示されます。ツリーから選択したアダプタの詳細、ファンクションの詳細が確認できます。
	メモリモジュール	サーバに搭載されたメモリモジュールの情報を表示します。
	電圧	ベースボード上の各電圧の情報を表示します。
コンポーネント		
	環境	サーバの温度とファンのステータスを表示します。 →「■ 環境」（P.128）
	電源	サーバの電源に関する設定とステータスを表示します。 →「■ 電源」（P.129）
	ネットワーク インタフェース	サーバに搭載されているネットワーク インタフェースの I/F、ステータス、タイプ、説明をリスト表示します。 →「■ ネットワーク インタフェース」（P.131）
	リソース	システム上のリソースを表示します。 →「■ リソース」（P.131）
バージョンマネージャ		
	インベントリ	サーバのインベントリ情報 (ハードウエア、ソフトウェアの構成情報) を表示します。 →「3.2.9 バージョンマネージャ（インベントリ）」（P.132）
リモートマネージャ		リモートマネージメント情報を表示します。 →「3.2.10 リモートマネージャ」（P.133）
更新		
	サーバステータス	サーバステータス情報を更新します。
	ビュー	詳細情報表示フレームに現在表示されている画面を更新します。
ヘルプ		
	バージョン情報	ServerView S2 のバージョン情報を表示します。
	目次	ServerView S2 のヘルプの目次を表示します。
	ビュー	詳細情報表示フレームに現在表示されている画面のヘルプを表示します。

3.2.3 構成情報の表示

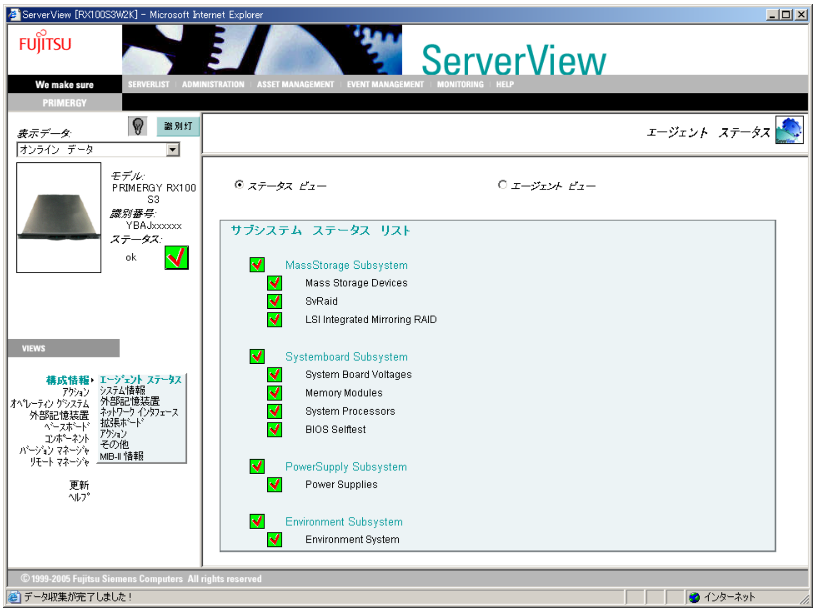
サーバを構成する各種情報を表示します。

■ エージェントステータス

「ステータスビュー」、「エージェントビュー」を選択すると、表示される画面が切り替わります。

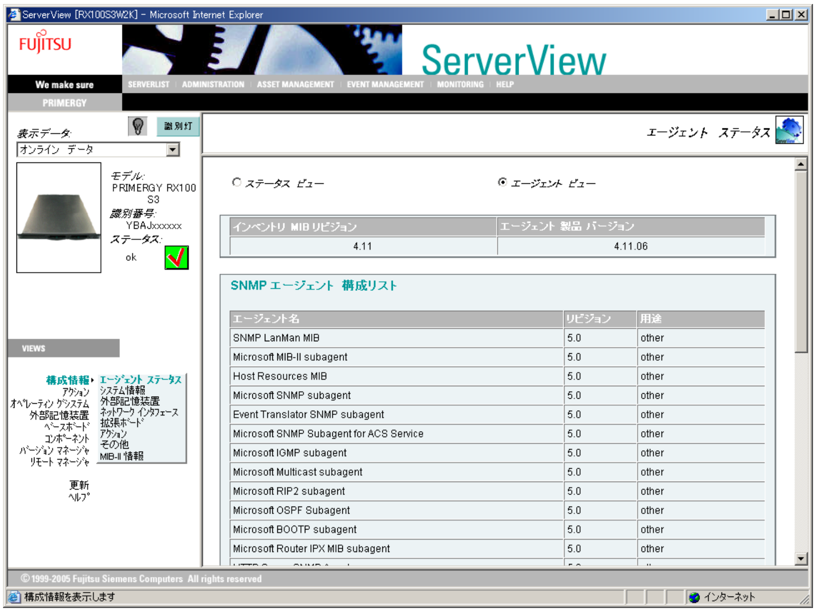
● ステータスビュー

サブシステムのステータスが表示されます。それぞれのサブシステムへリンクされています。



● エージェントビュー

ServerView エージェントのバージョン、MIB リビジョン、SNMP エージェントの構成が表示されます。

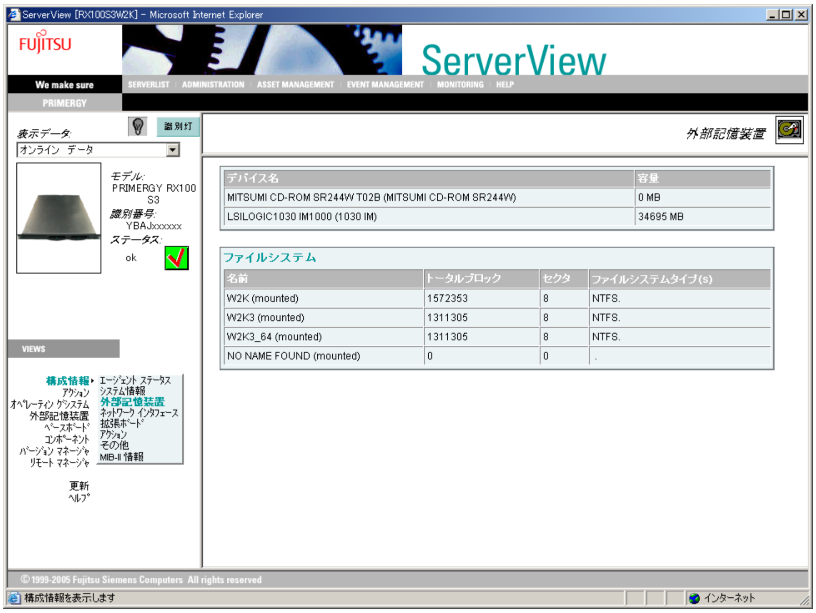


■ システム情報

システムの情報が表示されます。

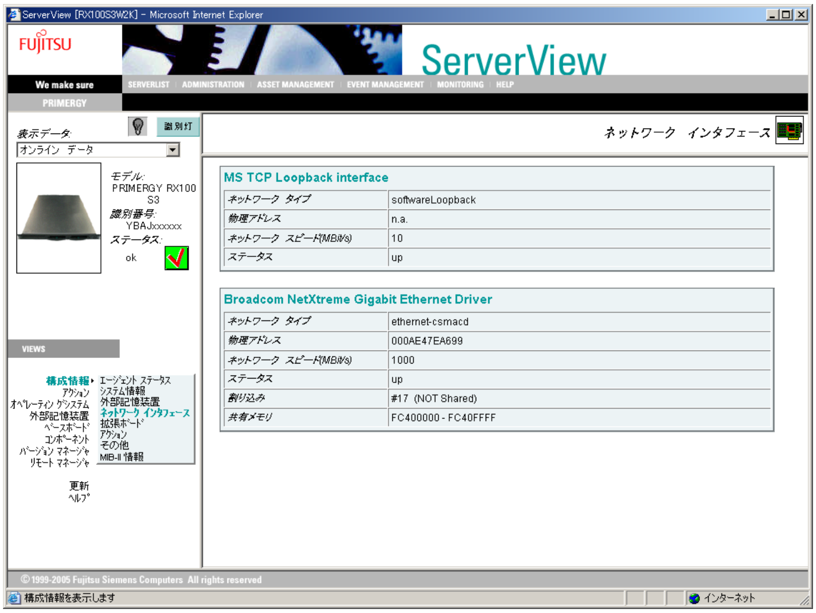
■ 外部記憶装置の情報

サーバに接続されている外部記憶装置とそのファイルシステム情報が表示されます。



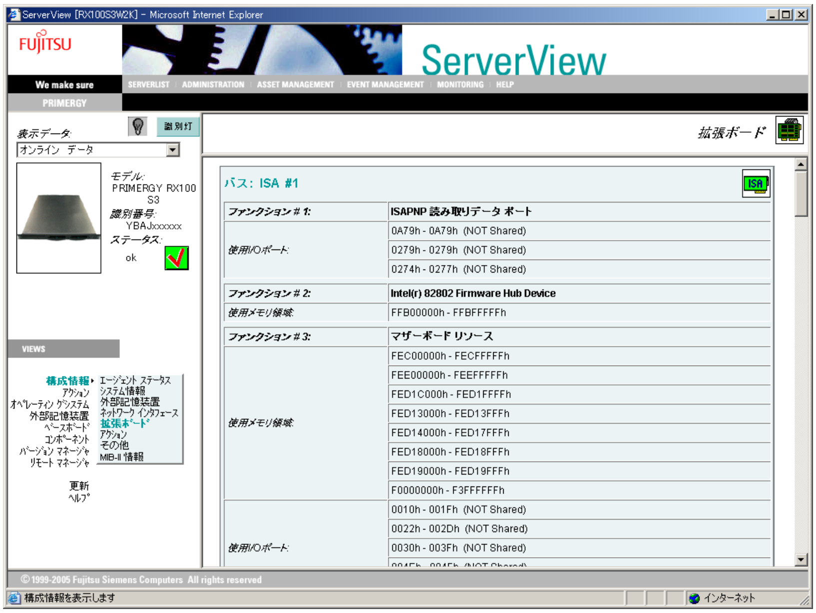
■ ネットワーク インタフェースの情報

サーバに搭載されているネットワークインタフェースの情報が表示されます。



■ 拡張ボードの情報

サーバに搭載されている各種バスや拡張ボードの情報が表示されます。



■ アクション情報

イベントログ、エラーログなどの情報が表示されます。

■ その他の情報

ファンや温度センサーの情報が表示されます。

■ MIB- Ⅱ情報

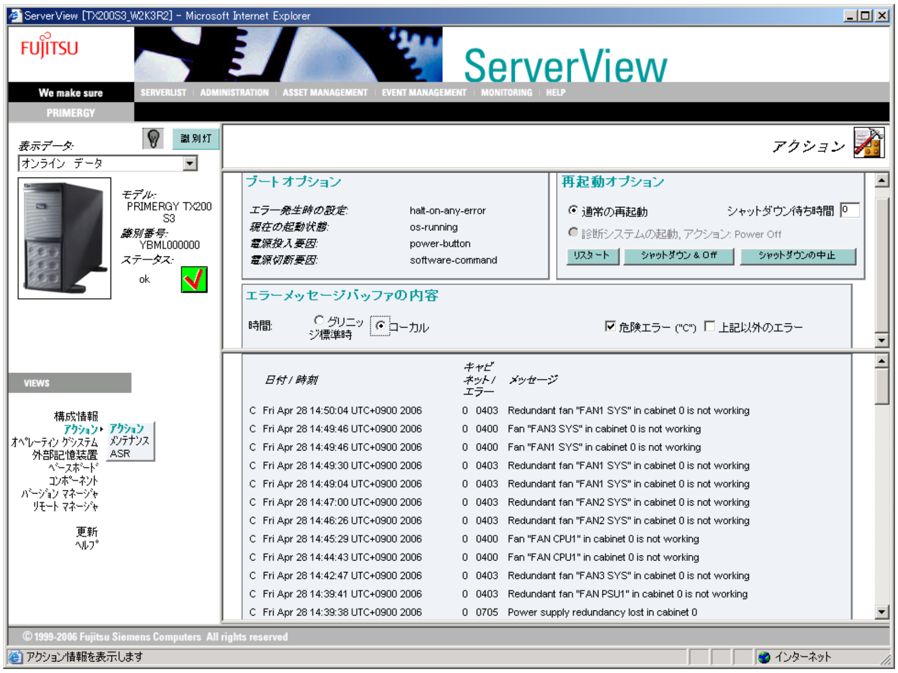
MIB Ⅱ情報が表示されます。

3.2.4 アクション

「アクション」には、「■ アクション」（→ P.116）、「■ メンテナンス」（→ P.118）、「3.4 異常発生時の対処（ASR）」（→ P.138）の 3 つのメニューがあります。

■ アクション

［アクション］をクリックすると、「アクション」画面が表示されます。



● ブートオプション

ブートオプションには起動プロセスに関する情報が表示されます。これらの情報は、サーバの BIOS 設定情報を ServerView が表示します。

- エラー発生時の設定
  エラー発生時に停止するかどうかなどの設定が表示されます。
- 現在の起動状態
  現在の起動状態が表示されます。
- 電源投入要因
  電源の投入要因が表示されます。
- 電源切断要因
  電源の切断要因が表示されます。

● 再起動オプション

オプションを指定して操作ボタンをクリックすることにより、サーバのシャットダウン／再起動操作を行うことができます。各ボタンをクリックすると、セキュリティのためにログイン画面が表示されます。ServerView 管理権限のユーザ名とパスワードが必要です。

- ［リスタート］ボタン（再起動）
  サーバを再起動します。サーバが再起動されるまでに必要な経過時間を指定します。
- ［シャットダウン & Off］ボタン （シャットダウン／電源切断）
  サーバをシャットダウンし、電源を切ります。サーバがシャットダウン、または電源切断されるまでに必要な経過時間を指定します。
- ［シャットダウンの中止 ］ボタン（シャットダウンの中止）
  ［リスタート］または［シャットダウン & Off］をクリックして開始されるシャットダウンを中止します。すでに再起動またはシャットダウンが開始された場合は中止できません。

POINT

- ▶ ログイン画面で「デフォルトユーザの変更」を行った場合、一時的にデフォルトユーザが変更されます。ただし、ServerView をいったん終了するとこの情報は失われます。デフォルトのログインユーザを変更する場合は、「サーバのプロパティ」を起動し、［ログイン］タブ画面で設定してください。設定方法については「3.1.4 サーバ設定の確認／変更」（→ P.100）を参照してください。
- ▶ ［診断システムの起動］は未サポートです。選択しないでください。

● エラーメッセージバッファの内容

一覧は日付／時間順に並べられていて、最新のエントリが一番上になります。メッセージは、「C」（メッセージのレベルが危険である場合）、日付 / 時刻、キャビネット / エラー、メッセージの 5 つの部分からなります。時刻は、グリニッジ標準時、またはローカル時間（日本時間）のどちらで表示するか選択できます。
エラーメッセージバッファに表示される内容は、リモートサービスボードがある場合と、ない場合で異なります。

- リモートサービスボードがある場合
  リモートサービスボードが獲得した SEL の情報と、リモートサービスボードが自分自身で検出したエラーがエラーメッセージバッファに表示されます。
- リモートサービスボードがない場合
  サーバ本体の SEL の内容がエラーメッセージバッファに表示されます。

■ メンテナンス

「メンテナンス」をクリックすると、以下の画面が表示され、内蔵されている CMOS バッテリの使用期間やファンに関する情報が表示されます。

3.2.5 オペレーティングシステムの情報表示

「オペレーティングシステム」をクリックすると、サーバにインストールされている OS に関する情報を表示します。現在実行しているプロセスに関するデータや、OS の名前、バージョン、言語、システム稼働時間などが表示されます。

3.2.6　外部記憶装置の状態確認

外部記憶装置の状態確認では、以下の状態を確認できます。

- 装置のコントローラやデバイス状態を確認する→「■ 外部記憶装置」（P.119）
- 論理ドライブのシステムファイル情報を確認する→「■ ロジカルビュー」（P.123）
- パーティションの詳細情報を確認する→「■ パーティションビュー」（P.123）

■ 外部記憶装置

［外部記憶装置］をクリックすると、ハードディスクとコントローラに関する詳細情報が表示されます。

● コントローラリスト

サーバに接続されているコントローラに関するデータがリスト表示されます。番号、ステータス（OK または FAIL）、タイプ（EISA、PCI、ISA）、アダプタ名が表示されます。

● 選択したコントローラの詳細

コントローラリストで選択しているコントローラの詳細情報が表示されます。右側には［MULTIPATH ビュー］［デバイスビュー］へのリンクが表示され、クリックすると詳細情報画面が新しく表示されます（→「● デバイスビュー」（P.120））。ここに表示されるリンクや表示される詳細情報画面は、選択されているコントローラの種類によって異なります。

POINT

- 詳細情報を表示するコントローラを必ず選択してください。選択していない場合、別の情報が表示されることがあります。

● デバイスビュー

［デバイスビュー ］をクリックすると、新規にデバイスビュー画面が表示され、コントローラに接続されているデバイスに関する詳細情報が表示されます。

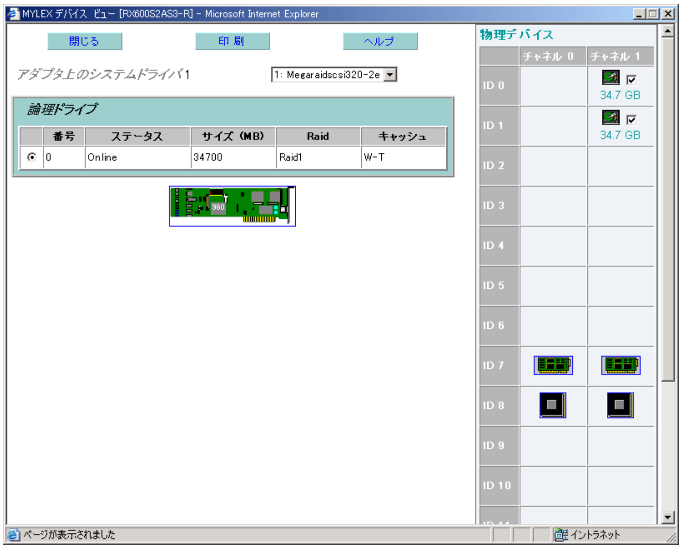
- 選択したコントローラの詳細
  選択したコントローラの詳細情報が表示されます。
- 接続されたデバイスの一覧
  接続されているデバイスの一覧がリスト表示されます。詳細情報を確認したいデバイスを選択します。
- 選択したデバイスの詳細
  「接続されたデバイスの一覧」から選択したデバイスの詳細が表示されます。
- ［RAID の表示］
  画面下に［RAID の表示］ボタンが表示されている場合、これをクリックすると、RAID カード上に存在する論理ドライブ一覧、物理デバイスが表示され、詳細が確認できます。
  →「● MYLEX デバイスビュー（RAID の表示）」（P.121）

POINT

- S.M.A.R.T.（Self Monitoring and Reporting Technology）に表示される情報は、S.M.A.R.T. プロシージャから返信されます。S.M.A.R.T. は、ハードデバイスのエラーを早期に検出するために使用する技術です（PDA =Prefailure Detection and Analysis）。SCSI ハードディスクドライブと ATA ハードディスクドライブがサポートされます。

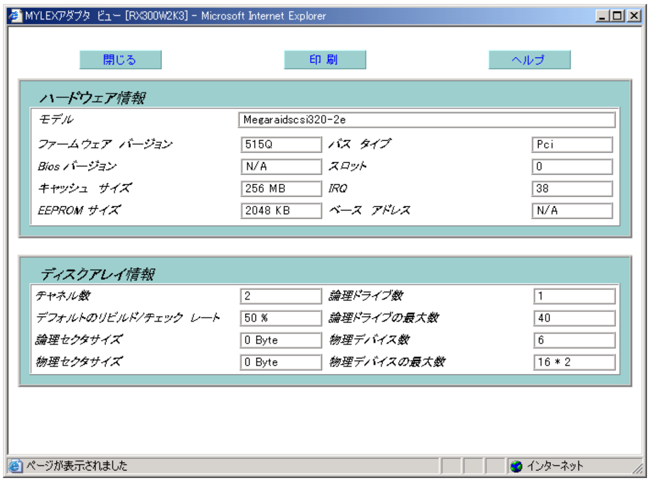
● MYLEX デバイスビュー（RAID の表示）

［デバイスビュー］をクリックすると、新規にデバイスビュー画面が表示され、コントローラに接続されているデバイスに関する詳細情報が表示されます。
また、デバイスビューの画面下に［RAID の表示］ボタンが表示されている場合は、［RAID の表示］をクリックすると、以下の画面が表示されます。



- 論理ドライブ
  RAID カード上に存在する論理ドライブの一覧が表示されます。
- 物理デバイス
  RAID カード上に存在する物理デバイスが表示されます。「論理ドライブ」のリストからドライブ番号を選択すると、「物理デバイス」には選択した論理ドライブを構成している物理デバイスにチェックが付きます。
  物理デバイス内の各リンクをクリックすると、物理的デバイスビューが表示されます。
  SCSI デバイスの情報、ディスクの情報を確認できます。

- コントローラアイコン
  コントローラアイコンをクリックすると、アダプタビューが表示されます。ハードディスクの情報、ディスクアレイの情報を確認できます。



POINT

- RAID カードの監視および表示には、カードに添付されている管理ツールを必ずインストールしてください。検出されたエラー情報を管理コンソールに通知することができます。

重要

- ServerView の版数と RAIDManager ／ IDE-RAIDManager の版数により、SCSI アレイコントローラカード／ IDE-RAID コントローラカードの情報が、正しく表示されない場合があります。
  このため、RAIDManager ／ IDE-RAIDManager などの RAID 管理ツールを使用して、状態を確認してください。

■ ロジカルビュー

［ロジカルビュー］をクリックすると、ロジカルビュー画面が表示されます。サーバの論理ドライブ上のファイルシステムがリスト表示されます。
リストから選択したファイルシステムの詳細が表示され、ファイルシステムのサイズ、マウント、ファイルシステムタイプ、使用率が確認できます。

■ パーティションビュー

［パーティションビュー］をクリックすると、パーティションビュー画面が表示されます。
パーティションビューでは、サーバのパーティションに関する詳細情報が確認できます。

パーティションのリストから詳細情報を確認したいパーティション番号を選択すると、選択したパーティションの以下の情報が確認できます。

- 選択したパーティションの詳細（コントローラ）
  パーティションが所属するコントローラのシンボル名、アダプタモデル、バス タイプ & 番号、デバイス番号、ファンクションが表示されます。
- 選択したパーティションの詳細（デバイス情報）
  パーティションが作成されたデバイスのタイプ、番号、名前が表示されます。

3.2.7 ベースボードの状態確認

ベースボードの状態確認では、以下の状態を確認できます。

- ベースボードの状態を確認する→「■ ベースボード」（P.124）
- サーバ上のバスと接続されたアダプタの情報を確認する→「■ バスとアダプタ」（P.126）
- サーバに搭載されたメモリモジュールの状態を確認する→「■ メモリモジュール」（P.126）
- ベースボード上の各電圧の状態を確認する→「■ 電圧」（P.127）

■ ベースボード

［ベースボード］をクリックすると、ベースボード画面が表示され、ベースボード情報（モデル、BIOS バージョン、ボード ID、シリアル番号）が表示されます。
シリアル番号は、機種によっては表示されない場合があります。

● プロセッサ

搭載されているプロセッサに関する情報が表示されます。
プロセッサのアイコンをクリックすると、クリックしたプロセッサの番号、タイプ、周波数、CPU ステップ、ステータス、論理 CPU の数、ソケットの名称、L2 キャッシュ（KB）、L3 Cache（KB）が表示されます。

● メモリ

メモリの総量とステータスが表示されます。ステータスアイコンをクリックすると、「■ メモリモジュール」（→ P.126）画面が表示されます。

● 電圧

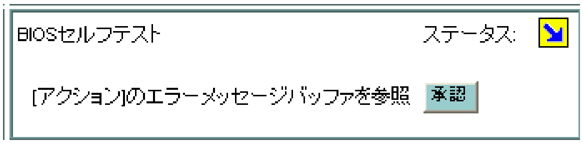
電圧のステータスが表示されます。ステータスアイコンをクリックすると、「■ 電圧」（→ P.127）画面が表示されます。

● バスとアダプタ

サポートするバスタイプとステータスが表示されます。ステータスアイコンをクリックすると、「■ バスとアダプタ」（→ P.126）画面が表示されます。

● BIOS セルフテスト

サーバの電源投入時に BIOS が行うセルフテストの結果が表示されます。



ステータスに「異常」アイコンが表示されている場合、[承認] をクリックすることで「正常」アイコンに戻すことができます。「異常」の詳細情報は「■ アクション」（→ P.116）画面の「エラーメッセージバッファの内容」で確認してください。
なお、BIOS セルフテスト情報は、セルフテスト通知機能がない BIOS（バージョンの違いも含む）の場合は表示されません。

POINT

- ［承認］をクリックして「正常」アイコンに戻った状態で、ServerView エージェントを再インストールすると、ふたたび「異常」アイコンになる場合があります（同時に Trap が発生する場合があります）。この場合「正常」アイコンに戻すには、再度［承認］をクリックしてください。

■ バスとアダプタ

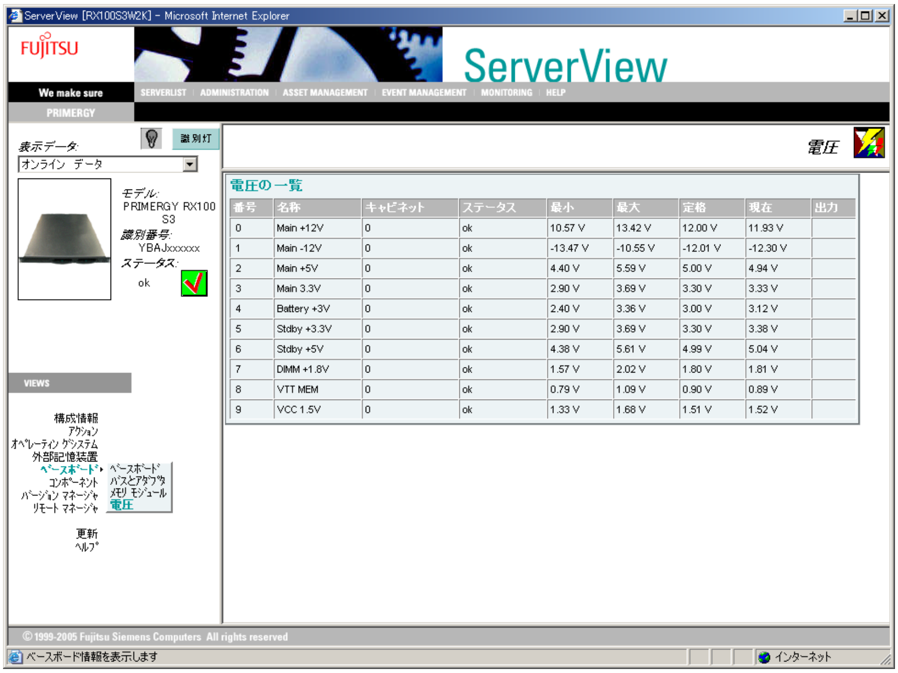
［バスとアダプタ］をクリックすると、「バスとアダプタ」画面が表示されます。サーバ上のバスと接続されたアダプタがツリー表示され、ツリー上で選択したアダプタの詳細、ファンクションの詳細が表示されます。

■ メモリモジュール

［メモリモジュール］をクリックすると、「メモリモジュール」画面が表示され、サーバに搭載されたメモリモジュールの詳細情報が表示されます。

■ 電圧

［電圧］をクリックすると、「電圧」画面が表示されます。ベースボード上の各電圧についての詳細情報を確認できます。



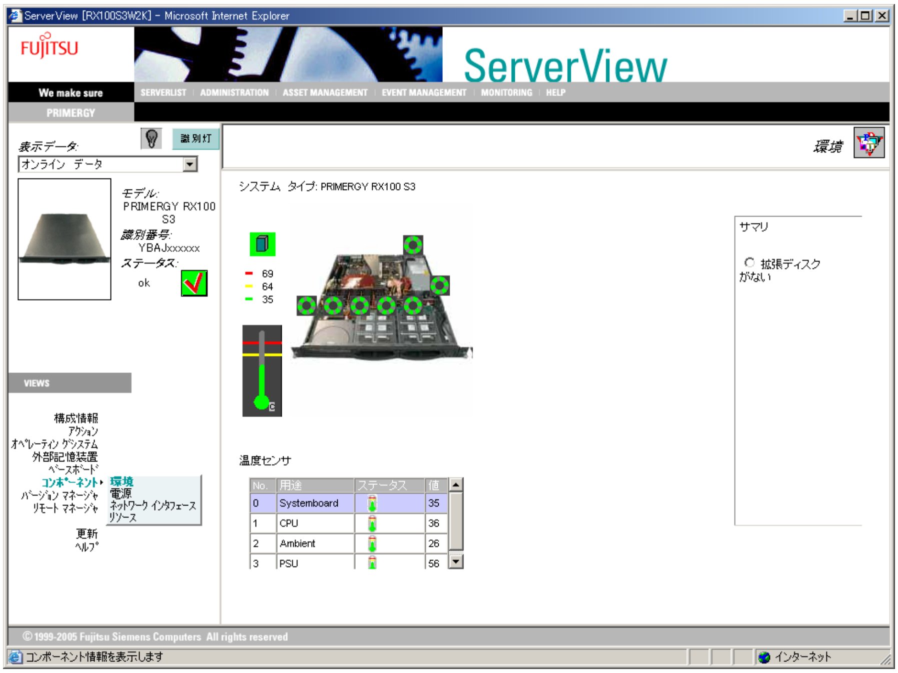
3.2.8 コンポーネントの状態確認

コンポーネントの状態確認では、以下のコンポーネント状態を確認できます。

- サーバの温度とファンの状態を確認する→「■ 環境」（P.128）
- サーバの電源情報を確認する→「■ 電源」（P.129）
- サーバに搭載されているネットワークインタフェースの情報を確認する→「■ ネットワーク インタフェース」（P.131）
- システム上のリソース情報を確認する→「■ リソース」（P.131）

■ 環境

［環境］をクリックすると、「環境」画面が表示されます。



● サーバアイコンの表示

サーバアイコンでは、サーバのドアやケースの開閉情報を表示します。サーバアイコンが緑色の場合は、ドアまたはサーバのケースが閉じていることを示します。開いているときは黄色で表示されます。
ただし、サーバの種類によっては、ドアやケースの開閉情報はサポートしていない場合があります。

● 温度とファンの状態表示

ファンのアイコンにマウスポインタを合わせると、ファンの名称が表示されます。冗長ファンは重なったファンアイコンによって表示されます。
温度センサのステータスアイコンをクリックすると、温度の基本しきい値と現在の温度が図に表示されます。

重要

- **ステータスの判定には、サーバ（ハードウェア）が保持している基本しきい値が使用されます。パフォーマンスマネージャで設定したしきい値とは無関係です。**

ファンと温度センサのアイコンの色は、以下の状態を示します。

表：ファンと温度の状態

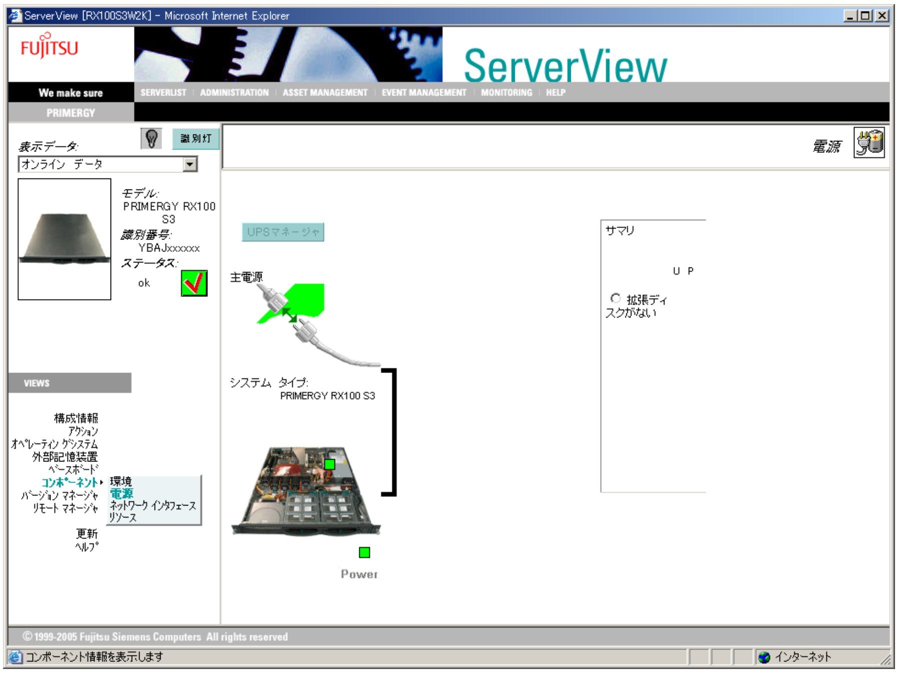
	シャットダウン	危険	OK	センサの故障	確認不可能
温度	赤色	黄色	緑色	青色	灰色
ファン	赤色	黄色	緑色	---	灰色

● サマリ

拡張記憶装置を選択すると、サーバ本体と同様にステータス表示されます。

■ 電源

［電源］をクリックすると、電源ステータス画面が表示されます。
ステータスにマウスポインタを合わせると電源の名称が表示されます。
電源が正常に動作している場合は、対応する電源上に緑色の四角が表示されます。
冗長電源は、重なり合う 2 つの四角で表示されます。



● 主電源

サーバと主電源の接続状態が表示されます。サーバに拡張記憶装置が接続されている場合には、その主電源も表示されます。
サーバや拡張記憶装置の主電源の異常は、黄色または赤色の四角で表示されます。
通常、電源状態は 60 秒ごとに更新されます。

● システムのタイプ

サーバの電源の全体的なステータスが、緑色、黄色、または赤色の四角で表示されます。

● 拡張ディスク装置

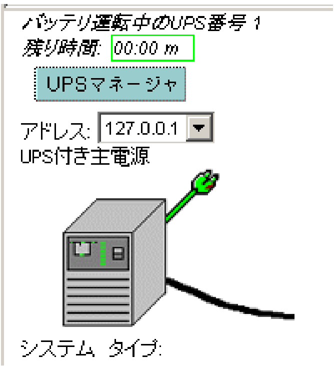
存在する拡張記憶装置が表示されます。BBU の設置もここで検出できます。拡張記憶装置内の電源の全体的なステータスが、緑色または赤色の四角で表示されます。

● サマリ

拡張記憶装置を選択すると、サーバ本体と同様にステータス表示されます。

● UPS マネージャ

UPS 接続設定が行われている場合は、［UPS マネージャ］ボタンが有効になります。



［UPS マネージャ］をクリックすると、Web ブラウザが起動し、アドレスに表示している IP アドレスの Web 画面が表示されます。Web 管理に対応しているネットワークマネジメントカードを使用している場合のみ使用可能です。UPS 接続設定方法については「4.4 UPS 管理ソフトウェア連携」（→ P.295）を参照してください。

POINT

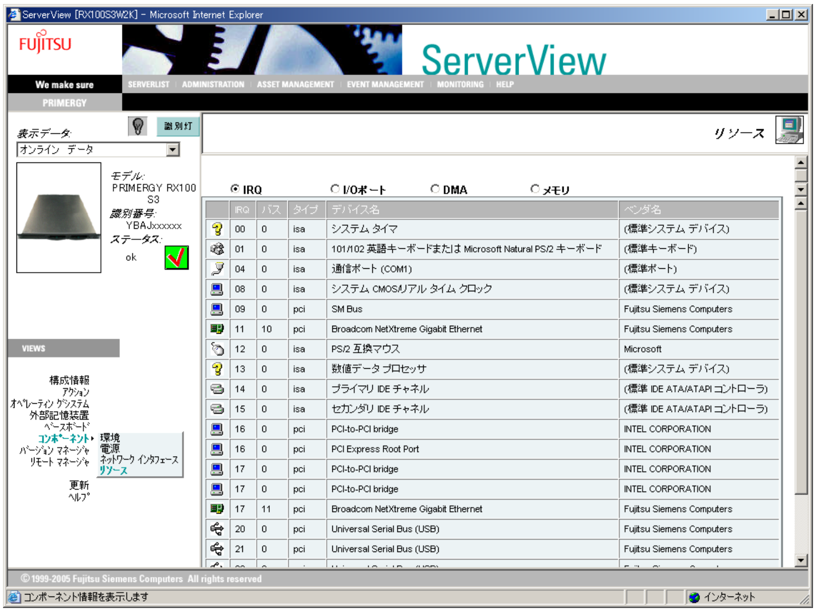
- UPS 管理ソフトウェアの管理コンソールは起動できません。
- アドレスに表示している IP アドレスの Web 画面が無条件に表示されます。
  Web 管理に対応しているネットワークマネジメントカードの IP アドレスの場合は、ネットワークマネジメントカードの管理画面を表示しますが、ネットワークマネジメントカード以外のサーバなどの IP アドレスの場合は、UPS と無関係の画面が表示されます。

■ ネットワーク インタフェース

［ネットワーク インタフェース］をクリックすると、「ネットワーク インタフェース」画面が表示され、サーバに搭載されているネットワーク インタフェースがリスト表示されます。リストから選択したネットワーク インタフェースの詳細情報、全体の統計量情報が表示されます。［更新］をクリックすると、統計量の情報が更新されて表示されます。

■ リソース

［リソース］をクリックすると、「リソース」画面が表示され、システム上のリソースが表示されます。IRQ、I/O ポート、DMA、メモリのそれぞれ項目について、バス、タイプ、デバイス名、ベンダ名が表示されます。

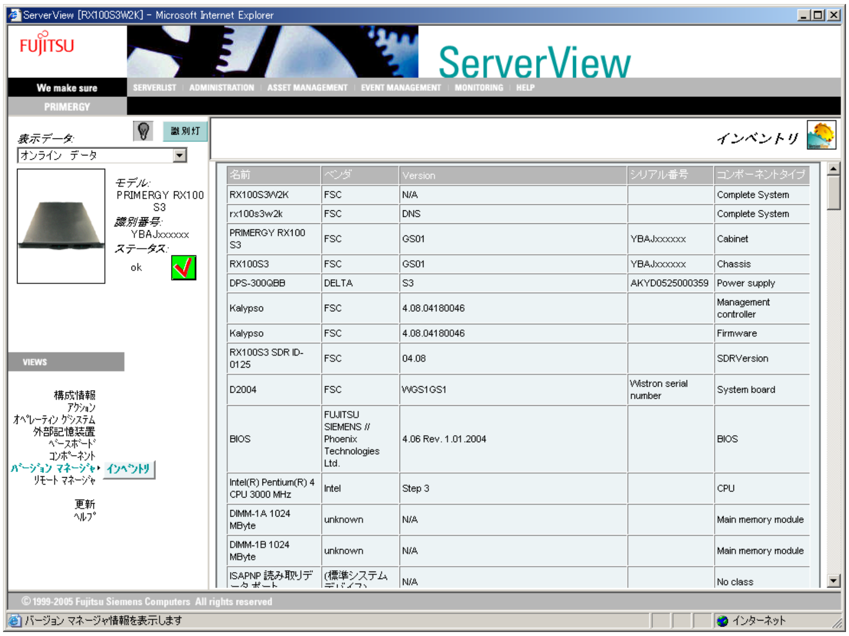


3

ServerView の使用方法

3.2.9 バージョンマネージャ（インベントリ）

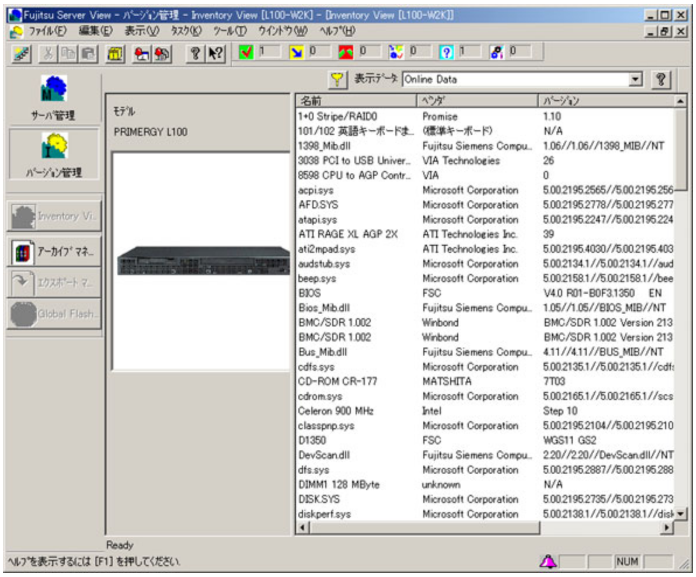
［インベントリ］をクリックすると、「インベントリ」画面が表示され、サーバのインベントリ情報（ハードウエア、ソフトウェアの構成情報）が表示されます。
それぞれのオブジェクトに対して、名前、ベンダ、Version、シリアル番号、コンポーネントタイプが表示されます。



POINT

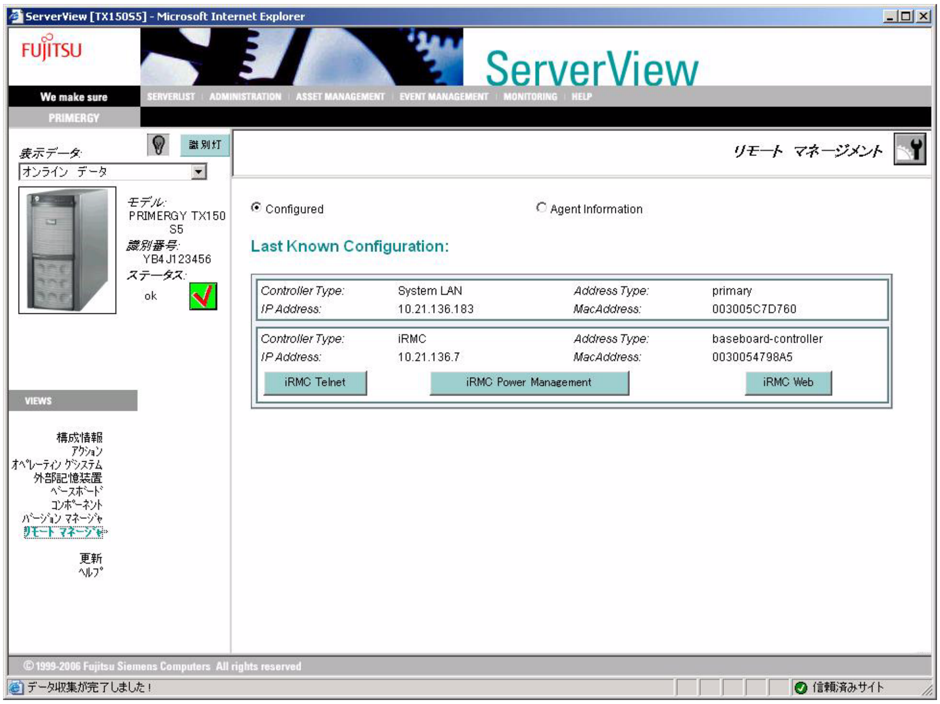
管理コンソールで起動した場合

- 「バージョン管理」モードでサーバを選択して［Inventory View］をクリックすると、「Inventory View」画面が表示されます。



3.2.10 リモートマネージャ

「リモートマネージャ」をクリックすると、「リモートマネジメント」画面が表示されます。この画面はサーバの機種、構成、設定などによって表示される項目が異なります。



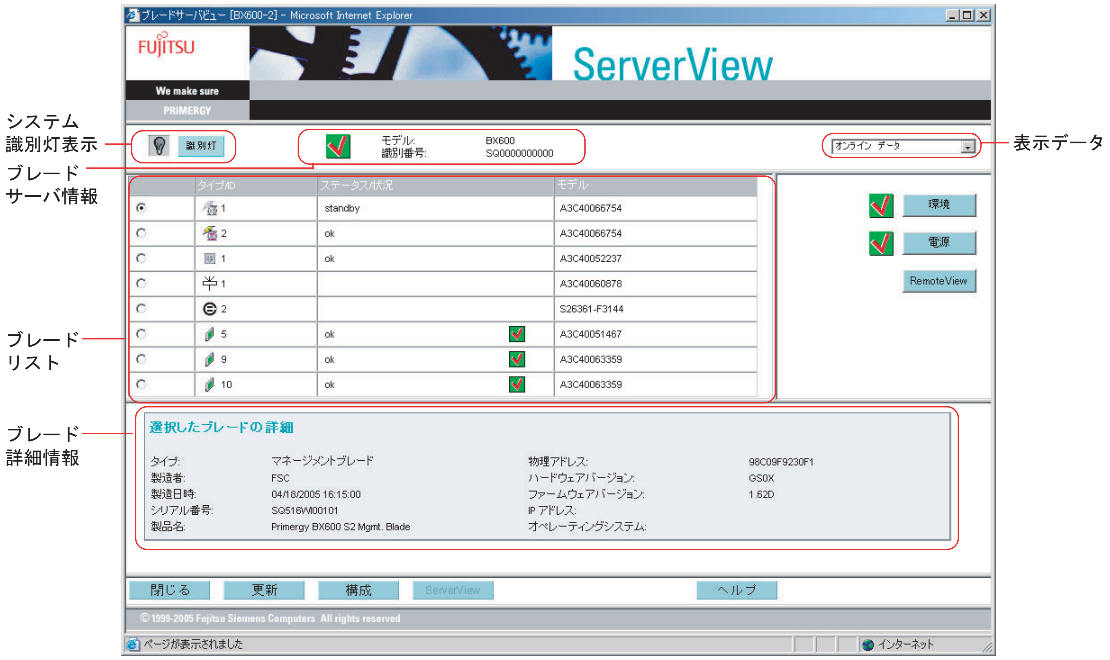
詳細は以下のいずれかを参照してください。

- 「5.3.2 RemoteControlService/Web の起動と終了（iRMC/BMC IPMI 接続）」（→ P.320）
- 「5.3.3 RemoteControlService/Web の起動と終了（RSB Telnet 接続）」（→ P.323）
- 「5.3.1 RemoteControlService/Web の起動と終了（iRMC Telnet 接続）」（→ P.317）

3.3　ブレードサーバの監視

ブレードサーバの状態を確認します。

サーバリストからブレードサーバをクリックすると、「ブレードサーバビュー［サーバ名］」画面が表示され、選択したブレードサーバの詳細情報が表示されます。



● システム識別灯表示

システム識別灯表示の切り替えができます。サーバがシステム識別灯表示をサポートしている場合のみ有効です。システム識別 LED の現在の状態がアイコンで表示されます。
次の 3 種類のアイコンがあります。

:点灯中

:消灯中

:点滅中（システム異常を示します）

● ブレードサーバ情報

ブレードサーバのステータス、モデル名、識別番号が表示されます。
ステータスはアイコン表示されます。アイコンの意味については、「■ サーバの状態表示（アイコン）」（→ P.104）を参照してください。
モデルには、マメネジメントブレードに設定したブレードサーバシステムの名前が表示されます。
識別番号には、ブレードサーバシステムの ID 番号が表示されます。

● 表示データ

オンラインデータか、アーカイブデータかを指定できます。オンラインデータは、リアルタイムのサーバ情報を表示します。アーカイブ データは作成日時のサーバ情報を表示します。

● ブレードリスト

ブレードサーバシステム内に存在する、すべてのブレードのテーブルが表示されます。
タイプ ID には、ブレード ID とブレードの種類がアイコンで表示されます。

：マネジメントブレード（マスタ）

：マネジメントブレード（スレーブ）

：スイッチブレード

：ファイバチャネル パススルーブレード

：LAN パススルーブレード

：KVM ブレード

：ファイバーチャネルスイッチブレード

：サーバブレード

● 操作ボタン

各コンポーネントの状態を確認するための以下の操作ボタンがあります。

重要

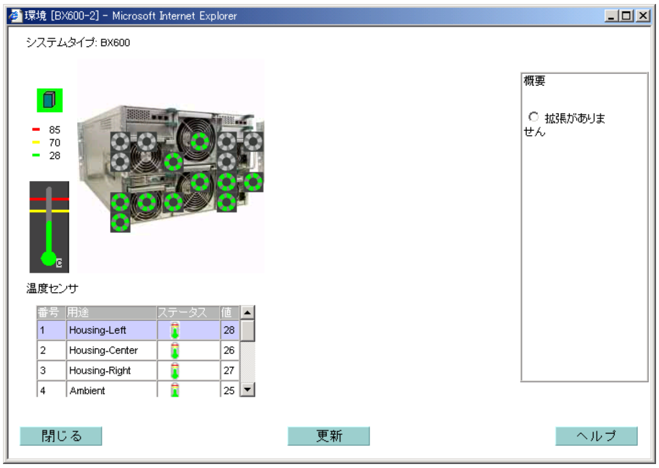
- **マネジメントブレード上でセキュリティが有効になっている場合、機能ボタンを操作するにはユーザログインが必要です。ユーザ名とパスワードの設定は、マネジメントブレードに Telnet または Web インターフェースで接続して設定します。**

表：ブレードサーバの状態

項目	説明
環境	環境サブシステム（ファン、温度）に関する状態が表示されます。 →「■ ブレードサーバの環境状態確認」（P.136）
電源	電源サブシステムに関する状態が表示されます。 →「■ ブレードサーバの電源状態確認」（P.137）
RemoteView	「RemoteConsoleService/Web」画面が表示されます。 →「5.3.4 RemoteControlService/Web の起動と終了（ManagementBlade 接続）」（P.325）
更新	画面に表示されている情報を最新の情報に更新します。
構成	マネジメントブレードまたはスイッチブレードを選択して、［構成］をクリックすると、各ブレードの設定画面が表示されます。各ブレードの設定画面については、マネジメントブレードまたはスイッチブレードのマニュアルを参照してください。 なお、サーバブレードを選択している場合は選択できません。
ServerView	サーバブレードを選択して［ServerView］をクリックすると、サーバの詳細監視画面が表示されます。サーバの監視画面については、「3.2.2 サーバの各監視項目の詳細確認」（→ P.108）を参照してください。 なお、マネジメントブレードまたはスイッチブレードを選択している場合、このボタンは無効です。
ヘルプ	各項目についてのヘルプが表示されます。

■ ブレードサーバの環境状態確認

［環境］をクリックすると、環境ステータス画面が表示されます。



● サーバアイコンの表示

サーバアイコンでは、サーバのドアやケースの開閉情報を表示します。サーバアイコンが緑色の場合は、ドアまたはサーバのケースが閉じていることを示します。開いているときは黄色で表示されます。
ただし、サーバの種類によっては、ドアやケースの開閉情報はサポートしていない場合があります。

● 温度とファンの状態表示

ファンのアイコンにマウスポインタを合わせると、ファンの名称が表示されます。冗長ファンは重なったファンアイコンによって表示されます。
温度センサのステータスアイコンをクリックすると、温度の基本しきい値と現在の温度が図に表示されます。

重要

- **ステータスの判定には、サーバ（ハードウェア）が保持している基本しきい値が使用されます。パフォーマンスマネージャで設定したしきい値とは無関係です。**

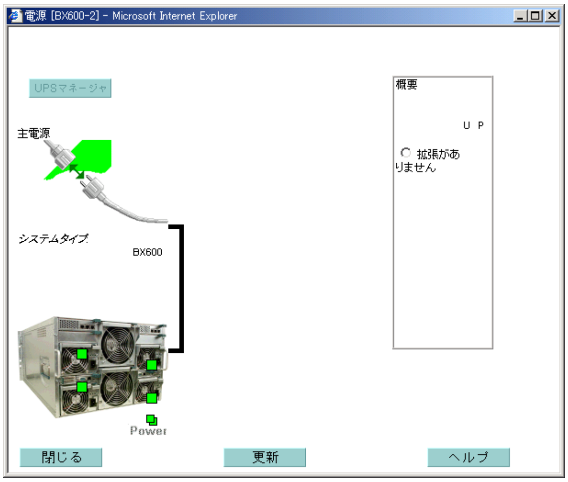
ファンと温度センサのアイコンの色は、以下の状態を示します。

表：ファンと温度の状態

対象	シャットダウン	危険	OK	センサの故障	確認不可能
温度	赤色	黄色	緑色	青色	灰色
ファン	赤色	黄色	緑色	---	灰色

■ ブレードサーバの電源状態確認

［電源］をクリックすると、電源ステータス画面が表示されます。
ステータスにマウスポインタを合わせると電源の名称が表示されます。
電源が正常に動作している場合は、対応する電源上に緑色の四角が表示されます。
冗長電源は、重なり合う 2 つの四角で表示されます。



● 主電源

サーバと主電源の接続状態が表示されます。サーバに拡張記憶装置が接続されている場合には、その主電源も表示されます。
サーバや拡張記憶装置の主電源の異常は、黄色または赤色の四角で表示されます。
通常、電源状態は 60 秒ごとに更新されます。

● システムタイプ

サーバの電源の全体的なステータスが、緑色、黄色、または赤色の四角で表示されます。

3.4 異常発生時の対処（ASR）

ASR（Automatic Server Reconfiguration & Restart）では、サーバに異常が発生した場合に、サーバが自動的に行う対処を設定します。

・ファンが故障したときの対応
・温度異常発生時の対応
・停電などの電源異常発生後のサーバの動作
・サーバの再起動に関する対応
・起動監視（BOOT ウォッチドッグ）、エージェント監視（ソフトウェアウォッチドッグ）の設定と対応
・Power ON/OFF のスケジューリング設定

POINT

異常発生時の対処例

- オーバヒートが発生したときに、サーバを自動的にシャットダウンし、一定の遅延時間のあと、自動的に再起動するように設定できます（温度異常発生時の対処）。
- SCSI ケーブル・デバイスに一時的な故障が発生した場合など、システム起動が正常にできなかった場合に、自動再起動するように設定できます（起動監視設定－システム起動から ServerView エージェントが利用可能となる前に異常発生時の対処）。

3.4.1 設定方法

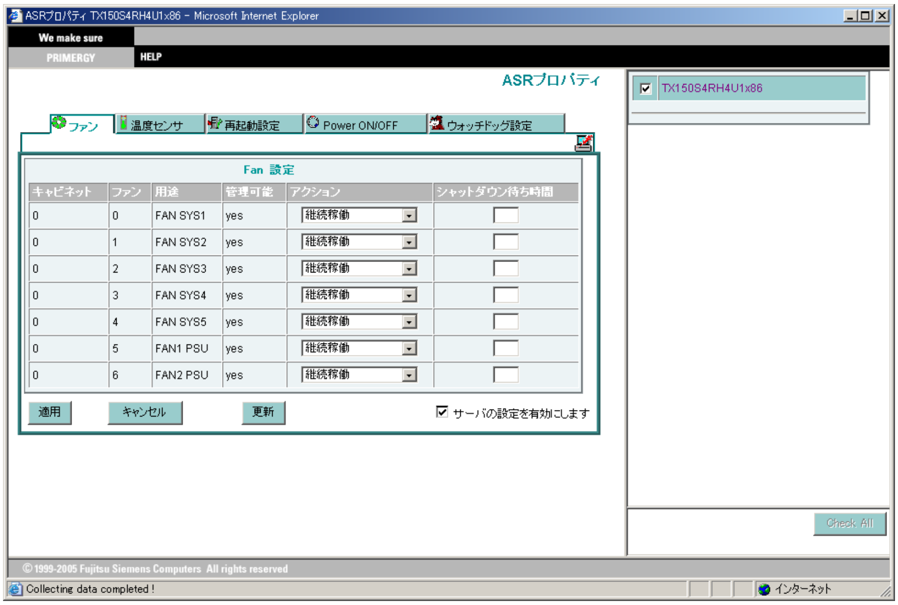
ServerView S2 を使用した場合も、管理コンソールを使用した場合も機能は同一ですが、表示される画面の項目名などが一部異なります。ここでは、ServerView S2 で操作した場合の画面を例に説明します。

重要

- すべての設定が、すべてのサーバでサポートされるわけではありません。サーバを選択し、1 つまたは複数のフィールドが「N/A」に設定されていることが確認された場合、それらのパラメータはサポートされていません。
- ASR 機能の設定内容は、サーバの BIOS 設定に書き込まれます。
誤った設定を行うとシステムが起動しなくなる場合があります。よくご確認のうえ設定を行ってください。
- ASR 機能の設定をしたまま ServerView をアンインストールした場合、予期せぬ原因でサーバがシャットダウンされることがあります。ご注意ください。
- ファン／温度センサの状態は、サーバ本体（ハードウェア）が保持している基本しきい値の範囲を超えた場合に異常状態となります。基本しきい値はパフォーマンスマネージャ、またはしきい値マネージャで設定されるしきい値とは無関係です。

1　設定を行うサーバを右クリックし、表示されたメニューから「ASR のプロパティ」をクリックします。

「ASR プロパティ」画面が表示されます。

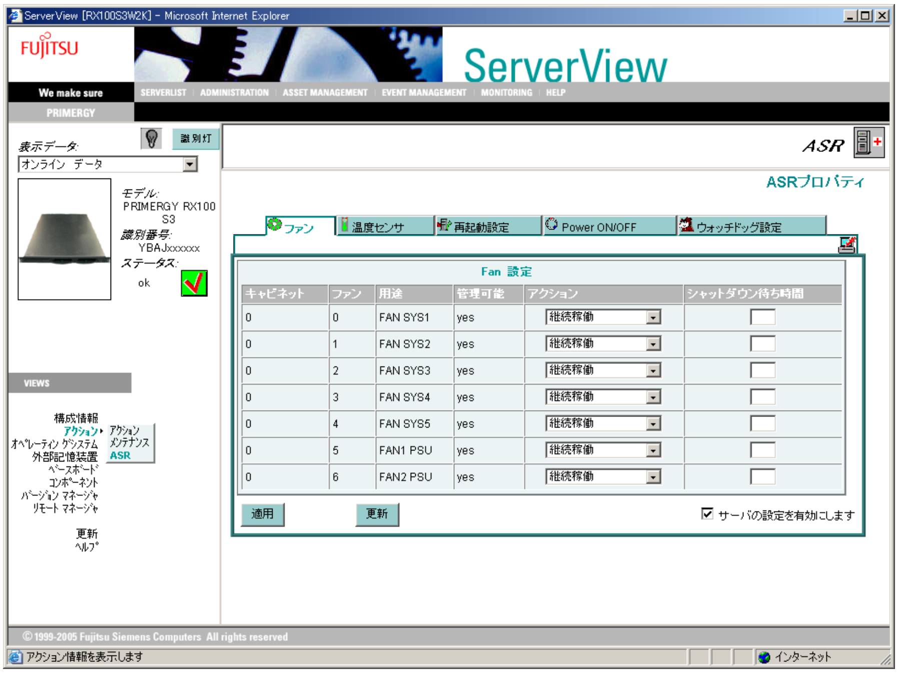


POINT

- 画面の右下隅に［サーバの設定を有効にします］チェックボックスがあります（管理コンソール画面では「有効」）。サーバの設定が変更可能である場合はこのチェックボックスはチェックされています。チェックボックスがチェックされていない場合は、サーバの設定が変更できない状態であることを意味します。

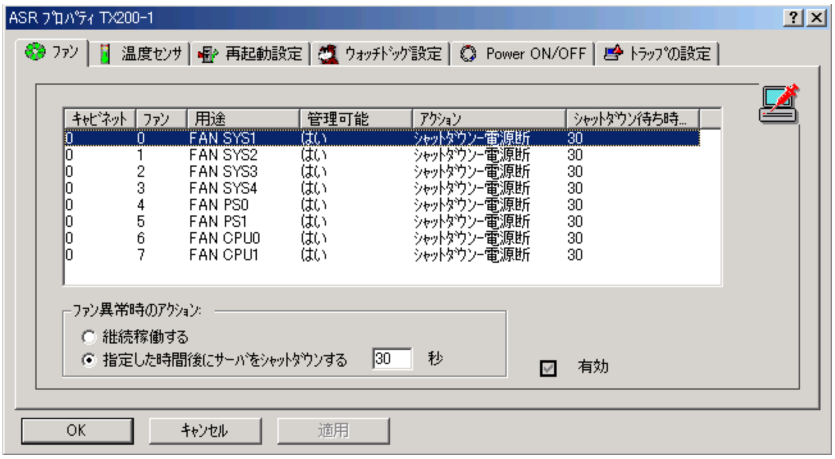
ServerView S2 の画面

ServerViewS2 のサーバ管理画面 から、「アクション」→「ASR」をクリックすると、以下の ASR 画面が表示されます。



管理コンソールの画面

管理コンソール上のサーバを選択し、右クリックして表示されたメニューから「ASR のプロパティ 」をクリックすると、以下の ASR プロパティ画面が表示されます。



2 設定を行うタブをクリックし、各項目を設定します。

タブには、以下の種類があります。各タブで行う設定項目の詳細については、それぞれ以下を参照してください。

- ［ファン］タブ（→ P.141）
- ［温度センサ］タブ（→ P.142）
- ［再起動設定］タブ（→ P.142）
- ［Power ON/OFF］タブ（→ P.143）
- ［ウォッチドッグ設定］タブ（→ P.144）
- ［トラップの設定］タブ（→ P.145）

POINT

- ASR が記憶媒体や、サーバの運用ステータスにおいて深刻な状況（CPU エラー、メモリエラー、OS のハングなど）を検出すると、システムが再起動され、問題のあるハードウェアコンポーネントは再起動中に使用不可能になります。

■［ファン］タブ

ファンの障害時に実行する対応を設定します。
ファンごとに「ファン異常時のアクション」を指定します。

表：［ファン］タブ

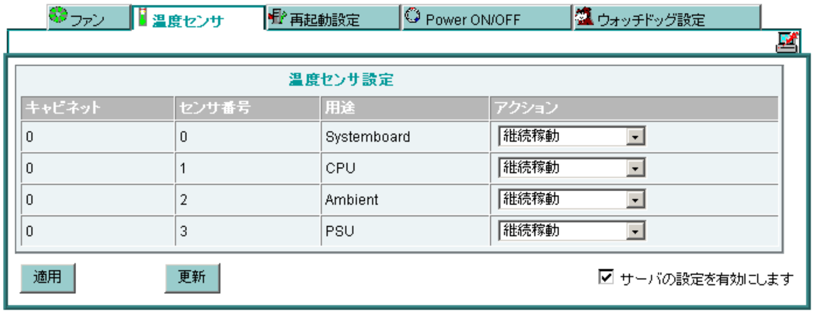
項目	説明
継続稼動	ファン異常の検知後もサーバは継続稼動します。
シャットダウン - 電源断	サーバは一定の遅延時間のあとにシャットダウンします。遅延時間は秒単位で指定してください。

重要

- 冗長ファンを搭載しているサーバでは、冗長を構成する両方の FAN に同じ ASR 設定を行ってください。OS シャットダウンは、ファンが両方故障した場合に開始します。
  冗長ファンの搭載有無や組み合わせについては、サーバに添付の『ユーザーズガイド』を参照してください。
- 拡張ディスク装置を接続すると、拡張ディスク内のファン情報が表示され、「シャットダウン - 電源断」が選択されている場合がありますが、自動シャットダウンを行うことはできません。

■［温度センサ］タブ

高温異常時の対応を設定します。監視温度センサごとに「アクション」を設定します。



表：［温度センサ］タブ

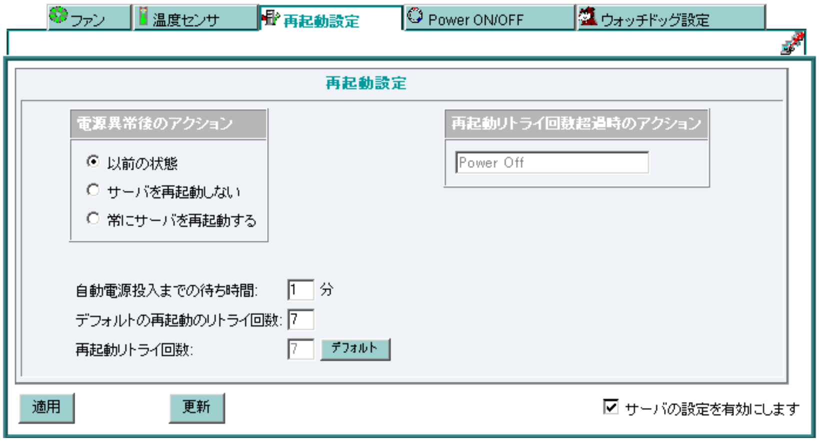
項目	説明
継続稼動	高温異常の検知後もサーバは継続稼動します。
シャットダウン - 電源断	温度が危険な値に達すると、即座にシャットダウンします。

重要

- 拡張ディスク装置を接続すると、拡張ディスク内の温度センサ情報が表示され、「シャットダウン - 電源断」が選択されている場合がありますが、自動シャットダウンを行うことはできません。

■［再起動設定］タブ

電源異常後の動作と、サーバの再起動に関する対応を設定します。



表：［再起動設定］タブ

項目	説明
電源異常後のアクション	電源異常後、復電時の起動設定を選択します。 ・以前の状態 ・サーバを再起動しない ・常にサーバを再起動する
再起動リトライ回数超過時のアクション	最大リトライ回数を超過した場合の処理について、BIOS で設定されている値が表示されます。
自動電源投入までの待ち時間	1 ～ 30 分までの範囲で設定します。
デフォルトの再起動のリトライ回数	0 ～ 7 の範囲で設定します。
再起動リトライ回数	現在のサーバの再起動リトライ回数値が表示されます。「デフォルト」ボタンを押すことで「デフォルトの再起動のリトライ回数」で設定したデフォルト値になります。

重要

- UPS による復電、またはスケジュール運転を行う場合、サーバに自動的に電源を入れるためには、設定内容が制限される場合があります（「● UPS 使用時の注意事項」（→ P.521）参照）。

■［Power ON/OFF］タブ

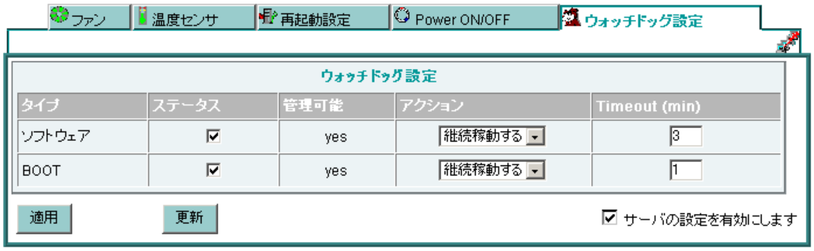
曜日ごとに、サーバの起動時間／終了時間を設定できます。
たとえば、週末にはサーバをシャットダウンして、月曜に再起動することができます。ただし、サーバの機種によっては設定できない場合があります。

重要

- この設定はスケジューリングを行うサーバの BIOS 設定に書き込まれます。ServerView をサーバからアンインストールする前に、必ずスケジューリングを無効にしてください。
無効にせずに ServerView をアンインストールした場合は、予期せぬ時間にサーバがシャットダウンされることがあります。
- サーバにリモートサービスボード (PG-RSB101) が搭載されている場合、リモートサービスボードの Web インターフェースからもスケジューリング設定を行うことができますが、リモートサービスボードを経由するスケジュール Power ON/OFF 設定は必ず ServerView エージェントが正常に稼動しているときに実行してください。サーバの電源が入っていない時など、ServerView エージェントが稼動していない場合にスケジュール Power ON/OFF 設定を行うと、設定の反映が行われず予期しない動作が発生する場合があります。

■［ウォッチドッグ設定］タブ

ソフトウェアウォッチドッグ監視、および BOOT ウォッチドッグ監視の設定を行います。
「管理可能」が「yes」になっている機能を設定できます。



● ソフトウェアウォッチドッグ（エージェント監視）

ソフトウェアウォッチドッグは ServerView エージェントの状態を監視し続けます。
ServerView エージェントからの無応答状態が、設定されたタイムアウト時間を超えた場合に設定されたアクションが実行されます。
ソフトウェアウォッチドッグを有効にする場合は、「ソフトウェア」項目の「ステータス」にチェックを付け、「Timeout (min)」にタイムアウトまでの待ち時間を 1 〜 120 分の範囲で設定します。
また、待ち時間を超過した場合の「アクション」を以下から選択し、設定します。

- 継続稼動する
- 再起動する
- Off/On する

POINT

- 何らかの理由で ServerView エージェントを手動で停止する場合、または ServerView のアンインストールを行うときなどは、本設定を解除する必要があります。

● BOOT ウォッチドッグ（起動監視）

BOOT ウォッチドッグはサーバの起動フェーズを監視します。「サーバ電源投入」から「ServerView エージェントが正常に応答する」までの時間が、設定されたタイムアウト時間を超えた場合に設定されたアクションが実行されます。

BOOT ウォッチドッグを有効にする場合は、「BOOT」項目の「ステータス」にチェックを付け、「Timeout (min)」にタイムアウトまでの待ち時間を 1 ～ 120 分の範囲で設定します。
また、待ち時間を超過した場合の「アクション」を以下から選択し、設定します。
継続稼動する
- 再起動する
- Off/On する

POINT

- 本設定を行うためには、あらかじめそのシステムが通常どの程度の時間で起動を完了するかを知っておく必要があります。

■［トラップの設定］タブ（管理コンソールのみ）

指定したサーバのトラップの有効、無効を設定できます。有効に設定したトラップは、サーバがそのシステムでエラーを検出し、このエラーに対してトラップが定義されている場合、サーバから管理コンソールにトラップが送信されます。無効に設定したトラップは送信されません。

重要

- このタブでは監視対象サーバが Windows の場合のみトラップの一覧が表示されます。

3.5 アラームサービス

アラームサービスは、ServerView エージェントが異常を検出した場合に送信するアラーム（SNMP トラップ）を受信し、あらかじめ設定しておいた管理者への通知方法に従って、リアルタイムに通知を行います。
アラームサービスは、「アラームモニタ」、「アラームマネージャ」、「アラームアクション（設定）」機能があります。

■ アラームについて

ServerView エージェントはサーバ上のイベントごとに ServerView S2 に対してアラームを送信します。アラームは「サーバの運用上に極めて重大な影響を及ぼす」ものから「単なるサーバの情報」に至るまで多岐にわたります。
各アラームには管理上の目安として重要度が設定されています。本機能はサーバ管理上、注目すべきイベントを見逃さずに適切な対処を行うことを目的としています。例として以下のような動作が考えられます。

- 設定したイベントが発生した場合に管理者に対してメール／ポップアップなどを自動送信し、注意／対処を促す。
- 設定したイベントが発生した場合にサーバ上で特定のプログラムを自動実行させる。

サーバ監視プログラムや OS からの SNMP トラップを受信し、そのデータをイベントログ格納、ポップアップメッセージ表示、または他のサーバやクライアントへの転送処理を行います。アラームサービスの各種機能を設定することにより、異常の発生をシステム管理者に効率良く通知することができます。

■ アラームサービスの起動

1 Web ブラウザを起動します。

2 次のいずれかの URL を入力し、【Enter】キーを押します。

IIS または Linux を使用している場合

http://< サーバ名またはサーバの IP アドレス >/AlarmService.htm

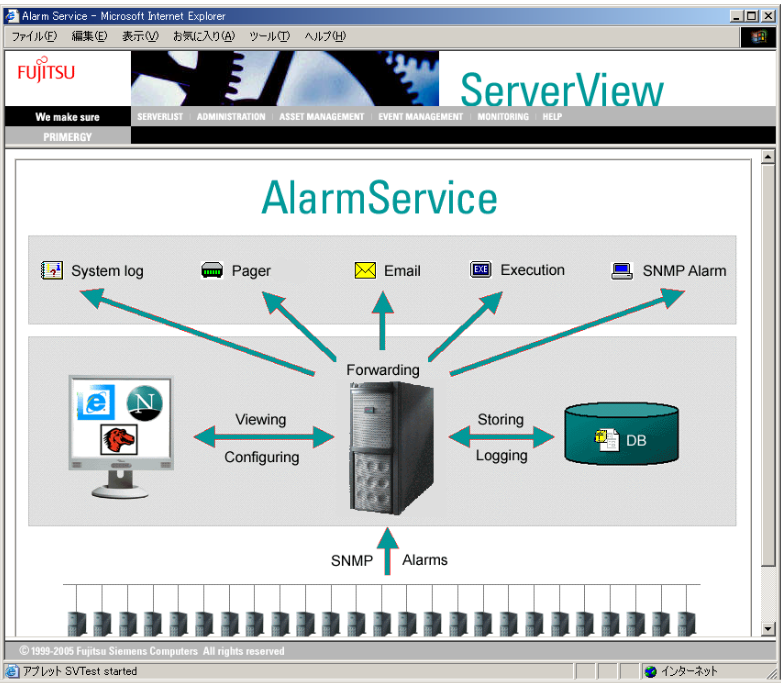
ServerView Web-Server を使用している場合（通常の接続）

http://< サーバ名またはサーバの IP アドレス >:3169/AlarmService.htm

ServerView Web-Server を使用している場合（SSL 接続）

https://< サーバ名またはサーバの IP アドレス >:3170/AlarmService.htm

アラームサービスの画面が表示されます。



3.5.1 アラームモニタ

アラームモニタは、受信したアラーム（SNMP トラップ）を受信順に表示します。

1 ServerView S2 のメニューから「EVENT MANAGEMENT」→「ALARM MONITOR」をクリックします。

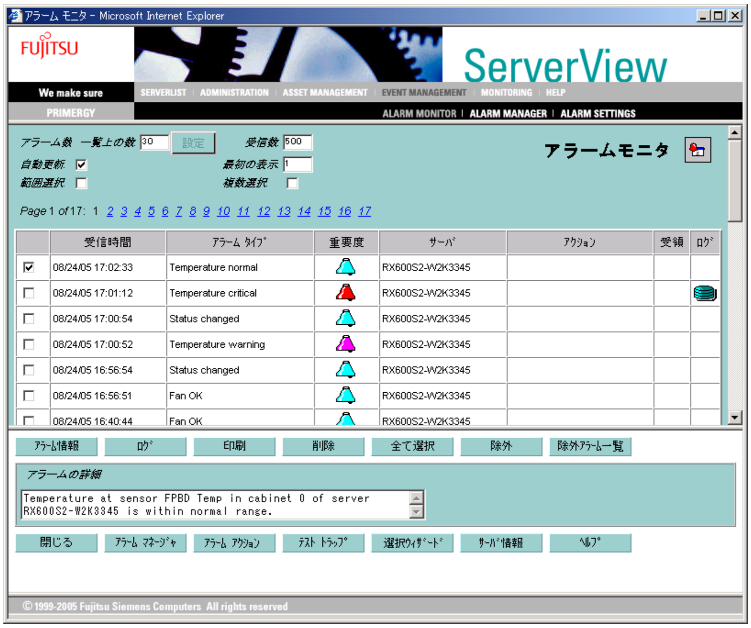
<u>管理コンソールから起動する場合</u>

「アラーム」メニュー →「モニタ」の順にクリックします。

<u>ServerView が起動していない場合</u>

「スタート」ボタン→「プログラム」→「Fujitsu AlarmService」→「Alarm Service」の順にクリックすると「Alarm Service」画面が表示されます。「EVENT MANAGEMENT」→「ALARM MONITOR」をクリックします。

「アラームモニタ」画面が表示されます。



表：アラームモニタ画面の説明

項目	説明
アラーム数一覧上の数	アラームモニタ画面の一覧に表示されているアラーム数が表示されます。 ［設定］をクリックして 1 ページに表示されるアラーム数を設定できます。デフォルトでは「30」、最小では「10」です。「all」を指定すると、受信したすべてのアラームが表示されます。
受信数	アラームモニタが受信したアラームの数です。
自動更新	チェックが付いている場合、新しいアラームを受信すると、アラームモニタ画面を自動的に更新します。チェックが付いていない場合は自動的に更新されません。「受信数」の数値のみ更新されます。
範囲選択	アラームを範囲選択する場合にチェックします。 以下の手順で選択します。 範囲選択の始点をクリック後「範囲選択」にチェックを付け、範囲選択の終点をクリックします。
複数選択	チェックを付けると、複数のアラームを選択できます。
受信時間	アラームが受信された時間が表示されます。
アラームタイプ	アラームの種類が表示されます。
重要度	アラームの重要度が以下のアラーム受信アイコンで表示されます。 （赤色）:危険　 （ピンク色）:重度 （黄色）:軽度　 （青色）:情報 （白色）:不明
サーバ	サーバ名が表示されます。
アクション	アラーム受信時のアクションが表示されます。 アクションは「アラーム設定」の「アクションの作成／編集」画面で設定します。

表：アラームモニタ画面の説明

項目	説明
受領	アラームが受領されると、アイコンが表示されます。
ログ	アラームがアラームマネージャに出力されると、アイコンが表示されます。
アラームの詳細	選択したアラームの詳細メッセージが表示されます。

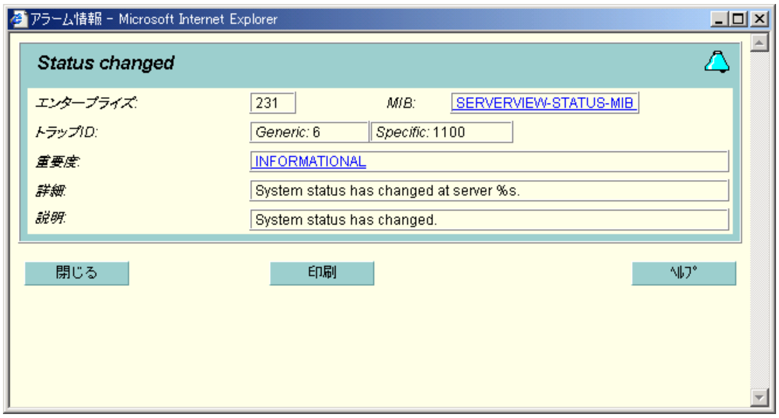
2 操作対象のアラームにチェックを付け、以下の操作を行います。

表：アラームの操作

機能ボタン	説明
アラーム情報	アラームに関する詳細情報を表示します。詳細は「■［アラーム情報］ボタン」（→ P.150）を参照してください。
ログ	選択したアラームをアラームマネージャに出力します。詳細は「■［ログ］ボタン」（→ P.150）を参照してください。
印刷	選択したアラームを印刷します。
削除	選択したアラームをアラーム一覧から削除します。
全て選択	すべてのアラームを選択します。
除外	選択したアラームをサーバから除外します。除外指定したアラームは一覧から削除され、同様の着信アラームも一覧に追加されなくなります。サーバが正しく機能せずに、アラームであふれるような場合に使用します。詳細は「■［除外］ボタン／［除外アラーム一覧］ボタン」（→ P.150）を参照してください。
除外アラーム一覧	除外されたアラームの一覧を表示します。また、除外アラームの解除を行います。詳細は「■［除外］ボタン／［除外アラーム一覧］ボタン」（→ P.150）を参照してください。
閉じる	アラームモニタ画面を閉じます。
アラームマネージャ	アラームマネージャを起動します。詳細は「3.5.2 アラームマネージャ」（→ P.154）を参照してください。
アラームアクション	「共通設定」画面が表示されます。アラーム設定を編集できます。詳細は「3.5.3 アラーム設定」（→ P.156）を参照してください。
テストトラップ	トラップの送信テストを行います。詳細は「■［テストトラップ］ボタン」（→ P.151）を参照してください。
選択ウィザード	複数台のサーバのアラームを 1 つのアラームモニタで管理する場合など、多くのアラームの中から参照／選択したいアラームの条件を設定して抽出します。詳細は「■［選択ウィザード］ボタン」（→ P.153）を参照してください。
サーバ情報	選択したサーバの情報画面が表示され、サーバ情報を確認できます。
ヘルプ	「アラームモニタに関するヘルプ」が表示されます。

■［アラーム情報］ボタン

アラームを一覧から選択し、［アラーム情報］をクリックすると、「アラーム情報」画面が表示されます。アラーム名、エンタープライズ、MIB、トラップ ID、重要度、説明、詳細がそれぞれ表示されます。MIB と重要度の項目はリンクされており、「MIB のアラーム一覧」と「重要度のヘルプ」がそれぞれ表示されます。



■［ログ］ボタン

アラームを一覧から選択して［ログ］をクリックすると、アラームの重要度に関係なく「アラームマネージャ」に追加されます（デフォルトの設定では重要度「危険」のアラームのみが自動的に「アラームマネージャ」に追加されます）。

「アラームマネージャ」に追加されたアラームには、「ログ」欄に アイコンが表示されます。「アラームマネージャ」には［アラーム受領］ボタンがあり、「アラームマネージャ」でアラームを受領すると アイコンが付加されます。「アラーム受領」アイコンはアラームモニタにも反映され、「受領」欄に同じアイコンが表示されます。

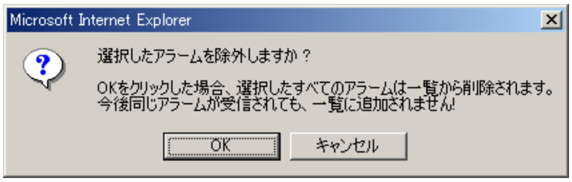
POINT

- アラームのログ／受領は下記のような使用方法を想定しています。
  「アラームマネージャ」上に出力されたアラームに対応する「何らかの異常」は、すべて管理者の「何らかの対応」を必要とします。管理者はこれらの「何らかの異常」に対応を行ったしるしとして「受領」を行います。対応の重複を避けるため、「受領」はアラームモニタにも反映されます。

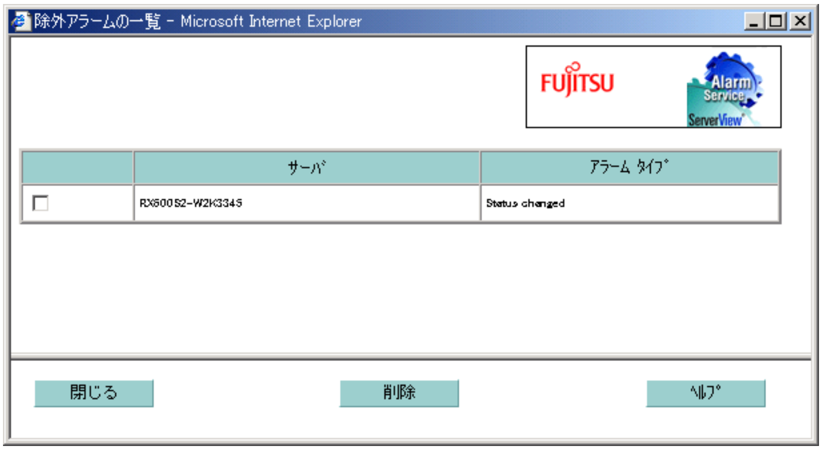
■［除外］ボタン／［除外アラーム一覧］ボタン

アラームを一覧から選択して［除外］をクリックすると、選択したアラームの削除確認画面が表示されます。

［OK］をクリックすると、選択したアラームがアラームモニタから除外されます。



除外したアラーム（同じサーバからの同じアラーム）は一覧から削除され、除外を解除するまで同様の着信アラームも一覧に追加されなくなります。サーバが正しく機能しないために、システムがアラームであふれるような場合に使用します。除外されたアラームは以下のように「除外アラームの一覧」に登録されます。「除外アラームの一覧」は、［除外アラーム一覧］をクリックすると表示されます。



除外されたアラームは「サーバ」と「アラームタイプ」の 2 つの要素で管理され、これに一致するアラームはアラームモニタから削除され、以降の新規の受信も表示されません。「除外アラームの一覧」からアラーム選択し、［削除］をクリックするとアラームの除外を解除することができます。

POINT

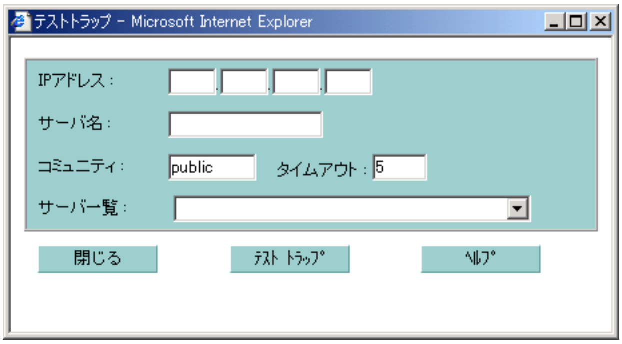
- サーバの起動時に、RAIDManager や EthernetCard などにより、起動通知（例：RFC1157LinkUP）として、アラーム（SNMP トラップ）が送信される場合があります。これらのトラップを抑止する場合は、アラームの除外設定を行ってください。なお、この抑止機能は、サーバ単位に設定が必要です。複数のサーバを監視している場合は、サーバごとにアラーム機能を使用して本設定を行ってください。

■［テストトラップ］ボタン

サーバに対してテストトラップを送信し、サーバからのアラームが正常に送受信されるかどうかを確認できます。

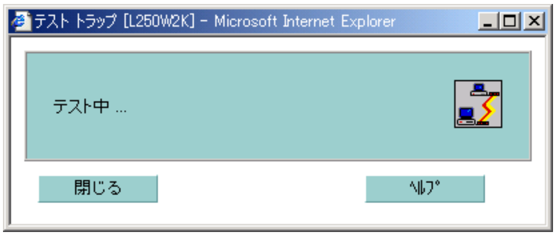
1　**［テストトラップ］をクリックします。**

「テストトラップ」画面が表示されます。



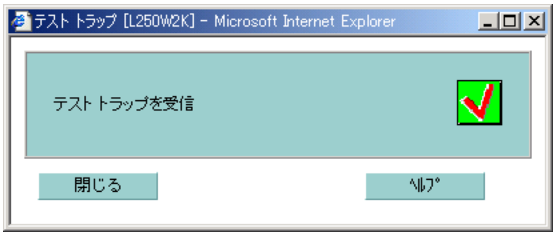
2 **「サーバ一覧」からテストトラップを実行するサーバを選択するか、IP アドレスを入力し、［テストトラップ］を実行します。**

テストトラップが実行され、以下の画面が表示されます。



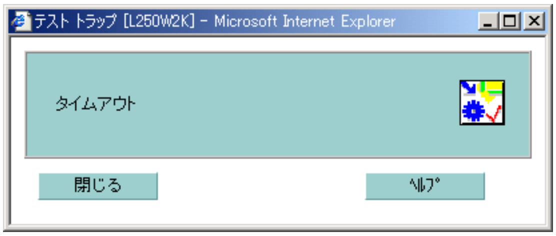
正常に送受信された場合

テストトラップが正常に送受信された場合は、以下のような表示になります。



正常に送受信されなかった場合

何らかの原因でテストトラップが正常に送受信されなかった場合は、以下のような表示になります。

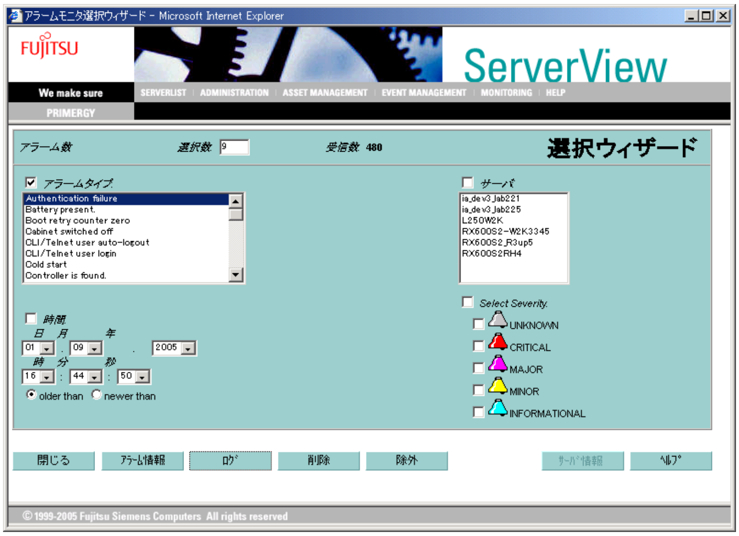


正常に送受信されなかった場合は、以下の点について確認してください。

- SNMP コミュニティ名がサーバ側の SNMP 設定（Windows の場合は SNMP サービスのプロパティ、Red Hat Linux の場合は /etc/snmp/snmpd.conf、SUSE Linux の場合は /etc/snmpd.conf）と、コンソール側（ServerView S2）で一致しているかどうか。
- サーバ側の SNMP 設定で「送信先」（Destination）にコンソール側の IP アドレス（または DNS 名）が指定されているかどうか。
- コンソール側の SNMP 設定でサーバ側の IP アドレスからの受信を受け付けているかどうか。

■［選択ウィザード］ボタン

複数台のサーバのアラームを 1 つのアラームモニタで管理する場合など、多くのアラームの中から参照／選択したいアラームを探す場合に便利です。



アラームタイプ、時間、サーバ、アラームの重要度の 4 つの項目の組み合わせから、選択したいアラームを抽出します。条件に適合するアラームの数が「選択数」に表示されます。選択したアラームに対して［アラーム情報］、［ログ］、［削除］、［除外］の各機能ボタンを実行できます。

3.5.2 アラームマネージャ

アラームの編集、管理を行います。

1 ServerView S2 のメニューから「EVENT MANAGEMENT」→「ALARM MANAGER」をクリックします。

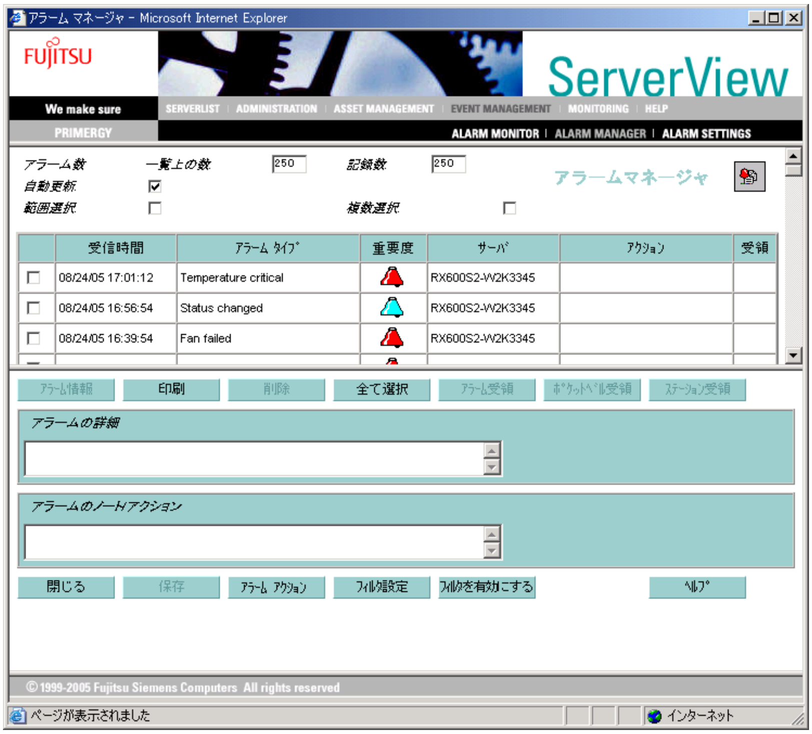
管理コンソールから起動する場合

「アラーム」メニュー →「マネージャ」の順にクリックします。

ServerView が起動していない場合

「スタート」ボタン→「プログラム」→「Fujitsu AlarmService」→「Alarm Service」の順にクリックすると「Alarm Service」画面が表示されます。「EVENT MANAGEMENT」→「ALARM MANAGER」をクリックします。

「アラームマネージャ」画面が表示されます。



表：アラームマネージャ画面の説明

項目	説明
アラーム数　一覧上の数	アラームマネージャ画面の一覧に表示されているアラーム数が表示されます。
記録数	アラームログデータベースに記録されたアラームの数です。
自動更新	チェックが付いている場合、新しいアラームを受信すると、アラームマネージャ画面を自動的に更新します。チェックが付いていない場合は自動的に更新されません。「受信数」の数値のみ更新されます。
範囲選択	アラームを範囲選択します。範囲選択の始点をクリック後「範囲選択」にチェックを付け、範囲選択の終点をクリックします。
複数選択	チェックを付けると、複数のアラームを選択できます。
受信時間	アラームを受信した時間が表示されます。
アラームタイプ	アラームの種類が表示されます。
重要度	アラームの重要度が以下のアラーム受信アイコンで表示されます。 (赤色):危険　 (ピンク色):重度 (黄色):軽度　 (青色):情報 (白色):不明
サーバ	サーバ名が表示されます。
アクション	アラーム受信時のアクションが表示されます。 アクションは「アラーム設定」の「アクションの作成／編集」画面で設定します。
受領	アラームが受領されるとアイコンが表示されます。
アラームの詳細	選択したアラームの詳細メッセージが表示されます。
アラームのノート / アクション	選択したアラームに詳細情報などの短い説明文を入力できます。

2 操作対象のアラームにチェックを付け、以下の操作を行います。

表：アラームの操作

機能ボタン	説明
アラーム情報	アラームに関する詳細情報を表示します。
印刷	選択したアラームを印刷します。
削除	選択した受領済みのアラームをすべて削除します。
全て選択	すべてのアラームを選択します。
アラーム受領	選択したアラームを受領します。受領すると、アラーム一覧に受領アイコンが表示されます。
ポケットベル受領	選択したポケットベル呼び出しアクションを受領します。受領すると、アラーム一覧に受領アイコンが表示されます。
ステーション受領	選択したステーション転送アクションを受領します。受領すると、アラーム一覧に受領アイコンが表示されます。
保存	「アラームのノート / アクション」に入力した内容を保存します。
アラームアクション	「共通設定」画面が表示されます。アラームの設定内容を確認または編集します。

表：アラームの操作

機能ボタン	説明
フィルタ設定	管理上の利便性のために、表示するアラームにフィルタを設定できます。詳細は「■［フィルタ設定］ボタン」（→ P.156）を参照してください。
フィルタを有効にする	アラームのフィルタ設定を有効または無効にします。
ヘルプ	アラームマネージャのヘルプを表示します。
閉じる	アラームマネージャ画面を閉じます。

■［フィルタ設定］ボタン

［フィルタ設定］をクリックすると、以下の「アラームフィルタ設定」画面が開きます。

サーバの選択、アラームの重要度、アクションの実行状態、時間、ポケットベル転送、ステーション転送の 6 つの要素の組み合わせからフィルタ設定を定義します。

3.5.3 アラーム設定

アラームに関連する設定を行います。「アラームグループ」、「アラームアクション」の作成と編集を行います。

重要

- ブレードサーバに対してアラーム設定を行う場合、搭載されている個々のブレードはサーバリスト上で単一のサーバとして登録されている必要があります。

■ アラーム設定の起動

1 ServerView S2 のメニューから「EVENT MANAGEMENT」→「ALARM SETTINGS」をクリックします。

管理コンソールから起動する場合

「アラーム」メニュー →「設定」の順にクリックします。

ServerView が起動していない場合

「スタート」ボタン→「プログラム」→「Fujitsu AlarmService」→「Alarm Service」の順にクリックすると「Alarm Service」画面が表示されます。「EVENT MANAGEMENT」→「ALARM SETTINGS」をクリックします。

「アラーム設定」画面が表示されます。

2 アラーム設定を行います。

アラーム設定は「■ 共通設定」（→ P.158）、「■ サーバのフィルタ」（→ P.161）、「■ アラームグループの作成 / 編集」（→ P.161）、「■ アクション設定の作成／編集」（→ P.164）、「■ 全設定の表示」（→ P.180）の 5 つの設定から構成されています。

「ウィザード」を使用すると、5 つの設定画面が順に実行されます。

「直接選択」から各設定を選んで［次へ］をクリックすると、直接各画面が表示されます。各画面には以下の機能ボタンがあります。

表：ボタンの説明

ボタン	説明
次へ	次の設定画面に移行します。現在の画面の設定が未適用の場合は警告メッセージが表示されます。
戻る	1 画面前の設定画面に戻ります。現在の画面の設定が未適用の場合は警告メッセージが表示されます。
適用	現在の画面の設定を適用します。
削除	アラームグループやアクションを削除します。
終了	設定を終了し、アラーム設定の初期画面に戻ります。現在の画面の設定が未適用の場合は警告メッセージが表示されます。初期画面で「終了」をクリックすると、アラーム設定を終了します。
印刷プレビュー	印刷プレビュー画面が表示されます。
ヘルプ	アラーム設定のヘルプが表示されます。

■ 共通設定

「共通設定」画面には［フィルタの設定］、［アラームの削除］、［アラームのアクション］、［アラームマネージャ］、［デフォルトアクション］の 5 つのタブがあります。

● ［フィルタの設定］タブ

受信するアラームのフィルタを設定します。

表：各項目の説明

項目	説明
フィルタリング間隔	このフィルタは「同一のアラームが殺到すること」の抑止を目的としています。同じサーバから同じアラームが複数回発信され、その時間間隔が本設定値以下の場合、フィルタが有効となります。時間間隔はアラームの重要度が下がるほど大きくなり、「各重要度毎のフィルタリング間隔＝フィルタリング間隔の設定値×重要度」となります。値「０」は、無限（時間制限なし）を意味します。
不明なアラームを除外	チェックを付けると、不明アラームはフィルタを通過できなくなります。
不明なサーバを除外	チェックを付けると、不明サーバからのアラームはフィルタを通過できなくなります。
重要度 2（重度）を除外	チェックを付けると、重要度２のアラームはフィルタを通過できなくなります。
重要度 3（軽度）を除外	チェックを付けると、重要度 3 のアラームはフィルタを通過できなくなります。
重要度 4（情報）を除外	チェックを付けると、重要度 4 のアラームはフィルタを通過できなくなります。

●［アラームの削除］タブ

一定の条件を超えたアラームを自動的に削除します。
アラームがログされた時点から設定した時間（日単位）が経過するか、または、エントリ数が設定値（個数）に達すると、ログ時間の一番古いアラームから順に削除されます。

●［アラームのアクション］タブ

アラームの受信時に実行するアクションを設定します。
共通設定のアクションでは、アラームの重要度ごとにログおよびポップアップが設定できます。アラームの受信ごとに重要度の判断を行い、該当するアクションが実行されます。

表：各項目の説明

項目	説明
ログ	アラームログデータベース（アラームマネージャ）へのログエントリを行います。
ポップアップ	アラームモニタウィンドウを自動的にアクティブウィンドウにします。

● [アラームマネージャ] タブ

アラームログデータベース（アラームマネージャ）の設定を行います。

表：アラームマネージャ

項目	説明
最大ログエントリ数	格納されるログの最大数を設定します。
最大数を超えた場合	「最大ログエントリ数」を超過してログされた場合のアクションを設定します。 ・警告をポップアップ 　メッセージを表示してユーザに警告します。 ・上書き 　ログ時間の古い順から削除します。

● [デフォルトアクション] タブ

アクションのデフォルト設定です。アクションは、アラームグループの設定に関係なく、アラームが発生したときに必ず行われます。

表：各項目の説明

項目	説明
メッセージのポップアップ	すべてのアラームをポップアップのメッセージで表示します。
イベントログの格納	すべてのアラームをイベントログに転送します。

■ サーバのフィルタ

「サーバのフィルタ」画面が表示されます。

特定のサーバ／グループからのアラームを除外します。
除外されたサーバからのアラームは表示されなくなります。左画面に表示される「すべてのサーバ」、「グループ」は ServerList 画面と同じです。右画面にはアラームを除外するサーバが表示されます。
除外するサーバを追加するには、左側のリストから対象サーバを選択して［>>>］をクリックします。除外するサーバを削除するには、右側のリストから対象サーバを選択して［<<<］をクリックします。［情報］をクリックすると個々のサーバの情報が確認できます。

■ アラームグループの作成 / 編集

アラームグループの作成、編集、削除を行います。

● アラームグループとは

アラームグループは、「サーバ」と「アラームの種類」の 2 つの要素によって決定されるアラームの集合です。アラームグループには「アクション」が設定できます。「アラームグループ」と「アクション」の組み合わせにより、「特定のサーバ」から「特定のアラーム」が送信された場合に「特定のアクション」を自動的に実行させることができます。

● アラームグループの作成

1 アラームグループ名を入力し、[適用] をクリックします。

ここでは、例として「test」とします。

2 [サーバの選択] タブをクリックし、アラームグループに追加するサーバを選択します。

ここでは、例として「TESTSERVER」を選択します。

3 ［アラームの選択］タブをクリックし、アラームグループに追加するアラームを選択します。

例えば、MIB ファイル「RCF1157.Mib」に含まれるアラーム「LinkDown」を追加したい場合は、「ファイル別」をクリックしてコンボボックスから「RCF1157.Mib」を選択し、アラームの一覧の「LinkDown」を選択して［>>>］をクリックします。

4 ［適用］をクリックします。

アラームグループが作成されます。
ここで例として作成したアラームグループ「test」は、サーバ「TESTSERVER」からのアラーム「LinkDown」のみを含みます。

POINT

- アラームグループを削除する場合は、以下の操作を行います。
  1. 「既存のアラームグループを選択」からアラームグループを選択します。
  2. ［削除］をクリックします。

重要

- アラームグループを設定してある監視対象のサーバの IP アドレス、またはホスト名の変更を行った場合、そのままではアラームグループに対してサーバの変更が反映されません。アラームグループを編集して再度、サーバの登録を行ってください。
- デフォルト作成されているアラームグループの「Automatic Service Mail」は、利用できません。新規にアラームグループを作成してください。
- アラームグループ名および各アクション設定の名前の項目に、日本語を使用することはできません。

3

ServerView の使用方法

■ アクション設定の作成／編集

「アクション設定の作成／編集」画面が表示され、アラームグループに対して、アクションを設定します。

左側には作成済みのアラームグループが一覧表示されます。
選択したアラームグループに対して右側のアクション設定ボタンをクリックして設定します。
以下のアクションが設定できます。

- メール送信する→ P.165
- ポップアップ表示する→ P.168
- ログに出力する→ P.170
- ポケットベルに送信する→ P.171
- コマンドを実行する→ P.173
- ブロードキャスト送信する→ P.176
- ステーションに送信する→ P.178

● メール

［メール］をクリックすると「メール設定の作成／編集」画面が表示されます。

既存のメール設定がリスト表示されます。ただし、初期状態ではメール設定の登録は存在しません。新規作成を行ってください。
操作を行った場合は、必ず［適用］をクリックしてください。
［戻る］をクリックすると「アクション設定の作成／編集」画面に戻ります。

メール設定を適用する

左側の「既知リストメール設定」の一覧から設定名を選択し、［>>>］をクリックします。右側の「選択転送」に表示されます。
解除する場合は、右側の「選択転送」から解除する設定名を選択し、［<<<］をクリックします。

設定内容を変更する

左側の「既知リストメール設定」の一覧から変更する設定名を選択し、［編集］をクリックします。変更項目を設定します。設定画面は新規登録と同じです。「新規にメール設定を作成する」（→ P.166）を参照してください。

設定を削除する

左側の「既知リストメール設定」の一覧から削除する設定名を選択し、［削除］をクリックします。

新規にメール設定を作成する

1 ［新規］をクリックします。

メール設定画面が表示されます。

2 各項目を設定します。

表：メール設定画面

項目	説明
名前	メール設定の設定名を入力します。
件名	送信する際の件名を入力します。
宛先	メールを送信するアドレスを入力します。
写し	メールを写し（CC）で送信するアドレスを入力します。
タイムモデル	アクションを実行する時間帯を、あらかじめ設定されているタイムモデルから選択します。タイムモデルを設定する場合は［タイムモデル編集］をクリックしてください。
追加メッセージ	メールに付加するメッセージを入力します。 サーバの情報を追加するための以下のマクロを使用できます。 $_SRV：サーバ名 $_TRP：トラップテキスト $_IPA：サーバの IP アドレス $_IPX ：サーバの IPX アドレス $_CTY：サーバのコミュニティ $_SEV：トラップの重要度 (critical, major, minor, informational, unknown)
［SMTP］ボタン	クリックすると MAPI に変わりますが、MAPI メールは未サポートです。このまま設定を変更せず、SMTP を設定しておいてください。

表：メール設定画面

<table>
<tr><th>項目</th><th>説明</th></tr>
<tr><td>［プロパティ］ボタン</td><td>メールプロパティ（SMTP）画面が表示されます。

差出人、SMTP サーバ、ポート番号を入力し「OK］をクリックします。</td></tr>
<tr><td>［テスト送信］ボタン</td><td>［プロパティ］をクリックして SMTP サーバを設定すると有効になります。クリックしてメールが正常に送信されることを確認してください。正常に送信されると以下のようなメッセージが表示されます。

</td></tr>
<tr><td>［タイムモデル編集］ボタン</td><td>アクションが実行される時間帯を定義します。［タイムモデル編集］をクリックすると、タイムモデル設定画面が表示されます。一週間の各時間帯が表示され、アクションが実行される時間は黒で表示されます。タイムモデル「always」と「never」は削除、変更はできません。</td></tr>
</table>

POINT

- メールの件名、メッセージには日本語を使用することができますが、エンコード形式に Content-Transfer-Encoding:quoted-printable を使用しているため、経由するメールサーバによっては、受信内容が文字化けする場合があります。この場合は、メールの件名、およびメッセージを、英数字に変更してください。

3 設定内容を確認し、［OK］をクリックします。

「メール設定の作成／編集」画面に戻ります。
作成したメール設定が、「既知リストメール設定」に表示されます。

● ポップアップ

［ポップアップ］をクリックすると「ポップアップメッセージの作成／編集」画面が表示されます。

既存のポップアップ設定がリスト表示されます。
操作を行った場合は、必ず［適用］をクリックしてください。
［戻る］をクリックすると「アクション設定の作成／編集」画面に戻ります。

ポップアップ設定を適用する

左側の「既知リストポップアップ設定」の一覧から設定名を選択し、［>>>］をクリックします。右側の「選択転送」に表示されます。
解除する場合は、右側の「選択転送」から解除する設定名を選択し、［<<<］をクリックします。

設定内容を変更する

左側の「既知リストポップアップ設定」の一覧から変更する設定名を選択し、［編集］をクリックします。変更項目を設定します。設定画面は新規登録と同じです。「 新規にポップアップ設定を作成する」（→ P.169）を参照してください。

設定を削除する

左側の「既知リストポップアップ設定」の一覧から削除する設定名を選択し、［削除］をクリックします。

新規にポップアップ設定を作成する

1 ［新規］をクリックします。

「ポップアップ設定」画面が表示されます。

2 各項目を設定します。

表：ポップアップ設定画面

項目	説明
名前	ポップアップ設定の設定名を入力します。
タイムモデル	アクションを実行する時間帯を、あらかじめ設定されているタイムモデルから選択します。タイムモデルを設定する場合は［タイムモデル編集］をクリックしてください。
追加メッセージ	ポップアップに付加するメッセージを入力します。
［タイムモデル編集］ボタン	アクションが実行される時間帯を定義します。［タイムモデル編集］をクリックすると、タイムモデル設定画面が表示されます。一週間の各時間帯が表示され、アクションが実行される時間は黒で表示されます。タイムモデル「always」と「never」は削除、変更はできません。

3 設定内容を確認し、［OK］をクリックします。

「ポップアップ設定の作成／編集」画面に戻ります。

作成したポップアップ設定が、「既知リストポップアップ設定」に表示されます。

● ログ

［ログ］をクリックすると「ログ設定の作成／編集」画面が表示されます。

既存のロギング設定がリスト表示されます。
操作を行った場合は、必ず［適用］をクリックしてください。
［戻る］をクリックすると「アクション設定の作成／編集」画面に戻ります。
新規にロギング設定は作成できません。既存の設定の適用のみ可能です。

ログ設定を適用する

左側の「既知リストロギング設定」の一覧から設定名を選択し、［>>>］をクリックします。
右側の「選択転送」に表示されます。
解除する場合は、右側の「選択転送」から解除する設定名を選択し、［<<<］をクリックします。

● ポケットベル

［ポケットベル］をクリックすると「ポケットベル設定の作成／編集」画面が表示されます。

既存のポケットベル設定がリスト表示されます。
操作を行った場合は、必ず［適用］をクリックしてください。
［戻る］をクリックすると「アクション設定の作成／編集」画面に戻ります。

ポケットベル設定を適用する

左側の「既知リストポケットベル設定」の一覧から設定名を選択し、［>>>］をクリックします。右側の「選択転送」に表示されます。
解除する場合は、右側の「選択転送」から解除する設定名を選択し、［<<<］をクリックします。

設定内容を変更する

左側の「既知リストポケットベル設定」の一覧から変更する設定名を選択し、［編集］をクリックします。変更項目を設定します。設定画面は新規登録と同じです。「 新規にポケットベル設定を作成する」（→ P.172）を参照してください。

設定を削除する

左側の「既知リストポケットベル設定」の一覧から削除する設定名を選択し、［削除］をクリックします。

3
ServerView の使用方法

新規にポケットベル設定を作成する

1 ［新規］をクリックします。

「ポケットベルの設定」画面が表示されます。

2 各項目を設定します。

表：ポケットベル設定画面

項目	説明
名前	ポケットベル設定の設定名を入力します。
所有者	ポケットベルの所有者名を入力します。
COM ポート	ポケットベルのメッセージの送信元となる特定の COM ポート（通信ポート）を選択します。モデムを接続した COM ポートを選択してください。
リトライ間隔	ポケットベルの呼び出し間隔を分単位で入力します。 ポケットベルへの通知は、サービスプロバイダを経由して数分の遅れが生じる可能性があるため、極端に短い時間は設定しないでください。また、ステーションへの接続に必要な時間も考慮し、リトライ間隔は 5 分以上を設定してください。
リトライ回数	応答を受信するまで、ポケットベルにアラームを転送するための呼び出しを何回行うかを入力します。
ポケットベル番号	送信するポケットベルの番号を入力します。
タイムモデル	アクションを実行する時間帯を、あらかじめ設定されているタイムモデルから選択します。タイムモデルを設定する場合は［タイムモデル編集］をクリックしてください。
ポケットベルタイプ	ポケットベルのタイプを設定します。ここでは NTT を設定してください。 正しいタイプを選択していない場合、通信プロトコルが無効なため、サービスプロバイダのシステムからの送信が無視されます。

表：ポケットベル設定画面

項目	説明
［サーバの番号］ボタン	各サーバ番号に対応したサーバ名がダイアログに表示されます。サーバ番号は、数字式のポケットベルに対して送信されます。 ・日本語名で設定されたサーバ名は正しく表示されません。また、英小文字は英大文字で表示されます。NTT DoCoMo ポケットベルで表示できない文字は「?」で表示されます。 ・13 文字以上のサーバ名の場合、13 文字目からは送信されません
［COM& モデム］ボタン	通信ポートまたはポケットベルのタイプを設定する画面が表示されます。
［テスト送信］ボタン	正しく送信できるかどうかテストできます。応答には若干時間がかかります。
［タイムモデル編集］ボタン	アクションが実行される時間帯を定義します。［タイムモデル編集］をクリックすると、タイムモデル設定画面が表示されます。一週間の各時間帯が表示され、アクションが実行される時間は黒で表示されます。タイムモデル「always」と「never」は削除、変更はできません。

3 **設定内容を確認し、［OK］をクリックします。**

「ポケットベル設定の作成／編集」画面に戻ります。
作成したポケットベル設定が、「既知リストポケットベル設定」に表示されます。

POINT

▶ ポケットベルにメッセージを送信する場合、以下のフォーマットで送信されます。
- ［テスト送信］ボタンで送信した場合：4/TESTSERVER
- 通常の場合：x/yyyyyyyyy（x:1= 危険 ,2= 重度 ,3= 軽度 ,4= 情報、yyyyyyyyy: サーバ名）

● コマンド実行

［コマンド実行］をクリックすると「コマンド実行設定の作成／編集」画面が表示されます。

既存のコマンド実行設定がリスト表示されます。
操作を行った場合は、必ず［適用］をクリックしてください。
［戻る］をクリックすると「アクション設定の作成／編集」画面に戻ります。

3 ServerView の使用方法

コマンド設定を適用する

左側の「既知リストコマンド実行設定」の一覧から設定名を選択し、[>>>] をクリックします。右側の「選択転送」に表示されます。
解除する場合は、右側の「選択転送」から解除する設定名を選択し、[<<<] をクリックします。

設定内容を変更する

左側の「既知リストコマンド実行設定」の一覧から変更する設定名を選択し、[編集] をクリックします。変更項目を設定します。設定画面は新規登録と同じです。「新規にコマンド実行を作成する」(→ P.174) を参照してください。

設定を削除する

左側の「既知リストコマンド実行設定」の一覧から削除する設定名を選択し、[削除] をクリックします。

新規にコマンド実行を作成する

1 [新規] をクリックします。

「コマンド実行の設定」画面が表示されます。

2 各項目を設定します。

表：コマンド実行の設定画面

項目	説明
名前	コマンド実行設定の設定名を入力します。
コマンド	実行するコマンドを入力します。

表：コマンド実行の設定画面

項目	説明
作業用ディレクトリ	実行するコマンドが存在するディレクトリを入力します。
タイムモデル	アクションを実行する時間帯を、あらかじめ設定されているタイムモデルから選択します。タイムモデルを設定する場合は［タイムモデル編集］をクリックしてください。
［タイムモデル編集］ボタン	アクションが実行される時間帯を定義します。［タイムモデル編集］をクリックすると、タイムモデル設定画面が表示されます。一週間の各時間帯が表示され、アクションが実行される時間は黒で表示されます。タイムモデル「always」と「never」は削除、変更はできません。

3　**設定内容を確認し、［OK］をクリックします。**

「コマンド実行設定の作成／編集」画面に戻ります。
作成したコマンド実行設定が、「既知リストコマンド実行設定」に表示されます。

● ブロードキャスト

［ブロードキャスト］をクリックすると「ブロードキャストの作成／編集」画面が表示されます。

既存のブロードキャスト設定がリスト表示されます。
操作を行った場合は、必ず［適用］をクリックしてください。
［戻る］をクリックすると「アクション設定の作成／編集」画面に戻ります。

ブロードキャスト設定を適用する

左側の「既知リストブロードキャスト設定」の一覧から設定名を選択し、［>>>］をクリックします。右側の「選択転送」に表示されます。
解除する場合は、右側の「選択転送」から解除する設定名を選択し、［<<<］をクリックします。

設定内容を変更する

左側の「既知リストブロードキャスト設定」の一覧から変更する設定名を選択し、［編集］をクリックします。変更項目を設定します。設定画面は新規登録と同じです。「新規にブロードキャスト設定を作成する」（→ P.177）を参照してください。

設定を削除する

左側の「既知リストブロードキャスト設定」の一覧から削除する設定名を選択し、［削除］をクリックします。

新規にブロードキャスト設定を作成する

1 ［新規］をクリックします。

「ブロードキャスト設定」画面が表示されます。

2 各項目を設定します。

表：ブロードキャスト設定画面

項目	説明
名前	ブロードキャスト設定の設定名を入力します。
タイムモデル	アクションを実行する時間帯を、あらかじめ設定されているタイムモデルから選択します。タイムモデルを設定する場合は［タイムモデル編集］をクリックしてください。
モード	ブロードキャストのモードを選択します。 ・ユーザ 特定のユーザ 1 人だけに情報が通知されます。「モード」横のフィールドに、ユーザ名を入力してください。 ・ドメインの全ユーザ（Windows のみ） 転送を実行するドメインと同じドメインに属しているユーザ全員に情報が通知されます。 ・セッション中の全ユーザ 転送を実行するセッションを介して接続されているユーザ全員に情報が通知されます。
追加メッセージ	付加するメッセージを入力します。
［タイムモデル編集］ボタン	アクションが実行される時間帯を定義します。［タイムモデル編集］をクリックすると、タイムモデル設定画面が表示されます。一週間の各時間帯が表示され、アクションが実行される時間は黒で表示されます。タイムモデル「always」と「never」は削除、変更はできません。

3 設定内容を確認し、［OK］をクリックします。

「ブロードキャスト設定の作成／編集」画面に戻ります。
作成したブロードキャスト設定が、「既知リストブロードキャスト設定」に表示されます。

3

ServerView の使用方法

● ステーション

［ステーション］をクリックすると「トラップ転送設定の作成／編集」画面が表示されます。

既存のステーション設定がリスト表示されます。
操作を行った場合は、必ず［適用］をクリックしてください。
［戻る］をクリックすると「アクション設定の作成／編集」画面に戻ります。

ステーション設定を適用する

左側の「既知リストステーション設定」の一覧から設定名を選択し、［>>>］をクリックします。右側の「選択転送」に表示されます。
解除する場合は、右側の「選択転送」から解除する設定名を選択し、［<<<］をクリックします。

設定内容を変更する

左側の「既知リストステーション実行設定」の一覧から変更する設定名を選択し、［編集］をクリックします。変更項目を設定します。設定画面は新規登録と同じです。「新規にステーション設定を作成する」（→ P.179）を参照してください。

設定を削除する

左側の「既知リストステーション実行設定」の一覧から削除する設定名を選択し、［削除］をクリックします。

新規にステーション設定を作成する

1 ［新規］をクリックします。

「トラップ設定」画面が表示されます。

2 各項目を設定します。

表：トラップ設定画面

項目	説明
名前	ステーション設定の設定名を入力します。
コミュニティ	転送先ステーションのコミュニティを入力します。新しい設定を定義すると、デフォルト値の "public" が設定されます。
タイムモデル	アクションを実行する時間帯を、あらかじめ設定されているタイムモデルから選択します。タイムモデルを設定する場合は［タイムモデル編集］をクリックしてください。
IP アドレス	転送先の IP アドレスを入力します。
転送モード	転送モードを選択します。
［タイムモデル編集］ボタン	アクションが実行される時間帯を定義します。［タイムモデル編集］をクリックすると、タイムモデル設定画面が表示されます。一週間の各時間帯が表示され、アクションが実行される時間は黒で表示されます。タイムモデル「always」と「never」は削除、変更はできません。

3 設定内容を確認し、［OK］をクリックします。

「トラップ転送設定の作成／編集」画面に戻ります。
作成したコマンド実行設定が、「既知リストステーション実行設定」に表示されます。

■ 全設定の表示

すべてのアラームグループと、設定された属するアラーム、サーバ、アクションが一覧表示されます。

「ルート選択」が「アラームグループ」の場合、設定された各アラームグループを選択してそれに属する各値を確認することができます。ルート選択を変更することでそれぞれの設定を確認できます。

■ 設定例

アラーム設定による設定の一般的な例を以下に示します。

● 目的

サーバ「ALARMTEST」上で重要度 1（Critical）に相当するイベントが起こった場合に、管理者（admin@test.co.jp）にメールを送信する。

● 前提

- サーバ上で ServerView エージェントが稼動しており、同じネットワーク上の ServerView S2 に管理対象として登録されていること。
- ServerView エージェントから ServerView S2 へのテストトラップが正常に実行されること。
- 稼働中の SMTP サーバ（192.168.1.20）に対して ServerView S2 からのアクセスが可能であること。

● 設定方法

1 ServerView S2 のメニューから「EVENT MANAGEMENT」→「ALARM SETTINGS」をクリックします。

「アラーム設定の開始」画面が表示されます。

2 「アラームグループの作成 / 編集」を選択し、［次へ］をクリックします。

「アラームグループの作成／編集」画面が表示されます。

3 アラームグループ名を「CriticalMail」と入力し、［適用］をクリックします。

4 ［サーバの選択］タブをクリックし、サーバの一覧から「ALARMTEST」を選択して［>>>］をクリックし、サーバをアラームグループに追加します。

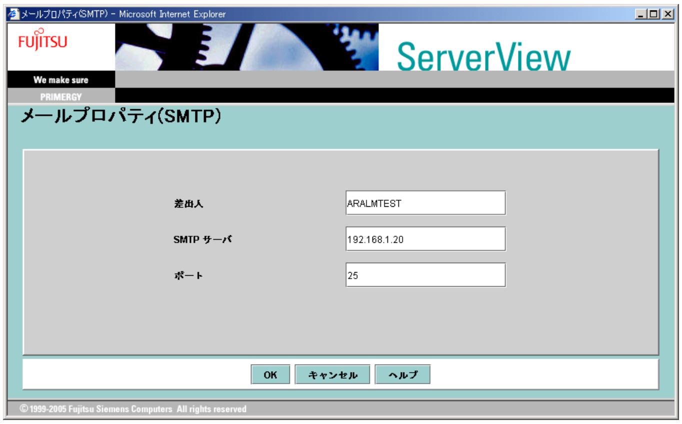
5 ［アラームの選択］タブをクリックし、「重要度別」、「Critical」を選択して［全て >］をクリックし、表示されているアラーム全部をアラームグループに追加します。

6 ［適用］をクリックし、［次へ］をクリックします。

7 アラームグループの一覧から作成した「CriticalMail」が選択されていることを確認し、［メール］をクリックします。

8 ［新規］をクリックします。

9 ［プロパティ］をクリックし、各項目に必要事項を入力します。



10 ［OK］をクリックしてメール設定の画面に戻り、各項目に必要事項を入力します。

11 ［OK］をクリックしてメール設定の選択画面に戻り、［適用］をクリックして［戻る］をクリックします。

アクション設定の画面に戻ります。メールの設定を行ったため、「メール」にチェックが付いています。

12 ［次へ］をクリックします。

13 設定した内容を確認し、［終了］をクリックして完了します。

3.6 パフォーマンスマネージャ

パフォーマンスマネージャは、しきい値やレポートの設定、適用、管理などを行います。

● しきい値

一部のパラメータに、任意の値を設定できます。これをしきい値といい、上限や下限、相対しきい値、ポーリング間隔などが設定できます。

● レポート

レポートを作成すると、サーバを長期的に監視するときに役立ちます。
レポートセットで選択した値は、一定の期間、定期的に測定記録されます。

POINT

しきい値セットとレポートセットで利用できるリソース

- リソースは SNMP オブジェクトと CIM オブジェクトで、あらかじめ登録されています。これらのオブジェクトには、ノーマルオブジェクトとテーブルオブジェクトがあり、テーブルオブジェクトからは 1 つのカラムが利用できます（例えば、CPU テーブルでは、CPU アイドル時間が利用できる、など）。

重要

- パフォーマンスマネージャは、それぞれ以下のバージョンで利用可能です。
  - ・Windows の場合：NT Agent V4.00.05 以降
  - ・Linux の場合：Linux Agent V4.30 系以降

  Agent のバージョンは「■ エージェントステータス」（→ P.111）のエージェントビューで確認してください。

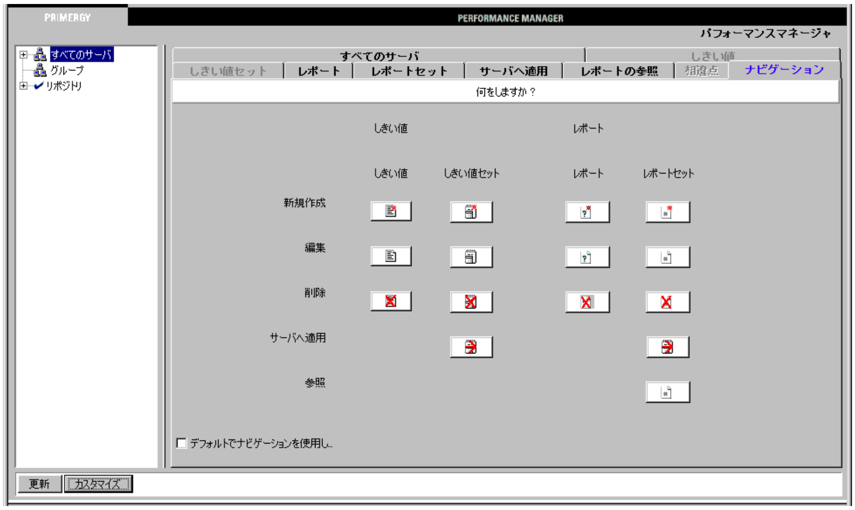
3.6.1 パフォーマンスマネージャの起動

1 ServerView S2 のメニューから「MONITORING」→「PERFORMANCE MANAGER」をクリックします。

<u>管理コンソールから起動する場合</u>

「ツール」メニュー →「パフォーマンスマネージャ」の順にクリックします。

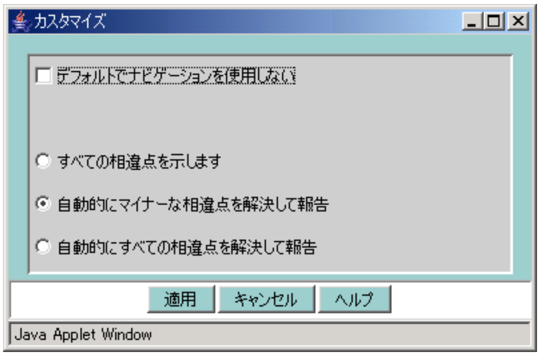
パフォーマンスマネージャ画面が表示されます。



左フレームに、サーバ、サーバのグループ、およびリポジトリがツリー状に表示されます。起動時の操作対象は「リポジトリ」です。

右フレームには、[ナビゲーション] タブが表示され、目的に応じて実行したい機能を選択できます。

[カスタマイズ] をクリックすると、以下のカスタマイズ設定画面が表示されます。



ナビゲーションを使用しない場合は、「デフォルトでナビゲーションを使用しない」をチェックします。次回以降パフォーマンスマネージャ起動時には、リポジトリビュー画面が最初に開きます。

POINT

- 最新セッションの取得後に、他のパフォーマンスマネージャによって設定が変更された場合などは、最新セッションのリポジトリデータベース情報と現在のサーバ設定との間に、差異が見つかることがあります。すべての差異は、タイムスタンプ付きでデータベースとサーバの両方に記録されます。以下を選択することができます。
  ・すべての相違点を示します
  ・自動的にマイナーな相違点を解決して報告
  ・自動的にすべての相違点を解決して報告

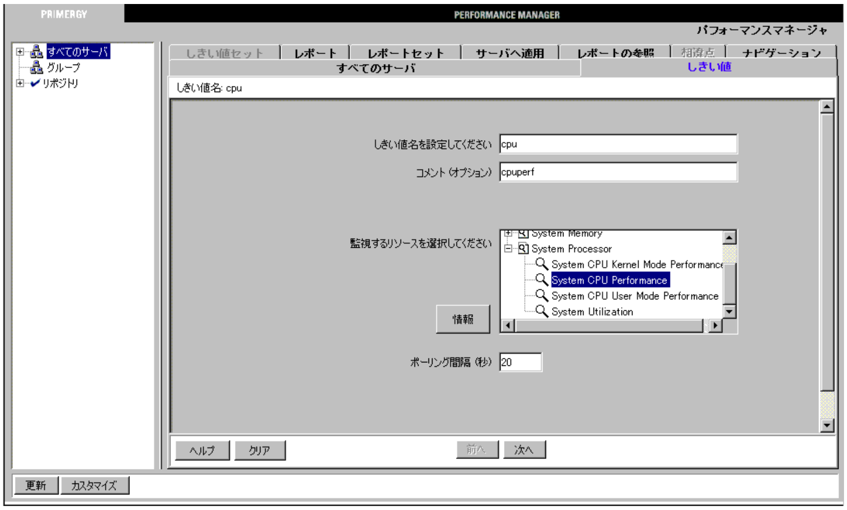
表：各タブの機能

タブ	機能概要
概略タブ	左側ツリー表示から詳細情報を表示したい項目を選択すると、タブ名が選択した項目の名称に切り替わり、詳細情報を表示します。選択した項目により、タブ名称、表示内容が切り替わります。
［しきい値］タブ	「しきい値」を作成／編集します。
［しきい値セット］タブ	「しきい値セット」を作成／編集します。
［レポート］タブ	「レポート」を作成／編集します。
［レポートセット］タブ	「レポートセット」を作成／編集します。
［サーバへ適用］タブ	設定した「しきい値セット」や「レポートセット」をサーバに適用します。
［レポートの参照］タブ	レポートを参照します。
［相違点］タブ	サーバ上の設定値と、リポジトリ上の設定との間に相違点が存在する場合、このタブが有効になり、相違点を確認できます。
［ナビゲーション］タブ	目的に応じて機能を選択できます。

3.6.2 しきい値の定義／変更

1 パフォーマンスマネージャ画面から「しきい値」タブをクリックします。

しきい値の定義画面が表示されます。

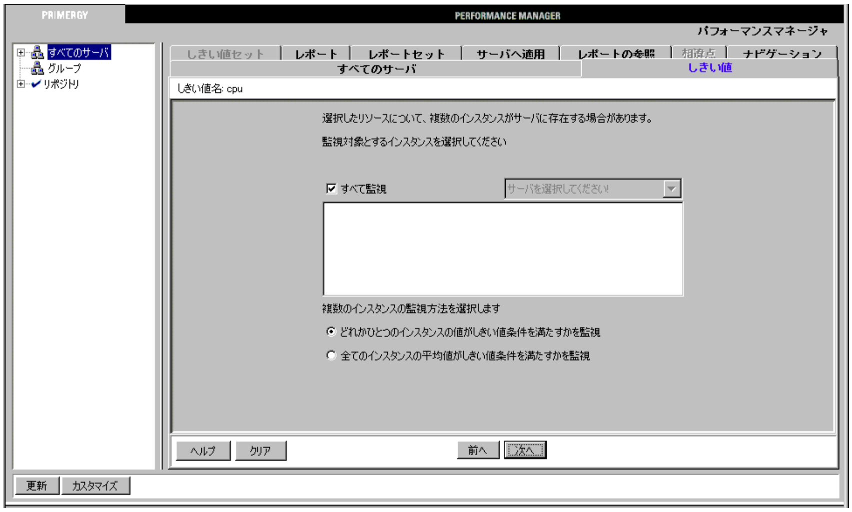


2　しきい値名を入力し、監視するリソース、ポーリング間隔を設定します。

左フレームのツリーから既存のしきい値名を選択すると、そのしきい値を編集できます。
「コメント」は必要に応じて入力してください。
監視するリソースは、リストに表示されているツリー項目から選択してください。
リソースの［情報］をクリックすると、リソースの詳細を確認できます。

3　［次へ］をクリックします。

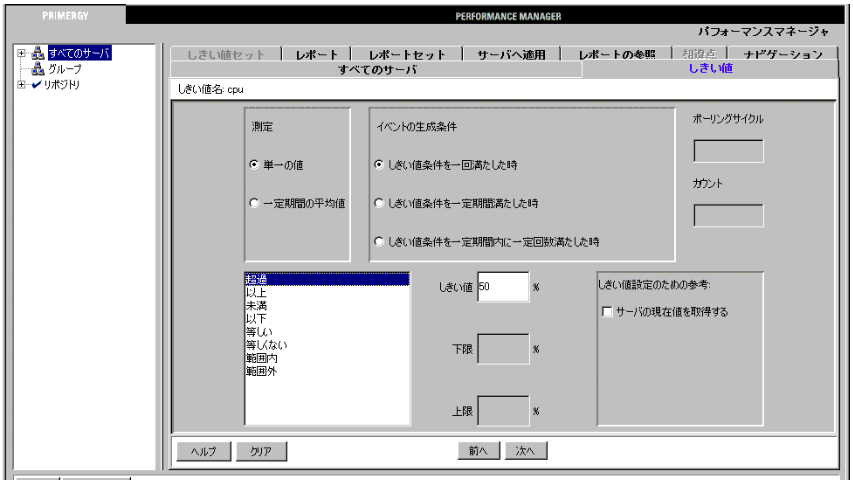
選択したリソースが複数のインスタンスを持っている場合は、監視対象を選択する画面が表示されます。



通常は、すべてのリソースを監視するため「すべて監視」がチェックされています。
特定のリソースのみを監視対象とする場合は、「すべて監視」のチェックを外して、コンボボックスからサーバを選択し、表示されたリストからリソースを選択してください。また、複数インスタンスの監視方法（インスタンスの平均値、または任意のインスタンス値）を選択します。

4 ［次へ］をクリックします。

条件を設定する画面が表示されます。



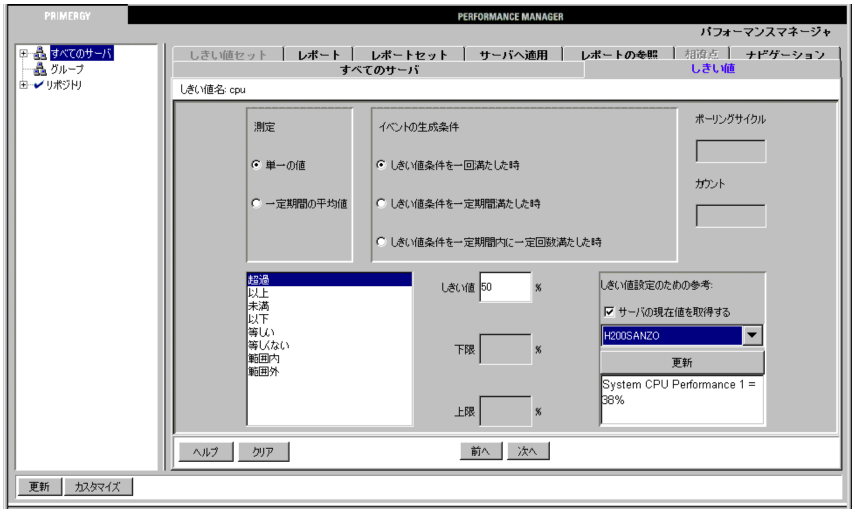
条件を設定します。

表：条件設定

項目		説明
測定対象		どのような測定を行うか設定します。
	単一の値	しきい値条件を満たすかどうか、毎回値をチェックします。
	一定期間の平均値	しきい値条件を満たすかどうか、一定期間内の平均値をチェックします。
イベントの生成条件		イベントの生成を行う条件を設定します。
	しきい値条件を一回満たした時	しきい値条件を一回でも満たせばイベントが生成されます。
	しきい値条件を一定期間満たした時	一定期間しきい値条件を満たせばイベントが生成されます。
	しきい値条件を一定期間内に一定回数満たした時	一定期間内に一定回数しきい値条件を満たせばイベントが生成されます。
ポーリングサイクル		イベント生成条件（一定期間）を算出するため、ポーリングサイクルを秒単位で設定します。
カウント		イベント生成条件（一定回数）を設定します。
判定条件		設定したしきい値に対する判定条件を次の中から選択します。 「超過」／「以上」／「未満」／「以下」／「等しい」／「等しくない」／「範囲内」／「範囲外」
しきい値		しきい値を設定します。
上限／下限		しきい値の最大値／最小値を設定します。
サーバの現在値を取得する		しきい値設定の参考として、現在のサーバのリソース値を表示します。
	サーバ選択ボックス	現在値を表示するサーバを選択します。
	更新ボタン	選択したサーバの現在値を更新します。
	現在値表示域	選択したサーバの現在値を表示します。

以下は CPU 利用率管理の例です。

サーバの実効値が表示された場合は、［更新］をクリックすると値が更新されます。



5 ［次へ］をクリックします。

トラップのタイプを選択する画面が表示されます。

6 リストからトラップの形式を選択し、送信方法を「継続的に」、「遅れて」、「一度だけ」のいずれかを指定します。

「遅れて」を選択した場合は、「最小の遅れ」も入力してください。

7 しきい値を格納します。

［リポジトリのみ］：リポジトリに格納されます。

［リポジトリとしきい値セット］：リポジトリに格納され、「しきい値セット」タブが開きます。

3.6.3 しきい値セットの新規作成／編集

しきい値セットを新規作成／編集できます。

1　パフォーマンスマネージャ画面の［しきい値セット］タブをクリックします。

しきい値セット画面が表示されます。

しきい値セットは、しきい値の集合体です。ひとつのサーバに複数のしきい値セットを適用することができますが、同一期間内では1つだけが有効となります。しきい値セットは、名前、しきい値（複数選択可）、および、開始 / 停止時刻で定義されます。

2　しきい値セット名を入力し、しきい値セットに登録するしきい値を選択します。

「コメント」は必要に応じて入力してください。

3　しきい値監視を実施する時間の範囲（開始時間・終了時間）を設定します。

4　しきい値セットを適用する範囲を選択します。

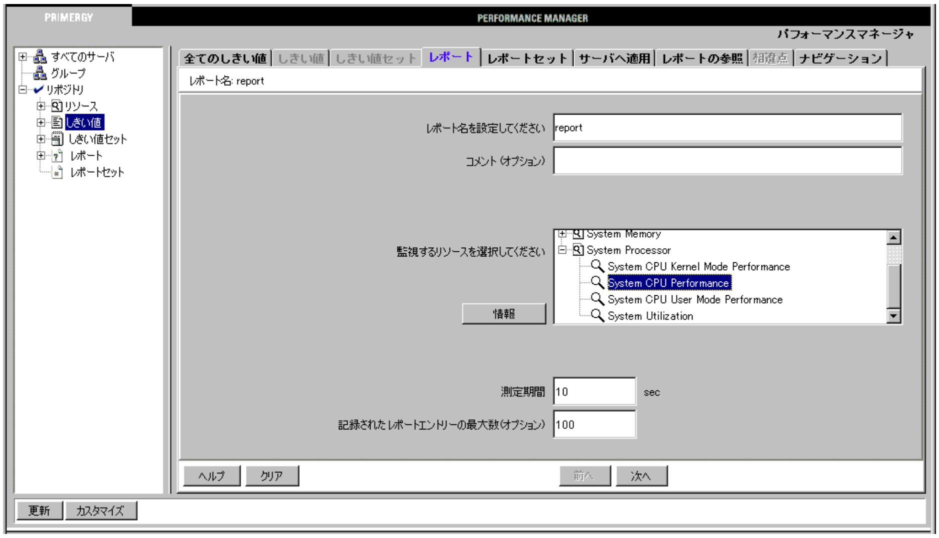
［リポジトリのみ］：リポジトリに格納されます。

［リポジトリとサーバ］：リポジトリに格納され、「サーバへ適用」タブが開きます。

3.6.4　レポートの定義／変更

1　パフォーマンスマネージャ画面の［レポート］タブをクリックします。

レポート内容を設定する画面が表示されます。



2　レポート名を入力し、監視するリソース、測定間隔を設定します。

表：レポート定義の設定項目

項目	説明
レポート名	レポート名を入力します（半角英数字）。
コメント	レポートに関するコメントを入力します。省略することもできます。
監視するリソース	監視対象のリソースを、1 つ選択します。
測定間隔	2 つのレポートの間の間隔を、秒単位で設定します。
レポートエントリの上限値	エントリされるレポートの最大数を設定します。エントリ数が設定された最大数になった場合は、古い順に削除されます。

重要

- 「レポートエントリの上限値」が設定されていない場合は、レポートのエントリは削除されません。レポートエントリサイズは無限に大きくなります。

3 ［次へ］をクリックします。

監視するインスタンスを設定する画面が表示されます。

4 監視するインスタンスを設定します。

選択したリソースのうち、特定のインスタンスを監視したい場合は、「すべてのインスタンスをレポート」のチェックを外したあと、コンボボックスからサーバを選択し、表示されたリストから監視するインスタンスを選択してください。
通常は、「すべてのインスタンスをレポート」のチェックを外す必要はありません。
「すべてのインスタンスをレポート」にチェックが付いている場合は、すべてのインスタンスの平均がレポートされます。

5 測定方法を選択します。

「選択されたインスタンスをレポート」または「すべてのインスタンスの平均値をレポート」を選択します。

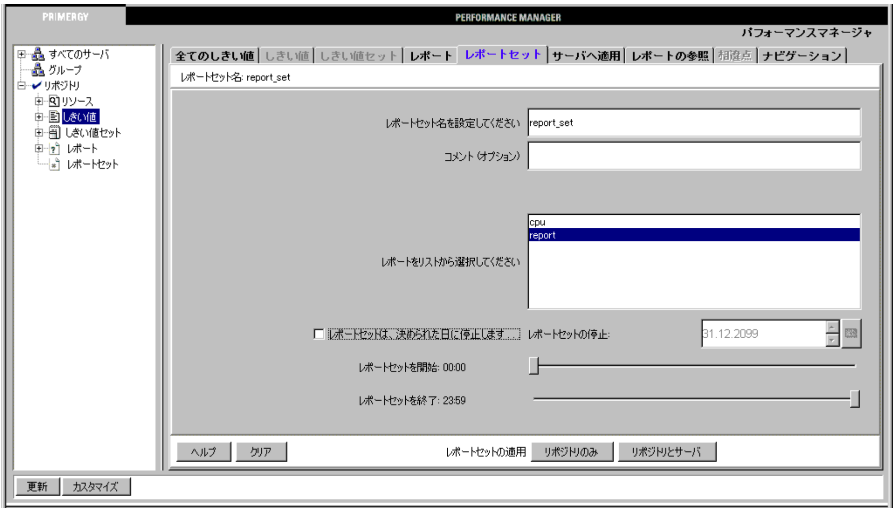
6 レポートを格納します。

［リポジトリのみ］：リポジトリに格納されます。
［リポジトリとレポートセット］：リポジトリに格納され、「レポートセット」タブが開きます。

3.6.5 レポートセットの新規作成／編集

1 パフォーマンスマネージャ画面の［レポートセット］タブをクリックします。

レポートセット画面が表示されます。



2 レポートセットを設定または変更します。

いくつかのレポートをリストから選択して、レポートセットに追加できます。
また、任意でレポートを終了する日付を定義したり、毎日の実行時間を設定できます。
設定された範囲の時間内のみデータを取得します。

POINT

- レポートセットには、半角英数字で入力してください。

3 レポートセットを格納します。

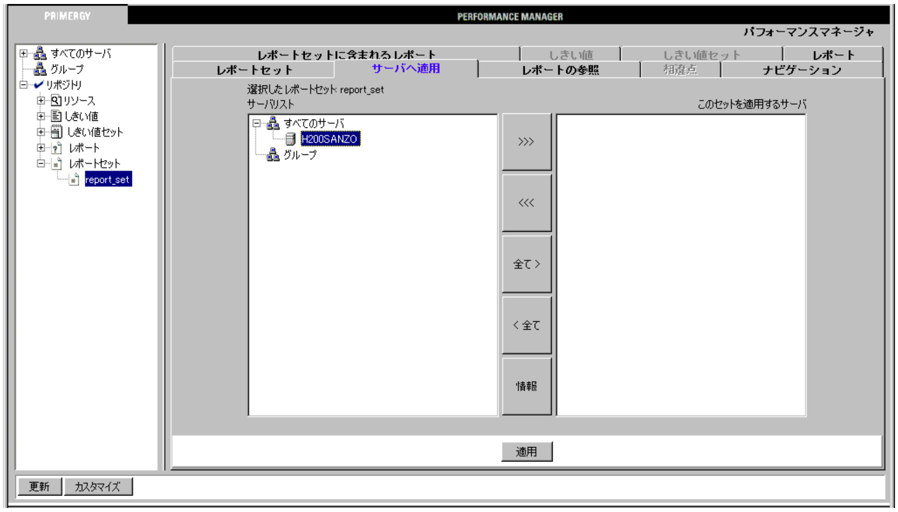
［リポジトリのみ］：リポジトリに格納されます。
［リポジトリとサーバ］：リポジトリに格納され、「サーバへ適用」タブが開きます。

3.6.6　サーバへの適用

しきい値セットやレポートセットをサーバへ適用します。

1　パフォーマンスマネージャ画面の［サーバへ適用］タブをクリックします。

サーバへ適用画面が表示されます。



左側「サーバリスト」欄には、サーバツリーが表示されます。右側「このセットを適用するサーバ」欄には、選択されたしきい値セット、レポートセットが適用されているサーバが表示されます。

2　［>>>］［<<<］ボタンにより、適用するサーバを設定します。

［全て >］［< 全て］ボタンで、すべてのサーバを一度に設定することが可能です。

3　［適用］をクリックします。

セキュリティのためにログイン画面が表示されます。ServerView 管理者権限のユーザ名とパスワードが必要です。ログイン認証後、「しきい値セット」または「レポートセット」の内容がサーバに適用されます。

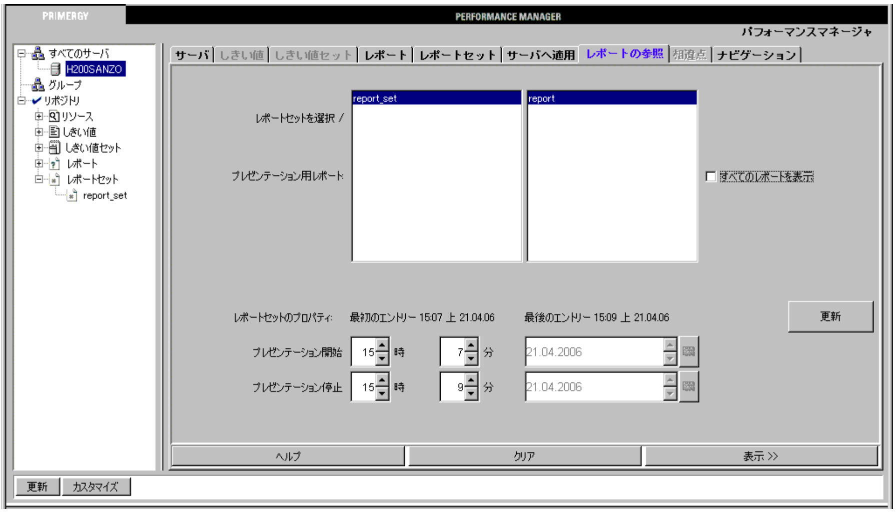
3.6.7　レポートの参照／設定

レポートの内容を確認することで、サーバのパフォーマンス状態が確認できます。

1　左フレームのサーバツリーから、レポートを表示したいサーバを選択します。

2 ［レポートの参照］タブをクリックします。

レポートセットの選択画面が表示されます。

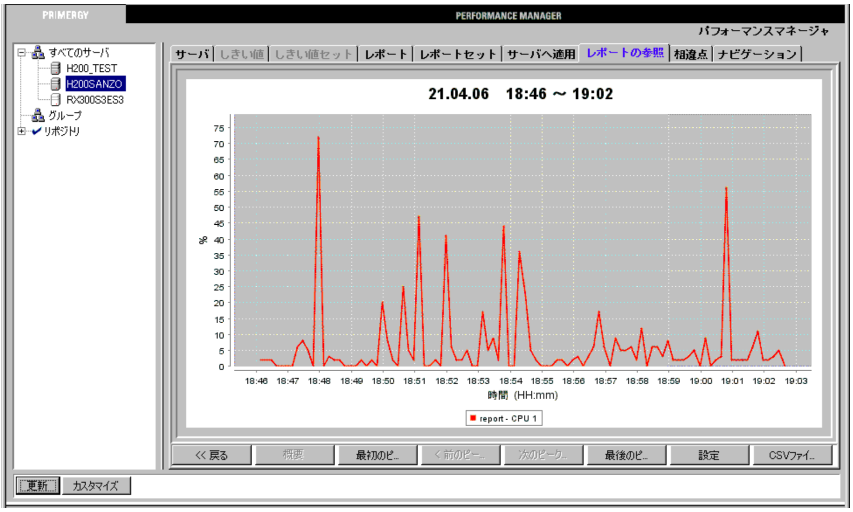


「すべてのレポートを参照」にチェックが付いている場合は、設定されているすべてのレポート情報が表示されます。チェックが付いていない場合は、表示するレポートを選択できます。

開始の日付／時間と、終了の日付／時間は、時間スライダと日付フィールドにより設定できます。日付は［カレンダー］をクリックして表示されたカレンダーから選択することもできます。

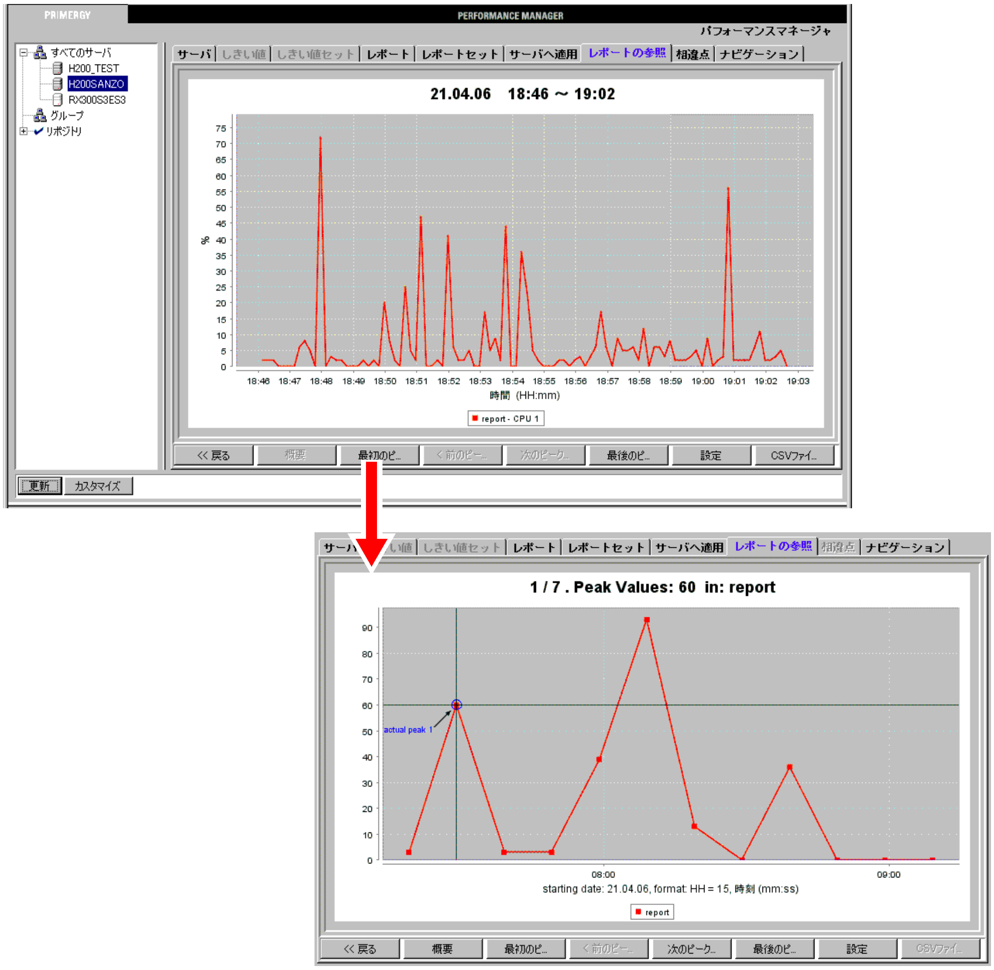
3 ［表示 >>］をクリックします。

レポートデータが表示されます。



レポートデータの表示画面での操作方法については、「■ レポートデータの表示画面」（→ P.199）を参照してください。

■ レポートデータの表示画面



レポートデータの表示画面には、以下のボタンがあります。

表：レポートデータの表示画面のボタン説明

ボタン名	説明
[<< 戻る]	レポートセットの選択画面に戻ります。
[概要]	ピーク画面からレポートデータの表示画面に戻ります。ピーク画面を表示しているときに有効になります。
[最初のピーク]	ピーク画面に切り替わり、最初のピーク値を表示します。
[< 前のピーク]	前のピーク値を表示します。最初のピーク値表示以外のときに有効になります。
[次のピーク >]	次のピーク値を表示します。最後のピーク値表示以外のときに有効になります。
[最後のピーク]	最後のピーク値を表示します。
[設定]	[設定] 画面を表示します。ピーク値の表示や表示レイアウトの設定を行うことができます。→「● 設定画面」（P.200）
[CSV ファイルへのエクスポート]	[CSV ファイルへのエクスポート] 画面を表示します。→「● CSV ファイルへのエクスポート画面」（P.204）

重要

▶ Linux の場合、ピーク値表示、および ［CSV ファイルへのエクスポート］は未サポートです。

● 設定画面

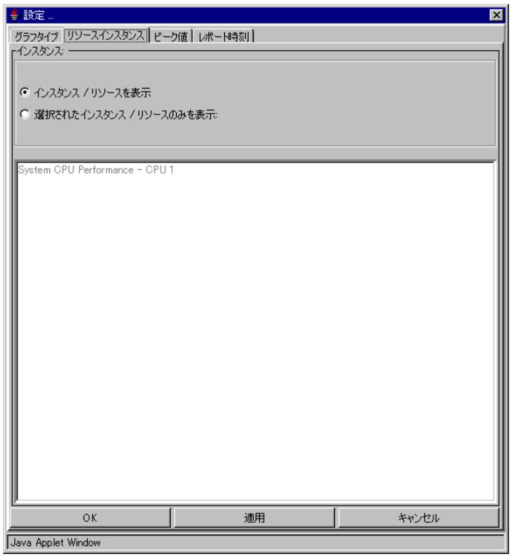
ピーク値の表示や表示レイアウトの設定を行うことができます。
［適用］をクリックすることにより設定が反映されます。

- ［グラフタイプ］タブ
  レポートデータの表示レイアウトを選択します。

表：［グラフタイプ］タブの設定項目

項目	説明
折れ線グラフ	レポートデータを折れ線グラフで表示します。
棒グラフ	レポートデータを棒グラフで表示します。

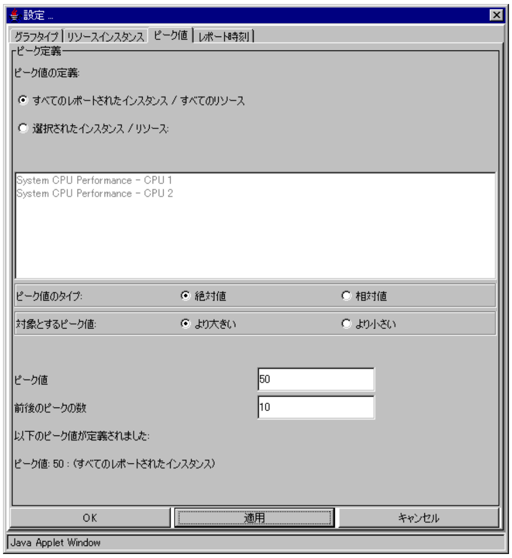
- ［リソースインスタンス］タブ
  表示するインスタンスを選択します。



表：［リソースインスタンス］タブの設定項目

項目	説明
インスタンス / リソースを表示	すべてのリソースの計測されたインスタンスを表示します。
選択されたインスタンス / リソースのみを表示	リストから表示するインスタンスを選択できます。

- ［ピーク値］タブ
  ピーク値の設定を行います。



表：［ピーク値］タブの設定項目

項目		説明
ピーク値の定義		検索するインスタンスを選択します。
	すべてのレポートされたインスタンス / すべてのリソース	すべてのインスタンス上のピークを検索します。
	選択されたインスタンス / リソース	リストから選択したインスタンス上のピークを検索します。
ピーク値のタイプ		値を絶対値とするか相対値とするかを選択します。
対象とするピーク値		基準となるピーク値よりどの値を対象とするか選択します。
	より大きい	基準となるピーク値より大きい値を対象とします。
	より小さい	基準となるピーク値より小さい値を対象とします。
ピーク値		基準となるピーク値を指定します。
前後のピーク数		表示するピークの数を指定します。

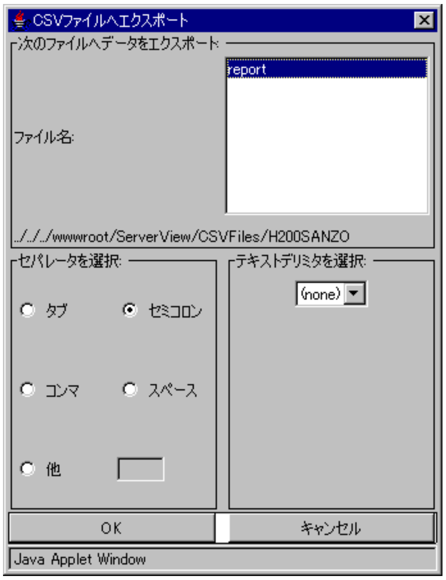
- ［レポート時刻］タブ
  レポート表示を行う時間を指定します。

表：［レポート時刻］タブの設定項目

項目	説明
プレゼンテーション開始	指定した時刻以降に記録されたものを表示します。
プレゼンテーション停止	指定した時刻以前に記録されたものを表示します。
選択されたピーク時刻間隔を標準の間隔として使用する	異なるレポートのピーク値の比較を行う場合に、チェックします。

● CSV ファイルへのエクスポート画面

レポートデータを CSV ファイルに出力するための設定を行います。



表：［CSV ファイルへのエクスポート］画面の設定項目

項目	説明
次のファイルへデータをエクスポート	ファイル名をリストから選択します。
セパレータを選択	コンマやタブなど、セパレータとして使用する記号を選択します。
テキストデリミタを選択	テキストデリミタを選択します。

［OK］をクリックすると、出力結果が以下のディレクトリに格納されます。

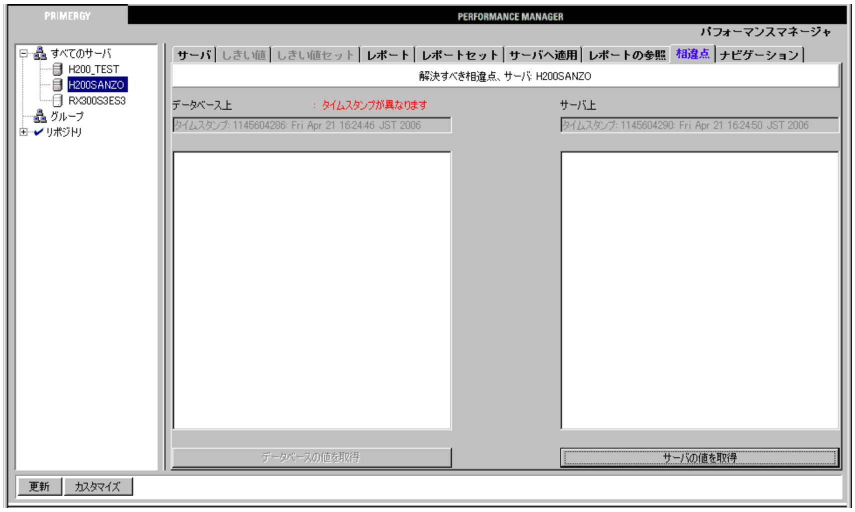
- ServerView Web-Server（Apache for Win32 ベース）の場合
  システムドライブ :¥Program Files¥Fujitsu¥F5FBFE01¥ServerView Services¥wwwroot¥ServerView¥CSVFiles¥[サーバ名]¥
- IIS の場合
  システムドライブ :¥Inetpub¥wwwroot¥ServerView¥CSVFiles¥[サーバ名]¥

3.6.8 相違点の確認と解消

設定したしきい値／レポートと、サーバ上の設定に相違点が存在する場合は、［相違点］タブが有効になります。相違点タブが有効になった場合は、相違点を解消してください。

1 パフォーマンスマネージャ画面の［相違点］タブをクリックします。

相違点画面が表示されます。



複数種類の相違点が存在する場合は、もっとも優先度の高い相違点のみが表示されます。相違点の種類には、新規リソース、新規しきい値 / レポート、存在しないしきい値 / レポート、異なるしきい値 / レポート、新規しきい値セット / レポートセット、存在しないしきい値セット / レポートセット、異なるしきい値セット / レポートセット、有効 / 無効、タイムスタンプがあります。

2 リポジトリの設定を有効とする場合は、［データベースの値を取得］をクリックします。
サーバの値を有効とする場合は、［サーバの値を取得］をクリックします。

相違点が解消されます。次の相違点が表示された場合も、本操作を繰り返します。
相違点が表示されなくなるまで繰り返してください。

重要

- パフォーマンスマネージャのしきい値 / レポートを設定したまま ServerView をアンインストールすると、コンソール -Agent 間に設定の差異が生じます。ServerView をアンインストールする前に、必ずしきい値 / レポートの設定を解除してください。

3.7 アーカイブデータの管理

アーカイブデータの作成や管理について説明します。

3.7.1 アーカイブマネージャの起動

アーカイブマネージャを使用して、サーバのアーカイブデータの作成、表示、比較、削除を行います。

POINT

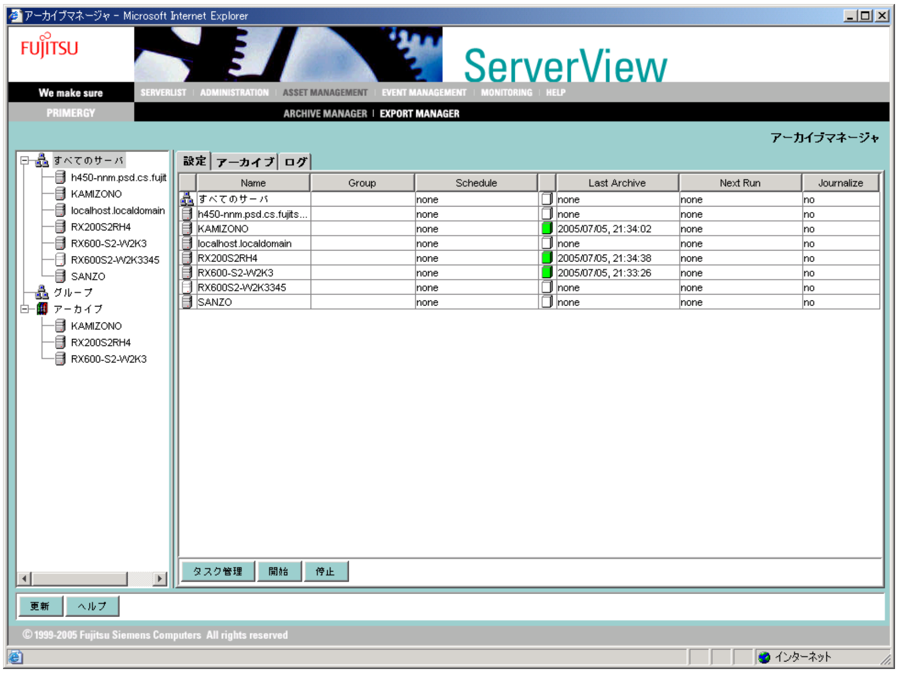
- アーカイブマネージャの詳細については、オンラインヘルプを参照してください。

1 ServerView S2 のメニューから、「ASSET MANAGEMENT」→「ARCHIVE MANAGER」をクリックします。

管理コンソールから起動する場合

［アーカイブマネージャ］アイコンをクリックするか、「ツール」メニュー →「アーカイブマネージャ」の順にクリックします。

「アーカイブマネージャ」画面が表示されます。



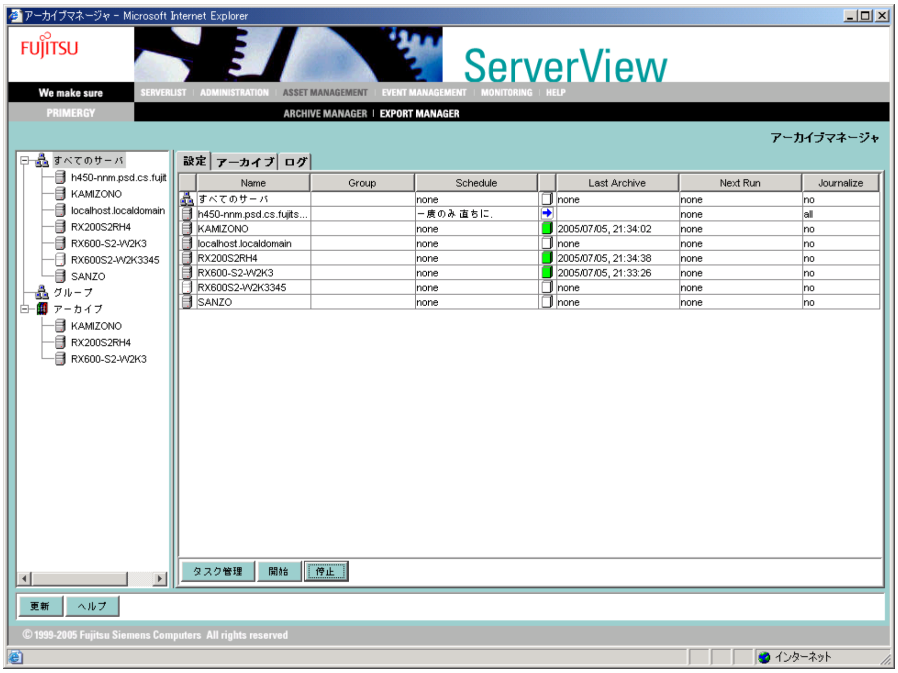
POINT

- ［設定］タブは、タスクが開始・停止されるたび、またはアーカイブ設定が変更されるたびに自動的に更新されます。サーバの一覧やタスク情報を含む Web ページ全体を更新するには、［更新］をクリックしてください。

3.7.2 アーカイブデータを作成する

1 ［設定］タブをクリックします。

アーカイブデータを作成するサーバの情報が表示されます。



表：アーカイブデータを作成するサーバの情報

項目	説明
Name	オブジェクトの名前が表示されます。
Schedule	タスクスケジュールが表示されます。
Last Archive	直前に作成されたアーカイブが表示されます。
Next Run	アーカイブタスクが次回実行される時間が表示されます。
Journalize	Journalize 情報が表示されます。

2 表示されたリストからアーカイブデータを作成するサーバ（グループ）を選択します。サーバは複数選択できます。

3 ［開始］をクリックします。

選択したサーバのアーカイブデータの作成が開始されます。

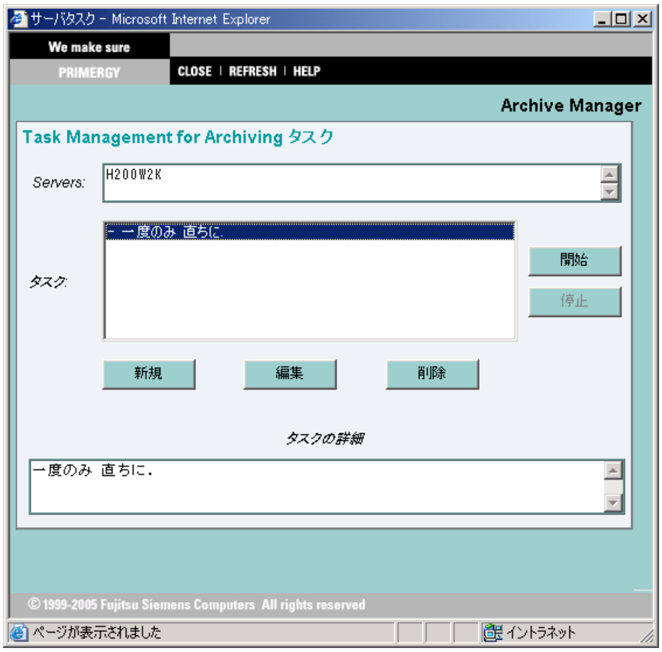
POINT

- ［停止］をクリックすると、現在実行中のアーカイブ取得を中止します。
- アーカイブデータが格納されるディレクトリは以下のようになります。
  - ServerView Web-Server（Apache for Win32 ベース）使用の場合
    システムドライブ :¥Program Files¥Fujitsu¥F5FBFE01¥ServerView Services¥wwwroot¥ServerView¥Archive¥[サーバ名]¥
  - IIS 使用の場合
    システムドライブ :¥Inetpub¥wwwroot¥ServerView¥Archive¥[サーバ名]¥
  - Red Hat Linux の場合
    /var/www/html/ServerView/Archive/[サーバ名]/
  - Suse Linux の場合
    /srv/www/htdocs/ServerView/Archive/[サーバ名]/

3.7.3 アーカイブデータ取得のタスク設定

1 タスク設定を行うサーバ（グループ）を選択し、［タスク管理］をクリックします。

以下の画面が表示されます。

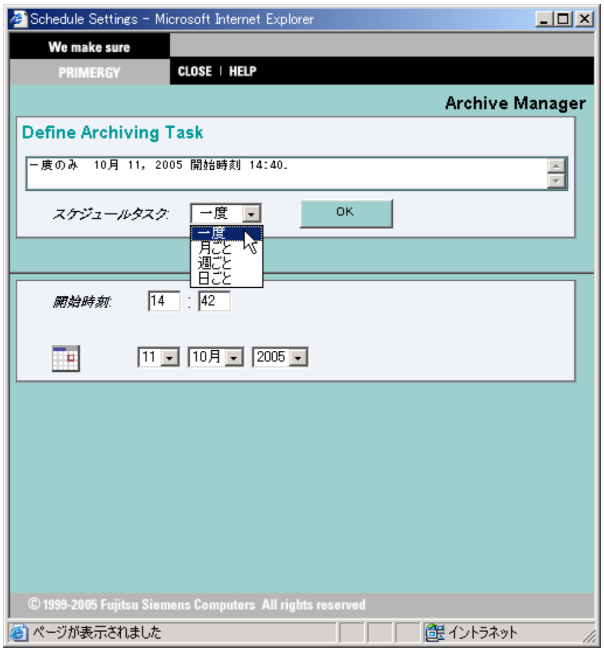


2 ［新規］をクリックします。

POINT

- 新規に追加した設定は、あとから編集、削除できます。あらかじめ設定されている「1 度のみ直ちに」は、編集、削除できません。

以下の画面が表示されます。

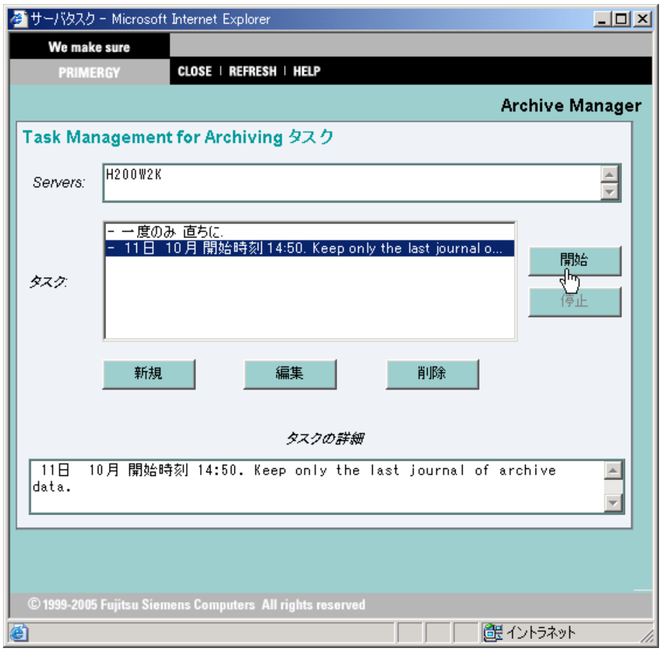


3　スケジュールタスクを設定します。

「一度」「月ごと」「週ごと」「日ごと」を選択し、それぞれに設定に必要な開始時間、または指定日などを設定します。

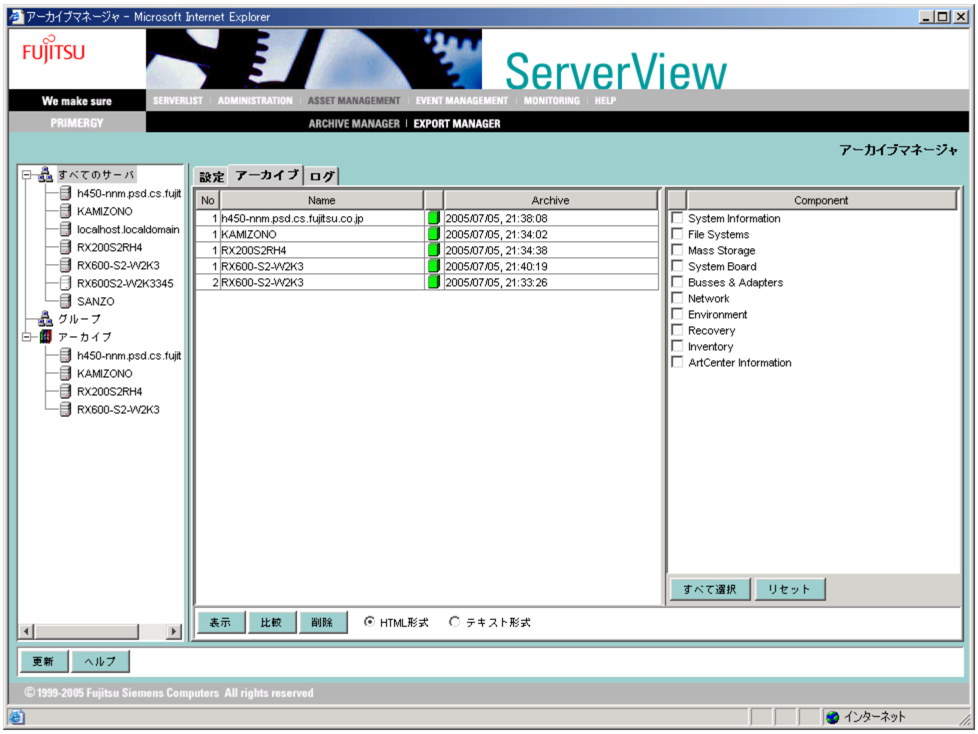
4　［開始］をクリックします。

新しいタスクが設定されます。



3.7.4 アーカイブデータの表示／比較／削除

アーカイブデータの表示／比較／削除は、［アーカイブ］タブ画面で行います。



■ アーカイブデータの表示

アプリケーションのアーカイブデータを表示します。

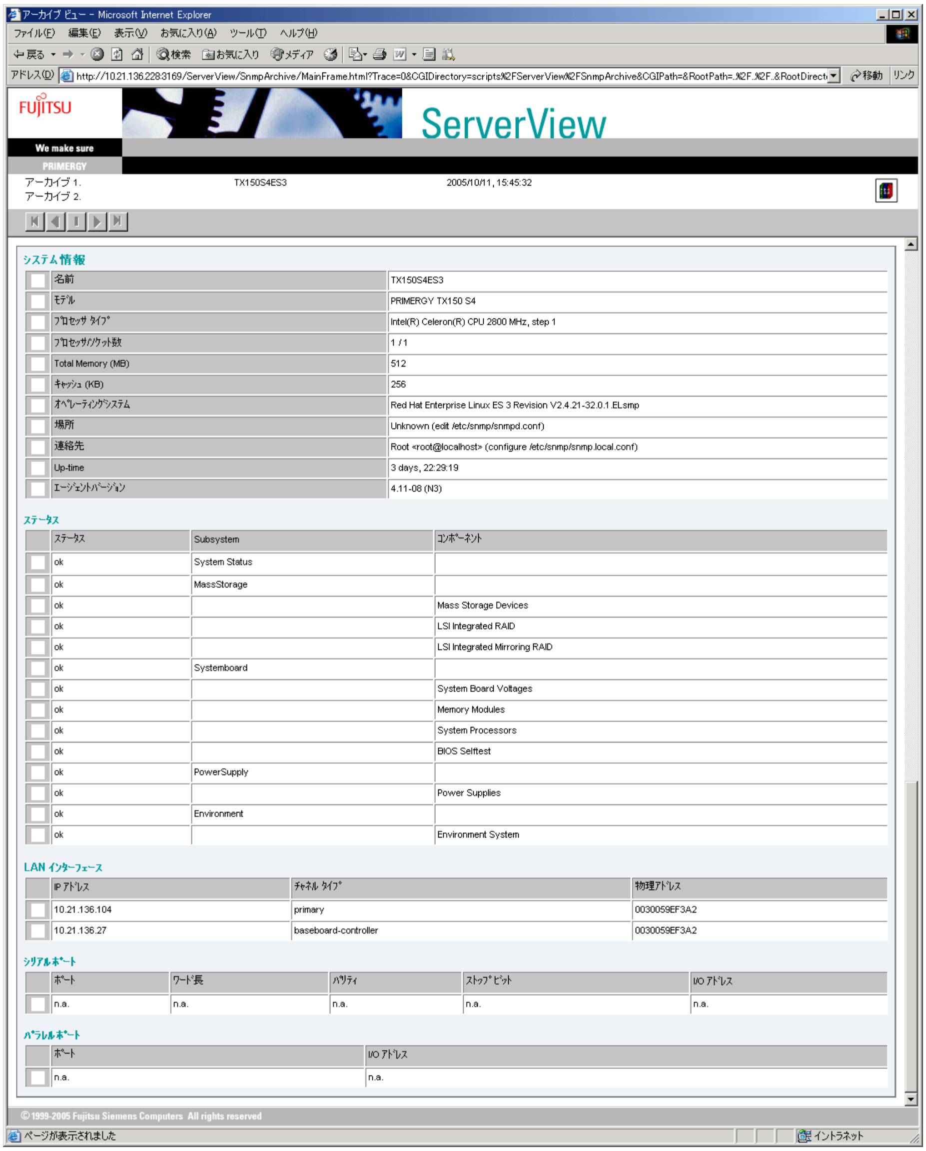
1 ［アーカイブ］タブをクリックし、対応するアーカイブを選択します。

2 表示したいアーカイブデータを選択します。

3 コンポーネント一覧で表示したい項目にチェックを付けます。

4 ［表示］をクリックします。

選択したアーカイブデータが表示されます。



■ アーカイブデータの比較

サーバのアーカイブデータを比較します。

1 ［アーカイブ］タブをクリックし、対応するアーカイブを２つ選択します。

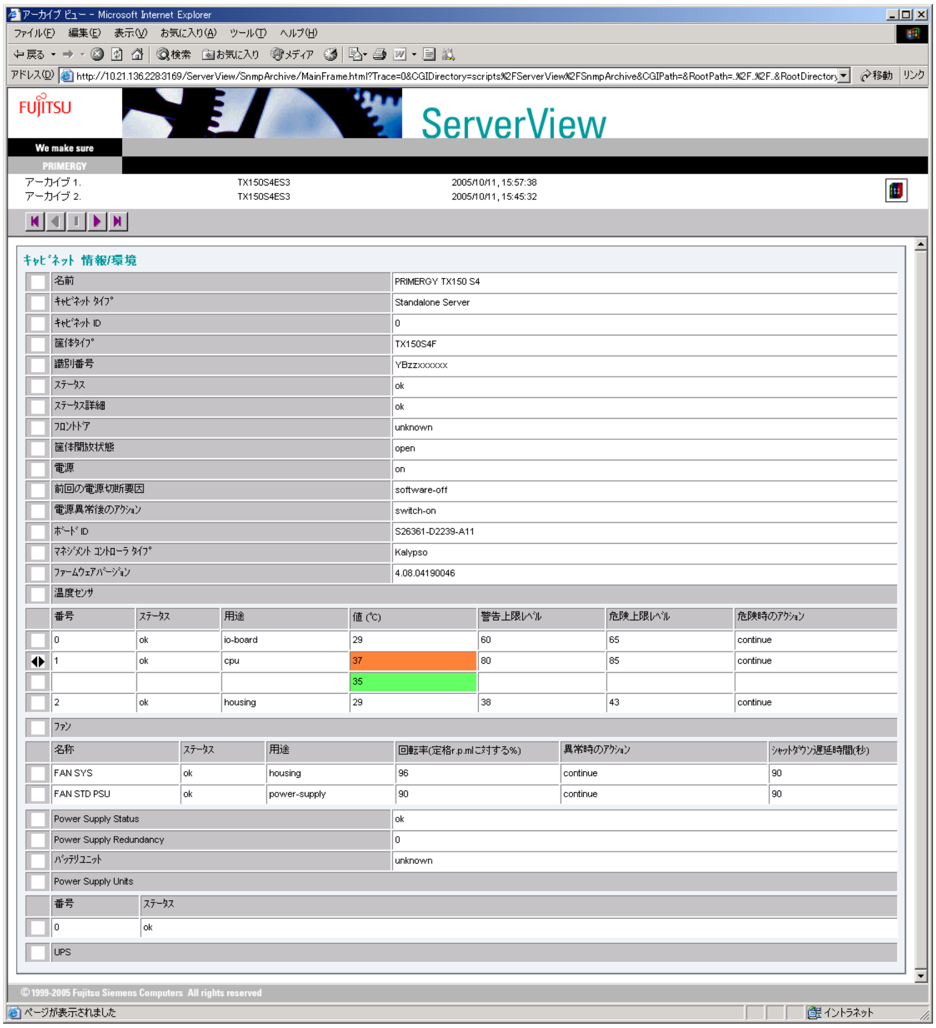
2 コンポーネント一覧で比較したい項目にチェックを付けます。

3

ServerView の使用方法

3 ［比較］をクリックします。

比較結果が表示されます。



相違点は第 1 カラムで識別され、2 つの異なる色で表示されます。アーカイブデータのどちらか一方のみにある内容と、アーカイブデータの両方にあるが値が異なる内容が区別されます。

■ アーカイブデータの削除

サーバのアーカイブデータを削除します。

1 ［アーカイブ］タブをクリックし、対応するアーカイブを選択します。

2 ［削除］をクリックします。

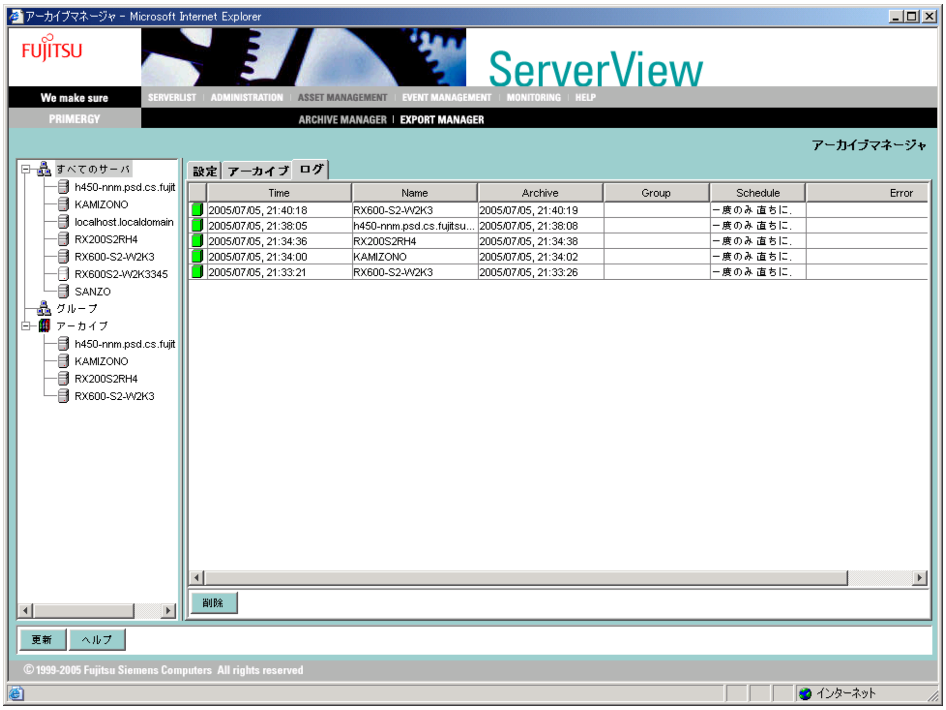
アーカイブデータが削除されます。

3.7.5 アーカイブデータのログ

アーカイブデータのログを一覧表示します。

1 ［ログ］タブをクリックします。

ログが一覧表示されます。



表：アーカイブマネージャのログ一覧

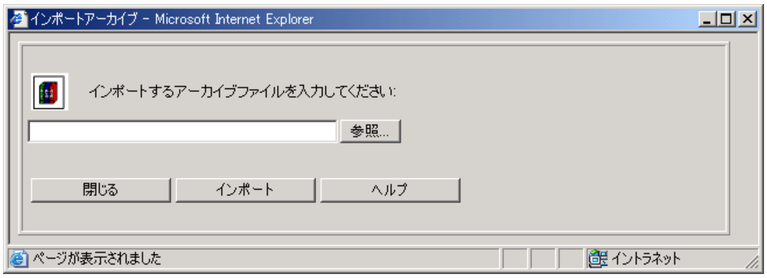
項目	説明
Time	アーカイブ取得日時が表示されます。
Name	オブジェクトの名前が表示されます。
Archive	アーカイブ名が表示されます。
Schedule	アーカイブ取得形式が表示されます。

3.7.6 インポートアーカイブ

アーカイブファイルをインポートします。

1 ServerView S2 のメニューから「SERVERLIST」→「IMPORT ARCHIVE」をクリックします。

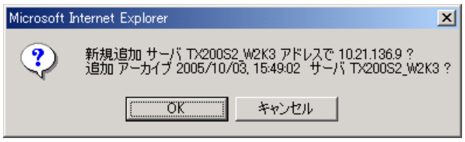
「インポートアーカイブ」画面が表示されます。



2 ［参照］をクリックして、インポートするアーカイブファイルを指定します。

3 ［インポート］をクリックします。

確認のダイアログが表示されます。



4 ［OK］をクリックします。

アーカイブデータがインポートされます。

3.8 エクスポートマネージャ

ServerViewS2 からエクスポートデータを作成し、ファイルに保存します。

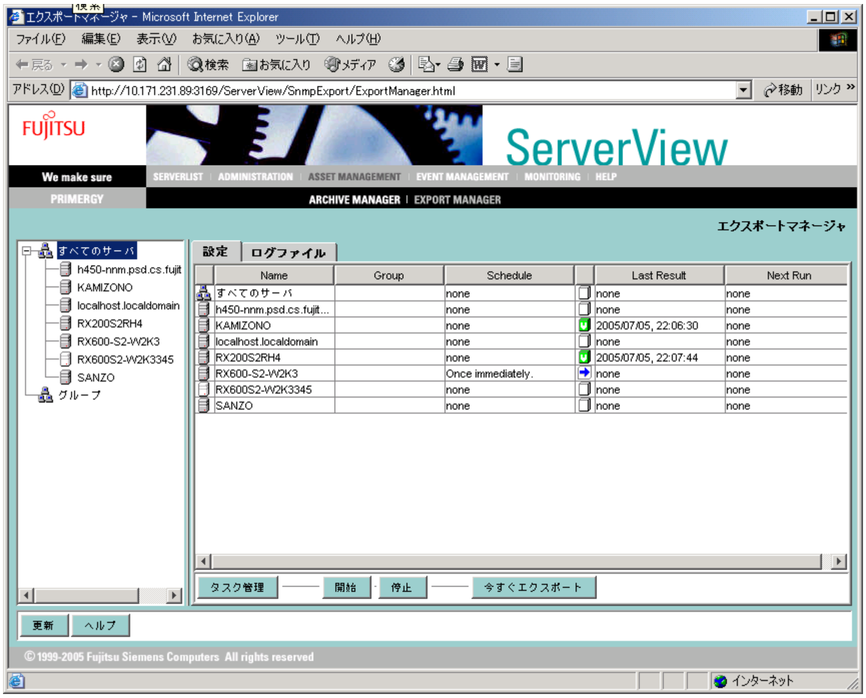
3.8.1 エクスポートデータの取得

1 ServerView S2 のメニューから、「ASSET MANAGEMENT」→「EXPORT MANAGER」をクリックします。

POINT

- エクスポートマネージャは、以下のいずれかの方法でも起動できます。
  - ・「ツール」メニューから「エクスポートマネージャ」を選択する。
  - ・サーバを右クリックし、「エクスポートマネージャ」をクリックする。
  - ・ServerView を起動していない場合は、「スタート」ボタン→「プログラム」→「Fujitsu ServerView」→「ExportManager」の順にクリックする。
  - ・管理コンソールの［バージョン管理］アイコンをクリックし、［エクスポートマネージャ］をクリックします。

「エクスポートマネージャ」画面が表示されます。



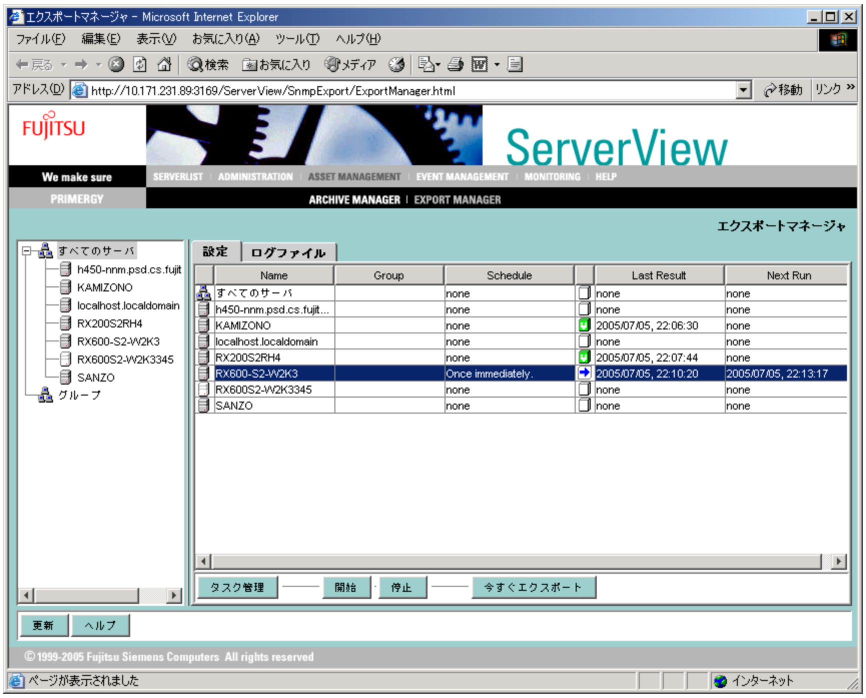
表：エクスポートマネージャ画面に表示される情報

項目名	説明
Name	オブジェクトの名前が表示されます。
Group	オブジェクトのグループ名が表示されます。
Schedule	タスクスケジュールが表示されます。
エクスポートステータスアイコン	エクスポートの状態がアイコンで表示されます。
	正常にエクスポートデータが取得されました。取得ファイルはサーバ内に格納されており、参照可能です。
	正常にエクスポートデータが取得されました。取得ファイルは他のサーバ内に格納されています。
	エクスポートデータ取得中です。
	エクスポートデータの取得に失敗しました。
	エクスポートデータが不明です。
Last Result	直前に作成されたエクスポートの時間が表示されます。
Next Run	エクスポートタスクが次回実行される時間が表示されます。

重要

- Linux OS にインストールした ServerView S2 からエクスポートマネージャを使用する場合は、パスを設定する必要があります。/etc/profile の最後に、以下（2 行）を追加し、OS のログオフを行ってください。
  以下の内容は Java のインストール先が、/usr/lib/… の場合の例です。
  コマンドを実施して、Java のインストール先を確認してください。
  ・Java のインストール先確認コマンド
  # rpm -ql j2re | grep bin/java または rpm -ql jre | grep bin/java
  ・追加情報
  PATH=/usr/lib/j2rex.x.x_xx/bin:$PATH
  export PATH
  または
  PATH=/usr/lib/jrex.x.x_xx/bin:$PATH
  export PATH

2　［設定］タブをクリックし、エクスポートデータを作成するサーバを選択します。



3　［開始］をクリックします。

現在の情報でエクスポートデータを取得する「即時エクスポート」が開始され、エクスポートデータが取得されます。途中で中止する場合は［停止］をクリックしてください。複数のサーバを選択することも可能です。

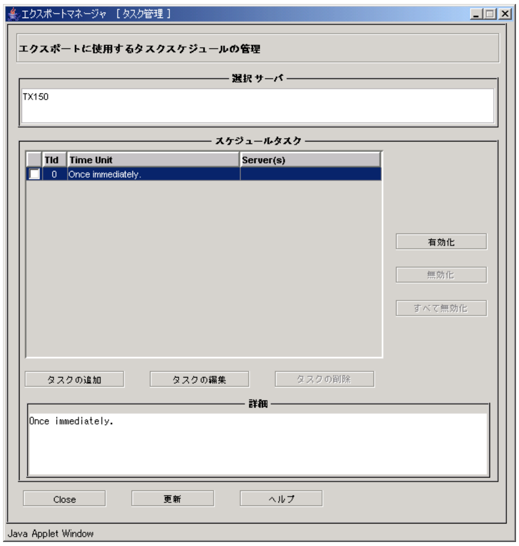
POINT

- 初期状態で［今すぐエクスポート］をクリックした場合は、「3.8.2 エクスポートデータ取得の設定」（→ P.218）の手順 3 からの操作になります。エクスポート設定完了後、タスク管理画面で［有効化］をクリックしてエクスポートデータを取得してください。
- 即時エクスポート（［開始］）、またはスケジュール設定（［タスク管理］）などでファイル名を指定しないでエクスポートデータを取得した場合、すべてのエクスポートファイルは最後に取得したサーバのデータとなります。
- 複数サーバを選択して一度にエクスポート取得した場合、同Timeの内、 マークが付いているファイルに全サーバ分のデータが格納されています。
- 取得情報を設定してエクスポートを実行した場合は、設定画面で「Show progress window」項目をチェックしておくと、取得結果確認画面でデータをダウンロードできます。詳細はヘルプを参照してください。

3.8.2 エクスポートデータ取得の設定

1 タスク設定を行うサーバ（グループ）を選択して、［タスク管理］をクリックします。

「タスク管理」画面が表示されます。

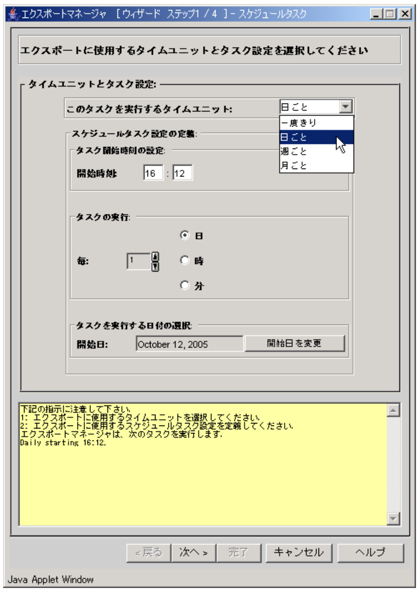


2 ［タスク追加］をクリックします。

POINT

- 追加した設定は、あとから編集、削除できます。あらかじめ設定されている「Once immediately」は、編集、削除できません。

以下の画面が表示されます。

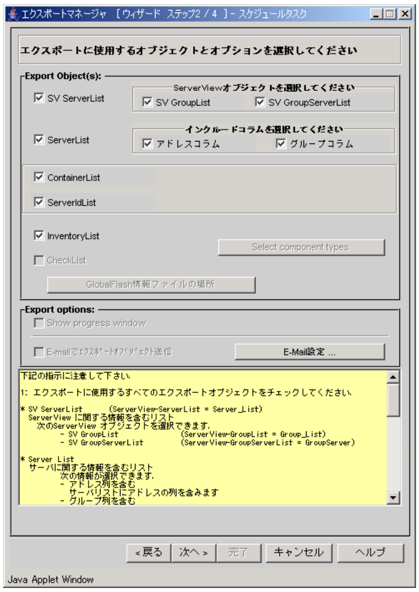


3 タスクの開始時間、パターンを設定します。

タイムユニット（「一度きり」「日ごと」「週ごと」「月ごと」）を切り替えると、それぞれの設定に必要な値が「スケジュールタスク設定の定義」に表示されます。

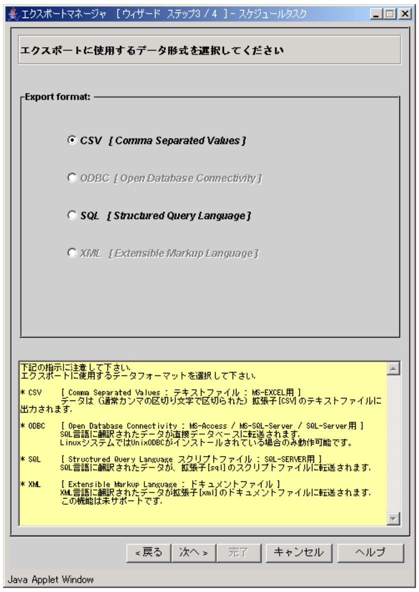
4 ［次へ］をクリックします。

オブジェクト選択の画面が表示されます。



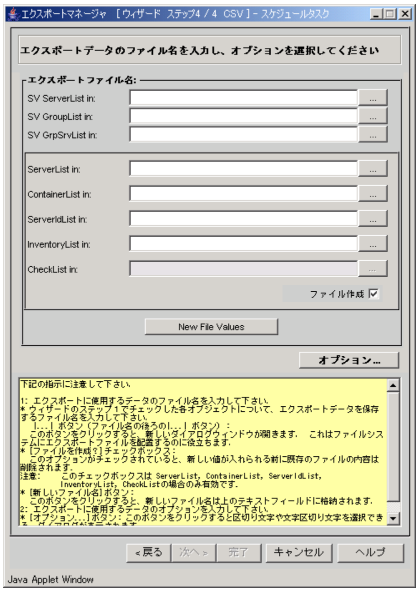
5 エクスポートするオブジェクトにチェックを付け、［次へ］をクリックします。

データ形式選択の画面が表示されます。



6 データ形式を選択し、[次へ] をクリックします。

ファイル名指定の画面が表示されます。

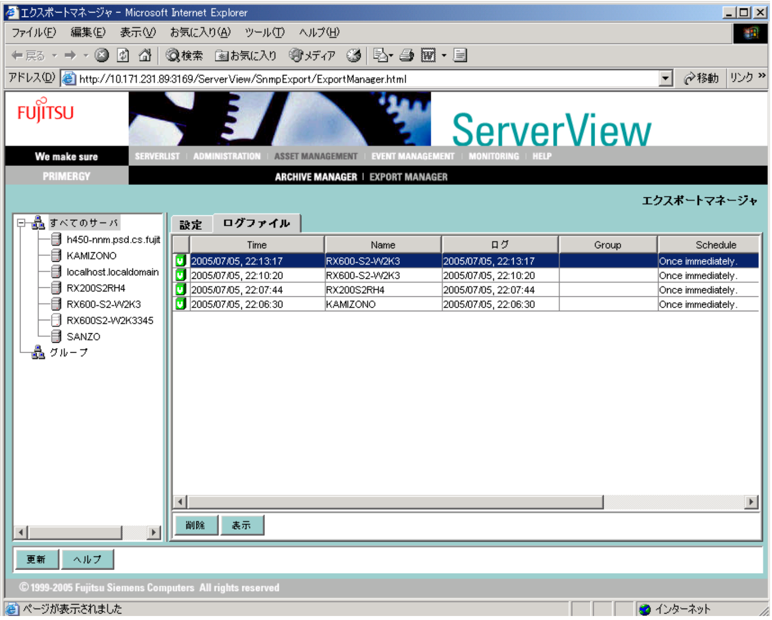


7 ファイル名を入力し、[完了] をクリックします。

タスクが作成されます。タクスを選択して［有効化］をクリックすると、タスクが開始されます。

3.8.3 エクスポートデータを表示する

エクスポートデータを表示するには、[ログファイル] タブをクリックします。

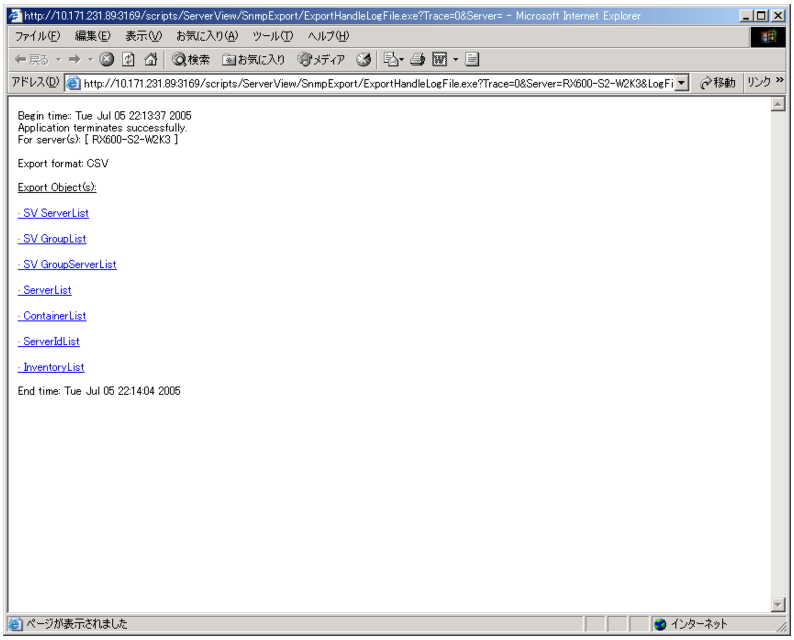


表：エクスポートマネージャ［ログファイル］タブの項目説明

項目名	説明
Time	エクスポートファイルの作成時間が表示されます。
Name	オブジェクトの名前が表示されます。
ログ	ファイル作成の詳細時間が表示されます。
Group	オブジェクトのグループ名が表示されます。
Schedule	取得タスクのスケジュールが表示されます。
Error	エクスポートタクスのエラー情報が表示されます。

1 表示したいエクスポートデータを選択し、［表示］をクリックします。

表示可能なエクスポートデータの一覧が表示されます。



2 参照したいデータをクリックします。データを保存する場合は保存するデータを右クリックして「対象をファイルへ保存」をクリックします。

3.9 管理コンソールを使用した ServerView の操作

ServerView Windows コンソールをインストールした管理端末で管理コンソールを起動して ServerView を操作する方法について説明します。

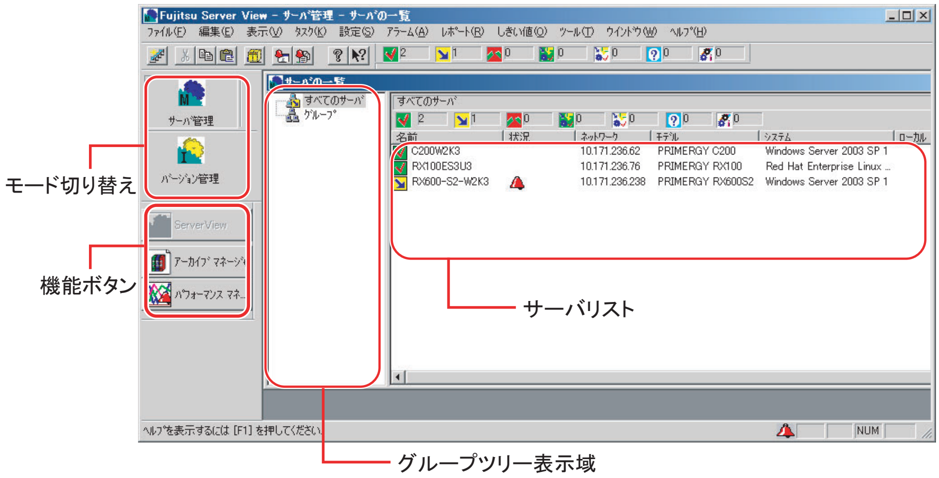
3.9.1 管理コンソールの起動

1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「Fujitsu ServerView」→「ServerView(Win32)」の順にクリックします。

管理コンソールが起動し、「サーバ管理」画面が表示されます。
「サーバ管理」画面内には、「サーバの一覧」ウィンドウが表示され、監視対象サーバが一覧表示されます。

POINT

- ServerView　エージェントがインストールされているローカルサーバ上で管理コンソールを起動すると、自動的にローカルサーバがサーバリストに追加され、「サーバの一覧」画面に表示されます。



<u>モード切り替え</u>

管理コンソールには、「サーバ管理」モードと「バージョン管理」モードがあります。選択されているモードにより、使用できる機能が異なります。

<u>機能ボタン</u>

管理コンソールの現在のモードにより、使用できる機能が表示されます。

■ メニュー一覧

メニューバーに表示されるメニュー、ポップアップメニューについて説明します。

表：管理コンソールのメニュー

メニュー項目	説明
「ファイル」メニュー	
新しいサーバ ...	サーバの一覧に監視対象サーバを追加します。 →「3.9.2 監視対象サーバ（オブジェクト）の追加」（P.227）
新しいグループ	サーバの一覧に新しくグループを作成します。 →「■ グループの作成」（P.230）
インポート → アーカイブ	他の管理サーバで取得したアーカイブデータをインポートします。環境調査時などに利用します。
インポート → サーバ	サーバの一覧にサーバをインポートします。
開く	サーバ管理モードの場合は「ServerView」を、バージョン管理モードの場合は「Inventory View」（→ P.132）を起動します。
アプリケーション ...	すべての登録済みアプリケーションがアプリケーションリストボックスに表示されます。サーバの一覧で選択したオブジェクト用のアプリケーションを起動するには、リストからアプリケーションを選択し、［OK］をクリックするか、起動したいアプリケーションをダブルクリックします。
印刷 ... 印刷プレビュー プリンタ設定 ...	他のアプリケーションから認識する印刷ダイアログを起動します。
削除	サーバの一覧からオブジェクトを削除します。
名前の変更	サーバの一覧に登録されているグループの名前を変更します。
サーバのプロパティ	サーバプロパティページを起動し、サーバパラメータを定義します。
ブレードサーバのプロパティ	ブレードサーバプロパティページを起動し、ブレードサーバパラメータを定義します。
グループのプロパティ	グループプロパティページを起動し、グループパラメータを定義します。
接続テスト	サーバの一覧で選択したサーバやクラスタへの接続をテストします。
サーバの再検出	選択したオブジェクトのステータスチェックプロセスを開始します。このプロセスは、サーバがネットワークに存在するかどうかを動的に確認します。サーバが SNMP プロトコルに応答できるかどうかのテストも行います。このメニュー項目を選択したことにより取得される結果と、定期的に実行される自動ステータスチェックの結果は同じです。
終了	ServerView を終了します。
「編集」メニュー	
切り取り	サーバオブジェクトをクリップボードに移動します。
コピー 貼り付け	サーバオブジェクトをサーバの一覧にコピーまたは貼り付けます。
すべて選択	サーバオブジェクトをすべて選択します。

表：管理コンソールのメニュー

メニュー項目	説明
「表示」メニュー	
ツールバー	ツールバーを表示または非表示にします。
ステータスバー	ステータスバーを表示または非表示にします。
ステータスサマリ	ツールバーの下にサーバステータスの概要を表示します。
タスクバー	タスクバーを表示します。
大きいアイコン 小さいアイコン 一覧 詳細	サーバの一覧ウィンドウでのサーバの表示を変更します。各機能は Windows エクスプローラの機能と同一です。
サーバのフィルタ ...	サーバ一覧に表示されるサーバを特定のサーバに限定します。 →「■ サーバ一覧表示をフィルタリングする」（P.230）
すべてのサーバの再検出	すべての定義済みサーバを検出します。これにより、サーバがネットワークに存在するかどうか、およびサーバが SNMP プロトコルに応答できるかどうかを確認します。
「タスク」メニュー	
サーバ管理	サーバ管理モードになります。サーバ管理タクス機能が使用できます。
バージョン管理	バージョン管理モードになります。バージョン管理タスク機能が使用できます。
「設定」メニュー（サーバ管理モード時のみ）	
レポートを無効にする	チェックを付けると、定期レポート取得中のすべてのレポートを停止します。
外部アプリケーション	サーバに割り当てる外部アプリケーションを定義します。
デフォルトの設定	レポート設定やしきい値の設定を別のサーバにコピーして設定します。多数のサーバを同じ値に設定する場合に便利です。 →「3.9.6 設定値を他のサーバへコピーする」（P.240）
単位の設定	温度表示の測定単位を設定します。
ユーザ認証	「サーバへのログオン」画面が表示されます。選択したサーバへログオンするためのユーザ名とパスワードを定義します。
「アラーム」メニュー（サーバ管理モード時のみ）	
マネージャ	アラームサービスが起動し、アラームマネージャ画面が表示されます。アラームマネージャでは、アラームログリストに格納されたアラームメッセージを参照したり、編集したりできます。 →「3.5.2 アラームマネージャ」（P.154）
モニタ	アラームサービスが起動し、アラームモニタ画面が表示されます。アラームモニタでは、受領したすべてのアラームが表示されます。 →「3.5.1 アラームモニタ」（P.147）
設定	アラームサービスが起動し、アラームの設定画面が表示されます。アラームの種類、アラームの通知方法などの設定を行います。 →「3.5.3 アラーム設定」（P.156）
受領	選択したサーバのアラームを受領します。
すべて受領	すべてのサーバのアラームを受領します。

表：管理コンソールのメニュー

メニュー項目	説明
「レポート」メニュー（サーバ管理モード時のみ）	
マネージャ	レポートマネージャを起動し、レポートの作成／停止を実行できます。 →「3.9.5 レポートマネージャ」（P.236）
一覧	レポート一覧を起動し、アクティブなすべてのレポートを表示します。
「しきい値」メニュー（サーバ管理モード時のみ）	
マネージャ	しきい値マネージャを起動し、サーバのしきい値の有効化や無効化を行います。 →「3.9.4 しきい値マネージャ」（P.232）
一覧	しきい値一覧を起動し、アクティブなすべてのしきい値を表示します。
「ツール」メニュー	
アーカイブマネージャ	アーカイブマネージャを起動します。 →「3.7.1 アーカイブマネージャの起動」（P.206）
エクスポートマネージャ	エクスポートマネージャを起動します。バージョン管理モードのときのみ有効です。 →「3.8 エクスポートマネージャ」（P.215）
パフォーマンスマネージャ	パフォーマンスマネージャを起動します。サーバ管理モードのときのみ有効です。 →「3.6 パフォーマンスマネージャ」（P.186）
Global Flash	使用できません。
「ウィンドウ」メニュー	
アイコンの整列 重ねて表示 縦に並べて表示	サーバ一覧を含む、すべてのウィンドウの表示方法を切り替えます。他の Windows アプリケーションのウィンドウメニューと同様です。
すべて閉じる	サーバ一覧以外の、すべてのウィンドウを閉じます。
「ヘルプ」メニュー	
トピックの検索	ServerView のヘルプを起動します。
アラーム	弊社によって指定されたアラームの説明を表示します。
アイコン	ServerView の表示要素の説明を含む Server Manager Help システムのセクションを開きます。
用語	ヘルプが起動し、システム用語集が表示されます。
ServerView について	ServerView のバージョン情報を表示します。

● 右クリックメニュー

操作対象のサーバを右クリックすると、以下のメニューが表示されます。

表：ポップアップメニュー

メニュー項目	説明
新しいサーバ	未定義の監視対象サーバをサーバ一覧に追加します。 →「3.9.2 監視対象サーバ（オブジェクト）の追加」（P.227）
開く	サーバ管理モードの場合は「ServerView」を、バージョン管理モードの場合は「Inventory View」（→ P.132）を起動します。
ステータス	選択したサーバのステータス一覧を表示します。
アプリケーション	アプリケーションの一覧を表示します。
エクスポートマネージャ	エクスポートマネージャ（→ P.215）を起動します。バージョン管理モードの場合のみ有効です。
コピー	サーバをクリップボードにコピーします。
貼り付け	クリップボードにコピーされているサーバを貼り付けます。
削除	サーバを削除します。
サーバのプロパティ	サーバのプロパティを起動し、サーバ情報の確認または変更を行います。 →「3.9.3 サーバ情報の確認／変更」（P.231）
ASR のプロパティ	ASR のプロパティを起動します。
接続テスト	接続テストを行います。
サーバの再検出	サーバのステータスをチェックします。
しきい値マネージャ	しきい値マネージャを起動します。
レポートマネージャ	レポートマネージャを起動します。
アラーム受領	未受領のアラームを受領します。
今すぐアーカイブを取得	現在のサーバ状況をアーカイブします。

3.9.2 監視対象サーバ（オブジェクト）の追加

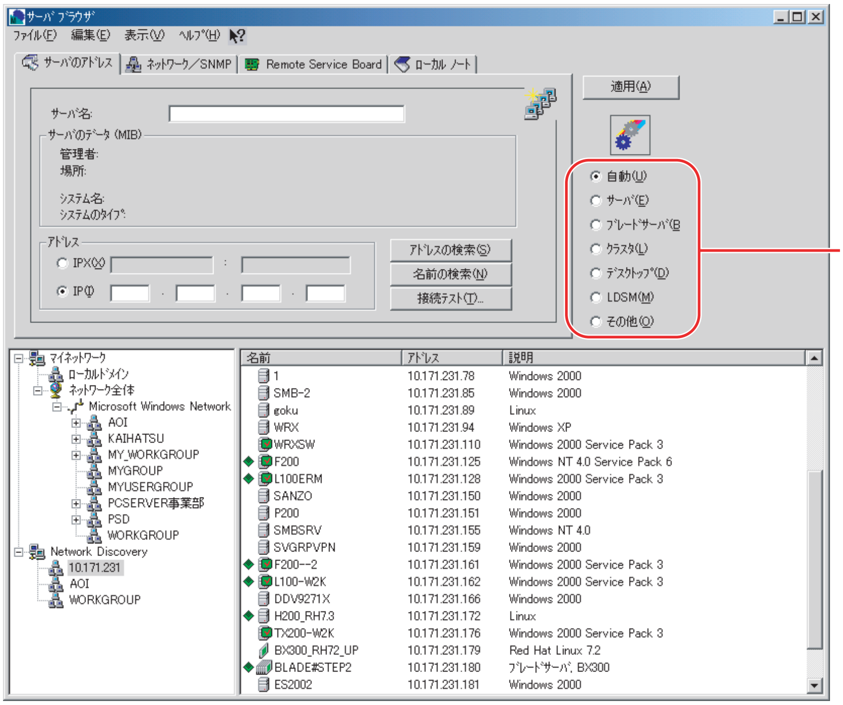
ネットワーク上の監視対象サーバを、サーバの一覧に追加します。

■ 新しいサーバを追加する

新しく監視対象となるサーバ（およびオブジェクト）を ServerView に設定します。

1 「ファイル」メニュー →「新しいサーバ」の順にクリックします。

「サーバブラウザ」画面が表示され、ネットワーク上に存在するノードの情報が表示されます。



2 サーバのタイプを指定します。

追加するサーバのタイプは正しく指定してください。誤って登録した場合、登録したサーバの監視を正しく行えない場合があります。
（例：一般的なサーバを「ブレードサーバ」タイプで登録した場合など）

表：サーバタイプ

タイプ名	説明
自動	追加するサーバのタイプを自動検出します。
サーバ	ServerView エージェントで監視するサーバを追加します。
ブレードサーバ	ブレードサーバを追加します。
クラスタ	クラスタシステムを追加する場合に選択します。未サポートです。
デスクトップ	デスクトップを追加する場合に選択します。未サポートです。
LDSM	LDSM で監視しているサーバを追加する場合に選択します。
その他	サーバ以外の TCP/IP オブジェクトを追加する場合に選択します。

3 一覧から追加するサーバを選択します。

・追加するサーバをクリックすると、「サーバ名」「IP アドレス」に値が表示されます。
・ネットワークのグループを「サーバの一覧」画面のグループツリー表示域にドラッグして、グループ全体を追加することもできます。

POINT

- 「サーバの一覧」画面に登録されているサーバと、同じ名前または同じネットワークアドレスのサーバを追加することはできません。
- ネットワークエンティティ全体を「サーバの一覧」画面に追加することができます。この場合、ネットワーク内のすべてのコンピュータが、新しいグループとして追加されます（ただし、参照できなかったコンピュータは追加されません）。
- ブレードサーバ内に装着された個々のサーバブレードについて、［すべてのサーバ］グループに追加しないでください。ブレードサーバの場合は、個々のサーバブレードに対しての監視は行いません。サーバブレードを「サーバの一覧」画面に追加しようとした場合、そのサーバブレードを含むブレードサーバ全体を追加するかどうかの確認画面が表示されます。

4 以下のタブ画面を必要に応じて設定します。

［ネットワーク /SNMP］タブ

ネットワークのパラメータを設定します。
「コミュニティ名（ユーザコミュニティの名前）」／「ポーリング間隔」／「タイムアウト値」／「接続状態変更トラップ（サーバのステータスが変化したときにトラップを送信する）」／「更新間隔」（開いたウィンドウを更新する間隔）が設定できます。

［リモートサービスボード］タブ

リモートサービスボードをサポートしている場合は、サーバのセカンダリチャネルの IP アドレスを設定します。［RSB 接続テスト］をクリックすると、RSB と接続できるかどうかの確認が行われます。

［ローカルノート］タブ

サーバのローカルノートを入力します。「サーバの一覧」ウィンドウでサーバを見つける際などに役立ちます。［MIB からコピー］をクリックすると、エージェントから取得した MIB 情報がローカルノートに追加されます。

5 ［適用］をクリックします。

「サーバの一覧」画面に追加されます。

■ Network Discovery によるサーバの追加

Network Discovery では、サブネット（IP アドレスの最初の 3 桁）、もしくはドメイン名を指定することにより、その範囲のコンピュータ名と説明情報を検索し、表示します。
サブネットによる検索は、Windows NT ドメインによる検索より、より大きな範囲での検索を可能とします。また、DNS 参照、PING などの指定も可能です。
これにより、Linux サーバの検索やブレードサーバの検索などが可能となります。
サーバを選択して［適用］をクリックするか、ドラッグすることにより、「サーバの一覧」画面に簡単に追加できます。

● サブネットを Network Discovery グループに追加する

1 「ファイル」メニュー →「サブネット追加」の順にクリックします。

2 IP アドレスの最初の 3 桁を指定します。

検索された IP 配下のコンピュータが一覧表示されます。

● ドメインを Network Discovery グループに追加する

以下のいずれかの方法により、ドメインを Network Discovery に追加します。

1 「ファイル」メニュー →「ドメイン追加」の順にクリックします。

2 ドメイン名を入力します。

Windows NT サーバドメイン名のみ指定することができます。
Microsoft Windows Network で検出できなかったドメイン名を入力した場合、エラーメッセージが表示されます。

または

1 ドラッグ操作により、マイネットワークグループ内のドメインを Network Discovery グループにコピーします。

すべてのユーザ定義ドメインは、Network Discovery グループに追加可能です。

POINT

- サブネットまたはドメインを Network Discovery グループから削除する
  削除したいサブネットまたはドメインを、Network Discovery グループから選択し、「ファイル」メニュー →「削除」の順にクリックするか、【Delete】キーを押します。
- ブラウザオプションを変更する
  変更する IP またはドメインを選択し、右クリックして「オプション」を選択します。
  ブラウザオプションには、以下の 2 つが用意されています。
  ・DNS、WINS、またはブロードキャストでホスト名を獲得
  通常ネットワークの検索には SNMP プロトコルを使用して、ホスト名とデスクリプション情報を取得しますが、このオプションを選択すると、SNMP リクエストに失敗した場合にも、DNS、WINS、ブロードキャストによる名前解決を行えます。
  ・PING（ICMP）を用いて管理可能か検査
  通常ブラウザは SNMP プロトコルを使用してオブジェクトのタイプと管理可能かをチェックしますが、このオプションを選択すると、SNMP リクエストに失敗した場合にも PING（ICMP）によりアクセス可能かをチェックします。
- ブラウザオプションの有効範囲について
  ブラウザオプションの設定は、ある特定のサブネットもしくはサーバブラウザ全体について有効にできます。ブラウザオプション画面で［OK］をクリックした場合は、選択したサブネットについてのみ有効となります。［すべて更新］をクリックした場合は、サーバブラウザ全体について有効になります。
- マイネットワークもしくはドメインについてブラウザオプションを設定した場合、サーバブラウザ全体に対して設定されます。

- オプション設定画面で、ホスト名の検索や PING によるチェックを無効にすると、ブラウジングを中止できます。
  これらのオプションを選択した場合、処理が完了するまでに非常に時間がかかることがあります。
- 不明なサーバの表示を行うには
  「表示」メニュー →「不明なサーバの表示」の順にクリックすると、不明なサーバをブラウザ画面に表示することができます（デフォルトでは表示しません）。
  なお、不明なサーバとは、以下を示します。
  ・ホスト名、デスクリプション情報が存在しない
  ・PING リクエストに応答がない（PING オプションが選択されている場合のみ）
- 画面の更新
  ・「表示」メニュー →「更新」の順にクリックすると、ブラウザ画面を最新の情報に更新します。
  ・「表示」メニュー →「すべて更新」の順にクリックすると、参照中のすべてのサブネットとドメインを最新の情報に更新します。

■ グループの作成

グループを作成し、監視サーバをグループごとに管理できます。

1 グループツリーから、親になるグループを選択します。

2 「ファイル」メニュー →「新しいグループ」の順にクリックします。

新しいグループが作成されます。任意のグループ名を設定してください。

■ サーバの削除

今後監視対象としないサーバを ServerView の監視対象から削除します。

1 サーバの一覧から、削除するサーバを選択します。

2 「ファイル」メニュー →「削除」の順にクリックします。

「サーバの一覧」画面から削除されます。

■ サーバ一覧表示をフィルタリングする

フィルタ機能を使用すると、「サーバの一覧」画面に表示されるサーバを特定のサーバに限定できます。
たとえば、監視対象サーバが多い場合などに、「異常」サーバのみに絞って表示させたい場合などに便利です。

1 「表示」メニュー →「サーバのフィルタ」の順にクリックします。

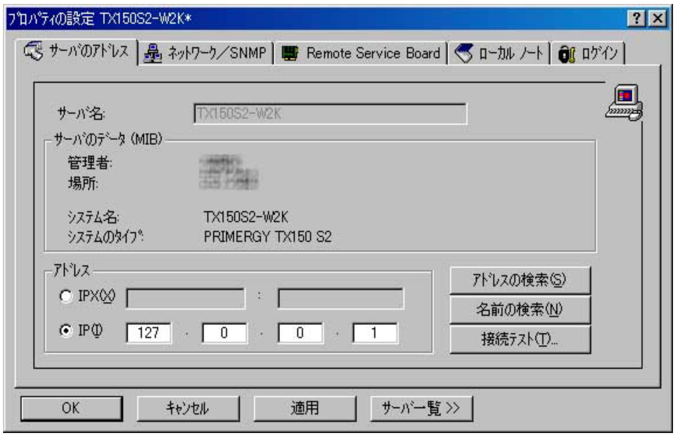
2 表示させるか、させないかを選択して［OK］をクリックします。

3.9.3 サーバ情報の確認／変更

サーバの各設定内容を確認／変更する場合は、以下の操作を行います。

1 サーバを右クリックし、「サーバのプロパティ」をクリックします。

「サーバのプロパティ」画面が表示されます。



POINT

- 「サーバのプロパティ」は、以下の方法でも表示できます。
  サーバを選択し、「ファイル」メニュー →「サーバのプロパティ」の順にクリックします。

2 各タブ画面で、設定を確認／変更します。

各タブ画面で項目を設定した場合は、必ず［適用］をクリックして別のタブ画面をクリックしてください。

［サーバのアドレス］タブ

サーバの IP アドレスを確認／変更できます。IP アドレスを変更した場合、［接続テスト］をクリックすると、正しく接続できるかどうかの確認が行われます。

［ネットワーク／ SNMP］タブ

ネットワークのパラメータを確認／変更します。設定できる項目は、「コミュニティ名（ユーザコミュニティの名前）」／「ポーリング間隔」／「タイムアウト値」／「接続状態変更トラップ（サーバのステータスが変化したときにトラップを送信する）」／「更新間隔」（開いたウィンドウを更新する間隔）です。
ネットワークやサーバの負荷が高い場合は、「ポーリング間隔」、「タイムアウト値」、「更新間隔」を変更することによって改善することができます。

［リモートサービスボード］タブ

サーバのセカンダリチャネルの IP アドレスを確認／変更できます。［接続テスト］をクリックすると、リモートサービスボードとの接続を確認できます。
［設定］をクリックすると、リモートサービスボード の Web インタフェースが起動し、「ユーザ名」と「パスワード」入力の画面が表示されます。Web インタフェースについては、それぞれ以下の項を参照してください。

- リモートサービスボード（PG-RSB101）の場合：「6.3.1 Web インターフェースの起動」（→ P.353）
- リモートサービスボードの場合：→「7.3.1 Web インターフェースの起動」（P.409）

3
ServerView の使用方法

[ローカルノート] タブ
サーバのローカルノートを編集できます。ローカルノートは、「サーバの一覧」画面でサーバを見つける際に役立ちます。[MIB からコピー] をクリックすると、エージェントから取得した MIB 情報がローカルノートに追加されます。ローカルノートが MIB 情報以外同一の場合、その特定の場所に「MIBINFO」が表示されます。

[ログイン] タブ
サーバへ設定値の書き込みを行う際に使用する「ユーザ名」および「パスワード」を設定します。パスワードを設定するには、「パスワード設定」チェックボックスをチェックしてから設定します。また、セキュリティ上の理由から、パスワードはデータベースに保存されません。「パスワードを保存する」をチェックした場合、プログラムが終了するまでは有効ですが、再度プログラムを起動すると、再度設定する必要があります。

[TCP アプリケーション] タブ
このタブはサーバの種類で TCP/IP 機器を選択した場合のみ表示されます。TCP/IP 機器用のアプリケーションの設定ができます。
[参照] をクリックして、アプリケーションのパスとコマンドラインパラメータを指定するか、または直接入力してください。

3 [OK] をクリックして、プロパティを終了します。

3.9.4 しきい値マネージャ

一部のパラメータに、任意の値を設定できます。これをしきい値といい、上限や下限、相対しきい値、ポーリング間隔などが設定できます。
アラームマネージャで設定したアクションを結び付けることができ、相対値の上限／相対値の下限／固定値の上限／固定値の下限の 4 つのしきい値で、アラーム管理にリンクされます。
しきい値の測定とアラームの割り込みは、サーバのエージェントにより個別に処理されます。

POINT

- しきい値設定によるしきい値の監視は、Linux サーバでは未サポートです。
- 監視される変数の選択や設定は、テーブル（しきい値テーブル）にグループ化され、しきい値マネージャでサーバに割り当てられます。同じ変数が誤って 2 つのテーブルで参照され、その変数が停止されることを防ぐために、1 つのサーバで開始できるテーブルの数は 1 つのみです。
- しきい値マネージャで、サーバ（ハードウェア）が持つ基本しきい値と同じ項目を設定した場合、基本しきい値との 2 元監視となります。しきい値の詳細については、「付録 E しきい値リスト」（→ P.537）を参照してください。
- 相対値の設定を行うことにより、現在の値から相対値以上の変化が起こったことを検出できます。

重要

- しきい値マネージャでしきい値を設定しても、異常発生時の対処（ASR）の対象にはなりません。異常発生時の対処（ASR）に対しては、サーバ（ハードウェア）に設定されている基本しきい値のみが対象となります。また、しきい値マネージャによる基本しきい値の変更はできません。

■ しきい値の設定

1 しきい値を設定するサーバを選択します。

2 「しきい値」メニュー →「しきい値マネージャ」の順にクリックします。

「しきい値マネージャ」画面が表示されます。

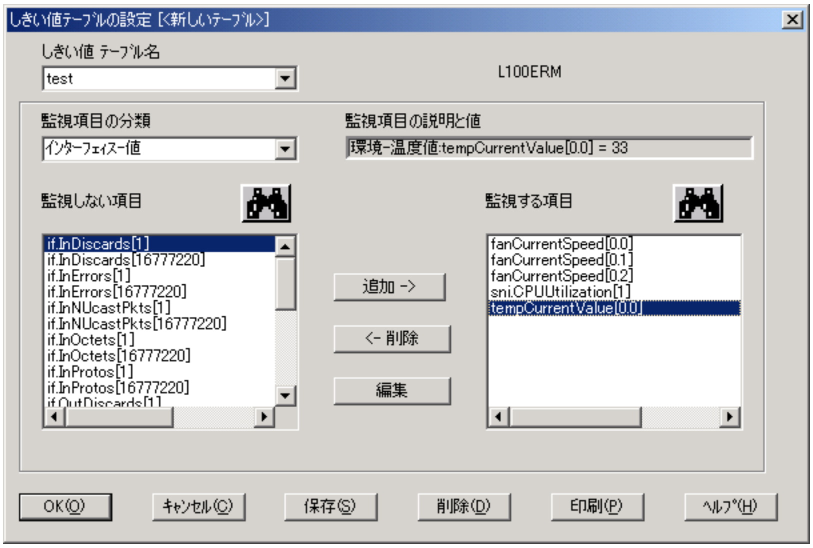
3 サーバに設定する「しきい値テーブル」を選択します。

新規にしきい値テーブルを設定する場合、および値を変更する場合は、[テーブルの設定]をクリックしてください。

<u>テーブルの設定</u>

1. [テーブルの設定]をクリックします。

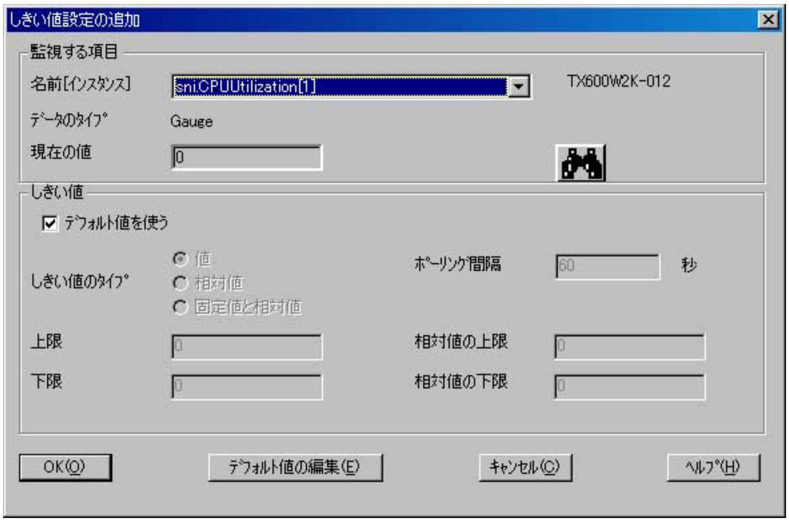
   「テーブルの設定」画面が表示されます。



2. 「監視項目の分類」から、分類を選択します。

   「監視しない項目」に項目一覧が表示されます。

3. 「監視しない項目」リストから項目を選択して、［追加］をクリックします。
「しきい値設定の追加」画面が表示されます。
各項目の詳細についてはヘルプを参照してください。



4. しきい値を設定して［OK］をクリックします。
設定した項目が「監視する項目」に追加されます。
他の項目についても同様に設定してください。

5. すべての項目が設定できたら［OK］をクリックします。
しきい値テーブル名の設定画面が表示されます。

6. しきい値テーブル名を入力して［OK］をクリックします。
しきい値マネージャ画面に戻ります。

4 ［開始］をクリックします。

「ファイル名を付けて保存」画面が表示されます。

5 しきい値名を入力して、［OK］をクリックします。

「ユーザ名とパスワードの確認」画面が表示されます。

6 管理者権限を持つログオン名とパスワードを入力して、［OK］をクリックします。

設定したしきい値テーブルでの監視が開始されます。
しきい値テーブルでの監視を停止する場合は、［停止］をクリックします。

POINT

- しきい値マネージャでの設定は、ServerView で元々監視している各監視項目と直接関連ありません。
- しきい値マネージャで設定した範囲を逸脱した場合、以下のしきい値逸脱のトラップが送信されますが、「環境」で表示される温度センサの設定範囲など元々の監視項目で使用されている値は変更されないため、エラーは報告されません。
  - ・固定値で設定した値から逸脱：Threshold exceeded、Threshold underflow
  - ・相対値で設定した値から逸脱：DELTA-Threshold exceeded、DELTA-Threshold underflow

  このトラップに対して何らかのアクションを起こしたい場合は、「アラーム設定」の「アクションの作成／編集」画面で、該当 Trap に対するアクションを設定してください。

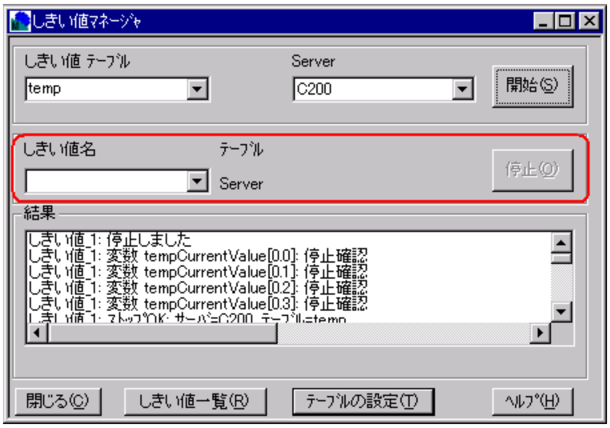
■ しきい値での監視を停止する

しきい値での監視を停止します。

1 「しきい値」メニュー →「マネージャ」の順にクリックします。

「しきい値マネージャ」画面が表示されます。

2 停止する「しきい値名」を選択して、[停止] をクリックします。



しきい値での監視が停止します。

3 [閉じる] をクリックして終了します。

■ しきい値の確認

しきい値での監視が行われているしきい値一覧を表示します。

1 「しきい値」メニュー →「一覧」の順にクリックします。

「しきい値一覧」画面が表示されます。

2 内容を確認します。

しきい値の詳細を確認したい場合は [しきい値マネージャ] をクリックしてください。開始中のしきい値テーブルの設定を変更する場合は、一度停止してから設定を変更し、再度開始してください。

3 [閉じる] をクリックして終了します。

3.9.5 レポートマネージャ

レポートを作成すると、サーバを長期的に監視するときに役立ちます。
レポート設定で選択した値は、一定の期間、定期的に計測されて記録されます。その後、データは評価のために表または図の形で表示されます。
これにより、パフォーマンスの問題によって不定期に発生する問題を、プロセッサの追加、ディスク容量の追加、より高速なネットワークアダプタのインストールなどの方法により解決できます。

POINT

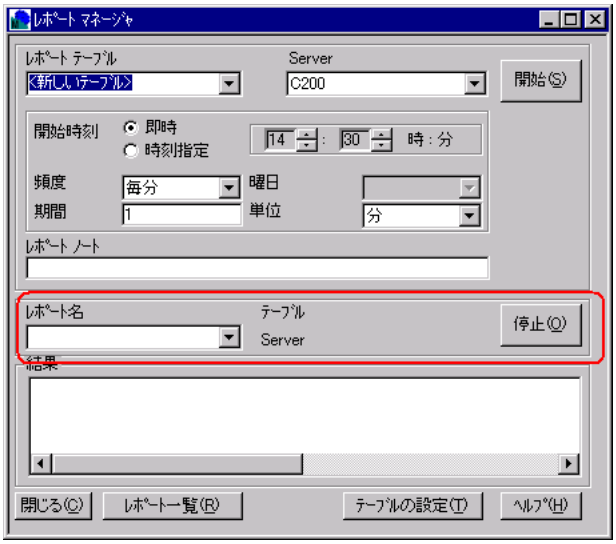
- レポートマネージャの設定と、ServerView で監視している各監視項目は直接関係ありません。レポート設定を行わなくても、各監視および通知は行われます。
- 2 つの異なるテーブルで同じ変数が選択されることを防ぐために、1 つのサーバで開始できるテーブルの数は 1 つのみです。
- レポートは、最大 999 個まで作成できます。それ以上のレポートを作成したい場合は、既存のレポートを削除する必要があります。

■ レポートの作成

1 サーバ一覧から、レポートを作成するサーバを選択します。

2 「レポート」メニュー →「レポートマネージャ」の順にクリックします。

「レポートマネージャ」画面が表示されます。



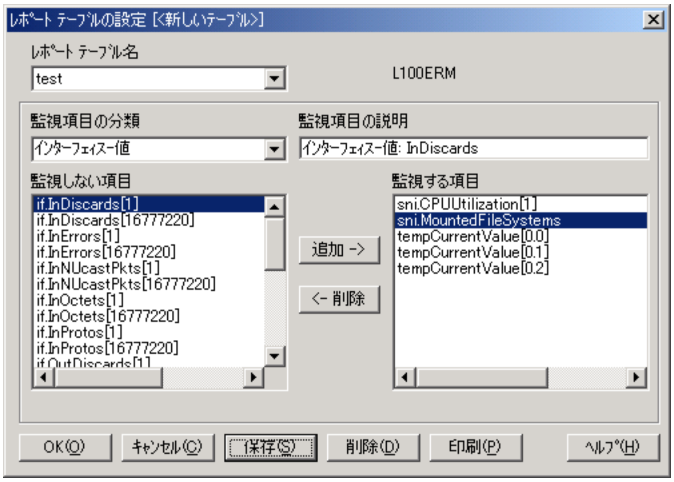
3 サーバに設定する「レポートテーブル」を選択します。

新しくレポートテーブルを設定する場合、および値を変更する場合は、[テーブルの設定] をクリックしてください。

テーブルの設定

1. ［テーブルの設定］をクリックします。

「テーブルの設定」画面が表示されます。



2.「監視項目の分類」を選択します。

3.「監視しない項目」リストからレポートをとりたい項目を選択して、［追加］をクリックします。

「監視する項目」に追加されます。

他の分類の項目についても同様に設定します。ただし、1 つのレポートテーブルで設定できる項目は 13 個までです。

4. レポートを取る項目が設定できたら［OK］をクリックします。

新しいテーブルの場合は、「ファイル名を付けて保存」画面が表示されます。

レポートテーブル名を入力して［OK］をクリックします。

4 開始時刻、頻度、レポート作成期間を設定します。

「期間」には、レポート作成期間を指定します。「無期限」を指定すると、システム値が常に監視されます。

5 レポートノートを入力します。

どのようなレポートなのか、などの説明文を入力します。

6 ［開始］をクリックします。

「レポート名入力」画面が表示されます。

7 レポート名を入力して［OK］をクリックします。

指定した開始時刻にレポートが作成されます。

期間が設定されている場合は、期間を過ぎると記録が停止します。

8 ［閉じる］をクリックします。

レポートマネージャが終了します。

■ レポートを停止する

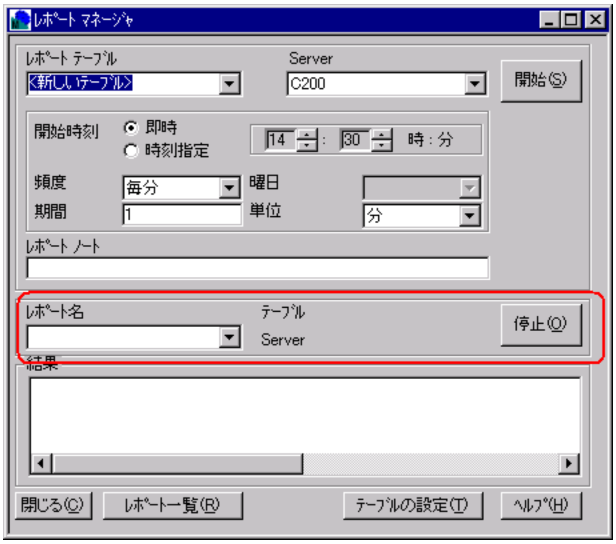
制限期間終了前にレポート作成を停止します。

1 サーバ一覧から、レポートを作成するサーバを選択します。

2 「レポート」メニュー →「レポートマネージャ」の順にクリックします。

「レポートマネージャ」画面が表示されます。

3 停止するレポート名を選択し、[停止] をクリックします。



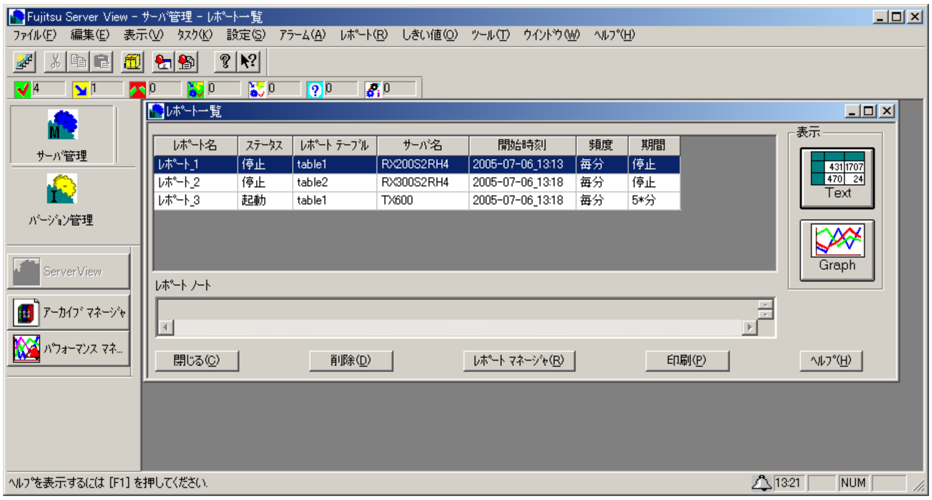
4 [閉じる] をクリックします。

レポートマネージャが終了します。

■ レポートを参照する

1 「レポート」メニュー →「一覧」の順にクリックします。

「レポート一覧」画面が表示されます。



2 内容を確認します。

レポート内容の詳細確認

1. 一覧から詳細を確認したいレポートを選択し、［Text］をクリックします。

「Text」画面が表示され、レポートの各項目ごとに詳細内容が表示されます。

レポート内容をグラフ表示で確認

1. ［Graph］をクリックします。

「Graph」画面が表示され、レポート内容の履歴がグラフ表示されます。

3 ［閉じる］をクリックして終了します。

POINT

- レポートは、ASCII 形式で作成されます。作成されたテキストファイルは、"repnnn.txt" という名前で、"¥ServerView_installdir¥Reports¥server_name" フォルダに保存されます。
- 次の手順で、レポートを Excel にエクスポートできます。
  1. Excel テキストウィザードを使用して、レポートを Excel にインポートします。
     この時点では、レポートのフィールドは固定幅ではなく、空白で区切られていることに注意してください。
  2. Excel のレポートレイアウトをカスタマイズするか、グラフィック形式に変換します。

3.9.6 設定値を他のサーバへコピーする

ServerView で指定された設定（しきい値やレポートなど）を、別のサーバにコピーして設定することができます。多数のサーバを同じ値に設定する場合に便利です。

1 サーバの設定を完了後、「設定」メニュー →「デフォルトの設定」の順にクリックします。

「デフォルトの設定」画面が表示されます。

2 「コピー元」に、設定元となるサーバを選択します。

3 「コピー先」に、設定をコピーするサーバを指定し、「コピーオプションの選択」のコピーする設定をチェックします。

4 ［コピー］をクリックします。

コピー先に指定したサーバに、コピー元サーバと同じ設定が適用されます。

■ 設定値をファイルへ書き込む、またはファイルから設定値を読み込む

設定値をファイルに書き込み、またはファイルから設定値を読み込むこともできます。
「デフォルト設定」画面で以下のように設定します。

- 「コピー元」に「セット」を指定し、読み込むファイルを指定します。
- 「コピー先」に「セット」を指定し、書き込み先ファイルを指定します。

3.9.7　ハードウェアの監視

1　対象のサーバを選択します。

POINT

- ブレードサーバの場合は、「3.9.8 ブレードサーバの状態確認」（→ P.258）を参照してください。

2　［ServerView］をクリックします。

「ServerView ［サーバ名］」画面が表示され、選択したサーバに関する詳細情報が表示されます。

POINT

- ServerView 画面は、以下のいずれかの方法でも表示できます。
  - ・サーバをダブルクリックする。
  - ・サーバを選択し、「ファイル」メニュー →「開く」の順にクリックする。
  - ・サーバを右クリックし、「開く」をクリックする。
- RSB モードの場合は、以下の項目のみ有効です。
  ただし RSB モードの状態で、かつリモートサービスボードを搭載している場合は参照できません。
  - ・アクション
  - ・ベースボード
  - ・電源
  - ・環境
- RSB モードの状態で、かつリモートサービスボードを搭載している場合、対象のサーバを選択して［ServerView］をクリックすると、以下のダイアログが表示されます。［設定］をクリックすると、リモートサービスボードの Web インタフェースが起動します。
  詳細は「7.3.1 Web インターフェースの起動」（→ P.409）を参照してください。

システム識別灯表示

システム識別灯表示の切り替えができます。サーバがシステム識別灯表示をサポートしている場合のみ有効です。システム識別 LED の現在の状態がアイコンで表示されます。

次の 3 種類のアイコンがあります。

:点灯中　 :消灯中

:点滅中（システム異常を示します）

表示データ

現在のデータ（Online Data）か、アーカイブデータ（Archive Data- 作成日時）のいずれかを指定できます。サーバが利用不可能な場合、「アーカイブデータ」を選択して、作成済みのアーカイブデータを表示できます。これにより、必要な場合は障害の原因を確認できます。

3 サーバの状態を確認します。確認したい項目のボタンをクリックします。

表：サーバの状態確認

項目	説明
構成情報	選択したサーバの一般情報を表示します。以下の情報が表示されます。 ・System Info（インストールされている OS などのシステム情報） ・MassStorage（ハードディスク、論理ドライブ、ファイルシステムに関する情報） ・Network Interfaces（接続されているネットワークカードに関する情報） ・Expansion boards（拡張ボードに関する情報） ・Recovery（エラーバッファの内容） ・Others（サーバの電源とアップ／ダウン時間） ・Overall Information（すべての情報）
アクション	サーバの継続的な監視と電源に関する管理を行います。異常が発生した場合の対処方法を設定したり、サーバの再起動、電源切断などの操作が行えます。詳細については、「■ アクション」（→ P.244）を参照してください。
オペレーティングシステム	サーバにインストールされている OS に関するデータを表示します。 現在実行しているプロセスに関するデータや、OS の名前、バージョン、言語、システム稼働時間などが表示されます。
システムステータス	ステータスエージェントのシステム情報を表示します。 システムは、コンポーネントが集合したサブシステムへ細分化されており、ツリービューでは、既知のすべてのサブシステムとコンポーネントのステータスについての概観が表示されます。
外部記憶装置	ハードディスクとコントローラに関する詳細情報を表示します。 詳細については、「■ 外部記憶装置の状態確認」（→ P.246）を参照してください。

表：サーバの状態確認

項目	説明
ベースボード	プロセッサ、メモリモジュール、バスシステム、コントローラに関するデータ（ベースボードの Board-ID や OS の BIOS バージョンなど）を表示します。 詳細については、「■ ベースボードの状態確認」（→ P.254）を参照してください。
電源	サーバの電源に関する設定とステータスが表示されます。 詳細については、「■ 電源」（→ P.129）を参照してください。
環境	サーバとサーバに接続されているメモリ拡張ユニットの温度とファンのステータスが表示されます。また、ドアやサーバのケースが開いているかどうかも表示されます。 詳細については、「■ 環境」（→ P.128）を参照してください。
ネットワークインタフェース	ネットワークに関するデータを取得できます。 常に情報を取得する必要があるリストエントリを最初にクリックしてください。 ・既存のネットワークボードに関して取得できる情報 アダプタモデル／種類／物理アドレス／ IPX ネットワーク／スピード／ IP アドレス／ IP サブネットマスク／バスタイプ＆番号／スロット番号／ファンクション／ IRQ ／ DMA チャネル／ I/O アドレスレンジ／メモリアドレスレンジなど
更新	画面に表示されている情報を更新します。
しきい値	しきい値マネージャが起動します。 詳細については、「3.9.4 しきい値マネージャ」（→ P.232）を参照してください。
レポート	レポートマネージャが起動します。 詳細については、「3.9.5 レポートマネージャ」（→ P.236）を参照してください。
デフォルト	デフォルト設定が起動します。 詳細については、「3.9.6 設定値を他のサーバへコピーする」（→ P.240）を参照してください。
ヘルプ	各項目についてのヘルプが表示されます。

4 **各項目の確認が終了したら、［閉じる］をクリックします。**

ServerView 画面が終了し、サーバの一覧画面に戻ります。

■ アクション

［アクション］をクリックすると、「アクション」画面が表示されます。
サーバの継続的な監視とアラームへの応答について設定します。

POINT

- ［RSB］ボタンは、RSB が利用でき、かつ Server Control agent でサポートされている場合のみ有効になります。
  なお、画面を開いている間は、この内容は自動更新されません。［更新］ボタンをクリックして最新の情報を表示してください。

● エラーメッセージバッファの内容

エラーメッセージバッファに表示される内容は、リモートサービスボードがある場合と、ない場合で異なります。

- リモートサービスボードがある場合
  リモートサービスボードが獲得した SEL の情報と、リモートサービスボードが自分自身で検出したエラーがエラーメッセーッジバッファの内容が表示されます。
- リモートサービスボードがない場合
  サーバ本体の SEL の内容がエラーメッセージバッファに表示されます。

一覧は日付／時間順に並べられていて、最新のエントリが一番上になります。
メッセージは、「C」（メッセージのレベルが危険である場合）、日付、時刻、エラー番号、メッセージテキストの 5 つの部分からなります。
時刻は、グリニッジ標準時、またはローカル時間（日本時間）のどちらで表示するか選択できます。

POINT

- コピーボタン、印刷ボタンにより、アクション画面に表示されているエラーメッセージバッファの内容などをクリップボードにコピーしたり、プリンタに印刷することができます。

● ブートオプションの内容

ブートオプションには起動プロセスに関する情報が表示されます。これらの情報は本体 BIOS に設定されている情報を、ServerView が表示します。

- エラー発生時の設定
  エラー発生時に停止するかどうかなどの設定が表示されます。
- 現在の起動状態
  POST の結果が表示されます。
- 電源投入要因
  電源の投入要因が表示されます。
- 電源切断要因
  電源の切断要因が表示されます。

● Maintenance（メンテナンス）

［Maintenance］をクリックすると、「メンテナンス」画面が表示されます。内蔵の CMOS バッテリの使用期間やファンに関する情報が表示されます。

● ASR（自動再構築／再起動）

障害発生時のサーバの動作について設定できます。詳細については、「3.4 異常発生時の対処（ASR）」（→ P.138）を参照してください。

● RSB（Remote Service Board）

［RSB］をクリックすると、「RSB プロパティ」画面が表示されます。RSB のパラメータを設定できます。

- ［再起動設定］タブ
  サーバの起動／シャットダウン、再起動の定義、起動ステータスの表示を行うことができます。RSB モードで ServerView を起動した場合は、電源の投入と切断処理が可能です。
  ただし、サーバ電源の投入と切断処理はパスワードで保護されています。
- ［バックアップバッテリ］タブ
  未サポートです。
- ［インタフェース］タブ
  プライマリ／セカンダリチャネルと電話番号の設定を表示します。

● 再起動オプション

オプションを指定して操作ボタンをクリックすることにより、サーバのシャットダウン／再起動操作を行うことができます。各ボタンをクリックすると、セキュリティのためにログイン画面が表示されます。ServerView 管理権限のユーザ名とパスワードが必要です。

- Restart（再起動）
  サーバを再起動します。サーバが再起動されるまでに必要な経過時間を指定します。
- Shutdown & Off（シャットダウン／電源切断）
  サーバをシャットダウンし、電源を切ります。サーバがシャットダウン、または電源切断されるまでに必要な経過時間もここで指定します。

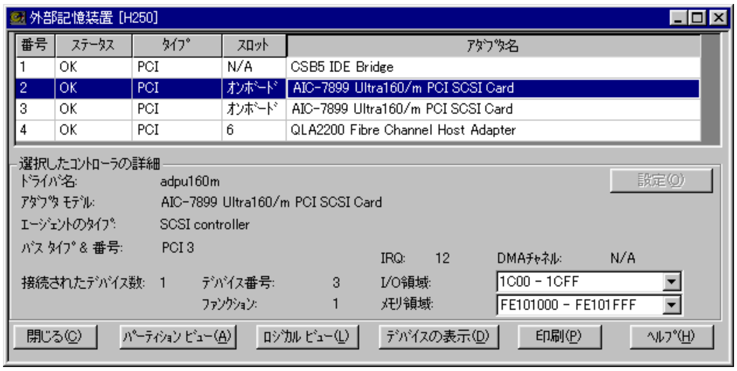
- Abort Shutdown（シャットダウンの中止）
  ［Restart］または［Shutdown & Off］をクリックして開始されるシャットダウンを中止します。ただし、すでにシャットダウンが開始された場合は中止できません。

POINT

- ログイン画面で「デフォルトユーザの変更」を行った場合、一時的にデフォルトユーザが変更されます。ただし、ServerView をいったん終了するとこの情報は失われます。デフォルトのログインユーザを変更する場合は、「サーバのプロパティ」を起動し、［ログイン］タブ画面で設定してください。設定方法については、「3.9.3 サーバ情報の確認／変更」（→ P.231）を参照してください。
- ［診断システムの起動］は未サポートです。

■ 外部記憶装置の状態確認

［外部記憶装置］をクリックすると、ハードディスクとコントローラに関する詳細情報が表示されます。



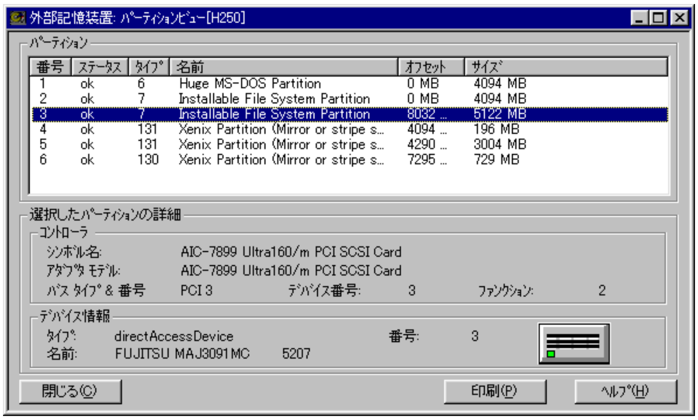
- コントローラリスト
  コントローラに関する重要なデータ、番号、ステータス（OK または FAIL）、タイプ（EISA、PCI、ISA）、スロット、ドライバ名が表示されます。
- 選択したコントローラの詳細
  HD と EISA MIB に関するデータが表示されます。

POINT

- 情報を取得するリストエントリを必ず最初に選択します。選択しないと、別のリストエントリの情報が表示されることがあります。

● パーティションビュー

［パーティションビュー］をクリックすると、最も重要なサーバパーティションデータ（番号、ステータス、種類、名前、オフセット、サイズ）が表形式で表示されます。

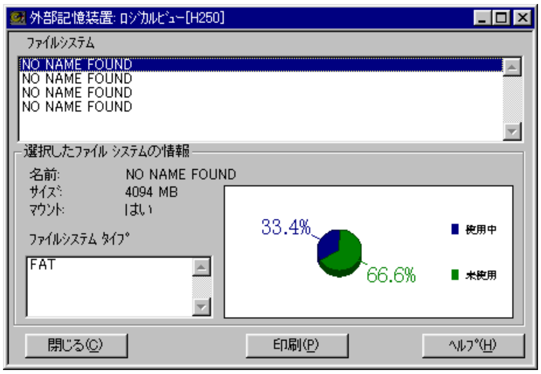


「選択したパーティションの詳細」には、リストから選択したパーティションに関する追加データが表示されます。

- コントローラ
  パーティションが所属するコントローラが表示されます。
- デバイス情報
  パーティションが作成されたデバイスが表示されます。

● ロジカルビュー

［ロジカルビュー］をクリックすると、論理ドライブ上に存在するファイルシステムに関する情報が表示されます。



- ファイルシステム
  選択したサーバのファイルシステムが表示されます。
- 選択したファイルシステムの詳細
  選択したファイルシステムに関する追加情報（名前、サイズ、マウント、ファイルシステムタイプ、パーセント単位の Used およびフリー状態のファイルシステム領域）が表示されます。

● デバイスの表示

［デバイスの表示］をクリックすると、特定のコントローラに接続されている記憶装置に関する詳細情報が表示されます。

- 選択したコントローラの詳細
  デバイスを制御するコントローラに関する最も重要なデータが再表示されます。表示されるデータは、シンボル名、アダプタモデル、デバイス番号です。
- 接続されたデバイスの一覧
  コントローラに接続されているデバイスに関する最も重要なデータが表示されます。表示されるデータは、番号、ステータス、S.M.A.R.T.、タイプ（HD-MIB を参照）、名前です。このリストから 1 つまたは複数のデバイスを選択できます。
- 選択したデバイスの詳細
  リストから選択したデバイスに関する追加データが表示されます。表示されるデータは、容量、SCSI チャネル、SCSI ターゲット Id、SCSI-LUN、セクタ、シリンダ、ブロックサイズ、セクタサイズ、ディスプレイのステータスを持つ Device Type のシンボルです。
  ・S.M.A.R.T.（Self Monitoring and Reporting Technology）
  S.M.A.R.T. に表示される情報は、S.M.A.R.T. プロシージャから返信されます。
  S.M.A.R.T. は、ハードデバイスのエラーを早期に検出するために使用する技術です（PDA = Prefailure Detection and Analysis）。SCSI ハードディスクドライブと ATA ハードディスクドライブがサポートされます。

● 設定

［設定］をクリックすると、選択したコントローラを設定するための RAID Manager の画面を開くことができます。

■ 外部記憶装置 - RAID コントローラの場合

SCSI アレイコントローラカード／ IDE-RAID コントローラカードに接続されているディスクの状態を表示することができます。
SCSI アレイコントローラカード／ IDE-RAID コントローラカードの監視および表示は、RAIDmanager ／ IDE-RAIDmanager を使用します。SCSI アレイコントローラカード／ IDE-RAID コントローラカードに添付の RAIDmanager ／ IDE-RAIDmanager を必ずインストールしてください。
RAIDmanager ／ IDE-RAIDmanager が検出したエラー情報を、管理コンソールに通知することができます。

重要

- ServerView の版数と RAIDManager ／ IDE-RAIDManager の版数により、SCSI アレイコントローラカード／ IDE-RAID コントローラカードの情報が、正しく表示されない場合があります。
このため、RAIDManager ／ IDE-RAIDManager などの RAID 管理ツールを使用して、状態を確認してください。

● デバイスの表示

「デバイスの表示」画面左側に、そのコントローラで定義済みのシステムドライブが一覧表示されます。表のエントリは、シリアル番号、ステータス、SCSI ID（PG-142B/PG-142C のみ）、メガバイト単位のサイズ、RAID レベル、キャッシュタイプです。
システムドライブを選択すると、これらのシステムドライブが定義されているハードディスクドライブがチャネル ID 表で強調表示されます。チャネル ID グリッドの選択ボタンは、ステータス（Online/Dead/Standby-Rebuild を示す色付きのシンボル）とサイズをメガバイト単位で表示させる場合に使用します。ハードディスクドライブの代わりに別のデバイス（CD-ROM、ストリーマ、プリンタなど）が接続されている場合は、対応するイメージが選択ボタンに表示されます。

● アダプタビュー

［コントローラ］アイコンをクリックすると、「アダプタビュー」画面が表示されます。
「ハードウェアの情報」には、デバイスのモデル、ファームウェアのバージョン、BIOS のバージョン、キャッシュサイズ、バスのタイプ、スロット、IRQ、ベースアドレス、EEPROM サイズ（PG-143B のみ）などコントローラ固有のデータが表示されます。
「ディスクアレイの情報」には、チャネル番号、再作成タスク優先順位、論理セクタサイズ、物理セクタサイズ、システムドライブ数、システムドライブの最大数、物理デバイス数、物理デバイスの最大数、BIOS のバージョン（PG-143B のみ）が表示されます。

● 物理的なデバイスの表示

［チャネル ID グリッドの選択］をクリックすると、「物理的なデバイスの表示」画面が表示され、接続されているデバイスに関する詳細情報が表示されます。
「SCSI デバイスの情報」には、デバイスモデル、デバイスタイプ（ディスク、CD-ROM など）、アダプタチャネル、チャネルのアダプタ ID、SCSI アトリビュート（Fast SCSI、Wide SCSI、タグ付きキューイング）に関する情報が表示されます。
「ディスクの情報」には、ステータス、SMART ステータス、キャパシティ、再作成速度、パリティエラー、ソフトエラー、ハードウェアエラー、その他のエラーが表示されます。

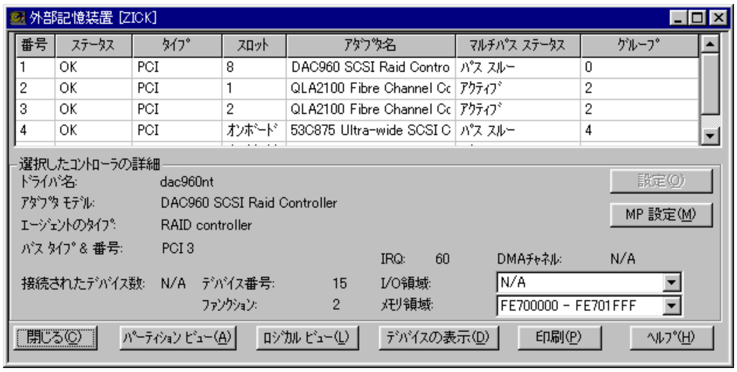
● ブリッジコントローラの詳細

SCSI ハードドライブブリッジコントローラがサーバにインストールされている場合、「外部記憶装置」画面の［デバイスの表示］をクリックすると、サーバ上の特定のコントローラに接続されている記憶装置に関する情報が表示されます。

［設定］をクリックすると、選択したコントローラを設定するために使用するアプリケーションが起動されます。
［RAID の表示］をクリックすると、選択したコントローラで定義されているシステムドライブに関する情報が表示されます。システムドライブを選択すると、それらのシステムドライブが定義されているハードディスクドライブがチャネル ID 表で強調表示されます。

■ 外部記憶装置 - MultiPath の場合

MultiPath がインストールされている場合、［外部記憶装置］をクリックすると、MultiPath に関する詳細情報が表示されます。



MultiPath を使用すると、複数の HBA（ホストバスアダプタまたはファイバチャネルホストバスアダプタ）を、冗長パスを経由して同一の記憶装置に接続できます。MultiPath により、接続や HBA の障害が発生してもデバイスに対する高可用性が得られます。障害が発生した場合、入力や出力は別の I/O パスを経由してデバイスに転送されます。さらに、負荷をより均等に分散するためにロードバランシング機能も提供されます。
ドライバの設計は、元になる SCSI またはファイバチャネルホストアダプタに依存しません。IDE ディスクコントローラはサポートされません。ドライバの設計は MSCS に準拠しています。
MultiPath がインストールされていると、「外部記憶装置」画面に、「マルチパスステータス」情報欄、「グループ」情報欄、［MP 設定］ボタンが追加されます。

● マルチパスステータス

マルチパスステータスには、次のいずれかの値が表示されます。

表：マルチパスステータス

値	意味
パススルー	2 番目のポートを使用できない。
アクティブ	起動中のチャネル。ユーザが選択する。
スタンバイ（非活性）	停止中。ユーザが選択する。ロードバランス機能が有効な場合、このステータスは表示されません。
無効	メンテナンスアクティビティのため停止中。
エラー	このポートでエラーが発生した。
MultiPath Port はありません	このチャネル／ポートは MultiPath 機能（atapi など）をサポートしない。

● グループ

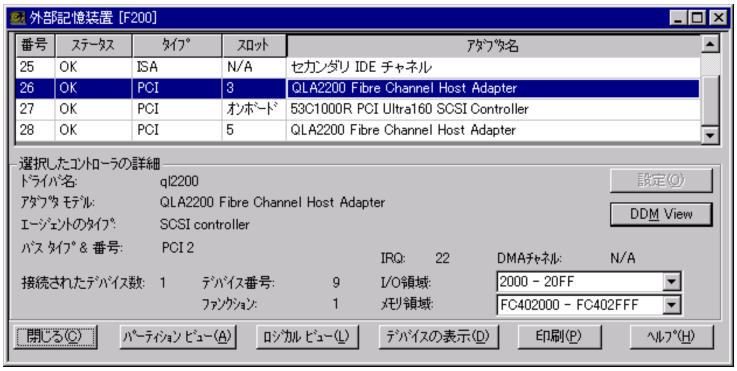
MultiPath のグループ番号、または MultiPath 機能にエントリが存在しない場合は「-」が表示されます。1 つのグループは、システムキャビネットと外部記憶装置キャビネット間の 2 つ（または最大 4 つ）の冗長接続で構成され、すべて同じデバイスに接続されます。

● MP 設定

MultiPath グループを設定する場合は、外部記憶装置リストでエントリを選択し、［MP 設定］をクリックします。「マルチパス構成グループ」画面が表示されます。各項目の詳細については、ヘルプを参照してください。

■ 外部記憶装置 - DuplexWrite の場合

DuplexWrite がインストールされている場合、［デバイスの表示］をクリックすると、DuplexWrite ドライバに関する情報が表示されます。



DuplexWrite は、ディスクストレージサブシステムの能力を向上させるソフトウェアです。ファイバチャネル接続技術を共に使用することにより、災害許容設定をセットアップできます。DuplexWrite により、異なるディスクストレージサブシステムの 2 つのディスクに同一の情報が含まれるよう、書き込み操作が複製されます。これは、ファイルシステムデータなどの論理データ構造に依存しないので、「物理ミラーリング」と呼ばれます。

いずれかのドライブが失敗すると、まだ動作しているディスクにアクセスして割り込みを行わなくても、DuplexWrite によりデータの処理を継続できることが確認されます。問題のあるドライブが修復されると、通常の運用中にデータのリカバリを実行できます。再起動は必要ありません。これは、複雑な RAID ボリュームだけでなく物理ディスクにも適用されます。

DuplexWrite がインストールされている場合、以下の項目が追加されます。

- Write ステータス
- Duplex Disk
- ［DW 設定］ボタン

● Write ステータス

Write ステータスには、次のいずれかの値が表示されます。

表：Write ステータス

値	意味
オンライン	DuplexWrite ディスクです。優先的に読み取られます。
エラー	エラー状態のため、ディスクがオフライン状態です。
アクション	ディスクがリカバリ中です。
無効	メンテナンスアクティビティのため、ディスクが停止に設定されています。
シンプレックス	ディスクが DuplexWrite 用に設定されていません。
N/A	DuplexWrite がインストールされていないか、ステータスを取得できません。
MultiPath	MultiPath を経由したディスクまでの第 2、第 3、または第 4 のパスです。
Missing	ディスクが存在しません（パートナディスクの COD により生成されるエントリ）。
<name>	ディスクが他の MSCS クラスタノード <name> により使用されています。

● Duplex Disk

Duplex Disk は、DuplexWrite グループを指定するために必要です。DuplexWrite グループは、1 つまたは 2 つのディスクで構成されます。

● DW 設定

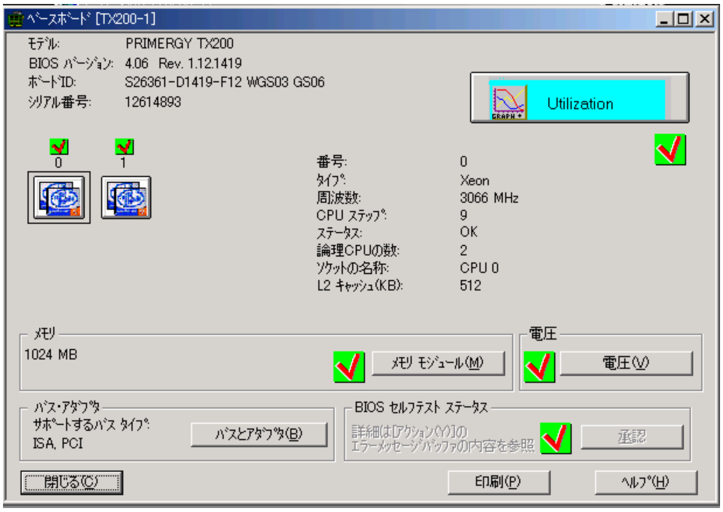
DuplexWrite グループを設定する場合は、Device View メニューでエントリを選択し、［DW 設定］をクリックします。「ディスクグループ」画面が表示されます。
［DW 設定］は、選択したサーバに DuplexWrite エージェントがインストールされており、かつ選択したエントリに N/A、MultiPath、<cluster node name> 以外の DuplexWrite ステータスが表示されている場合に選択できます。各項目の詳細については、ヘルプを参照してください。

POINT

- ServerView は、データのスナップショットと設定データのオフラインでの読み取りのために Archive Data モードを用意しています。このモードが有効な場合は、DuplexWrite の設定を行えません。閉じる、印刷、ヘルプ以外は使用できません。

■ ベースボードの状態確認

［ベースボード］をクリックすると、プロセッサ、メモリモジュール、バスシステム、コントローラに関するデータ（ベースボードの Board-ID や OS の BIOS Version など）が表示されます。
シリアル番号は、サーバの機種によっては表示されない場合があります。



● Utilization

プロセッサの使用率や、マルチプロセッサシステムにおける単一プロセッサの使用率を表示します。

● メモリモジュール

［メモリモジュール］をクリックすると、すべてのメモリモジュールについて、番号、バンク、モジュールの状態、開始アドレス、サイズ、承認、名称（オプション）が表示されます。

● 電圧

［電圧］をクリックすると、サーバ上のベースボードの電圧に関する情報が表示されます。

● バスとアダプタ

［バスとアダプタ］をクリックすると、利用可能なバスシステム（EISA、PCI など）、および接続されているコントローラとその機能に関する情報が表示されます。

● BIOS セルフテスト ステータス

サーバの PowerON 時に BIOS が行うセルフテストの結果が表示されます。
“異常”アイコンとなってる場合、[承認]をクリックする事で“正常”アイコンに戻すことができます。“異常”の詳細は「アクション」画面の「エラーメッセージバッファの内容」で確認してください。
なお、当項目は、BIOS にセルフテスト通知機能がない BIOS（バージョンの違いも含む）では表示されません。

POINT

- [承認] をクリックして“正常”アイコンに戻った状態で、ServerView エージェントの再インストールを行うと、ふたたび“異常”アイコンになる場合があります（同時に Trap が発生する場合があります）。“正常”アイコンに戻すには、再度［承認］をクリックしてください。

■ 電源の状態確認

[電源] をクリックすると、サーバの電源に関する設定とステータスが表示されます。ステータスにマウスポインタを合わせると、名称が表示されます。
電源が正常に動作している場合は、対応するダイアグラムの右下隅に緑色の四角が表示されます。
冗長電源は、重なり合う 2 つの四角で表示されます。

● 主電源

サーバと主電源の接続状態が表示されます。サーバに拡張記憶装置が接続されている場合には、その主電源も表示されます。
サーバや拡張記憶装置の主電源の異常は、黄色または赤色の四角で表示されます。通常、電源状態は 60 秒ごとに更新されます。

● システムのタイプ

サーバと、利用可能な場合は収納装置内の BBU が表示されます。サーバの電源の全体的なステータスが、緑色、黄色、または赤色の四角で表示されます。

● 拡張ディスク装置

存在する拡張記憶装置が表示されます。BBU の設置もここで検出できます。拡張記憶装置内の電源の全体的なステータスが、緑色または赤色の四角で表示されます。

● サマリ

選択ラジオボタンを使用して、拡張記憶装置を選択できます。同時に、各選択ボタンの隣にある緑色または赤色の四角により、すべての拡張記憶装置内の電源のステータスが常に通知されます。

● 電源オン / オフタイマの設定

［電源オン / オフタイマの設定］をクリックすると、ASR のプロパティが起動し、［Power ON/OFF］タブ画面が表示されます。サーバの起動／終了時間を指定することができます。設定方法については、「■［Power ON/OFF］タブ」（→ P.143）を参照してください。

● UPS マネージャ

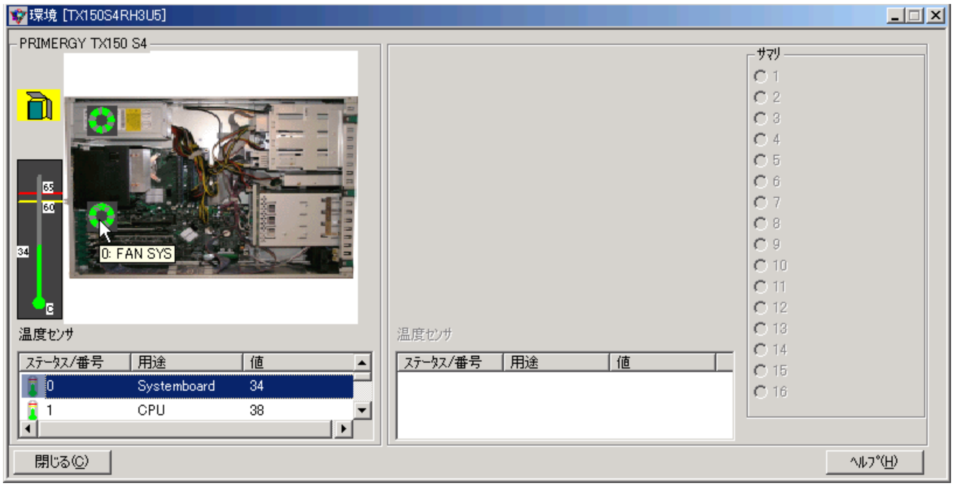
UPS 管理ソフトウェアがインストールされていて、UPS 管理ソフトウェア連携を行うための設定がされている場合は、［UPS マネージャ］ボタンが有効になります。
［UPS マネージャ］をクリックすると、UPS 管理ソフトウェアが起動します。操作方法については、UPS 管理ソフトウェアに添付のマニュアルを参照してください。
UPS 管理ソフトウェア連携のための設定方法については「4.4.2 UPS 管理ソフトウェア連携の設定（Windows）」（→ P.296）を参照してください。

■ 環境の状態確認

［環境］をクリックすると、サーバとサーバに接続されている拡張ユニットの温度とファンのステータスが表示されます。ステータスにマウスポインタを合わせると、名称が表示されます。また、ドアやサーバのケースが開いているかどうかも表示されます。
これらの状態表示に対するしきい値は、サーバ（ハードウェア）に設定されている基本しきい値で判定されます。しきい値マネージャで設定したしきい値ではありません。

POINT

- サーバの種類によっては、ドアまたはサーバのケースの開閉情報をサポートしてきません。



黄色のサーバアイコンは、ドアまたはサーバのケースが開いていることを意味します。これは、拡張記憶装置についても「サマリ」の黄色の四角により表示されます。
ファンと温度はアイコンで表示されます。それぞれの色は、以下の状態を示します。

表：ファンと温度の状態

	シャットダウン	危険	OK	センサの故障	確認不可能
温度	赤色	黄色	緑色	青色	灰色
ファン	赤色	黄色	緑色	---	灰色

温度センサは、最も重要なセンサの値を常に表示します。すべてのセンサの値が同じ場合は、リストの中で最後のセンサが表示されます。単一のセンサのステータスを呼び出す場合は、リストからそのセンサに対応する行をクリックします。
冗長ファンは、重なり合うファン制御シンボルによって表示されます。シンボルはどちらも真の冗長性を示す緑色である必要があります。

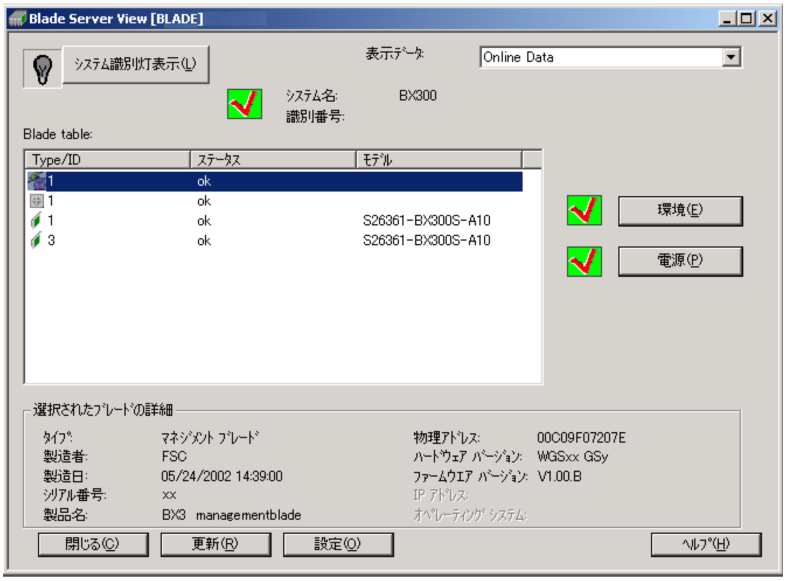
3.9.8 ブレードサーバの状態確認

ブレードサーバの状態を確認します。

1 ブレードサーバを選択します。

2 「ファイル」メニュー → 「開く」の順にクリックします。

「Blade ServerView ［サーバ名］」画面が表示され、選択したサーバに関する詳細情報が表示されます。



システム識別灯表示

システム識別灯表示の切り替えができます。サーバがシステム識別灯表示をサポートしている場合のみ有効です。

システム識別 LED の現在の状態がアイコンで表示されます。次の 3 種類のアイコンがあります。

:点灯中　 :消灯中

:点滅中（システム異常を示します）

表示データ

選択したブレードサーバについて、表示するデータの種類を指定します。アーカイブデータを取得している場合、アーカイブデータも指定できます。

3 ブレードサーバの状態を確認します。確認したい項目のボタンをクリックします。

重要

- マネジメントブレード上でセキュリティが有効になっている場合、ボタン操作にはユーザログインが必要です。
  ユーザ名とパスワードは、マネジメントブレードに Telnet もしくは Web インターフェースで接続し、設定できます。

表：ブレードサーバの状態

項目	説明
システム全体のステータス	ブレードサーバ全体のステータスがアイコンで表示されます。
システム名	マネジメントブレードに設定したブレードサーバシステムの名前が表示されます。
識別番号	ブレードサーバシステムの ID 番号が表示されます。
Blade Table	ブレードサーバシステム内に存在する、すべてのブレードのテーブルが表示されます。Type/ID には、ブレード ID と、ブレードの種類がアイコンで表示されます。 ：マネジメントブレード（マスタ） ：マネジメントブレード（スレーブ） ：スイッチブレード ：ファイバチャネル パススルーブレード ：LAN パススルーブレード ：KVM ブレード ：ファイバーチャネルスイッチブレード ：サーバブレード
選択されたブレードの詳細	選択したブレードの詳細情報が表示されます。
環境	環境サブシステム（ファン、温度）に関する状態が表示されます。
電源	電源サブシステムに関する状態が表示されます。
更新	画面に表示されている情報を更新します。
設定	マネジメントブレードまたはスイッチブレードを選択している場合、［設定］をクリックすると、各ブレードの設定画面（Web ブラウザ）が表示されます。 各ブレードの設定画面については、マネジメントブレードまたはスイッチブレードのマニュアルを参照してください。 なお、サーバブレードを選択している場合、このボタンは無効です。
ヘルプ	各項目についてのヘルプが表示されます。

4 確認後、［閉じる］をクリックして終了します。

3.10 ServerView エージェントの設定

ServerView エージェントの Configuration Tools を使用すると、ServerView エージェントの設定を退避、復元できます。

3.10.1 設定値の退避／復元（Configuration Tools）

Configuration Tools を使用して、ServerView エージェントの設定を退避、復元することができます。また、リモートサービスボード（リモートサービスコントローラ含む）搭載機、およびリモートマネジメントコントローラ搭載機では、それらの設定を退避、復元することができます。

POINT

- ServerView エージェントのバージョンが異なる環境、またはリモートサービスボード、リモートマネジメントコントローラ、BMC の種類とバージョンが異なる環境で退避、復元を行うと、異常となる場合があります。退避したバージョンと同じバージョンへ復元してください。
- Configuration Tools は、Windows でのみ使用可能です。

重要

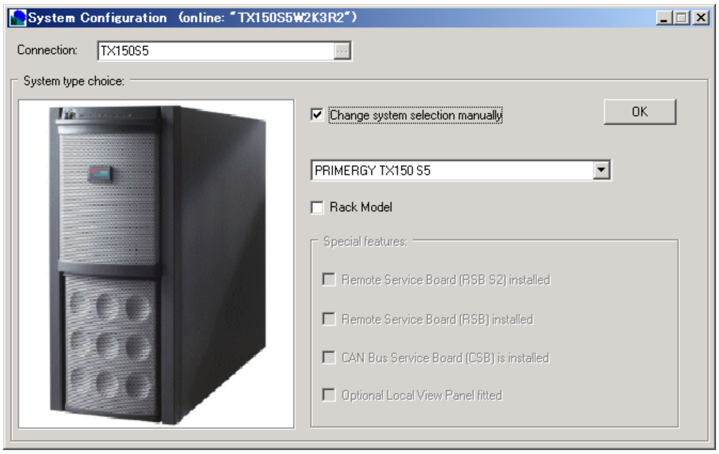
- 他の管理コンソールから該当サーバの設定を変更中に復元を行うと、設定内容に矛盾が生じてサーバが動作異常となる場合があります。必ず、他の管理コンソールから該当サーバへの設定変更を行っていないことを確認した上で復元を行ってください。
- Configuration Tools では各種設定の変更も可能ですが、他の PC などで管理コンソールや各 Web インタフェースを起動していると矛盾を起こし、サーバが動作異常となる場合があります。
  各種設定の変更には、Configuration Tools を使用しないでください。ただし、PG-RSB101 ～ 105 の初期 IP の設定、および UPS の設定は除きます。

■ リモートサービスボードの IP、UPS 装置の設定

Windows サーバに ServerView エージェントをインストールした場合、リモートサービスボードや UPS の設定ができます。設定を行う場合、以下の手順で操作します。

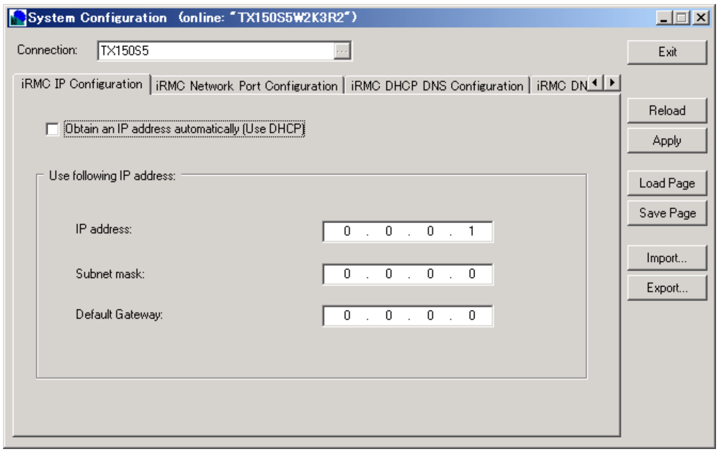
1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「Fujitsu ServerView Agents」→「Configuration Tools」→「System Configuration」の順にクリックします。

「System Configuration」画面が表示されます。



2 「Change system selection manually」のチェックボックスにチェックを付け、［OK］をクリックします。

項目を設定する画面が表示されます。



3 必要に応じて各タブをクリックし、項目を設定します。

表示、設定可能なタブは、サーバの構成毎に異なります。

リモートマネジメントコントローラ／リモートサービスボード／コントローラ未搭載の場合

各設定の詳細については、「■［Power ON/OFF］タブ」（→ P.143）「■［ウォッチドッグ設定］タブ」（→ P.144）を参照してください。

表：System Configuration 設定画面

タブ画面	内容
Boot Watchdog	Boot Watchdog 関連の設定です。
BMC IP Configuration	サーバ本体ファームウェアの個別 IP の設定です。
Software Watchdog	Software Watchdog 関連の設定です。
System Power On/Off Settings	サーバの自動電源投入／自動電源切断時間の設定です。
Global Settings	Fan test を実施する時間の設定です。
UPS Configuration	UPS 装置接続時の設定です。

リモートマネジメントコントローラ（iRMC）搭載の場合

リモートマネジメントコントローラの設定の詳細については、「8.4 情報の参照と設定」（→ P.460）を参照してください。

表：System Configuration 設定画面

タブ画面	内容
iRMC IP Configuration	リモートマネジメントコントローラの IP 設定です。
iRMC Network Port Configuration	リモートマネジメントコントローラのポート設定です。
iRMC DHCP DNS Configuration	リモートマネジメントコントローラの DHCP/DNS 設定です。
iRMC DNS Server Configuration	リモートマネジメントコントローラの DNS サーバ設定です。
iRMC SMTP Configuration	リモートマネジメントコントローラの SMTP サーバ設定です。
iRMC eMail Format Configuration	リモートマネジメントコントローラの E メールフォーマット設定です。
iRMC SNMP Configuration	リモートマネジメントコントローラの SNMP 設定です。
iRMC User Configuration [注 1]	リモートマネジメントコントローラのユーザ設定です。
iRMC Remote Image Server Configuration	リモートマネジメントコントローラのリモートストレージ設定です。
Boot Watchdog	Boot Watchdog 関連の設定です。
Software Watchdog	Software Watchdog 関連の設定です。
System Power On/Off Settings	サーバの自動電源投入／自動電源切断時間の設定です。
Global Settings	Fan test を実施する時間の設定です。
UPS Configuration	UPS 装置接続時の設定です。

注 1：iRMC User Configuration タブは、待避、復元対象にはなりません。

リモートサービスボード／コントローラ（PG-RSB101）接続の場合

リモートサービスボード／コントローラの設定の詳細については、「6.3 各種監視情報の表示」（→ P.353）を参照してください。

表：System Configuration 設定画面

タブ画面	内容
Boot Watchdog	Boot Watchdog 関連の設定です。
Software Watchdog	Software Watchdog 関連の設定です。
System Power On/Off Settings	サーバの自動電源投入／自動電源切断時間の設定です。
Alarm Configuration（Management Controller/RSB）	リモートサービスボード／コントローラのアラーム通知関連の設定です。
IP Configuration（Management Controller/RSB）	リモートサービスボード／コントローラの IP 関連の設定です。
Network Service Configuration（Management Controller/RSB）	リモートサービスボード／コントローラの HTTP ／ Telnet 関連の設定 です。
Remote User Configuration（Management Controller/RSB）	リモートサービスボード／コントローラのユーザアカウント関連の設定です。
SNMP Configuration（Management Controller/RSB）	リモートサービスボード／コントローラの SNMP 関連の設定です。
Serial Interface Configuration（Management Controller/RSB）	リモートサービスボード／コントローラのシリアル接続関連の設定です。
Storage Extension Configuration	拡張外部装置関連の設定です。変更の必要はありません。
Disk Redirection	リモートサービスボード／コントローラのディスクリダイレクション関連の設定です。本機能は未サポートです。
UPS Configuration	UPS 装置接続時の設定です。

リモートサービスボード（PG-RSB102 ～ 105）接続の場合

リモートサービスボードの設定の詳細については、「7.3 各種監視情報の表示」（→ P.409）を参照してください。

表：System Configuration 設定画面

タブ画面	内容
Boot Watchdog	Boot Watchdog 関連の設定です。
Software Watchdog	Software Watchdog 関連の設定です。
UPS Configuration	UPS 装置接続時の設定です。
RSB S2 IP Configuration	リモートサービスボードの IP 設定です。
RSB S2 Network Services ［注 1］	リモートサービスボードの各ネットワーク設定です。
RSB S2 User administration ［注 1］	リモートサービスボードのユーザ設定です。
RSB S2 SNMP Configuration ［注 1］	リモートサービスボードの SNMP 設定です。

注 1：PG-RSB102 および PG-RSB103(L) が接続されている環境の一部では、これらの項目が非対応のため エラーとなる場合があります。これら以外の項目は設定されていますので、Configuration Tools は［Exit］をクリックして終了させてください。

POINT

- 各設定を保存する前であれば、［Reload］をクリックすると、項目が元の設定値に戻ります。
- サーバの前面に LCD のパネルが搭載されている機種では、［LocalView Panel Configuration］タブが表示されることがありますが、この設定は未サポートです。

4 ［Apply］をクリックし、［Exit］をクリックします。

POINT

- 設定値を変更して［Apply］をクリックしていない場合や、［Import］による設定値の読み込みを行った場合は、設定内容を保存するかどうかの確認メッセージが表示されます。保存する場合は［はい］を、保存しない場合は［いいえ］をクリックします。

Configuration Tools が終了します。

■ 設定を退避する

設定内容を、ファイルとして保存します。

1 Configuration Tools を起動します。

2 ［Export］をクリックします。

「ファイル名を付けて保存」画面が表示されます。

3 ファイル名、ファイルの保存先を設定し、［保存］をクリックします。

ファイルが保存されます。

4 ［Exit］をクリックします。

Configuration Tools が終了します。

■ 設定内容の復元

設定内容を保存したファイルを読み込んで、各項目を設定します。

1 Configuration Tools を起動します。

2 ［Import］をクリックします。

「ファイルを開く」画面が表示されます。

3 読み込む設定ファイルを選択し、［開く］をクリックします。

読み込んだ設定ファイルの設定値で項目が設定されます。

4 ［Exit］をクリックします。

設定内容を保存するかどうかの確認メッセージが表示されます。

5 ［はい］をクリックします。

設定の復元を中止する場合は［いいえ］をクリックしてください。
Cinfiguration Tools が終了します。

3.11 [Linux] ServerView Linux の使用方法

ServerView Linux（エージェント／ ServerView S2 ／ AlarmService）の使用方法について説明します。

■ ServerView Linux エージェントの状態表示

ServerView Linux エージェントの状態を知りたい場合は、スーパーユーザでログインし、次のコマンドを実行します（出力結果は例です）。

● Red Hat Linux の場合

```
# /etc/init.d/srvmagt status
/usr/sbin/scagt:                                             [  running  ]
/usr/sbin/busagt:                                            [  running  ]
/usr/sbin/hdagt:                                             [  running  ]
/usr/sbin/unixagt:                                           [  running  ]
/usr/sbin/etheragt:                                          [  running  ]
/usr/sbin/biosagt:                                           [  running  ]
/usr/sbin/securagt:                                          [  running  ]
/usr/sbin/statusagt:                                         [  running  ]
/usr/sbin/invagt:                                            [  running  ]
/usr/sbin/vvagt:                                             [  running  ]
# /etc/init.d/eecd status
eecd (pid 2085 2084 2059 1980 1979 1978 1977 1976 1975 1974 1973 1972
1971 1967 1965 1964 1963 1962) を実行中…
```

● SUSE Linux の場合

```
# /etc/init.d/srvmagt status
/usr/sbin/scagt:                                                 running
/usr/sbin/sc2agt:                                                running
/usr/sbin/busagt:                                                running
/usr/sbin/hdagt:                                                 running
/usr/sbin/unixagt:                                               running
/usr/sbin/etheragt:                                              running
/usr/sbin/biosagt:                                               running
/usr/sbin/securagt:                                              running
/usr/sbin/statusagt:                                             running
/usr/sbin/invagt:                                                running
/usr/sbin/vvagt:                                                 running
# /etc/init.d/eecd status
Checking for service eecd: OK
```

■ ServerView Linux エージェントの起動と停止

ServerView Linux エージェントは、サーバ起動時に自動的に起動されます。
ServerView Linux エージェントを停止する場合は、スーパーユーザでログインし、次のコマンドを実行します（出力結果は例です）。

● Red Hat Linux の場合

```
# /etc/init.d/srvmagt stop
Stopping agent scagt          [ OK ]
Stopping agent busagt         [ OK ]
Stopping agent hdagt          [ OK ]
Stopping agent unixagt        [ OK ]
Stopping agent etheragt       [ OK ]
Stopping agent biosagt        [ OK ]
Stopping agent securagt       [ OK ]
Stopping agent statusagt      [ OK ]
Stopping agent invagt         [ OK ]
Stopping agent vvagt          [ OK ]
# /etc/init.d/eecd stop
Shutting down eecd: TERM      [ OK ]
```

● SUSE Linux の場合

```
# /etc/init.d/srvmagt stop
Stopping agents: sc sc2 bus hd unix ether bios secur status inv vv   done
# /etc/init.d/eecd stop
Shutting down eecd: TERM                                             done
```

重要

- ServerView Linux エージェントを起動する場合は、スーパーユーザでログインし、次のコマンドを実行します。
  # /etc/init.d/eecd start
  # /etc/init.d/srvmagt start
- /etc/init.d/srvmagt が起動できない場合は、次のコマンドを実行して SNMP サービスの状態を確認し、SNMP サービスが停止していた場合は起動してください。
  # /etc/init.d/snmpd status
  # /etc/init.d/snmpd start

■ ServerView S2 / AlarmService の操作方法

ブラウザを使用して、ServerView S2 / AlarmService をインストールした＜サーバ＞に以下のように接続します。
http://< サーバの IP アドレス >/sv_www.html
http://< サーバ名 >/sv_www.html
ServerView S2 の操作方法については、「3.1 ServerView S2 の起動と終了」（→ P.92）を参照してください。AlarmService の操作方法については、「3.5 アラームサービス」（→ P.146）を参照してください。

● ServerView S2 / AlarmService について

ServerView S2 / AlarmService は、Linux のみの環境を構築する場合にどれか 1 台のサーバにインストールすることにより、他のサーバの状態も監視することができます。

POINT

- ServerView S2 / AlarmService の起動／停止について
  ServerView S2 / AlarmService は、httpd サービスまたは apache2 サービスとして動作しますので、個別に起動／停止を行うことはできません。
- インストールされている ServerView S2 / AlarmService の動作確認について
  インストールされている ServerView S2 / AlarmService の動作状況は、次のコマンドを実行して確認できます。
  ・Red Hat Linux の場合
  # /etc/init.d/sv_fwdserver status
  snmptrapd (pid xxxx) を実行中 ...
  ・SUSE Linux の場合
  # /etc/init.d/sv_fwdserver status
  Checking for SVFwdServer:　　running

■ ServerView Linux エージェントが格納するログについて

ServerView Linux エージェントの動作中、/var/log 配下に動作状況（内部トレース）を記録するログ（log.xxxx）が格納されます。
これらのログは、ServerView Linux エージェントを再起動するとクリアされます。

重要

- これらのログは保守のためのものです。監視目的で使用したり、ログを参照したりしないでください。サーバ監視結果は、syslog（/var/log/messages）に記録されますので、こちらを使用してください。

以下に、ログの例を示します。

```
-rw-r--r--   1 root   root      0 Aug 18 22:35 /var/log/log.SVRemoteConnector
-rw-rw-rw-   1 root   root      83 Aug 18 22:36 /var/log/log.StatusChAction
-rw-r--r--   1 root   root      1213 Aug 18 22:35 /var/log/log.biosagt
-rw-r--r--   1 root   root      767 Aug 18 22:35 /var/log/log.busagt
-rw-r--r--   1 root   root      1788 Aug 18 22:35 /var/log/log.eecd
-rw-r--r--   1 root   root      1833 Aug 18 22:36 /var/log/log.eecd_mods_src
-rw-r--r--   1 root   root      769 Aug 18 22:35 /var/log/log.etheragt
-rw-r--r--   1 root   root      765 Aug 18 22:35 /var/log/log.hdagt
-rw-r--r--   1 root   root      767 Aug 18 22:35 /var/log/log.invagt
-rw-r--r--   1 root   root      63 Aug 18 22:36 /var/log/log.package
-rw-r--r--   1 root   root      1918 Aug 18 22:36 /var/log/log.sc2agt
-rw-r--r--   1 root   root      1499 Aug 18 22:36 /var/log/log.scagt
-rw-r--r--   1 root   root      768 Aug 18 22:35 /var/log/log.securagt
-rw-r--r--   1 root   root      1730 Aug 18 22:36 /var/log/log.statusagt
-rw-r--r--   1 root   root      1808 Aug 18 22:36 /var/log/log.thragt
-rw-r--r--   1 root   root      767 Aug 18 22:35 /var/log/log.unixagt
-rw-r--r--   1 root   root      2320 Aug 19 00:37 /var/log/log.vvagt
```

第 4 章

他のソフトウェアとの連携

4

この章では、他のソフトウェアとの連携について説明します。

4.1　Systemwalker 連携 270
4.2　Network Node Manager （hp OpenView ／日立 JP1）連携 279
4.3　信号灯制御プログラムとの連携（ラック管理）. 285
4.4　UPS 管理ソフトウェア連携 295
4.5　LDSM 連携 303
4.6　RAID Manager 連携 305

4.1 Systemwalker 連携

Systemwalker と連携すると、ServerView での監視結果を Systemwalker の統合管理サーバに送信したり、Systemwalker から ServerView の管理コンソールを起動したりできます。

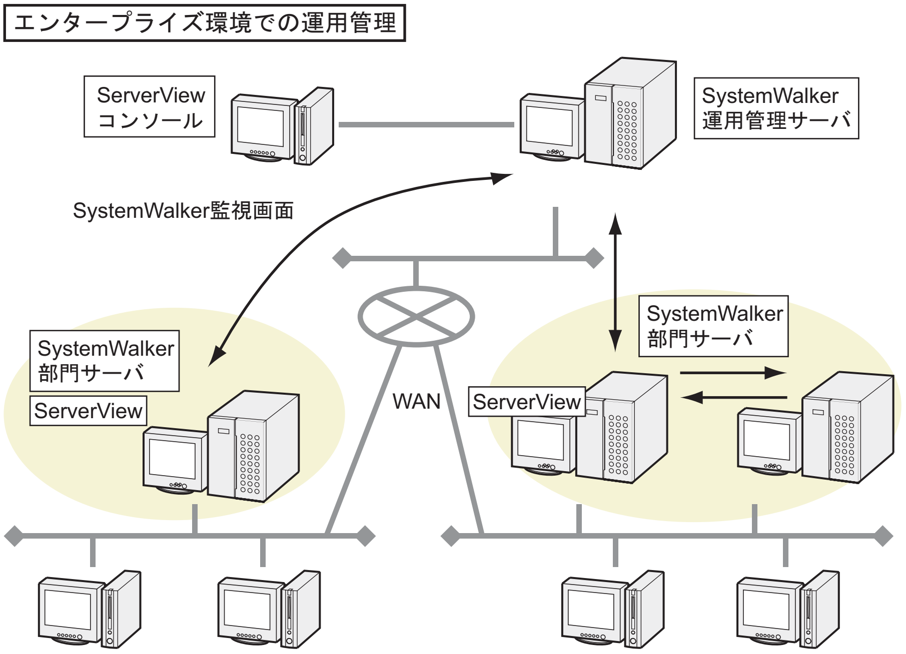
4.1.1 Systemwalker と ServerView 連携による管理

■ Systemwalker CentricMGR との連携

Systemwalker CentricMGR は、エンタープライズ環境における、システム、ネットワーク、アプリケーションなどの統合運用管理製品です。ServerView の SNMP トラップ連携により、各部門サーバが受信した ServerView からの異常通知が運用管理サーバへ通知されます。この通知により、各部門（単一セグメント）において ServerView が監視しているサーバのハード異常を、エンタープライズ環境において統合管理することができます。

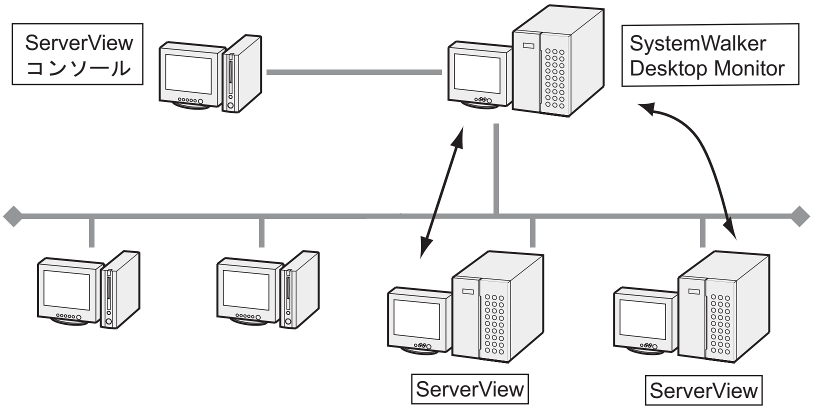
重要

- 統合管理が行えるサーバは、運用管理サーバのみです。



■ Systemwalker Desktop Monitor との連携

Systemwalker Desktop Monitor は、LAN 環境における、コンピュータ、サーバなど LAN に接続された機器の稼動監視を行います。ServerView との連携により、ServerView からの異常通知を Desktop Monitor へ通知することで、被監視 PRIMERGY サーバのハード異常を監視することができます。



4.1.2 Systemwalker との連携による機能

■ Systemwalker CentricMGR との連携による機能

● Systemwalker による ServerView からのトラップイベントの監視

各部門サーバが受信した ServerView からのトラップメッセージが、解読可能なメッセージテキストに変換され、Systemwalker の監視画面に表示されます。

● Systemwalker によるトラップイベントの絞り込み監視

ServerView で受信したサーバからのメッセージを、条件で絞り込んで監視できます。

● Systemwalker 画面からの ServerView 画面の起動

Systemwalker の監視画面の操作メニューから、「ServerView」画面を起動することができます。異常の発生したサーバに対して、即座に ServerView 画面から対処できます。

● PRIMERGY サーバの MIB 値取得／拡張

サーバの MIB を取得し、Systemwalker の MIB 拡張機能により、以下の MIB を設定できます。

- Server コントロール MIB：ファンなどのデバイス、CPU 温度、サーバ管理用 MIB
- インベントリ MIB：しきい値設定などシステム全体の状態監視用 MIB
- HDD MIB：HDD デバイスなどの監視用 MIB
- Trap MIB：ServerView のトラップ用 MIB

● サーバの MIB を用いた MIB しきい値監視

上記で拡張された MIB を用いて、Systemwalker の MIB しきい値監視機能により、CPU の温度監視など、MIB のしきい値監視を行うことができます。

重要

- SNMP トラップの連携を行う場合、OS の SNMP サービスにおいて、トラップ先に運用管理サーバの設定を行う必要があります。この設定が行われていない場合、運用サーバがトラップ通知を受信できないため、トラップ連携処理は動作しません。

■ Systemwalker Desktop Monitor との連携による機能

● Systemwalker による ServerView からのトラップイベントの監視

各部門サーバが受信した ServerView からのトラップメッセージが、解読可能なメッセージテキストに変換され、Systemwalker の監視画面に表示されます。

重要

- Systemwalker Desktop Monitor では、ServerView 画面の起動、ServerView からの Trap イベントの絞込み、サーバの MIB 値の取得、MIB しきい値監視機能は使用できません。

4.1.3 Systemwalker との連携手順

● Systemwalker CentricMGR 連携の場合

Systemwalker CentricMGR 連携を行う場合は、以下の流れで各設定を行います。

1. ServerView からの SNMP トラップのメッセージテキスト変換（NTC）定義を行います（「■ SNMP トラップのメッセージテキスト変換（NTC）定義」（→ P.273）参照）。
2. 手順 1 のイベントのフィルタリング定義を行います（「■ イベントフィルタリング定義」（→ P.275）参照）。
3. ServerView からの SNMP Trap 受信設定を行います（「■ SNMP Trap 受信設定」（→ P.276）参照）。
4. ServerView の操作メニューへの登録を行います（「■ 操作メニューへの登録」（→ P.277）参照）。

POINT

- Linux、Solaris OE 版、Systemwalker Centric Manager との連携手順については、Systemwalker Centric Manager『PRIMERGY 運用管理ガイド』を参照してください。

● Systemwalker Desktop Monitor 連携の場合

Systemwalker Desktop Monitor 連携を行う場合は、以下の流れで各設定を行います。

1 ServerView からの SNMP トラップのメッセージテキスト変換（NTC）定義を行います（「■ SNMP トラップのメッセージテキスト変換（NTC）定義」（→ P.273）参照）。
手順内の MIB 拡張操作は必要ありません。

2 ServerView からの SNMP Trap 受信設定を行います（「■ SNMP Trap 受信設定」（→ P.276）参照）。

■ SNMP トラップのメッセージテキスト変換（NTC）定義

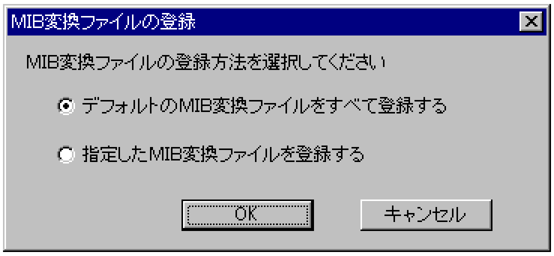
ServerView からの SNMP トラップを、監視者が解読可能なメッセージにするための変換定義を行います。変換後のメッセージテキストは「Systemwalker」画面に表示されます。

POINT

- 変換定義されたメッセージテキストには、ServerView からのメッセージだと判別できるように、メッセージテキストの先頭に、「[ServerView]」のキーワードが埋め込まれます。
  例：ServerView からの SNMP トラップが変換されて、表示される場合
  AP: MpAplLink: ERROR: 106: [ServerView] SMART predicts failure on disk .....

1 トラップ変換ファイルを Systemwalker に適用します。

1. 以下の変換定義適用コマンドを実行します。
   ［CD-ROM ドライブ］:¥SVMANAGE¥WinSVConsole¥Tools¥Systemwalker¥F5FBSW01.exe
   または
   ［CD-ROM ドライブ］:¥SVMANAGE¥LinuxSVConsole¥Tools¥Systemwalker¥F5FBSW01.exe
   以下の画面が表示されます。



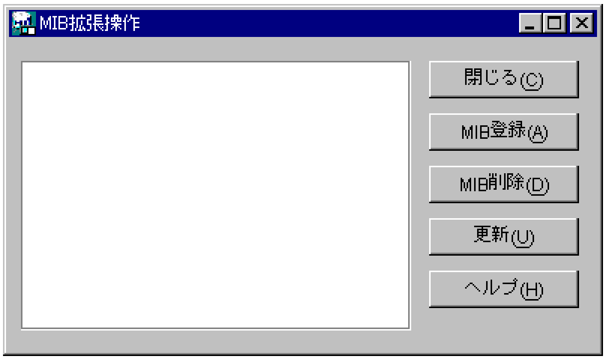
2. 「デフォルトのトラップ変換ファイルをすべて登録する」をクリックし、［OK］をクリックして適用します。
   登録が終了すると、確認メッセージが表示されます。
3. ［OK］をクリックします。

POINT

- 変換定義適用コマンドを実行したときにエラーメッセージが表示された場合は、「■ Systemwalker 連携のトラブルシューティング」（→ P.518）を参照してください。

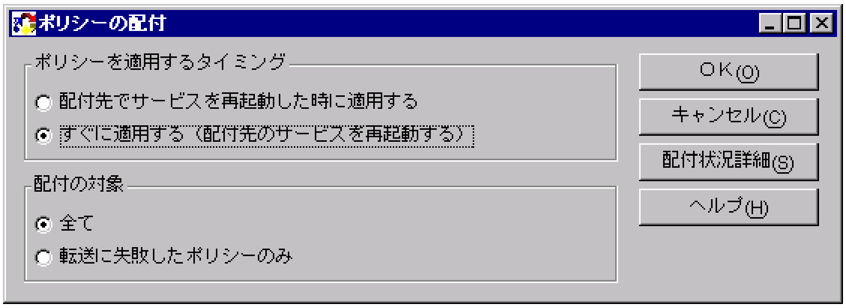
2 Systemwalker CentricMGR 連携の場合は、トラップ変換で使用される OID をキャラクタ表記させるために、MIB 拡張操作を行います。
Systemwalker Desktop Monitor 連携の場合は操作の必要はありません。手順 3 に進んでください。

1.「操作」メニュー →「MIB 拡張操作」の順にクリックします。
2.「MIB 拡張操作」画面で登録操作を行います。
拡張 MIB ファイルは下記に格納されています。
SVMANAGE¥WinSVConsole¥Tools¥Systemwalker¥mib
または
SVMANAGE¥LinuxSVConsole¥Tools¥Systemwalker¥mib



3 Systemwalker に適用されたトラップ変換ファイルを、各部門サーバ、運用管理サーバへ配付します。

1.「ポリシー」メニュー →「ポリシー配付」の順にクリックします。
「ポリシーの配付」画面が表示されます。
2.「すぐに適用する」をクリックし、[OK] をクリックします。



ポリシー配付で失敗した場合、ポリシーの配付状況の画面を参照し、以下の手順で本ポリシーの適用結果を確認してください。

・配付済み (配付成功) に MpCNappl がある場合
本ポリシーの適用は成功しています。

・配付失敗に MpCNappl がある場合
MpCNappl を選択して表示される右側のリストで、適用コマンドのエラー内容が、失敗 (0x3e5) のときは、一時的なシステム負荷によりサービスの再起動待ちでタイムアウトが発生したことを示します。
本エラーの場合は、その後正常にサービスが起動してポリシーが適用されているため、特に対処は必要ありません。

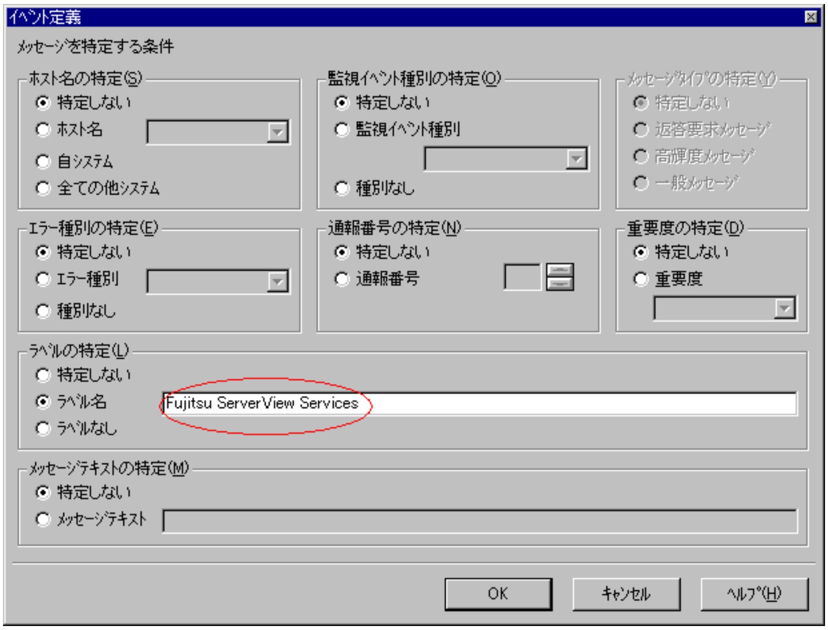
上記以外で配付に失敗した場合は、ポリシー配付画面より配付の対象を”転送に失敗したポリシーのみ”を選択して再配付してください。

■ イベントフィルタリング定義

ここではおおよその操作方法を記載しています。
操作方法の詳細については、Systemwalker/CentricMGR のマニュアルを参照してください。

1 SNMP トラップの連携を行う場合、ServerView AlarmService が格納する NT イベントログに対するフィルタリング定義を行います。

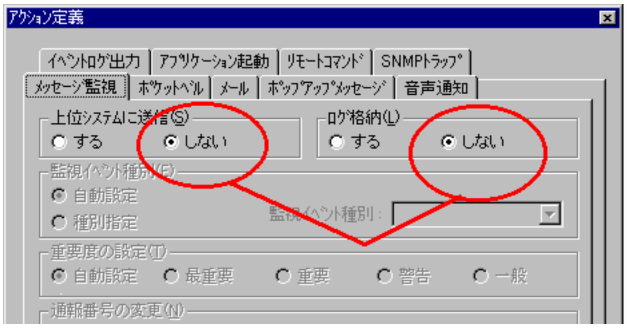
1. 「ポリシー」メニュー →「ポリシーの定義」→「イベント」→「フォルダ」の順にクリックします。
2. 「イベント監視の条件定義」画面の「イベント」メニューから「イベント追加」を選択します。
3. 「ラベルの特定」内の「ラベル名」に「Fujitsu ServerView Services」を指定します。また、ServerView V3.10 L10 より前のサーバを同時に監視する場合には、「Fujitsu AlarmService」も指定してください。



2 イベントログ発生時のアクション定義を行います。

1. 「イベント監視の条件定義」画面で「アクション」メニュー →「アクションの設定」→「アクション定義」の順にクリックします。

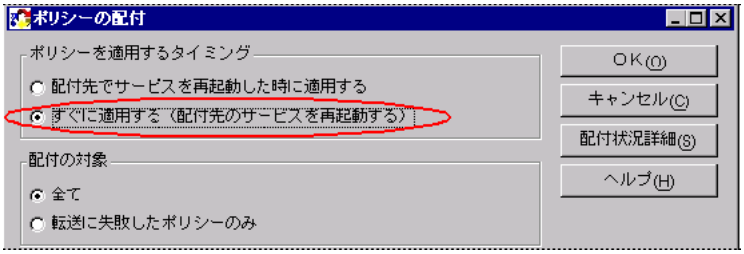
2.「上位システムに送信」、「ログ格納」を「しない」に指定します。



3 イベントフィルタリング定義を、各部門サーバ、運用管理サーバへ配付します。

1.「ポリシー」メニュー →「ポリシー配付」の順にクリックします。
「ポリシーの配付」画面が表示されます。

2.「すぐに適用する」をクリックし、［OK］をクリックします。



■ SNMP Trap 受信設定

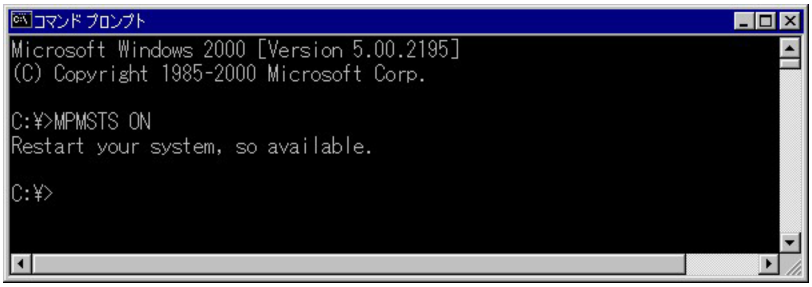
1 コマンドプロンプト画面で以下のコマンドを実行します。

MPMSTS ON

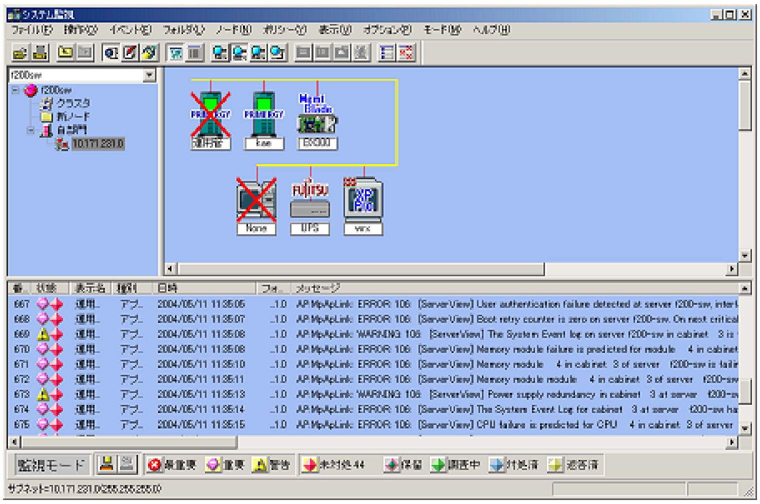
コマンド実行後、以下のようなメッセージが表示されます。

Systemwalker CentricMGR V5.0L30 以前の場合

Systemwalker CentricMGR V10.0L10 以降の場合、または
Systemwalker Desktop Monitor の場合



システムの再起動後からトラップイベントがメッセージテキストに変換されて、監視画面に表示されるようになります。



■ 操作メニューへの登録

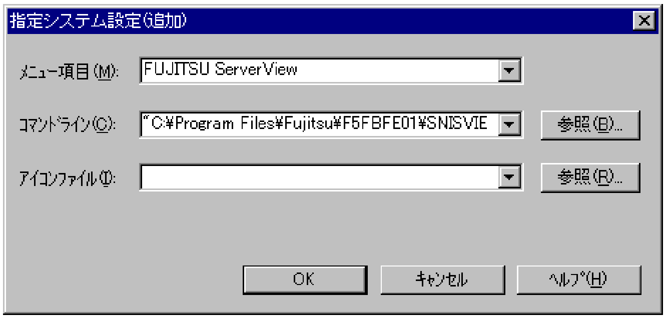
Systemwalker の操作メニューに、Serverview コンソールの起動を行うメニューを登録します。

1 「操作」メニュー → 「操作メニュー登録」の順にクリックします。

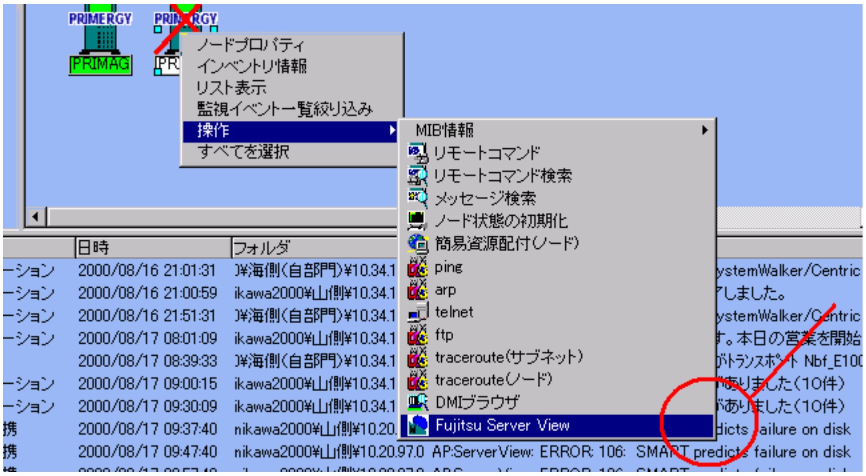
2 以下の項目を指定して、［OK］をクリックします。

表：操作メニューの登録内容

設定項目	設定内容
メニュー項目：	FUJITSU ServerView
コマンドライン：	"C:¥Program Files¥Fujitsu¥F5fbfe01¥SNISVIEW.exe" コマンドは必ず前後を ""（ダブルクォーテーション）で囲んでください。
アイコンファイル：	任意



3 登録後、サーバノードアイコンを右クリックし、表示されたメニューから「操作」→「Fujitsu ServerView」の順にクリックします。



ServerView コンソールが起動します。

4.2 Network Node Manager （hp OpenView ／日立 JP1）連携

Network Node Manager（hp OpenView ／日立 JP1）（以降、NNM と表記します）と連携すると、ServerView での監視結果を NNM に送信したり、NNM から ServerView の管理コンソールを起動したりできます。

重要

- NNM と ServerView を同時インストールする場合は、必ず先に NNM をインストールしてください。
- ServerView をインストール後に、監視対象サーバのモデル名が「Unknown」と表示されたり、接続テストにおいて Address Type が「Not found: No such name.」と表示される場合があります。
  この場合は、以下の確認項目を確認してから、監視対象サーバのモデル名と AddressType が正常に表示されるまで「Restart ServerView Base Services」を実行してください。
  - 「SNMP EMANATE Adapter for NT」／「SNMP EMANATE Master Agent」サービスが起動していることを確認してください。
  - 「■ SNMP コミュニティの設定」（→ P.283）、「■ SNMP トラップ送信先の設定」（→ P.284）が正しく行われていることを確認してください。
    設定を変更した場合は、OS の再起動を行うか、「SNMP EMANATE Adapter for NT」／「SNMP EMANATE Master Agent」サービスを再起動してください。

  「Restart ServerView Base Services」については、「● 監視対象サーバのモデル名が「Unknown」と表示される」（→ P.503）を参照してください。

4.2.1 連携できる NNM のバージョン

連携できる NNM のバージョンは、以下のとおりです。

- hp OpenView Network Node Manager 6.2 ／ 6.31 ／ 6.41 ／ 7.01
- 日立 JP1 Version 6i ／ 7i
  JP1/Cm2/Network Node Manager

4.2.2 概要

■ NNM 連携で実現できる機能

● NNM による ServerView からのトラップイベントの監視

ServerView から送信されるトラップメッセージが、監視者がわかるようなメッセージテキストに変換され、NNM の監視画面に表示されます。

●「OpenView NNM」画面からの「ServerView」画面の起動

NNM の監視画面の操作メニューから、「ServerView」画面を起動できます。
異常の発生したサーバに対して、即座に ServerView 画面から対処できます。

4.2.3 NNM との連携手順

NNM 連携を行うための流れは、以下のとおりです。

1. ServerView からの SNMP トラップのメッセージテキスト変換ファイル（trapd_conf）の登録を行います（「■ SNMP トラップのメッセージテキスト変換ファイル（trapd_conf）登録」（→ P.280）参照）。
2. 拡張 MIB 定義ファイルの登録を行います（「■ 拡張 MIB 定義ファイルの登録」（→ P.282）参照）。
3. ServerView の操作メニューへの登録を行います（「■ 操作メニューの登録」（→ P.282）参照）。
4. SNMP コミュニティの設定を行います（「■ SNMP コミュニティの設定」（→ P.283）参照）。
5. SNMP トラップ送信先の設定を行います（「■ SNMP トラップ送信先の設定」（→ P.284）参照）。

■ SNMP トラップのメッセージテキスト変換ファイル（trapd_conf）登録

ServerView からの SNMP トラップを、監視者が解読可能なメッセージにするための、メッセージテキスト変換ファイル（trapd_conf）登録を行います。変換後のメッセージテキストは、「OpenView NNM 監視」画面に表示されます。

1 以下の変換定義適用コマンドを実行します。

SVMANAGE¥WinSVConsole¥Tools¥OVNNM¥F5FBOV01.bat

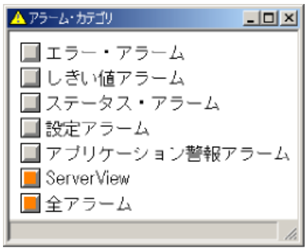
または

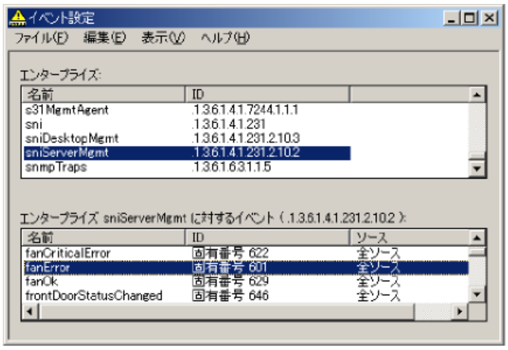
SVMANAGE¥LinuxSVConsole¥Tools¥OVNNM¥F5FBOV01.bat

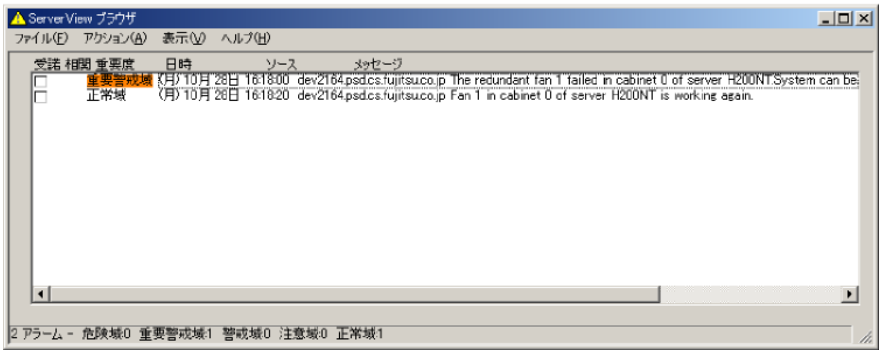
コマンド実行は、NNM をインストールしたサーバ上で行ってください。

また、カレントフォルダを適用コマンドの格納フォルダに移動して実行してください。

変換ファイル、およびアラームカテゴリ（ServerView）の登録が行われ、以下の画面が表示されます。







■ 拡張 MIB 定義ファイルの登録

OID をキャラクタ表記させるために、拡張 MIB 定義ファイルのロード操作を行います。

1 以下の拡張 MIB 定義適用コマンドを実行します。

SVMANAGE¥WinSVConsole¥Tools¥OVNNM¥F5FBOV02.bat

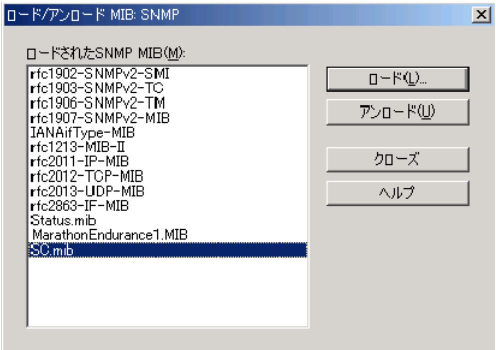
または

SVMANAGE¥LinuxSVConsole¥Tools¥OVNNM¥F5FBOV02.bat

コマンド実行は、NNM をインストールしたサーバ上で行ってください。

また、カレントフォルダを適用コマンドの格納フォルダに移動して実行してください。

ServerView で使用する拡張 MIB ファイルの登録が行われます。



■ 操作メニューの登録

NNM から ServerView を起動できるように、操作メニューに ServerView コンソールを登録します。

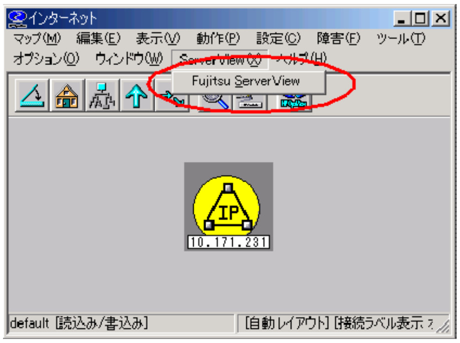
1 以下の登録ファイルを指定フォルダにコピーします。

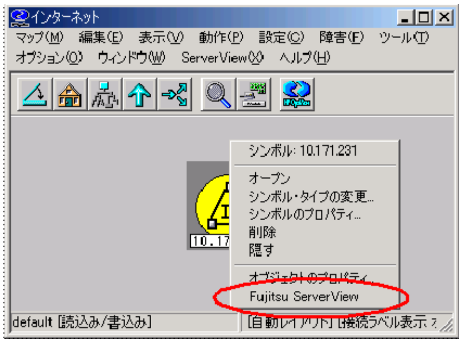
・登録ファイル
SVMANAGE¥WinSVConsole¥Tools¥OVNNM¥ServerView
または
SVMANAGE¥LinuxSVConsole¥Tools¥OVNNM¥ServerView

・指定フォルダ
NNM インストールフォルダ ¥registration¥Japanese_Japan.932

2 ServerView コンソールを起動します。

メニューバー、およびポップアップメニューに ServerView メニューが追加されます。登録された操作メニューから、ServerView を選択すると起動できます。





■ SNMP コミュニティの設定

本設定は、NNM と ServerView を同時インストールしている場合に必要です。
ServerView 管理コンソールから監視サーバへの設定を有効にするために、下記の手順で SNMP コミュニティの設定を行います。

1 SNMP サービスに設定した SNMP コミュニティを確認します。

「2.2.1 TCP/IP プロトコルと SNMP サービスのインストール」（→ P.31）で設定した SNMP コミュニティを確認してください。

2 ファイル（snmpd.conf）を編集します。

以下は、手順 1 で確認した SNMP コミュニティが "public" の場合の編集例です。
ファイル：NNM インストールフォルダ ¥conf¥SNMPAgent¥snmpd.conf

・編集前

```
get-community-name:  public
#set-community-name:  # enter community name
```

・編集後

```
#get-community-name:  public
set-community-name:   public
```

3 設定後は、SNMP サービスまたはサーバを再起動してください。

重要

- SNMP コミュニティは任意に設定できます。SNMP コミュニティを変更する場合は、SNMP サービスと、NNM の snmpd.conf の SNMP コミュニティを必ず同時に変更してください。
  また、ServerView 管理コンソールから ServerView の設定を行いたい場合は、ServerView 管理コンソールに「set-community-name」に設定した SNMP コミュニティを設定してください。ServerView 管理コンソールの設定については、「3.9.3 サーバ情報の確認／変更」（→ P.231）の「［ネットワーク／ SNMP］タブ」を参照してください。

■ SNMP トラップ送信先の設定

監視サーバから NNM ／ ServerView 管理コンソールをインストールしたサーバに対して、SNMP トラップを送信するための設定を、下記の手順で行います。

1 「SNMP Service」を設定します。

監視サーバにおいて、「2.2.1 TCP/IP プロトコルと SNMP サービスのインストール」（→ P.31）を参照して、SNMP トラップ送信先に NNM ／ ServerView 管理コンソールをインストールしたサーバの IP アドレスを設定してください。

2 ファイル（snmpd.conf）を編集します。

本設定は、NNM と ServerView を同時インストールしている場合に必要です。以下は、NNM ／ ServerView 管理コンソールをインストールしたサーバの IP アドレスが ”10.20.30.40” の場合の編集例です。

ファイル：NNM インストールフォルダ ¥conf¥SNMPAgent¥snmpd.conf

・編集前
  #trap-dest: # enter trap destination

・編集後
  trap-dest: 10.20.30.40

3 設定後は、SNMP サービスまたはサーバを再起動してください。

4.3 信号灯制御プログラムとの連携（ラック管理）

信号灯制御プログラムとの連携により、ラックに搭載された PRIMERGY サーバの状態を信号灯（パトライト製）に表示し、視覚的にサーバの状態管理が行えます。複数サーバ、複数ラックの管理も行えます。

● 使用できる信号灯について

信号灯制御プログラムとの連携に使用できる信号灯は、パトライト製の信号灯です。また、信号灯の型名は「PHN-3FB」のみです。それ以外の信号灯での動作は保証しておりません。

信号灯は、株式会社パトライト、またはその代理店から購入できます。信号灯の詳細については、パトライト社のホームページ（http://www.patlite.co.jp/）を参照してください。

また、パトライト社の代理店としては、以下があります。

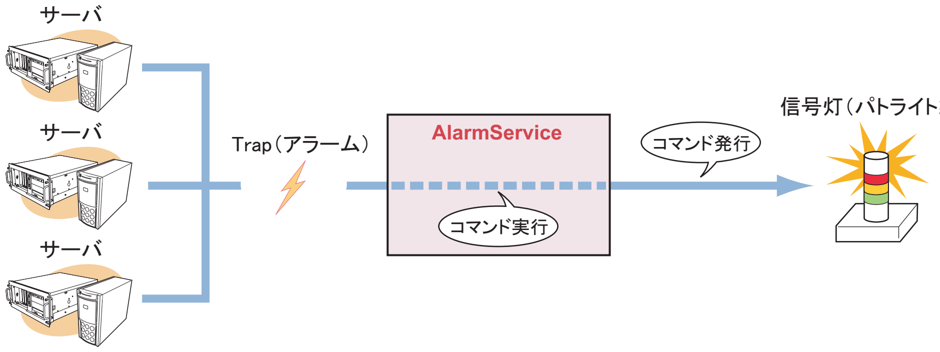
スズデン株式会社 (http://www.suzuden.co.jp/)

4.3.1 概要

■ 信号灯制御プログラムの動作

サーバからのトラップが管理コンソールのアラームサービスに通知されると、信号灯制御プログラムが実行され、受け取ったトラップに対応する信号灯が点灯します。

トラップの重要度により信号灯の色を設定できるので、サーバの状態を視覚的に確認できます。これにより、より早くサーバの異常を発見できます。



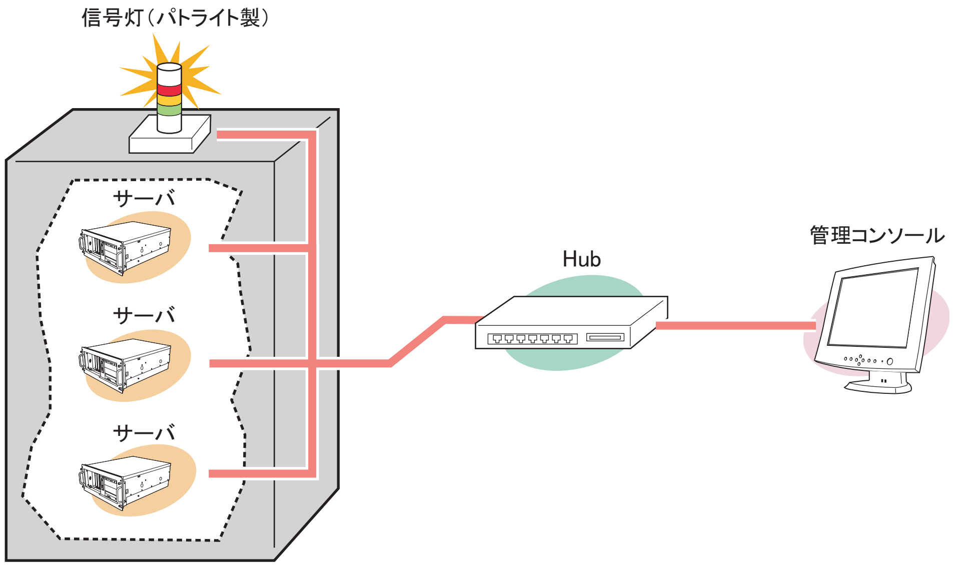
POINT

- 管理コンソールで ServerView を起動していない場合は、アラームサービスのコマンド実行が動作しないため、信号灯の制御はできません。

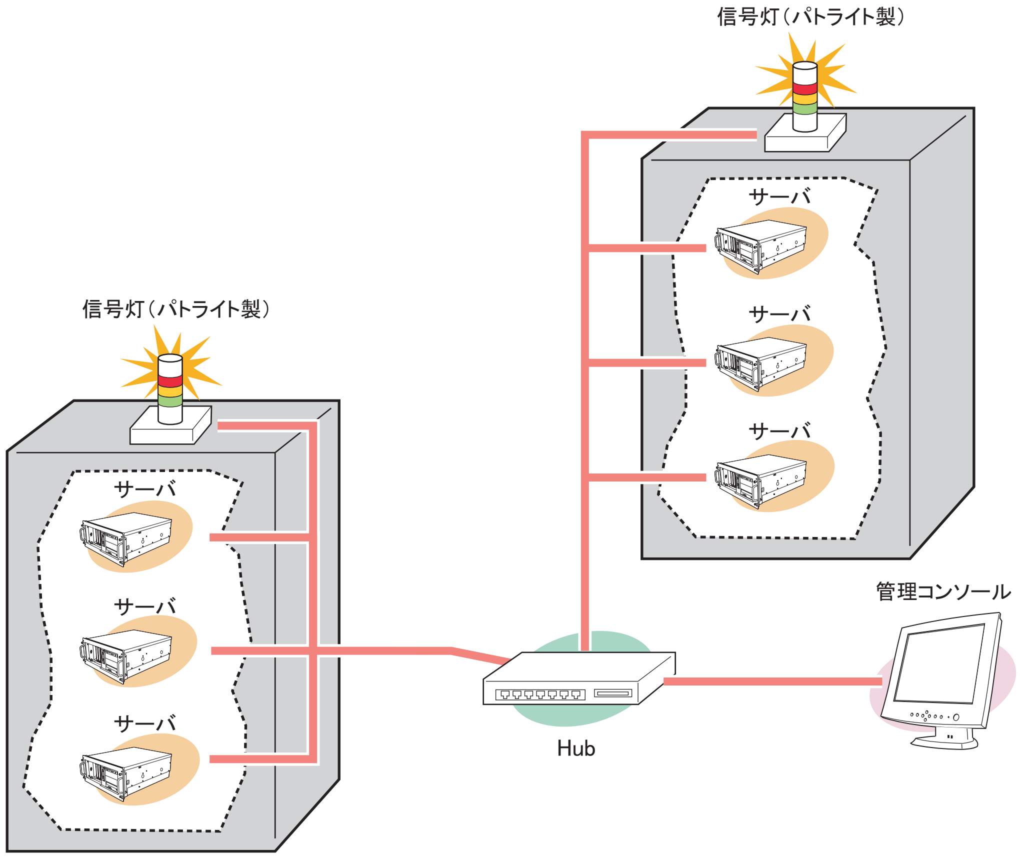
■ 構成例

LAN に接続した信号灯をネットワークに接続し、ServerView のアラームサービス機能を利用して信号灯を制御します。制御プログラムは Windows 版のみサポートしています。
信号灯を設置してサーバ管理を行う構成例を以下に示します。

● 1 ラックの場合



● 複数ラックの場合



重要

- ラックの上に信号灯を設置する場合は、地震などで転倒、落下することがないように、転倒防止対策を行ってください。

■ 信号灯制御プログラム連携のための設定

以下の流れで設定を行ってください。

1. 信号灯制御プログラムの設定
2. ServerView 監視対象への信号灯追加／設定
3. アラームサービスの設定

4.3.2 信号灯制御プログラムの設定

信号灯を設置し、信号灯制御プログラムを設定します。ServerView の設定を行う前に設定してください。

1 信号灯を設置し、信号灯の設定を行います。

信号灯の設置、および設定については、信号灯に添付のパトライト社のマニュアルを参照してください。

2 制御プログラムをコピーします。

以下の制御用プログラムを、ServerView 管理端末の以下フォルダにコピーします。

- コピー元フォルダ：［CD-ROM ドライブ］:¥SVMANAGE¥WinSVConsole¥Tools¥PHN_3FB
- 制御プログラム："F5FBPT00.BAT"、"F5FBPT01.EXE"
- コピー先フォルダ：［システムドライブ］:¥Program Files¥Fujitsu¥F5FBFE01

3 バッチプログラムファイルを開き、信号灯の IP アドレスを設定します。

コピーした "F5FBPT00.BAT" ファイルをテキストエディタなどで開き、以下の場所に IP アドレスを書き込んで保存します。

```
～
rem ------------------------------------------------------------

rem ★★★ユニットIP、ユニットポート番号設定★★★
rem パトライト 信号灯(PHN-3FB)の
rem ユニットIP、ユニットポート番号を設定してください。
rem 例)set F5FBPT01_IP=10.10.10.10
rem 例)set F5FBPT01_PORT=10000

set F5FBPT01_IP=
set F5FBPT01_PORT=10000
set F5FBPT01_CTRL=

～
```

POINT

- ファイル内に、設定方法が記述されています。利用環境に応じてカスタマイズしてください。信号灯を複数使用する場合は、バッチプログラムファイルをコピーし、名前を変更して使用するか、IP アドレスを引数として渡すようにバッチプログラムファイルをカスタマイズする必要があります。

4.3.3 ServerView 監視対象への信号灯追加／設定

ServerView の監視対象に、信号灯を追加し、制御プログラムを追加します。

1 管理端末で、「スタート」ボタン→「プログラム」→「Fujitsu ServerView」→「ServerView」の順にクリックします。

ServerView 管理コンソールが起動し、「サーバ管理」画面が表示されます。

POINT

- 「サーバの一覧」画面に、監視対象とするサーバが表示されていることを確認してください。一覧に表示されていない場合は、「3.9.2 監視対象サーバ（オブジェクト）の追加」（→ P.227）を参照し、監視対象とするサーバを追加してください。

2 「ファイル」メニュー →「新しいサーバ」の順にクリックします。

「サーババブラウザ」画面が表示され、ネットワーク上に存在するコンピュータ情報が表示されます。

3 信号灯を選択し、「その他」のタイプを指定して［適用］をクリックします。

必要に応じて各タブ画面の項目を設定してください。

4 サーバの一覧に追加された信号灯を右クリックし、表示されたメニューから「TCP アプリケーションの設定」をクリックします。

「Define application」画面が表示されます。

5 TCP アプリケーションの設定を行います。

以下のバッチプログラムファイルを指定してください。

［システムドライブ］:¥Program Files¥Fujitsu¥F5FBFE01¥F5FBPT00.BAT

6 ［OK］をクリックします。

続いて、アラームサービスを設定します。

4.3.4 アラームサービスの設定

アラームサービスの設定を起動し、アラームグループの作成、コマンド実行の設定を行ってください。

1 「アラーム」メニュー →「設定」の順にクリックします。

「アラーム設定の開始」画面が表示されます。

● アラームグループの作成

信号色ごとに、アラームグループを作成します。

POINT

- アラームグループは、危険（Critical）、重度（Major）、軽度（Minor）で作成することをお勧めします。信号灯を複数使用する場合には、それぞれの信号灯ごとにアラームグループを作成する必要があります。

1 「アラームグループの作成 / 編集」画面では、以下のように設定してください。

［グループの選択］タブ

表：アラームグループの作成 / 編集項目（グループの選択）

設定項目	説明
アラームグループ名	任意の名前を入力してください。「既存のアラームグループを選択」から選択することもできます。

［サーバの選択］タブ

表：アラームグループの作成 / 編集項目（サーバの選択）

設定項目	説明
サーバの選択	「サーバの一覧」から、ラックに搭載されているすべてのサーバを選択し、[>>>] をクリックして「グループに属するサーバ」に設定します。

［アラームの選択］タブ

表：アラームグループの作成 / 編集項目（アラームの選択）

設定項目	説明
アラームの選択	「アラームの一覧」から、対象とするトラップを選択し、[>>>] をクリックして「グループに属するアラーム」に設定します。

2 項目を設定後、［適用］をクリックします。

3 手順 1 ～ 2 を繰り返して、すべての信号灯色のアラームグループを作成してください。

4 ［次へ］をクリックします。

「アクションの作成／編集」画面が表示されます。

● アクションの作成／編集

作成したアラームグループごとに、実行するコマンド（信号灯の点灯）を設定します。

1 アラームグループを選択し、［コマンド実行］をクリックします。

2 ［新規］をクリックします。

3 「コマンド実行の設定」画面の各項目を以下のように設定します。

表：コマンド実行の設定項目

設定項目	説明
名前	任意の名前を入力してください。
コマンド	F5FBPT00.BAT %1 (%1：点灯制御パラメータとして 1 〜 3 を指定)
作業用ディレクトリ	［システムドライブ］¥Program Files¥Fujitsu¥F5FBFE01

4 ［OK］をクリックします。

「コマンド実行の設定」画面に戻ります。作成したコマンド名が表示されていることを確認してください。

5 ［適用］をクリックします。

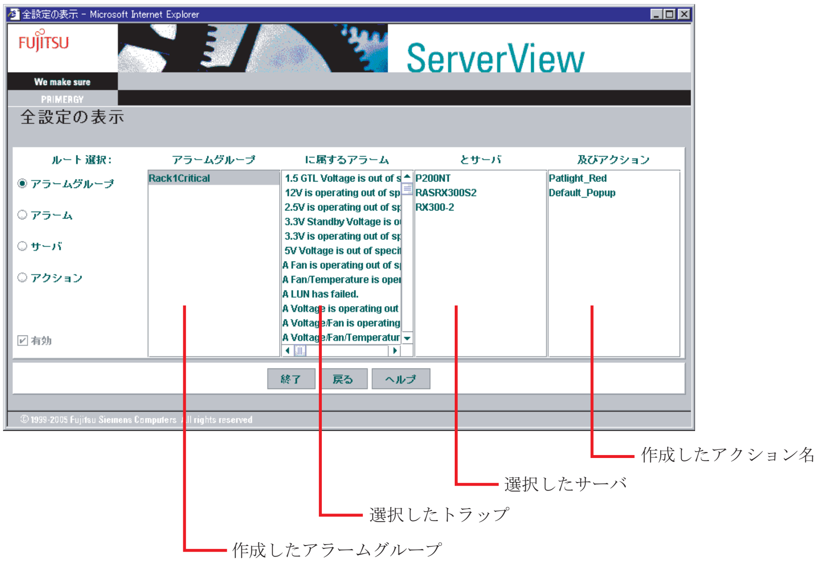
「アクションの作成／編集」画面に戻ります。

6 作成したすべてのアラームグループに対して、上記手順 1 〜 5 を行います。

7 すべてのアラームグループにコマンドが設定できたら［適用］をクリックします。

8 ［次へ］をクリックします。

「全設定の表示」画面が表示されます。



9 設定内容を確認し、［終了］をクリックします。

4.3.5 信号灯の消灯

点灯したパトライト信号灯を消灯する場合は、ServerView を起動し、「サーバ一覧」の点灯中のパトライト信号灯をダブルクリックします。

4.4 UPS 管理ソフトウェア連携

UPS 管理ソフトウェアと連携すると、UPS（無停電電源装置）の状態を ServerView から確認できます。

4.4.1 UPS 管理ソフトウェア連携の概要

■ 連携できる UPS 製品

- 高機能無停電電源装置（Smart-UPS）用管理ソフトウェア
  - ・PowerChute® Business Edition v6.1.2J 以降（Windows 版）
- 高機能無停電電源装置（Smart-UPS）用ネットワークマネジメントカード
- 高機能無停電電源装置（NetpowerProtect）用管理ソフトウェア
  - ・NetpowerView F V4.8 以降（Windows 版）
  - ・NetpowerView F V5.0 以降（Linux 版）

■ UPS 管理ソフトウェア連携で実現できる機能

実現できる機能は、以下のとおり UPS 製品により異なります。

表：UPS 管理ソフトウェア連携で実現できる機能

UPS 製品名	トラップ監視	アイコン変化	時間表示	ソフトウェア起動
Smart-UPS 用監視ソフトウェア	○	○	○	×
Smart-UPS 用ネットワークマネジメントカード	○	×	○	○
NetpowerProtect 用管理ソフトウェア	○	○	○	○

● トラップ監視

管理ソフトウェア／ネットワークマネジメントカードからのトラップイベントを、ServerView で監視することができます。

● アイコン変化

UPS 管理ソフトウェアから、停電などの商用電源異常が通知されると、ServerView 管理コンソールのステータスアイコンが変化し、異常を知ることができます。

● 時間表示

- 高機能無停電電源装置（Smart-UPS）用管理ソフトウェア／ネットワークマネジメントカード
  バッテリ運用時、ServerView 管理コンソールにバックアップ経過時間を表示します。
- 高機能無停電電源装置（NetpowerProtect シリーズ）用管理ソフトウェア
  バッテリ運用時、ServerView 管理コンソールにバックアップ残り時間を表示します。

● ソフトウェア起動

- 高機能無停電電源装置（Smart-UPS）用ネットワークマネジメントカード
  ServerView S2 ／ ServerView 管理コンソールの電源ビューの［UPS マネージャ］をクリックすると、Web ブラウザ（ネットワークマネジメントカード管理画面）を起動できます。
- 高機能無停電電源装置（NetpowerProtect シリーズ）用管理ソフトウェア
  ServerView 管理コンソールの電源ビューの［UPS マネージャ］をクリックすると、UPS 管理ソフトウェア（クライアントプログラム）を起動できます。
  ServerView S2 では、UPS 管理ソフトウェア（クライアントプログラム）は起動できません。

POINT

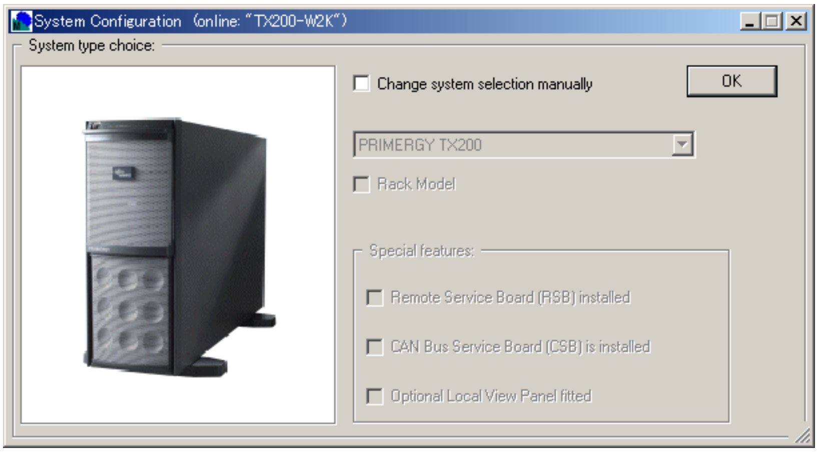
▶ UPS 製品の SNMP 設定については、各製品の取扱説明書を参照してください。

4.4.2 UPS 管理ソフトウェア連携の設定（Windows）

UPS 管理ソフトウェアと ServerView の連携を行うためには、System Configuration を使用して ServerView エージェントに UPS 接続情報を設定する必要があります。
また、UPS 連携を行うサーバに UPS 管理ソフトウェアをインストールするか、または、ネットワークマネジメントカードを用意してください。

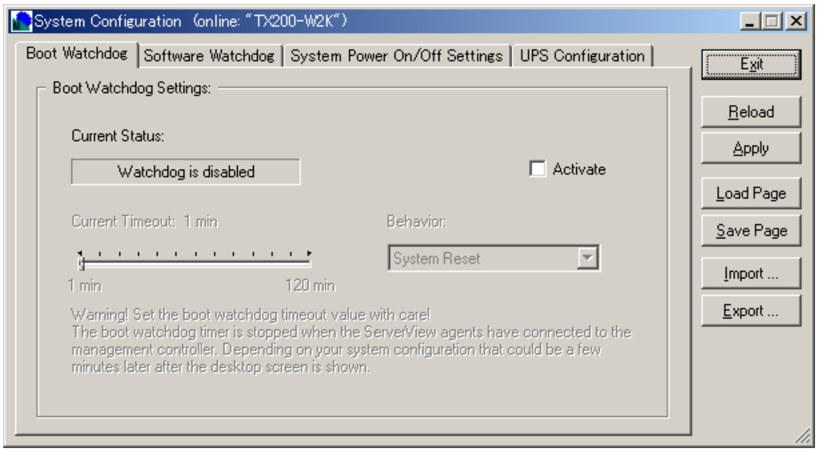
1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「Fujitsu ServerView Agents」→「Configuration Tools」→「System Configuration」の順にクリックします。

「System Configuration」画面が表示されます。



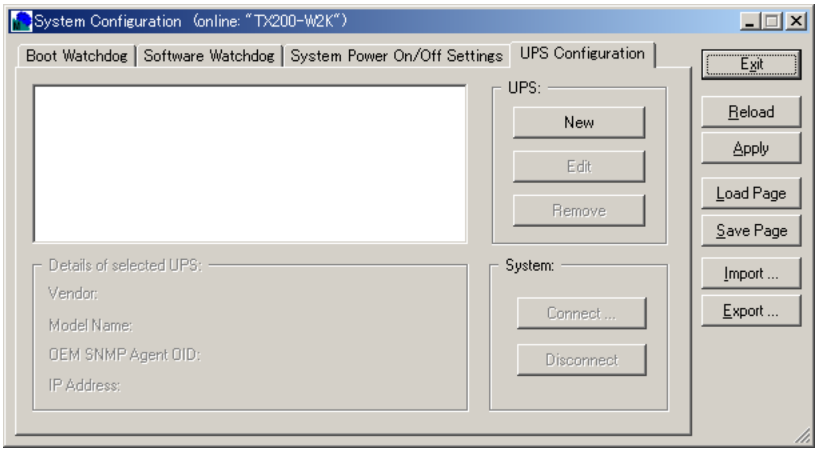
2 ［OK］をクリックします。

項目を設定する画面が表示されます。



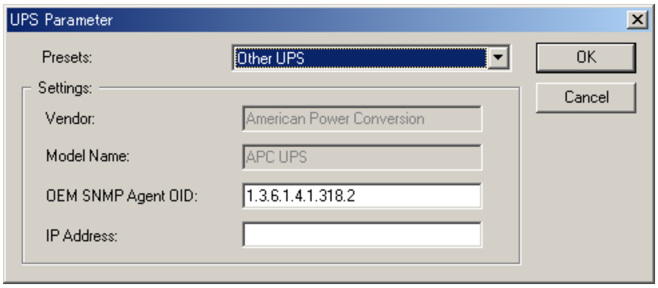
3 ［UPS Configuration］タブをクリックします。

「UPS Configuration」画面が表示されます。



4 ［New］をクリックします。

「UPS Parameter」画面が表示されます。



5 「Presets」を選択し、「IP address」を入力します。

なお、「Presets」は、連携する UPS 製品により異なりますので、以下のとおり設定してください。

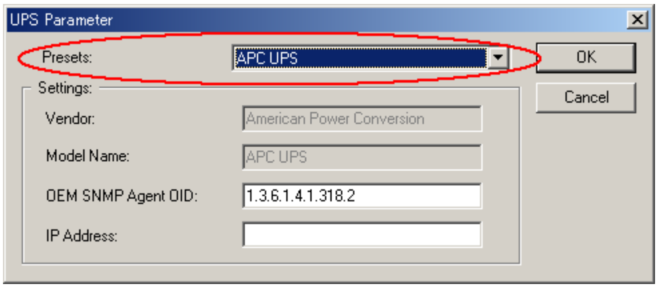
また、「OEM SNMP Agent OID」の値は変更しないでください。

高機能無停電電源装置（Smart-UPS）用管理ソフトウェア／ネットワークマネジメントカードの場合

「Presets」で「APC UPS」を選択します。

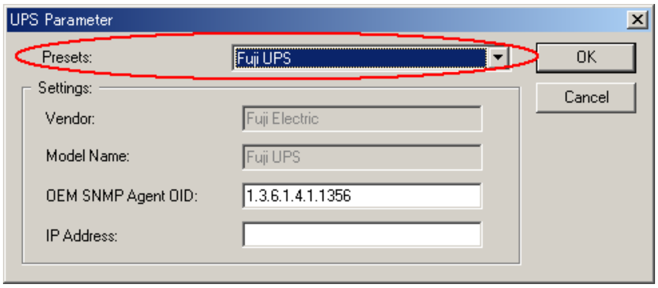
「IP address」には、管理ソフトウェアの場合は、UPS を接続し、UPS 管理ソフトウェアが動作しているサーバの IP アドレスを入力してください。

また、ネットワークマネジメントカードの場合は、ネットワークマネジメントカードの IP アドレスを入力してください。



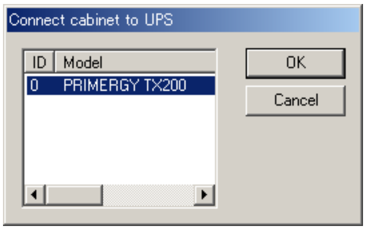
高機能無停電電源装置（NetpowerProtect シリーズ）用管理ソフトウェアの場合

「Presets」で「Fuji UPS」を選択します。「IP address」には、UPS を接続し、UPS 管理ソフトウェアが動作しているサーバの IP アドレスを入力してください。



6 ［OK］をクリックします。

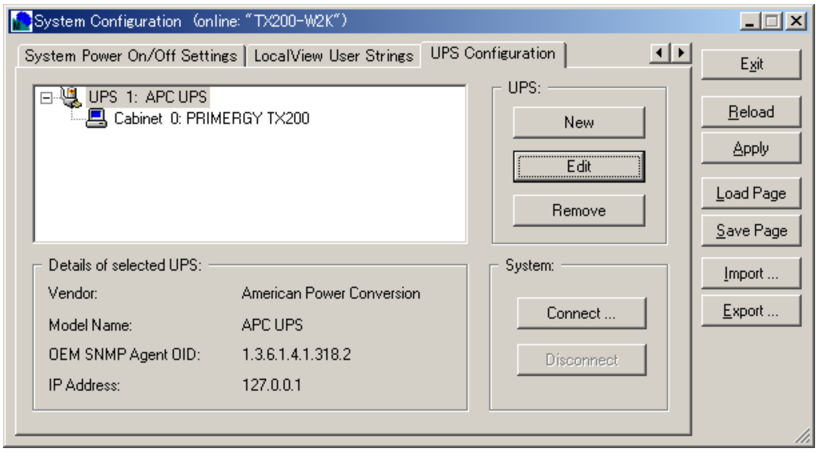
「Connect cabinet to UPS」画面が表示されます。



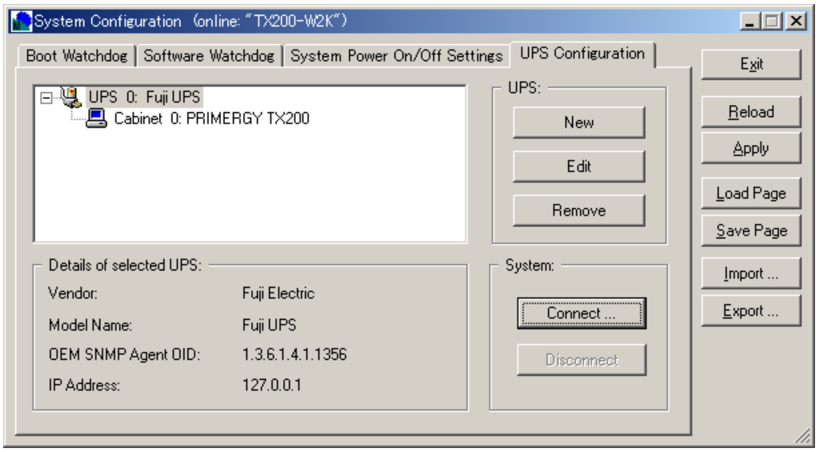
7 ［OK］をクリックします。

以下の画面が表示されます。

高機能無停電電源装置（Smart-UPS）用管理ソフトウェア／ネットワークマネジメントカードの場合



高機能無停電電源装置（NetpowerProtect シリーズ）用管理ソフトウェアの場合



8 ［Exit］をクリックします。

設定を保存するかどうかを確認する画面が表示されます。

9 ［はい］をクリックします。

UPS 接続情報が設定されます。

POINT

- UPS 管理ソフトウェア（クライアントプログラム）、または Web ブラウザ（ネットワークマネジメントカード管理画面）を ServerView 管理コンソールから起動するには、以下の操作を行います。
  1. 管理コンソールを起動します。
  2. サーバをダブルクリックするか、またはサーバを選択して［ServerView］をクリックします。
  3. ［電源］をクリックします。
  4. ［UPS マネージャ］をクリックします。
- UPS 接続情報を変更する場合は［Edit］、削除する場合は［Remove］をクリックしてください。
- Cabinet を UPS に接続する場合は［Connect］、切断する場合は［DisConnect］をクリックしてください。

4.4.3 UPS 管理ソフトウェア連携の設定（Linux）

UPS 管理ソフトウェア連携を行う場合、oemups コマンドで ServerView に UPS 接続情報を設定します。また、UPS 連携を行うサーバに UPS 管理ソフトウェアをインストールするか、または、ネットワークマネジメントカードを用意してください。

POINT

- UPS 管理ソフトウェア（NetpowerView F）を使用する場合、SNMP サービスの再起動した後に、"/etc/init.d/upsagent restart" コマンドを実行してください。

■ 高機能無停電電源装置（Smart-UPS）用ネットワークマネジメントカードを使用する場合

1 以下のコマンドを実行します。

```
# oemups -a
Configuring UPS for ServerView
Please enter some information about the UPS:
```

2 「UPS Vendor Name」、「UPS Type」、「UPS Max Discharge Time」、「SNMP OID」は何も入力しないで【Enter 】キーを押します。

```
UPS Vendor Name [American Power Conversion]
UPS Type [APC UPS]
UPS Max Discharge Time [0]
SNMP OID [none]
```

3 「SNMP IP address」に、ネットワークマネジメントカードの IP アドレスを入力します。

```
SNMP IP address [none]
xxx.xxx.xxx.xxx  ← IPアドレス
```

4 「IDs of the cabinets...」は何も入力せずに【Enter 】キーを押します。

```
IDs of the cabinets this UPS is connected to [0]
```

5 設定内容が表示されますので、確認後「y」を入力して【Enter 】キーを押します。

```
Is the following information correct?
UPS Vendor Name: American Power Conversion
UPS Type: APC UPS
UPS Max Discharge Time: 0
SNMP OID:
SNMP IP Address: xxx.xxx.xxx.xxx
Cabinet IDs: 0
Configure these values (y/n)[y]?
y
```

6 以下のメッセージが表示されたら、設定は終了です。

```
Configuration completed
```

■ 高機能無停電電源装置（NetpowerProtect シリーズ）用管理ソフトウェアを使用する場合

1 以下のコマンドを実行します。

```
# oemups -a
Configuring UPS for ServerView
Please enter some information about the UPS:
```

2 「UPS Vendor Name」に「Fuji Electric」と入力します。

```
UPS Vendor Name [American Power Conversion]
Fuji Electric
```

3 「UPS Type」に「Fuji UPS」と入力します。

```
UPS Type [APC UPS]
Fuji UPS
```

4 「UPS Max Discharge Time」と「SNMP OID」は何も入力しないで【Enter 】キーを押します。

```
UPS Max Discharge Time [0]
SNMP OID [none]
```

5 「SNMP IP address」に、UPS が接続され UPS 管理ソフトウェアが動作しているサーバの IP アドレスを入力します。

```
SNMP IP address [none]
127.0.0.1
```

6 「IDs of the cabinets...」は何も入力せずに【Enter 】キーを押します。

```
IDs of the cabinets this UPS is connected to [ 0 ]
```

7 設定内容が表示されますので、確認後【y】を入力して【Enter 】キーを押します。

```
Is the following information correct?
UPS Vendor Name: Fuji Electric
UPS Type: Fuji UPS
UPS Max Discharge Time: 0
SNMP OID:
SNMP IP Address: 127.0.0.1
Cabinet IDs: 0
Configure these values (y/n)[y]?
y
```

8 以下のメッセージが表示されたら、設定は終了です。

```
Configuration completed
```

4.5 LDSM 連携

LDSM（Intel LANDesk® Server Manager）で管理しているサーバを、ServerView の管理コンソールに表示することができます。また、ServerView の管理コンソールから LDSM コンソールを表示することができます。

重要

- LDSM 連携を行うには、ServerView Windows コンソールをインストールしているパソコンにあらかじめ LDSM コンソールをインストールしておく必要があります。なお、連携できるのは、LDSM V6.0 のみです。
  LDSM V2.52 以前のコンソールとの連携はできません。

■ LDSM で管理しているサーバを ServerView 管理コンソールに登録する

LDSM で管理しているサーバを ServerView 管理コンソールに登録するには、監視対象サーバの追加を行い、サーバのタイプに LDSM を指定します。

1 ServerView 管理コンソールの「サーバの一覧」画面で、「ファイル」メニュー→「新しいサーバ」の順にクリックします。

2 サーバのタイプを「LDSM」に指定し、［参照］をクリックします。

ネットワーク上のコンピュータがリスト表示されます。

POINT

- サーバのタイプを「自動」に指定した場合、ServerView 管理コンソールは、LDSM サーバとして認識しません。必ず、「LDSM」を指定してください。

3 LDSM で管理しているサーバを選択し、［適用］をクリックします。

「サーバの一覧」画面に LDSM で管理しているサーバ名が登録されます。

■ LDSM コンソールを ServerView 管理コンソールから起動する

1 ServerView 管理コンソールの「サーバの一覧」画面から、LDSM で管理されているサーバの名前をダブルクリックします。

LDSM コンソールのユーザ名／パスワードを入力する画面が表示されます。
詳細は、LDSM のマニュアルを参照してください。

2 「ユーザ名」、「パスワード」を入力し、［OK］をクリックします。

LDSM コンソールが起動します。

POINT

- 「サーバの一覧」画面で、「バージョン管理」モードになっている場合、LDSM コンソールは起動しません。「サーバ管理」モードに変更してください。
- LDSM で管理されていないサーバを､LDSM で管理されているサーバとして ServerView 管理コンソールに登録した場合、そのサーバ名をダブルクリックしても LDSM コンソールは起動できません。

4.6 RAID Manager 連携

ServerView S2 および管理コンソールの RAID Manager 連携について説明します。なお、RAID Manager 連携を行うためには、監視対象サーバに各アレイコントローラ用の管理ソフトウェア（以降 RAID Manager と呼びます）がインストールされている必要があります。
各 RAID Manager のインストール、および使用方法については、各アレイコントローラ または 各サーバ本体に添付の『ユーザーズガイド』を参照してください。

4.6.1 RAID Manager 連携の概要

■ 連携できる RAID Manager

連携できる RAID Manager は以下のとおりです。

- ServerView RAID
- GAM（Global Array Manager）
- Storage Manager
- PROMISE Fasttrak
- PAM（PROMISE ARRAY MANAGEMENT）

■ RAID Manager 連携の機能

RAID Manager 連携の機能は以下のとおりです。

● ServerView RAID Manager（Web クライアント）の起動

ServerView S2 および管理コンソールより、ServerView RAID Manager（Web クライアント）を起動することができます。
起動方法については、「4.6.2 ServerView RAID Manager（Web クライアント）の起動方法」（→ P.306）を参照してください。

● RAID Manager（ServerView RAID Manager 以外のクライアントソフトウェア）の起動

管理コンソールより、RAID Manager（ServerView RAID Manager 以外のクライアントソフトウェア）を起動することができます。なお、ServerView S2 からは、RAID Manager（ServerView RAID Manager 以外のクライアントソフトウェア）は起動できません。
また、連携機能により RAID Manager を起動するためには、管理コンソールをインストールした管理端末に RAID Manager（クライアントソフトウェア）がインストールされている必要があります。
起動方法については、「■ 外部記憶装置の状態確認」（→ P.246）を参照してください。

● 詳細情報表示

RAID Manager から提供された詳細情報を、ServerView S2 および管理コンソールが用意している詳細情報表示画面に表示することができます。詳細情報表示については、以下を参照してください。

- ServerView S2 の場合
  →「● MYLEX デバイスビュー（RAID の表示)」（P.121）
- 管理コンソールの場合
  →「■ 外部記憶装置 - RAID コントローラの場合」（P.249）

● トラップ監視

RAID Manager からのトラップイベントをアラームサービスで監視することができます。

● アイコン変化

RAID Manager から異常が通知されると、ServerView S2 および管理コンソールのステータスアイコンが変化し、異常を認識することができます。

4.6.2 ServerView RAID Manager（Web クライアント）の起動方法

ServerView RAID Manager（Web クライアント）の起動方法について説明します。

POINT

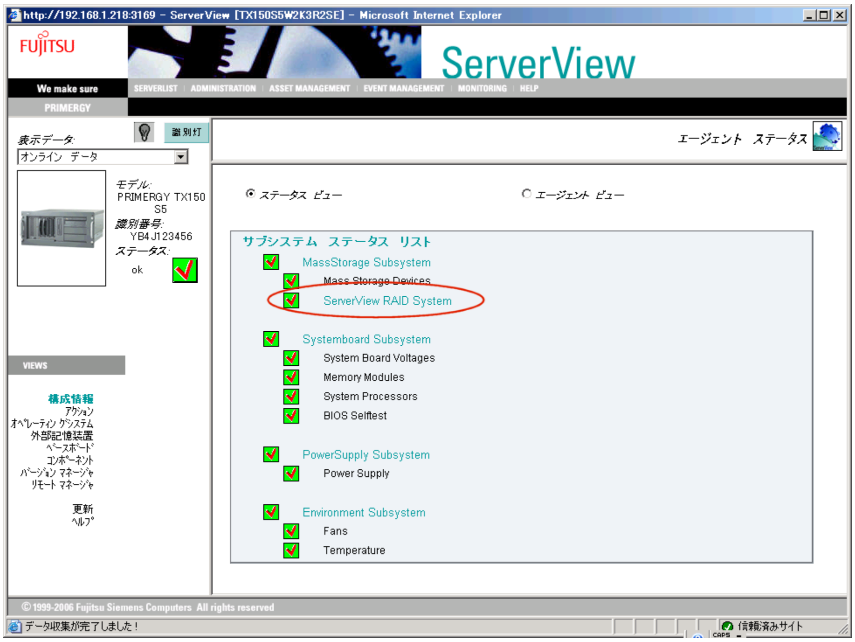
- ServerView RAID Manager（Web クライアント）を起動できる ServerView S2 および管理コンソールのバージョンは、以下のとおりです。
  ・ServerView Console for Windows/Linux V4.20.xx 以降

■ ServerView S2（構成情報）からの起動方法

ServerView S2 から、ServerView RAID がインストールされた監視対象サーバの「構成情報」画面を表示します。構成情報については、「3.2.3 構成情報の表示」（→ P.111）を参照してください。

1 **「サブシステム　ステータス　リスト」－「MassStorage Subsystem」－「ServerView RAID System」をクリックします。**

ServerView RAID がインストールされていない場合は、「ServerView RAID System」は表示されません。



■ ServerView S2（外部記憶装置）からの起動方法

ServerView S2 から、ServerView RAID がインストールされた監視対象サーバの「外部記憶装置」画面を表示します。外部記憶装置については、「3.2.6 外部記憶装置の状態確認」（→ P.119）を参照してください。

1 「外部記憶装置」メニュー→「RAID ビュー」の順にクリックします。
または
「選択したコントローラの詳細」の「RAID ビュー」をクリックします。

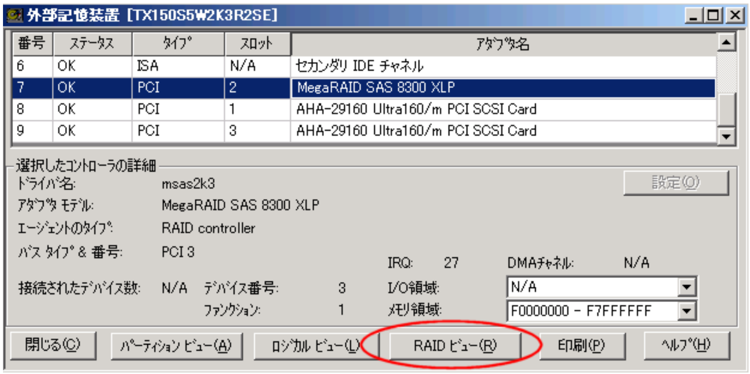
ServerView RAID がインストールされていない場合、または ServerView RAID 未対応のコントローラを選択した場合は、「RAID ビュー」は表示されません。

■ 管理コンソール（外部記憶装置）からの起動方法

管理コンソールから、ServerView RAID がインストールされた監視対象サーバの「外部記憶装置」画面を表示します。外部記憶装置については、「■ 外部記憶装置の状態確認」（→ P.246）を参照してください。

1 「選択したコントローラの詳細」画面で「RAID ビュー」をクリックします。

ServerView RAID がインストールされていない場合、または ServerView RAID 未対応のコントローラを選択した場合は、「RAID ビュー」は表示されません。



第 5 章

RemoteControlService の使用

この章では、RemoteControlService の使用方法について説明しています。

5.1 RemoteControlService の概要 310
5.2 準備 313
5.3 起動と終了 317
5.4 使用方法 327

5.1 RemoteControlService の概要

RemoteControlService は、PRIMERGY サーバ向けリモートコントロール用ソフトウェアです。
ここでは、RemoteControlService の機能や、システム要件について説明しています。

■ RemoteControlService とは

管理端末からサーバをリモートでコントロールし、電源制御や現在のサーバの電源状態の表示を行うことができます。また、テキストベースでのコンソールリダイレクション表示を行うことができます。

■ RemoteControlService のコンポーネント

RemoteControlService は、以下のサーバ側と管理端末側の 2 つのコンポーネントから構成されています。

● サーバ側コンポーネント［iRMC、BMC］

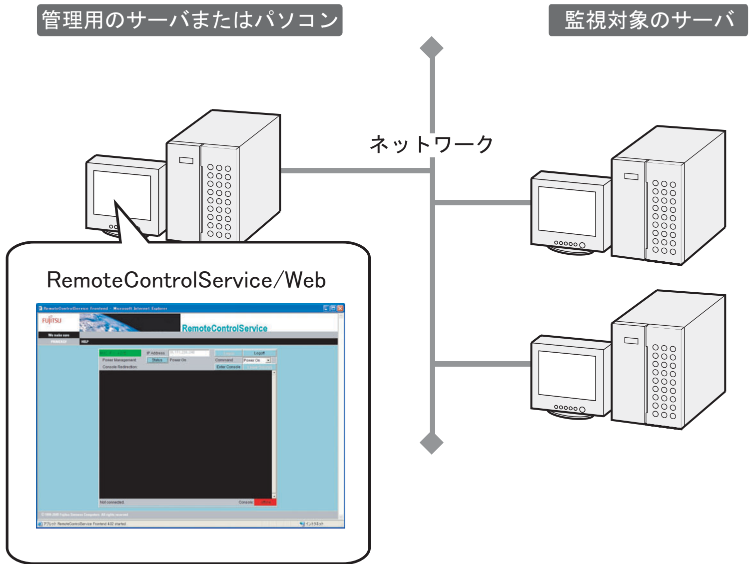
- iRMC（integrated Remote Management Controller：リモートマネージメントコントローラ）
  サーバの iRMC の機能で、従来のオンボード RSB 相当の機能を実現します。
  以下の機種でサポートされています。
  PRIMERGY RX300 S3 ／ PRIMERGY RX200 S3 ／ PRIMERGY TX200 S3 ／ PRIMERGY TX150 S5
- BMC（IPMI over LAN）
  サーバ BMC の IPMI over LAN 機能で、リセット、電源 OFF/ON、テキストモードのコンソールリダイレクションなどの機能を実現します。
  以下の機種でサポートされています。
  ・IPMI 1.5
  PRIMERGY RX100 S3 ／ PRIMERGY TX150 S4
  ・IPMI 2.0
  PRIMERGY RX600 S2 ／ PRIMERGY RX600 S3

POINT

▶ ブレードサーバのサポートについては、『PRIMERGY BX300 ハードウェアガイド マネジメントブレード編』または『PRIMERGY BX600 ハードウェアガイド マネジメントブレード編』を参照してください。

● 管理端末側コンポーネント［RemoteControlService/Web］

管理端末にインストールし、サーバをリモートコントロールするソフトウェアです。
RemoteContorolService/Web は、管理コンソール（ServerView S2）のプラグインとしてインストールし、サーバをリモートコントロールする Web ベースのソフトウェアです。



5.1.1 機能

RemoteControlService/Web には、以下の機能があります。

- Telnet 接続によるリモート管理：
  リモートマネジメントコントローラ、リモートサービスボード / リモートサービスコントローラ、マネージメントブレード
- IPMI 接続によるリモート管理：iRMC ／ BMC（IPMI over LAN）

● Telnet 接続によるリモート管理

電源管理機能とテキストベースのコンソールリダイレクション機能などを構成します。

POINT

▶ マネージメントブレードでは、コンソールリダイレクション機能は使用できません。

● IPMI 接続によるリモート管理

電源管理機能とテキストベースのコンソールリダイレクション機能を構成します。

5.1.2 システム要件

サーバと管理端末用のシステム要件は、以下のとおりです。

■ サーバ

表：サーバのシステム要件

ハードウェア	ソフトウェア
・BMC：BMC ファーム版数 2.xx 以上 ・iRMC：RX300 S3 以降の機種に搭載の iRMC	条件なし

■ 管理端末

ServerView S2 がインストールされたサーバの管理に利用できます。

5.1.3 留意事項

■ RemoteControlService/LAN

RemoteControlService/LAN とは同時に利用できません。RemoteControlService/Web を使用の際には、必ず RemoteControlService/LAN を先にアンインストールしてください。

■ IPMI（Intelligent Platform Management Interface)

IPMI 機能は、機種に依存します。本機能のサポートについては、『RCS_Hints』を合わせて参照してください。

● 「QLogic RMCP Filter」の留意事項

IPMI によるコンソールリダイレクションを実行する場合、管理端末側に「QLogic RMCP Filter」のインストールが必要な機種があります。「QLogic RMCP Filter」のインストールや使用方法については、『RCS_Hints』を参照してください。

● IPMI によるリダイレクションの範囲

IPMI によるリダイレクションの範囲は、BIOS のメモリチェック終了後から OS 起動前まで、および DOS モード実行時です。それ以外のサーバ状態では、リダイレクションは未サポートです。

● 異なるセグメント間での IPMI 接続について

IPMI 接続ではセグメントの異なるネットワーク間でも接続を行うことができます。
その場合、対象となるネットワーク間においてポート番号 623 番が開いている必要があります。

5.2 準備

RemoteControlService を使用する前の準備として、iRCM、BMC の設定、および RemoteControlService/Web のインストールを行います。

5.2.1 RemoteControlService/Web のインストール／アンインストール

管理端末に RemoteControlService/Web をインストール、またはアンインストールする方法について、説明します。

重要

- RemoteControlService/Web をインストールするには、あらかじめ ServerView S2 がインストールされている必要があります。
- RemoteControlService/Web より先に ServerView S2 をアンインストールしないでください。

■ Windows の場合

● インストール

1 管理者または管理者と同等の権限をもつユーザ名でログインします。

2 実行中のアプリケーションをすべて終了します。

3 PRIMERGY ドキュメント & ツール CD から、以下のインストーラを起動します。

［CD-ROM ドライブ］:¥SVMANAGE¥WinSVRcs¥SV_Rcs.bat

RemoteControlService/Web がインストールされます。

● アンインストール

RemoteControlService/Web のアンインストールは「コントロールパネル」の「アプリケーションの追加と削除」から行ってください。また、「QLogic RMCP Filter」がインストールされている場合は必ず「QLogic RMCP Filter」のアンインストールを先に行ってください。

■ Linux の場合

● インストール

1 管理者または管理者と同等の権限をもつユーザ名でログインします。

2 実行中のアプリケーションをすべて終了します。

3 PRIMERGY ドキュメント & ツール CD から、以下のインストーラを起動します。

```
# mount /mnt/cdrom/または/media/cdrom/または/media/cdrecorder/
# cd /mnt/cdrom/または/media/cdrom/または/media/cdrecorder/Svmanage/
LinuxSVRcs
# ./InstallRCSW.sh RemoteViewFE-X.X-X.i386.rpm
(x.x-xはバージョンを示す)
```

● アンインストール

RemoteControlService/Web のアンインストールは、以下のコマンドを実行します。

```
# rpm -e RemoteViewFE
```

5.2.2 iRMC を使用するための設定

iRMC を使用するには、BIOS および Server Management Tools（IPMIview）での設定が必要です。なお、機種やファームウェア /BIOS のバージョンにより設定方法が異なる場合があります。詳細については、ご使用のサーバの『ユーザーズガイド』を参照してください。

■ PRIMERGY RX300 S3 ／ PRIMERGY RX200 S3 ／ PRIMERGY TX200 S3 ／ PRIMERGY TX150 S5 の場合

● サーバ側設定

1 BIOS セットアップユーティリティを起動し、以下の項目を設定します。

この設定はコンソールリダイレクションを行う場合のみ実行してください。電源制御のみを行う場合は必要ありません。

表：BIOS セットアップユーティリティ設定項目

項目	設定値
「Advanced」－「Peripheral Configration」	
Serial 1	Enabled
Serial Multiplexer	System
「Server」－「Console Redirection」	
Console Redirection	Enabled
Port	Serial 1
Baud Rate	9600
Protocol	VT100+
Flow Control	CTS/RTS
Mode	Enhanced

2 「8.2 準備」（→ P.454）を参照し、IP アドレス、ユーザ名およびパスワードを設定します。

5.2.3 IPMI を使用するための設定

IPMI を使用するには、BIOS および Server Management Tools（IPMIview）での設定が必要です。機種または BIOS 版数により設定方法が異なります。詳細については、ご使用のサーバの『ユーザーズガイド』を参照してください。

■ サーバ側共通設定

1 Server Management Tools のメニュー画面から、「User Management」を選択します。

2 ID3 の「Administrator」にパスワードを設定します。
ここで設定したユーザ名「Administrator」とパスワードは、IPMI 接続時に必要になります。

3 Operation は enable user の「1」を選択します。

4 【F1】キーを押して、設定を保存します。

5 Server Management Tools のメニュー画面から「Channel Configuration」を選択します。

6 Select Channel から「#2 802.3_LAN」を選択し、以下の項目を入力します。

表：IP アドレス設定項目

項目	設定内容
BMC NIC IP Address ／ MAC Address	IPMI 機能はオンボードの LAN ポートのみに対応しています。このため MAC アドレスは既定値から変更できません。
SubnetMask IP Address	ネットワークのサブネットマスクを入力します。
Default Gateway IP Address	ネットワークのデフォルトゲートウェイを入力します。
MAC Address	デフォルトゲートウェイの MAC アドレスを入力します。
IPAddressSource	1 static を選択してください。

7 【F1】キーを押して、設定を保存します。
以降は各機種ごとの設定を参照してください。

重要

- BIOS および Server Management Tools（IPMIview）の設定において、指定項目以外は、デフォルト値、または本体マニュアルに従って設定してください。
- 以下のサーバの BMC の IP アドレスは、サーバ OS 上の IP アドレスとは異なる値を設定してください。
PRIMERGY RX100 S3 ／ PRIMERGY TX150 S4

■ PRIMERGY RX600 S2 ／ RX600 S3 の場合

1 コンソールリダイレクションを設定します。

電源制御のみ行う場合、設定の必要はありません。
BIOS セットアップユーティリティを起動し、以下の項目を設定します。

表：BIOS セットアップユーティリティ設定項目

項目	設定値
「Server」 －「Console Redirection」 －「COM1 Console Redirection」	
Console Redirect Port	Enabled
Flow Control	RTS/CTS + CD
Baud Rate	19.2k
Terminal Type	VT100+

■ PRIMERGY TX150 S4 ／ RX100 S3 の場合

1 コンソールリダイレクションを設定します。

電源制御のみ行う場合、設定の必要はありません。
BIOS セットアップユーティリティを起動し、以下の項目を設定します。

表：BIOS セットアップユーティリティ設定項目

項目	設定値
「Advanced」 －「Peripheral Configuration」	
Serial Multiplexer	BMC
「Server」 －「Console Redirection」	
Console Redirection	Enabled
Media Type	LAN
Baud Rate	9600
Protocol	VT100+
Flow Control	None
Mode	Enhanced

5.3　起動と終了

RemoteControlService/Web の起動、終了方法と、メニューについて説明します。

5.3.1　RemoteControlService/Web の起動と終了（iRMC Telnet 接続）

RemoteControlService/Web の起動は、OS が起動されている場合と、OS が起動されていない場合とで異なります。

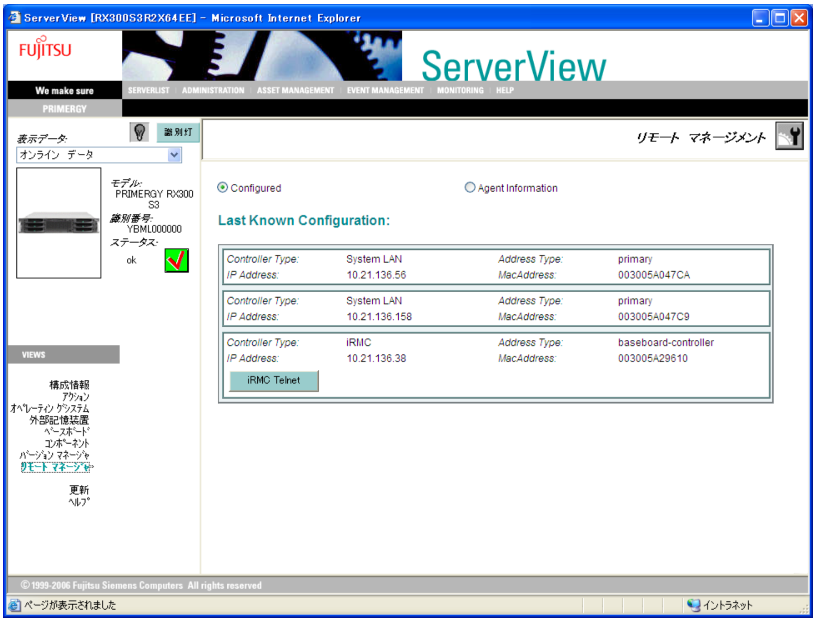
重要

- リモートマネージメントコントローラ（iRMC）への接続方法には Telnet のほかに Web インタフェースを使って接続する方法があります。
  詳しくは、「8.3 起動と終了」（→ P.456）を参照してください。
- リモートマネージメントコントローラ（iRMC）へ Telnet 接続する場合、Telnet 接続を実行する前に、iRMC の Web インターフェイスを使用して、Telnet ポートを有効にする必要があります。
  詳しくは、「8.4.7 Network Settings」（→ P.477）を参照してください。

● OS 起動中

1 ServerView S2 の「ServerList」→「機種メニュー」→「VIEWS」メニューから「リモート マネージャ」を選択します。

以下の画面が表示されます。



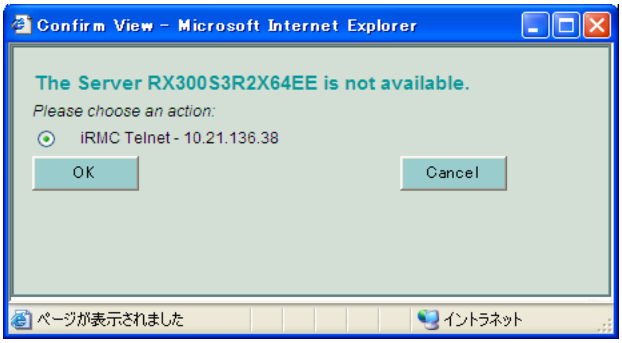
2 「iRMC Telnet」を選択します。

RemoteConsoleService/Web が起動します。

● OS 未起動中

1 ServerView S2 の「ServerList」から対象のサーバを選択します。

以下の画面が表示されます。

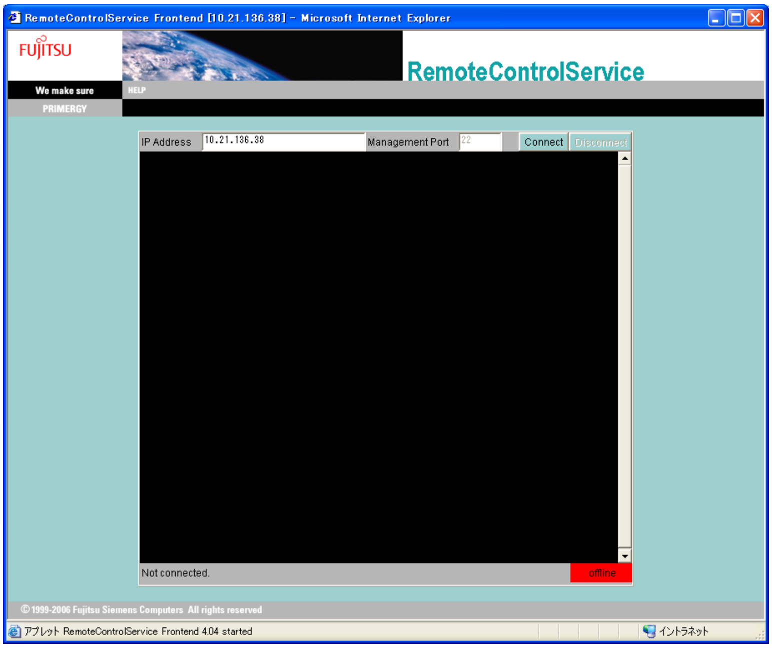


2 「iRMC Telnet」を選択します。

RemoteConsoleService/Web が起動します。

■ RemoteConsoleService/Web 画面

RemoteConsoleService/Web が起動すると、以下の画面が表示されます。



RemoteConsoleService/Web 画面では、iRMC に接続後、以下の情報参照および操作が可能です。

表：RemoteConsoleService/Web 画面での操作

項目	説明
IP Address	iRMC に接続する IP Address が表示されます。
Management Port	iRMC に接続する Telnet 番号が表示されます。
［connect］ボタン	「IP Address」に表示されている iRMC に接続します。
［Disconnect］ボタン	iRMC から切断します。

■ iRMC Telnet の使用方法

RemoteControlService/Web での iRMC Telnet 内のメインメニューについては、→「5.4.1 iRMC Telnet 接続」（P.327）を参照してください。

■ RemoteConsoleService/Web の終了

1 iRMC へログオンしているときは、［Disconnect］をクリックして切断します。

2 RemoteControlService/Web のブラウザを閉じます。

RemoteControlService/Web が終了します。

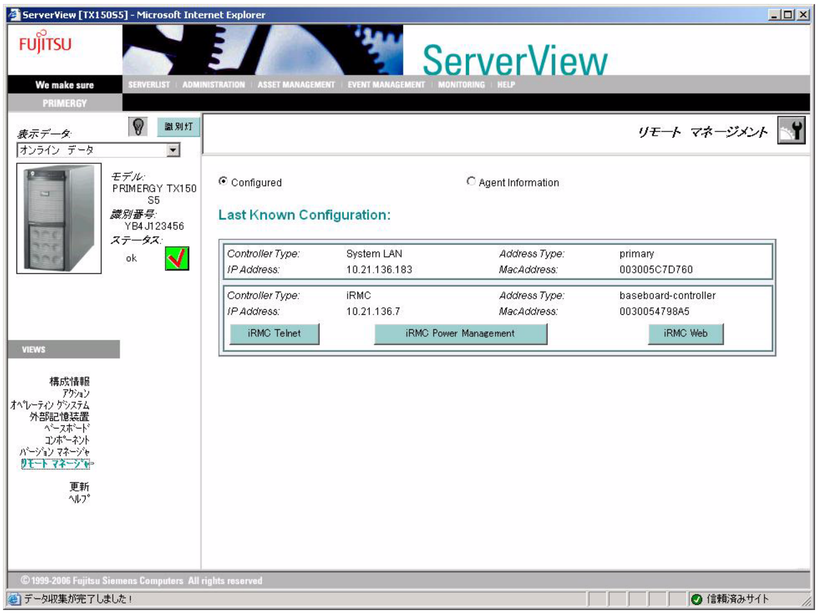
5.3.2 RemoteControlService/Web の起動と終了（iRMC/BMC IPMI 接続）

RemoteControlService/Web の起動は、OS が起動されている場合と、OS が起動されていない場合とで異なります。

● OS 起動中

1 ServerView S2 の「ServerList」→「機種メニュー」→「VIEWS」メニューから「リモート マネージャ」を選択します。

以下の画面が表示されます。



2 「BMC Power Management」または「iRMC Power Management」を選択します。

RemoteConsoleService/Web が起動します。

POINT

- 「iRMC Web」を選択すると、リモートマネジメントコントローラの Web インタフェースを起動することができます。

● OS 未起動中

1 ServerView S2 の「ServerList」から対象のサーバを選択します。

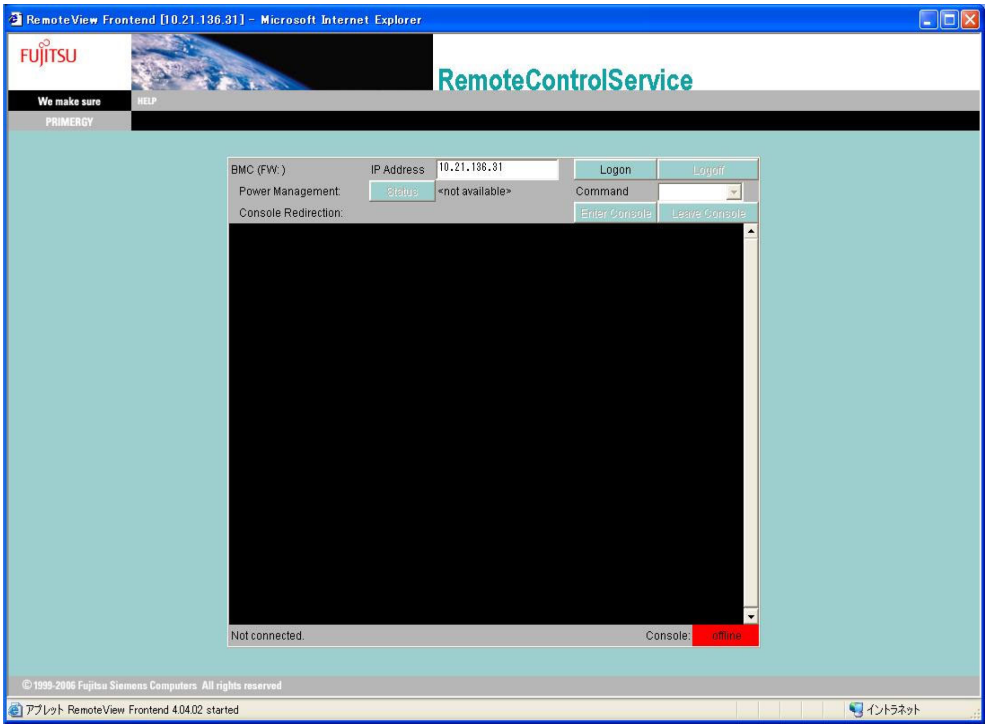
以下の画面が表示されます。

2 「BMC Power Management」または「iRMC Power Management」を選択し、［OK］をクリックします。

RemoteConsoleService/Web が起動します。

■ RemoteConsoleService/Web 画面

RemoteConsoleService/Web が起動すると、以下の画面が表示されます。



RemoteConsoleService/Web 画面では、iRMC / BMC に接続後、以下の情報参照および操作が可能です。

表：RemoteConsoleService/Web 画面での操作

項目		説明
BMC（FW:)		ログオン後、iRMC / BMC ファームウェアのバージョンを表示します。
IP Address		iRMC / BMC に設定された IP Address が表示されます。
［Loggon］ボタン		「IP Address」に表示されている iRMC / BMC にログオンします。
［Loggoff］ボタン		iRMC / BMC からログオフします。
Power Management		サーバの電源制御を行います。Command からサーバに対して行う操作を選択します。 ［Status］ボタンをクリックすると、現在のサーバの電源状態が表示されます。
Command		サーバの電源制御の操作を以下のコマンドから選択します。
	Power On	サーバの電源を入れます。
	Power Off	サーバの電源を切ります。
	Reset	サーバを再起動します。
	Power Cycle	サーバの電源を切り、再度電源を入れます。
	Shutdown	サーバをシャットダウンします。
Console Redirection		
	［Enter Console］ボタン	コンソールリダイレクトを開始します。BMC にログオンしている場合のみ有効です。
	［Leave Console］ボタン	コンソールリダイレクトを終了します

■ RemoteConsoleService/Web の終了

1 BMC へログオンしているときは、［Logoff］ボタンをクリックしてログオフします。

2 RemoteControlService/Web のブラウザを閉じます。

RemoteControlService/Web が終了します。

5.3.3 RemoteControlService/Web の起動と終了（RSB Telnet 接続）

RemoteControlService/Web の起動は、OS が起動されている場合と、OS が起動されていない場合とで異なります。

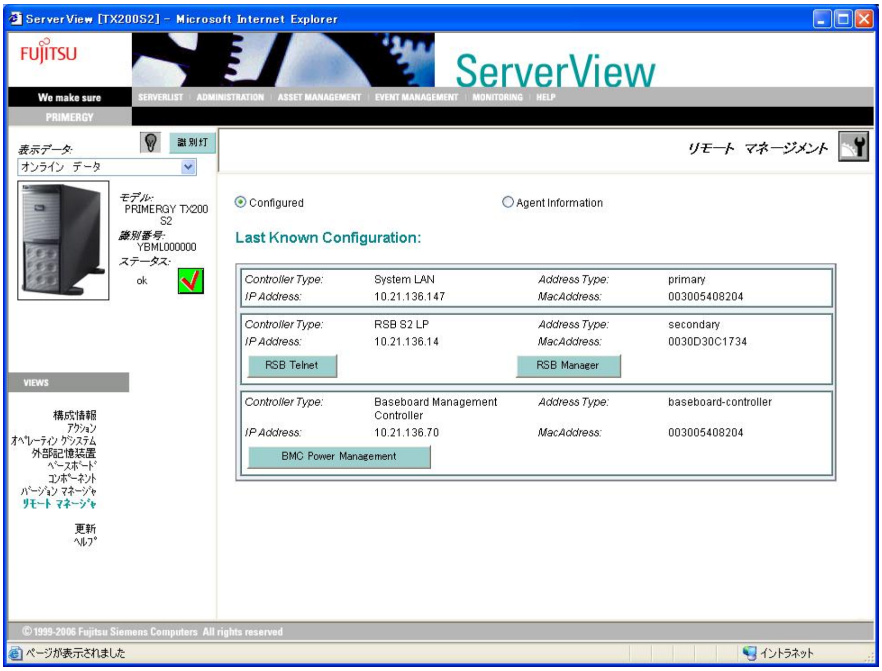
重要

- リモートサービスボードの接続方法にはTelnetのほかにWebインタフェースを使って接続する方法があります。
  詳しくは、「7.3 各種監視情報の表示」（→ P.409）を参照してください。
- リモートサービスボード（RSB）へ Telnet 接続する場合、Telnet 接続を実行する前に、RSB の Web インターフェイスを使用して、Telnet ポートを有効にする必要があります。
  詳しくは、「7.3.8 ［Web/SSL Config］ページ」（→ P.444）を参照してください。

● OS 起動中

1 ServerView S2 の「ServerList」→「機種メニュー」→「VIEWS」メニューから「リモート マネージャ」を選択します。

以下の画面が表示されます。



2 「RSB Telnet」を選択します。

RemoteConsoleService/Web が起動します。

POINT

- 「RSB マネージャ」を選択すると、リモートサービスボードの Web インタフェースを起動することができます。

● OS 未起動中

1 ServerView S2 の「ServerList」から対象のサーバを選択します。

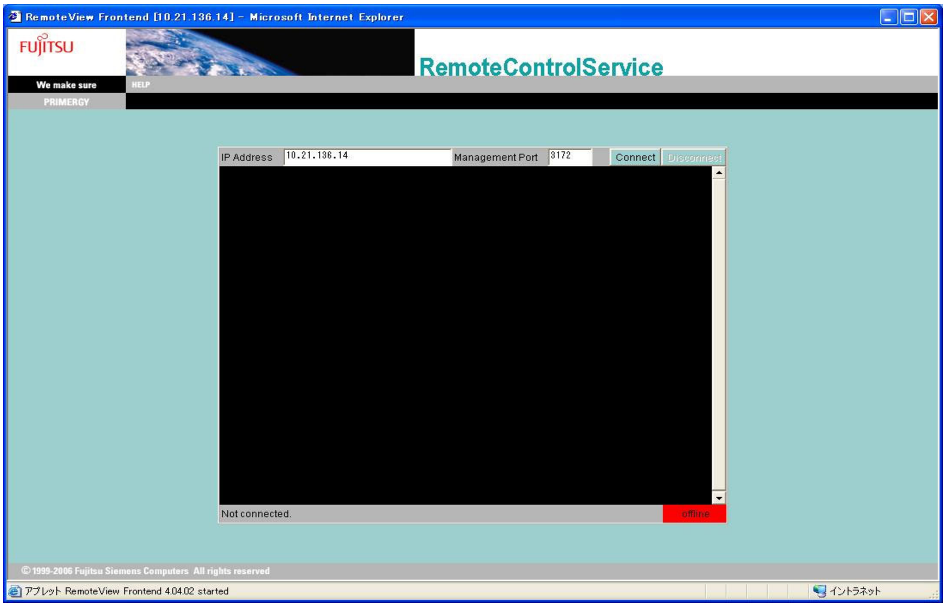
以下の画面が表示されます。

2 「Start RSB Telnet」を選択し、［OK］をクリックします。

RemoteConsoleService/Web が起動します。

■ RemoteConsoleService/Web 画面

RemoteConsoleService/Web が起動すると、以下の画面が表示されます。



RemoteConsoleService/Web 画面では、RSB に接続後、以下の情報参照および操作が可能です。

表：RemoteConsoleService/Web 画面での操作

項目	説明
IP Address	RSB に設定された IP Address が表示されます。
Management Port	RSB に設定された Telnet Port 番号が表示されます。
［connect］ボタン	「IP Address」に表示されている RSB に接続します。
［Disconnect］ボタン	RSB から切断します。

■ RSB Telnet の使用方法

RemoteControlService/Web での RSB Telnet 内のメインメニューは、RemoteControlService/LAN での RSB Telnet 接続と同じです。「5.4.3 RSB Telnet 接続」の「■ メインメニュー」（→ P.331）を参照してください。

■ RemoteConsoleService/Web の終了

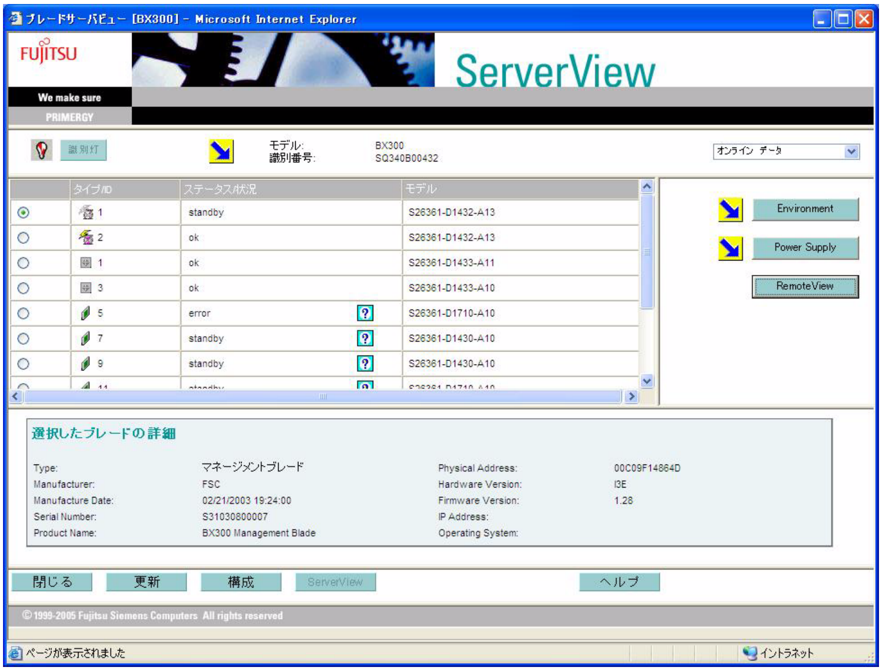
1 RSB へログオンしているときは、［Disconnect］ボタンをクリックして切断します。

2 RemoteControlService/Web のブラウザを閉じます。

RemoteControlService/Web が終了します。

5.3.4 RemoteControlService/Web の起動と終了（ManagementBlade 接続）

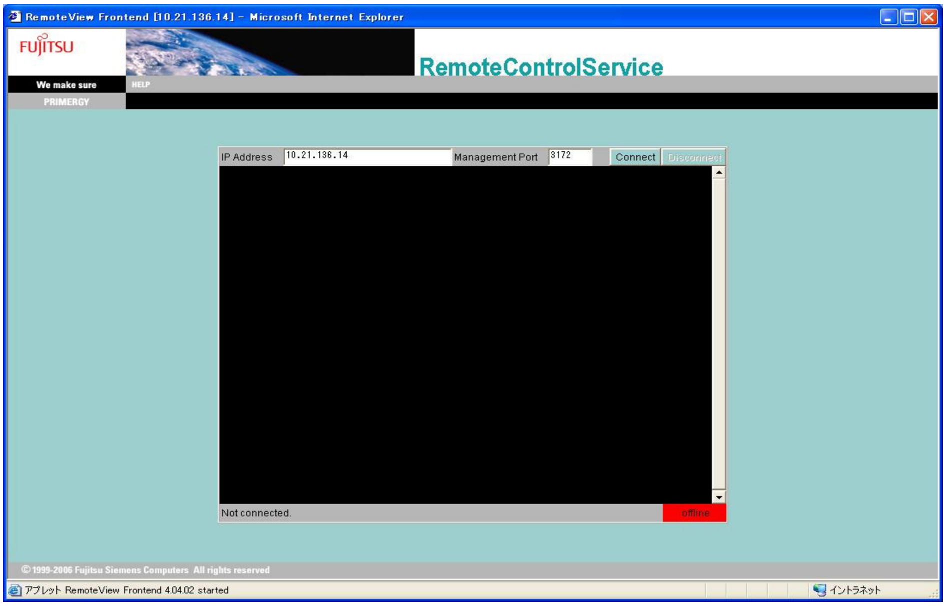
1 ServerView S2 の「ServerList」→「機種メニュー」→「ブレードサーバビュー」から「RemoteView」を選択します。



RemoteConsoleService/Web が起動します。

■ RemoteConsoleService/Web 画面

RemoteConsoleService/Web が起動すると、以下の画面が表示されます。



RemoteConsoleService/Web 画面では、ManagementBlade に接続後、以下の情報参照および操作が可能です。

表：RemoteConsoleService/Web 画面での操作

項目	説明
IP Address	ManagementBlade に設定された IP Address が表示されます。
Management Port	ManagementBlade に設定された Telnet Port 番号が表示されます。
［connect］ボタン	「IP Address」に表示されている ManagementBlade に接続します。
［Disconnect］ボタン	ManagementBlade から切断します。

■ RemoteConsoleService/Web の終了

1 ManagementBlade へログオンしているときは、［Disconnect］ボタンをクリックして切断します。

2 RemoteControlService/Web のブラウザを閉じます。

RemoteControlService/Web が終了します。

5.4 使用方法

RemoteControlService/Web の使用方法について説明します。
詳細については、該当するオンラインヘルプを参照してください。

5.4.1 iRMC Telnet 接続

RemoteControlService/Web による、リモートマネジメントコントローラのサポートについて説明します。

■ リモートマネジメントコントローラへの接続

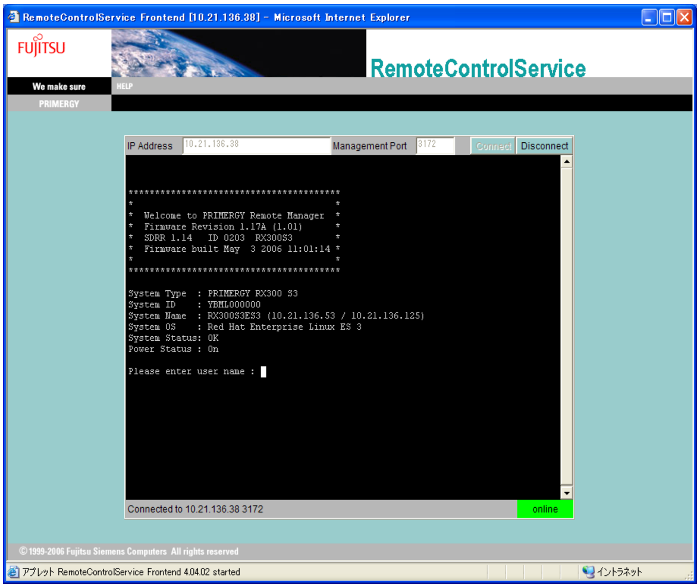
リモートマネジメントコントローラには、リモートマネージャと呼ばれる Telnet インターフェースがあり、RemoteControlService/Web から接続することができます。リモートマネジメントコントローラへの Telnet 接続では、サーバの電源管理とテキストベースのコンソールリダイレクション機能のみサポートされます。
RemoteControlService/Web からリモートマネジメントコントローラへの接続は、以下の手順で行います。

重要

- Telnet 接続を実行する前に、リモートマネジメントコントローラの Web インターフェイスを使用して、Telnet ポートを有効にする必要があります。詳しくは、「8.4.7 Network Settings」（→ P.477）を参照してください。

1 ［Connect］をクリックし、設定したアカウントでログインします。

以下の画面が表示されます。



5
RemoteControlService の使用

■ メインメニュー

リモートマネジメントコントローラのメインメニューです。
表示されるメニューはサーバにより異なり、使用可能なメニューが表示されます。
項目の左側の番号や文字を入力すると、各項目が実行されるか、または下位メニュー項目に移動します。利用できない機能には（*）が表示されます。
【0】キーを押すと上位メニューへ移行します。メインメニューを表示しているときに【0】キーを押すと、リモートサービスボードとの接続が切断されます。

表：リモートマネージメントコントローラのメインメニュー

メニュー項目	説明
System Information	本機能は未サポートです。
Power Management	サーバの電源制御を行います。選択すると電源制御メニューが表示されます。
Enclosure Information	本機能は未サポートです。
Service Processor	本機能は未サポートです。
Change password	本機能は未サポートです。
Console Redirection (EMS/ASC)	コンソールをリダイレクトするときに使用します。
Start a Command Line shell..	本機能は未サポートです。

● PowerManagement

表：Power Management メニュー

メニュー項目	説明
Immediate Power Off	OS の状態に関係なく、サーバの電源を切断します。
Immediate Reset	OS の状態に関係なく、サーバを再起動します。
Power Cycle	OS の状態に関係なく、サーバの電源を切断し、電源の再投入を行います。
Power On	サーバの電源を投入します。
Graceful Power Off (Shutdown)	サーバをシャットダウンします。 リモートマネジメントコントローラがシャットダウン要求をサーバの ServerView エージェントに送信します。
Graceful Reset (Reboot)	サーバを再起動します。 リモートマネジメントコントローラがリセット要求をサーバの ServerView エージェントに送信します。

● Console Redirection（EMS/ASC）

リモートマネジメントコントローラのコンソールリダイレクションによって、サーバの画面およびキーボード操作を、リモートコンソールへリダイレクトできます。コンソールリダイレクションを選択すると、サーバの画面がリモートマネージャウィンドウに転送されます。
キーボードから入力する内容は、サーバのキーボードコントローラに送られます。
コンソールリダイレクションによって以下の操作が行えます。

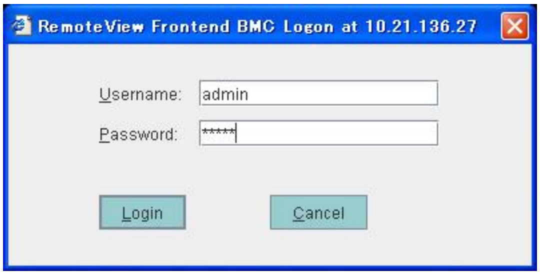
- POST 中の画面表示
- BIOS セットアップ

コンソールリダイレクションは、チルダ（~）とピリオド（.)、または "Esc" と "(" を 2 秒以内に続けて入力すると終了します。

5.4.2　BMC 接続

RemoteControlService/Web による、IPMI over LAN のサポートについて説明します。
RemoteControlService/Web から BMC への接続は、以下の手順で行います。

1　RemoteConsoleService/Web 画面より［Loggon］をクリックし、以下の画面より設定したアカウントでログインします。



2　BMC に接続後、以下の情報参照および操作が可能となります。

表：RemoteConsoleService/Web 画面での操作

項目	説明
BMC（FW:)	ログオン後、BMC ファームウェアのバージョンを表示します
IP Address	BMC に設定された IP Address が表示されます。
［Loggon］ボタン	「IP Address」に表示されている BMC にログオンします。
［Loggoff］ボタン	BMC からログオフします。
Power Management	サーバの電源制御を行います。Command からサーバに対して行う操作を選択します。 ［Status］ボタンをクリックすると、現在のサーバの電源状態が表示されます。
Command	サーバの電源制御の操作を以下のコマンドから選択します。
Power On	サーバの電源を入れます。
Power Off	サーバの電源を切ります。
Reset	サーバを再起動します。
Power Cycle	サーバの電源を切り、再度電源を入れます。
Shutdown	サーバをシャットダウンします。
Console Redirection	
［Enter Console］ボタン	コンソールリダイレクトを開始します。BMC にログオンしている場合のみ有効です。
［Leave Console］ボタン	コンソールリダイレクトを終了します

5.4.3 RSB Telnet 接続

RemoteControlService/Web による、リモートサービスボードのサポートについて説明します。

■ リモートサービスボードへの接続

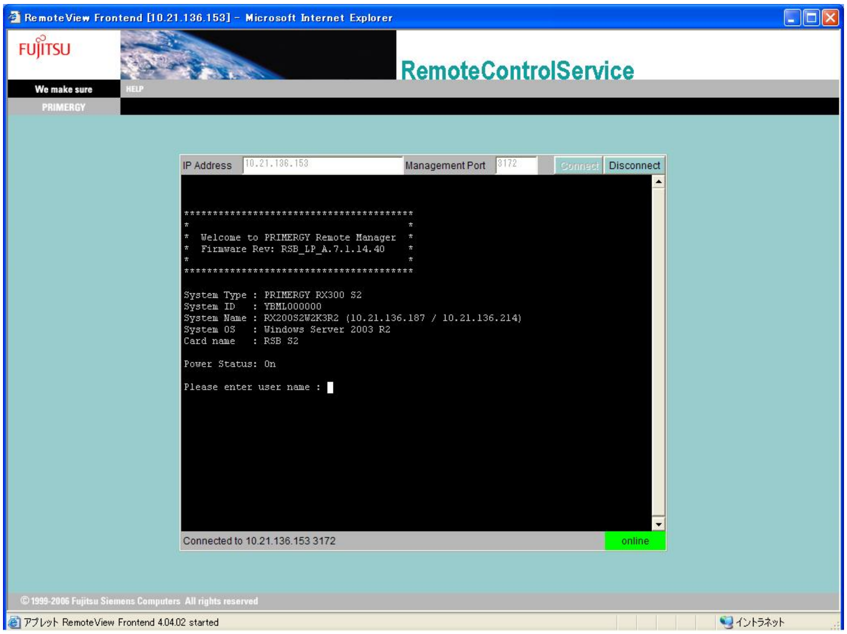
リモートサービスボードには、リモートマネージャと呼ばれる Telnet インターフェースがあり、RemoteControlService/Web から接続することができます。リモートマネージャでは、対象となるサーバに関する情報を確認できます。情報の中には、システム名のように、初めて ServerView エージェントを起動したあとや、サーバが正しく設定された場合のみ表示されるものもあります。

RemoteControlService/Web からリモートサービスボードへの接続は、以下の手順で行います。

重要

- Telnet 接続を実行する前に、リモートサービスボードの Web インターフェイスを使用して、Telnet ポートを有効にする必要があります。

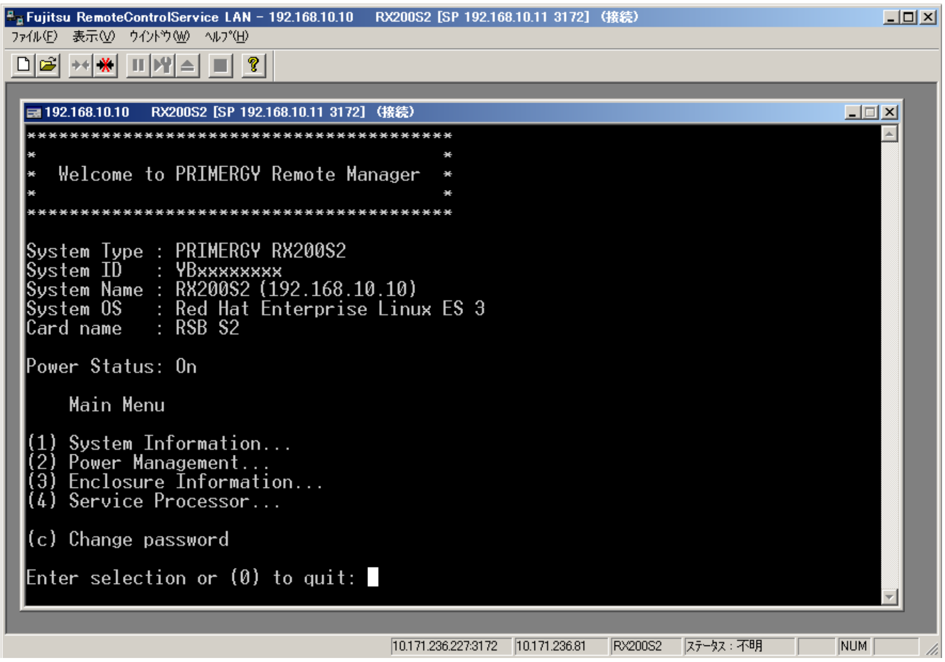
1 RemoteConsoleService/Web 画面より［connect］をクリックし、以下の画面よりリモートサービスボードに設定したアカウントでログインします。



2 RSB に接続後、情報参照および操作が可能となります。

■ メインメニュー

リモートサービスボードのメインメニューです。
表示されるメニューはサーバにより異なり、使用可能なメニューが表示されます。
項目の左側の番号や文字を入力すると、各項目が実行されるか、または下位メニュー項目に移動します。利用できない機能には（*）が表示されます。
【0】キーを押すと上位メニューへ移行します。メインメニューを表示しているときに【0】キーを押すと、リモートサービスボードとの接続が切断されます

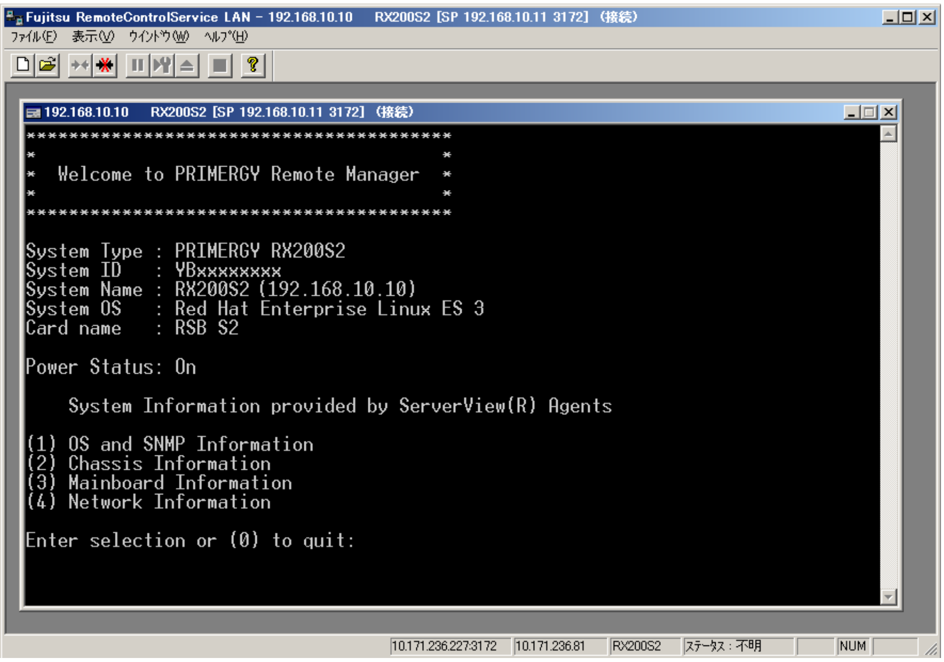


表：メインメニュー

メニュー項目	説明
System Information	システムの情報を表示します。選択するとシステムインフォメーション・メニューが表示されます。
Power Management	サーバの電源制御を行います。選択すると電源制御メニューが表示されます。
Enclosure Information	サーバ本体の情報を表示します。選択すると本体情報メニューが表示されます。
Service Processor	リモートサービスボードの設定、情報の表示を行います。選択するとRSB メニューが表示されます。
Change password	パスワードの変更を行います。

● System Information

メインメニューの「System Information」を選択すると、以下のメニュー画面が表示されます。

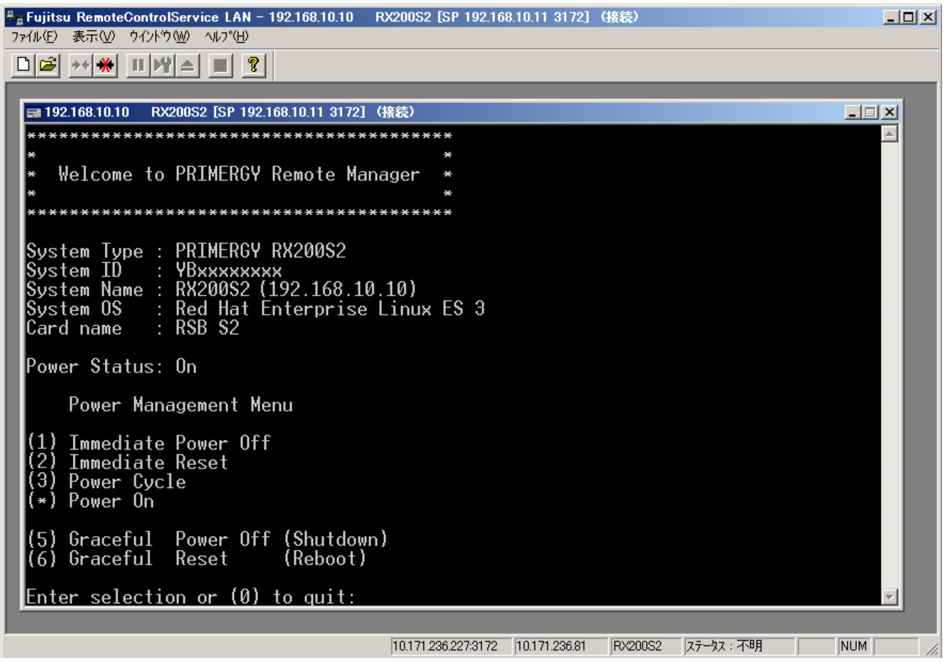


表：System Information メニュー

メニュー項目	説明
OS and SNMP Information	OS 名や ServerView エージェントのバージョンなどが表示されます。
Chassis Information	サーバの型名やシリアルナンバーなどが表示されます。
Mainboard Information	BIOS のバージョンや基盤の情報が表示されます。
Network Information	ネットワークノードの情報が表示されます。

● Power Management

メインメニューの「Power Management」を選択すると、以下のメニュー画面が表示されます。

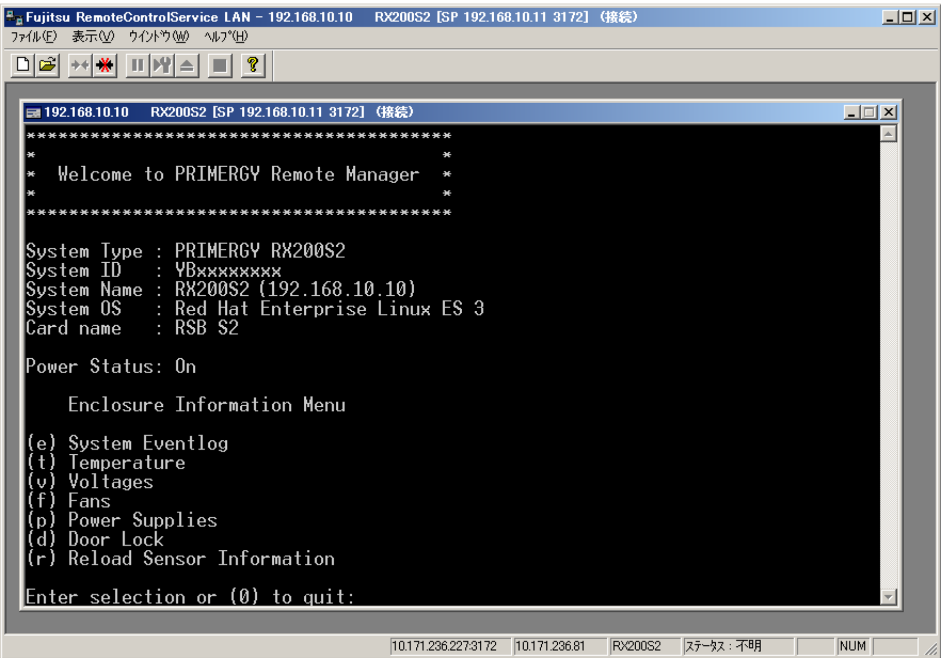


表：Power Management メニュー

メニュー項目	説明
Immediate Power Off	OS の状態に関係なく、サーバの電源を切断します。
Immediate Reset	OS の状態に関係なく、サーバを再起動します。
Power Cycle	OS の状態に関係なく、サーバの電源を切断し、電源の再投入を行います。
Power On	サーバの電源を投入します。
Graceful Power Off (Shutdown)	サーバをシャットダウンします。 リモートサービスボードがシャットダウン要求をサーバの ServerView エージェントに送信します。エージェントがインストールされていないなどの理由で、シャットダウン要求を送信できない場合は、リモートマネージャは別のダイアログに進み、OS の状態に関係なくサーバをシャットダウン（Immediate Power Off）するかどうかのメッセージを表示します。
Graceful Reset (Reboot)	サーバを再起動します。 リモートサービスボードがリセット要求をサーバの ServerView エージェントに送信します。エージェントがインストールされていないなどの理由で、リセット要求を送信できない場合は、リモートマネージャは別のダイアログに進み、OS の状態に関係なくサーバをリセット（Immediate Reset）するかどうかのメッセージを表示します。

● Enclosure Information

メインメニューの「Enclosure Information」を選択すると、以下のメニューが表示されます。

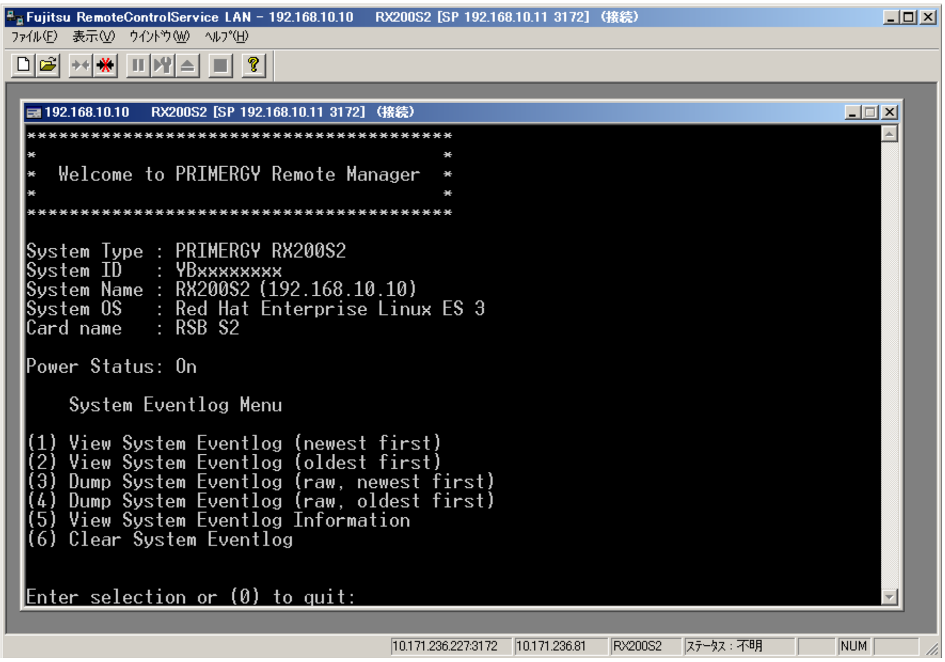


表：Enclosure Information メニュー

メニュー項目	説明
System Eventlog	System Eventlog メニュー画面を表示します。
Temperature	温度に関する情報が表示されます。
Voltages	電圧に関する情報が表示されます。
Fans	ファンに関する情報が表示されます。
Power Supplies	電源に関する情報が表示されます。
Door Lock	フロントドアの開閉の状態を表示します。
Reload Sensor Information	センサー情報の再読込みを行います。

● System Eventlog

メインメニューの「System Eventlog」を選択すると、以下のメニュー画面が表示されます。

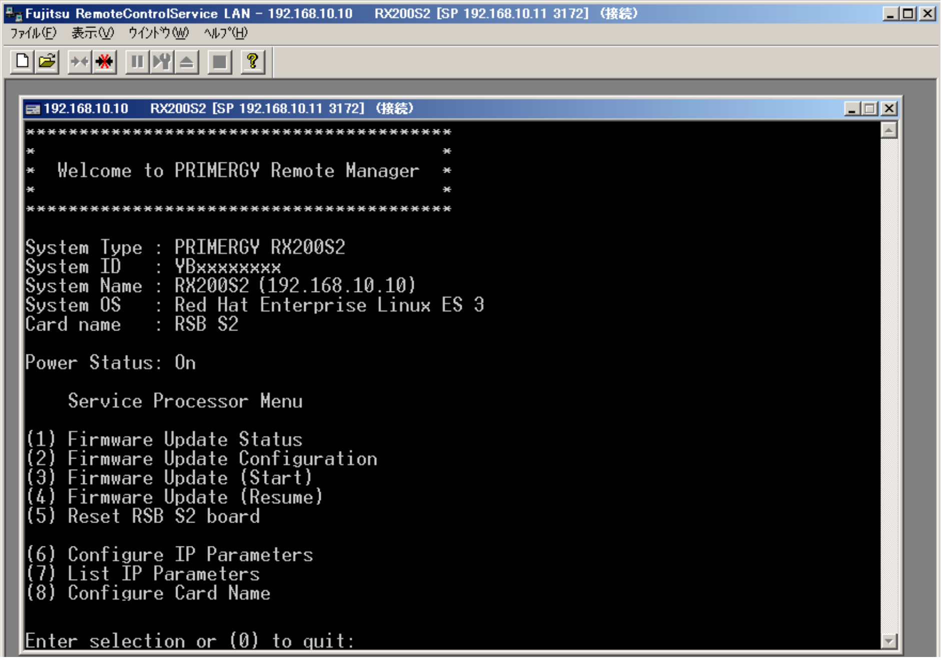


表：System Eventlog メニュー

メニュー項目	説明
View System Eventlog (newest first)	リモートサービスボードのイベントログの内容が、時間順（最初のエントリが先頭）に表示されます。
View System Eventlog (oldest first)	リモートサービスボードのイベントログの内容が、時間順（最後のエントリが先頭）に表示されます。
Dump System Eventlog (raw, newest first)	リモートサービスボードのイベントログのバイナリデータが、時間順（最初のエントリが先頭）に表示されます。
Dump System Eventlog (raw, oldest first)	リモートサービスボードのイベントログのバイナリデータが、時間順（最後のエントリが先頭）に表示されます。
View System Eventlog Information	リモートサービスボードのイベントログの情報が表示されます。
Clear System Eventlog	リモートサービスボードのイベントログをクリアします。

● Service Processor

メインメニューの「Service Proseccor」を選択すると、以下のメニュー画面が表示されます。



表：Service Processor メニュー

メニュー項目	説明
Firmware Update Status	リモートサービスボードのファームウェア・アップデートの状態を表示します。本機能は未サポートです。
Firmware Update Configuration	リモートサービスボードのファームウェア・アップデートの設定を表示します。本機能は未サポートです。
Firmware Update (Start)	リモートサービスボードのファームウェア・アップデートを開始します。本機能は未サポートです。
Firmware Update (Resume)	リモートサービスボードのファームウェア・アップデートを再開します。本機能は未サポートです。
Reset RSB S2 board	リモートサービスボードの再起動を行います。
Configure IP Parameters	リモートサービスボードの IP アドレスを変更します。
List IP Parameters	リモートサービスボードの IP アドレスを表示します。
Configure Card Name	リモートサービスボードの名前を変更します。

5.4.4 ManagementBlade Telnet 接続

RemoteControlService/Web による、ManagementBlade のサポートについて説明します。

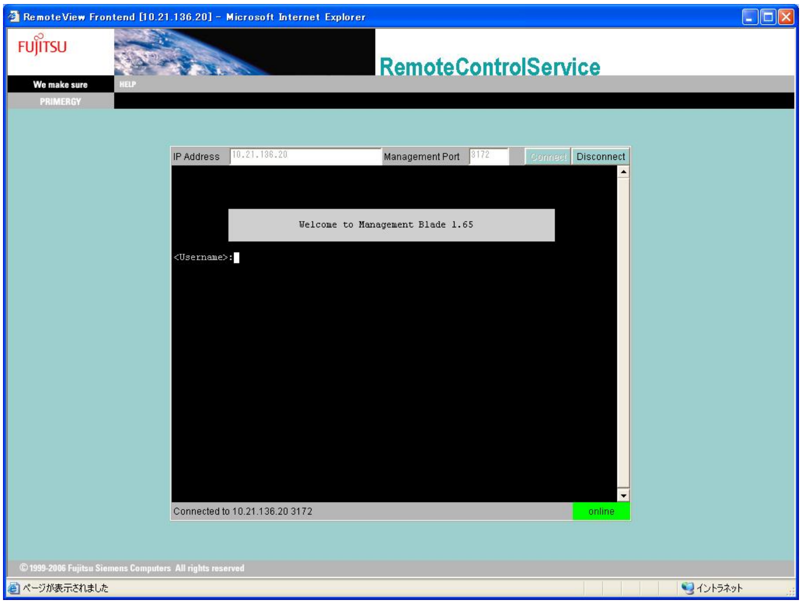
■ ManagementBlade への接続

ManagementBlade には、リモートマネージャと呼ばれる Telnet インターフェースがあり、RemoteControlService/Web から接続することができます。リモートマネージャでは、対象となるサーバに関する情報を確認できます。
RemoteControlService/Web から ManagementBlade への接続は、以下の手順で行います。

重要

- Telnet 接続を実行する前に、ManagementBlade の Web インターフェースを使用して、Telnet ポートを有効にする必要があります。

1 RemoteConsoleService/Web 画面より［connect］をクリックし、以下の画面より ManagementBlade に設定したアカウントでログインします。



2 ManagementBlade に接続後、情報参照および操作が可能となります。

■ メインメニュー

項目の左側の番号や文字を入力すると、各項目が実行されるか、または下位メニュー項目に移動します。
項目の詳細については、ManagementBlade に添付のマニュアルを参照してください。

第 6 章

リモートサービスボード（PG-RSB101）の使用

この章では、リモートサービスボード（PG-RSB101）の使用方法について説明しています。

6.1　概要 340
6.2　準備 343
6.3　各種監視情報の表示 353
6.4　ダイヤルアップ接続 387

6.1 概要

リモートサービスボード（RSB：Remote Service Board）、およびリモートサービスコントローラについて説明します。
以降の説明において、特に断りがない限り、リモートサービスボードという記述はリモートサービスコントローラも含んでいます。リモートサービスボードは、専用の CPU・OS・通信インターフェース・電源を備えたオプションの拡張カードです。
リモートサービスボードを使用すると、サーバの状態に依存せずに、サーバを監視することができます。

6.1.1 機能

● リモートサービスボードの機能

- サーバの状態監視（OS ハング、電源異常、温度異常、電圧異常）
- サーバ異常時の管理者への通知
- サーバ異常時の自動サーバシャットダウン
- サーバの遠隔操作（再起動、電源投入／切断）
- サーバのスケジュール運転
- 管理コンソールからのサーバの POST 時の画面表示、キーボード操作

● 拡張ディスク装置でのリモートサービスボードの機能

- 拡張ディスク装置の状態監視
- 拡張ディスク装置の異常時の管理者への通知
- 拡張ディスク装置の遠隔操作（電源投入／切断）
- 拡張ディスク装置のスケジュール運転
- 他リモートサービスボードと連携した電源制御（電源投入／切断）

● リモートサービスボードがサポートする通信インターフェース

- LAN インターフェース
- シリアルインターフェース（モデム接続用）

6.1.2 留意事項

● セキュリティについて

リモートサービスボード（PG-RSB101）の扱う情報の中には、電話番号等の個人情報や、その他の重要情報が含まれています。本カードを搭載した装置を外部からアクセスできるドメインに設置する場合は、設定した情報が外部からアクセスされないようセキュリティに十分ご注意いただくと共に、設定する内容についても必要最小限に留めるようご対応をお願いします。

● リモートサービスボード

バッテリパックは、サポートしていません。

● Web インターフェース

- 各ページの設定は、英数字を使用してください。
- ファンのチェックタイムなど、サーバ本体のみ装備している機能の設定は、ドライバを通してサーバの BIOS に記憶されます。このため、各ページの設定は、OS が稼働している状態で実施することをお勧めします。
- ASR 機能である再起動リトライ回数超過時のアクションの「診断システム開始」は、使用しないでください。
  ［Restart Settings］ページの「Action after exceeding reboot tries」には、「Start diagnostic system」を設定しないでください。
- OS 起動時または終了時に、ファン、温度、電圧、メモリなどの情報が正しく表示されない場合があります。いったん、［Overview］をクリックして再表示してください。
- ページの更新を行うと、直前の操作が繰り返される場合があります。設定、電源制御などの操作を行った場合は、［Overview］をクリックし、［Overview］ページに移動してください。特に、以下の操作後はご注意ください。
  ・［Power ON/OFF Restart］ページの「Restart」操作
  ・［Alarm Handler］ページの「Create」操作
- サーバでサポートされていない機能に関する情報の表示および設定は、正しく動作しない場合があります。
- シリアルインターフェース（［Serial Line Configuration］ページ）において、以下の機能は使用できません。
  ・「Connection Type」の「dial-in/out」
  ・「Connection Type」の「dial-in/out with extension」
- ファームウェアバージョン 0.X.X.XX の場合、LAN インターフェース（［LAN Interface Configuration］ページ）において、以下の設定はファームウェアの再起動後に有効となります。
  ・「HTTP」の「Port」
  ・「HTTP」の「Use SSL」
  ・「Telnet」の「Redirection Source」
  なお、これらの設定を変更したあとサーバの電源が切断状態になると、ファームウェアが再起動します。

- ファームウェアバージョン 1.X.X.XX の場合、Web ブラウザの JavaScript の設定によって、Web インターフェースの表示が若干異なります。各 Web ブラウザの設定が以下のようになっている場合、画面左側に各機能領域へのリンクが表示されます。
  - ・InternetExplorer 6.0、InternetExplorer 5.5
    「ツール」-「インターネットオプション」-「セキュリティ」タブ画面で、対象となるサーバのゾーン（通常は「インターネット」）を選択します。［レベルのカスタマイズ］をクリックし、「アクティブスクリプト」を「有効にする」にチェックが入っていることを確認します。
  - ・Netscape 7.0
    「編集」-「設定」-「詳細」-「スクリプトとプラグイン」において、「JavaScript を有効化する」-「Navigator」にチェックが入っていることを確認します。
  - ・Netscape 6.2、Netscape 6.0、Netscape 4.78
    「編集」-「設定」-「詳細」において、「JavaScript を有効化する」にチェックが入っていることを確認します。

  上記の設定がされていない場合は、各機能領域へのリンクが表示されません。この場合、トップページ上段のサーバ名をクリックすることで、各機能グループがツリー状に表示された［OverView］ページを表示することができます。

6.2 準備

リモートサービスボードを使用する前の準備について、説明します。

6.2.1 ドライバのインストール

リモートサービスボードのドライバは、リモートサービスボードの有無にかかわらず、サーバに ServerView V02.51 以降の ServerView エージェントをインストールすると自動的にインストールされます。ServerView エージェントのインストール方法については、「2.3 インストール」(→ P.38) を参照してください。
OS が Windows の場合、ServerView をインストールした直後、またはリモートサービスボードを搭載した直後の OS 起動時に、リモートサービスボードが ServerView に認識されない場合があります。以下の手順に従い、確認・再認識・再インストールの処理を行ってください。
Windows Server 2003 の場合、ServerView インストール済のサーバにリモートサービスボードを搭載すると、タスクバー内に、以下のような新しいハードウェアを検出した旨のメッセージが表示されます。以降、リモートサービスボードが ServerView に認識されるようになります。

■ リモートサービスボードの確認

リモートサービスボードが ServerView に認識されていることを確認します。

1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「Fujitsu ServerView」→「ServerView」の順にクリックし、ServerView 管理コンソールを起動します。

2 サーバの一覧から対象装置のサーバを選択し、ダブルクリックします。

3 ServerView の各ボタンが有効であることを確認します。
ServerView の初期処理に数分かかることがあります。[更新] をクリックして、各ボタンが有効になるまで待ちます。

4 [アクション] をクリックします。

5 [RSB] が無効である場合、「■ リモートサービスボードの再認識処理」(→ P.344) を行います。

■ リモートサービスボードの再認識処理

1 OS を再起動します。

2 「リモートサービスボードの認識」を行います。

POINT

- 再認識処理を行った後、リモートサービスボードが認識されていない場合は、「■ ドライバの再インストール」（→ P.344）を行います。

■ ドライバの再インストール

1 管理者または管理者と同等の権限をもつユーザでログインします。

2 実行中のアプリケーションをすべて終了します。

3 インストール済の ServerView Windows エージェントをアンインストールします。

アンインストールについては、「■ ServerView Windows エージェントのアンインストール」（→ P.524）を参照してください。

4 アンインストール後、再起動を促すメッセージが表示されたら、サーバを再起動します。

5 ServerView Windows エージェントをインストールします。

インストールについては、「2.3.2 ［Windows］ServerView Windows エージェントのインストール（監視対象サーバ）」（→ P.43）を参照してください。

6 インストール後、再起動を促すメッセージが表示されたら、サーバを再起動します。

7 「■ リモートサービスボードの確認」（→ P.343）を行います。

POINT

- ドライバの再インストールを行っても、リモートサービスボードが認識されていない場合は、弊社担当保守員にご相談ください。

6.2.2 通信インターフェースの設定

お使いになる通信インターフェースに応じて、必要な項目を設定します。
リモートサービスボードの通信インターフェースの設定は、リモートサービスボードのドライバをインストール後に行ってください。

■ LAN インターフェースの設定

● OS が Windows の場合

1 ローカルの Administrators グループに所属しているローカルユーザアカウントで、サーバにログインします。

なお、Domain Admins グループでは、設定できません。

2 実行中のアプリケーションをすべて終了します。

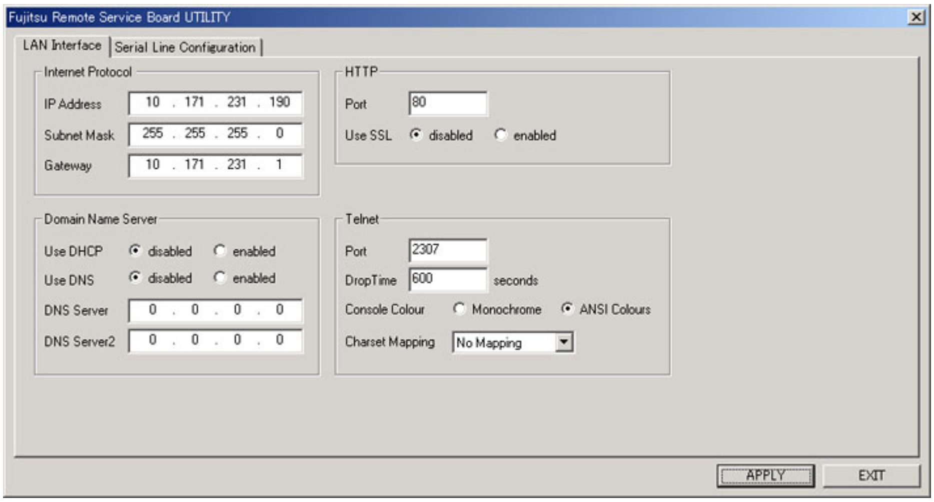
3 PRIMERGY ドキュメント & ツール CD をセットし、以下のプログラムを起動します。

［CD-ROM ドライブ］:¥Svmanage¥WinSVAgent¥Tools¥RSB_UTY¥rsb_uty.exe

上記のプログラムは CD-ROM 上からだけでなく、「rsb_uty.exe」を任意の場所にコピーしても実行できます。

4 ［LAN Interface］タブをクリックし、各項目を設定します。

［LAN Interface］タブについては、「● ［LAN Interface］タブ」（→ P.347）を参照してください。



5 各項目を設定後、［Apply］をクリックします。

● OS が Linux の場合

1 スーパーユーザでログインします。

2 PRIMERGY ドキュメント & ツール CD をセットし、以下のコマンドを実行します。

```
# mount /mnt/cdrom/または/media/cdrom/または/media/cdrecorder/
```

POINT

- 特定のアプリケーションがインストールされている場合には、CD-ROM のセットと同時に自動的にマウントされます。

3 CD-ROM 内のユーティリティを起動します。以下のコマンドを実行します。

```
# /mnt/cdrom/または/media/cdrom/または/media/cdrecorder/Svmanage/
LinuxSVAgent/Tools/RSB_UTY/rsb_uty
```

4 「LAN Interface」を選択します。

「LAN Interface」については、「● ［LAN Interface］タブ」（→ P.347）を参照してください。

5 項目の編集を選択します。

6 メッセージに従って、各項目を設定します。

項目を入力後、【Enter】キーを押すと、以下の項目の編集に移ります。

各項目の入力で【Enter】キーのみを押した場合、その項目の設定は変更されません。

全項目の設定が完了すると、「LAN Interface」画面に戻ります。

7 設定を保存します。

8 「LAN Interface」を終了します。

9 ユーティリティを終了します。

10 CD-ROM をアンマウントして、取り出します。

CD-ROM を取り出す前に、必ずアンマウントしてください。

```
# umount /mnt/cdrom/または/media/cdrom/または/media/cdrecorder/
```

●［LAN Interface］タブ

表：LAN Interface タブの設定項目

設定項目	説明
Link Speed	
Nominal	通常使用するリンク速度を設定します。以の値を設定できます。 ・Auto negotiation ・100 Mbps full duplex ・100 Mbps half duplex ・10 Mbps full duplex ・10 Mbps half duplex
Actual	現在のリンク速度が表示されます。
Refresh	現在のリンク速度表示を更新します。
Internet Protocol	
IP Address	リモートサービスボードの IP アドレスを設定します。 （設定必須　デフォルト値：192.168.0.10）
Subnet Mask	サブネットマスクを設定します。 （設定必須　デフォルト値：255.255.255.0）
Gateway	デフォルトゲートウェイサーバの IP アドレスを設定します。
Domain Name Server	
Use DHCP	DHCP を使用するかしないかを設定します。 ・enabled：DHCP を使用します。 ・disabled：DHCP を使用しません。
Use DNS	DNS を使用するかしないかを設定します。 ・enabled：DNS を使用します。 ・disabled（デフォルト値）：DNS を使用しません。
DNS Server	プライマリ DNS サーバを設定します。
DNS Server2	セカンダリ DNS サーバを設定します。
HTTP	
Port	Web インターフェースのポート番号を設定します。 ・1.x.x.xx のファームウェア版数の場合 Web インターフェースメニューにおける当項目の右側に enabled/disabled 設定があります。この enabled/disabled は、http の有効／無効の設定となります。http を有効にする場合は、Web インターフェースより設定します。http の有効／無効の設定は本ユーティリティでは変更できません。
Use SSL	SSL を使用するかしないかを設定します。 ・enabled：SSL を使用します。 ・disabled ：SSL を使用しません。 ファームウェア版数によって、SSL の動作が異なります。 ・0.x.x.xx の場合：enabled 選択時、https が有効です。disabled 選択時、http が有効です。 ・1.x.x.xx の場合：enabled/disabled の選択に関係なく、https は常に有効です。
SSL Port	https 接続時のポート番号を指定します。https のポート番号は本ユーティリティでは変更できません。
Telnet	

表：LAN Interface タブの設定項目

設定項目	説明
Port	Telnet インターフェースのポート番号を設定します。デフォルト値は、ファームウェア版数によって異なります。 0.x.x.xx の場合：2307 1.x.x.xx の場合：3172
Force SSL	Telnet 接続に、SSL 暗号処理を使用するかどうかを設定します。 ・disabled（デフォルト値）：SSL 暗号処理を使用しません。 ・enabled：SSL 暗号処理を使用します。
Drop Time	休止状態の Telnet 接続が自動的に切断されるまでの時間（秒）を設定します。（デフォルト値：600）
Console Colour	コンソールリダイレクションで使用する色を設定します。 ・Monochrome：白黒 ・ANSI Colours：ANSI 規格の色指定
Charset Mapping	コンソールリダイレクション中のキャラクタコードを設定します。 ・No Mapping：キャラクタコードを変換しません。 ・Map to VT100：VT100 のキャラクタコードに変換します。 ・Map to WinAnsi：ANSI 規格のキャラクタコードに変換します。
Redirection Source	コンソールリダイレクションを使用する場合に設定します。 「VGA Snooping」を指定してください。

重要

- 以下の項目は、本ユーティリティでは設定できません。設定を行う場合は Web Interface を使用してください。
  - ・「Link Speed」
  - ・「HTTP Port 有効 / 無効」
  - ・「Force SSL」
  - ・「Redirection Source」

■ シリアルインターフェースの設定

● OS が Windows の場合

1 ローカルの Administrators グループに所属しているローカルユーザアカウントで、サーバにログインします。

Domain Admins グループでは、設定できません。

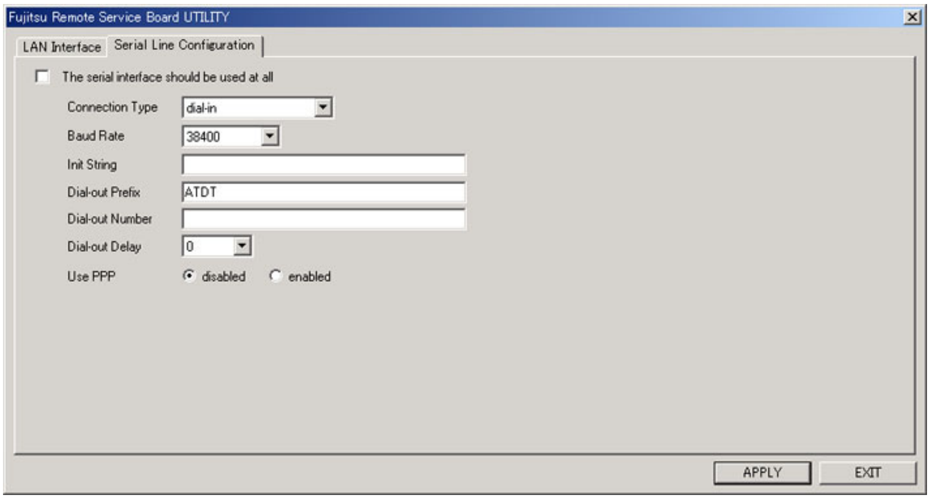
2 実行中のアプリケーションをすべて終了します。

3 PRIMERGY ドキュメント & ツール CD をセットし、以下のプログラムを起動します。

［CD-ROM ドライブ］:¥Svmanage¥WinSVAgent¥Tools¥RSB_UTY¥rsb_uty.exe

4 ［Serial Line Configuration］タブをクリックし、各項目を設定します。

［Serial Line Configuration］タブについては、「● ［Serial Line Configuration］タブ」（→P.350）を参照してください。



5 各項目を設定し、［Apply］をクリックします。

● OS が Linux の場合

1 スーパーユーザでログインします。

2 PRIMERGY ドキュメント & ツール CD をセットし、以下のコマンドを実行します。

```
# mount /mnt/cdrom/または/media/cdrom/または/media/cdrecorder/
```

POINT

- 特定のアプリケーションがインストールされている場合には、CD-ROM のセットと同時に自動的にマウントされます。

3 CD-ROM 内のユーティリティを起動します。

```
# /mnt/cdrom/または/media/cdrom/または/media/cdrecorder/Svmanage/
LinuxSVAgent/Tools/RSB_UTY/rsb_uty
```

4 「Serial Line Configuration」を選択します。

「Serial Line Configuration」については、「● ［Serial Line Configuration］タブ」（→P.350）を参照してください。

5 「項目の編集」を選択します。

6 メッセージに従って各項目を設定します。

項目を入力後、【Enter】キーを押すと、以下の項目編集に移ります。
各項目の入力で【Enter】キーのみを押した場合、その項目の設定は変更されません。
全項目の設定が完了すると、「Serial Line Configuration」画面に戻ります。

7 設定を保存します。

8 「Serial Line Configuration」を終了します。

9 ユーティリティを終了します。

10 CD-ROM をアンマウントして、取り出します。

CD-ROM を取り出す前に、必ずアンマウントしてください。

```
# umount /mnt/cdrom/または/media/cdrom/または/media/cdrecorder/
```

● [Serial Line Configuration] タブ

表：Serial Line Configuration タブの設定項目

設定項目		説明
The serial interface should be used at all		リモートサービスボードのシリアルインターフェースを使用するかしないかを設定します。
	オン（デフォルト値）	シリアルインターフェースを使用します。
	オフ	シリアルインターフェースを使用しません。
Connection Type		シリアルインターフェースの接続タイプを設定します。
	direct（デフォルト値）	RS-232C クロスケーブルで接続できます。
	dial-out	管理コンソールから接続することはできませんが、ポケットベルへのアラート通知はできます。
	dial-in	管理コンソールから接続することも、ポケットベルへのアラート通知もできます。
	dial-in/out	呼び出しがあったときにコールバックできます。ポケットベルへのアラート通知もできます。
	dial-in/out with extension	呼び出しがあったときにコールバックできます。ポケットベルへのアラート通知もできます。
Baud Rate		シリアルインターフェースの通信速度を設定します。
Init String		モデムの初期化コマンドを設定します。たとえば、管理コンソールから接続（dial-in）する場合、「AT¥N3S0=1&D0¥J0¥Q0¥V2」と設定します。
Dial-out Prefix		コールバック（dial-in/out または dial-in/out with extension）する際のモデムの初期化コマンドを設定します。たとえば、トーン回線で外線（0 発信）にコールバックする場合、「ATDT 0」と設定します。
Dial-out Number		コールバックする電話番号を設定します。
Dial-out Delay/ Callback Delay		呼び出しがあってからコールバックするまでの、待ち時間（秒）を設定します。

表：Serial Line Configuration タブの設定項目

設定項目		説明
Use PPP		ダイヤルアップ接続時に、PPP を使用するかどうかを設定します。管理コンソールからリモートサービスボードにダイヤルアップ接続する際は、「enabled 」を設定します。
	enabled	ダイヤルアップ接続時に、PPP を使用します。
	disabled （デフォルト値）	ダイヤルアップ接続時に、PPP を使用しません。ダイヤルアップ接続時は、以下の IP アドレスが割り当てられます。 ・リモートサービスボード：192.168.0.11 ・管理コンソール：192.168.0.12

6.2.3 管理ユーザの設定

リモートサービスボードには、デフォルトで管理者権限をもつユーザ名とパスワードが設定されています。デフォルトのユーザ名とパスワードは、リモートサービスボードのファームウェア・バージョンによって異なります。

表：デフォルトのユーザ名とパスワード

	ユーザ名	パスワード
ファームウェアバージョン X.X.X.167 以下の場合	root	fsc
ファームウェアバージョン X.X.X.168 以上の場合	admin	admin

セキュリティ確保のためにパスワードを必ず変更してください。

■ LAN インターフェースからのパスワード変更

1 サーバにログインします。

2 「スタート」ボタン→「プログラム」→「Fujitsu ServerView」→「ServerView」の順にクリックし、ServerView 管理コンソールを起動します。

3 サーバ一覧にあるサーバのアイコンを選択し、「ファイル」メニュー →「サーバのプロパティ」の順にクリックします。

「プロパティの設定」画面が表示されます。

4 ［リモートサービスボード］タブを選択し、［設定］をクリックします。

「ネットワークパスワード入力」画面が表示されます。

5 ユーザ名とパスワードを入力し、［OK］をクリックします。

リモートサービスボードの Web インターフェースが起動します。

6 ［User Accounts］をクリックします。

［User Accounts］ページが表示されます。

7 ［<ユーザ名>］をクリックします。

ユーザ名の［Account］ページが表示されます。

8 以下の項目を入力し、[Apply] をクリックします。

・Old Password ：デフォルトのパスワードを入力します。

・New Password ：新しいパスワードを入力します。

・Confirm New Password：新しいパスワードを再度入力します。

パスワードが変更されます。

■ シリアルインターフェースからのパスワード変更

1 管理コンソールからリモートサービスボードへダイヤルアップ接続します。

2 Web ブラウザを起動し、アドレスバーに以下のいずれかのアドレスを入力します。

・http://192.168.0.11:< ポート番号（デフォルト 80）>（http が有効の場合）

・https://192.168.0.11:< ポート番号（デフォルト 443）>（https が有効の場合）

なお、初期状態では、ポート番号を指定する必要はありません。

「ネットワークパスワード入力」画面が表示されます。

3 ユーザ名とパスワードを入力し、[OK] をクリックします。

リモートサービスボードの Web インターフェースが起動します。

4 [User Accounts] をクリックします。

[User Accounts] ページが表示されます。

5 [＜ユーザ名＞] をクリックします。

ユーザ名の [Account] ページが表示されます。

6 以下の項目を入力し、[Apply] をクリックします。

・Old Password ：デフォルトのパスワードを入力します。

・New Password：新しいパスワードを入力します。

・Confirm New Password：新しいパスワードを再度入力します。

パスワードが変更されます。

6.3 各種監視情報の表示

Web インターフェースを使用して、サーバの監視情報を表示する方法について説明します。

6.3.1 Web インターフェースの起動

リモートサービスボードは、Web インターフェースをサポートしており、以下の Web ブラウザからアクセスできます。

- OS が Windows の場合
  - ・Microsoft Internet Explorer 5.5 以降（推奨 6.0 以降）
  - ・Netscape Navigator / Communicator V4.78 以降（推奨 6.2 以降）
- OS が RHEL-AS2.1(x86) / ES2.1(x86) の場合
  - ・Netscape Navigator / Communicator V4.78 以降（推奨 6.2 以降）
- OS が RHEL-AS3(x86) / ES3(x86) の場合
  - ・Mozilla V1.3 以降

POINT

- Web ブラウザを使用するには、あらかじめインストールおよび設定が必要です。「2.4.1 Web ブラウザのインストール」（→ P.68）、および「2.4.2 Java™ 2 Runtime Environment Standard Edition のインストール」（→ P.69）を参照してください。

1 Web ブラウザを起動し、アドレスバーに以下のいずれかのアドレスを入力します。

・http://<IP アドレス >:< ポート番号（デフォルト：80）>（http が有効の場合）

・https://<IP アドレス >:< ポート番号（デフォルト：443）>（https が有効の場合）

「ネットワークパスワード入力」画面が表示されます。

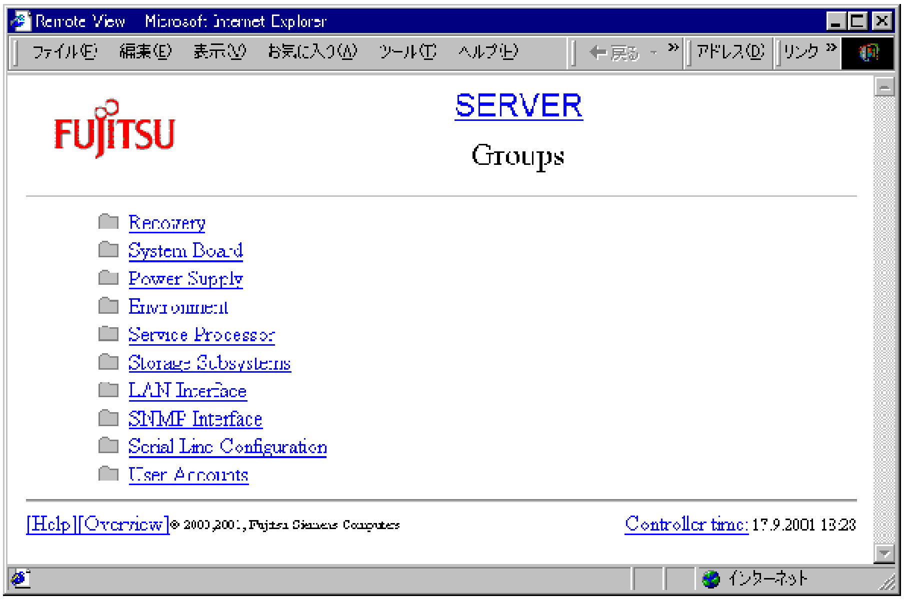
2 ユーザ名とパスワードを入力します。

認証されると、スタート画面が表示されます。

POINT

- リモートサービスボードにダイヤルアップ接続している場合は、アドレスバーに「192.168.0.11」を入力します。
- ServerView コンソールから、Web インターフェースにアクセスすることもできます。
  1. サーバ一覧にあるサーバのアイコンを選択し、「ファイル」メニュー →「サーバのプロパティ」の順にクリックします。
     「プロパティの設定」画面が表示されます。
  2. ［リモートサービスボード］タブをクリックし、［設定］をクリックします。

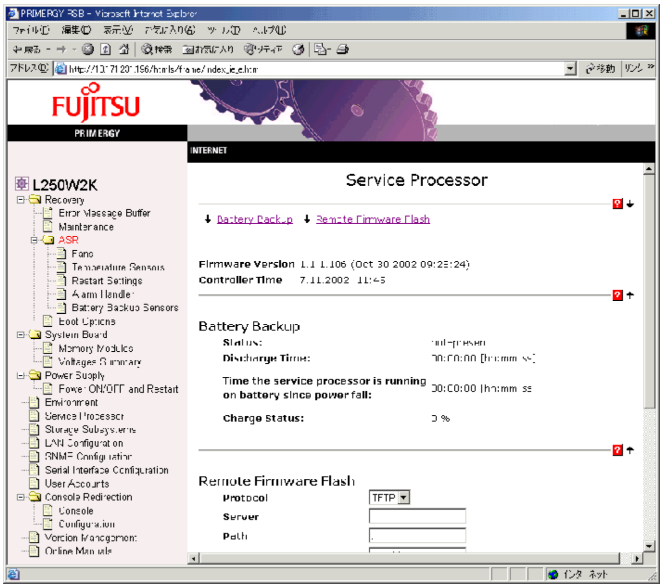
● ファームウェアバージョン 0.X.X.XX の場合のスタート画面



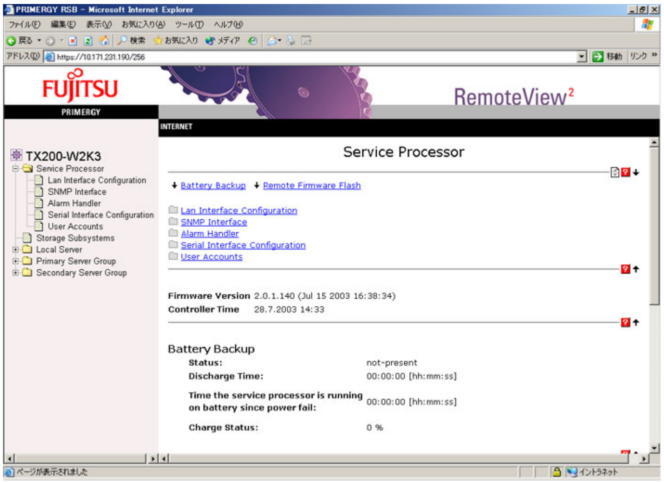
Web インターフェースは、すべてのページに共通のヘッダ領域とフッタ領域があります。
ヘッダ領域には、サーバ名と現在のページのタイトルが表示されます。
フッタ領域には、以下の 3 つのリンクが表示されます。

- ［Help］
  各インターフェースについてのヘルプ（英語）が表示されます。
- ［Overview］
  「6.3.2 ［Overview］ページ」（→ P.356）が表示されます。
  Web インターフェース内を簡単に移動するには、［Overview］のリンク先にあるスタート画面の拡張オプションを利用します。
- ［Controller time］
  リモートサービスボードの時間を確認できる［Service Processor］ページが表示されます。

● ファームウェアバージョン 1.X.X.XX の場合のスタート画面



● ファームウェアバージョン 2.X.X.XX の場合のスタート画面



Web インターフェースは、すべてのページに共通のヘッダ領域とフッタ領域、画面左側の各機能グループへのリンク領域があります。

ヘッダ領域には、現在のページのタイトルが表示されます。

フッタ領域には、以下のリンクが表示されます。

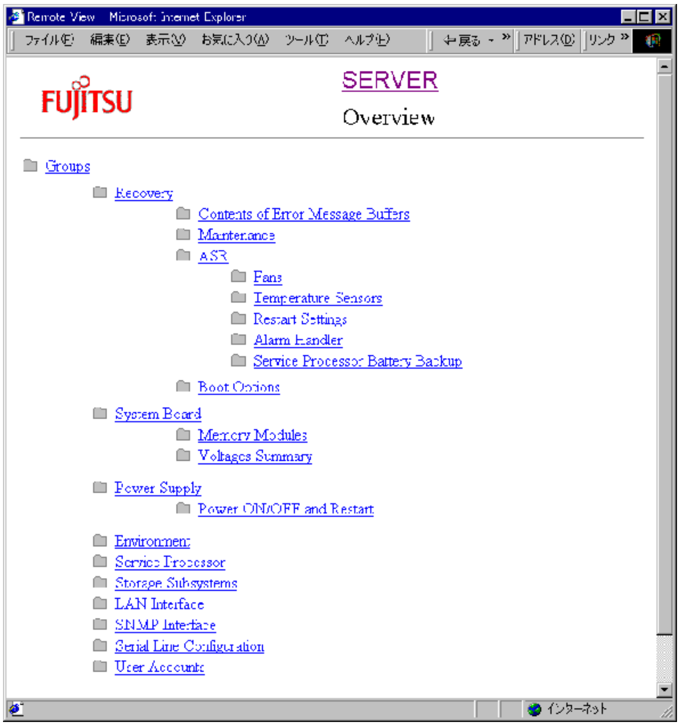
- ［Controller time］

  リモートサービスボードの時間を確認できる［Service Processor］ページが表示されます。

画面左側には、サーバ名と各機能グループへのリンクが表示されます。

6.3.2 ［Overview］ページ

［Overview］ページでは、すべての機能グループへのリンクが展開された形で表示されます。メニュー構成は、サーバにより異なる場合があります。



監視中のサーバで ServerView エージェントが稼動している間は、Web インターフェースで以下の機能を利用できます。

● ファームウェアバージョンン 0.X.X.XX ／ 1.X.X.XX の場合

表：Web インターフェースでの機能（ファームウェアバージョンン 0.X.X.XX ／ 1.X.X.XX）

項目	説明
［Recovery］	ログを表示したり、異常発生時のアクションとアラームハンドラなどを設定したりします。詳細については、「6.3.3 ［Recovery］ページ」（→ P.361）を参照してください。
［Contents of Error Message Buffers］	エラーログとイベントログが表示されます。
［Maintenance］	CMOS バッテリの使用期限とファンの状態に関する情報が表示されます。
［ASR］	以下のページへのリンクが表示されます。 ・［Fans］ ・［Temperature Sensors］ ・［Restart Settings］ ・［Alarm Handler］ ・［Service Processor Battery Backup］
［Boot Options］	電源の投入／切断の理由と起動状態が表示されます。

表：Web インターフェースでの機能（ファームウェアバージョン 0.X.X.XX ／ 1.X.X.XX）

項目	説明
［System Board］	サーバのベースボード、CPU、メモリモジュール、電圧に関する情報が表示されます。
［Memory Modules］	メモリモジュールに関する情報が表示されます。
［Voltages Summary］	電圧に関する情報が表示されます。
［Power Supply］	サーバの電源ユニットの状態に関する情報が表示されます。
［Power ON/OFF and Restart］	電源 ON/OFF タイマーを設定します。
［Power On/Off］	曜日ごとに電源 ON/OFF タイマーが設定できます。
［Restart］	サーバの電源制御を行います。
［Immediate Power Off］	OS の状態に関係なく、サーバの電源を切断します。
［Immediate Reset］	OS の状態に関係なく、サーバを再起動します。
［Graceful Power Off（Shutdown）］	サーバをシャットダウンします。 リモートサービスボードが、シャットダウン要求をサーバの ServerView エージェントに送信します。エージェントがインストールされていないなどの理由で要求を送信できない場合は、「Immediate Power Off」の実施を促すメッセージを表示します。
［Graceful Reset（Reboot）］	サーバを再起動します。 リモートサービスボードが、リセット要求をサーバの ServerView エージェントに送信します。エージェントがインストールされていないなどの理由で要求を送信できない場合は、「Immediate Reset」の実施を促すメッセージを表示します。
［Power Cycle］	OS の状態に関係なく、サーバの電源を切断し、その後電源の再投入を行います。 ファームウェアのバージョンが「1.X.X.XX」のみ表示されます。
［Raise NMI］	保守員専用の機能です。選択しないでください。 本メニューはサーバに依存します。
［Power On］	サーバの電源を投入します。 サーバの電源が OFF の場合にボタンで表示されます。
［Environment］	温度、ファン、カバーの状態に関する情報が表示されます。 温度異常、ファン故障時のアクションを設定できます。
［Service Processor］	バッテリパックの状態が表示されます。また、リモートサービスボードのファームウェアをリモートで更新する操作を行います。ただし、バッテリパックとファームウェアのリモート更新機能はサポートしていません。
［Storage Subsystems］	リモートサービスボードを搭載した外部記憶装置と電源連動を行う情報を設定します。詳細については、「6.3.4 ［Storage Subsystems］ページ」（→ P.377）を参照してください。
［LAN Interface］	リモートサービスボードの IP アドレスや、HTTP および Telnet のポート番号など、LAN インターフェースを設定します。 各項目の詳細は、「■ LAN インターフェースの設定」（→ P.345）を参照してください。

表：Web インターフェースでの機能（ファームウェアバージョン 0.X.X.XX ／ 1.X.X.XX）

項目	説明
［SNMP Interface］	SNMP コミュニティとトラップの送信先を設定します。 ［New Community］をクリックすると、新しいコミュニティを作成できます。 ［New Trap Destination］をクリックすると、新しい送信先を作成できます。 ServerView コンソールから設定の変更を行う場合は、「Permissions」に「read/write」を指定してください。
［Serial Line Configuration］	シリアルインターフェースおよびシリアルインターフェースに接続するモデムの設定ができます。データ形式は内部的に 8N1（データビット = 8、パリティビット = なし、ストップビット = 1）に設定されます。 シリアルインターフェースを利用する場合は、「The serial interface should be used at all」をチェックします。 各項目の詳細については、「■ シリアルインターフェースの設定」（→ P.348）を参照してください。
［User Accounts］	新しいユーザ名の作成、パスワードと権限の設定、既存のユーザアカウントの削除などが行えます。ユーザ名に権限を設定しないと、そのユーザは読み取りアクセスしか許可されません。 既存のユーザ名または［New User Account］をクリックすると、ユーザアカウントを変更または新規作成できる［Account］ページが表示されます。
［Console Redirection］	コンソールリダイレクションを使用する場合に選択します。 PRIMERGY T850 ／ PRIMERGY RX800、およびバージョン 1.X.X.XX のファームウェアのみ表示されます。詳細については、「6.3.5 ［Console Redirection］ページ」（→ P.378）を参照してください。
[Disk Redirection]	当機能は未サポートです。
［Version Management］	インベントリ情報が表示されます。
［Online Manuals］	各インターフェースについてのヘルプ（英語）が表示されます。
［LMC Status/Restart］	PRIMERGY T850 ／ PRIMERGY RX800 のみ表示されます。 現在の LMC の接続状態が表示されます。［Restart LMC］をクリックすると、LMC を再スタートできます。ただし、LMC の状態が異常（Broken と表示）の場合、かつサーバの電源を切断した状態で行ってください。なお、LMC の状態が異常の場合には、各情報（ファン情報、メモリ情報など）は正しく表示されず、各操作（電源／リセット操作など）も実行できません。 ［Restart LMC］をクリックすると、LMC のアカウント入力を要求される場合があります。LMC で設定したユーザ名、パスワードを入力してください。デフォルトは次のとおりです。 ユーザ名：USERID パスワード：PASSW0RD（0 は数値）

● ファームウェアバージョン 2.X.X.XX の場合

表：Web インターフェースでの機能（ファームウェアバージョンン 2.X.X.XX）

項目	説明
［Service Processor］	バッテリパックの状態が表示されます。また、リモートサービスボードのファームウェアをリモートで更新する操作を行います。ただし、バッテリパックとファームウェアのリモート更新機能はサポートしていません。
［Lan Interface Configuration］	リモートサービスボードの IP アドレスや、HTTP および Telnet のポート番号など、LAN インターフェースを設定します。各項目の詳細は、「■ LAN インターフェースの設定」（→ P.345）を参照してください。
［SNMP Interface］	SNMP コミュニティとトラップの送信先を設定します。 ［New Community］をクリックすると、新しいコミュニティを作成できます。 ［New Trap Destination］をクリックすると、新しい送信先を作成できます。 ServerView コンソールから設定の変更を行う場合は、「Permissions」に「read/write」を指定してください。
［Alarm Handler］	アラームハンドラの設定を行います。詳細は、「●［Alarm Handler］」（→ P.367）を参照してください。
［Serial Interface Configuration］	シリアルインターフェースおよびシリアルインターフェースに接続するモデムの設定ができます。データ形式は内部的に 8N1（データビット = 8、パリティビット = なし、ストップビット = 1）に設定されます。シリアルインターフェースを利用する場合は、「The serialinterface should be used at all」をチェックします。 各項目の詳細については、「■ シリアルインターフェースの設定」（→ P.348）を参照してください。
［User Accounts］	新しいユーザ名の作成、パスワードと権限の設定、既存のユーザアカウントの削除などが行えます。ユーザ名に権限を設定しないと、そのユーザは読み取りアクセスしか許可されません。既存のユーザ名または［New User Account］をクリックすると、ユーザアカウントを変更または新規作成できる［Account］ページが表示されます。
［Storage Subsystems］	リモートサービスボードを搭載した外部記憶装置と電源連動を行う情報を設定します。詳細については、「6.3.4［Storage Subsystems］ページ」（→ P.377）を参照してください。

表：Web インターフェースでの機能（ファームウェアバージョンン 2.X.X.XX）

項目	説明
［Local Server］	自サーバの各情報表示、および異常発生時のアクションや電源制御などを行うことができます。
［Recovery］	ログを表示したり、異常発生時のアクションなどを設定したりします。詳細については、「6.3.3 ［Recovery］ページ」（→ P.361）を参照してください。
［Contents of Error Message Buffers］	エラーログとイベントログが表示されます。
［Maintenance］	CMOS バッテリの使用期限とファンの状態に関する情報が表示されます。
［ASR Properties］	以下のページへのリンクが表示されます。 ・［Fans］ ・［Temperature Sensors］ ・［Restart Settings］
［Boot Options］	電源の投入／切断の理由と起動状態が表示されます。
［System Board］	サーバのベースボード、CPU、メモリモジュール、電圧に関する情報が表示されます。
［Memory Modules］	メモリモジュールに関する情報が表示されます。
［Voltages Summary］	電圧に関する情報が表示されます。
［Power Supply］	サーバの電源ユニットの状態に関する情報が表示されます。
［Power ON/OFF and Restart］	電源 ON/OFF タイマーを設定します。
［Power On/Off］	曜日ごとに電源 ON/OFF タイマーが設定できます。
［Restart］	サーバの電源制御を行います。
［Immediate Power Off］	OS の状態に関係なく、サーバの電源を切断します。
［Immediate Reset］	OS の状態に関係なく、サーバを再起動します。
［Graceful Power Off（Shutdown）］	サーバをシャットダウンします。 リモートサービスボードが、シャットダウン要求をサーバの ServerView エージェントに送信します。エージェントがインストールされていないなどの理由で要求を送信できない場合は、「Immediate Power Off」の実施を促すメッセージを表示します。
［Graceful Reset（Reboot）］	サーバを再起動します。 リモートサービスボードが、リセット要求をサーバの ServerView エージェントに送信します。エージェントがインストールされていないなどの理由で要求を送信できない場合は、「Immediate Reset」の実施を促すメッセージを表示します。
［Power Cycle］	OS の状態に関係なく、サーバの電源を切断し、その後電源の再投入を行います。
［Power On］	サーバの電源を投入します。 サーバの電源が OFF の場合にボタンで表示されます。
［Environment］	温度、ファン、カバーの状態に関する情報が表示されます。 温度異常、ファン故障時のアクションを設定できます。
［Console Redirection］	コンソールリダイレクション を使用する場合に選択します。 詳細については、「6.3.5 ［Console Redirection］ページ」（→ P.378）を参照してください。
［Disk Redirection］	当機能は未サポートです。
［Version Management］	インベントリ情報が表示されます。

表：Web インターフェースでの機能（ファームウェアバージョンン 2.X.X.XX）

項目	説明
［Primary Server Group］	当機能は未サポートです。
［Secondary Server Group］	当機能は未サポートです。

POINT

- ServerView エージェントが稼働中に、ServerView コンソールから ASR 設定や電源の投入／切断などを行う場合、他の設定を変更する場合は、サーバのシステム上で「FUJITSU SVUSER」グループに所属するユーザアカウントと同一のユーザ名とパスワードを持つユーザアカウントを、リモートサービスボードにも作成してください。ユーザアカウントの作成については、「2.4.3 管理ユーザの設定」（→ P.71）を参照してください。

重要

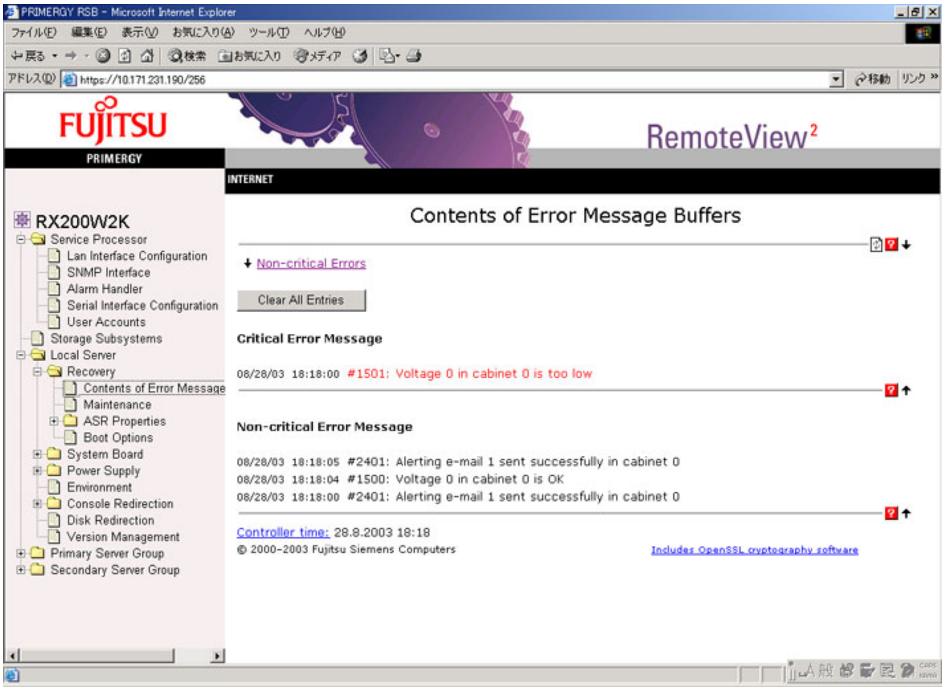
- ［Console Redirection］ページ、［LMC Status/Restart］ページの機能は、システム管理コントローラが行います。これらのメニューを選択したとき、システム管理コントローラのユーザ名／パスワード入力画面が表示されることがありますので、リモートサービスボードの基本ユーザアカウント（User Accounts の最初のエントリ）に設定したユーザ名／パスワードを入力してください。
入力後、システム管理コントローラの Web ブラウザ（Advanced System Management）が開きますので、いったん閉じてから、再度メニューを選択してください。

6.3.3 ［Recovery］ページ

［Recovery］ページでは、ログを表示したり、異常発生時のアクションとアラームハンドラなどを設定したりできます。リモートサービスボードは、サーバの異常な運用ステータスを検出すると、ユーザが設定した方法に従って対処します。たとえば、サーバがオーバーヒートし始めたときには自動的にシャットダウンし、指定した時間を経過したら再起動するように、設定することができます。
［Recovery］ページには、以下のページへのリンクが表示されます。

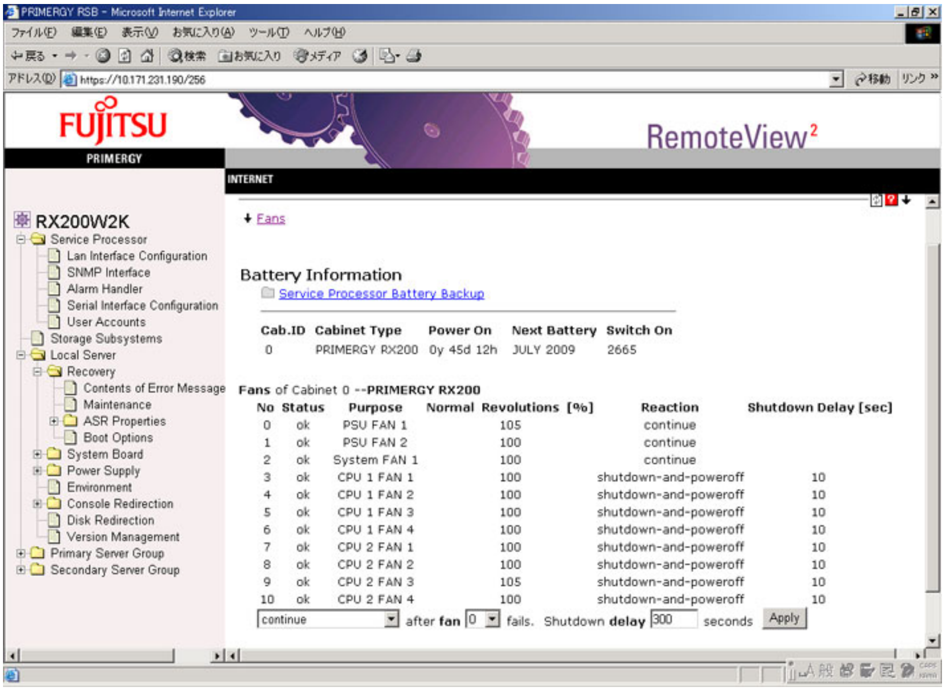
■ ［Contents of Error Message Buffers］

［Contents of Error Message Buffers］をクリックすると、［Contents of Error Message Buffers］ページが表示され、リモートサービスボードに記録されたエラーログとイベントログを確認できます。サーバで ServerView エージェントが稼動している間は、サーバに記録されたエラーログとイベントログも同時に確認できます。エラーログは、「Critical Error Message」というタイトルで表示され、イベントログは、「Non-critical Error Message」というタイトルで表示されます。



■［Maintenance］

［Maintenance］ページでは、ベースボードの CMOS バッテリの使用期限やファンの状態に関する情報を確認できます。また、ファンの障害時のアクションを設定することもできます。

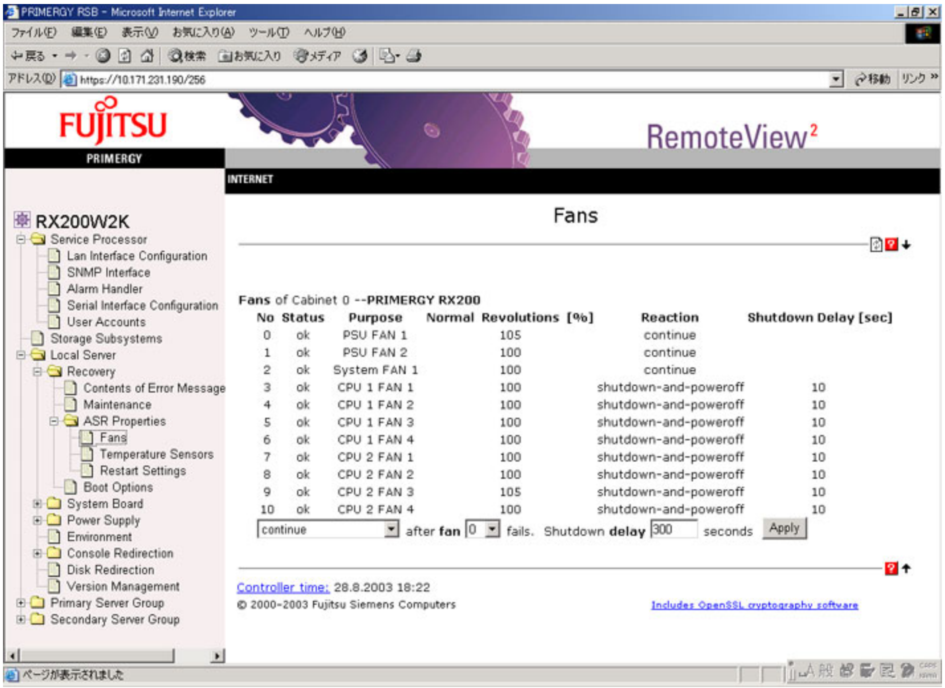


■［ASR］

［ASR］ページでは、ファン、温度、再起動時の動作、アラームハンドラの設定に関する情報を確認できます。
［ASR］ページには、以下のページへのリンクが表示されます。

●［Fans］

［Fans］ページでは、ファンの状態の表示と、ファン故障時のアクションを設定することができます。ファン故障の予兆監視のために、設定された時刻（Check Time）になると、ファンの動作テストが行われます。

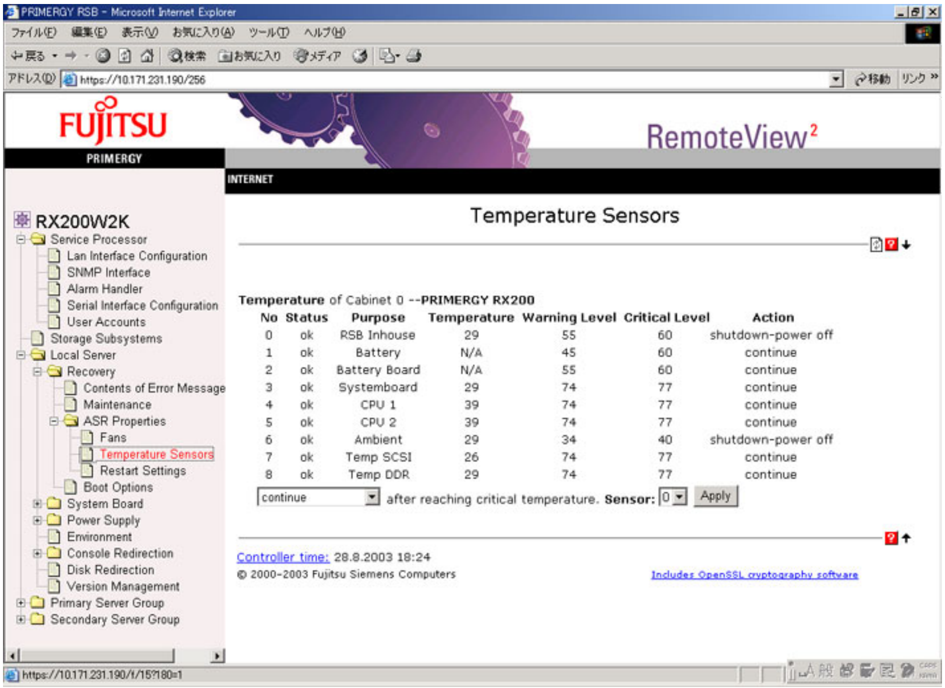


アクションには、以下のオプションがあります。

- continue
  ファン故障時にもサーバを継続稼動させます。
- shutdown and poweroff
  ファン故障が発生すると、一定の遅延（delay）時間のあとにサーバをシャットダウンします。故障したファンが、遅延時間内に復旧すると、シャットダウンは中止されます。

● [Temperature Sensors]

［Temperature Sensors］ページでは、温度の表示と、温度異常時のアクションを設定することができます。

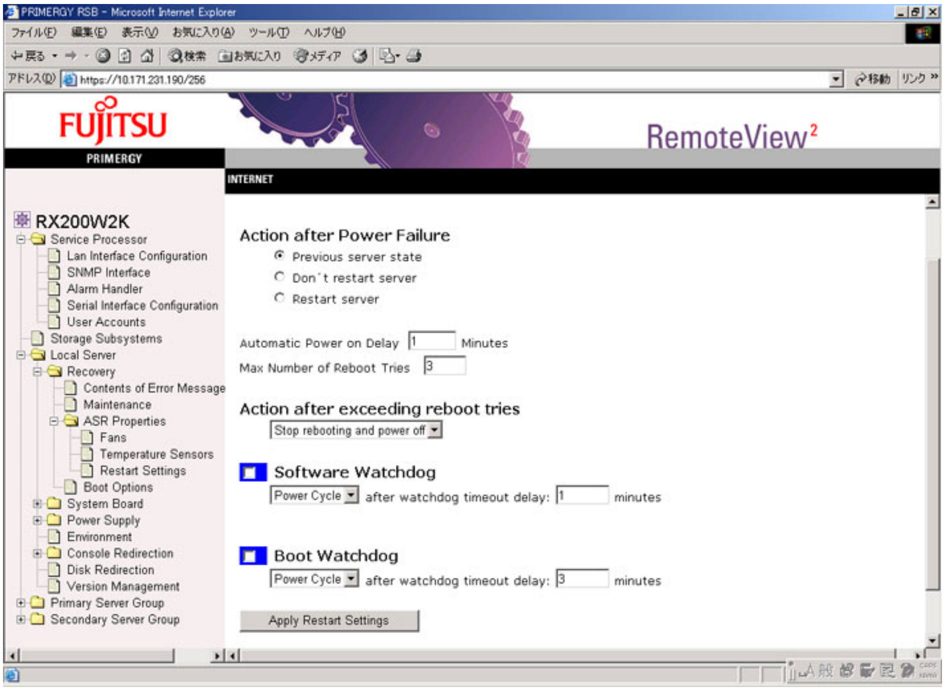


アクションには、以下のオプションがあります。

- continue
  温度異常時にもサーバを継続稼動させます。
- shutdown-power off
  温度が危険（Critical-Level）な値に達すると、サーバをシャットダウンします。

●［Restart Settings］

［Restart Settings］ページでは、自動再起動を実行する条件や OS ハングなどを検出するウォッチドッグを設定します。



- Action after Power Failure
  停電などの電源異常時のアクションを設定します。たとえば、停電により電源切断したあとに停電から回復した場合、自動的に電源を投入するように設定することができます。アクションには、以下のオプションがあります。
  - Previous state または Previous server state
    サーバを再起動（復電）します。ただし、サーバの電源が切断状態の場合は、再起動しません。
  - Don't restart server
    サーバを再起動（復電）しません。
  - Restart server
    サーバを再起動（復電）します。
  - Automatic Power on Delay <MM> Minutes
    サーバを再起動するまでの遅延時間（delay：MM［分］）を指定します。
    遅延時間は、高温異常時の場合などに、サーバを再起動（復電）する前に冷却するなどの目的で指定します。遅延時間は、「Don't restart server」を選択した場合にも有効で、ファン故障時や温度異常時に設定されたアクションによりサーバが自動シャットダウンした場合、設定した遅延時間後に自動的に再起動（電源投入）されます。
    再起動は、最大で「Max Number of Reboot Tries」に設定された回数まで行われます。
  - Max Number of Reboot Tries
    ファン故障時や温度異常時に、設定されたアクションによりサーバが自動シャットダウンした場合の再起動回数の最大値を指定します。

- Action after exceeding reboot tries
  Action after Power Failure による再起動（復電）、または Software/Boot Watchdog による再起動の最大リトライ回数と、再起動を最大リトライ回数繰り返したあとのアクションを設定します。アクションには、以下のオプションがあります。
  ・Stop rebooting and power off
  再起動を中止します。Software/Boot Watchdog による再起動の場合は、最大リトライ回数後にサーバの電源を自動的に切断します。
  ・Start diagnostic system
  診断システムを起動します。本オプションは未サポートです。選択しないでください。
- Software Watchdog
  サーバの OS ハング時のアクションを設定します。リモートサービスボードは、ServerView エージェントと定期的に通信することにより、OS ハングを監視します。ServerView エージェントとの通信が OS シャットダウン処理されずに途絶えた場合は、タイムアウト時間（timeout delay）後に OS ハングを検出し、アクションを実行します。アクションには、以下のオプションがあります。
  ・Reboot
  再起動します。
  ・Continue
  再起動しません。
  ・Power Cycle
  再起動します。
- Boot Watchdog
  サーバの OS 起動失敗時のアクションを設定します。リモートサービスボードは、サーバの POST が終了してから、ServerView エージェントが起動するまでの間隔を監視することにより、サーバの OS 起動を監視します。サーバの POST が終了してから、タイムアウト時間（timeout delay）の間に、リモートサービスボードと ServerView エージェントとの通信が開始されない場合、OS 起動失敗を検出し、アクションを実行します。アクションには、以下のオプションがあります。
  ・Reboot
  再起動します。
  ・Continue
  再起動しません。
  ・Power Cycle
  再起動します。

POINT

- Reboot ／ Power Cycle アクションを実行できるようにするには、サーバのシステムを以下のように設定する必要があります。
  - ・Windows Server 2003 の場合
    コントロールパネルの［システム］アイコンをダブルクリックし、［詳細設定］タブ画面の［起動と回復］の［設定］をクリックし、「自動的に再起動する」のチェックをはずします。
  - ・Windows 2000 Server の場合
    コントロールパネルの［システム］アイコンをダブルクリックし、［詳細］タブ画面の［起動 / 回復］をクリックし、「自動的に再起動する」のチェックをはずします。
  - ・Windows NT の場合
    コントロールパネルの［システム］アイコンをダブルクリックし、［起動 / シャットダウン］タブ画面で「自動的に再起動する」のチェックをはずします。
- PRIMERGY RX800 3.0GHz モデル以降において、Software Watchdog の機能を有効にするためには、以下の BIOS 設定を変更する必要があります。
  1. POST 処理冒頭で <F1> キーを押します。
  2. 「Configuration/Setup Utility」が起動します。
  3. ［Advanced Setup］-［ASM Settings］の "On USB Selection" を以下の設定にします。
     - Windows の場合：Other OS
     - Linux の場合：Linux OS

●［Alarm Handler］

ファームウェアバージョンが「2.X.X.XX」の場合、このページは［Service Processor］ページからリンクされています。
［Alarm Handler］ページでは、アラームハンドラの設定全体を確認できます。このページでは、アラームハンドラの有効化（Enabled）／無効化、テスト送信（Test Alarm）、削除（Delete）ができます。［Create］をクリックすると、目的の形式の新しいアラームハンドラを設定できます。該当するリンクをクリックすると、アラームハンドラの設定ページに移動します。テスト送信する場合は、「Enabled」をチェックし、［Apply］をクリックしてから、［Test Alarm］をクリックします。
アラームハンドラの設定は、タイプにより異なります。アラームハンドラには、以下のタイプがあります。

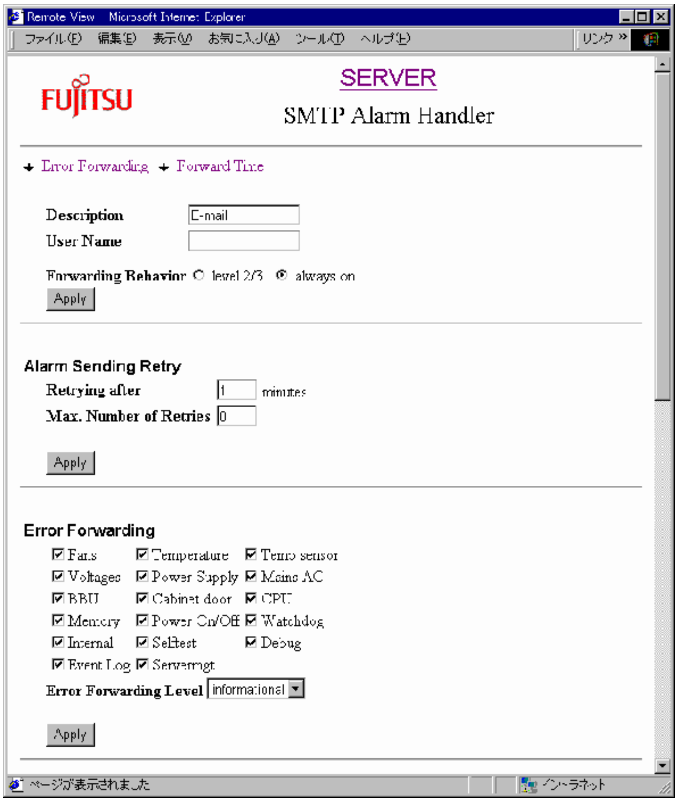
- signal（シグナル式ポケットベル用）
- numeric（数字式ポケットベル用）
- alpha（英数字式ポケットベル用）
- sms（ポケットベルまたは携帯電話への SMS メッセージ用）
- docomo（NTT DoCoMo のポケットベル用）
- E-mail（E-mail 用）

POINT

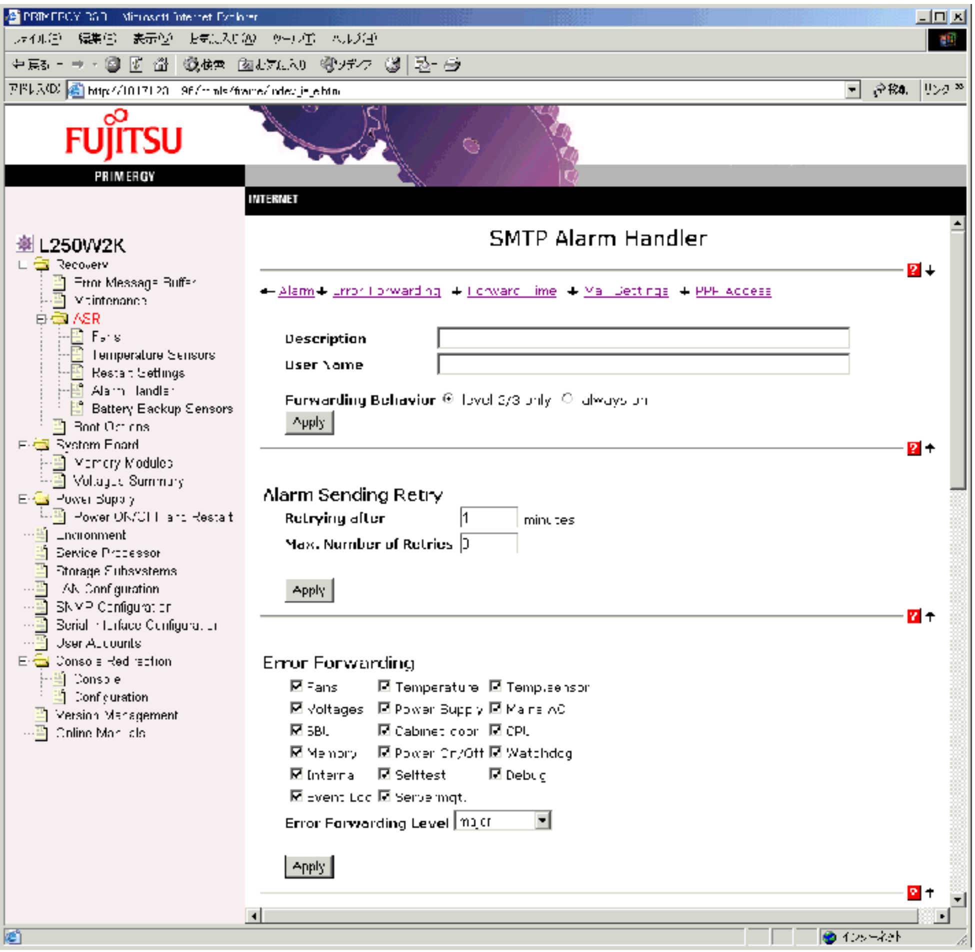
- 日本国内では、以下のタイプのみ使用できます。その他のタイプは使用しないでください。
  - ・docomo
  - ・E-mail

選択項目が多いため、アラームハンドラの設定ページは複数のセクションに分かれていて、各セクションを個別に変更できます。
以降の説明では、E-mail を一例として取り上げます。docomo については、E-mail とは異なるオプションのみ説明します。

ファームウェアバージョンが 0.X.X.XX の場合の画面



ファームウェアバージョンが 1.X.X.XX ／ 2.X.X.XX の場合の画面



- ［Description］
  任意の名前を入力します。ここに入力した文字列は、［Alarm Handler］ページの 2 番目の欄に表示されます。
- ［User Name］
  ユーザ名を入力します。［Description］を入力していない場合は、ここに入力したユーザ名が［Alarm Handler］ページの 2 番目の欄に表示されます。
- ［Forwarding Behavior］
  サーバで ServerView エージェントが稼動していない場合のみアラームを送信する（［level 2/3］）か、常にアラームを送信する（［always on］）かを選択します。
- Alarm Sending Retry
  失敗した送信を再試行する間隔（［Retrying after <MM> minutes］）と、送信の最大試行回数（［Max. Number of Retries］）を設定します。

- Error Forwarding
  送信するアラームのフィルタを設定します。アラームハンドラでは、アラームグループとエラーレベルで送信するアラームをフィルタできます。エラーレベルのフィルタにより、指定したレベルより重要度の低いアラームを送信しないようにできます。
  アラームグループには、以下のような項目があります。

表：アラームグループ

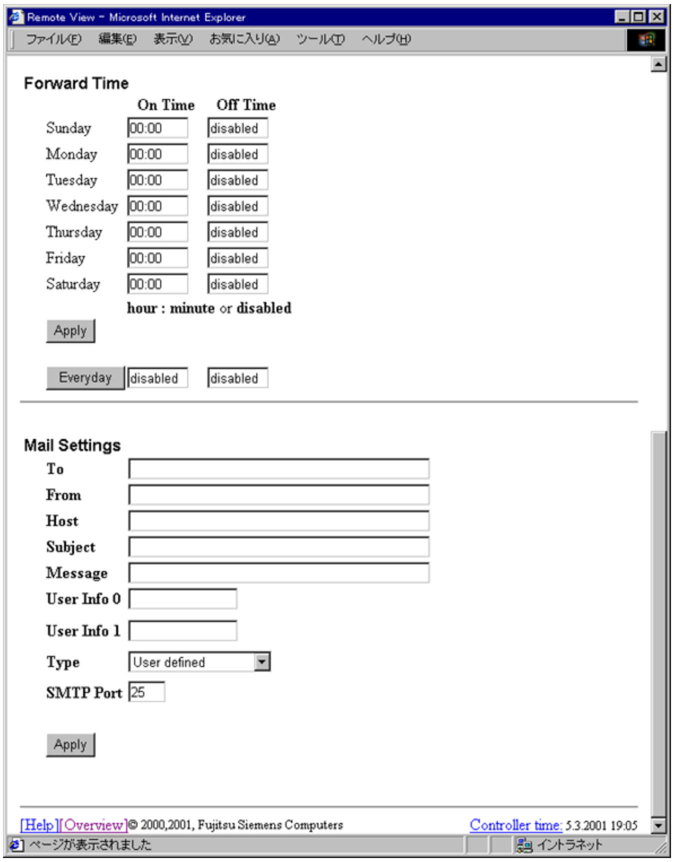
項目名	説明
Fans：	ファン関連のグループです。
Temperature：	温度関連のグループです。
Temp. sensor：	温度センサ関連のグループです。
Voltages：	電圧関連のグループです。
Power Supply：	電源ユニット関連のグループです。
Mains AC：	電源供給関連のグループです。
BBU：	バックアップバッテリユニット関連のグループです。
Cabinet, door：	カバー関連のグループです。
CPU：	CPU 関連のグループです。
Memory：	メモリ関連のグループです。
Power On/Off：	電源オン／オフ、リセット関連のグループです。
Watchdog：	ハング監視関連のグループです。
Internal：	CAN Bus/PCI/NMI などの内部エラー関連のグループです。
Selftest：	BIOS 検出の POST(Power On Self test) エラー関連のグループです。
Debug：	テストトラップなどのテスト関連のグループです。
Event log：	エラーメッセージ生成関連のグループです。
Servermgt：	コミュニケーション、認証関連のグループです。

エラーレベルには、以下の項目があります。

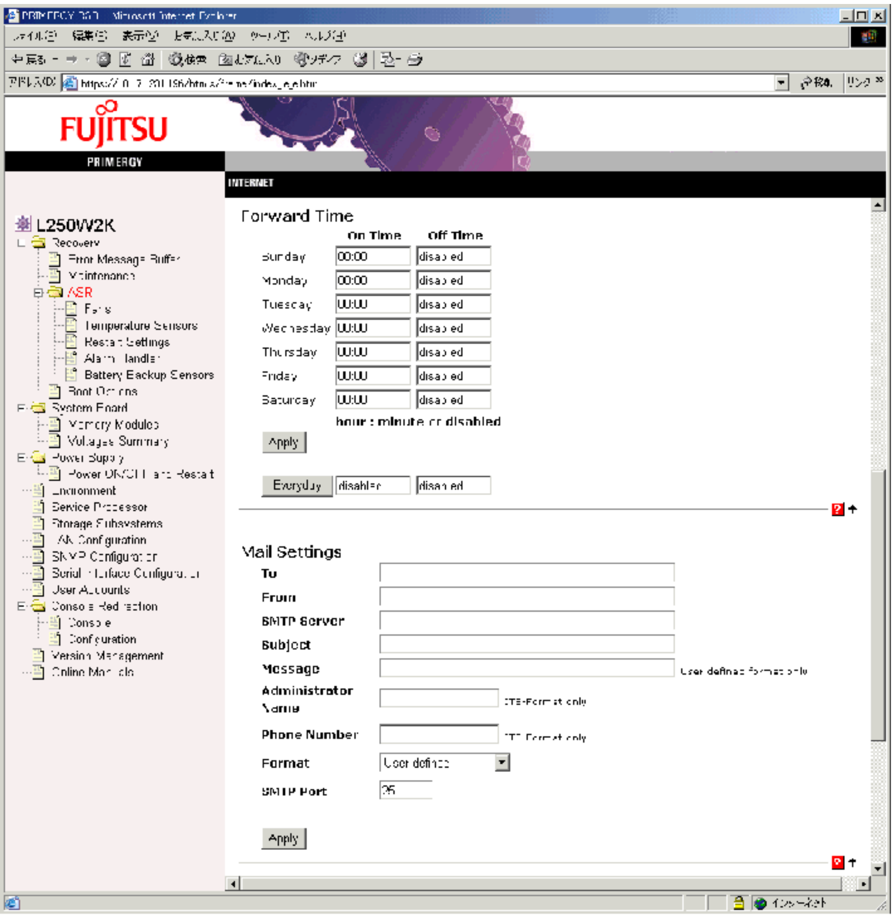
表：エラーレベル

項目名	説明
critical：	危険レベル
major：	重度レベル
minor：	軽度レベル
informational：	情報レベル

ファームウェアバージョンが 0.X.X.XX の場合の画面



ファームウェアバージョンが 1.X.X.XX ／ 2.X.X.XX の場合の画面



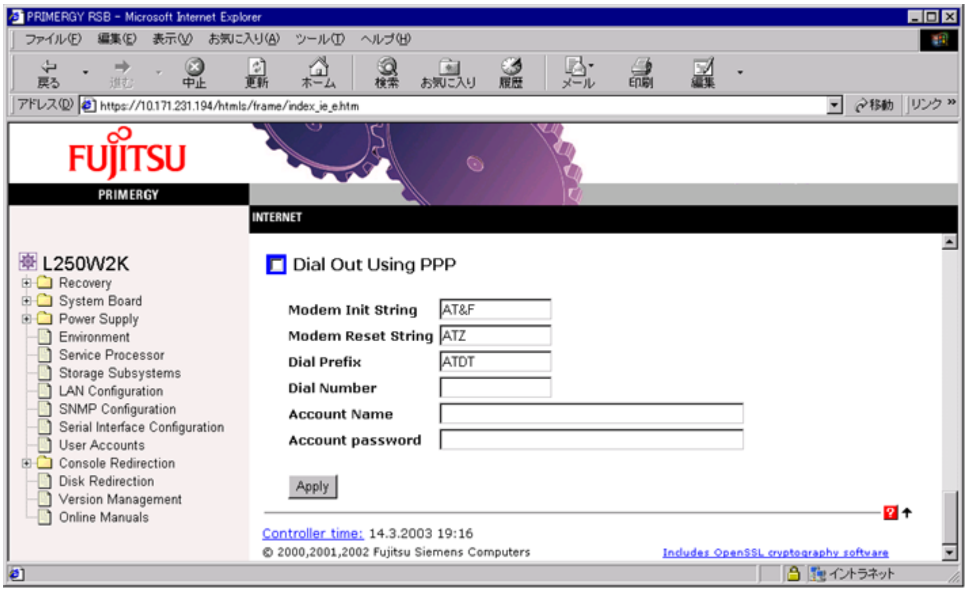
- Forward Time
  アラームハンドラを有効にする時間帯を設定します。平日、週末、夜間など時間帯に応じて、異なる送信先にアラームを送信することもできます。
  各曜日ごとに「On Time」と「Off Time」を設定できます。時間帯を指定せずに、常に送信したい場合は、「On Time」に「00:00」、「Off Time」に「disabled」を指定します。

- Mail Settings
  メール送信に関する設定を指定します。

表：アラームハンドラ設定項目

設定項目	説明
［To］	受信側の電子メールアドレスを入力します。
［From］	送信側の電子メールアドレスを入力します。
［Host］ ［SMTP SERVER］	SMTP サービスにアクセスするために使用するホストを入力します。
［Subject］	電子メールの件名を入力します（日本語は使用できません）。
［Message］	メッセージを入力します（日本語は使用できません）。
［User Info 0/1］ ［Administrator Name］ ［Phone Number］	ITS format 用の情報を入力します。
［Type］ ［Format］	メッセージのタイプを選択します。以下の値の中から選択できます。 ・User defined：一般的なタイプのメール ・ITS：ITS フォーマットメール（未サポート。使用しないでください。） ・Fujitsu REMCS Mail：富士通 REMCS メール（未サポート。使用しないでください。）
［SMTP Port］	SMTP サービスにアクセスするためのポート番号を入力します。

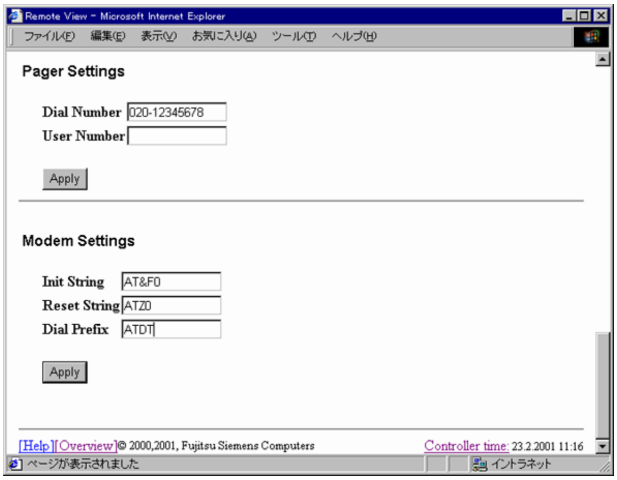
ファームウェアバージョンが 1.X.X.XX ／ 2.X.X.XX の場合の画面



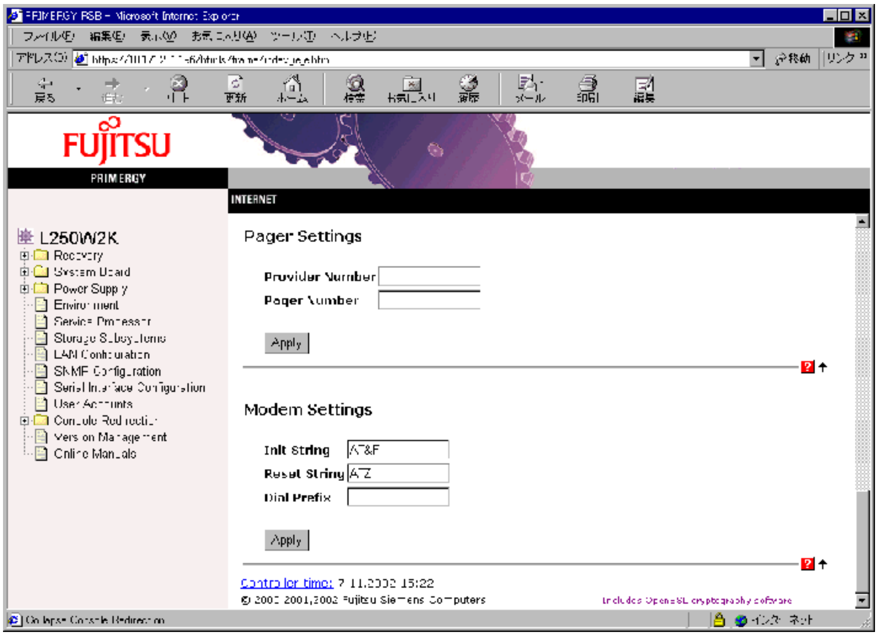
- Dial Out Using PPP
  E-mail を PPP 接続で送信します。
  本機能は、未サポートです。設定を有効にしないでください。

NTT DoCoMo アラームハンドラでは、SMTP アラームハンドラの「Mail Settings」の代わりに、以下の項目を設定します。

ファームウェアバージョンが 0.X.X.XX の場合の画面



ファームウェアバージョンが 1.X.X.XX ／ 2.X.X.XX の場合の画面



- Pager Settings

表：電話帳設定項目

設定項目	説明
［Dial Number］ ［Provider Number］	ポケット電話サービスを呼び出すために使用する電話番号を入力します。
［User Number］ ［Pager Number］	呼び出すユーザの番号を入力します（入力不要）。

- Modem Settings

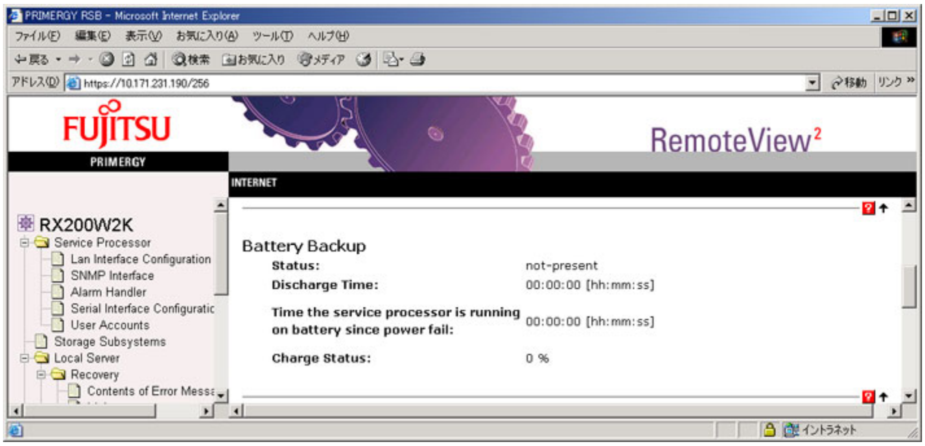
表：モデム設定項目

設定項目	説明
［Init String］	モデムの初期化コマンドを入力します（例：AT&F0）。
［Reset String］	モデムのリセットコマンドを入力します（例：AT&Z0）。
［Dial Prefix］	ダイヤルモードのコードを入力します。たとえば、ダイヤル方法がパルスの場合は「ATDP」、トーンの場合は「ATDT」と入力します。

ポケットベルに送信されるメッセージのフォーマットは、ServerView のアラームサービスと同様です。メッセージのフォーマットの詳細については、「3.5.3 アラーム設定」（→ P.156）の「■ アクション設定の作成／編集」（→ P.164）を参照してください。

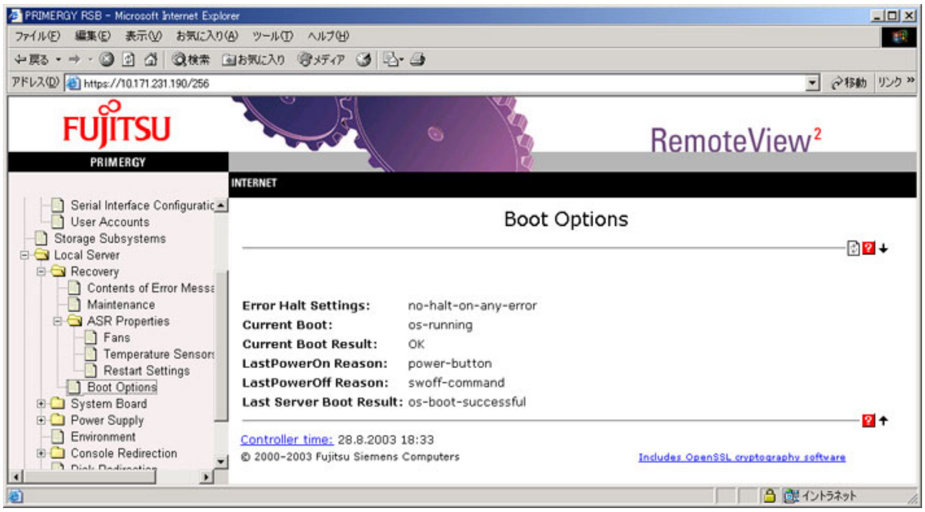
●［Service Processor Battery Backup］

ファームウェアバージョンが「2.X.X.XX」の場合、このページは［Service Processor］ページで表示されます。
［Service Processor Battery Backup］ページでは、リモートサービスボードに搭載するバッテリパックの状態が表示されます。
ただし、バッテリパックはサポートしていません。また、本ページは表示されない場合があります。



■［Boot Options］

［Boot Options］ページでは、電源の投入／切断の理由と起動結果に関する情報が表示されます。

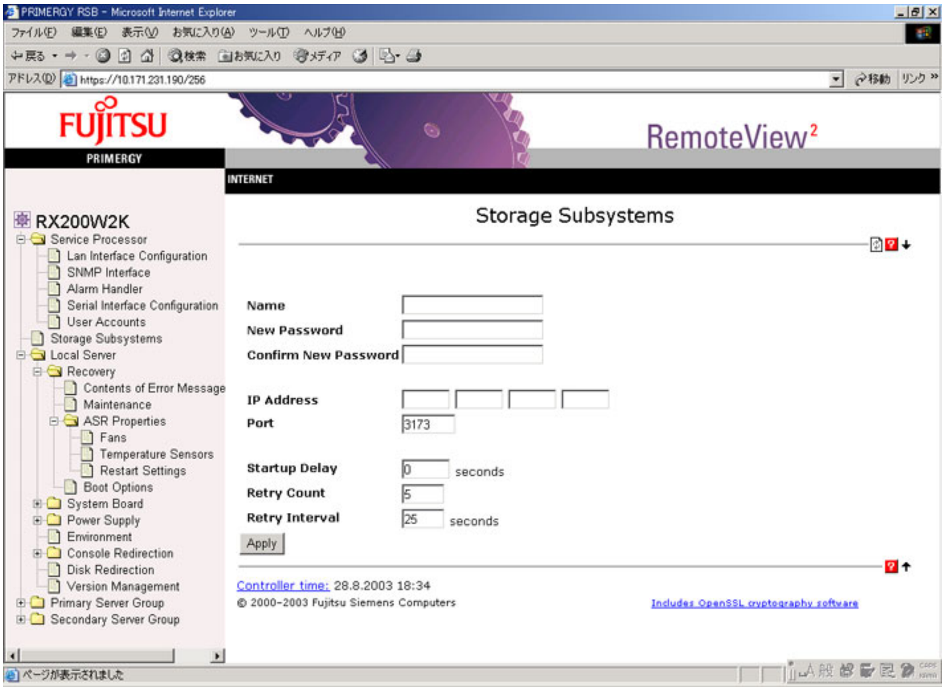


表示される情報は、以下のとおりです。

- Error Halt Settings
  サーバの POST 時にエラーが発生した場合の動作の設定が表示されます。
- Current Boot
  現在の起動状態が表示されます。たとえば、サーバで ServerView エージェントが稼動している場合は、os-running と表示されます。
- Current Boot Result
  POST の結果が表示されます。
- Last Power On Reason ／ Last Power Off Reason
  直前の電源投入および電源切断の結果が表示されます。
- Last Server Boot Result
  前回のシステムの起動の結果が表示されます。

6.3.4 ［Storage Subsystems］ページ

［Storage Subsystems］ページでは、リモートサービスボードを搭載した外部記憶装置と電源連動を行う情報を設定します。
［New Storage Subsystem］をクリックすると、連動させる対象装置を新規作成する［Storage Subsystems］ページが表示されます。
［Change］または［Delete］をクリックすると、既存の設定を変更または削除できます。



［Storage Subsystems］ページでは、以下の設定を行います。

- ［Name］
  対象装置のリモートサービスボードに設定されたユーザアカウントの Name を設定します。
- ［Old Password］
  対象装置のリモートサービスボードに設定されたユーザアカウントのパスワードを設定します。本設定は、［Change］をクリックすると表示されます。
- ［New Password］
  対象装置のリモートサービスボードに設定されたユーザアカウントのパスワードを設定します。
- ［Confirm New Password］
  ［New Password］に設定したパスワードを再度設定します。
- ［IP Address］
  対象装置のリモートサービスボードに設定された IP アドレスを設定します。
- ［Port］
  Port 番号を設定します。

- ［Startup Delay］
  対象装置の電源を投入する遅延時間を設定します。
- ［Retry Count］
  対象装置の電源投入／切断処理が失敗した場合のリトライ数を設定します。
- ［Retry Interval］
  対象装置の電源投入／切断処理が失敗した場合のリトライの間隔を設定します。

POINT

- 本情報を設定したサーバ（以下、管理装置と記述します）の電源が投入／切断された場合、対象装置の電源が投入／切断されます。ただし、サーバは対象装置となりません。
- 同一対象装置を設定した管理装置が複数台ある場合、以下のように動作します。
  ・管理装置のいずれか 1 台の電源が投入された場合、対象装置の電源が投入されます。
  ・管理装置のすべての電源が切断された場合、対象装置の電源が切断されます。

重要

- 本情報を新規に作成した場合、電源制御は次回の管理装置の電源投入時から有効となります。
- 本情報を削除した場合、対象装置は管理装置が電源切断されたものと見なします。
- 対象装置を変更する場合、本情報は削除してください。その後、本情報を新規に作成してください。
- 本情報は、管理装置・対象装置であるサーバ・拡張ディスク装置の電源が切断されている状態で設定（作成、変更、削除）することをお勧めします。
- 本機能により対象装置の電源制御を行う場合、対象装置のリモートサービスボードに設定されているユーザアカウントには、以下の権限が許可されている必要があります。
  Reset/Switch off

6.3.5 ［Console Redirection］ページ

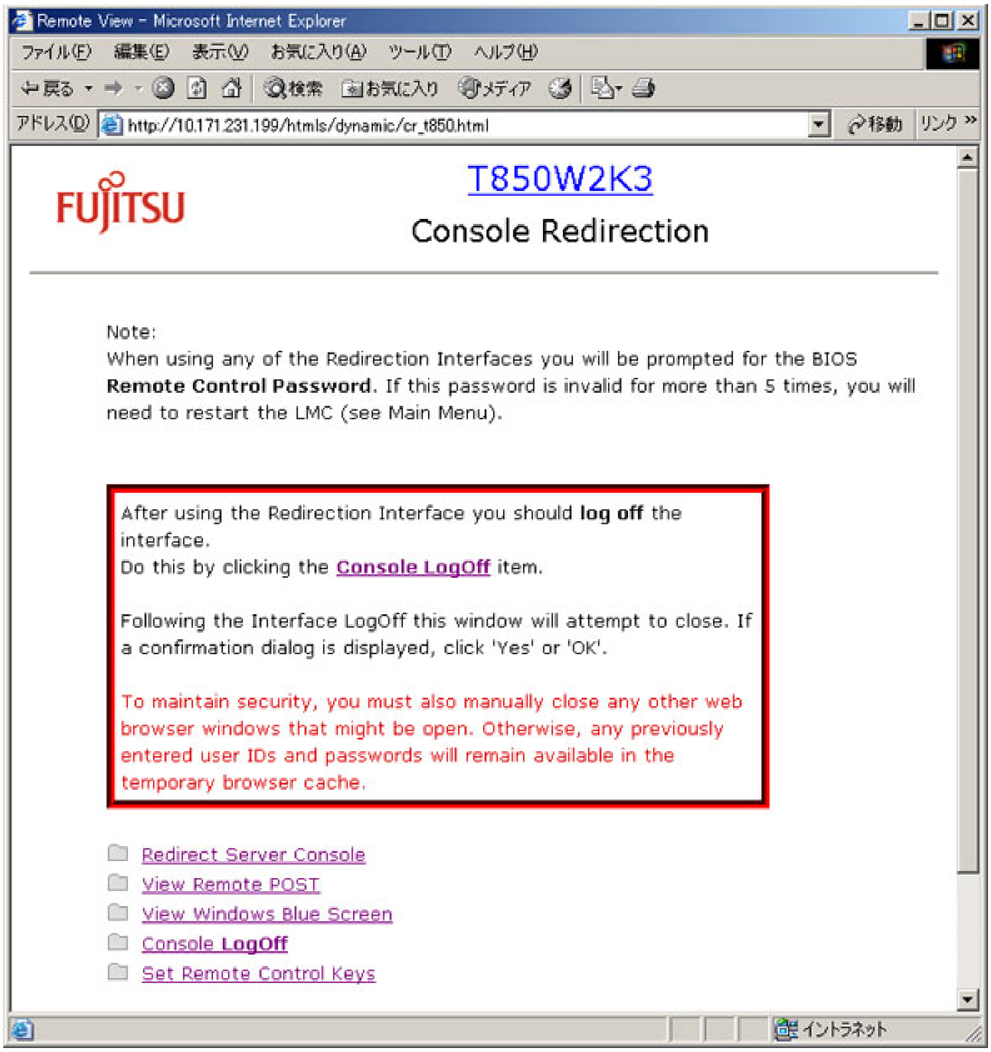
［Console Redirection］ページでは、サーバのコンソールリダイレクションや操作が行えます。
本メニューは、PRIMERGY T850 ／ PRIMERGY RX800、およびバージョン 1.X.X.XX ／ 2.X.X.XX のファームウェアのみ表示されます。

● PRIMERGY T850 ／ PRIMERGY RX800 の場合（ファームウェア・バージョン 0.4.92714.163 未満）

重要

- コンソールリダイレクションを使用する場合は、サーバの BIOS メニューでコンソールリダイレクションのパスワードが設定されている必要があります。
  パスワード設定は、以下の BIOS セットアップのメニューで行います。
  ［System Security］-［Remote Control Security Settings］-［Enter Remote Control Password］

［Console Redirection］ページには、以下のメニューがあります。



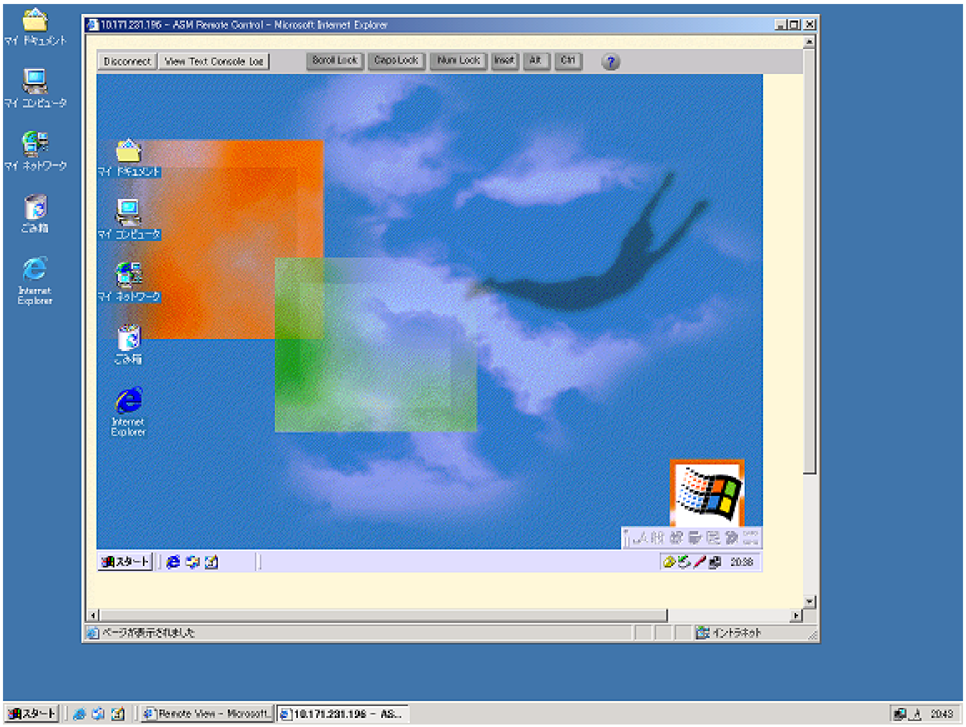
- ［Redirect Server Console］
  サーバ動作中の表示や操作が行えます。

重要

- Redirection 画面の表示色数は 256 色固定です。
- Redirection 画面からサーバディスプレイの設定を変更しないでください。
  また、管理端末とサーバの画面解像度が異なる場合、画面の一部が表示されない場合があります。
- Redirection 画面上部に表示される Num Lock／Caps Lock／Scroll Lock キーは使用できません。
  また、Text Mode を Redirection 中は、その他の画面上部に表示される特殊キーも使用できません。
- 日本語キーボード特有の操作（日本語 FEP への切り替えなど）は行えません。
- Text Mode を Redirection 中は、罫線などの 2 バイトコードは正しく表示されません。
- Redirection 接続時に、Redirection 画面に何も表示されない場合があります。この場合は、サーバを再起動してください。

- ［View Remote POST］
  サーバを再起動し、サーバの POST の表示やキー操作が行えます。
  現在、本機能は正しく動作しません。POST の Redirection を行う場合は、以下の手順で操作してください。
  1. サーバの電源を切断します（リモートでの電源切断も可能です）。
  2. ［Redirect Server Console］からログインします。
  3. サーバの電源を投入します（リモートでの電源投入も可能です）。
- ［View Windows Blue Screen］
  過去に発生した Windows ブルースクリーン画面を表示します。
  ブルースクリーン画面を表示させるには、ウォッチドック監視（Software Watchdog）を有効にしておく必要があります。
- ［Console LogOFF］
  コンソールリダイレクションを終了する場合に、必ずログオフしてください。
  これは、セキュリティ上重要な操作です。
- ［Set Remote Control Keys］
  コンソールリダイレクションで使用する特殊キーを別のキーに割り当てることができます。現在、本機能は未サポートです。

以下の図は、コンソールリダイレクションの例です。
図のように管理端末からサーバ画面のリダイレクションが実行できます。



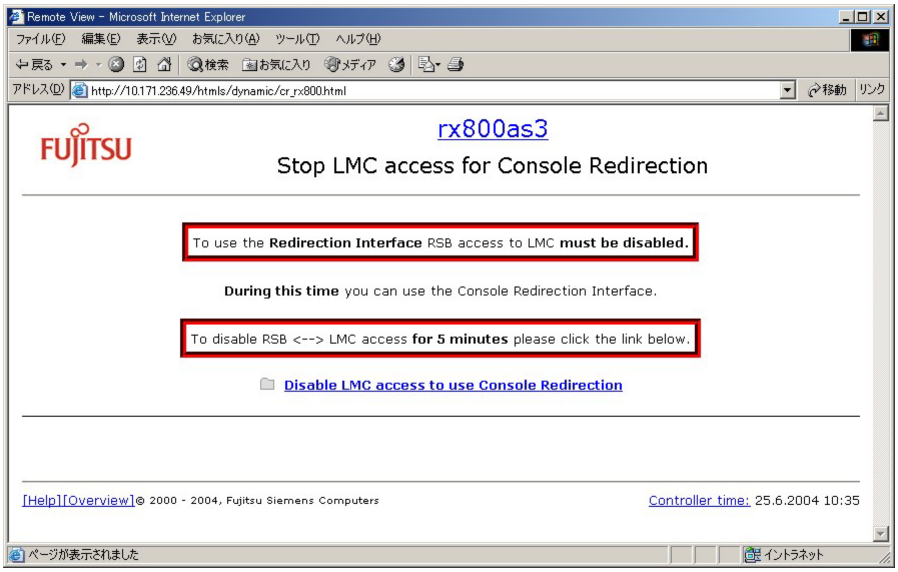
● PRIMERGY T850 ／ PRIMERGY RX800 の場合（ファームウェア・バージョン 0.4.1.163 以上）

重要

- コンソールリダイレクションを使用する場合は、サーバの BIOS メニューでコンソールリダイレクションのパスワードが設定されている必要があります。
  パスワード設定は、以下の BIOS セットアップのメニューで行います。
  ［System Security］-［Remote Control Security Settings］-［Enter Remote Control Password］

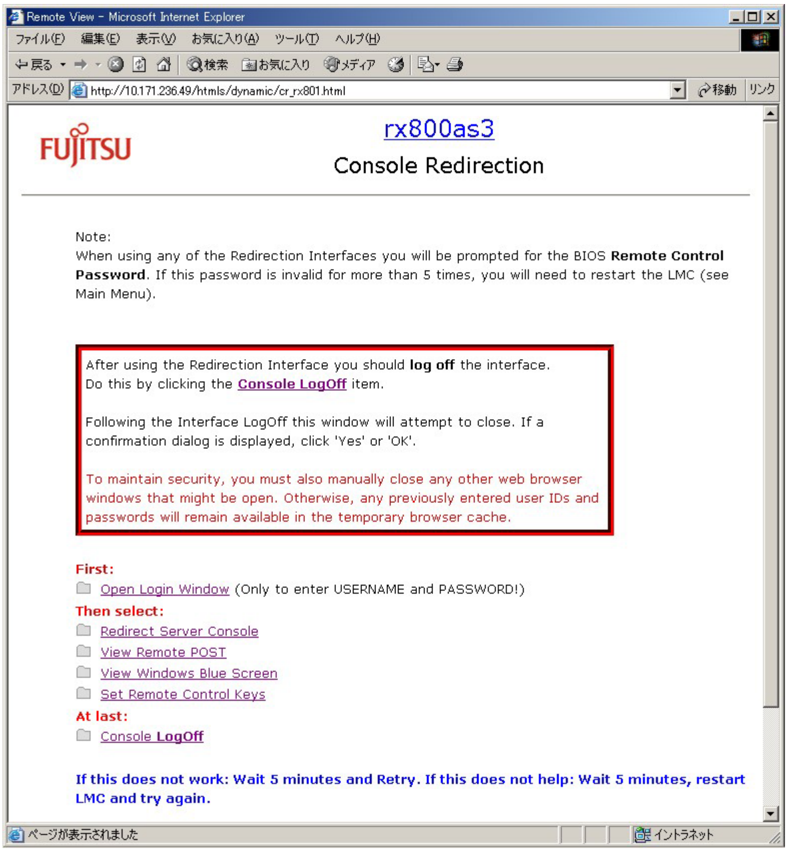
1 Web インターフェイスから［Console Redirection］、およびその下位メニューをクリックします。

以下の画面が表示されます。



2　［Disable LMC access to use Console Redirection］をクリックします。

以下の画面が表示されます。



［Console Redirection］ページには、以下のメニューがあります。

- ［Open Logon Window］

  以降の Redirection メニューを実行する前に、必ず本メニューを実行してください。

  Console Redirection 専用のログインウィンドウが表示されますので、Web インターフェイス実行時と同じユーザ名・パスワードを入力してください。

- ［Redirect Server Console］

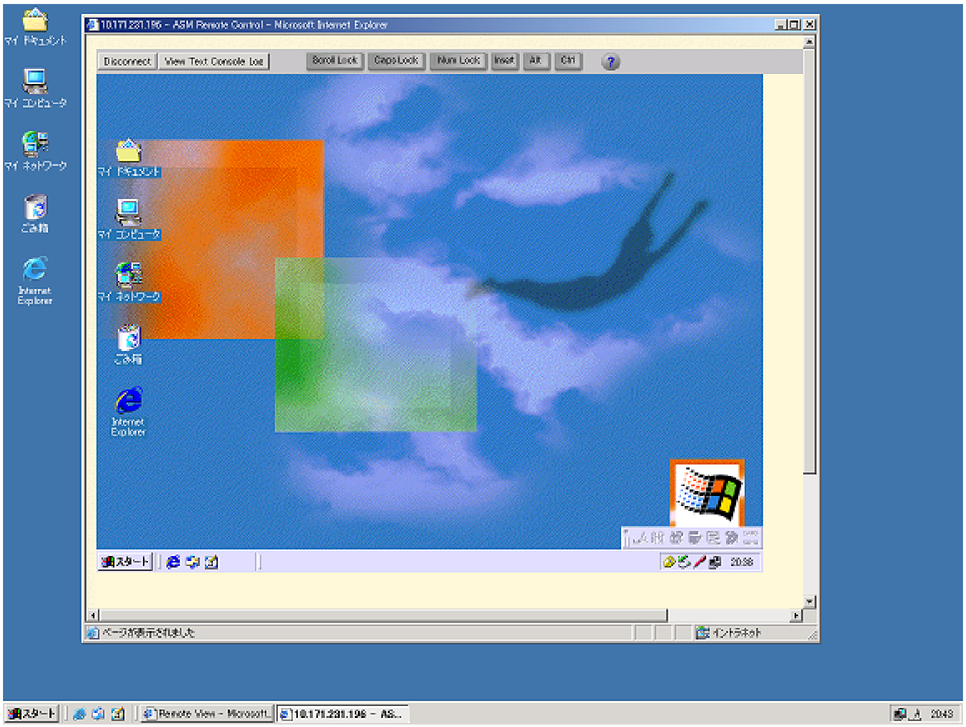
  サーバ動作中の表示や操作が行えます。

重要

- Redirection 画面の表示色数は 256 色固定です。
- Redirection 画面からサーバディスプレイの設定を変更しないでください。
  また、管理端末とサーバの画面解像度が異なる場合、画面の一部が表示されない場合があります。
- Redirection 画面上部に表示される Num Lock ／ Caps Lock ／ Scroll Lock キーは使用できません。
  また、Text Mode を Redirection 中は、その他の画面上部に表示される特殊キーも使用できません。
- 日本語キーボード特有の操作（日本語 FEP への切り替えなど）は行えません。
- Text Mode を Redirection 中は、罫線などの 2 バイトコードは正しく表示されません。
- Redirection 接続時に、Redirection 画面に何も表示されない場合があります。この場合は、サーバを再起動してください。

- ［View Remote POST］
  サーバを再起動し、サーバの POST の表示やキー操作が行えます。
  現在、本機能は正しく動作しません。POST の Redirection を行う場合は、以下の手順で操作してください。
  1. サーバの電源を切断します（リモートでの電源切断も可能です）。
  2. ［Redirect Server Console］からログインします。
  3. サーバの電源を投入します（リモートでの電源投入も可能です）。
- ［View Windows Blue Screen］
  過去に発生した Windows ブルースクリーン画面を表示します。
  ブルースクリーン画面を表示させるには、ウォッチドック監視（Software Watchdog）を有効にしておく必要があります。
- ［Console LogOFF］
  コンソールリダイレクションを終了する場合に、必ずログオフしてください。
  これは、セキュリティ上重要な操作です。
- ［Set Remote Control Keys］
  コンソールリダイレクションで使用する特殊キーを別のキーに割り当てることができます。現在、本機能は未サポートです。

以下の図は、コンソールリダイレクションの例です。
図のように管理端末からサーバ画面のリダイレクションが実行できます。



● ファームウェアバージョン 1.X.X.XX ／ 2.X.X.XX の場合

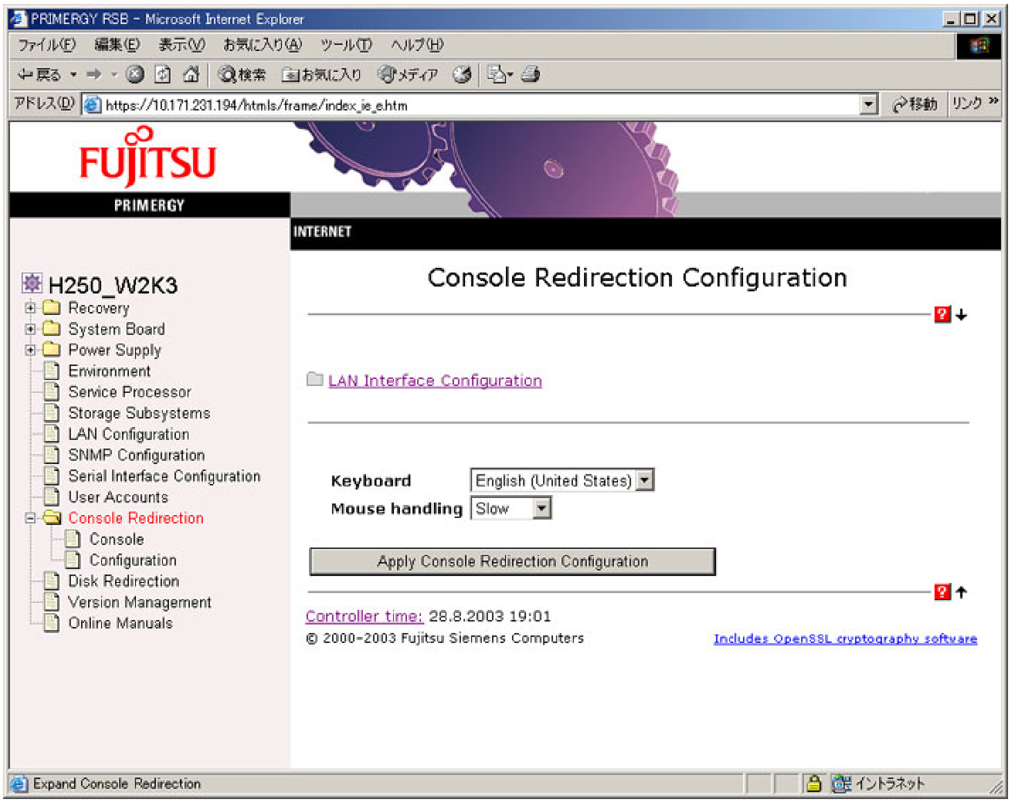
重要

- コンソールリダイレクションを使用する場合は、コンソール側で使用されるブラウザに Java™2 Runtime Environment が必須となります。本機能が推奨する環境は、以下のとおりです。
  - ・Netscape（Version 6.2 以降）＋ Java™2 Runtime Environment, Standard Edition V1.4.2_06 以降
  - ・Internet Explorer（Version 5.5 SP2 以降）＋ Java™2 Runtime Environment, Standard Edition V1.4.2_06 以降

    上記 JRE はドキュメント＆ツール CD の以下に格納されています。

    ［CD-ROM ドライブ］:¥SVMANAGE¥TOOLS¥j2re-1_4_2_06-windows-i586-p.exe

［Console Redirection］ページには、以下のメニューがあります。



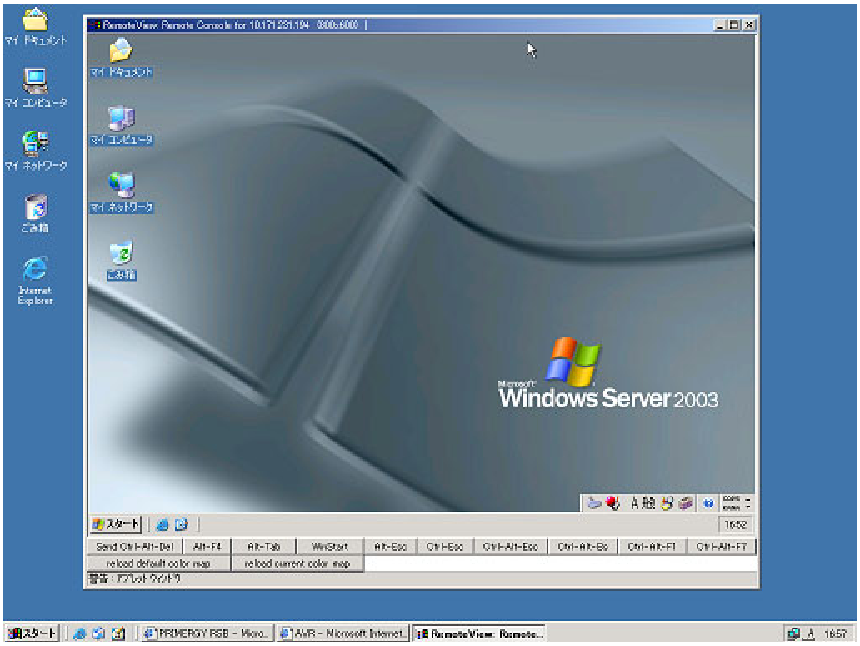
- ［Console］

  サーバ動作中の表示や操作が行えます。［Console］をクリックすると、AVR ウインドウが表示されます。AVR ウインドウからアプレットウインドウが表示され、コンソールリダイレクションが実行されます。

重要

- コンソールリダイレクションを実行するためには､｢LAN Interface Configuration - Telnet - Redirection Source」が「VGAsnooping」となっている必要があります。以下のサーバは、デフォルトが「No Redirection」となっているため変更が必要です。
  ・PRIMERGY H450 ／ R450 ／ H250
- 使用する Java 環境によって､コンソールリダイレクション開始前に､セキュリティ警告が表示されたり、ユーザ ID とパスワードの入力を求められたりします。ユーザ ID とパスワードは、Web Interface 実行時のものと同じです。
- TextMode を Redirection 中は､画面下部に表示される特殊キーは使用できません｡また､特殊キーは使用する OS によって動作しない場合があります。
- 特殊キー｢Reload Default Color Map｣｢Reload Current Color Map｣の機能は､コンソールリダイレクション時にサーバと管理端末の画面表示色（256 色など）が異なる場合、どちらの画面色で表示するかを設定します。Current は管理端末の画面の色、Default はサーバの画面の色で表示されます。
- サーバと管理端末とで、画面表示色が極端に異なる場合は、アプレットウィンドウに何も表示されない場合があります｡上記｢Reload Default Color Map｣を実行してください｡
- 日本語キーボード特有の操作（日本語 FEP への切り替えなど）は行えません。サーバ側で日本語入力を行いたい場合は以下のように設定してください。（例：Microsoft IME）
  ・管理端末側 IME を「直接入力」に設定する。
  ・アプレットウインドウ上のタスクバーの IME アイコンを右クリックし、サーバ側 IME を「ひらがな」などに変更する。
- Text Mode を Redirection 中は、罫線などの 2 バイトコードは正しく表示されません。
- コンソールリダイレクションでは、同一サーバに対して複数のコンソールでの使用はできません。
- コンソールリダイレクションは必ず対象サーバと異なる管理端末上で実行してください｡サーバ上のブラウザでサーバ自身のコンソールリダイレクションを行うと､性質上､画面表示が止まらなくなります。

- ［Configuration］
  コンソールリダイレクション使用時のキーボード、マウスについて設定します。Mouse handling では Slow を選択してください。Midium、Fast は選択しないでください。以下はコンソールリダイレクションの例です。管理端末からサーバ画面のリダイレクションが実行できます。



POINT

- コンソールリダイレクションの対象となるサーバ OS が Windows Server 2003 の場合、マウスの同期がうまくいかない場合があります。その場合は、サーバ OS 上で以下の設定を実行してください。
  1. コントロールパネルを起動し、「マウス」アイコンをダブルクリックします。
  2. 表示されたプロパティ画面で、「マウスの精度を上げる」のチェックボックスをオフにし、[OK] をクリックします。
- 本機能は 101 英語キーボードのみをサポートしています。管理端末が日本語版 Windows などの場合、入力ロケールの違いから、一部のキーが通常と異なる出力をする場合があります。以下の設定を行ってコンソールリダイレクション使用時に 101 英語キーボードの入力ロケールを使用してください。
  ・Windows 2000 Server の場合
    1. コントロールパネルを起動し、「キーボード」アイコンをダブルクリックします。
    2. [入力ロケール] タブをクリックし、[追加] をクリックします。
    3. 「英語（US）」を選択し、[OK] をクリックします。
    4. 「キーボードのプロパティ」で [OK] をクリックします。

  【Alt】+【Shift】キーを押すと、タスクバー上の表示が「EN」となり、英語の入力ロケールに切り替わります。

  ・Windows Server 2003、Windows XP の場合
    1. IME ツールバーを右クリックし、「設定」をクリックします。
    2. [追加] をクリックします。
    3. 「英語（US）」を選択し、[OK] をクリックします。
    4. 「設定」画面で [OK] をクリックします。

  【Alt】+【Shift】キーを押すと、IME ツールバー上の表示が「EN」となり、英語の入力ロケールに切り替わります。
- リモートサービスボードによるコンソールリダイレクションでは、サーバ側のホイールマウスをサポートしていません。このため、サーバ本体にホイールマウスが接続されていると、コンソールリダイレクションが正常に動作しない場合があります。本事象は、以下の方法にて回避できます。
  1. コントロールパネルを起動し、「マウス」アイコンをダブルクリックします。
  2. 「ハードウェア」タブをクリックし、[プロパティ] をクリックします。
  3. 「詳細設定」タブをクリックし、「ホイールの検出」を「検出を無効にする」に設定ます。
  4. [OK] をクリックします。
  5. 再起動のメッセージが表示されたら、[はい] をクリックして、システムを再起動します。

  本事象はサーバ側のマウスに依存するものであり、コンソール側のマウスでは影響しません。
- リダイレクション画面へのマウスカーソルの出し入れを繰り返さないでください。コンソールリダイレクションでは、リダイレクション画面からマウスカーソルを出すと、サーバ側のマウス位置はリセットされます。再度マウスカーソルをリダイレクション画面に入れると、カーソル位置の再設定が行われます。この動作はバッファリングを多用するので、マウスカーソルの出し入れを繰り返すと画面無応答が長く続く場合があります。
- サーバの OS が Windows 系 OS の場合、「セーフモード」において、コンソールリダイレクションの実行が可能です。また、回復コンソールの起動、操作は実行できません。
- コンソールリダイレクションを行う場合、マウスを過度に操作しないでください。
  マウス操作は、バッファリングされています。このため、マウスを過度に操作すると、バッファリングされた動作が完了するまで、リダイレクションしている画面が無応答となります。また、マウスが正しく動作しなくなる場合があります。

6.4 ダイヤルアップ接続

リモートサービスボードにモデムを接続すると、ダイヤルアップ接続できるようになります。

POINT

- ダイヤルアップ接続すると、以下の IP アドレスが割り当てられます。
  - ・リモートサービスボード：192.168.0.11
  - ・管理コンソール：192.168.0.12

管理コンソールからリモートサービスボードにダイヤルアップ接続を行う場合、以下の設定を行います。

■ リモートサービスボードの設定

「■ シリアルインターフェースの設定」（→ P.348）に従って、シリアルインターフェースの設定を行います。推奨設定値は、以下のとおりです。

表：シリアルインターフェースの設定値（推奨）

設定項目	設定値
Connection Type	dial-in
Baud Rate	38400
Init String	AT¥N3S0=1&D0¥J0¥Q0¥V2
Use PPP	enabled

■ 管理コンソールの設定

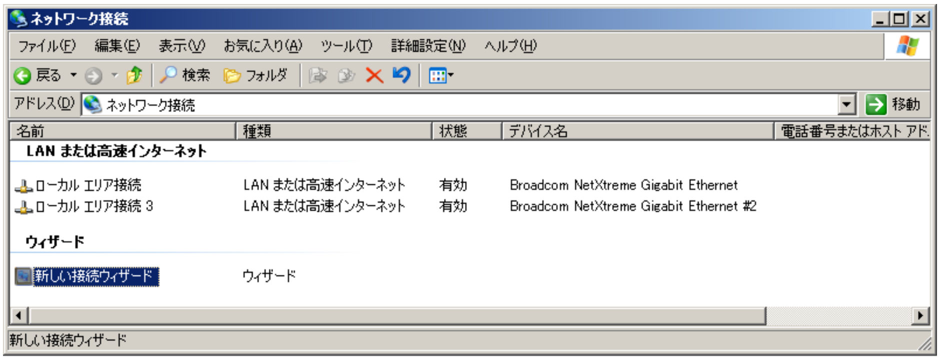
● Windows Server 2003 の場合

1 管理コンソールに管理者または管理者と同等の権限をもつユーザ名でログインします。

2 コントロールパネルを起動します。

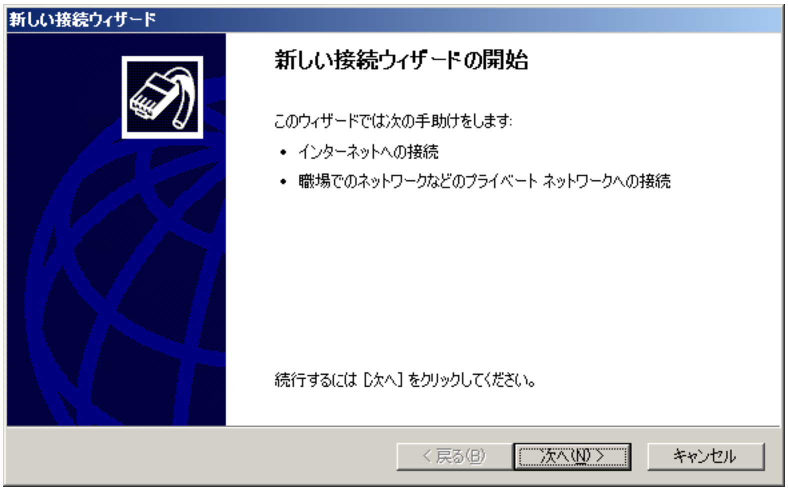
3　［ネットワーク接続］アイコンをダブルクリックします。

「ネットワーク接続」画面が表示されます。



4　「新しい接続ウィザード」をダブルクリックします。

「新しい接続ウィザード」画面が表示されます。



5　［次へ］をクリックします。

6　「職場のネットワークへ接続する」をチェックし、［次へ］をクリックします。

7　「ダイヤルアップ接続」をチェックし、［次へ］をクリックします。

8　接続の名前を入力し、［次へ］をクリックします。

9　リモートサービスボードの電話番号を入力し、［次へ］をクリックします。

10　「自分のみ」をチェックし、［次へ］をクリックします。

接続の作成が正常に完了した場合、「新しい接続ウィザードの完了」画面が表示されます。

11 ［完了］をクリックし、ウィザードを終了します。

「XXX へ接続」（XXX は接続の名前）画面が表示されます。

12 ［プロパティ］をクリックします。

「接続名のプロパティ」画面が表示されます。

13 各タブをクリックし、以下のように設定します。

［オプション］タブ

「名前、パスワード、証明書などの入力を求める」をチェックします。

［セキュリティ］タブ

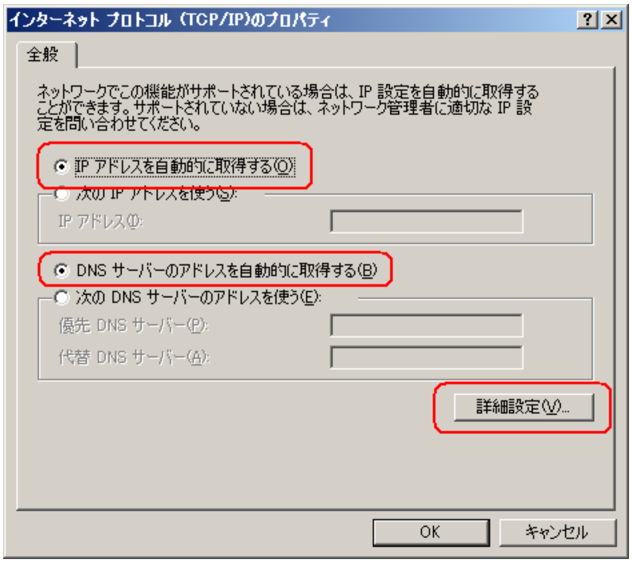
「標準（推奨設定）」をチェックします。

［ネットワーク］タブ

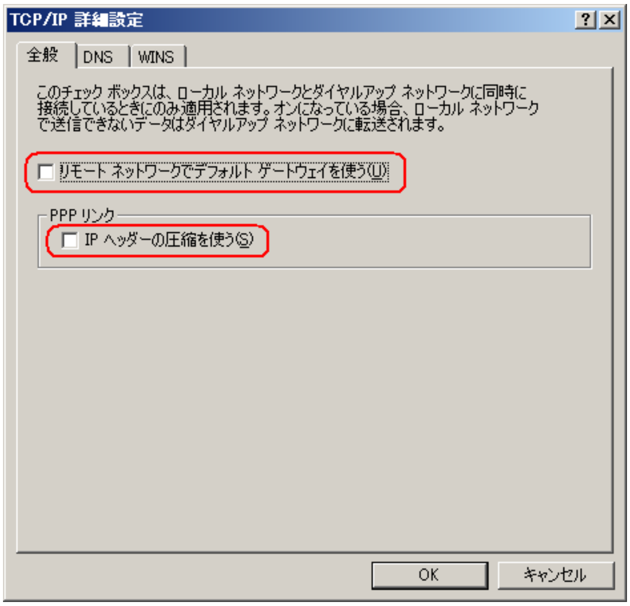
1. 「PPP：Windows 95/98/NT4/2000, Internet」を選択し、「インターネットプロトコル（TCP/IP）」をチェックして、［プロパティ］をクリックします。

6 リモートサービスボード（PG-RSB101）の使用

2. プロパティ画面で、「IP アドレスを自動的に取得する」と「DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する」をクリックし、［詳細設定］をクリックします。



3. TCP/IP 詳細設定画面で、「リモートネットワークでデフォルトゲートウェイを使う」と「IP ヘッダーの圧縮を使う」のチェックをはずし、［OK］をクリックします。



4. ［OK］をクリックします。

［詳細設定タブ］

「ネットワークのほかのユーザーに、このコンピュータのインターネット接続をとおしての接続を許可する」のチェックをはずします。

14 各タブの項目を設定後、［OK］をクリックします。

15 リモートサービスボードに設定したユーザ名を入力し、［ダイヤル］をクリックします。

ダイヤルアップ接続が開始されます。
ユーザ名とパスワードのデフォルト値については、「6.2.3 管理ユーザの設定」（→P.351）を参照してください。

● Windows 2000 Server の場合

1 管理コンソールに管理者または管理者と同等の権限をもつユーザ名でログインします。

2 コントロールパネルを起動します。

3 ［ネットワークとダイヤルアップ接続］アイコンをダブルクリックします。

「ネットワークとダイヤルアップ接続」画面が表示されます。

4 「新しい接続の作成」をダブルクリックします。

「ネットワークの接続ウィザード」画面が表示されます。

5 ［次へ］をクリックします。

6 「プライベートネットワークにダイヤルアップ接続する」をチェックし、［次へ］をクリックします。

7 リモートサービスボードの電話番号を入力し、［次へ］をクリックします。

8 「自分のみ」をチェックし、［次へ］をクリックします。

9 接続の名前を入力し、［完了］をクリックします。

「XXX へ接続」（XXX は接続の名前）画面が表示されます。

10 ［プロパティ］をクリックします。

「ダイヤルアップ接続」画面が表示されます。

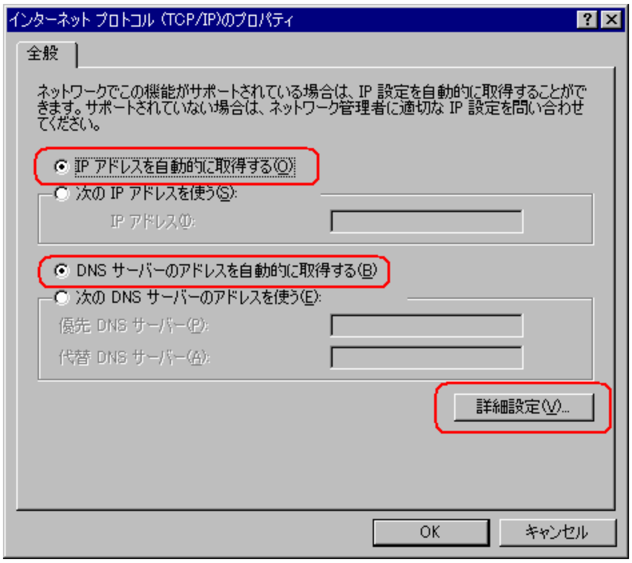
11 ［オプション］タブで、「名前、パスワード、証明書などの入力を求める」をチェックします。

12 ［セキュリティ］タブで、「標準（推奨設定）」をチェックします。

13 ［ネットワーク］タブで、「PPP：Windows 95/98/NT4/2000, Internet」を選択し、「インターネットプロトコル（TCP/IP）」をチェックして、［プロパティ］をクリックします。

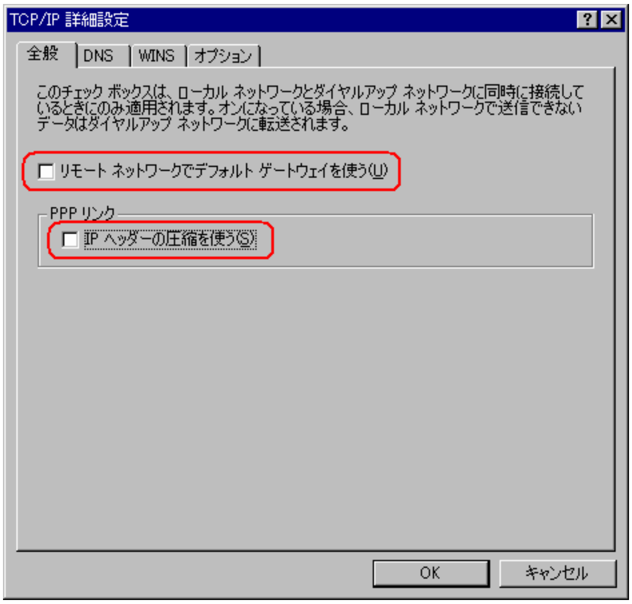
「インターネットプロトコル（TCP/IP）のプロパティ」画面が表示されます。

14 「IP アドレスを自動的に取得する」と「DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する」をクリックし、［詳細設定］をクリックします。



「TCP/IP 詳細設定」画面が表示されます。

15 ［全般］タブで、「リモートネットワークでデフォルトゲートウェイを使う」と「IP ヘッダーの圧縮を使う」のチェックをはずし、［OK］をクリックします。



「インターネットプロトコル（TCP/IP）のプロパティ」画面に戻ります。

16 ［OK］をクリックします。

「ダイヤルアップ接続」画面に戻ります。

17 ［共有］タブで、「この接続でインターネット接続の共有を有効にする」のチェックをはずし、［OK］をクリックします。

「XXX へ接続」（XXX は接続の名前）画面に戻ります。

18 リモートサービスボードに設定したユーザ名とパスワードを入力し、［ダイヤル］をクリックします。

ダイヤルアップ接続が開始されます。
ユーザ名とパスワードのデフォルト値については、「6.2.3 管理ユーザの設定」（→P.351）を参照してください。

● Windows NT の場合

1 管理コンソールに管理者または管理者と同等の権限をもつユーザ名でログインします。

2 コントロールパネルを起動します。

3 ［ネットワーク］アイコンをダブルクリックします。

「ネットワーク」画面が表示されます。

4 ［サービス］タブの「リモートアクセスサービス」をクリックし、［プロパティ］をクリックします。

リモートアクセスサービスがインストールされていない場合は、［追加］をクリックして、リモートアクセスサービスをインストールしてください。
「リモートアクセスセットアップ」画面が表示されます。

5 ［構成］をクリックします。

「ポート使用の構成」画面が表示されます。

6 「ダイヤルアウトのみ」または「ダイヤルアウトと着信」をクリックし、［OK］をクリックします。

「リモートアクセスセットアップ」画面が表示されます。

7 ［ネットワーク］をクリックします。

「ネットワークの構成」画面が表示されます。

8 「ダイヤルアウトプロトコル」で「TCP/IP」をチェックし、[OK] をクリックします。

「リモートアクセスセットアップ」画面が表示されます。

9 [継続] をクリックします。

設定を変更しない場合は、[キャンセル] をクリックします。
「ネットワーク」画面が表示されます。

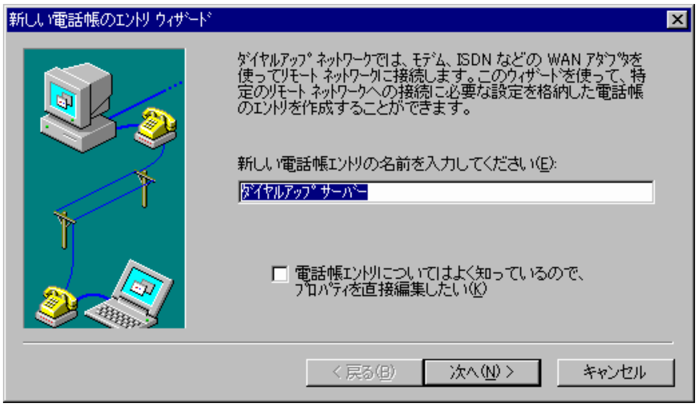
10 [閉じる] をクリックし、管理コンソールを再起動してログインします。

設定を変更しない場合は、[キャンセル] をクリックします。

11 「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」→「ダイヤルアップネットワーク」の順にクリックします。

12 「所在地情報」画面が表示された場合は、各項目を入力し、[閉じる] をクリックします。
「ダイヤルアップネットワーク」画面が表示された場合は、[新規] をクリックします。

「新しい電話帳のエントリウィザード」画面が表示されます。



13 新しい電話帳のエントリの名前を入力し、[次へ] をクリックします。

「サーバー」画面が表示されます。

14 いずれの項目も選択せずに、[次へ] をクリックします。

「電話番号」画面が表示されます。

15 リモートサービスボードの電話番号を入力し、[次へ] をクリックします。

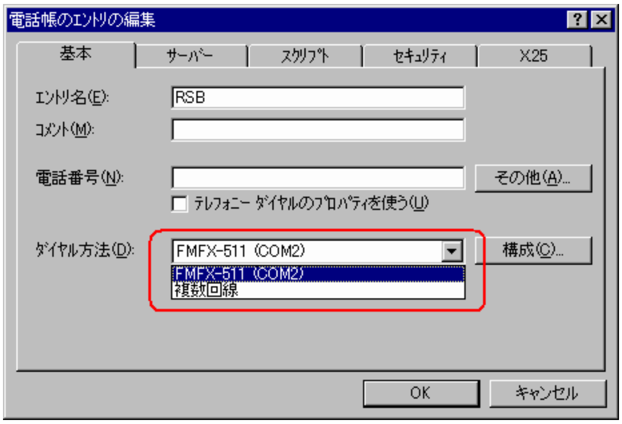
16 ［完了］をクリックします。

「ダイヤルアップネットワーク」画面が表示されます。

17 ［その他］をクリックし、「エントリとモデムのプロパティの編集」をクリックします。

「電話帳のエントリの編集」画面が表示されます。

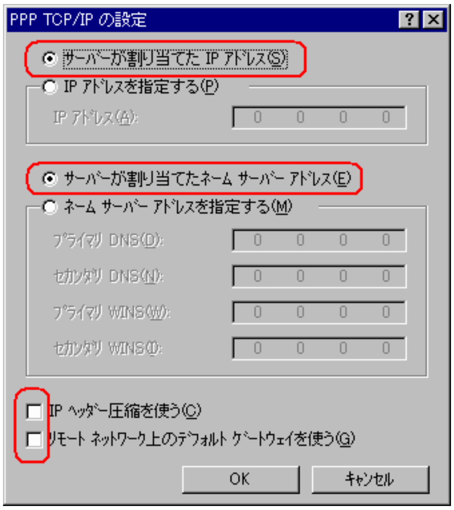
18 ［基本］タブで、「ダイヤル方法」から使用するモデムをクリックします。



19 ［サーバー］タブで、「PPP：Windows NT, Windows 95 Plus, インターネット」をクリックし、「TCP/IP」をチェックして、［TCP/IP の設定］をクリックします。

「PPP TCP/IP の設定」画面が表示されます。

20 「IP ヘッダー圧縮を使う」と「リモートネットワーク上のデフォルトゲートウェイを使う」のチェックをはずし、「サーバーが割り当てた IP アドレス」と「サーバーが割り当てたネームサーバーアドレス」をクリックし、[OK] をクリックします。



「電話帳のエントリの編集」画面に戻ります。

21 [スクリプト] タブで、「なし」をチェックします。

22 [セキュリティ] タブで、「クリアテキストを含む任意の認証を受け付ける」をチェックします。

23 [X25] タブで、「なし」をチェックし、[OK] をクリックします。

「ダイヤルアップネットワーク」画面に戻ります。

24 [ダイヤル] をクリックすると、ダイヤルアップ接続が開始されます。

第 7 章

リモートサービスボードの使用

7

この章では、リモートサービスボード（PG-RSB102 / PG-RSB103 / PG-RSB104 / PG-RSB105 ）の使用方法について説明しています。搭載しているサーバのみ使用可能です。

7.1　概要 400
7.2　準備 402
7.3　各種監視情報の表示 409

7.1 概要

リモートサービスボードについて説明します。
リモートサービスボードは、専用の CPU・OS・通信インターフェース・電源・USB ポートを備えたオプションの拡張カードです。リモートサービスボードを使用すると、サーバの状態に依存せずに、サーバを監視・操作することができます。

7.1.1 機能

● リモートサービスボードの機能

- サーバの状態監視（OS ハング、電源異常、温度異常、電圧異常）
- サーバ異常時の管理者への通知
- サーバの遠隔操作（再起動、電源投入／切断）
- 管理コンソールからのサーバのキーボード・マウス操作（Advanced Video Redirection 機能）
- 管理コンソール上のデバイス・ブータブルファイルのサーバでのブート（Remote Storage 機能）

● リモートサービスボードがサポートする通信インターフェース

- LAN インターフェース
- USB インターフェース

7.1.2 留意事項

● セキュリティについて

リモートサービスボードの扱う情報の中には、管理者名等の個人情報や、その他の重要情報が含まれています。本カードを搭載した装置を外部からアクセスできるドメインに設置する場合は、設定した情報が外部からアクセスされないようセキュリティに十分ご注意いただくと共に、設定する内容についても必要最小限に留めるようご対応をお願いします。

● その他の留意事項

- ［Sensors］ページで登録した各センサ項目は、Web インタフェースからログアウトすることにより、すべて初期化されます。
- ［Sensors］ページのファンセンサで「Red PSU FAN」が選択可能となっていますが、実際には存在しないファンです。
- リモートサービスボードを搭載した場合、サーバに接続されているキーボードが、英語 101/102 キーボード配列で動作する場合があります。本現象の詳細および対処方法については「付録 A トラブルシューティング」の「● リモートサービスボード搭載時の留意事項」（→ P.522）を参照してください。

- RSB を搭載したサーバの機種により、ヒストリ情報の表示（Web インタフェース - Sensor タグ - History Configuration）が正しく動作しない場合があります。
  例：ヒストリ情報表示中、次のエラーが発生する。
  　　Error gettings values Status Bar!

7.2 準備

リモートサービスボードを使用する前に、以下の設定を行ってください。

7.2.1 LAN インターフェースの設定

■ OS が Windows の場合

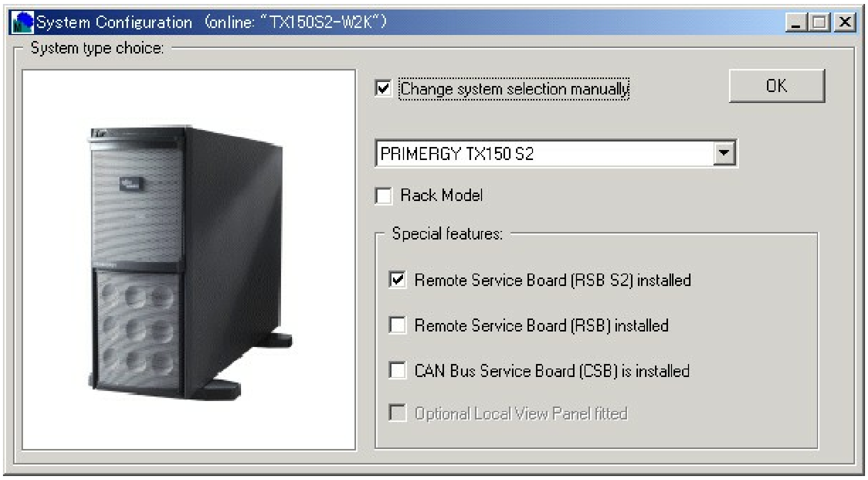
1 ローカルの Administrators グループに所属しているローカルユーザアカウントで、サーバにログインします。

なお、Domain Admins グループでは、設定できません。

2 実行中のアプリケーションをすべて終了します。

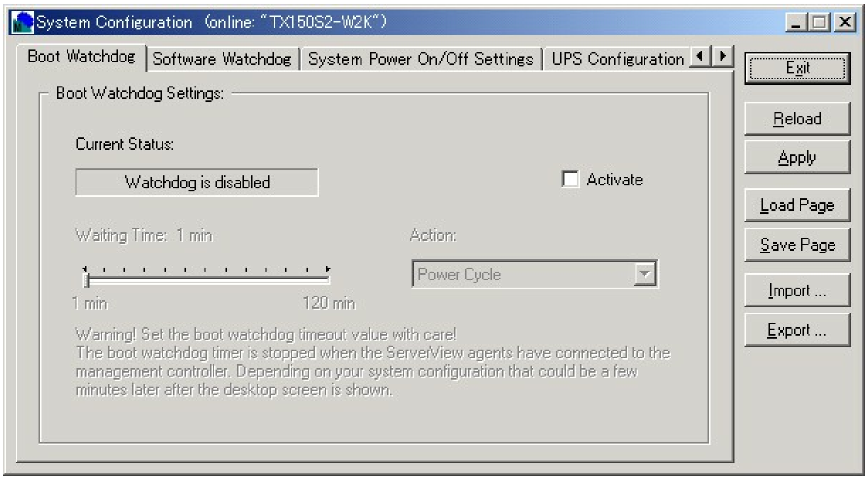
3 「スタート」ボタン→「プログラム」→「Fujitsu ServerView Agents」→「Configuration Tools」→「System Configuration」の順にクリックします。

System Configuration ウィンドウが表示されます。サーバの機種名が正しいことを確認してください。

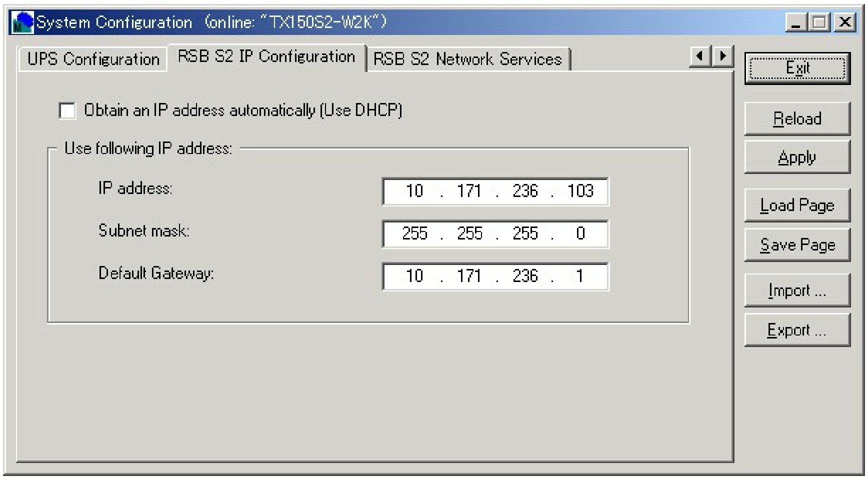


4 「Change system selection manually」、「Remote Service Board（RSB S2）installed」のチェックボックスにチェックを付け、［OK］をクリックします。

以下の画面が表示されます。



5 ［▶］をクリックし、［RSB S2 IP Configuration］タブを選択します。



6 「Obtain an IP address automatically{Use DHCP}」チェックボックスのチェックを外し、リモートサービスボードの IP アドレス、サブネットマスク、デフォルト・ゲートウェイを入力します。

7 ［Apply］をクリックします。

8 ［Exit］をクリックします。

■ OS が Linux の場合

1 スーパーユーザでログインします。

2 PRIMERGY ドキュメント＆ツール CD をセットし、以下のコマンドを実行します。

特定のアプリケーションがインストールされている場合には、CD-ROM のセットと同時に自動的にマウントされます（コマンドの実行は不要です）。

```
# mount /mnt/cdrom/または/media/cdrom/または/media/cdrecorder/
```

3 以下のコマンドを実行し、CD-ROM 内のユーティリティを起動します。

・Red Hat Linux の場合

```
# /mnt/cdrom/または/media/cdrom/または/media/cdrecorder/Svmanage/
LinuxSVAgent/Tools/RSB_UTY/rsbs2_utyRedHat
```

・SUSE Linux の場合

```
# /media/cdrom/または/media/dvd/Svmanage/LinuxSVAgent/Tools/RSB_UTY/
rsbs2_utySuSE
```

4 「LAN Interface」を選択します。

現在設定されている以下の情報が表示されます。

・IP アドレス
・サブネットマスク
・デフォルトゲートウェイ
・DHCP （Enabled / Disabled）

5 「e」を選択し、項目の編集を行います。

6 メッセージに従って、各項目を設定します。

項目を入力後、【Enter】キーを押すと、次の項目の編集に移ります。各項目の入力で【Enter】キーのみを押した場合、その項目の設定は変更されません。全項目の設定が完了すると、「LAN Interface」画面に戻ります。

7 「s」を選択し、設定を保存します。

8 「x」を選択し、「LAN Interface」を終了します。

9 「x」を選択し、ユーティリティを終了します。

10 CD-ROM をアンマウントして、取り出します。

CD-ROM を取り出す前に、必ずアンマウントしてください。

```
# umount /mnt/cdrom/または/media/cdrom/または/media/cdrecorder/
```

7.2.2 Management Server Application（MSA）のインストールと設定

MSA では、リモートサービスボードに iSCSI 接続を行う Remote Storage 機能と、ディレクトリサービス機能によるログインユーザ管理を行います。

● Remote Storage 機能

Remote Storage 機能は、リモートサービスボードが搭載されているサーバに、ネットワーク上の他の端末のドライブなどを接続する機能です。MSA では、リモートサービスボードに対して iSCSI 接続による Remote Storage 機能を提供します。接続に成功すると、¥management_server¥iscsi_root 以下に格納されたディスクイメージファイルがサーバ OS 上にディスクとして認識されます。iSCSI 接続の接続方法については、「● iSCSI connection 接続」（→ P.423）を参照してください。

● ディレクトリサービス機能

ディレクトリサービス機能は、リモートサービスボードにアクセスするユーザの管理を行います。ユーザがリモートサービスボードにログインした際に、リモートサービスボードは内部のデータベースに該当するユーザが含まれているかのチェックを行います。

POINT

MSA を使用するために必要な環境

- MSA を使用するには、以下の環境が必要です。
  - ・JDK 1.3.1_01 以上がインストールされていること
  - ・ディスクイメージの容量を除いて、30MB 以上のインストール領域が存在すること

■ MSA のインストール

以下の操作を行い、MSA をインストールします。

1. 管理者または管理者権限を持つユーザ名でログインします。

2. 実行中のアプリケーションをすべて終了します。

3. PRIMERGY ドキュメント＆ツール CD をセットし、以下のフォルダのいずれかをフォルダごとサーバのインストール先フォルダにコピーします。

   ［CD-ROM ドライブ］:¥Svmanage¥WinSVConsole¥Tools¥management_server

   または

   ［CD-ROM ドライブ］:¥Svmanage¥LinuxSVConsole¥Tools¥management_server

■ MSA の設定

MSA を使用するには、"msa.conf " ファイルをテキストエディタなどで開いて編集してください。"msa.conf" ファイルは「management_server」フォルダ内の以下に格納されています。
management_server¥conf¥msa.conf
それぞれの設定値については "msa.conf" ファイル内に記載のコメントを参照してください。

重要

- 編集中はタブキーを使用しないでください。
- 通常、「%%test%%」のように %% で括られた箇所以外は変更する必要はありません。
- ディレクトリサービス機能を使用しない場合は # AccessControlService 以下の行をすべてコメントアウトしてください。
- ディレクトリサービス機能では「ActiveDirectoryService」のみサポートしています。「iPLANET」は未サポートです。

■ MSA サービスの起動

MSA の起動方法には、以下の 2 つの方法があります。

● "msa.jar" ファイルを実行して起動する

［インストールフォルダ］¥management_server¥msa.jar を実行します。
この場合、MSA はバックグラウンド・サービスとして起動するため、画面には何も表示されません。

● "start_msa.bat" ファイルを実行して起動する

［インストールフォルダ］¥management_server¥start_msa.bat を実行します。
Windows OS の場合、コマンドプロンプト画面が開き、MSA の起動状態やエラーが表示されます。コマンドプロンプト画面を閉じるとサービスも停止します。

7.2.3 ディレクトリサービス機能の設定

ディレクトリサービス機能を使用するために必要な設定について説明します。

■ パスワードの暗号化

"msa.conf" ファイル の「GU_SECURITY_CREDENTIALS =」以降に記述された「ActiveDirectoryService」ログイン用のパスワードを暗号化する必要があります。

1 "management_server" フォルダ内の "pwd.bat" ファイルを実行します。

以下のメッセージが表示されます。

```
************************************************

Please enter Access Control Server configuration file name:
```

2 "msa.conf" ファイルの位置を入力し【Enter】キーを押します。

3 ユーザ名を入力し、【Enter】キーを押します。

4 パスワードを入力し、【Enter】キーを押します。

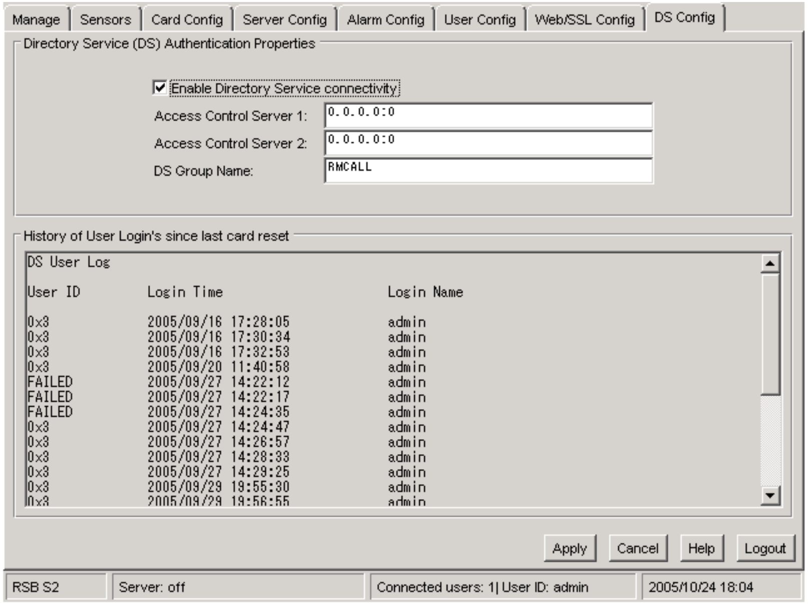
以下のメッセージが表示されます。

```
************************************************

Please enter Access Control Server configuration file name: ./conf/msa.conf
Please enter general user security principal:testserver/testname
Please enter general user security credentials: testpass

************************************************
Input information summary:

Access Control Server configuration file name: ./conf/msa.conf
General User security principal: testserver/testname
General User security credentials: testpass

************************************************

Confirm? [y/n/exit]:
```

5 【y】キーを入力し、【Enter】キーを押します。

■「DS Config」ページの設定

リモートサービスボードの Web インターフェースを起動し、［DS Config］タブをクリックして設定します。



表：DS Config ページの設定項目

項目	説明
Access Control Servers 1 Access Control Servers 2	MSA が稼動しているサーバを指定します。「1」にはプライマリ、「2」にはセカンダリの MSA サーバを指定してください。
DS Group Name	Active Directory 上に設定されているリモートサービスボードログインアカウントの「説明 (Description)」の一部分を設定します。 例えば、「testdis:administrator」と設定している場合は、「testdis」と入力します。この値は、リモートサービスボード認証のためのキーとなりますので、必ず正確に一致するように注意してください。

■ アカウントの設定

ドメインコントローラに、最低 2 つのユーザアカウントを設定してください。各アカウントには「ユーザ名」、「パスワード」の他に、「説明」の設定が必須です。
各アカウントと、設定する「説明」は以下のとおりです。

- MSA がドメインコントローラにログインするためのアカウント
  「説明」には「RMCALL:administrator」が自動的に設定されます。変更することはできません。
- RSB を使用するユーザーをドメインコントローラが認証するためのアカウント
  Web インターフェイスの「DS Config」ページ 「DS Group Name」欄に Active Directory 上に設定されているリモートサービスボードログインアカウントの「説明 (Description)」の一部分を設定します。

7.3 各種監視情報の表示

Web インターフェースを使用して、サーバの監視情報を表示する方法について説明します。

7.3.1 Web インターフェースの起動

リモートサービスボードは、Web インターフェースをサポートしており、以下の Web ブラウザからアクセスできます。
Web インターフェースを使用する場合はブラウザに Java™ 2 Runtime Environment が必須となります。
推奨する環境は、以下のとおりです。

- OS が Windows の場合
  - ・Microsoft Internet Explorer 5.5 以降（推奨 6.0 以降）
  - ・Java™ 2 Runtime Environment Standard Edition V1.4.2_08 以降

  または
  - ・Netscape Navigator / Communicator V4.78 以降（推奨 6.2 以降）
  - ・Java™ 2 Runtime Environment Standard Edition V1.4.2_08 以降
- OS が RHEL-AS3(x86) / ES3(x86) の場合
  - ・Mozilla V1.3 以降
  - ・Java™ 2 Runtime Environment Standard Edition V1.4.2_08 以降
- OS が RHEL-AS4(x86) / ES4(x86) の場合
  - ・Firefox 1.0 以降
  - ・Java™ 2 Runtime Environment Standard Edition V1.4.2_08 以降

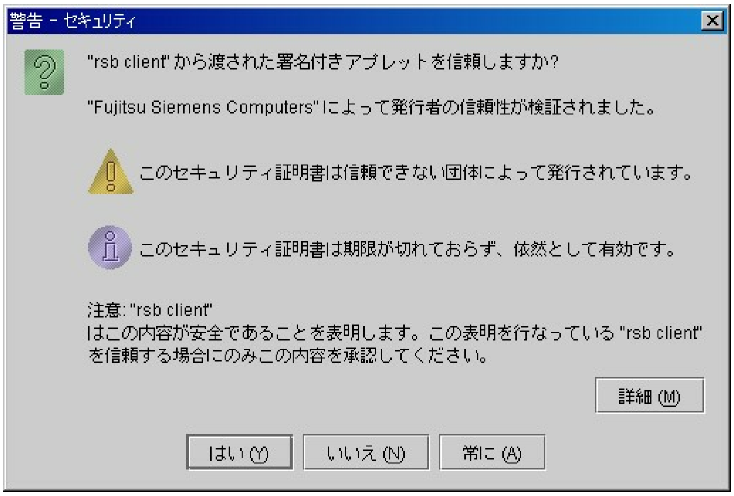
POINT

- ▶ Web ブラウザを使用するには、あらかじめインストールおよび設定が必要です。「2.4.1 Web ブラウザのインストール」（→ P.68）、および「2.4.2 Java™ 2 Runtime Environment Standard Edition のインストール」（→ P.69）を参照してください。
- ▶ Java™ 2 Runtime Environment Standard Edition V1.4.2_08 以降は、Sun Microsystems のホームページから入手できます。

1 Web ブラウザを起動し、アドレスバーに以下のいずれかのアドレスを入力します。

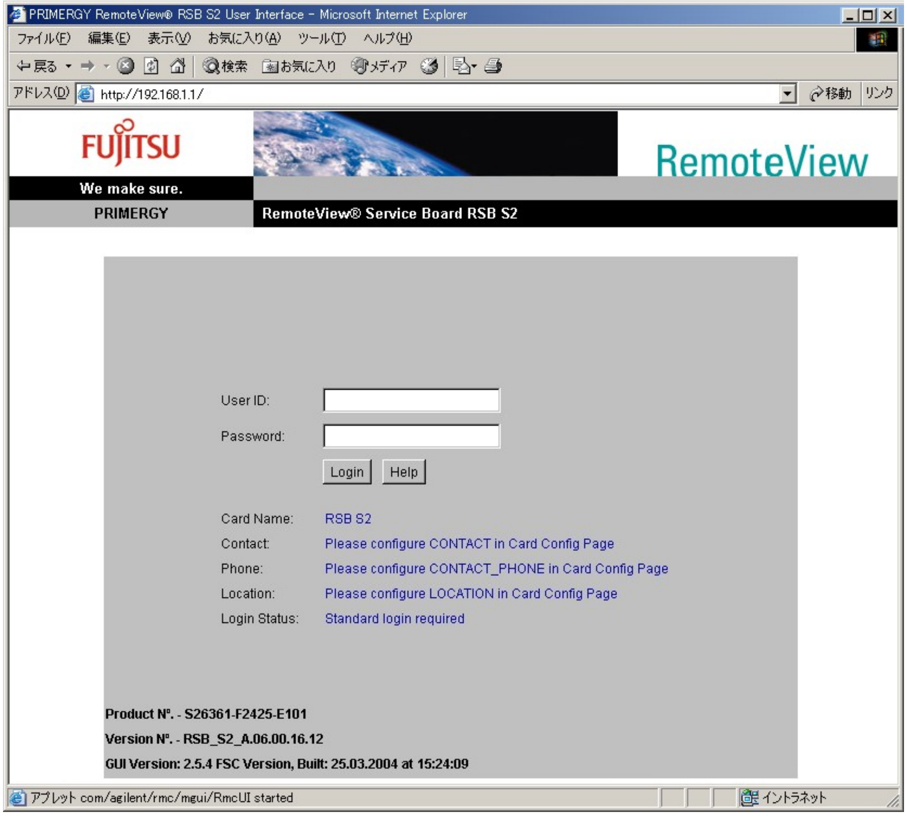
・http://<IP アドレス >:< ポート番号（デフォルト：80）>（http が有効の場合）
・https://<IP アドレス >:< ポート番号（デフォルト：443）>（https が有効の場合）

以下のような警告画面が表示されます。



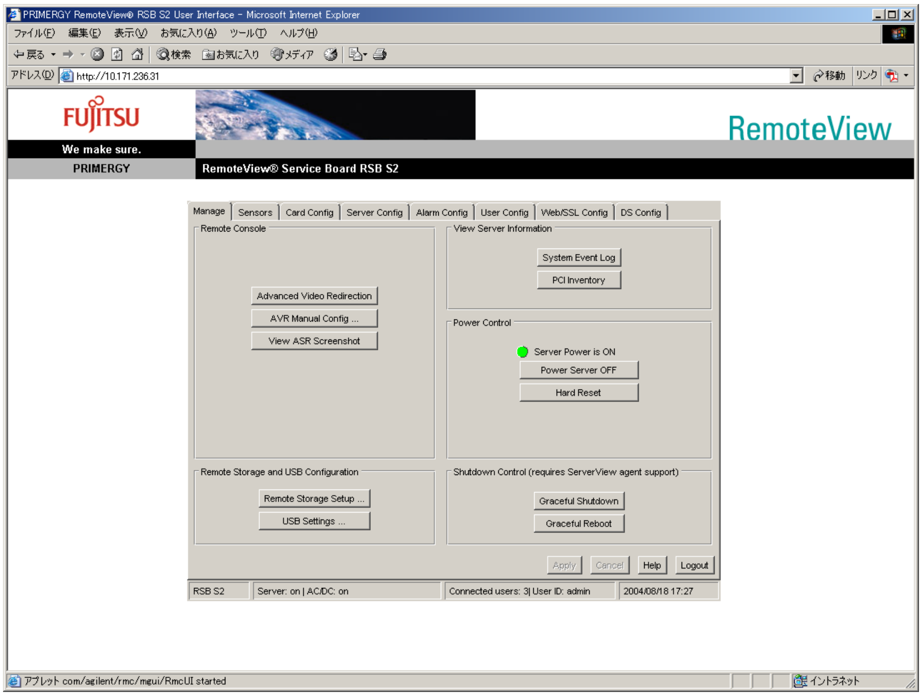
2 ［はい］をクリックします。

ログイン画面が表示されます。



3 ユーザ名とパスワードを入力します。

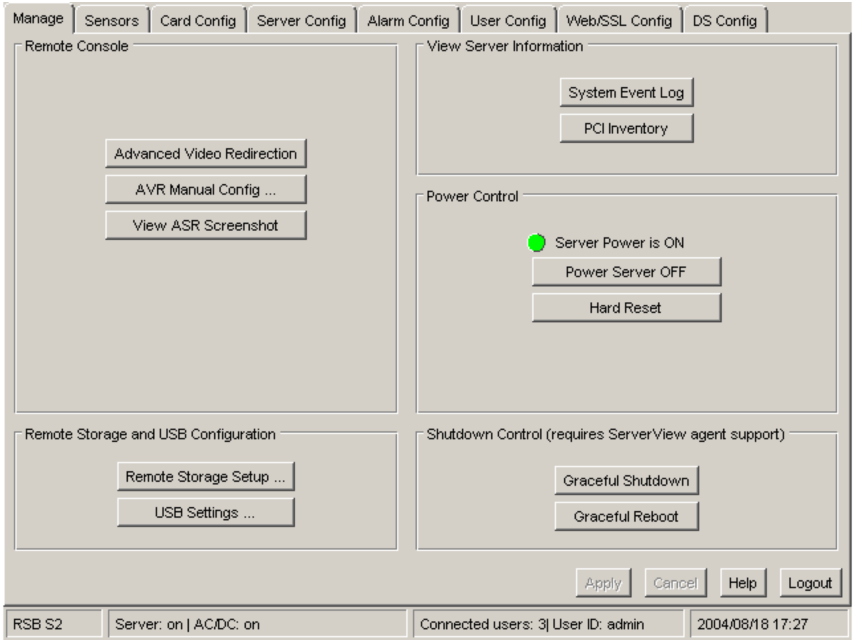
認証に成功すると、以下のような画面が表示されます。



Web インターフェースでは各機能ごとにタブ表示されています。それぞれのタブをクリックすると各ページに移行できます。以降、各ページごとの機能について説明します。

7.3.2 ［Manage］ページ

［Manage］ページでは、画像の表示方法を設定したり、電源の操作などが行えます。



表：Manage ページの機能

項目	説明
Remote Console	サーバ画面上に表示される画像をコンソールの AVR ウィンドウ上に表示し、サーバ上での操作をコンソールで行う機能です。
［Advanced Video Redirection］	AVR ウィンドウを開きサーバ画面のリダイレクションを開始します。 →「■ Advanced Video Redirection（AVR）機能」（P.413）
［AVR Manual Config ...］	AVR の設定を行います。 →「■ AVR Manual Configuration」（P.416）
［View ASR Screenshot］	Watchdog 検出時に取得されたサーバ画面のスクリーンショットを表示します。 →「■ View ASR Screenshot」（P.417）
Remote Storage and USB Configuration	ネットワーク上の他のドライブをリモートサービスボードからロードするための設定です。
Remote Storage Setup	Remote Storage の設定を行います。 →「■ Remote Storage 機能」（P.418）
USB Setting	USB の設定を行います。→「■ USB setting」（P.431）
View Server Information	サーバ本体の情報を表示します。
System Event Log	サーバの SEL を表示します。
PCI Inventory	PCI デバイスの情報を表示します。 本機能はリモートサービスボード（PG-RSB102）のみ有効です。

表：Manage ページの機能

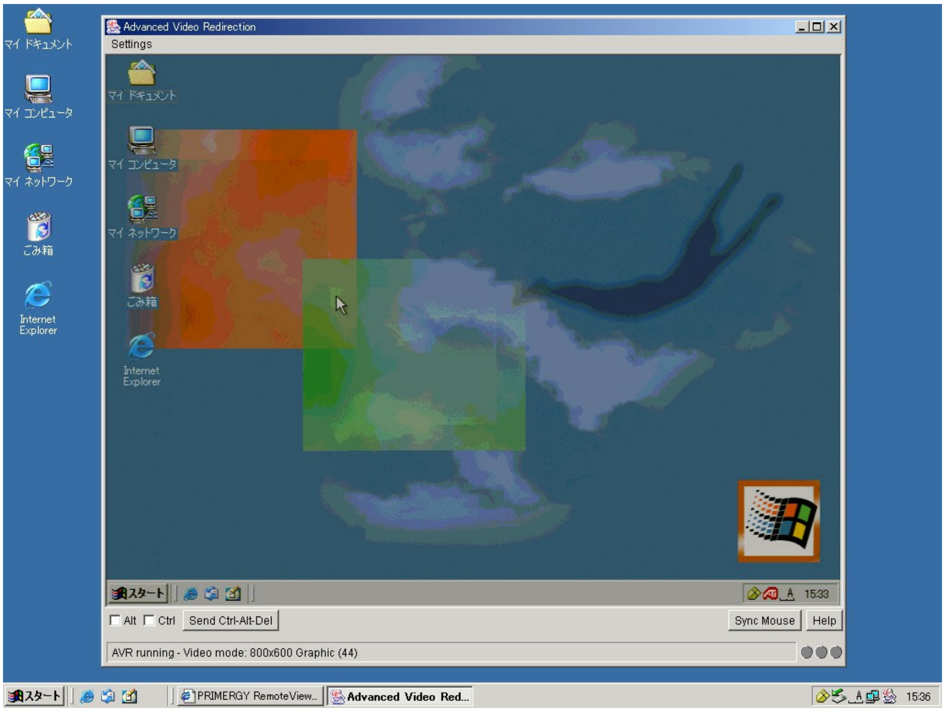
項目	説明
Power Control	サーバ本体の電源操作を行います。
Power Server On/Off	サーバ電源が On の場合はサーバの状態に関係なく Power Off を実行します。 サーバ電源が Off の場合は Power On を実行します。 **POINT** ▶ OS ハングの場合、PG-RSB104 ／ PG-RSB105 では Gracefull Shutdown 処理となる場合があります。その場合、Hard Reset を使用してください。
Hard Reset	サーバの状態に関係なく Reset を実行します。
Shutdown Control	サーバのシャットダウン・リブートを行います。 この操作を行うためにはサーバの OS 上に ServerView エージェントがインストールされている必要があります。
Gracefull Shutdown	サーバの OS をシャットダウンします。
Gracefull Reboot	サーバの OS をリブートします。

■ Advanced Video Redirection（AVR）機能

Advanced Video Redirection（AVR）では、サーバ画面上に表示される画像をコンソールの AVR ウィンドウ上に表示し、サーバ上での操作をコンソールで行う機能です。

［Advanced Video Redirection］ボタンをクリックすると、以下のような AVR ウィンドウが開きます。サーバ画面上で表示される画面がそのまま AVR ウィンドウ上で表示されます。

AVR ウィンドウ上でのキー操作・マウス操作は一部の例外を除いてサーバ側に送られます。



POINT

- AVR ウィンドウは、サーバおよびコンソールの描画能力、OS 画面解像度、画面色などの複数の要因によって性能に差が生じます。用途・目的に合わせた設定をお選びください。基本的にコンソールのグラフィックス性能が高いほど、AVR は効率的に機能します。
- ［Send Ctrl-Alt-Del］ボタン
  ［Send Ctrl-Alt-Del］ボタンを押すと、サーバ側で「Ctrl+Alt+Del」を押した状態になります。
- ［Ctrl］/［Alt］/［Shift］ボタン
  ボタンが押された回数により、ボタンの色が変化します。各色の入力状態は以下のようになります。

表：表示された色ごとの入力状態

色	入力状態
グレー	「Sticky Key Mode」無効時の標準状態です。
オレンジ	「Sticky Key Mode」有効時の標準状態です。
黄緑	キーが押された状態です。他のキーとの組み合わせにより 1 回のアクションで解除されます。
緑	キーが常に押されている状態です。他のキーとの組み合わせによるアクションが何回でも実行可能です。「Sticky Key Mode」有効時のみ表示されます。

- ［Send Key Sequence］ボタン
  ボタン横にあるコンボボックス内のキーアクションを選択し、［Send Key Sequence］ボタンを押すと、サーバ側でも同様のキーを押した状態になります。キーアクションには以下の種類があります。
  - Ctrl-Alt-Del
  - Alt-SysRq
  - Alt-Tab
  - Alt-F4
  - Ctrl-Alt-F4
  - Ctrl-Tab
  - Ctrl-Esc
  - Ctrl-Alt-Backspace
  - Print Screen
- ［Sync Mouse］ボタン
  マウス位置の初期化を行います。コンソール －サーバ間でマウスカーソルに「ずれ」が生じた場合に使用してください。

重要

- SCSI アレイコントローラカード（MegaRAID) のコンフィグレーションユーティリティ「WebBIOS」画面では、独自のマウスドライバを使用しているため、RSBS2/S2LP の Web Interface による Advanced Video Redirection 機能において、正常にマウス操作が行えません。
- AVR を使用する場合、サーバの BIOS 設定で、「USB Legacy Support」項目を「Enable」に設定してください。「USB Legacy Support」が「Disable」に設定されている場合、特定のサーバ状態で AVR のマウス／キーボードが有効にならない場合があります。サーバの BIOS 設定については、サーバに添付のマニュアルを参照してください。

●「Settings」メニュー

ウィンドウ上部「Settings」メニューをクリックすると、以下のサブメニューが表示され、AVR ウィンドウでの画像やマウス・キーボードの設定を行えます。

表：[Settings] メニューの機能

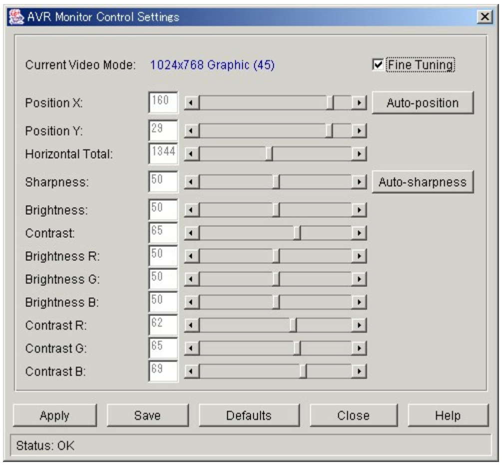
項目	説明
Display	画面表示に関係する設定項目です。
Monitor Controls	「AVR Monitor Controls Setting ウィンドウ」（→ P.415）を開きます。AVR の画面表示について設定します。
Video Capture Parameters	「AVR Video Capture Setting ウィンドウ」（→ P.416）を開きます。AVR のキャプチャ機能の設定を行います。
Keyboard	キーボードに関する設定項目です。
Typing Mode	コンソール側キーボードの入力設定のサーバ側での有効 / 無効を設定します。
Sticky Key Mode	特殊キー操作 ([Ctrl][Alt][Shift] など）の入力モードを設定します。
Secure Keyboard	[Typing Mode][Stckiy Key Mode] を無効化します。
Mouse	マウスに関する設定項目です。
Read Mouse Acceleration	マウスカーソルの加速設定の有効 / 無効を設定します。
Show Client Cursor	AVR ウィンドウ上でコンソール側のマウスカーソルの表示の有効 / 無効を設定します。
View-Only mode	有効の場合はマウス・キーボードの操作はブロックされます。

重要

- リモートサービスボード（PG-RSB102）において、「Settings」メニューの「View-Only mode」を有効にした場合は、AVR ウィンドウを終了するまで「View-Only mode」は無効にできません。無効にする場合は、いったん AVR ウィンドウを終了して、再度 AVR ウィンドウを開いてください。

AVR Monitor Controls Setting ウィンドウ

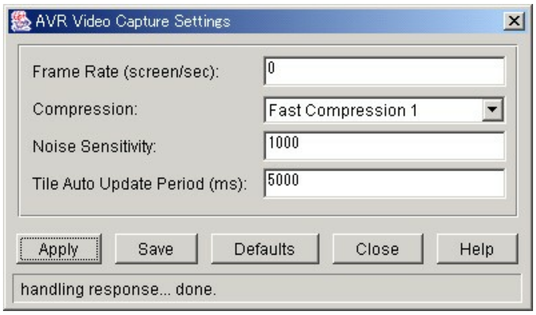
AVR の画面表示について設定します。スクロールバーを操作して各値を設定してください。



［Apply］をクリックすると設定が有効になります。設定値の変更で画面が乱れる場合がありますが、その場合は［Defaults］をクリックして設定を初期状態に戻してください。

AVR Video Capture Setting ウィンドウ

AVR のキャプチャ機能について設定します。AVR 機能のフレームレート、ノイズ感度、解像度切り替えの速さが設定できます。



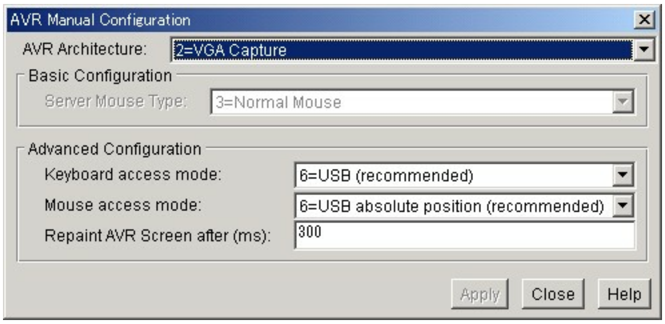
「Compression」の設定は以下の表を参照してください。

表：「Compression」の設定

項目	パフォーマンス	必要とする帯域幅	画像品質
No Compression	遅	最高	最高
Fast Compression 1/2	最速	中	最低
Good Quality Compression	高速	最低	低
Best Quality Compression 1/2	中	低	中

［Apply］をクリックすると設定が有効になります。設定値の変更で画面が乱れたり、何も表示されなくなる場合がありますが、その場合は［Defaults］をクリックして設定を初期状態に戻してください。

■ AVR Manual Configuration



ここでは AVR の基本的な設定を行います。

表：AVR の基本設定

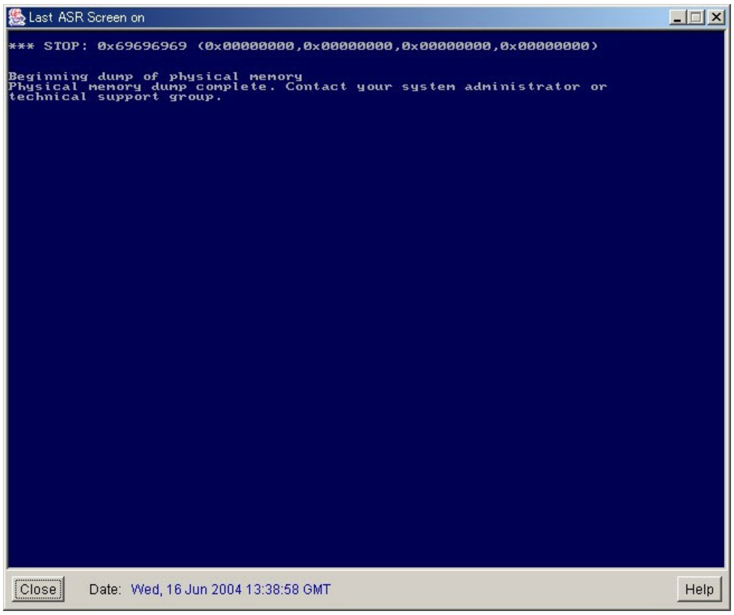
項目	説明
AVR Architecture	［2=VGA Capture］を選択してください。
Keyboard access mode	［6=USB（recommended）］を選択してください。
Mouse access mode	サーバ上の OS によって設定値が異なります。 Windows 系 OS の場合は［6=USB absolute position（recommended）］、Linux 系 OS の場合は［7=USB relative position］に設定してください。
Repaint AVR Screen after (ms)	AVR ウィンドウの更新間隔を設定します。通常、デフォルト値（300）のままで問題ありません。

POINT

- 「Mouse access mode」の設定を、「7=USB relative position」に設定した場合、メニューが追加されて個別にマウスアクセラレーションを設定できるようになります。その場合、通常は「2」を選択してください。この値はサーバの環境によって異なります。本設定値がサーバ上のマウスアクセラレーションの設定値と一致していない場合、AVR 画面上においてマウスカーソルの不一致が起こる場合があります。

■ View ASR Screenshot

本体サーバの Watchdog が検出されると、リモートサービスボードはその時点でのサーバ画面のスクリーンショットを自動的に取得します。［View ASR Screenshot］をクリックすると、最も新しいスクリーンショットが表示されます。



POINT

- ［View ASR Screenshot］はリアルタイムのサーバ画面を表示するものではありません。キーボード・マウス操作などは行えません。
- ［View ASR Screenshot］の取得されるタイミングは Watchdog 検出時です。ServerView の Watchdog 設定にて Software または Boot の Watchdog を有効にする必要があります。
- ［View ASR Screenshot］で取得された画面は、次回の起動が正常だった場合には削除されます。
- AVR では、同一サーバに対して複数のコンソールでの使用はできません。コンソール A で AVR を実行しているリモートサービスボードに対して、コンソール B から AVR を実行すると、コンソール A の AVR は強制的に終了します。
- AVR は必ず対象サーバと異なる管理端末上で実行してください。サーバ上のブラウザでサーバ自身の AVR を行うと、画面表示が止まらなくなります。
- AVR では 101 英語キーボードのみをサポートしています。コンソールが日本語版 Windows などの場合、入力ロケールの違いから一部のキーが通常と異なる出力をする場合があります。
  RSB 接続サーバ側で以下の設定を行って、AVR 使用時に 101 英語キーボードの入力ロケールを使用してください。
  - ・Windows 2000 Server の場合
    1. コントロールパネルを起動し、「キーボード」アイコンをダブルクリックします。

2. ［入力ロケール］タブをクリックし、［追加］をクリックします。
3. 「英語（US）」を選択し、［OK］をクリックします。
4. 「キーボードのプロパティ」で［OK］をクリックします。
   【Alt】+【Shift】キーを押すと、タスクバー上の表示が「EN」となり、英語の入力ロケールに切り替わります。

・Windows Server 2003、Windows XP の場合
1. IME ツールバーを右クリックし、「設定」をクリックします。
2. ［追加］をクリックします。
3. 「英語（US）」を選択し、［OK］をクリックします。
4. 「設定」画面で［OK］をクリックします。
   【Alt】+【Shift】キーを押すと、タスクバー上の表示が「EN」となり、英語の入力ロケールに切り替わります。

・Linux（X-Window を使用）の場合
1. ［スタート］（赤い帽子）-［システム設定］-［キーボード］の順に選択します。
2. 「英語（US. インターナショナル）」を選択してください。

・Linux（X-Window を使用しない）の場合：setup コマンドを使用する方法
1. setup コマンドで、セットアップを起動します。
2. Keyboard Configuration を選択します。
3. 「jp106」が選択されているので「us」に変更し、［OK］をクリックしてください。
4. セットアップを終了します。

・Linux（X-Window を使用しない）の場合：setup コマンドを使用しない方法
1. 以下のコマンドを実行します。

```
# loadkeys us
```

   なお、日本語キー配列に戻すには、以下のコマンドを実行してください。

```
# loadkeys jp106
```

▶ OS 動作時以外（WebBIOS など）でマウスを使用する場合は「Mouse access mode」の設定を、[7=USB relative position] または［6=USB absolute position（recommended）] に切り替え、動作する方で使用してください。
「Mouse access mode」の設定を切り替えた場合は Advanced Video Redirection（AVR）を再起動してください。

■ Remote Storage 機能

Remote Storage 機能はリモートサービスボードが搭載されているサーバに、ネットワーク上の他の端末のドライブなどを接続する機能です。Remote Storage には以下の 2 つの接続形態があります。

- Web インターフェースを実行しているコンソール上のドライブなどに接続する
  →「● Local connection 接続」（P.419）
- 「iSCSI サーバ」上のドライブなどに接続する
  →「● iSCSI connection 接続」（P.423）

Remote Storage 機能を使用することにより、以下の実行が可能です。

- サーバ OS 上でのリモート・ドライブ
- サーバのリモート・ブート

また、前述の AVR 機能と組み合わせて使用することにより、コンソールからサーバ OS 上でのリモート・インストールの実行が可能です。

● Local connection 接続

Local connection 接続は、以下の手順で実行します。

POINT

- ［Local connection］接続は USB 経由で行いますが、PG-RSB102 をお使いの場合は、画面上で PCI 経由での接続を選択することもできます。手順 2 と手順 5 で USB か PCI かを選択する画面が表示されますので、PCI 経由で接続する場合は、「PCI」を選択してください。
  なお、PCI 経由で接続を行う場合には、以下に注意してください。
  ・PCI 経由の仮想 CD-ROM は未サポートです。
  ・PCI 経由の Remote Storage を認識させるにはサーバの再起動が必要です。
- USB 経由の Remote Storage での Boot は、BIOS が USB Legacy をサポートしている場合のみ可能です。
  BIOS セットアップユーティリティで「Maltiboot」および「USB Legacy Support」を［Enabled］に設定してください。ただし、お使いの機種によっては、BIOS セットアップユーティリティにこれらの設定項目が存在しなかったり、自動で設定されることがあります。

手順 1 と手順 2 は PG-RSB102 のみの設定です。PG-RSB103 / PG-RSB104 / PG-RSB105 を使用する場合は、手順 3 から行ってください。

1　［Remote Storage Setup］をクリックします。

以下の画面が表示されます。

2　サーバとリモートサービスボード間のインターフェースを設定します。

「Remote Storage Connection:」に［Remote Storage via USB］を設定してください。

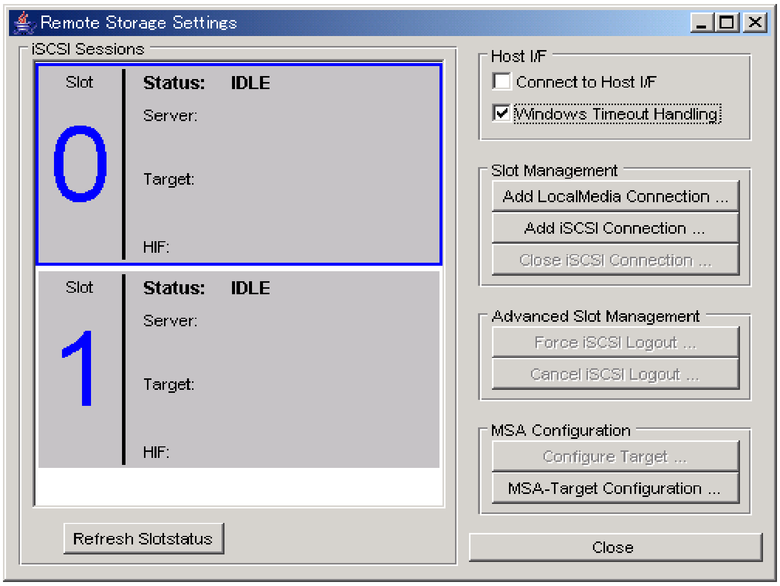
重要

- 「Remote Storage Connection:」の設定に変更があった場合、リモートサービスボードはリセットを要求します。変更を有効にするためにはリモートサービスボードのリセットを行ってください。

オプションの有効 / 無効はリモートサービスボードとサーバの設定に依存します。

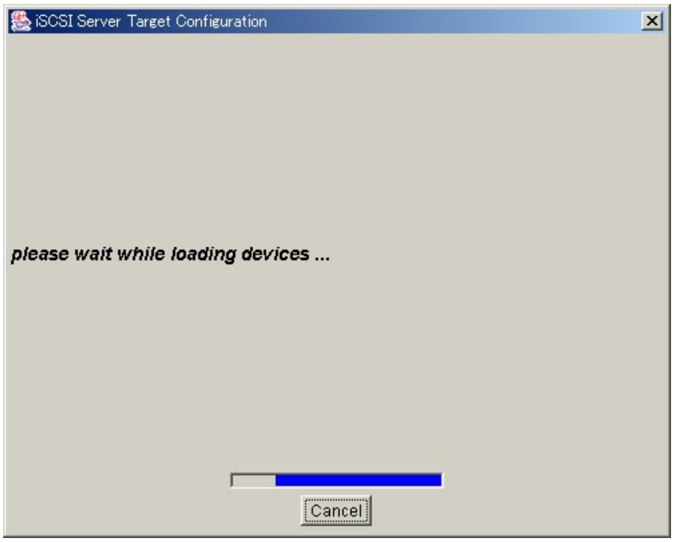
3 ［Remote Storage Setup］をクリックします。

以下の画面が表示されます。



4 スロットを選択して［Add Local Media Connection］をクリックします。

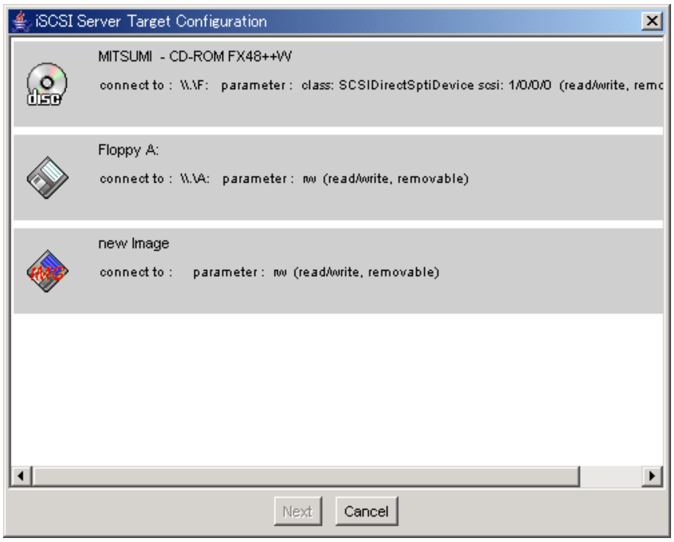
コンソール上のドライブの検索が始まります。



POINT

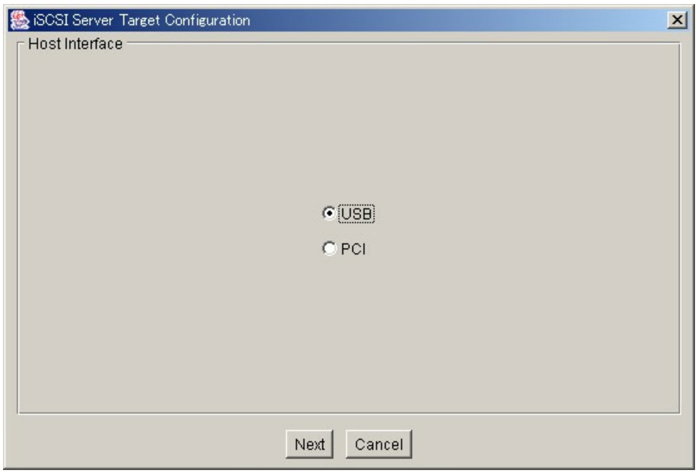
- 検索中に CD-ROM ドライブの検索を行うかどうかを問われる場合があります。
  RemoteStorageでCD-ROMドライブを使用する場合は、[Yes]をクリックしてください。

5 検索が完了すると以下のような画面が表示されるので、項目を選択し、［Next］をクリックします。



ここで表示されるデバイスはWebインターフェースを実行しているコンソールに依存します。コンソールに接続されているデバイスの内でWebインターフェースが認識可能なものだけが表示されます。以降は、選択したドライブによって設定手順が異なります。またコンソールのハードウェア環境によっても手順が異なる場合があります。以下の例を参考にして、設定を行ってください。

例 :CD-ROM



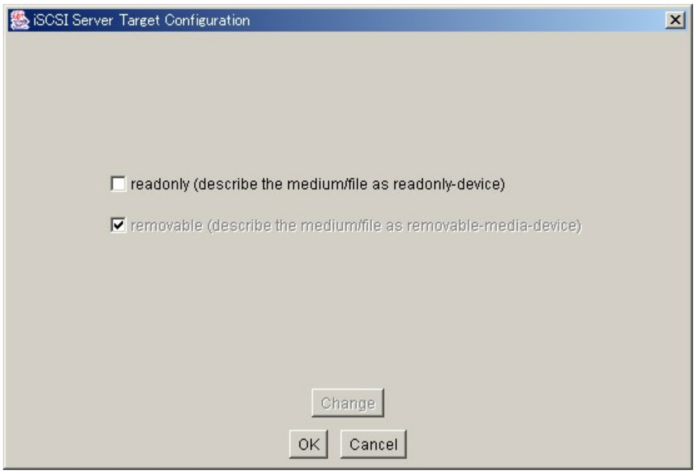
1. 接続インターフェースの選択画面が表示されます。USBを選択して［Next］をクリックします。
   接続に成功すると以下の画面が表示されます。

2. ［OK］をクリックします。

リモートサービスボードの使用

7

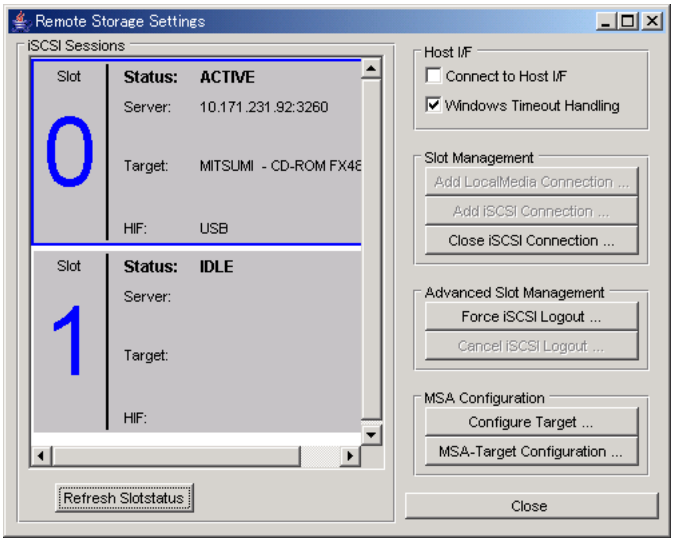
例 : フロッピーディスク



1. フロッピーディスクを「ReadOnly」で読み込む場合はチェックボックスにチェックを付けて［OK］をクリックします。
   フロッピーディスクドライブにフロッピーがセットされていない場合、以下の警告画面が表示されます。

2. フロッピーディスクをドライブにセットし、［OK］をクリックします。
3. インターフェースの選択画面で USB を選択し、［Next］をクリックします。

6 手順 4 で選択したスロットに、デバイスの情報が格納されているのを確認します。



デバイスが設定されているスロットのステータスは［ACTIVE］、デバイスが設定されていないスロットは［IDLE］が表示されます。
［ACTIVE］が表示されているスロットを選択し、［Connect to Host I/F］チェックボックスにチェックを付けて、［Configure Target］をクリックします。
以上で［Local connection］接続は完了です。

7 ［Close］をクリックして［Remote Storage Setup］ウィンドウを閉じます。

● iSCSI connection 接続

iSCSI connection では、リモートサービスボードは iSCSI クライアントとして動作します。
iSCSI connection の実行にはリモートサービスボードが搭載されているサーバとは物理的に異なる「iSCSI サーバ」がネットワーク上に 1 台以上必要です。リモートサービスボードが iSCSI サーバと接続することで iSCSI connection を実行します。
サーバ OS に MSA（Management Server Application）をインストールすることによって、iSCSI サーバを構築することができます。MSA のインストール、設定については、「7.2.2 Management Server Application（MSA）のインストールと設定」（→ P.405）を参照してください。

POINT

- iSCSI サーバからリモートサービスボードの Web インターフェイスを開くことはできません。
- 複数のリモートサービスボードから 1 台の iSCSI サーバに接続できます。

iSCSI connection 接続は、以下の手順で実行します。
手順 1 と手順 2 は PG-RSB102 のみの設定です。PG-RSB103 / PG-RSB104 / PG-RSB105 を使用する場合は、手順 3 から行ってください。

1　［Remote Storage Setup］をクリックします。

以下の画面が表示されます。

2　サーバとリモートサービスボード間の通信インタフェースを設定します。

「Remote Storage Connection:」に「Remote Storage via USB」を設定してください。

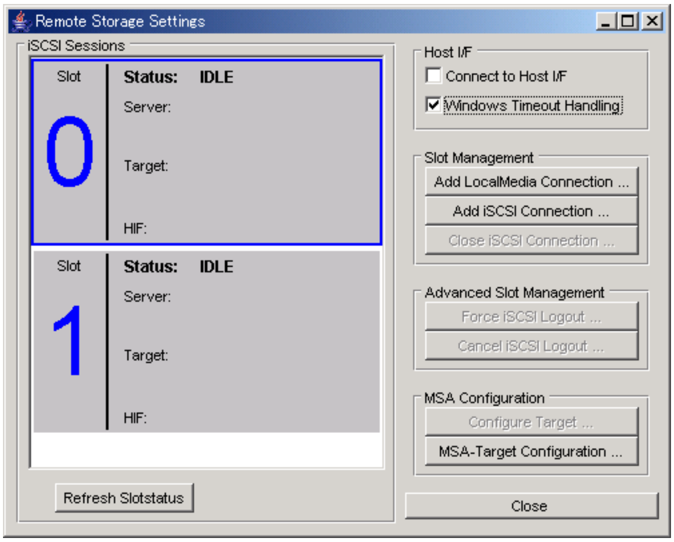
重要

- 「Remote Storage Connection:」の設定に変更があった場合、リモートサービスボードはリセットを要求します。変更を有効にするにはリモートサービスボードをリセットしてください。

オプションの有効／無効は、リモートサービスボードとサーバ間の設定に依存します。

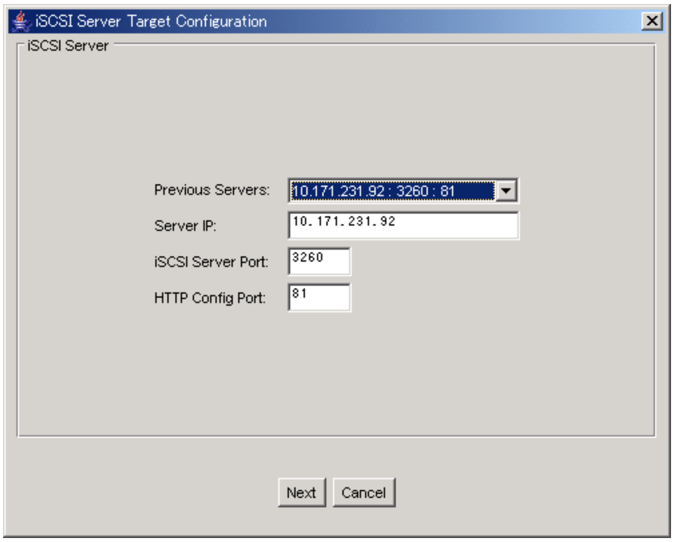
3　［Remote Storage Setup］をクリックします。

Remote Storage Settings 画面が表示されます。



4 ［MSA- Target Configuration］をクリックします。

以下の画面が表示されます。

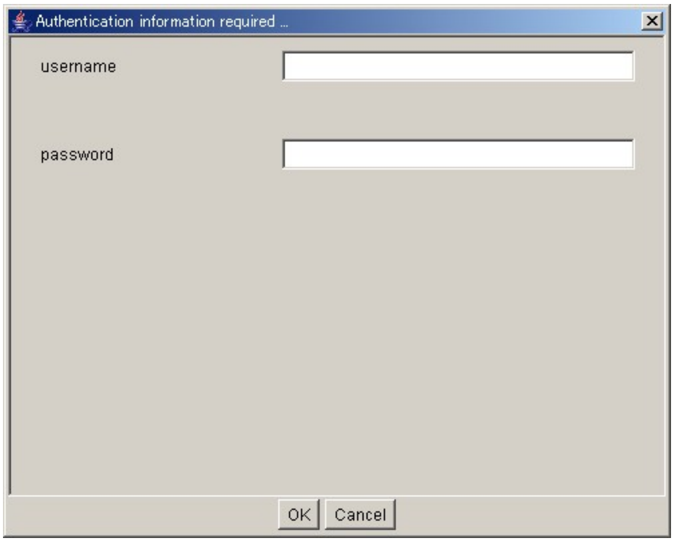


表：iSCSI Server の設定項目

項目	説明
Previous Servers	今までに接続したサーバの履歴から接続先を選択します。今までで接続が実行されていない場合は何も表示されません。
Server IP	MAS をインストールしたサーバの IP アドレスを入力します。
Server Port	iSCSI サーバのポート番号を入力します。デフォルトの値は「3260」です。
HTTP Config Port	MAS の HTTP マネジメントポートのポート番号を入力します。デフォルトの値は「81」です。

5 各項目を設定し、［Next］をクリックします。

以下の画面が表示されます。

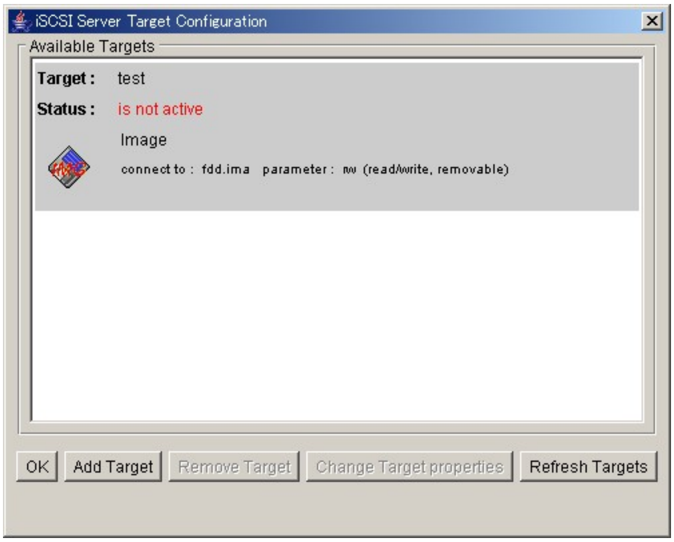


6　ユーザ名とパスワードを入力して、［OK］をクリックします。

POINT

- ユーザ名、パスワードは MAS の設定で変更できます。

以下の画面が表示されます。

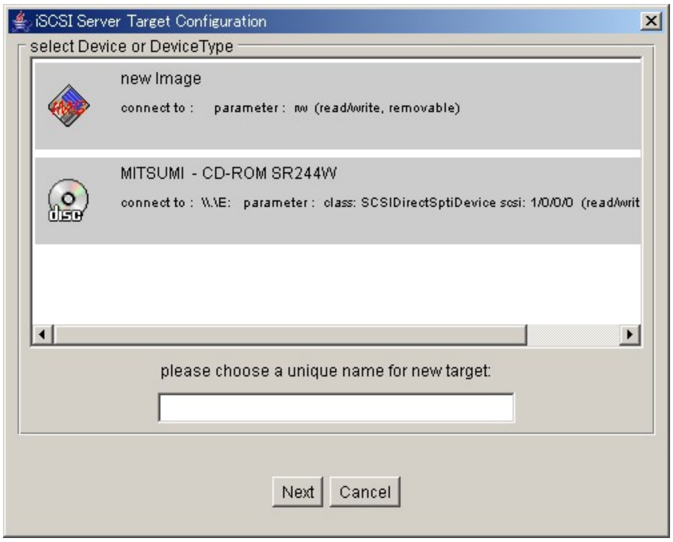


7　iSCSI ターゲットオブジェクトを作成します。

必要に応じて iSCSI ターゲットオブジェクトの削除や設定の変更も行えます。

iSCSI ターゲットオブジェクトの作成

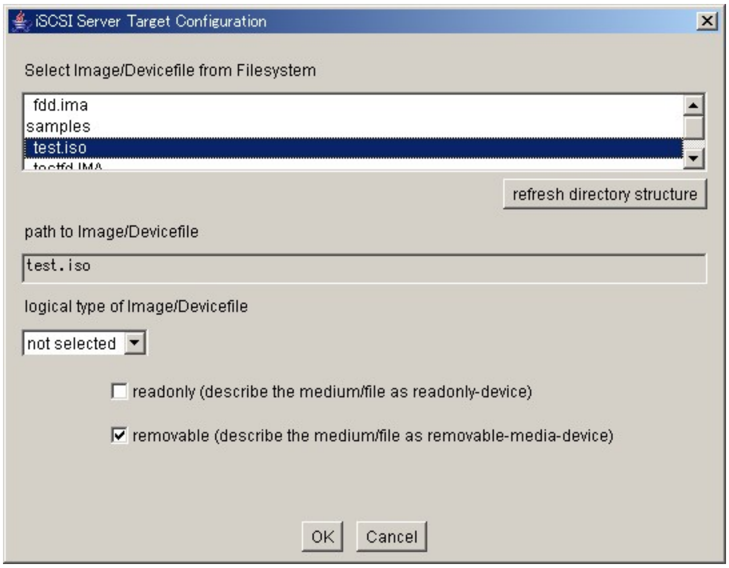
1. ［Add Target］をクリックします。
   以下の画面が表示されます。



2. メディアタイプを選択し、テキストボックスにターゲットオブジェクト名を入力して［Next］をクリックします。

選択できるメディアタイプは iSCSI サーバのハードウェア構成に依存します。また、MAS の設定によって異なります。

［Next］をクリックするとイメージファイルを選択する画面が表示され、格納されているイメージファイルが表示されます。



3. イメージファイルを選択し、「Logical type of image/devicefile」のリストからファイル形式を選択して［OK］をクリックします。

Remote Storage Settings 画面に戻ります。

iSCSI ターゲットオブジェクトの削除

1. 削除するターゲットオブジェクトを選択し、［Removing Target］をクリックします。

確認のメッセージが表示されます。

2. ［Yes］をクリックします。

ターゲットオブジェクトが削除されます。

iSCSI ターゲットオブジェクトの設定変更

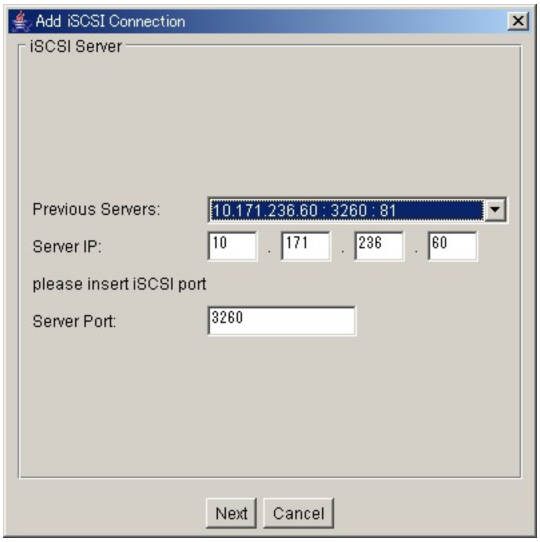
1. 設定を変更するターゲットオブジェクトを選択し、［Change Target properties］をクリックします。

イメージファイルを選択する画面が表示されます。

2. 必要に応じて設定を変更し、［OK］をクリックします。

8　［Add iSCSI Connection］をクリックします。

iSCSI Server を選択する画面が表示されます。

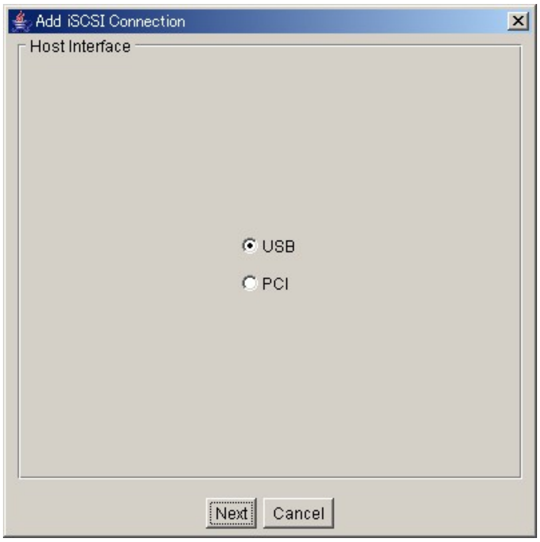


9　「Previous Server」に、手順 4 で設定した iSCSI Server を選択し、［Next］をクリックします。

ターゲットオブジェクトを選択する画面が表示されます。

10 手順 7 で作成したターゲットオブジェクトを選択し、［Next］をクリックします。

PG-RSB102 の場合は、接続インタフェースを選択する以下の画面が表示されます。
PG-RSB103/PG-RSB104/PG-RSB105 の場合は表示されません。手順 11 の画面が表示されます。



POINT

- ここでは USB 経由の iSCSI Connection 接続について説明します。PCI 経由で接続を行う場合は、「PCI」を選択してください。
  また、PCI 経由で接続を行う場合は、以下に注意してください。
  ・PCI 経由の仮想 CD-ROM は未サポートです。
  ・PCI 経由の Remote Storage を認識させるには、サーバの再起動が必要です。
- USB 経由の Remote Storage での Boot は、BIOS が USB Legacy をサポートしている場合のみ可能です。
  BIOS セットアップユーティリティで「Maltiboot」および「USB Legacy Support」を［Enabled］に設定してください。ただし、お使いの機種によっては、BIOS セットアップユーティリティにこれらの設定項目が存在しなかったり、自動で設定されることがあります。

11 「USB」を選択し、［Next］をクリックします。

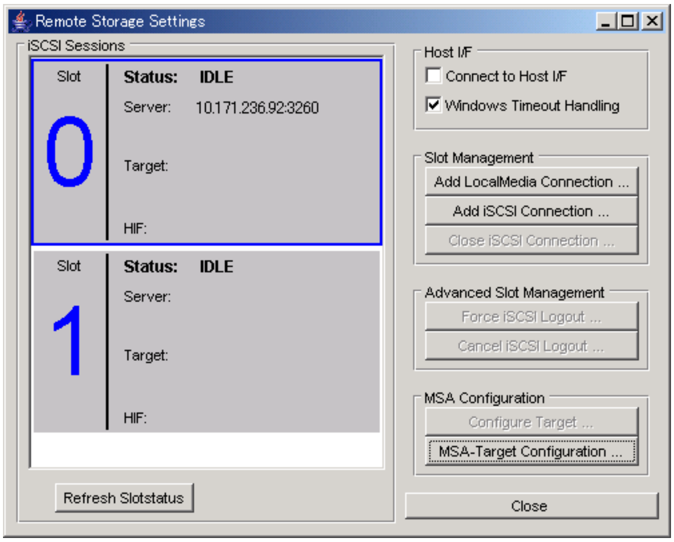
接続が行われ、接続に成功すると以下の画面が表示されます。

リモートサービスボードの使用

7

12 ［OK］をクリックすると Remote Storage Settings 画面に戻ります。

デバイスの情報が追加されていることを確認してください。



デバイスが設定されているスロットのステータスは「ACTIVE」、設定されていないスロットは「IDLE」が表示されます。

13 「ACTIVE」なスロットを選択し、「Connect to Host I/F」にチェックを付けて［Configure Target］をクリックします。

iSCSI connection 接続は完了です。

14 ［Colse］をクリックして Remote Storage Settings 画面を終了します。

■ USB setting

リモートサービスボードの USB 機能の設定を行います。

表：USB 機能の設定

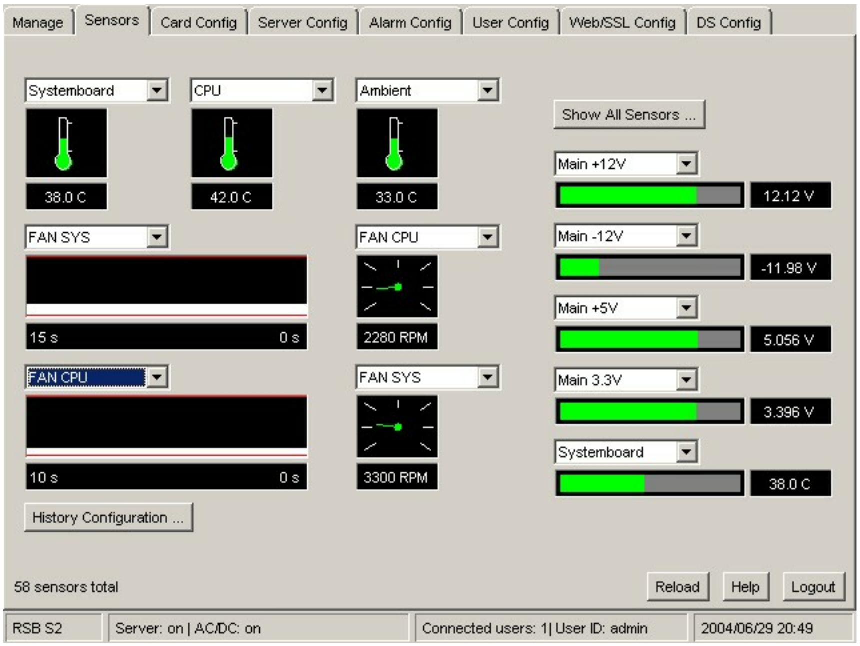
項目	説明
Enable USB HID Devices	USB 経由のキーボード・マウスを有効にします。AVR を使用する場合には必ずチェックボックスを On にしてください。
HID Devices always active	サーバの BIOS が USB hot plug をサポートしていない場合にはチェックボックスにチェックを付けてください。
Enable USB Storage Devicees	USB 経由の RemoteStorage を有効にします。RemoteStorage を使用する場合にはチェックボックスにチェックを付けてください。
Enable USB Hige Speed Capabillity	USB 経由の RemoteStorage において、Hige Speed Storage を有効にします。

POINT

- 「Enable USB Hige Speed Capabillity」を有効にすると、USB のキーボード／マウスが使用できなくなる場合があります。その場合、当項目は無効にして使用してください。

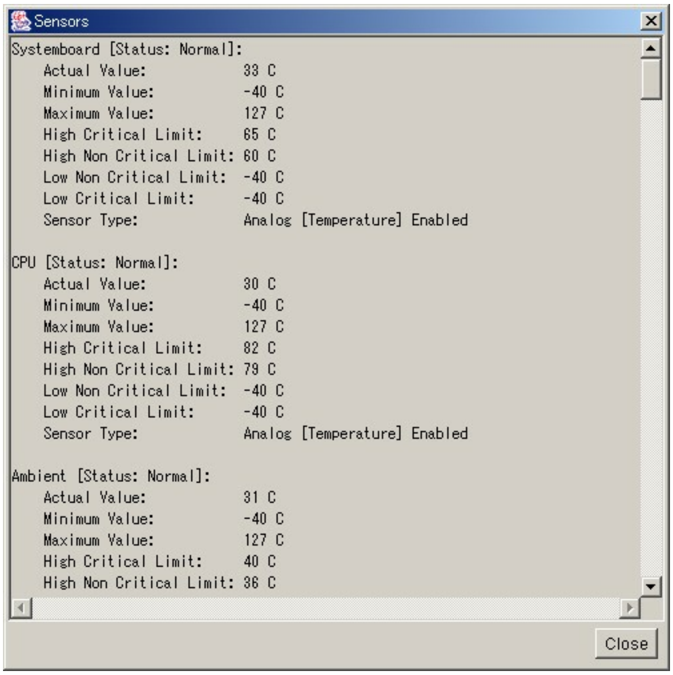
7.3.3 ［Sensors］ページ

Sensors ページではサーバの各センサーの値を表示することができます。



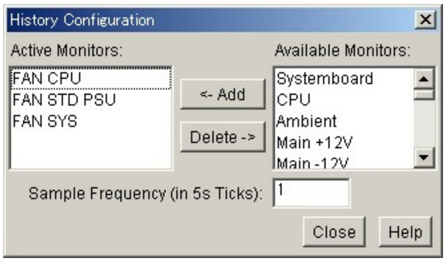
■［Show All Sensors ...］

すべてのセンサーの値を表示させることができます。



■［History Configuration ...］

センサーの値を一定の間隔で表示させることができます。［History Configuration ...］をクリックすると、以下の画面が表示されます。



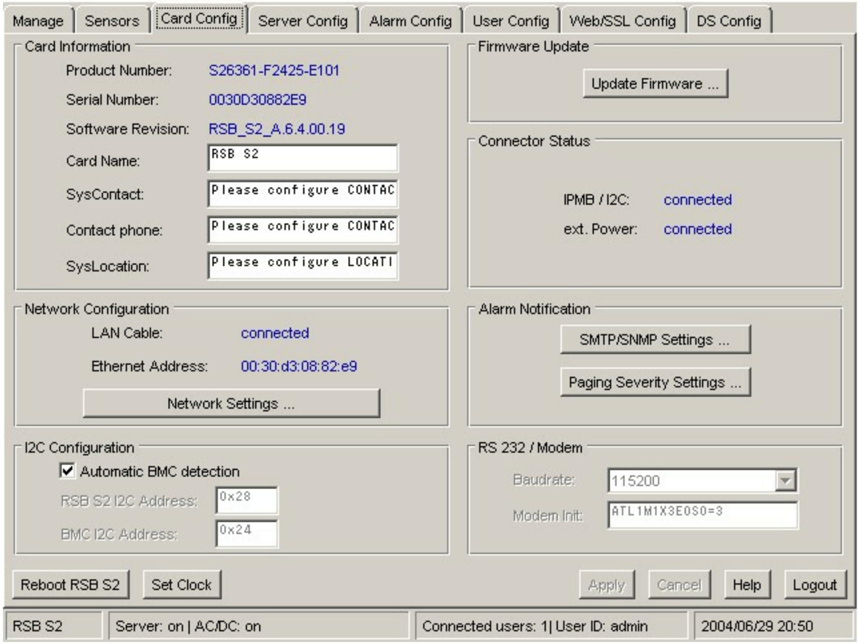
表示したいセンサーを「Available Monitors」から選択し、［<-Add］をクリックして、「Active Monitors」に追加します。
追加されたセンサーは、画面上部のプルダウンメニューから選択することができます。

■［Reload］

すべてのセンサーの値を再度読み込みます。現在表示されているセンサーは、選択解除される場合があります。再度選択し、表示させてください。経過は画面左下に表示されます。

7.3.4 ［Card Config］ページ

Card Config ページでは、リモートサービスボードの設定を行ったり、状態を確認することができます。

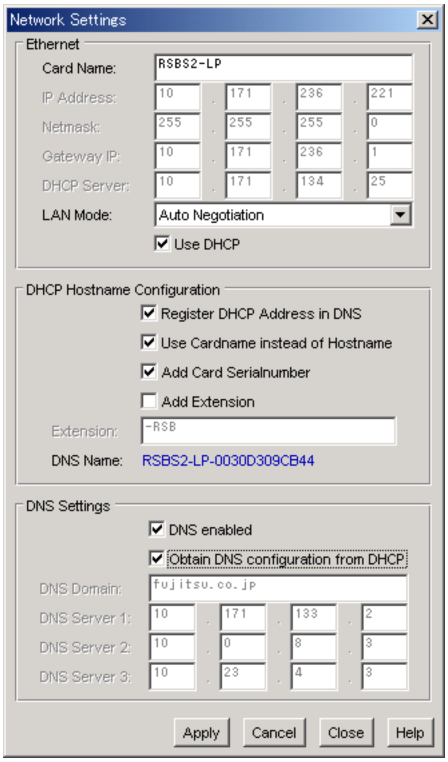


表：Card Config ページの機能

項目		説明
Card Information		リモートサービスボードに関する情報です。
	Product Number	リモートサービスボードのプロダクトナンバーが記載されています。
	Serial Number	リモートサービスボードのシリアルナンバーが記載されています。
	Software Revision	リモートサービスボードに適用されているファームウェアの版数です。
	Card Name	リモートサービスボードの名前を設定することができます。
	SysContact	緊急時の連絡先を設定します。
	Contact Phone	緊急時の連絡先電話番号を設定します。
	SysLocation	リモートサービスボードが搭載されているサーバの位置情報を設定します。
Network Configuration		リモートサービスボードのネットワークインターフェースを設定します。→「■ Network Settings」（P.435）
	LAN Cable	LAN ケーブルの接続状態を表示します。
	Ethernet Address	リモートサービスボードのネットワークインターフェースの MAC アドレスを表示します。
I2C Configuration		I2C についての設定を行います。
	Automatic BMC detection	サーバの BMC との接続を自動的に行います。チェックボックスにチェックを付けてください。
Firmware Update		リモートサービスボードのファームウエアをアップデートします。本項目は未サポートです。
Connection Status		リモートサービスボードの接続状態を表示します。
	IPMB/I2C	IPMB/I2C との接続状態を表示します。
	Ext.Power	リモートサービスボードの外部電源の接続状態を表示します。 外部電源の接続端子がない RSB では、本項目は表示されません。
Alarm Notification		［SMTP/SNMP Settings ...］をクリックすると、メールサーバや SNMP の設定が行えます。→「■ SMTP/SNMP Settings」（P.435） ［Paging Severity Settings ...］をクリックすると、各グループごとの Severity を設定できます。→「■ Paging Severity Setting」（P.436）
RS 232/Modem		シリアルポートやモデムとの接続を設定します。本項目は未サポートです。

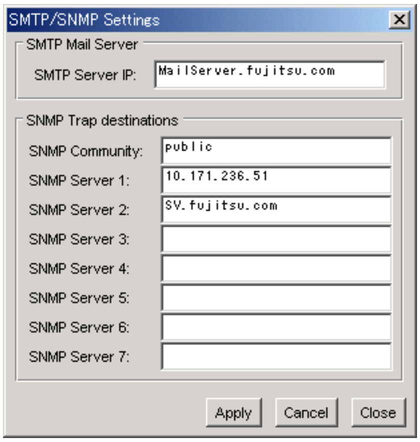
■ Network Settings

リモートサービスボードの IP アドレス、DNS の設定を行います。



■ SMTP/SNMP Settings

Network Settings で DNS の設定を行った場合、メールサーバや SNMP トラップ送信先にサーバ名を指定できます。ただし、DNS の設定が間違っている場合、IP 指定の項目も無効になります。



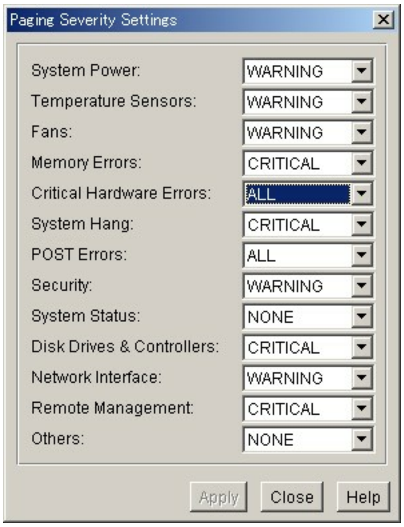
- SMTP Server IP

  リモートサービスボードはここで設定した SMTP サーバにメールを送信します。メールの送信先など、詳しい設定は［Alarm Config］ページで行ってください。

- SNMP Trap Distinations
  リモートサービスボードから通知する、SNMP トラップの送信先 IP アドレスを設定することができます。

■ Paging Severity Setting

各グループの SEL 書き込みに対する E-mail を発生させる値（Severity）を設定することができます。



それぞれのグループは設定された Severity に達すると E-mail を発生させます。各 Severity の設定は以下のようになります。

表：Severity の設定

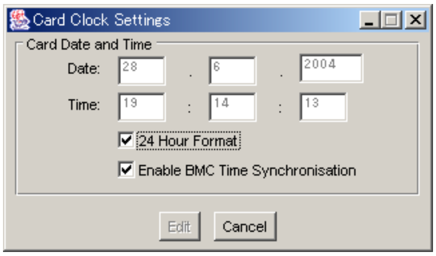
項目	説明
None	SEL に対する E-mail は発生しません。
Critical	Critical 以上のイベントで、SEL に対する E-mail が発生します。
Warning	Warning 以上のイベントで、SEL に対する E-mail が発生します。
All	すべての Severity の SEL に対する E-mail が発生します。

■ ［Reboot RSB S2］ボタン

リモートサービスボードをリブートします。
リブートを実行するとログインしているユーザはすべて切断され、一時的にリモートサービスボードとの接続が不可となります。リブート後は通常のログイン画面になるまで Web インターフェースの操作を行わないでください。

■［Set Clock］ボタン

リモートサービスボードに内蔵されている時計を設定することができます。
通常、この設定を変更する必要はありません。［Set Clock］ボタンをクリックすると以下の画面が表示されます。

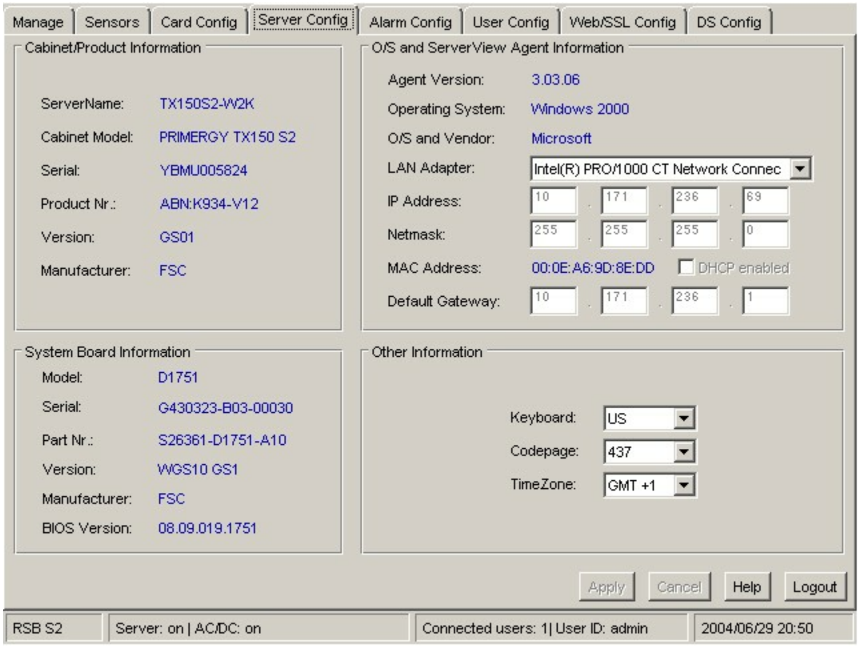


POINT

- リモートサービスボードの内蔵時計は、常にベースボード上の BMC と呼ばれるモジュールと時刻の同期を行っています。
  項目［Enable BMC Time Synchronisation］のチェックボックスのチェックを外すと、リモートサービスボードは BMC との同期を行わず、自身の内蔵時計のみで動作し始めます。この場合、［Edit］ボタンが有効になり、リモートサービスボードの内蔵時計の時刻を設定することができます。

7.3.5 ［Server Config］ページ

サーバ本体の各情報を取得、表示します。

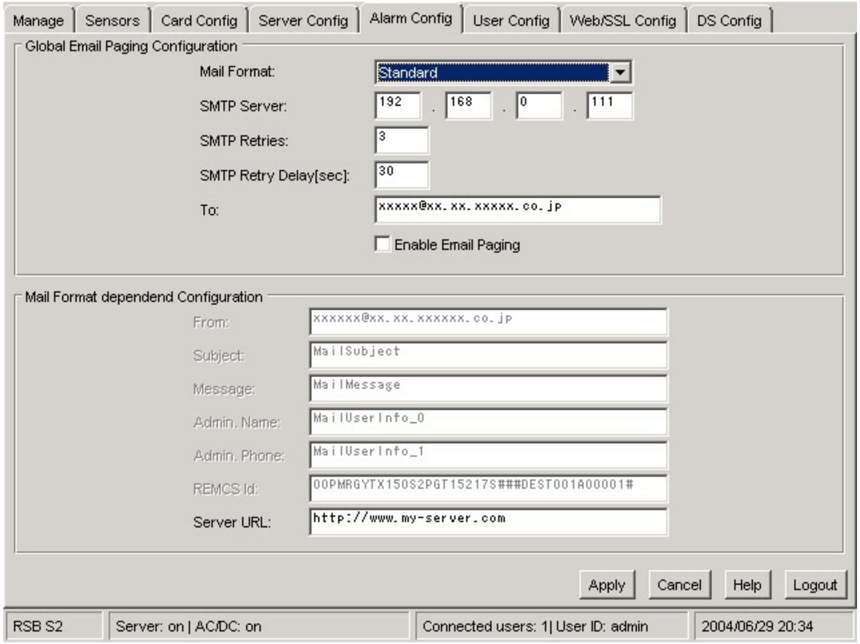


表：Server Config ページの機能

項目		説明
Cabinet/Product Information		キャビネット / プロダクトの情報を表示します。
	Server Name	サーバ名を表示します。
	Model	モデル名を表示します。
	Serial	シリアル No を表示します。
	Product Nr	プロダクト No を表示します。
	Version	バージョン情報を表示します。
	Manufacturer	製造社名を表示します。
System Board Information		ベースボードの情報を表示します。
	Model	モデル名を表示します。
	Serial	シリアル No を表示します。
	Part Nr	Part No を表示します。
	Version	バージョン情報を表示します。
	Manufacturer	製造社名を表示します。
	BIOS Version	BIOS のバージョンを表示します。
O/S and ServerView Agent Information		OS、および ServerView エージェントの情報を表示します。
	Agent Version	エージェントのバージョンを表示します。
	Operating System	OS 名を表示します。
	O/S and Vendor	OS 製造社名を表示します。
	LAN Adapter	サーバに搭載されている LAN アダプタ名を表示します。 LAN アダプタが複数存在する場合は、プルダウンメニューでアダプタを切り替えることによってそれぞれの情報を参照することができます。
	IP Address	IP アドレスを表示します。
	Netmask	サブネットマスクの IP を表示します。
	Gateway	ゲートウェイの IP を表示します。
	MAC Address	MAC アドレスを表示します。
	DHCP enabled	DHCP の有効 / 無効を表示します。
Other Information		キーボードやタイムゾーンの設定をします。
	Keyboard	使用するキーボードの言語設定をします。
	Codepage	サーバで使用するコードページを設定します。
	TimeZone	タイムゾーンの設定をします。

7.3.6 ［Alarm Config］ページ

アラーム機能の設定を行います。



表：Alarm Config ページの設定項目

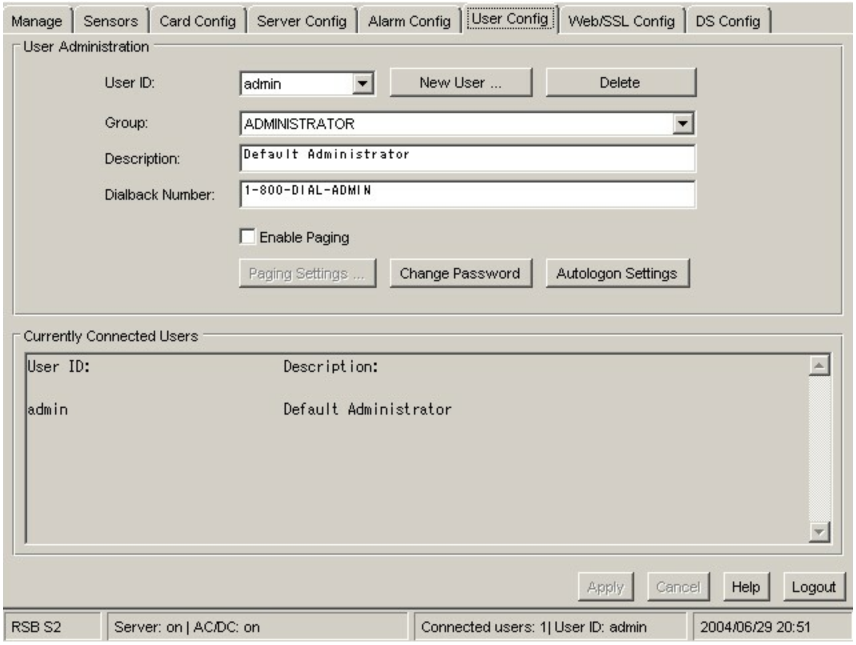
項目	説明
Global Email Paging Configuration	各メール項目を設定します。
Mail Format	メール送信に使用するメール形式を設定します。以下の形式があります。 ・Standard（デフォルト） ・ITS-Format ・Fujitsu REMCS Format
SMTP Server	SMTP サーバの IP を設定します。デフォルト値は「0.0.0.0」です。
SMTP Retries	SMTP 送信のリトライ回数を設定します。デフォルト値は「3」です。
SMTP Retry Delay[sec]	SMTP 送信のリトライ間隔時間を秒で設定します。デフォルト値は「30」です。
To	送信先メールアドレスを設定します。
Enable Email Paging	電子メール通知を有効／無効化します。有効に設定するときは、チェックボックスにチェックを付けます。

表：Alarm Config ページの設定項目

項目	説明
Mail Format dependend Configuration	メール形式の各項目を設定します。 設定できる項目はメールの形式に依存します。
From	送信元メールアドレスを設定します。「Mail Format」の設定が「Standard」のときは設定できません。
Subject	メールの件名を設定します。「Mail Format」の設定が「Standard」、「Fujitsu REMCS Mail」のときは設定できません。
Message	メールのメッセージを設定します。「Mail Format」の設定が「Standard」、「Fujitsu REMCS Mail」のときは設定できません。
Admin.Name	管理者名を設定します。「Mail Format」の設定が「Standard」、「Fujitsu REMCS Mail」のときは設定できません。
Admin.Phone	管理者の電話番号を設定します。「Mail Format」の設定が「Standard」、「Fujitsu REMCS Mail」のときは設定できません。
REMCS Id	装置 ID を設定します。「Mail Format」の設定が「Standard」、「ITS-Format」のときは設定できません。
Server URL	サーバの URL を設定します。「Mail Format」の設定が「ITS-Format」、「Fujitsu REMCS Mail」のときは設定できません。

7.3.7 ［User Config］ページ

ユーザアカウントに関する設定を行います。

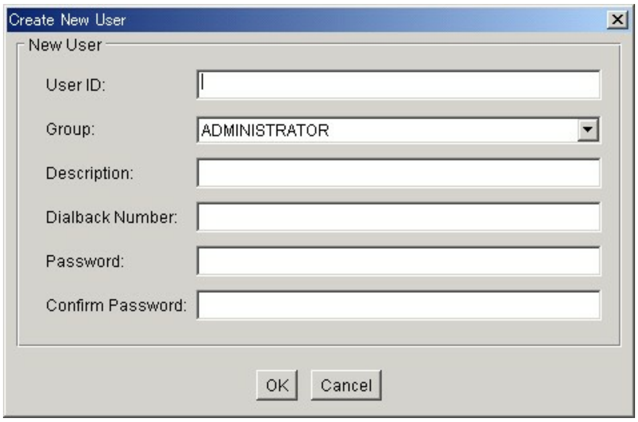


表：User Config ページの機能

項目	説明
User ID	コンボボックス内のユーザアカウントを選択することにより、以降の項目にユーザアカウントの情報が表示されます。
［New User ...］	新規ユーザを作成します。→「■ New User」（P.441）
［Delete］	「User ID」に表示されているユーザアカウントを削除します。確認のメッセージが表示されたら［OK］をクリックします。
Group	「User ID」で選択されているユーザアカウントが属するグループ名が表示されます。また、現在設定されているグループ名から他のグループ名へ変更することも可能です。以下のグループがあります。 「ADMINISTRATOR」、「CALLBACK」、「NO_ACCESS」、「OEM」、「OPARATOR」、「USER」
Description	「User ID」で選択されているユーザアカウントの詳細情報が表示されます。また、現在設定されている内容を変更することも可能です。
Dialback Number	「User ID」で選択されているユーザアカウントの電話番号が表示されます。また、現在設定されている内容を変更することも可能です。
Enable Paging	チェックを付けると、「User ID」で選択されているユーザアカウントによるメール通知を行うことができます。
［Paging Settings ...］	メール通知に関する設定を行います。「Enable Paging」にチェックを付けている場合のみ有効になります。→「■ Paging Settings」（P.442）
［Change Password］	「User ID」で選択されているユーザアカウントのパスワードを変更します。［Change Password］をクリックすると、パスワードを設定する画面が表示されるので、パスワードを入力して［OK］をクリックします。
［Autologon Settings］	「User ID」で選択されているユーザアカウントの自動ログオンを有効にする設定をします。→「■ Autologon Settings」（P.443）
Currently Connected Users	リモートサービスボードにログイン中のログインユーザ情報を表示します。 ・User ID：ユーザアカウント ・Description：詳細情報

■ New User

［New User］をクリックすると、以下のダイアログが表示されます。各項目を設定し、新規にユーザアカウントを作成します。

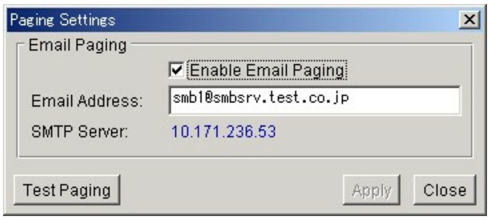


表：新規ユーザアカウント設定項目

項目	説明
UserID	ユーザアカウント名を設定します。
Group	ユーザアカウントが属するグループ名を設定します。 「ADMINISTRATOR」、「CALLBACK」、「NO_ACCESS」、「OEM」、「OPARATOR」、「USER」のいずれかを選択します。
Description	ユーザアカウントの詳細情報を設定します。
Dialback Number	ユーザアカウントの電話番号を設定します。
Password	ユーザアカウントのパスワードを設定します。
Confirm Password	上記パスワードを再入力します。

■ Paging Settings

［Paging Settings ...］をクリックすると以下のダイアログが表示されます。指定されたイベントが発生すると電子メールによる通知を受けることができます。



メール通知を有効にするためには、以下の設定が必要です。

表：メール通知の設定項目

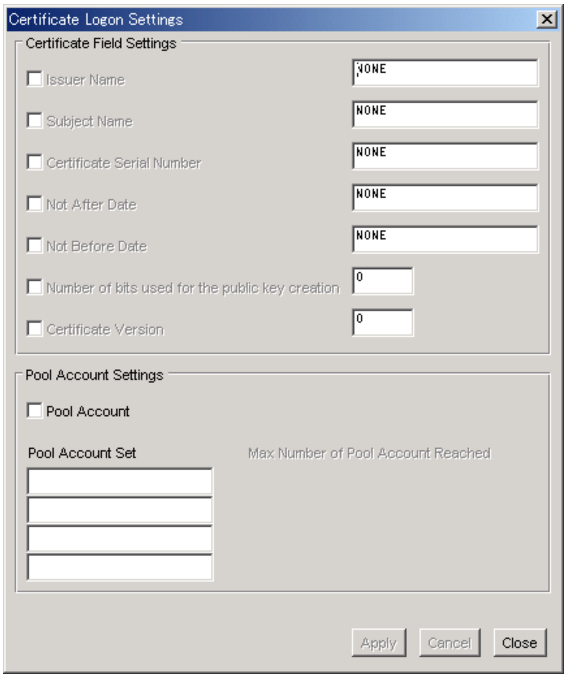
項目	説明
［Enable Email Paging］	チェックを付け、有効にします。
Email Address	ユーザの電子メールアドレスを設定します。

POINT

- 「SMTP Server」には、SMTP サーバの IP アドレスが表示されます。
  ［Card Config］ページの［SMTP/SNMP Settings］で設定した値が表示されます。
- ［Test Paging］をクリックすると、テストメール送信を行うことができます。

■ Autologon Settings

［Autologon Settings］をクリックすると以下のダイアログが表示され、「User ID」で選択されているユーザアカウントに対し、自動ログオンを有効にする設定を行うことができます。



自動ログオンを有効にするには、以下の設定が必要です。自動ログオン中にリモートサービスボードがユーザ証明書のどのフィールドを使用するのか定義します。
以下の項目の右側の入力ボックスに対象値を入力すると、その項目が選択されます。
英数半角大文字で「NONE（数字項目は「０」)」を入力した場合は、選択が解除されます。

- Issuer Name
- Subject Name
- Certificate Serial Number
- Not After Date
- Not Before Date
- Number of bits used for the public key creation
- Certificate Version

重要

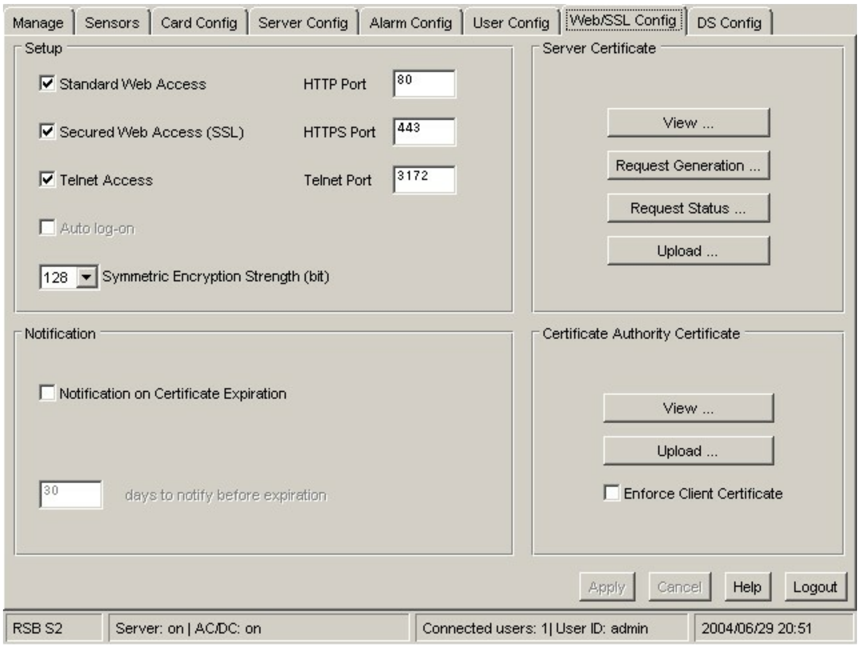
▶ 以下の項目は、必ず２つ以上選択してください。
　・Issuer Name
　・Certificate Serial Number
　・Subject Name

POINT

［Pool Account］チェックボックス

▶「Pool Account」チェックボックスにチェックを付けると、表示されているアカウントを複数のユーザが使用できるようになります。

7.3.8 ［Web/SSL Config］ページ



Web/SSL Config ページには以下の機能があります。

表：Web/SSL Config ページの機能

項目	説明
Setup	リモートサービスボードにアクセスするための HTTP や Telnet のポート番号を設定します。
Standard Web Access	HTTP アクセスの有効／無効の設定です。 チェックを付けると、リモートサービスボードへの HTTP アクセスが可能になります。
HTTP Port	HTTP で使用するポート番号を設定します。初期値は「80」です。
Secured Web Access（SSL）	HTTPS（SSL）アクセスを有効／無効の設定です。 チェックを付けると、リモートサービスボードへの HTTPS（SSL）アクセスが可能になります。
HTTPS Port	HTTPS で使用するポート番号を設定します。初期値は「443」です。
Telnet Access	Telnet アクセスの有効／無効の設定です。リモートサービスボード（PG-RSB102）では本機能は未サポートです。
Telnet Port	Telnet で使用するポート番号を設定します。初期値は「3172」です。
Auto log-on	自動ログオンの有効／無効の設定です。チェックを付けると、リモートサービスボードへの自動ログオンが可能になります。 Certificate Authority Certificate の［Enforce Client Certificate］がチェックされている場合のみ、設定可能です。
Symmetric Encryption Stlength（bit）	暗号化の強度を設定します。「40」または「128」のどちらかを選択してください。初期値は「128」が設定されています。

表：Web/SSL Config ページの機能

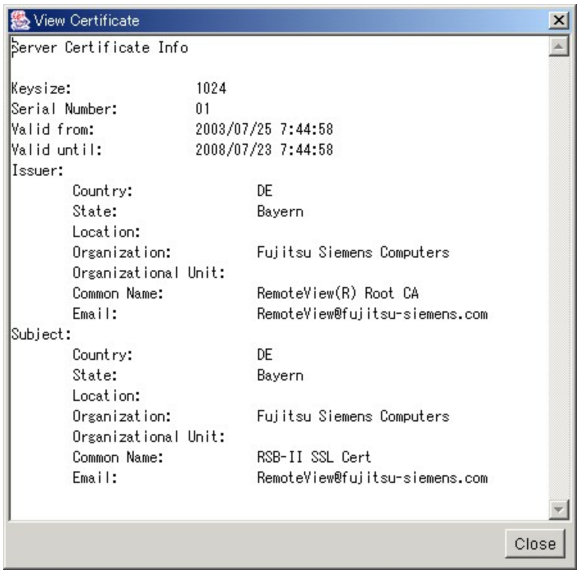
項目	説明
Notification	証明書の期限が切れた際に、ユーザーに対して通知を行うかどうかを設定します。
Notification on Certificate Expiration	証明書期限切れ通知の有効／無効の設定です。 チェックを付けると、ログインユーザに対して証明書の期限切れ通知を行います。
days to notify before expiration	証明書の有効期限を設定します。初期値は「30」です。
Server Certificate	サーバ証明書の管理を行います。詳細は「■ Server Certificate」（→ P.445）を参照してください。
［View ...］	次回のリモートサービスボードのリブート時に使用されるサーバ証明書の情報画面が表示されます。
［Request Generation ...］	新規にサーバ証明書の作成を行います。。
［Request Status ...］	サーバ証明書の要求に対する状態を表示します。
［Upload ...］	サーバ証明書の更新を行います。
Certificate Authority Certificate	CA 証明書の管理を行います。詳細は「■ Certificate Authority Certificate」（→ P.447）を参照してください。
［View ...］	次回のリモートサービスボードのリブート時に使用される CA 証明書の情報を表示します。
［Upload ...］	CA 証明書の更新を行います。
Enforce Client Certificate	チェックを付けると、Web ブラウザにインストールされたクライアント証明書を持つユーザに対して、リモートサービスボードへの SSL 接続を許可します。

■ Server Certificate

ここではサーバ証明書の管理を行います。

● View ...

次回のリモートサービスボードのリブート時に使用されるサーバ証明書の情報を表示します。



● Request Generation

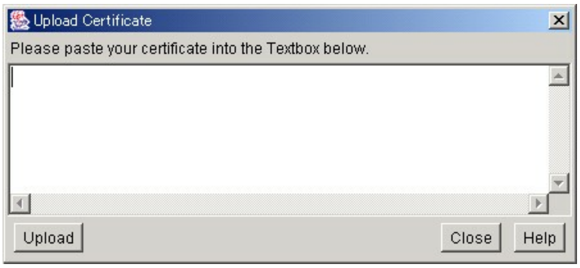
新規にサーバ証明書の作成を行います。
「Request Generation」画面が表示されるので、各項目を設定し［Start CSR Genetation ...］をクリックしてください

● Request Status ...

サーバ証明書要求に対しての現在の状態を表示します。

● Upload ...

サーバ証明書の更新を行います。

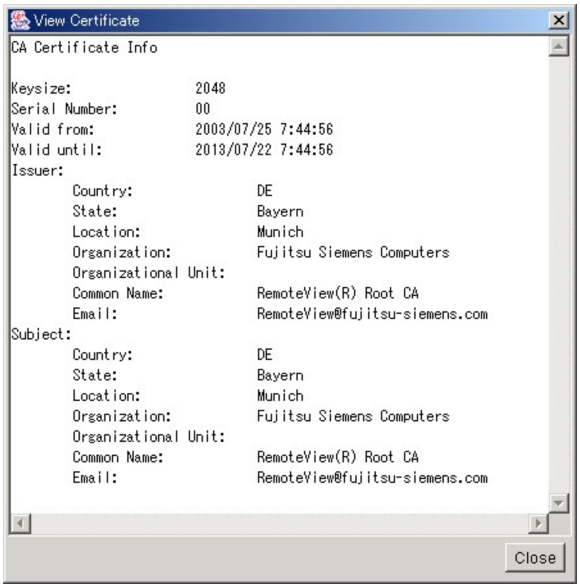


■ Certificate Authority Certificate

ここでは CA 証明書の管理を行います。

● View...

次回のリモートサービスボードのリブート時に使用される CA 証明書の情報を表示します。



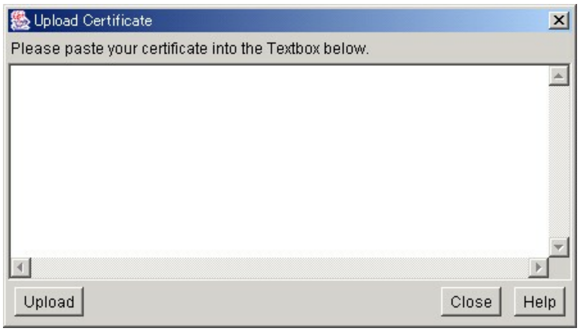
● Upload...

CA 証明書の更新を行います。更新処理は、以下の手順で行ってください。

1 ［Upload Certificate］ダイアログのテキストボックスの中に、CA により送られた証明書をコピーして貼り付けます。

2 画面下の［Upload］をクリックします。

リモートサービスボードのリブート後に更新された証明書が有効になります。



● Enforce Client Certificate

チェックを付けると、Web ブラウザにインストールされたクライアント証明書を持つユーザに対して、リモートサービスボードへの SSL 接続を許可します。

重要

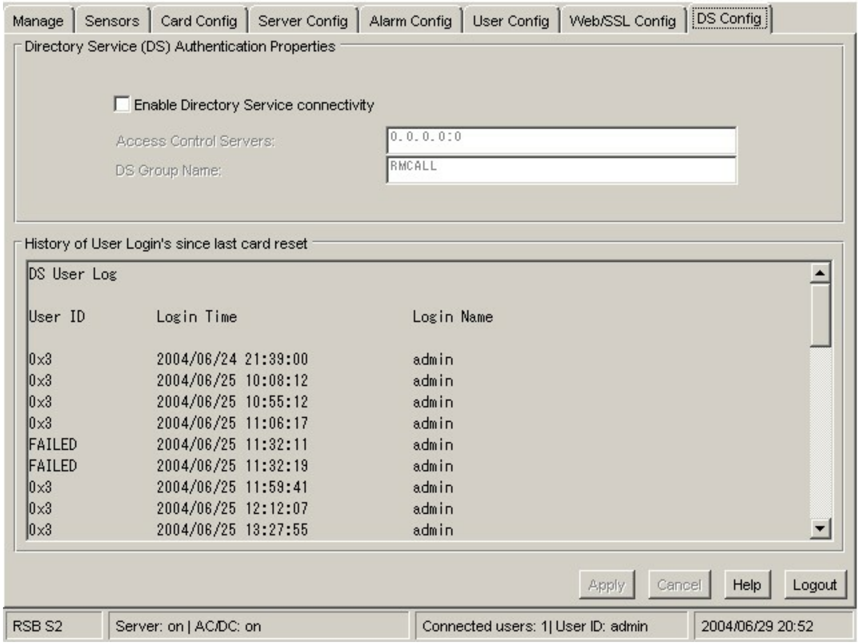
- 「Enforce Client Certificate」チェックボックスが有効でクライアント証明書を持っていない場合、リモートサービスボードへのログインができなくなります。このような場合、サーバブート処理中にリモートサービスボードメニュー（F3 キー押下）にアクセスし、設定を変更してください。

7.3.9 ［DS Config］ページ

ディレクトリサービス（DS 機能）コンポーネントは、既存のディレクトリサービスのデータベースで、リモートサービスボードにアクセスしているユーザの管理を行うことができます。
ユーザがリモートサービスボードにログインしようとしている場合に、リモートサービスボードは、内部のデータベースに該当するユーザが含まれているかのチェックを行います。
データベースに該当ユーザが含まれていない場合に、DS 機能が有効になっていると、リモートサービスボードはユーザの所在を既存のアクセスコントロールサーバに問い合わせます。
以下のようなユーザがリモートサービスボードにログインすることができます。

- リモートサービスボードの内部データベースで管理されているユーザ
- ディレクトリサービスのデータベースに登録されているグループに含まれるユーザ

DS Config ページには以下の機能があります。



表：DS Config ページの機能

項目	説明
Directory Service (DS) Authentication Properties	ディレクトリサービスの認証設定を行います。
Enable Service Directory connectivity	チェックを付けると、接続を許可するサーバ、およびグループを設定できます。
Access Control Servers	アクセスコントロールサーバの IP アドレス、またはサーバ名、およびリモートサービスボードの ACS ソフトウェアが応答するポート番号を設定します。 ・設定例 192.168.1.1:7777 server.yourcompany.com:8888 また、以下のように複数指定も可能です。 192.168.1.1:7777, server.yourcompany.com:8888
DS Group Name	ディレクトリサービスグループが属するディレクトリサービスグループ名を設定します。
History of User Login's since last card reset	ログインユーザの履歴が表示されます。 リモートサービスボードがリブートすると、この履歴はクリアされます。 以下の情報が表示されます。 ・ユーザ ID ・ログイン時間 ・ログイン名

第 8 章

リモートマネジメントコントローラの使用

8

この章ではリモートマネジメントコントローラの Web インターフェース機能および設定方法について説明します。

8.1　概要 452
8.2　準備 454
8.3　起動と終了 456
8.4　情報の参照と設定 460

8.1 概要

リモートマネジメントコントローラの Web インターフェースについて説明します。
本章でのリモートマネジメントコントローラとは、ベースボード（On Board）に搭載された Baseboad Management Controller（BMC）を指します。

8.1.1 対応機種と機能

● リモートマネジメントコントローラ の対応機種

リモートマネジメントコントローラは IPMI2.0 をサポートしており、以下のサーバで使用します。

- PRIMERGY RX300S3
- PRIMERGY RX200S3
- PRIMERGY TX200S3
- PRIMERGY TX150S5
- PRIMERGY RX100S4

● リモートマネジメントコントローラの Web インターフェースの機能

リモートマネジメントコントローラ の Web インターフェースには、以下の機能があります。

- システム情報の表示→「8.4.1 System Information」（P.460）
- サーバの操作（再起動、電源投入／切断）→「8.4.3 Power On/Off」（P.463）
- 各センサの状態表示（ファン、温度、電圧、電源）→「8.4.4 Sensors」（P.466）
- ログの表示→「8.4.5 System Event Log」（P.474）
- サーバ管理情報の表示と設定→「8.4.6 Server Management Information」（P.475）
- ネットワークの設定→「8.4.7 Network Settings」（P.477）
- アラート送信→「8.4.8 Alerting」（P.480）
- ユーザ情報の表示と設定→「8.4.9 User Management」（P.483）
- Video Redirection とリモートストレージ接続→「8.4.10 Console Redirection」（P.488）

重要

- リモートマネジメントコントローラは、ベースボード上では BMC（Baseboard Management Controller）の一部となるため、統合されて「iRMC」と表示されます。
- Video Redirection およびリモートストレージ接続の機能を使用するには、専用のライセンスキー（オプション品）が別途必要です。

8.1.2 留意事項

● セキュリティについて

リモートマネージメントコントローラの扱う情報の中には、管理者名等の個人情報や、その他の重要情報が含まれています。本装置を外部からアクセスできるドメインに設置する場合は、設定した情報が外部からアクセスされないようセキュリティに十分ご注意いただくと共に、設定する内容についても必要最小限に留めるようご対応をお願いします。

● その他の留意事項

- リモートマネジメントコントローラはハードウェア（サーバ本体）の一部です。Web インターフェースの表示は、すべて英語になります。
- Java™ 2 Runtime Environment Standard Edition V1.4.2_10 以降の JRE が必要です。
- リモートマネジメントコントローラアクセス用に IP アドレスが必要です（DHCP でも可能です）。
- 機種により、リモートマネジメントコントローラに接続する LAN ポートが決まっています。サーバ本体に添付の『ユーザーズガイド』を参照し、正しい LAN ポートに接続してください。
- シリアル接続による制御は、サーバ本体に添付の『ユーザーズガイド』を参照してください。
- 以下の接続方法および設定については、未サポートです。
  - ・Serial/Modem Alerting 機能
  - ・動作 Shell を「SMASH CLP/CLI」に設定した場合のリモートマネージャ接続、またはリモートマネージャ接続中に Shell を「SMASH CLP/CLI」に設定した場合の動作
- リモートマネジメントコントローラ の Web インターフェースでは、以下のブラウザのみをサポートします。
  - ・Winsows
    Microsoft Internet Explorer 6.0 以降
  - ・Linux
    Mozilla FireFox

8.2 準備

リモートマネジメントコントローラ の Web インターフェースおよびリモートマネージャへのアクセス用に、IP アドレス／ユーザ名／パスワードを設定します。

8.2.1 IP アドレスの設定

初期状態で DHCP が「無効」に設定されているため、IP アドレスの設定が必要です。
IP アドレスを個別に設定する場合は、Server Management Tools（IPMIview）や Web インターフェースを利用するか、BIOS セットアップユーティリティで設定してください。

POINT

- 現在設定されている IP アドレスが不明な場合は、Server Management Tools（IPMIview）で確認できます。

8.2.2 ユーザ名とパスワードの設定

リモートマネジメントコントローラへアクセスするためのユーザ名とパスワードは、初期状態で以下のように設定されています。

表：初期登録ユーザ名とパスワード

ユーザ名	パスワード	アクセスレベル / 動作 Shell 種別
admin	admin	OEM / RemoteManager

ユーザ名とパスワードを個別に設定する場合は、Server Management Tools（IPMIview）または Web インターフェースを利用して設定してください。

POINT

- 現在設定されているユーザ名／パスワードが不明な場合は、Server Management Tools（IPMIview）で確認できます。

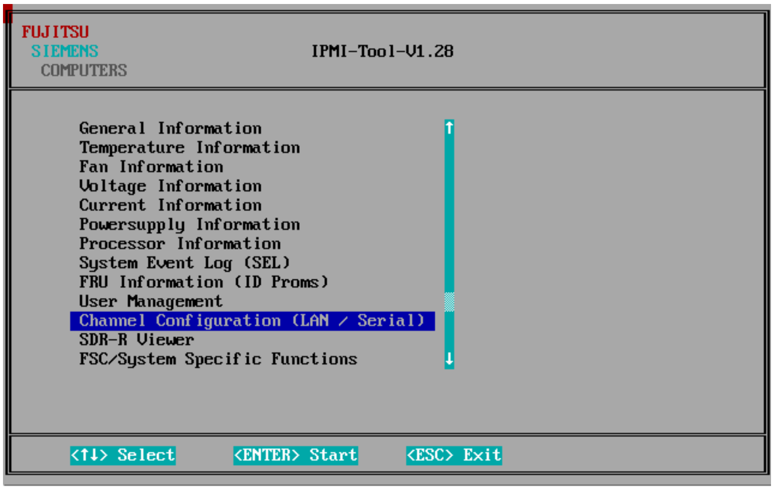
■ Server Management Tools（IPMIview）を使用した設定方法

Server Management Tools（IPMIview）を使用して、IP アドレス／ユーザ名／パスワードを設定する方法について説明します。

1 IPMIVIEW.exe が入った DOS の起動フロッピーディスクから IPMIVIEW を起動します。

```
>ipmiview.exe
```

2 IPMIVIEW のメニューより目的のメニューを選択します。



iRMC の IP アドレス設定

1. メニューより「Channel Configuration（LAN / Serial）」を選択します。
2. メニューより「2 802.3_LAN」を選択します。
3. 【F1】キー（General Settings）を押します。
4. 各項目を設定します。
   IPAddressSource には、3 を設定してください。
5. 【F1】キー（SetValues）を押して、設定を格納し終了します。

iRMC のユーザ名／パスワード設定

1. メニューより「User Management」を選択します。
2. ユーザ一覧より変更したいユーザ名（追加の場合は設定されていない番号）を選択します。
3. ユーザ名、パスワード、各権限を設定します。
4. 【F1】キー（SetValues）を押して、設定を格納し終了します。

3 【Esc】キーを押して、IPMIVIEW を終了します。

8.3 起動と終了

リモートマネジメントコントローラ の Web インターフェースの起動方法と終了方法について説明します。

POINT

- リモートマネジメントコントローラ の Web インターフェースでは、Java または JavaScript を使用します。Web ブラウザ側で、Java または JavaScript を使用できるように設定してください。
- 自サーバのリモートマネジメントコントローラ Web インターフェースを自サーバの OS 上からアクセスする際、iRMC の LAN ポートを OS の LAN ポートと共用している場合には、OS の該当 LAN ポートを無効に設定してください。

8.3.1 リモートマネジメントコントローラ Web インターフェースの起動

リモートマネジメントコントローラの Web インターフェースの起動には、Web ブラウザを使用します。

1 Web ブラウザを起動します。

2 Web ブラウザのアドレス欄に、以下のように入力します。

http を利用する場合

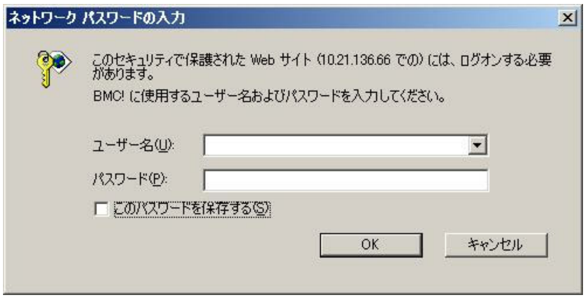
http://＜リモートマネジメントコントローラに設定したIP＞:＜ポート番号（デフォルトは80）＞

https を利用する場合

https://＜リモートマネジメントコントローラに設定したIP＞:＜ポート番号（デフォルトは443）＞

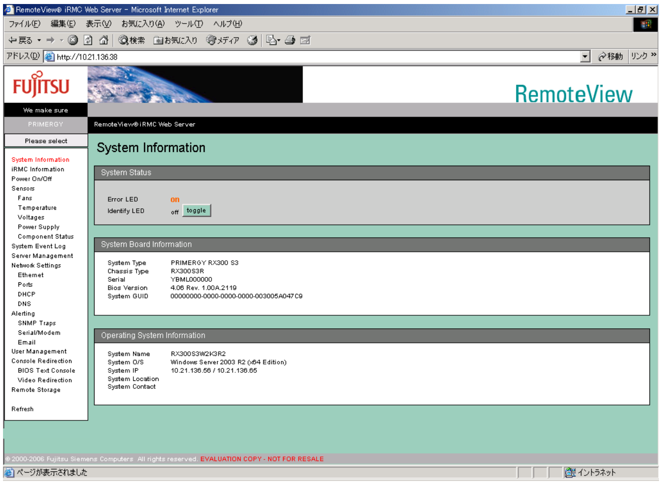
3 【Enter】キーを押します。

ネットワークパスワード画面が表示されます。



4　**リモートマネジメントコントローラに設定したユーザー名とパスワードを入力し、［OK］をクリックします。**

Web インターフェースのメイン画面が表示されます。



POINT

- RemoteControllService 画面からもリモートマネジメントコントローラ Web インターフェースを起動することができます。詳しくは、「5.3.2 RemoteControlService/Web の起動と終了（iRMC/BMC IPMI 接続）」（→ P.320）を参照してください。

■ Web インターフェースのメニュー一覧

表：Web インターフェースのメニュー

メニュー		説明
System Information		リモートマネジメントコントローラが動作しているシステムの情報を表示します。 →「8.4.1 System Information」（P.460）
iRMC Information		リモートマネジメントコントローラに関する表示、設定を行います。
Power On/Off		サーバの電源状態を表示します。また、サーバの電源の ON/OFF や再起動を行います。 →「8.4.3 Power On/Off」（P.463）
Sensors		サーバ内の各センサの状態を表示します。詳細については、各項目を参照してください。
	Fans	ファンの状態表示と異常時の動作設定を行います。 →「■ Fans」（P.466）
	Temperature	温度センサの状態表示と異常時の動作設定を行います。 →「■ Temperature」（P.468）
	Voltages	サーバ内の電圧と電流の状態を表示します。 →「■ Voltages and Current」（P.470）
	Power Supply	電源ユニットの状態を表示します。 →「■ Power Supply」（P.472）
	Component Status	各センサの状態を表示します。 →「■ Component Status (Lightpath)」（P.473）

表：Web インターフェースのメニュー

メニュー		説明
System Event Log		ベースボード上に格納されているシステムイベントログを表示します。 →「8.4.5 System Event Log」（P.474）
Server Management		サーバ管理情報を表示します。また、サーバの起動や再起動の設定を行います。 →「8.4.6 Server Management Information」（P.475）
Network Settings		リモートマネジメントコントローラのネットワークに関する設定を行います。詳細については、各項目を参照してください。
	Ethernet	リモートマネジメントコントローラの IP アドレス、サブネットマスクなどを設定します。 →「■ Ethernet」（P.478）
	Ports	ポート番号を設定します。 →「■ Ports」（P.478）
	DHCP	DHCP の設定を行います。 →「■ DHCP Settings」（P.479）
	DNS	DNS の設定を行います。 →「■ DNS Settings」（P.479）
Alerting		SNMP トラップや E-mail の送信設定を行います。詳細については、各項目を参照してください。
	SNMP Traps	SNMP トラップの送信設定を行います。 →「■ SNMP Trap Alerting」（P.480）
	Serial/Modem	シリアルポート／モデムの設定を行います。未サポートです。
	Email	送信する E-mail の設定を行います。 →「■ Email Alerting」（P.481）
User Management		リモートマネジメントコントローラにログインするユーザの情報を設定します。 →「8.4.9 User Management」（P.483）
Console Redirection		コンソールリダイレクションに関する設定、起動を行います。
	BIOS Text Console	RemoteControlService でコンソールリダイレクションを行う場合の設定を行います。
	Video Redirection	Video Redirection を起動します。リモートでコンソールのリダイレクションを行う場合の設定を行います。 また、リモートストレージの設定を行います。 →「8.4.10 Console Redirection」（P.488）
Remote Storage		リモートストレージ接続の状態を表示します。
Refresh		リモートマネジメントコントローラ の Web インターフェース画面の再読み込みを行います。 →「■ Web インターフェース画面の再読み込み」（P.458）

■ Web インターフェース画面の再読み込み

Web インターフェース画面の再読み込みを行いたい場合は、リモートマネジメントコントローラ の Web インターフェースのメニューから「Refresh」を選択します。

POINT

- Web インターフェース画面は、120 ～ 360 秒ごとに自動で再読み込みされます。更新間隔は、使用しているサーバ（iRMC バージョン）により異なります。変更はできません。

8.3.2 リモートマネジメントコントローラ Web インターフェースの終了

リモートマネジメントコントローラ の Web インターフェースを終了する場合は、Web ブラウザを終了させてください。Web ブラウザを終了させると、自動的にログオフされます。

8.4 情報の参照と設定

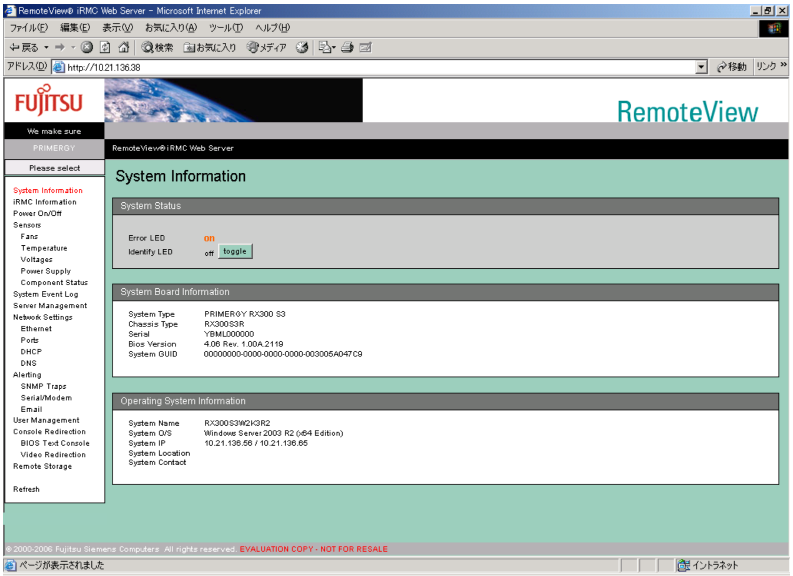
リモートマネジメントコントローラ の Web インターフェースの各画面の意味と設定について説明します。
各画面への切り替えは、Web インターフェースの左側にあるメニューで行います。

POINT

- メニューに表示されている項目のうち、「Alerting-Serial / Modem」については、未サポートです。

8.4.1 System Information

リモートマネジメントコントローラが動作しているシステムのシステム情報を表示させる場合は、リモートマネジメントコントローラ Web インターフェースのメニューから「System Information」を選択します。



各項目について説明します。

表：System Information に表示される項目の説明

項目	説明
System Status	システム LED の状態を表示します。
Error LED	サーバ前面の Error LED の点灯（On）/ 消灯（Off）が表示されます。
Identify LED	サーバのシステム識別灯の点灯（On）/ 消灯（Off）が表示されます。情報名の右側に表示されている［Toggle］をクリックすることによって、点灯（On）/ 消灯（Off）を切り替えることができます。

表：System Information に表示される項目の説明

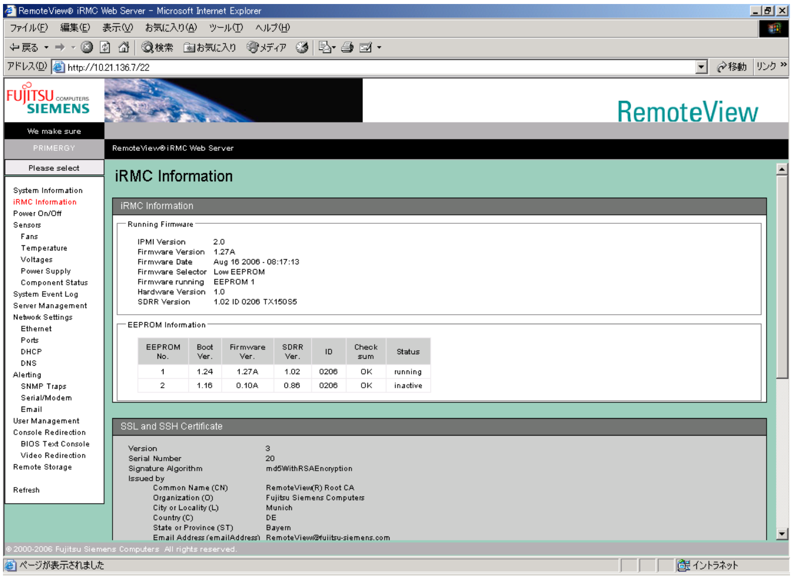
項目		説明
System Board Information		ベースボードの情報が表示されます。
	System Type	サーバのシステムタイプが表示されます。
	Chassis Type	サーバのシャーシタイプが表示されます。
	Serial	ベースボードのシリアル番号が表示されます。
	Bios Version	BIOS のバージョンが表示されます。
	System GUID	ベースボード ID が表示されます。
Operating System Information		OS の情報が表示されます。
	System Name	OS で設定されたサーバ名が表示されます。
	System O/S	OS の種類が表示されます。
	System IP	OS に設定された IP アドレスが表示されます。
	System Location	OS の SNMPService に設定されたシステムの場所が表示されます。
	System Contact	OS の SNMPService に設定された管理者名が表示されます。

POINT

- リモートマネジメントコントローラでは日本語のサポート機能がありませんので、System Location および System Contact に日本語を使用している場合、文字化けして表示されます。

8.4.2 iRMC Information

リモートマネジメントコントローラの情報表示、設定を行う場合は、リモートマネジメントコントローラ Web インターフェースのメニューから「iRMC Information」を選択します。

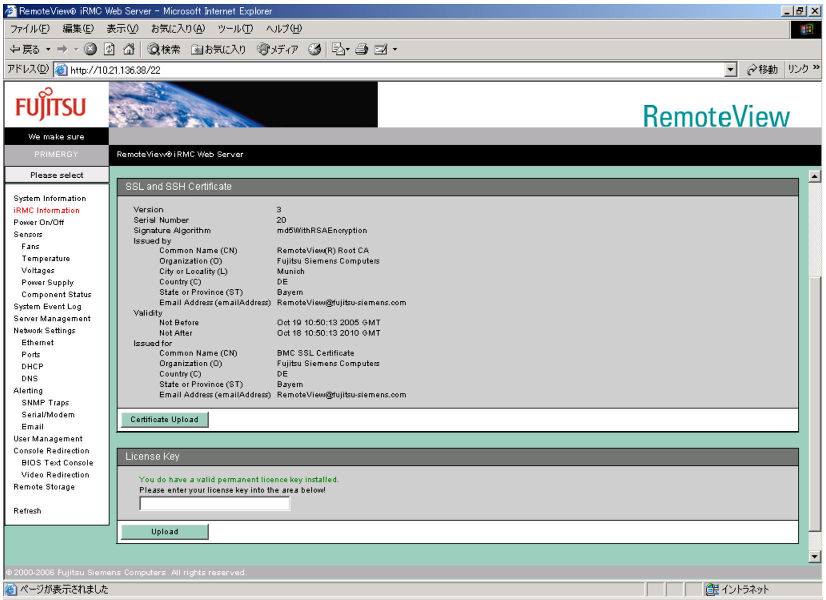


表：iRMC Information に表示される項目の説明

項目	説明
iRMC Information	iRMC の情報が表示されます。
IPMI Version	iRMC がサポートしている、IPMI のバージョンが表示されます。
Firmware Version	iRMC のバージョンが表示されます。
Firmware Date	iRMC ファームウェアの作成日が表示されます。
Firmware Selector	ファームウェアの位置（ROM 内）が表示されます。
Firmware running	動作中のファームウェア番号（ROM 内番号）が表示されます。
Hardware Version	サーバのハードウェアのバージョンが表示されます。
SDRR Version	センサ、しきい値を定義した情報のバージョンが表示されます。
EEPROM Information	ファームウェア格納 ROM 内の情報です。
SSL & SSH Certificate	SSL/SSH で使用される証明書が表示されます。

■ リモートマネジメントコントローラの設定

リモートマネジメントコントローラに関する各設定、操作を行います。



表：　リモートマネジメントコントローラに関する設定と操作

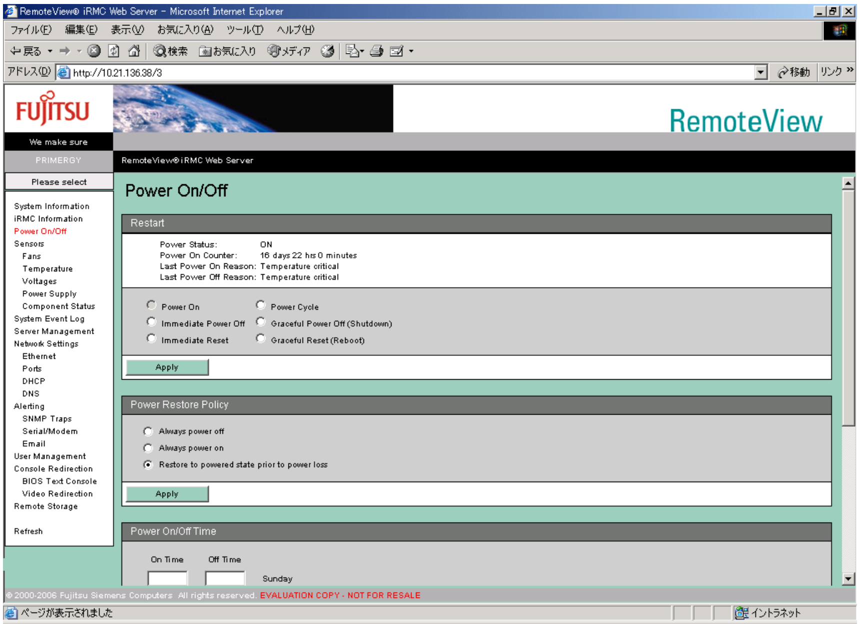
項目	説明
SSL&SSH Certificate	SSL/SSH で使用する証明書に関する情報が表示されます。
Certificate Upload	証明書の Upload を行います。
License Key	マネージメントコントローラのライセンスキーを操作します。
Upload	リモートマネジメントコントローラのライセンスを承認します。ライセンスが承認されると Video Redirection、RemoteStorage 機能が使用可能になります。

POINT

- ライセンスキー、およびライセンスの設定方法の詳細はリモートマネージメントコントローラアップグレードの取扱説明書を参照してください。ライセンスが承認されていない状態では Video Redirection、RemoteStorage 機能が使用できません。

8.4.3 Power On/Off

サーバの電源の ON/OFF、再起動などを行う場合は、リモートマネジメントコントローラ Web インターフェースのメニューから「Power On/Off」を選択します。



各項目について説明します。

表：Power On/Off に表示される項目の説明

項目		説明
Restart		現在の電源状態が表示されます。
	Power Status	現在のサーバの電源状態が On/Off で表示されます。
	Power On Counter	サーバの電源状態が「On」になってから現在までの、総稼働時間が表示されます。
	Last Power On Reason	前回のサーバの電源投入要因が表示されます。
	Last Power Off Reason	前回のサーバの電源切断要因が表示されます。
	Power On	選択して［Apply］をクリックすると、サーバの電源が入ります。
	Immediate Power Off	選択して［Apply］をクリックすると、システム情報などを保存せずに、ただちにサーバの電源が切断されます。
	Immediate Reset	選択して［Apply］をクリックすると、システム情報などを保存せずに、ただちにサーバがリセットされます。
	Power Cycle	選択して［Apply］をクリックすると、システム情報などを保存してから、サーバの電源が切断され、その直後に電源が投入されます。本機能は未サポートです。
	Graceful Power Off（Shutdown）	選択して［Apply］をクリックすると、システム情報などを保存してから、サーバの電源が切断されます。
	Graceful Reset（Reboot）	選択して［Apply］をクリックすると、システム情報などを保存してから、サーバの電源をリセットされます。
Power Restore Pollicy		停電などによってサーバの電源断が起こった場合の、電源復旧時の動作を設定します。設定したい動作を選択し、［Apply］をクリックします。
	Always Power off	サーバの電源断が起こった場合、サーバは電源復旧の動作を行いません。
	Always Power on	サーバの電源断が起こった場合、サーバは自動で電源復旧の動作を行います。
	Restore to powered state prior to power loss	サーバの電源断が起こる直前の状態に戻します。サーバの電源状態が「On」であった場合は自動で電源復旧の動作を行い、サーバの電源状態が「Off」であった場合は電源復旧の動作を行わず、電源断の状態を維持します。
Power On/Off Time		サーバが自動で行う電源投入の時刻と電源切断の時刻を、1 週間単位で設定します。詳細については、「■ Power On/Off Time」（→ P.465）を参照してください。

POINT

- 「Restart」の電源制御に関する動作選択は、サーバ状態により選択できない項目もあります。

■ Power On/Off Time

サーバが自動で行う電源投入の時刻と電源切断の時刻を、1週間単位で設定できます。

1 リモートマネジメントコントローラ Web インターフェースのメニューから「Power On/Off」を選択します。

「Power On/Off」画面が表示されます。

2 「Power On/Off Time」の各曜日の「On Time」に電源を投入する時刻、「Off Time」に電源を切断する時刻を入力します。

POINT

- 時刻は、hh:mm 形式（hh：00 ～ 23 の 2 桁の時、mm：00 ～ 59 の 2 桁の分）で入力します。

たとえば、毎週月曜日の朝 8 時 20 分にサーバの電源を投入し、夜 11 時 59 分に電源を切断するように設定したい場合は、以下のように入力します。

3 ［Apply］をクリックします。

POINT

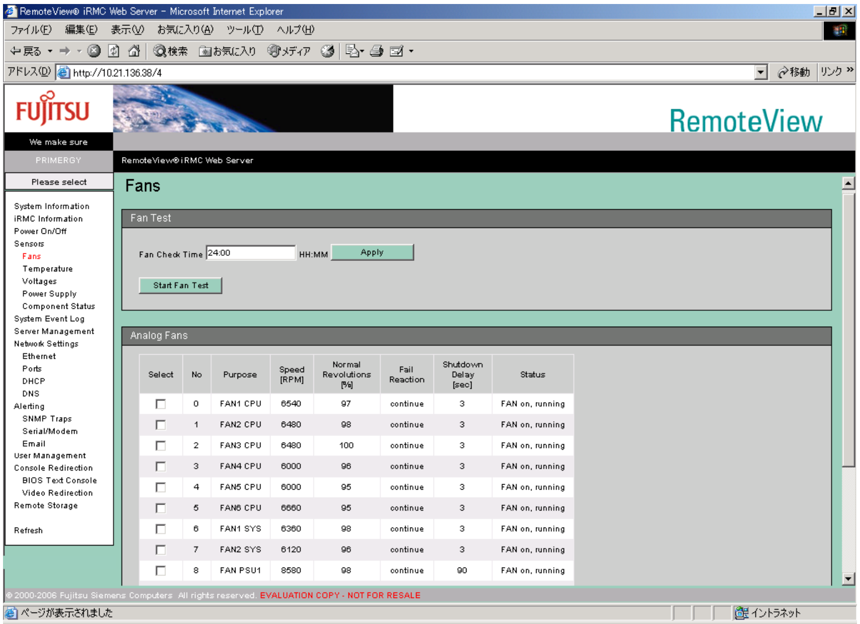
- サーバの電源投入と電源切断を行う時刻を、すべての曜日で共通に設定したい場合は、「Everyday」の「On Time」と「Off Time」に時刻を入力して、［Apply］をクリックしてください。
- 設定を無効にする場合は、入力してある設定時刻を消して、［Apply］をクリックしてください。

8.4.4 Sensors

サーバに搭載されたファン、温度センサ、電圧および電源ユニットの状態を参照できます。

■ Fans

サーバに搭載された各種ファン（CPU ファン、システムファン）の状態表示と異常時の動作設定を行う場合は、リモートマネジメントコントローラ Web インターフェースのメニューから「Fans」を選択します。



各項目について説明します。

表：Fans に表示される項目の説明

項目		説明
Fan Test		ファンの動作状態を調査する定時刻を設定します。「Fan Check Time」にファンの動作状態を調査する時刻を入力し、［Apply］をクリックします。時刻は、hh:mm 形式（hh：00 〜 23 の 2 桁の時、mm：00 〜 59 の 2 桁の分）で入力します。［Start Fan Test］をクリックすると、ただちに現在のファンの動作状態を調査します。
Analog Fans		現在のファンの状態が表示されます。また、ファンに異常が発生した場合の、システムの動作を設定します。
	Select	異常が発生した場合の対応動作を設定するファンを、チェックボックスにチェックをつけて選択します。対応動作の設定方法は、「● ファンに異常が発生した場合の動作設定」（→ P.467）を参照してください。
	No	ファンの通し番号が表示されます。
	Purpose	ファンのセンサ名が表示されます。
	Speed	現在のファン回転数が、RPM 形式で表示されます。
	Normal Revolutions	前回にファンの動作状態を調査したときの回転数を基準（100）にして、現在のファンの回転数との割合が表示されます。単位は％です。

表：Fans に表示される項目の説明

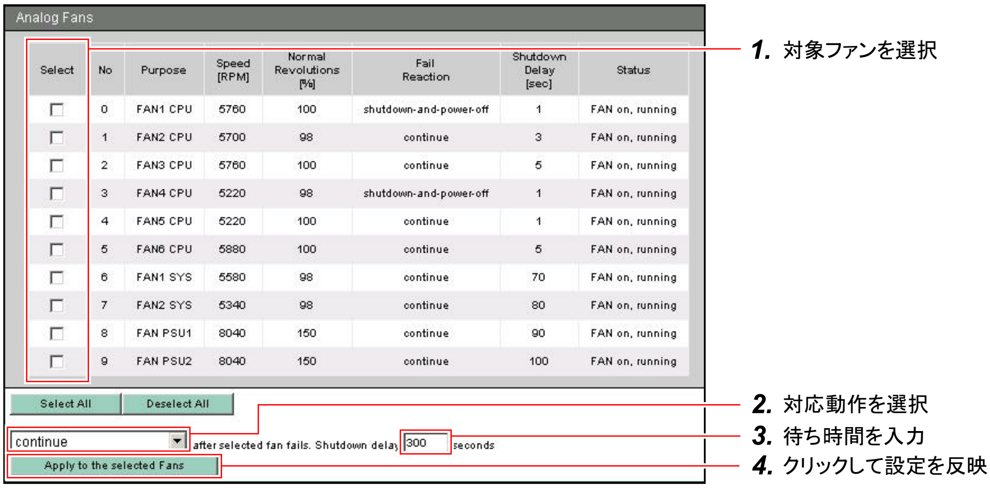
項目	説明
Fail Reaction	ファンに異常が発生した場合に、システムが行う対応動作の設定が表示されます。対応動作の設定方法は、「● ファンに異常が発生した場合の動作設定」（→ P.467）を参照してください。
Shutdown Delay	ファンに異常が発生した時間から、システムが対応を開始するまでの待ち時間が、秒単位で表示されます。対応動作の設定方法は、「● ファンに異常が発生した場合の動作設定」（→ P.467）を参照してください。
Status	現在のファンの状態（搭載／非搭載、稼動中／停止中）が表示されます。

POINT

- ファンの電源が切断されているなどの理由により、ファンの情報が取得できない場合は、空欄になる項目もあります。

● ファンに異常が発生した場合の動作設定

ファンに異常が発生した場合に、システムが対応する動作を設定します。



1 「Select」欄から、設定対象のファンのチェックボックスをクリックして、チェックをつけます。

POINT

- このとき、[Select All] をクリックすると、表示されているすべてのファンが選択できます。また、[Deselect All] をクリックすると、現在選択しているすべてのファンの選択を解除できます。

2 下段に表示されている動作設定リストから、「Continue」または「shutdown-and-power-off」を選択します。

表：ファン動作設定項目

動作	説明
Continue	ファンの異常を検知した場合も、システムはそのまま動作を続けます。
shutdown-and-power-off	ファンの異常を検知した場合は、設定した待ち時間（この待ち時間は、次の手順で設定します）が経過するまでは、システムはそのまま動作を続けます。そのあと、待ち時間を経過しても異常から復旧しない場合は、システムは自動でシャットダウンを行います。

3 システムがファン異常への対応を開始するまでの、待ち時間を入力します。

単位は sec（秒）です。0 ～ 300 までの数値を入力できます。

4 ［Apply to the selected Fans］をクリックして、各設定値を反映させます。

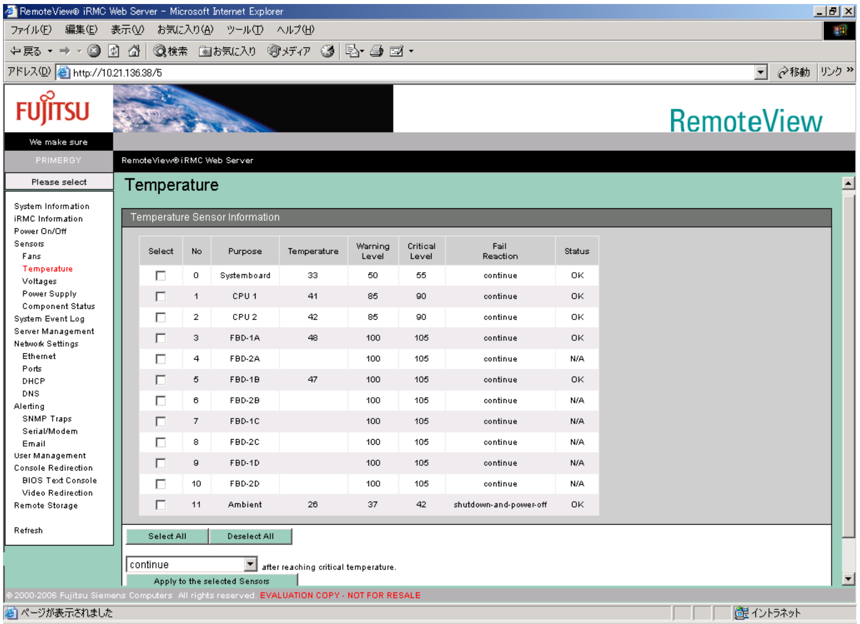
画面上の各項目で、設定値が反映されたことを確認してください。

・対応動作の設定→「Fail Reaction」欄

・待ち時間の設定→「Shutdown Delay」欄

■ Temperature

サーバ内の各温度センサの状態表示と異常時の動作設定を行う場合は、リモートマネジメントコントローラ Web インターフェースのメニューから「Temperature」を選択します。



各項目について説明します。

表：Temperature に表示される項目の説明

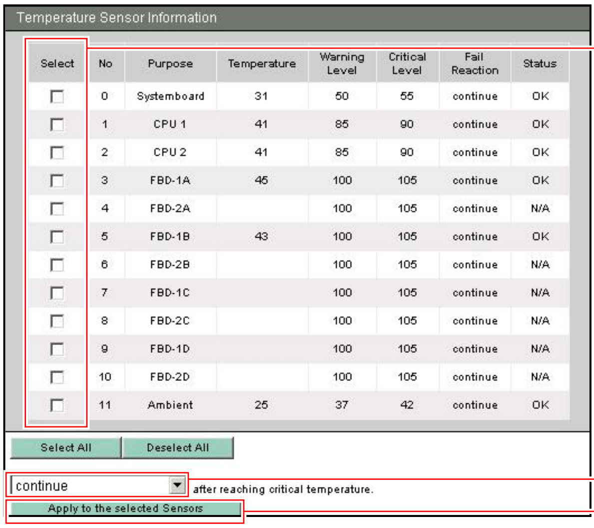
項目		説明
Temperature Sensor Information		現在の温度センサの状態が表示されます。また、温度異常が発生した場合のシステムの動作を設定します。
	Select	温度異常が発生した場合、対応動作を設定する温度センサを、チェックボックスにチェックをつけて選択します。対応動作の設定方法は、「● 温度異常が発生した場合の動作設定」（→ P.469）を参照してください。
	No	温度センサの通し番号が表示されます。
	Purpose	温度センサ名が表示されます。
	Temperature	現在の温度値が表示されます。
	Warning Level	警告レベルの温度値が表示されます。
	Critical Level	異常レベルの温度値が表示されます。
	Fail Reaction	温度異常が発生した場合に、システムが行う対応動作の設定が表示されます。対応動作の設定方法は、「● 温度異常が発生した場合の動作設定」（→ P.469）を参照してください。
	Status	現在の温度値から、異常な状態かどうかが判断されて表示されます。 ・OK：問題ありません。 ・N/A：未接続。 ・Warning：警告。 ・Critical：異常。

POINT

- 温度情報が取得できない場合は、空欄になる項目もあります。

● 温度異常が発生した場合の動作設定

温度異常が発生した場合に、システムが対応する動作を設定します。



Select	No	Purpose	Temperature	Warning Level	Critical Level	Fail Reaction	Status
	0	Systemboard	31	50	55	continue	OK
	1	CPU 1	41	85	90	continue	OK
	2	CPU 2	41	85	90	continue	OK
	3	FBD-1A	45	100	105	continue	OK
	4	FBD-2A		100	105	continue	N/A
	5	FBD-1B	43	100	105	continue	OK
	6	FBD-2B		100	105	continue	N/A
	7	FBD-1C		100	105	continue	N/A
	8	FBD-2C		100	105	continue	N/A
	9	FBD-1D		100	105	continue	N/A
	10	FBD-2D		100	105	continue	N/A
	11	Ambient	25	37	42	continue	OK

1. 対象温度センサを選択

2. 対応動作を選択

3. クリックして設定を反映

1 「Select」欄から、設定対象の温度センサのチェックボックスをクリックして、チェックをつけます。

POINT

- このとき、［Select All］をクリックすると、表示されているすべての温度センサが選択できます。また、［Deselect All］をクリックすると、現在選択しているすべての温度センサの選択を解除できます。

2 下段に表示されている動作設定リストから、「Continue」または「shutdown-and-power-off」を選択します。

表：温度センサ動作設定項目

動作	説明
Continue	温度異常を検知した場合も、システムはそのまま動作を続けます。
shutdown-and-power-off	温度異常を検知した場合は、システムが自動でシャットダウンを行います。

3 ［Apply to the selected Sensors］をクリックして、設定値を反映させます。

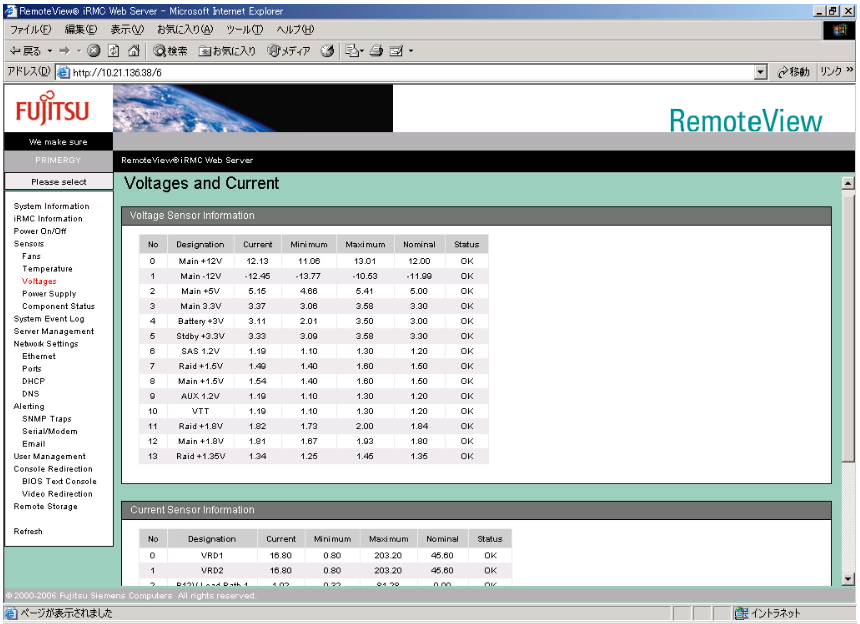
「Fail Reaction」欄で、設定値が反映されたことを確認してください。

POINT

- 温度異常時における、対応動作までの待ち時間の設定はありません。異常を検知した場合、ただちに対応動作を行います。

■ Voltages and Current

サーバ内の各電圧値を表示させる場合は、リモートマネジメントコントローラ Web インターフェースのメニューから「Voltages」を選択します。



各項目について説明します。

表：Voltages に表示される項目の説明

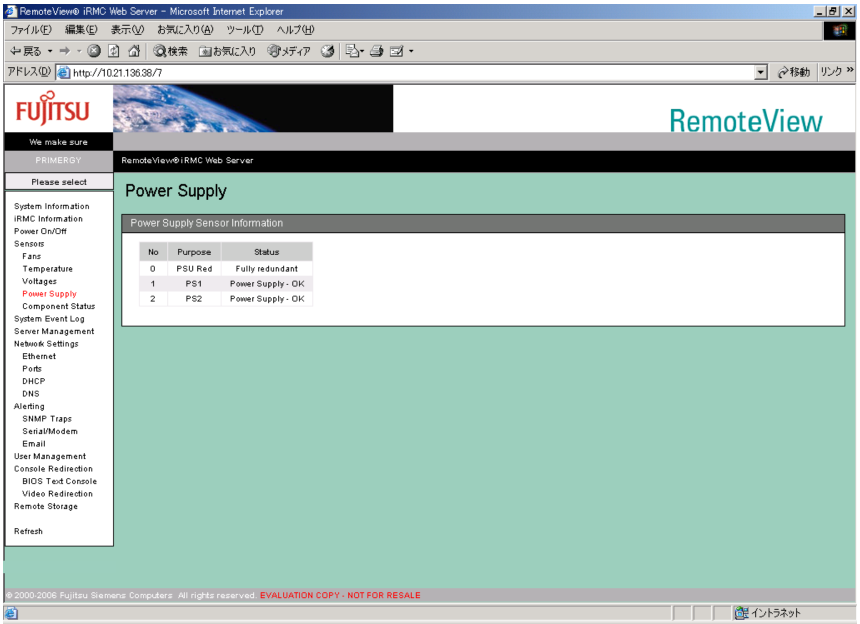
項目		説明
Voltage Sensor Information		電圧センサに関する情報です。
	No	電圧センサの通し番号が表示されます。
	Designation	電圧センサ名が表示されます。
	Current	現在の電圧値が表示されます。
	Minimum	許容最小電圧値が表示されます。
	Maximum	許容最大電圧値が表示されます。
	Nominal	規定された電圧値が表示されます。
	Status	現在の電圧値から、異常な状態かどうかが判断されて表示されます。 ・OK：問題ありません。 ・N/A：未接続またはディジタルセンサ（On/OFF のみ）。 ・Upper-Warning：上限警告。 ・Lower-Warning：下限警告。
Current Sensor Information		電流センサに関する情報です。
	No	電流センサの通し番号が表示されます。
	Designation	電流センサ名が表示されます。
	Current	現在の電流値が表示されます。
	Minimum	許容最小電流値が表示されます。
	Maximum	許容最大電流値が表示されます。
	Nominal	規定された電流値が表示されます。
	Status	現在の電流値から、異常な状態かどうかが判断されて表示されます。 ・OK：問題ありません。 ・N/A：未接続またはディジタルセンサ（On/OFF のみ）。 ・Upper-Warning：上限警告。 ・Lower-Warning：下限警告。

POINT

- 「Voltages」では、異常時におけるシステムの対応動作の設定はありません。

■ Power Supply

サーバに搭載されている電源ユニット（PSU）の状態を表示させる場合は、リモートマネジメントコントローラ Web インターフェースのメニューから「Power Supply」を選択します。



各項目について説明します。

表：Power Supply に表示される項目の説明

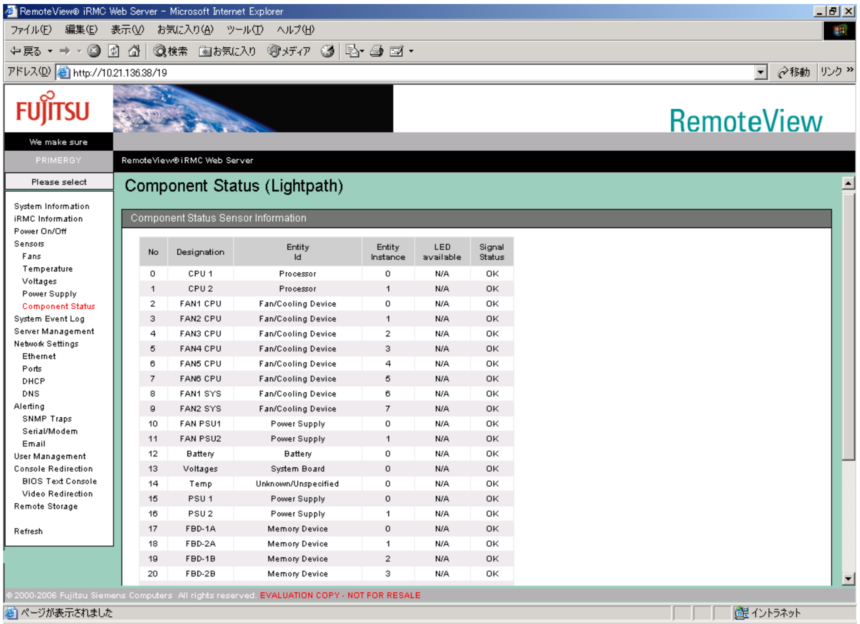
項目	説明
No	電源ユニットの通し番号が表示されます。
Purpose	電源ユニット名が表示されます。
Status	電源ユニットの状態が表示されます。

POINT

- 電源ユニットが冗長構成の場合、冗長の状態を示すセンサも表示されます。上記の画面例では、No. 0 の「PSU Red」が冗長状態センサです。

■ Component Status (Lightpath)

サーバ内の各センサの状態を表示させる場合は、リモートマネジメントコントローラ Web インターフェースのメニューから「Component Status」を選択します。



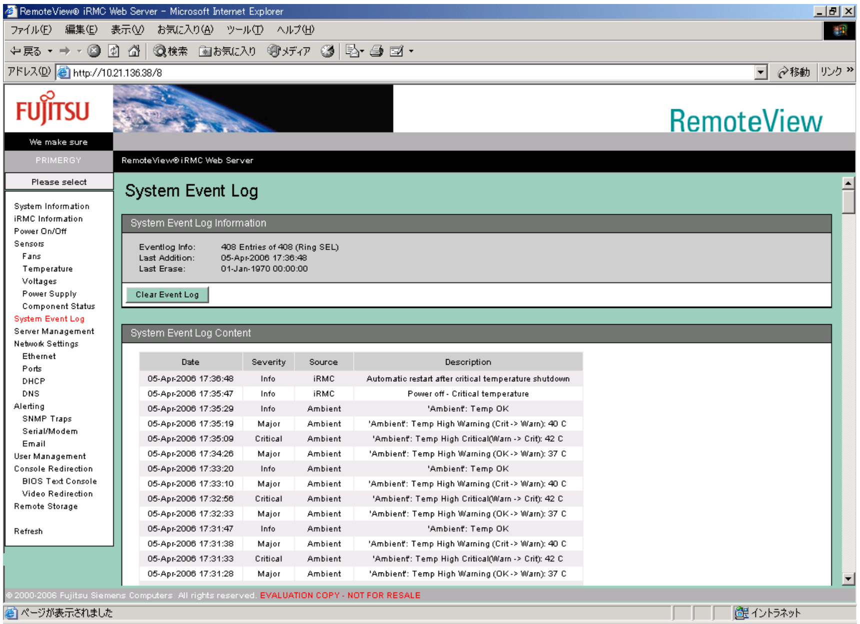
各項目について説明します。

表：Component Status Sensor Information に表示される項目の説明

項目		説明
Component Status Sensor Information		
	No	センサの通し番号が表示されます。
	Designation	センサ名が表示されます。
	Entity Id	センサの種類が表示されます。
	Entity Instance	センサの種類別における、通し番号が表示されます。
	LED available	センサ LED の点灯状況が表示されます。
	Signal Status	センサの状態が表示されます。

8.4.5 System Event Log

ベースボード上に格納されるイベントログ（SEL）を表示させる場合は、リモートマネジメントコントローラ Web インターフェースのメニューから「System Event Log」を選択します。



現在ベースボードに格納されている、すべてのシステムイベントログが表示されます。
各項目について説明します。

表：System Event Log に表示される項目の説明

項目		説明
System Event Log Information		イベントログに関する情報が表示されます。［Clear Event Log］をクリックすると、すべてのイベントログがクリアされます。
	Eventlog Info	現在のイベントログ数が表示されます。
	Last Addition	最後にログされた日時が表示されます。
	Last Erase	イベントログがクリアされた日時が表示されます。
	［Clear Event Log］	SystemEventLog の内容を消去します。
System Event Log Content		イベントログ一覧
	Date	イベントの発生日時が表示されます。
	Severity	イベントの重要度が表示されます。重要度は低い順から、Info / Minor / Major / Critical の 4 段階があります。
	Source	イベントの発生元が表示されます。
	Description	発生したイベント内容が表示されます。

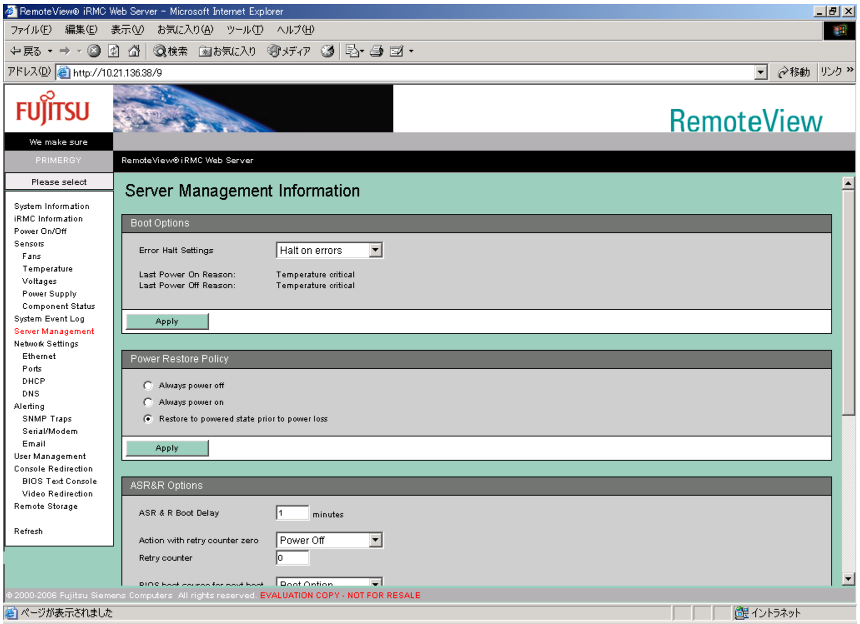
POINT

- システムイベントログの最大格納数は 256 ～ 512 個ほどで、サーバ（BIOS）により異なります。
- システムイベントログの格納方法（上書きなど）は、サーバ本体に添付の『ユーザーズガイド』を参照してください。

8.4.6 Server Management Information

サーバ管理情報の表示と設定を行う場合は、リモートマネジメントコントローラ Web インターフェースのメニューから「Server Management」を選択します。

サーバによっては、設定できる内容に制約がある場合があります。詳細はサーバ本体に添付の『ユーザーズガイド』を参照してください。



各項目について説明します。

表：Server Management Information に表示される項目の説明

項目	説明
Boot Options	サーバの起動に関する設定を行います。各設定値を入力／選択後に、［Apply］をクリックすることで設定値が反映されます。 ここで設定する情報は、サーバの BIOS セットアップユーティリティにも反映されます。
Error Halt Settings	起動時にエラーが発生した場合のサーバの対応動作を設定します。 設定値は以下の 2 種類があり、リストからどちらかを選択して［Apply］をクリックします。
Continue	起動時にエラーが発生しても、起動処理を続けます。
Halt on errors	起動時にエラーが発生すると、オペレータの介入があるまで起動を停止します。
Last Power On Reason	前回のサーバの電源投入要因が表示されます。
Last Power Off Reason	前回のサーバの電源切断要因が表示されます。

表：Server Management Information に表示される項目の説明

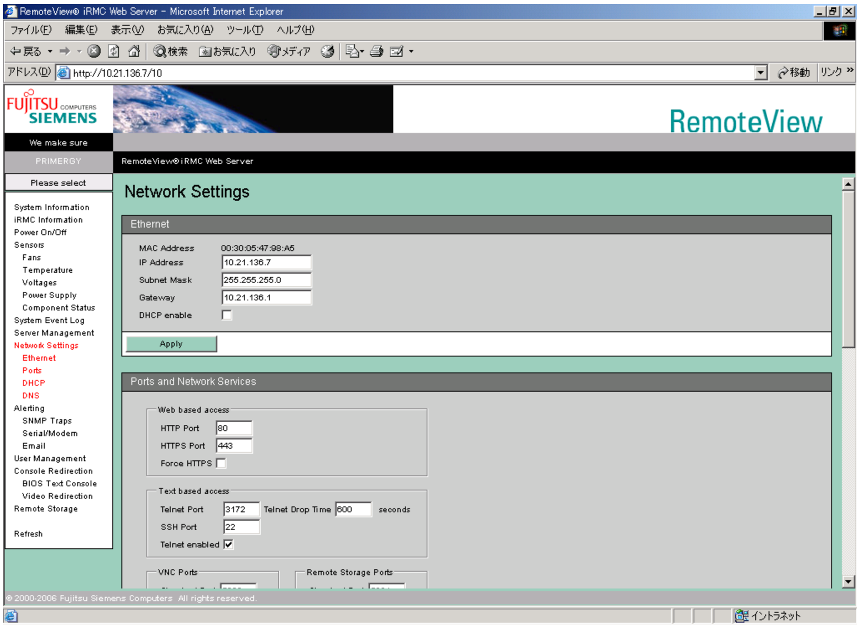
項目	説明
Power Restore Policy	停電などの不慮の事故によってサーバの電源断が起こった場合に、サーバの電源復旧時の動作を設定します。項目の中から設定したい動作を選択し、［Apply］をクリックします。 同様の設定は、「8.4.3 Power On/Off」（→ P.463）で行うこともできます。
Always Power off	サーバの電源断が起こった場合、サーバは電源復旧の動作を行いません。
Always Power on	サーバの電源断が起こった場合、サーバは自動で電源復旧の動作を行います。
Restore to powered state prior to power loss	サーバの電源断が起こる直前の状態に戻します。サーバの電源状態が「On」であった場合は自動で電源復旧の動作を行い、サーバの電源状態が「Off」であった場合は電源復旧の動作を行わず、電源断の状態を維持します。
ASR&R Options	サーバの再起動に関する設定を行います。ここで設定する情報は、サーバの BIOS セットアップユーティリティにも反映されます。
ASR & R Boot Delay	ファン異常、または温度異常によるシャットダウンが行われた後、ここで設定した時間（単位：分）が経過すると、サーバは自動で電源を投入します。ただし、「Retry Counter」の設定値が 0 の場合は、「Action with retry counter zero」の設定に従った動作を行います。
Action with retry counter zero	「Retry Counter」が "0" の場合の動作を設定します。
Power Off	サーバは電源投入を行いません。電源断の状態を維持します。
Start Diagnostic IDE Disk	診断システム HDD を起動します。未サポートです。
Boot PXE	PXE 装置から起動します。
Boot iRMC Remote Image	RemoteStorage（USB 指定）から起動します。
Retry Counter	異常が発生し、サーバがシャットダウンされた後の自動再起動回数を、0 ～ 7 の間で設定します。このカウンタ値は、ファン異常、温度異常、OS Watchdog Timeout、Boot Watchdog Timeout で再起動が行われるたびに、1 づつ減少します。カウンタ値が 0 になると、サーバは「Action with retry counter zero」で設定した動作を行います。
BIOS boot source for next boot	次回サーバ起動時の起動オプションを設定します。
Boot Option	通常の起動を行います。
Diagnostic System	診断システムメニューを起動します。未サポートです。
BIOS recovery flash bit	BIOS の自動書き換えを設定します。
Enabled	自動書き換えを有効にします。BIOS 自動書き換えエリアに書き換え対象の BIOS イメージが設定されている場合、自動的に BIOS の書き換えが行われます。未サポートです。
Disabled	自動書き換えを無効にします。
Power Cycle Delay	PowerCycle 実行時に、PowerOff から PowerOn を行うまでの時間を 0 ～ 15（単位は秒）で設定します。

表：Server Management Information に表示される項目の説明

項目	説明
Watchdog Settings	指定した時間内に OS からの応答がない場合や、Boot が終了しなかった場合の動作を設定します。ここで設定する情報は、サーバの BIOS セットアップユーティリティにも反映されます。
Enabled	Software Watchdog ／ Boot Watchdog を有効にします。
Software Watchdog	OS からの応答の有無監視をします。
Power Cycle	タイムアウト時に、PowerOff ／ On を行います。
Reset	タイムアウト時に、サーバの再起動を行います。
Continue	タイムアウト時に、何も行いません。
Boot Watchdog	Boot（BIOS 終了後から OS が起動されるまで）の時間を監視します。
Power Cycle	タイムアウト時に、PowerOff ／ On を行います。
Reset	タイムアウト時に、サーバの再起動を行います。
Continue	タイムアウト時に、何も行いません。
タイムアウト時間指定	1 〜 120 まで指定できます（単位は分）。サーバ（BIOS）により、最大設定時間や指定できる値が異なります。

8.4.7　Network Settings

リモートマネジメントコントローラのネットワークに関する設定を行う場合は、リモートマネジメントコントローラ Web インターフェースのメニューから「Network Settings」を選択します。



POINT

- メニューの「Network Settings」配下の「Ethernet」、「Ports」、「DHCP」、「DNS」を選択すると、各項目の先頭に移動することができます。

■ Ethernet

リモートマネジメントコントローラの IP アドレス、サブネットマスクなどを指定します。各設定値を入力後、［Apply］をクリックすることで、設定値が反映されます。
ここで設定する情報は、サーバの BIOS セットアップユーティリティにも反映されます。
各項目について説明します。

表：Ethernet に表示される項目の説明

項目	説明
MAC Address	リモートマネジメントコントローラに搭載された、LAN の MAC アドレスが表示されます。
IP Address	リモートマネジメントコントローラの IP アドレスを指定します。IP アドレスを入力後、［Apply］をクリックして設定します。
Subnet Mask	リモートマネジメントコントローラのサブネットマスクを指定します。サブネットマスクを入力後、［Apply］をクリックして設定します。
Gateway	リモートマネジメントコントローラのゲートウェイアドレスを指定します。ゲートウェイアドレスを入力後、［Apply］をクリックして設定します。
DHCP	リモートマネジメントコントローラの Ethernet 設定に DHCP を使用する場合に、チェックします。 設定を有効にすると、上記の設定値より DHCP が優先されるようになります。

■ Ports

各アクセスのポート番号を指定します。各設定値を入力後、［Apply］をクリックすることで、設定値が反映されます。空欄にすると、その項目は無効になります。
各項目について説明します。

表：Ports に表示される項目の説明

項目		説明
Web based access		
	HTTP Port	HTTP へアクセスする際のポート番号を指定します。デフォルトでは「80」に設定されています。
	HTTPS Port	HTTPS へアクセスする際のポート番号を指定します。デフォルトでは「443」に設定されています。
	Force HTTPS	HTTPS 接続のみを有効にする場合、チェックします。デフォルトでは「無効」に設定されています。
Text based access		
	Telnet Port	Telnet へアクセスする際のポート番号を指定します。デフォルトでは「3172」に設定されています。
	Telnet Drop Time	Telnet 接続時の自動切断時間（秒）を指定します。デフォルトでは「600」に設定されています。
	SSH Port	SSH 経由でアクセスを行う場合のポート番号を指定します。デフォルトでは「22」に設定されています。
	Telnet enabled	Telnet 接続を有効にする場合、チェックします。デフォルトでは「有効」に設定されています。

表：Ports に表示される項目の説明

項目		説明
VNC Ports		
	Standard Port	Video Redirection を行う場合のポート番号を表示します。デフォルトは「5900」です（変更不可）。
	Secure Port	Video Redirection で SSH/SSL を使用する場合のポート番号を表示します。デフォルトは「5910」です（変更不可）。
Remote Storage Ports		
	Standard Port	Video Redirection で Remote Storage を接続する場合のポート番号を表示します。デフォルトは「5901」です（変更不可）。
	Secure Port	Video Redirection で Remote Storage を SSH/SSL で接続する場合のポート番号を表示します。デフォルトは「5911」です（変更不可）。
Keyboard/Mouse Ports		
	Standard Port	Video Redirection で Keyboard/Mouse を接続する場合のポート番号を表示します。デフォルトは「5902」です（変更不可）。
	Secure Port	Video Redirection で Keyboard/Mouse を SSH/SSL で接続する場合のポート番号を表示します。デフォルトは「5904」です（変更不可）。
Video Ports		
	Standard Port	コンソール画面転送用のポート番号を表示します。デフォルトは「5903」です（変更不可）。
	Secure Port	コンソール画面転送を SSH/SSL で行う場合のポート番号を表示します。デフォルトは「5913」です（変更不可）。

■ DHCP Settings

DHCP に関する設定を行います。各設定値を入力後、[Apply] をクリックすることで、設定値が反映されます。
各項目について説明します。

表：DHCP Settings に表示される項目の説明

項目	説明
Register DHCP Address in DNS	有効に設定すると、DNS へ DHCP 取得アドレスを登録します。
Use iRMC Name instead of Hostname	有効に設定すると、「iRMC Name」ボックスに入力された文字を DNS 登録名として使用します。
Add Serial Number	有効に設定すると、DNS 登録名にシリアル番号を付加します。
Add Extension	有効に設定すると、「Extension」ボックスに入力された文字を DNS 登録名の最後に付加します。
DNS Name	DNS への登録名が表示されます。

■ DNS Settings

DNS に関する設定を行います。各設定値を入力後、[Apply] をクリックすることで、設定値が反映されます。

各項目について説明します。

表：Network Settings に表示される項目の説明

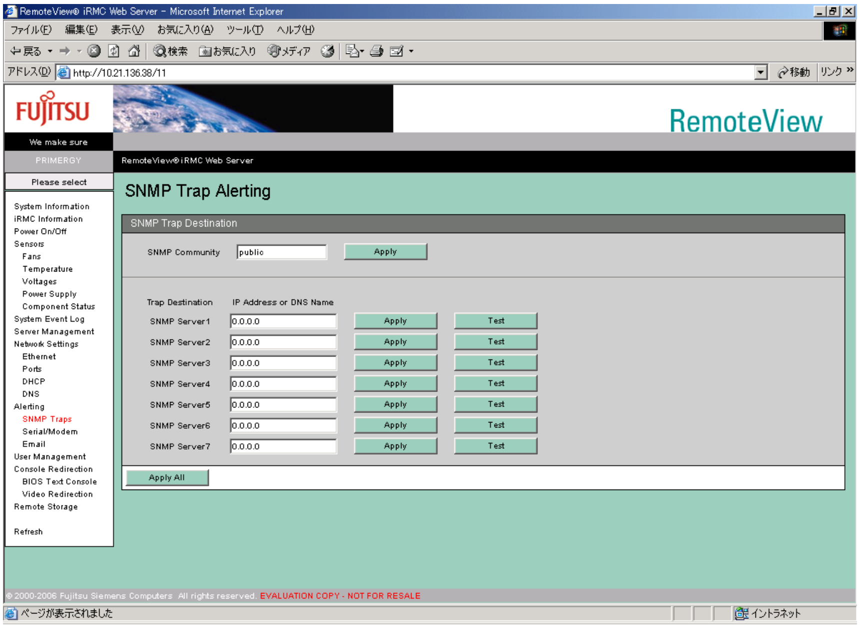
項目	説明
DNS enabled	有効に設定すると、名前の解決に DNS を使用します。
Obtain DNS configuration from DHCP	有効に設定すると、DHCP から DNS の設定を取得します。
DNS Domain	DNS ドメインを設定します。
DNS Server 1 ～ 5	DNS サーバ 1 ～ 5 の IP を設定します。

8.4.8 Alerting

SNMP トラップおよび E-mail の送信設定を行います。また、SNMP トラップの送信履歴を参照できます。

■ SNMP Trap Alerting

SNMP トラップの送信設定を行う場合は、リモートマネジメントコントローラ Web インターフェースのメニューから「SNMP Traps」を選択します。



各項目について説明します。

表：SNMP Trap Alerting に表示される項目の説明

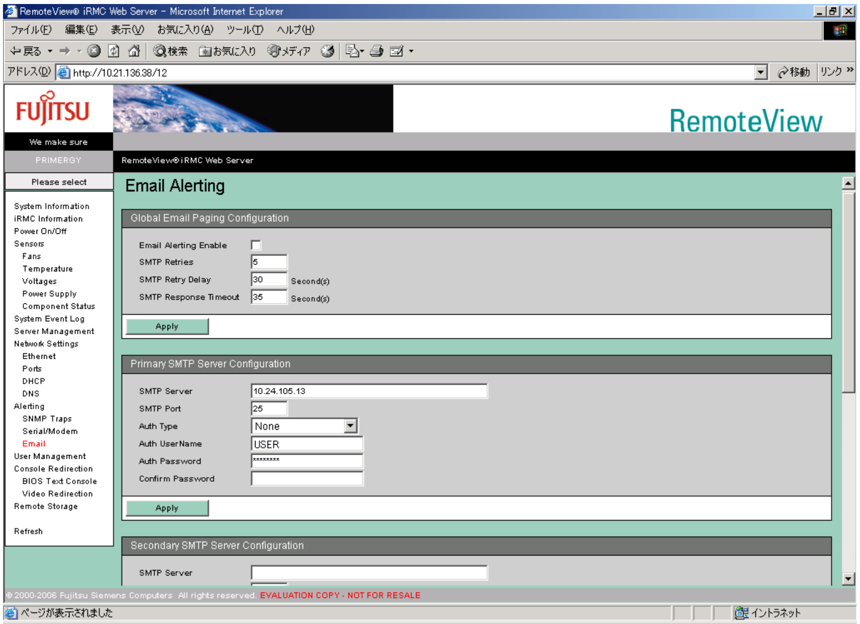
項目	説明
SNMP Trap Destination	各設定値を入力後、[Apply All] をクリックすることで、すべての設定値が反映されます。
SNMP Community	SNMP トラップ送信時のコミュニティ名を設定します。デフォルトは「Public」に設定されています。コミュニティ名を入力後、［Apply］をクリックして決定します。受信サーバでトラップを受信するには、SNMP 受信のコミュニティ名が同じ名前になっている必要があります。
Trap Destination 　　SNMP Server 1 ～ 7	SNMP トラップの送信先サーバ（Trap 受信サーバ）の IP アドレスを指定します。送信先サーバは 7 カ所まで指定可能です。送信先サーバの IP アドレスを入力後、［Apply］をクリックし、設定を反映します。DNS を有効に設定してある場合は、IP の代わりにサーバ名を設定することもできます。［Test］をクリックすると、設定したサーバに対し Test トラップを送信します。

POINT

▶ Serial/Modem Alarting は未サポートです。

■ Email Alerting

E-mail の設定を行う場合は、リモートマネジメントコントローラ Web インターフェースのメニューから「Email」を選択します。



各項目について説明します。

表：Email Alerting に表示される項目の説明

項目	説明
Global Email Paging Configuration	SMTP サーバに対する設定を行います。各設定値を入力後、［Apply］をクリックすることで、設定値が反映されます。
Email Alerting Enable	SMTP サーバに対する設定の有効／無効を設定します。
SMTP Retries	E-mail 送信エラーとなった場合の、リトライ回数を設定します。
SMTP Retry Delay	リトライを行う間隔（単位：秒）を設定します。
SMTP Response Timeout	SMTP サーバからのレスポンス待ち時間（単位：秒）を設定します。
Primary SMTP Server Configuration	プライマリ SMTP サーバの設定を行います。
SMTP Server	プライマリ SMTP サーバの IP（DNS 有効であればサーバ名でも可）を設定します。
SMTP Port	プライマリ SMTP で使用するポート番号を設定します。
Auth Type	SMTP サーバのユーザ認証タイプを設定します。
NONE	SMTP サーバはユーザ認証を行いません。
SMTP AUTH(RFC2554)	SMTP サーバは RFC2554 に定義されたユーザ認証処理を行います。 未サポートです。
Auth UserName	ユーザ認証を行うユーザ名を設定します。Auth Type で NONE を指定した場合にはこの項目は設定しないでください。
Auth Password	Auth UserName に対するパスワードを設定します。
Confirm Password	パスワードの再入力を行います（確認用）。
Secondary SMTP Server Configuration	セカンダリ SMTP サーバの設定を行います。
SMTP Server	セカンダリ SMTP サーバの IP（DNS 有効であればサーバ名でも可）を設定します。
SMTP Port	セカンダリ SMTP で使用するポート番号を設定します。
Auth Type	SMTP サーバのユーザ認証タイプを設定します。
NONE	SMTP サーバはユーザ認証を行いません。
SMTP AUTH(RFC2554)	SMTP サーバは RFC2554 に定義されたユーザ認証処理を行います。 未サポートです。
Auth UserName	ユーザ認証を行うユーザ名を設定します。Auth Type で NONE を指定した場合にはこの項目は設定しないでください。
Auth Password	Auth UserName に対するパスワードを設定します。
Confirm Password	パスワードの再入力を行います（確認用）。
Mail Format dependend Configuration	E-mail の送信フォーマットを設定します。各設定値を入力後、［Apply］をクリックすることで、設定値が反映されます。
From	送信元の名前を設定します。
Subject	E-mail の題名を設定します。ただし、設定が有効になるのは ITS フォーマット時のみです。
Message	E-mail 本文に付加するメッセージを設定します。ただし、設定が有効になるのは ITS フォーマット時のみです。

表：Email Alerting に表示される項目の説明

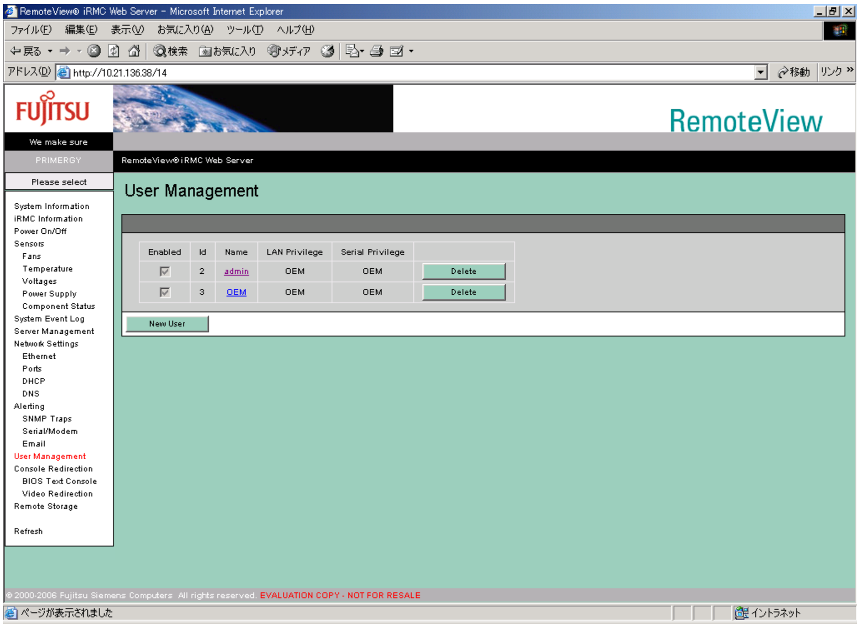
項目	説明
Admin.Name	送信元の管理者名を設定します。ただし、設定が有効になるのは ITS フォーマット時のみです。
Admin.Phone	送信元の管理者電話番号を設定します。ただし、設定が有効になるのは ITS フォーマット時のみです。
REMCS Id	REMCS ID を設定します。ただし、設定が有効になるのは REMCS フォーマット時のみです。
Server URL	送信元の URL を設定します。

POINT

- 「Mail Format dependend Configuration」で設定できるのは、送信フォーマットのみです。送信先の指定や送信レベルの設定は、「8.4.9 User Management」（→ P.483）で行います。
- Email 送信で指定するメールサーバのメールソフトの種類、または LAN 回線の速度などによりメールが不達エラーとなる場合があります。その場合、「Global Email Paging Configuratio」の「SMTP Response Timeout」の値を 50 秒程度に変更してください。

8.4.9 User Management

リモートマネジメントコントローラにログインするユーザ名／パスワードの設定や、ユーザ名に対する動作レベル、E-mail 送信に関する詳細設定を行う場合は、リモートマネジメントコントローラ Web インターフェースのメニューから「User Management」を選択します。



各項目について説明します。

表：User Management に表示される項目の説明

項目	説明
Enabled	ユーザの有効／無効を設定します。
Id	ユーザの通し番号が表示されます。
Name	ユーザ名が表示されます。
LAN Privilege	LAN ポート経由のアクセス権限が表示されます。
Serial Privilede	シリアルポート経由のアクセス権限が表示されます。（未サポート）

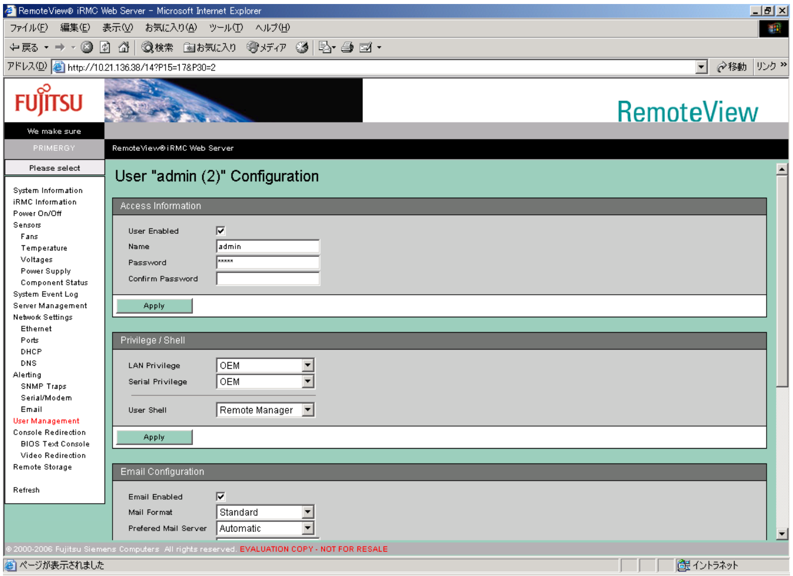
［Delete］をクリックすると、登録されているユーザが削除されます。デフォルトで作成されるユーザ名／パスワード、および権限については、「8.2 準備」（→ P.454）を参照してください。

重要

- 以下の場合、リモートマネジメントコントローラの Web インタフェースへのアクセスができなくなるか、使用できる機能が限定され、「User」の作成および変更ができなくなります。
  ・すべてのユーザを削除した場合
  ・Administrator/OEM のアクセス権限を持つユーザをすべて削除、または権限変更した場合
  この場合、以下の手順で、サーバ本体に添付されている「Server Management Tools」を使用して復元してください。
  1. 「Server Management Tools」ディスクをフロッピーディスクドライブにセットしてサーバの電源を入れます。
  2. Server Management Tools（IPMI-Tool）を起動します。
     Server Management Tools の起動方法については、サーバに添付のドキュメント & ツール CD 内に格納の『ユーザーズガイド』を参照してください。
  3. IPMI-Tool 画面が表示されたら、「User Management」を選択します。
  4. 1 ～ 16 のいずれかを選択します。
     既存の User ID の権限を変更する場合は、手順 7 へ進んでください。
  5. 「User Name」、「Password」および「Confirm Password」を入力します。
  6. 【F1】キー（Set Value）を押して設定を保存し、【Esc】キーを押して User 設定画面に戻ります。
  7. 【F2】キー（Configurre Access）を押して「2 802.3_LAN」を選択し、［Privilege Limit］で「5」（OEM）を選択します。
  8. 【F1】キー（Set Value）を押して設定を保存します。
     【Esc】キーを数回押して、IPMIview を終了します。

■ ユーザ情報の変更

登録されているユーザ名をクリックすると、登録されている設定を変更できます。

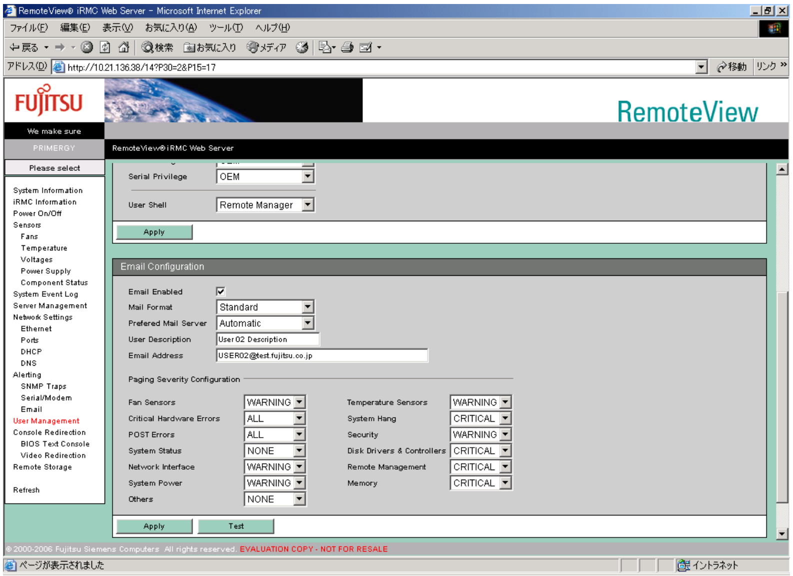


表：User Configuration に表示される項目の説明

項目	説明
Access Information	ユーザ情報を設定します。各項目を設定または変更後、［Apply］をクリックしてください。
User Enabled	ユーザの有効／無効を設定します。有効から変更できません。
Name	ユーザ ID を設定します。
Password	パスワードを設定します。
Confirm Password	パスワードを再入力します。
Privilege / Shell	動作レベルを設定します。各項目を設定または変更後、［Apply］をクリックしてください。
LAN Privilege	LAN 経由接続の動作レベルを設定します。
USER	ほとんどの項目において、参照のみが行えます。
Operator	USER 権限に加え、修正が行えます。
Administrator	Operator 権限に加え、ユーザの作成などが行えます。
OEM	Administrator 権限に加え、Telnet での特殊コマンドが有効になります。
Serial Privilege	シリアルポート経由の動作レベルを設定します。未サポートです。
User Shell	Telnet 接続時の動作レベルを設定します。Remote Manager 以外は未サポートです。

■ E-Mail 送信設定

ユーザごとの E-Mail 送信設定を行います。

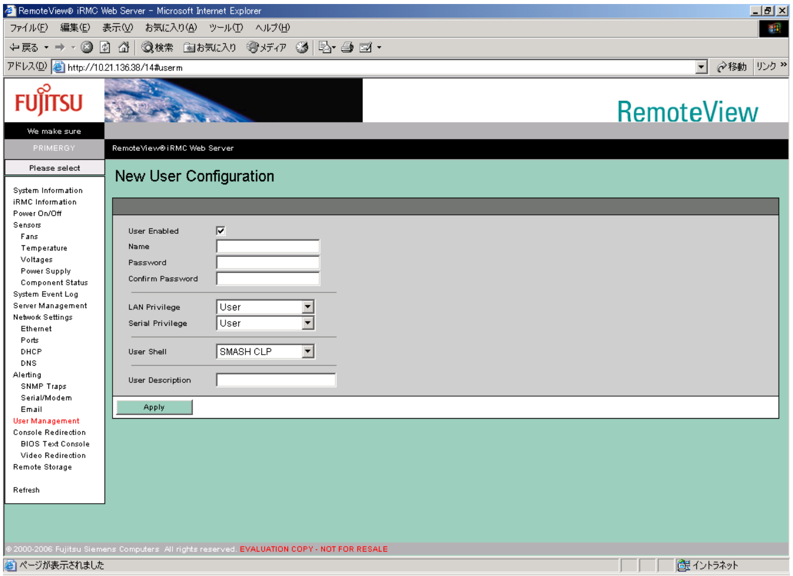


表：Email Configuration に表示される項目の説明

項目	説明
Email Configuration	E-mail 送信の設定を行います。各項目を設定または変更後、［Apply］をクリックしてください。
Email Enabled	設定の有効／無効を設定します。
Mail Format	送信する E-mail のフォーマットを選択します。
Standerd	通常の E-mail フォーマットです。
ITS-Format	ITS 形式の E-mail フォーマットです。未サポートです。
Fujitsu REMCS-Format	REMCS 形式の E-mail フォーマットです。
Prefered Mail Server	「■ Email Alerting」（→ P.481）で設定した SMTP サーバから使用する SMTP サーバを選択します。
Automatic	Primary、Secondary の順で使用可能な SMTP サーバが選択されます。
Primary	Primary SMTP Server Configuration で設定した SMTP サーバを使用します。
Secondary	Secondary SMTP Server Configuration で設定した SMTP サーバを使用します。
User Description	E-mail 送信ユーザの説明を入力します。
Email Address	送信先 E-mail アドレスを設定します。
Paging Severity Configuration	E-mail を送信する事象を選択します。事象ごとに設定します。
NONE	E-mail を送信しません。
CRITICAL	異常レベルの事象発生時に、E-mail を送信します。
WARNING	警告レベル以上の事象発生時に、E-mail を送信します。
ALL	事象が発生したすべてのレベルに対して、E-mail を送信します。
Test ボタン	E-mail のテスト送信を行います。

■ ユーザ情報の新規作成

［New User］をクリックすると、ユーザを新規に作成できます。



表：New User Configuration に表示される項目の説明

項目	説明
User Enabled	ユーザの有効／無効を設定します。有効から変更できません。
Name	ユーザ ID を設定します。
Password	パスワードを設定します。
Confirm Password	パスワードを再入力します。
LAN Privilege	LAN 経由接続の動作レベルを設定します。
USER	ほとんどの項目において、参照のみが行えます。
Operator	USER 権限に加え、修正が行えます。
Administrator	Operator 権限に加え、ユーザの作成などが行えます。
OEM	Administrator 権限に加え、Telnet での特殊コマンドが有効になります。
Serial Privilege	シリアルポート経由の動作レベルを設定します。未サポートです。
User Shell	Telnet 接続時の動作レベルを設定します。 Remote Manager 以外は未サポートです。
User Description	ユーザの説明を入力します。

重要

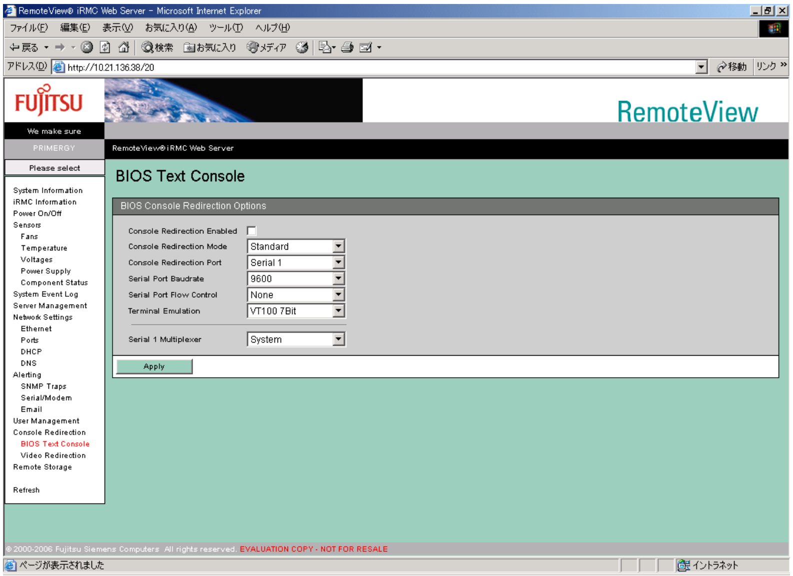
- RemoteControlService から iRMC Telnet 機能を使用する場合は、ログインユーザが以下の権限である必要があります。
  - ・LAN Privilege：Administrator
  - ・USER Shell　：Remote Manager

8.4.10 Console Redirection

コンソール（出力画面）のリダイレクションに関する設定、表示（動作）を行います。

■ BIOS Text Console

RemoteControlService の Text 画面リダイレクション設定を行う場合は、リモートマネジメントコントローラ Web インターフェースのメニューから「BIOS Text Console」を選択します。



重要

- BIOS Text Console の設定はサーバの種別ごとに異なります。各設定は「5.2.2 iRMC を使用するための設定」（→ P.314）を参照してください。

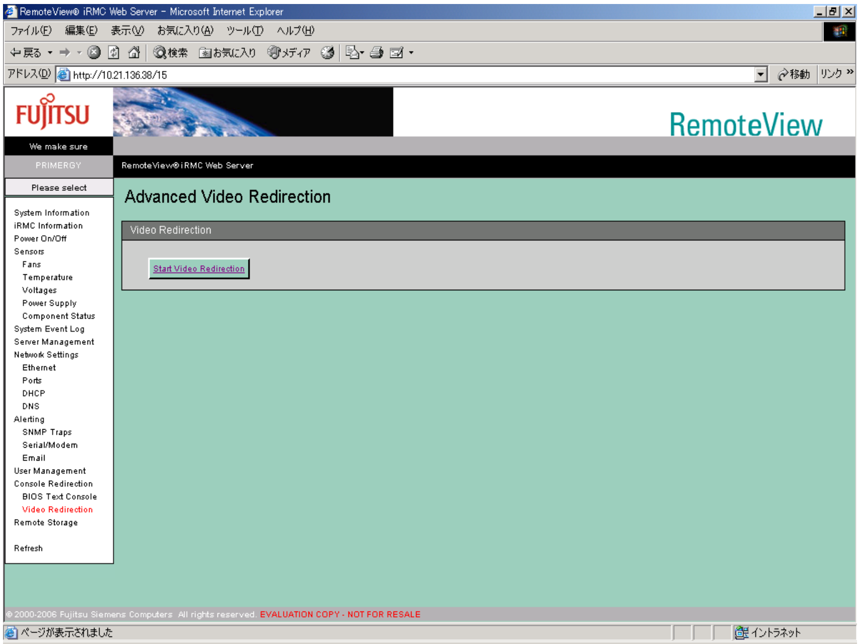
■ Advanced Video Redirection

リモートでコンソールのリダイレクションを行う場合は、リモートマネジメントコントローラ Web インターフェースのメニューから「Video Redirection」を選択します。

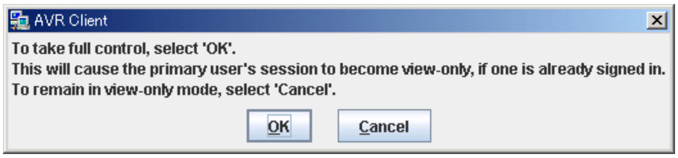
重要

- Video Redirection の機能を使用するには、別途、ライセンスキーが必要になります。
ライセンスキーおよびライセンスの承認方法については、リモートマネージメントコントローラアップグレードの取扱説明書を参照してください。

ライセンスが承認されていると、以下の画面が表示されます。



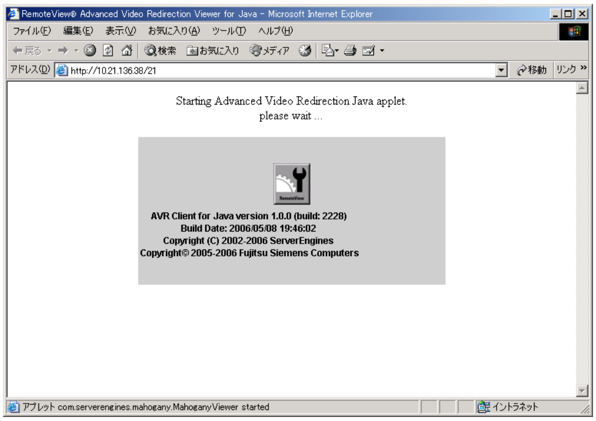
［Start Video Redirection］をクリックすると Video Redirection 画面が起動されます。
また、起動時には以下の画面が表示されます。



マウス、キーボードなどを使用する場合は、［OK］をクリックしてください。Full Control モードになります。［Cancel］をクリックすると View モードとなり、マウス、キーボードなどは使用できません。表示のみとなります。

POINT

- Video Redirection では Java を使用しているため、以下の画面が起動されますが、Video Redirection を終了しても自動で同時終了されません。手動で終了してください。



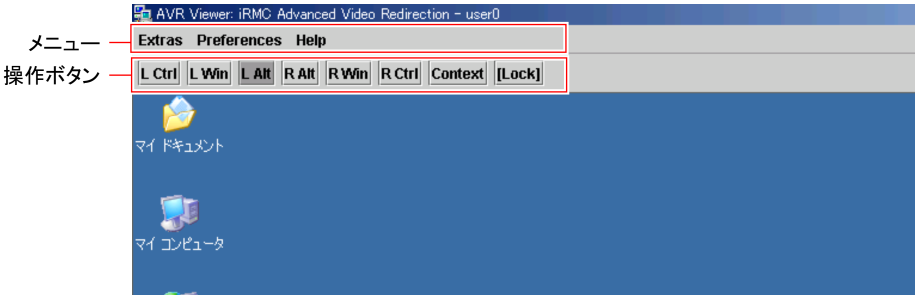
重要

- Video Redirection では以下の表示をサポートしていません。
  - 1024 × 768 24Bit/32BitColor モード
  - 標準以外の VGA ドライバの使用
- リモートマネジメントコントローラ の Web インターフェースを終了せずに繰り返し Video Redirection を起動した場合、Java エラーとなったり、Video Redirection が無応答となる場合があります。その場合には、ブラウザをすべて終了させ、再度リモートマネジメントコントローラ の Web インターフェースを起動してください。

■ Video Redirection の画面構成

Video Redirection が起動すると、以下の画面が表示されます。

画面上部にメニューがあり、その下に操作ボタンが配置されています。



● メニュー

表：Video Redirection のメニュー

項目		説明
Extras		
	Remote...	リモートストレージの接続設定を行います。 →「■ リモートストレージ接続」（P.493）
	Virtual Keyboard...	グラフィカルキーボードを表示します。 →「■ グラフィカルキーボード」（P.494）
	Refresh Screen	リダイレクション画面の再読み込みを行います。
	Take Full Control...	Full Control へ変更します。（View モード時のみ有効）
	Disconnect Session...	Video Redirection での接続を切断します。（未サポート）
	Relinquish Full Control...	View モードへ変更します。（Full Control モード時のみ有効）
	Exit	Video Redirection を終了します。
Preferences		マウス、キーボード、ログに関する設定を行います。 →「■ マウス、キーボードの設定」（P.494）
Help		Video Redirection のバージョンを表示します。

● 操作ボタン

表：Video Redirection の操作ボタン

ボタン	説明
［L Ctrl］/［R Ctrl］	左 Ctrl キー／右 Ctrl キーに相当します。
［L Win］/［R Win］	左 Windows キー／右 Windows キーに相当します。
［L Alt］/［R Alt］	左 Alt キー／右 Alt キーに相当します。
［Context］	マウスの右クリックメニューを表示します。
［Lock］	［Ctrl］／［Alt］／［Win］ボタンを押したままの状態になります。自動解除されませんので、解除するには再度［Lock］ボタンを押してください。

POINT

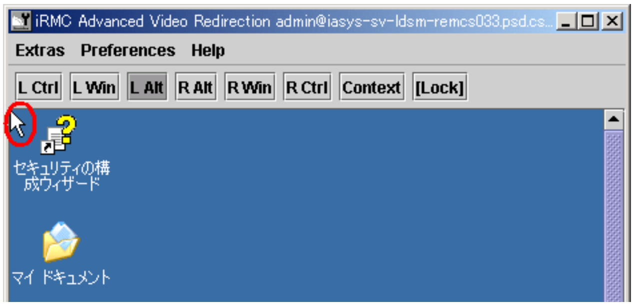
- Windows にログオンする場合は、［R Ctrl］（または［L Ctrl］）ボタン→［R Alt］（または［L Alt］）ボタンの順にクリックし、キーボードの【Delete】キーを押してください。

重要

- リモートマネジメントコントローラ の Web インターフェースを終了せずに、URL を変更して別のリモートマネジメントコントローラに接続した場合、Video Redirection の「Extras」メニューの「Storage...」は表示されません。別のリモートマネージメントコントローラに接続する際は、一旦ブラウザを終了させてください。

■ マウスカーソルのシンクロ動作設定

マウスカーソルを Video Redirection 画面の左上に移動すると、マウスカーソルをシンクロさせることができます。



マウスカーソルを移動してもシンクロできない場合、Video Redirection 対象のサーバで以下の設定を行ってください。
以下の設定を行った後は Video Redirection 画面の左上でマウスのシンクロ操作を行ってください。

● Windows の場合

- マウスの設定
  1. コントロールパネルを起動し、「マウス」を選択します。
  2. ［動作］タブの「加速」項目を「なし」に設定し、「精度を高める」にチェックが入っている場合はチェックを外します。

- 画面の設定
  1. コントロールパネルを起動し、「画面」を選択します。
  2. ［設定］タブの［詳細］をクリックします。
  3. ［トラブルシューティング］タブの「ハードウェア アクセラレータ」を「最大」から左に 1 メモリ移動し、［OK］をクリックします。

● Linux の場合

- Red Hat Linux（v3）の場合
  1. X Window の設定ファイルを vi エディタなどで開きます。

```
>vi /etc/X11/XF86Config
```

  2. 以下の 2 行を変更します。

```
Identifier   "Mouse0"              → Identifier  "DevInputMice"に変更
Driver       "mouse"
Option       "Protocol" "PS/2"

Identifier   "DevInputMice"        → Identifier  "Mouse0"に変更
Driver       "mouse"
Option        "Protocol" "IMPS/2"
```

  3. ファイルを閉じ、X Window を再起動します。
  4. ［メイン・メニュー］－［個人設定］－［マウス］を起動し、［動き］タブをクリックし、「加速」を調整します。

  スライドを動かす量については Web インターフェースを起動しているマシン、対象サーバによって異なります。
  ・Video Redirection のカーソルに対しサーバ側カーソルが追いついてこない場合
  ［速い］の方向へスライドを動かしてください。
  ・Video Redirection のカーソルに対しサーバ側カーソルが先に進んでしまう場合
  ［遅い］の方向へスライドを動かしてください。

- Red Hat Linux（v4）の場合
  1. 次のコマンドを実行します。

```
>xset m 0 0
```

- SUSE Linux の場合
  1. マウスが複数インストールされている場合、2 つ目以降のマウスを削除します。
     1. メニューから「sax32」を起動します。
     2. 「Input device」→「mouse」の 2 つ目以降のマウスを Remove します。
  2. メインメニューから「コントロールセンター」→「Input Device」→「Mouse」を選択します。
  3. 「Advance Pointer Accelerator」の値を「1x」に設定します。

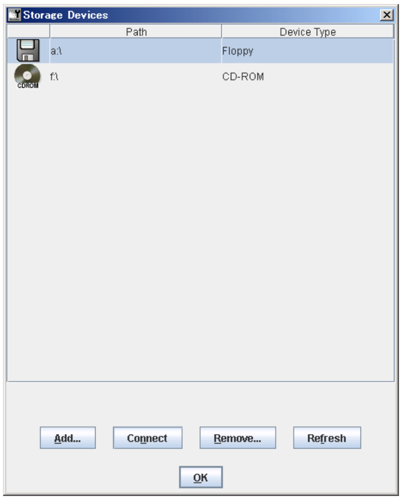
重要

- Red Hat （Enterprise Linux 3）のマウスカーソルのシンクロ動作設定を行った場合、以下の制約があります。
  ・gpm サービスを使用する際、異常が発生することがある

・X-Window のマウス設定（redhat-config-mouse コマンド含む）を行うと、サーバのマウスが動作不能になる
Video Redirection を終了させても設定は継続されるため、Video Redirection 終了時には設定を元に戻し、X-Window を再起動してください。

■ リモートストレージ接続

メニューから「Extra」→「Storage...」の順に選択すると、リモートストレージ接続を実行することができます。
リモートストレージ接続とは、Web インターフェースを起動しているマシンの外部記憶装置を、Video Redirection の対象サーバのリモート接続装置として接続させる機能です。接続したい装置を選択し［Connect］をクリックすると、Video Redirection の対象サーバに接続されます。



重要

- リモートストレージ接続の機能を使用するには、別途ライセンスキーが必要になります。
ライセンスキー、およびライセンスの承認方法については、リモートマネージメントコントローラアップグレードの取扱説明書を参照してください。
- リモートストレージ接続の機能で利用できる機器は、以下のとおりです。ただし DVD ドライブにおける書き込み機能は未サポートです。
  ・内蔵フロッピードライブ
  ・ATAPI CD-ROM ドライブ
  ・ATAPI DVD ドライブ
  ・USB フロッピードライブ
  ・USB CD-ROM ドライブ
- リモートストレージ接続は VideoRedirection 終了時に自動的に解除されます。

POINT

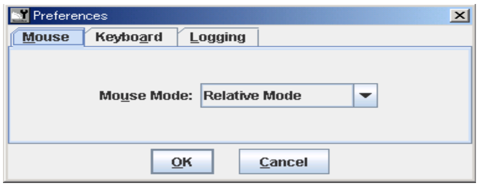
- 装置の接続を解除したい場合は、［Disconnect］をクリックします。
- リモートストレージの一覧に表示されていない装置がある場合は、［Refresh］をクリックしてください。装置の再検索 を行います。
- 画面に表示されない装置（ImageFile など）を追加する場合は、［Browse］をクリックして、指定してください。
- フロッピーディスクや CD-ROM などは、媒体がセットされていないと一覧には表示されません。
- Remote Device の追加接続や個別解除はできません。
- Linuxで一度に複数台のRemote Deviceを接続する場合は、OSのMulti LUNを有効に設定する必要があります。詳細は、OS のコマンドリファレンスを参照してください
- BIOS が USB Legacy をサポートしている場合には、Remote Storage で接続した媒体から Boot が行えます。BIOS セットアップユーティリティで「Multiboot」および「USB Legacy Support」を［Enabled］に設定し、Remote Storage 接続した媒体を BOOT 順番の一番上に設定してください。

■ グラフィカルキーボード

メニューから「Extras」→「Virtual Keyboard...」の順に選択すると、Video Redirection の画面上にグラフィカルキーボードを表示することができます。
画面上のキーボードをマウスでクリックすることで、対応するキーが対象のサーバに送信されます。

■ マウス、キーボードの設定

メニューから「Preferences」→「Preferences...」の順に選択すると、マウスの動作モード、キーボードのキー配列、ログの採取、画面の設定が行えます。
設定を選択後、［OK］をクリックすると、ユーザ名とパスワードの入力を求められます。
ユーザ名とパスワードを入力し、［はい］をクリックすると設定が反映されます。



重要

- 設定にはリモートマネジメントコントローラの Administrator 権限をもつユーザ名、パスワードが必要です。

● Mouse タブ

マウスの動作モードを設定します。

表：マウスの設定

項目	説明
Mouse Mode:	
Hide Mode (Relative)	操作側のマウスカーソルを表示しません（モードは Relative Mode）。
Absolute Mode	X 軸、Y 軸アドレス移動モードです。
Relative Mode	相対アドレス移動モードです。

● Keybord タブ

キーボードのキー配列、および接続タイプを設定します。

表：キーボードの設定

項目	説明
Language:	キーボードのキー配列を設定します。

● Logging タブ

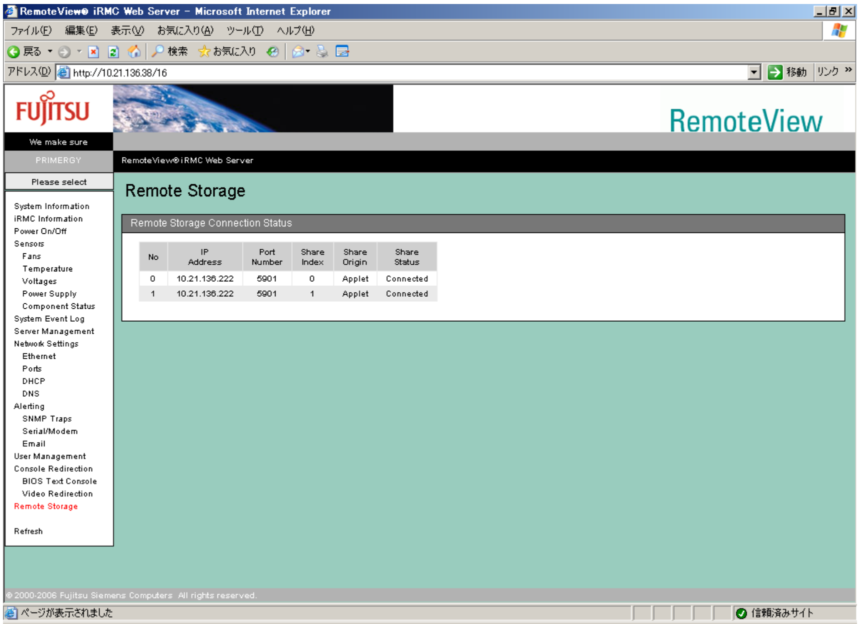
Video Redirection のログを作成します。

表：ログの作成方法

項目	説明
Global Logging	ログの出力先を指定します。
None	ログファイルを出力しません。
Console	Java Console にログを出力します。
Log File	指定ファイルにログを出力します。
Console and Log File	Java Console、および指定ファイルにログを出力します。
Console Log File	出力するログファイルを指定します。
Overwrite Native Library	DLL の上書きを許可します（未サポート）。

8.4.11 Remote Storage

リモートストレージの状態を表示する場合は、リモートマネジメントコントローラ Web インターフェースのメニューから「Remote Storage」を選択します。
Video Redirection で設定した Remote Device の状態が表示されます。



各項目について説明します。

表：Remote Storage に表示される項目の説明

項目	説明
No	Remote Device の通番です。
IP Address	Device が存在するサーバ／ PC の IP アドレスです。
Port Number	Remote Device が接続（通信）に使用するポート番号です。
Share Index	接続の際に割り当てられた番号です。
Share Origin	Device が存在するサーバ／ PC での状態です。
None	接続不可（未検索状態）
Applet	接続可能（検索済み状態）
Share Status	現在の接続状態です。
Idol	未接続状態
Connected	接続状態

POINT

- 当項目は表示のみです。接続／解除は Video Redirection から行ってください。

付録

この章では、トラブルシューティングやアンインストール方法など補足情報について説明しています。

A　トラブルシューティング 498
B　アンインストール 523
C　アイコンリスト 526
D　トラップリスト 536
E　しきい値リスト 537
F　技術情報 543

A　トラブルシューティング

ServerView を使用する上での留意事項や、エラーメッセージなどについて説明します。

A.1　インストールスクリプトのトラブルシューティング

インストールスクリプトは、インストールエラーを検出すると、エラーメッセージを表示して終了します。
下記の対処方法で解決しない場合は、「■ 手動での ServerView Linux エージェントのインストール」（→ P.55）を参照して、インストールスクリプトを使用しないインストールを実施してください。

表：インストールスクリプトのエラーメッセージ

エラー No.	エラーメッセージ / 原因と対処方法
1001	login user is not root! Please try again as root.
	ログインユーザがスーパーユーザではありません。 スーパーユーザでログインし直してから、ServerView のインストールスクリプトを実行してください。
1004	Not supported Distribution.
	サポート対象外のディストリビューションです。
1005	Available disk space is not enough.
	空きディスク容量が不足しています。
1006 ～ 1999	kernel version is under X.X.XX
	カーネルのバージョンが X.X.XX 未満のためインストールできません。 PRIMERGY でサポートするカーネルのバージョンについては、弊社情報サイト FMWORLD.NET のビジネス向けホームページでご確認ください。 http://www.fmworld.net/biz/
2001 ～ 2999	"***" package is not installed.
	ServerView のインストールに必須の RPM パッケージがインストールされていません。 Red Hat Linux の CD-ROM から "***" の RPM パッケージを再インストールしたあと、ServerView のインストールスクリプトを実行してください。 RPM パッケージのインストール方法については、「■ 手動での ServerView Linux エージェントのインストール」（→ P.55）を参照してください。
2020	SELinux is effective.
	SELinux が有効になっているため ServerView Linux エージェントがインストールできません。以下の方法で SELinux を無効にして再度インストールスクリプトを実行してください。 /etc/selinux/config 内の以下の項目の値を変更し、サーバを再起動します。 ・（編集前）SELINUX=enforcing ・（編集後）SELINUX=disabled

表：インストールスクリプトのエラーメッセージ

<table>
<tr><th rowspan="2">エラーNo.</th><th>エラーメッセージ</th></tr>
<tr><th>原因と対処方法</th></tr>
<tr><td rowspan="2">3001 ～ 3005</td><td>fail to uninstall XXX.（XXX は RPM 名）</td></tr>
<tr><td>XXX のアンインストールでエラーが発生しました。
"rpm -e XXX" コマンドでアンインストールしたあと、ServerView のインストールスクリプトを実行してください。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">4101</td><td>failure in "mv" command.</td></tr>
<tr><td>Linux のシステムコマンドでエラーが発生しました。
「■ 手動での ServerView Linux エージェントのインストール」（→ P.55）を参照してインストールしてください。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">4102</td><td>/etc/snmp/snmpd.conf is not exist.</td></tr>
<tr><td>SNMP サービスの設定ファイルが見つかりませんでした。
以下のコマンドを実行したあと、ServerView のインストールスクリプトを実行してください。
cd /mnt/cdrom/ または /media/cdrom/ または /media/cdrecorder/Svmanage/LinuxSVAgent/Agent/snmpd.conf /etc/snmp/snmpd.conf</td></tr>
<tr><td rowspan="2">4103 ～ 4401</td><td>failure in "***" command.</td></tr>
<tr><td>Linux のシステムコマンドでエラーが発生しました。
「■ 手動での ServerView Linux エージェントのインストール」（→ P.55）を参照してインストールしてください。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">4402</td><td>failure in "/etc/init.d/snmpd start" command.</td></tr>
<tr><td>snmp サービスの起動に失敗しました。
/etc/init.d/snmpd ファイルが存在するかどうか確認してください。
存在しない場合は、Red Hat Linux OS の CD-ROM から net-snmp（RHEL-AS2.1(x86) / ES2.1(x86) の場合は ucd-snmp）の RPM パッケージを再インストールしたあと ServerView のインストールスクリプトを実行してください。
RPM パッケージのインストール方法については、「■ 手動での ServerView Linux エージェントのインストール」（→ P.55）を参照してください。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">6000</td><td>"srvmagt-mods_src" installation failed.</td></tr>
<tr><td>ServerView エージェント（srvmagt-mods_src）のインストールに失敗しました。
以下のコマンドを実行して srvmagt-eecd のインストールを再試行してください。
rpm -e srvmagt-agents
rpm -e srvmagt-eecd
rpm -e srvmagt-mods_src
#cd /mnt/cdrom/ または /media/cdrom/ または /media/cdrecorder/Svmanage/LinuxSVAgent/Agent/
rpm -i srvmagt-mods_src-X.XXXX.redhat.rpm
rpm -i srvmagt-eecd-X.XXXX.redhat.rpm
rpm -i srvmagt-agents-X.XXXX.redhat.rpm
（X.XX-XX はバージョンを示します。）
cd /
/etc/init.d/srvmagt stop
/etc/init.d/eecd stop
/etc/init.d/eecd start
/etc/init.d/srvmagt start</td></tr>
</table>

表：インストールスクリプトのエラーメッセージ

エラー No.	エラーメッセージ / 原因と対処方法
	原因と対処方法
6001	"srvmagt-eecd" installation failed.
	ServerView エージェント（srvmagt-eecd）のインストールに失敗しました。 以下のコマンドを実行して srvmagt-eecd のインストールを再試行してください。 # rpm -i /mnt/cdrom/ または /media/cdrom/ または /media/cdrecorder/Svmanage/LinuxSVAgent/Agent/srvmagt-eecd-X.XX- XX.redhat.rpm （X.XX-XX はバージョンを示します。） # cd / # /etc/init.d/srvmagt stop # /etc/init.d/eecd stop # /etc/init.d/eecd start # /etc/init.d/srvmagt start
6002	"srvmagt-agents" installation failed.
	ServerView エージェント（srvmagt-agents）のインストールに失敗しました。 以下のコマンドを実行して srvmagt-agents のインストールを再試行してください。 # rpm -i /mnt/cdrom/ または /media/cdrom/ または /media/cdrecorder/Svmanage/LinuxSVAgent/Agent/srvmagt-agents-X.XX- XX.redhat.rpm （X.XX-XX はバージョンを示します。） # groupadd svuser # cd /mnt/cdrom/ または /media/cdrom/ または /media/cdrecorder/Svmanage/LinuxSVAgent/Agent/config /etc/srvmagt/config # chmod 644 /etc/srvmagt/config # cd / # /etc/init.d/srvmagt stop # /etc/init.d/eecd stop # /etc/init.d/eecd start # /etc/init.d/srvmagt start
6003	"AlarmService" installation failed.
	AlarmService のインストールに失敗しました。 以下のコマンドを実行して AlarmService のインストールを再試行してください。 #cd /mnt/cdrom/ または /media/cdrom/ または /media/cdrecorder/Svmanage/LinuxSVConsole/Console/ # ./InstallAlarmService.sh AlarmServiceStarter-X.X-X.i386.rpm （X.X-X はバージョンを示します。）
6004	"ServerView S2" installation failed.
	ServerView S2 のインストールに失敗しました。 以下のコマンドを実行して ServerView S2 のインストールを再試行してください。 # cd /mnt/cdrom/ または /media/cdrom/ または /media/cdrecorder/Svmanage/LinuxSVConsole/Console/ # ./InstallServerView_S2.sh ServerView_S2Starter-X.X-X.i386.rpm （X.X-X はバージョンを示します。）
7001	failure in "groupadd" command.
	グループの作成に失敗しました。 以下のコマンドを実行してください。 # groupadd svuser

表：インストールスクリプトのエラーメッセージ

エラー No.	エラーメッセージ / 原因と対処方法
	原因と対処方法
7002	failure in copy default config file.
	ServerView エージェントのデフォルト設定ファイルのコピーに失敗しました。 以下のコマンドを実行してください。 # cd /mnt/cdrom/ または /media/cdrom/ または /media/cdrecorder/Svmanage/LinuxSVAgent/Agent/config/etc/srvmagt/ config # chmod 644 /etc/srvmagt/config # cd / # /etc/init.d/srvmagt stop # /etc/init.d/eecd stop # /etc/init.d/eecd start # /etc/init.d/srvmagt start
7003	failure in \"chmod\" command.
	/etc/srvmagt/config ファイルの権限の変更に失敗しました。 以下のコマンドを実行してください。 #chmod 644 /etc/srvmagt/config
7004 7006	failure in "cd /" command.
	カレントディレクトリの変更に失敗しました。 以下のコマンドを実行してください。 # cd / # /etc/init.d/srvmagt stop # /etc/init.d/eecd stop # /etc/init.d/eecd start # /etc/init.d/srvmagt start
7008	failure in "/etc/init.d/srvmagt start" command.
	ServerView エージェント（srvmagt-agents）の起動に失敗しました。 以下のコマンドを実行してください。 # cd / # /etc/init.d/srvmagt stop # /etc/init.d/eecd stop # /etc/init.d/eecd start # /etc/init.d/srvmagt start
7009	failure in "/etc/init.d/eecd start" command.
	ServerView エージェント（srvmagt-eecd）の起動に失敗しました。 以下のコマンドを実行してください。 # cd / # /etc/init.d/srvmagt stop # /etc/init.d/eecd stop # /etc/init.d/eecd start # /etc/init.d/srvmagt start
9900	failure in make Inventory data. ServerView's RPMs are installed failed.
	インベントリデータ（VersionView.sav）の作成に失敗しました。 再度インストールスクリプトを実行するか、SNMP サービスが動作しているか確認してください。

A.2 管理コンソールのトラブルシューティング

■ 管理コンソールに関する Q&A

● 監視するサーバを指定するには？

TCP/IP を通して通信するサーバを設定する必要があります。
アプリケーションを起動すると、最初に「サーバの一覧」画面が表示されます。
「サーバの一覧」画面で［新しいサーバ］をクリックすると、サーバを設定できます。
続いて、サーバの IP アドレスと名前を入力する画面が表示されます（「3.9.2 監視対象サーバ（オブジェクト）の追加」（→ P.227）参照）。
LDSM 監視サーバの設定については、「4.5 LDSM 連携」（→ P.303）を参照してください。

● 電源 OFF/ON のスケジューリング機能はできますか？

監視対象サーバでは、スケジューリング運転を行うことができます。
設定については、「■［Power ON/OFF］タブ」（→ P.143）を参照してください。

重要

- この機能は、すべてのサーバでサポートされている訳ではありません。
- この設定は、スケジューリングを行うサーバの BIOS にも記憶されます。
  スケジューリングを行っているサーバから ServerView をアンインストールする場合は、事前に必ず、スケジューリングを無効にしてください。スケジューリングを有効にしたまま ServerView をアンインストールすると、スケジューリングによる電源 OFF 処理において、サーバの OS をシャットダウンせずに電源 OFF される危険性があります。

■ 管理コンソールのトラブルシューティング

● 画面のプロパティのサーバの図が正しく表示されない

画面のプロパティで画面の色を 256 色以下に設定した場合、ServerView または InventoryView 画面に表示されるサーバの図が正しく表示されないことがあります。
正しく表示するには、65536 色以上の環境でご使用ください。なお、256 色の場合でも、サーバの写真の表示が色落ちするだけで、動作には問題ありません。

● アーカイブファイル、レポートファイルが作成されない

アーカイブファイルにデータが格納されていない、またはファイルが不完全な場合は、ディスクに空き領域がなくなったか、または ServerView によってディスクに空き領域がなくなったと判断された可能性があります。
Program Files¥Fujitsu¥F5FBFE01 内のエラーログファイル「ArchErr.log」で、アプリケーションに何らかのエラーが起きていないかどうかを確認します。ディスクに空き領域がないことが原因で ServerView が ArchErr.log ファイルに書き込みを行えない場合は、エラーダイアログが表示されます。
ディスクの空き領域がなくなった場合は、一部のファイルを移動することで問題を解決できます。ディスクに空き領域が残っている場合は、ServerView を再起動します。また、ファイルをチェックしてコンピュータを再起動する方法も有効です。
レポートファイルにデータが格納されていない場合も、上記と同じ理由が考えられます。

● リモートサービスボードを搭載したが ServerView に認識されない

ServerView をインストールした直後、またはリモートサービスボードを搭載した直後の OS 起動時に、リモートサービスボードが ServerView に認識されない場合があります。
OS を再起動してください。

● 監視対象サーバのモデル名が「Unknown」と表示される

ServerView 画面において、監視対象サーバのモデル名が「Unknown」と表示される場合があります。
その際は、しばらく時間をおいてから ServerView 画面の［更新］をクリックしてください。
また、上記の操作を行っても「Unknown」と表示される場合は、以下の手順で ServerView エージェントを再起動するか、OS の再起動を行ってください。

監視対象サーバが Windows の場合

1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「Fujitsu ServerView Agents」→「Diagnostic Tools」→「Restart ServerView Base Services」の順にクリックします。

2 「Search for management hardware」を有効にして、［Restart］をクリックします。

重要

- 通常は「Restart ServerView Base Services」を起動しないでください。

監視対象サーバが Linux の場合

1 root でログインします。

2 # /etc/init.d/eecd stop を実行します。

3 # /etc/init.d/eecd rescan を実行します。

4 # /etc/init.d/srvmagt restart を実行します。

●「電源／環境 」画面で情報が正しく表示されない

「電源／環境」画面では、情報が正しく表示されるまでに多少時間がかかる場合があります。
しばらく時間をおいてから、再度操作し直してください。

● エラーメッセージバッファの内容が表示されない

「アクション」画面で、エラーメッセージバッファの内容が表示されない場合があります。
しばらく時間をおいてから、再度操作し直してください。

● ServerView の起動に問題が発生した

ServerView の起動に問題が発生した場合は、ServerView ディレクトリの「CTTxxxx.tmp」（xxxx = 0000 〜 FFFF）ファイルを削除してください。

● デバイスの表示ができない

外部記憶装置のアダプタ名「Adaptec/DPT SCSI Raid 3200 Controller」を選択して「デバイスの表示」を行う場合は、各スロットごとに表示を確認してください。
「デバイスの表示」画面の「アダプタ上のシステムドライバ」の表示は、サポートしていません。

● ServerView でのリビルドの状況が表示されない

RAID0+1 構成において、ServerView でのリビルド状況は表示されません（0% 表示）。
RAIDmanager を使用して確認してください（StorageManager）。

●［システム識別灯表示］が表示されない

監視対象機種が PRIMERGY C150 の場合

C150 にはシステム識別灯はありません。

監視対象機種が PRIMERGY C150 以外の場合

以下の手順でエージェントを再起動することにより、［システム識別灯表示］が表示されるようになります。

1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「Fujitsu ServerView Agents」→「Diagnostic Tools」→「Restart ServerView Base Service」の順にクリックします。
「Restart Services」画面が表示されます。

2 ［Restart］をクリックします。

3 再起動が完了すると「Restart Services completed successfully!」と表示されるので、［Exit］をクリックしてください。

重要

- 通常は「Restart ServerView Base Services」を起動しないでください。

● サーバが管理不可能と表示される

ネットワークあるいはコンピュータの負荷が高い場合、時間内に処理が終了せず、［管理不可能］アイコンが表示される場合があります。
この場合、以下の手順でポーリング間隔、タイムアウト値、更新間隔を変更し、負荷の低下、タイムアウト値の延長を行うことができます。

1 「サーバの一覧」から問題があるサーバを右クリックし、表示されたメニューから「サーバのプロパティ」→「ネットワーク／SNMP」の順にクリックします。

2 環境に合わせて設定値の変更を行います。

表：ネットワーク／SNMP の設定値

項目	説明
ポーリング間隔	サーバをポーリングする時間の間隔です。ここで指定した間隔ごとにシステムの情報をサーバに要求します（デフォルト 60 秒）。
タイムアウト	要求に対するサーバからの応答に待機する時間です（デフォルト 5 秒）。
更新間隔	表示内容を更新する間隔です（デフォルト 60 秒）。

重要

- これらの項目の適切な値は、負荷の状況によって異なります。何度か設定を試してみて最適な値を決定してください。
- タイムアウト値に大きすぎる値を設定すると、本当に管理不可能な場合の反応も遅れてしまいます。大きすぎる値（12 秒以上）は設定しないようにしてください。

● GAM クライアントの二重起動

SCSI アレイコントローラカード（PG-142E）の GAM クライアントを開いている状態で、ServerView コンソールから GAM クライアントを開こうとした（外部記憶装置画面の［設定］をクリック）場合、次のメッセージが表示されます。動作に問題はありませんので、本メッセージウィンドウを閉じてください。

```
Can't write Profile for error #123
```

- 意味：ファイル名、ディレクトリ名、またはボリュームラベルの構文が間違っています。

付

付録

● 電圧／環境グループのステータスアイコンが正常にも関わらず、個々の電圧センサや温度センサのステータスが異常 (電圧 : 下限を超えています／上限を超えています、温度 : 黄／赤) を示すことがある。

電圧／温度センサ値が、異常値から正常値（しきい値内）に復帰した場合でも、ある一定値以内に戻るまでセンサのステータスはそのまま異常状態を表示し続けます。これは、しきい値付近で電圧／温度値が遷移した場合に、頻繁に電圧／温度異常イベントや、電圧／温度正常イベントが頻発するのを防ぐための処置です（一般的にこの一定値をヒステリシスと呼びます)。
一方、電圧／環境グループのアイコンは、電圧／温度センサ値がしきい値内であれば、ヒステリシスに関係なく正常アイコンを表示するため、このような現象が発生します。
本現象が起きても、電圧／温度値は正常のため特に問題ありません。

■ 管理コンソールの留意事項

● キーボード操作について

ショートカットキーやタブキーは正常に動作しない場合があります。マウスを使って操作してください。

● ServerView 管理コンソールの終了操作について

管理コンソールを終了する時は、開いているすべての ServerView 画面を終了してください。

● メモリモジュールのマルチビットエラーについて

メモリモジュールでマルチビットエラー（UnCorrectable）が発生した場合、発生した場所、タイミングによっては OS が動作できなくなるため、エラーが報告されない場合があります。

● ハードディスクキャビネットに対するアクション設定について

ハードディスクキャビネットに対するファン、および温度センサ異常時のアクション設定は無効です。

● レポート、またはしきい値のテーブル名に関する制限について

レポート、またはしきい値のテーブル名には空白を含む文字列は使用できません。
テーブルは作成できますが、選択することができないため、削除や開始を行えなくなります。

● UPS（無停電電源装置）監視について

高機能無停電電源装置（NetpowerProtect シリーズ）の監視において、UPS 装置管理に使用している管理ソフトウェア（NetpowerView F）のバージョンが V4.8 以前の場合、以下のことに注意してください。

- UPS Configuration で UPS 接続設定を行うと、電源ウィンドウ中に UPS の図が表示されますが、正常状態においても、電源ケーブルが常に赤色（異常）表示となります。
- UPS の状態は、UPS 装置に添付されている管理ソフトウェア（NetpowerView F）で確認してください。

●「メモリモジュール」画面について

バンク番号が正しく表示されない場合があります。

●「アクション」画面について

再起動オプションで、「Restart」または「Shutdown&off」を選択し、「0 分」（即時にシャットダウン）を指定した場合、直後に Abort Shutdown を実行しても無効になります。

● WOL（Wakeup On LAN）機能について

WOL（Wakeup On LAN）機能によって、クライアントから LAN 経由でサーバ本体の電源を入れた場合、「アクション」画面内の「電源投入要因」が「N/A」表示になる場合があります。

●「オペレーティングシステム」画面について

OS が Windows の場合、「オペレーティングシステム」画面の「グローバル情報」の「現在のセッション」と「ピーク セッション」は未サポートです。

● トラップの設定について

「サーバのプロパティ」画面で、以下のトラップを有効にしないでください。有効にすると、アラームが発生し続ける場合があります（「● イベントログ格納」（→ P.512）参照）。

- Error entry in eventlog
- Warning entry in eventlog
- Infotmation entry in eventlog
- Failure entry in eventlog
- Success entry in eventlog

● レポートマネージャの操作について

- レポートノートに 256 文字以上のデータを入力しないでください。256 文字以上入力された場合、256 文字以降のデータは無視されます。
- 「レポートのテキスト表示」において、印刷を行うと画面表示が乱れることがありますが、システム動作には影響しません。

● レポートグラフの表示操作について

- レポートグラフの表示操作は、1 つずつ設定を行ってください。同時に複数を設定した場合、表示内容は保証されません。
- レポート一覧でステータスが起動中のものを選択して、グラフの表示を行った場合、正しく表示されない場合があります。レポート一覧でもう一度選択しなおしてから、再度グラフを表示してください。

● しきい値監視について

サーバでしきい値監視を実行する場合、以下の処理が行われます。

- ServerView 管理コンソールがサーバのしきい値テーブルを保存する。
- サーバ（エージェント）が設定要求を取得し、テーブルの変数を監視する。

この情報は管理コンソールとサーバの両方で保持されるため、以下の状況で矛盾が生じることがあります。

しきい値を停止せずに管理コンソールのサーバが削除され、そのあとサーバが新たに作成された場合

この場合、管理コンソールはサーバが現在しきい値をとっていることを示しておらず、サーバはしきい値の監視を継続します。このため、管理コンソール側でしきい値マネージャを使用してしきい値を停止するか、エージェントを再インストールします。

シャットダウンまたは再インストールした可能性があるため、エージェントが値を監視しない場合

この場合、管理コンソールはサーバが現在しきい値をとっていることを示していますが、サーバはしきい値をとっていません。このため、管理コンソール側でしきい値マネージャを使用して、そのサーバに対するしきい値を停止し、必要であれば再起動します。
しきい値の情報については、以下の情報も参照してください。
［システムドライブ］：¥Program Files¥Fujitsu¥F5fbfe01¥Thresh.hlp

●「ASR のプロパティ」画面での操作について

- 「FAN」設定において、任意の「FAN」を選択し、「シャットダウンする」を指定する場合、すべての有効な FAN について設定を行ってください。
- アーカイブデータ表示時は、操作を行わないでください。

● ServerView のステータスアイコン表示について

以下の条件をすべて満たすとき、ステータスアイコンが故障状態になる場合があります。
- 監視対象サーバにおいて
- OS の起動時
- ServerView 監視プログラムがすべて起動するまでの間

監視対象サーバが正常な場合、ServerView 監視プログラムがすべて起動されると、アイコンは正常に表示されます。

●「外部記憶装置」画面について

- 「接続スロットアダプタ」が正常に表示されない場合があります。しばらく時間をおいてから、画面を再表示してください。
- 「接続されたデバイス数」が正しく表示されない場合があります。「デバイスの表示」画面で、「接続されたデバイス数」を確認してください。
- ［設定］をクリックすると、関連付けられたアプリケーションがインストールされているフォルダが開く場合があります。

A.3 アラームサービスのトラブルシューティング

■ アラームサービスに関する Q&A

● Microsoft の Virtual Machine 以外の VM と共存しても大丈夫ですか？

Microsoft Virtual Machine（バージョン 5.0.3309 以上）と他の Virtual Machine（たとえば、Sun Java VM）が同じマシンに共存していても、ServerView は正常に動作します。

● プロキシを使用したい場合、例外に「localhost」を登録してもアラームサービスは正常動作しますか？

「localhost」を指定してもシステムによっては正常動作します。ただし、自マシンの IP アドレスを入力するようにしてください。

● メール送信テストのエラーコードはどんな意味ですか？

AlarmService でメール送信テストを行い、エラー復帰した場合は、以下を参照してください。
復帰エラーコードが下記以外の場合は、弊社にお問い合わせください。

表：送信テストでのエラー

エラーコード	内容
1:	SMTP server error
2:	Mail server error, wrong from or to address ?
4001:	Malloc failed (possibly out of memory).
4002:	Error sending data.
4003	Error initializing gensock.dll.
4004:	Version not supported.
4005:	The winsock version specified by gensock is not supported by this winsock.dll.
4006:	Network not ready.
4007:	Can't resolve (mailserver) hostname.
4008:	Can't create a socket (too many simultaneous links?)
4009:	Error reading socket.
4010:	Not a socket.
4011:	Busy.
4012:	Error closing socket.
4013:	Wait a bit (possible timeout).
4014:	Can't resolve service.
4015:	Can't connect to mailserver (timed out if winsock.dll error 10060)
4016:	Connection to mailserver was dropped.
4017:	Mail server refused connection

● 管理コンソールをアンインストールする前にアラーム設定を退避できますか？

アラーム設定の退避、復元はサポートしていません。
アンインストールする前にアラーム設定を控えておいてください。
再インストール後、アラーム設定を設定してください。

■ アラームサービスのトラブルシューティング

● アラームサービスが起動しない

以下の場合にアラームサービスが起動できなくなります。

コンピュータ名または IP アドレスを変更した場合

アラームサービスをインストール後に、システムのコンピュータ名または IP アドレスを変更した場合、アラームサービスは正しく動作しません。
「スタート」ボタンから「Change Computer Details」を実行してください（「2.4.8 インストール後のコンピュータ情報変更」（→ P.89）参照）。

プロキシサーバを設定している場合

Web ブラウザでプロキシサーバを使用する設定になっている場合、アラームサービスの画面が表示されない場合があります。管理用のサーバまたは管理端末では、自分自身への接続にプロキシサーバを使用しないよう、Web ブラウザの設定で「例外」に IP アドレスを登録してください。

LAN を接続しない状態でアラームサービスをインストールした場合（Windows Server 2003 の場合のみ）

以下の手順を行ってください。

1 サーバの LAN を接続します。

2 サーバの IP アドレスを設定します。

3 「スタート」ボタン→「プログラム」→「Fujitsu ServerView」→「ChangeComputerDetails」の順にクリックし、新しいコンピュータ情報を設定します。

4 サーバを再起動します。

● テストトラップがタイムアウトになってしまう

テストトラップは、ServerView エージェントが正しくインストールされているサーバに対して、実行することができます。テストトラップは、以下の場合にタイムアウトになります。

タイムアウト時間が短い場合

ネットワークの状態によっては、デフォルトのタイムアウト時間では短い場合が考えられます。ネットワーク環境を確認した上で、タイムアウト時間を延ばしてみてください。

SNMP サービスが正しく設定されていない場合

以下を確認してください。
- 監視対象サーバで、SNMP サービスのトラップ送信先に管理端末の IP アドレスが登録されているか？

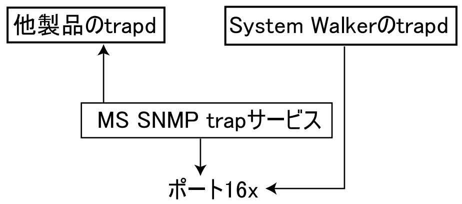
- 監視対象サーバ／管理端末の SNMP サービスのセキュリティにおいて、ご使用のコミュニティに対する権利が、Windows Server 2003 の場合は「読みとり、書き込み」または「読みとり、作成」、Windows 2000 Server の場合は「READ_WRITE」または「READ_CREATE」になっているか？

ServerView エージェントが正しくインストールされていない場合

ServerView エージェントをアンインストールし、再度 ServerView エージェントのインストールを行ってください。

Systemwalker がインストールされている場合

以下のように他製品と Systemwalker の trapd が共存している場合に、Systemwalker が SNMPtrap のポート 16x を占有してしまい、他製品の trapd へ SNMP トラップが送信されなくなっていることがあります。



逆に、他製品がポート 16x を占有し、Systemwalker の trapd に SNMP トラップが送信されなくなることもあります。この場合、コマンドプロンプトにおいて、mpmsts ON コマンドを実行すると、Systemwalker の trapd も MS SNMPtrap サービスからトラップを受けるようになり、両方の trapd にトラップが送信されるようになります。

● アラームが削除されない

アラームマネージャまたはアラームモニタで複数のアラームを削除する場合、いくつかのアラームが残ってしまう場合があります。この場合は、再度削除を実行してください。
また、「共通設定」画面で、指定した経過日数以上のアラームを削除するように設定できますが、この削除は指定日数経過後、新たにアラームを受信したときに実行されます。

● スクリプトエラーが発生した

アラームマネージャまたはアラームモニタを使用中に、スクリプトエラーが発生する場合があります。この場合、Alarm Service を閉じて、アラームマネージャまたはアラームモニタを再起動してください。
また、アラームマネージャを［閉じる］をクリックして終了しなかった場合、次回起動時にスクリプトエラーが発生する場合があります。アラームマネージャを終了するには、必ず［閉じる］をクリックしてください。この場合も、アラームマネージャを再起動してください。

● アラームマネージャ／アラームモニタが自動更新されない

自動更新がチェックされているか確認してください。
また、チェックされているにもかかわらず、アラームマネージャ／アラームモニタの画面が更新されない場合は、アラームマネージャ／アラームモニタを再起動、またはブラウザの更新機能で再読み込みを行ってください。

■ アラームサービスの留意事項

● ウィンドウの操作について

各画面において、[画面の最大化]、[標準に戻す] を操作しないでください。画面が乱れる場合があります。乱れが生じた場合には、その画面を閉じて再度起動してください。

● メール転送について

MAPI によるメール転送はサポートしていません。
テスト送信を行ったときの送信先は「宛先」に指定されたメールアドレスのみです。
「写し」に指定したメールアドレスには送信されません。

● 複数の「アラーム設定」画面の起動について

「アラーム設定」画面は、複数起動できる場合がありますが、その場合も 1 つだけを起動するようにしてください。

●「アラームフィルタの設定」画面の終了操作について

「アラームフィルタの設定」画面を開いている場合は、アラームマネージャを終了する前に「アラームフィルタの設定」画面を終了してください。

● 処理中の画面を終了するときの注意

処理中の画面（たとえば、アラームモニタで多くのアラームを削除するような処理を行った場合など）は、処理が完全に終了するまで画面を終了しないでください。
処理が完全に終了する前に画面を終了すると、処理が中止され正常に動作しません。

● RomPilot トラップについて

RomPilot トラップに関するアラームにおいて、MAC アドレスが正しく表示されない場合があります。

● イベントログ格納

以下のすべての条件にあてはまる場合に、アラームが発生し続けることがあります。

- システムに ServerView Windows コンソールがインストールされている場合
- 自サーバを監視対象としている場合
- 「サーバのプロパティ」画面で、以下のいずれかのトラップが有効となっている場合
  ・Error entry in eventlog
  ・Warning entry in eventlog
  ・Infotmation entry in eventlog
  ・Failure entry in eventlog
  ・Success entry in eventlog
- アラームの設定において、以下のいずれかの設定となっている場合
  ・「共通設定」画面のデフォルトアクションにおける「イベントログの格納」が有効
  ・アラームグループ設定で、自サーバからのアラームに対するアクションとして「ログ」が有効

回避手段としては、「サーバのプロパティ」画面で上記トラップを無効にするか、アラームの設定において上記設定を無効にすることで防ぐことができます。

● AC 切断／投入時のアラームについて

AC 切断／投入（UPS によるスケジュール運転を含む）によるシステム起動で、メッセージが表示されたり、イベントログ（エラー）が格納されたりする場合があります。システム動作には影響ありません。
表示されるメッセージは、以下のとおりです。

```
Alarm received from server ServerName
An error was recorded on server ServerName.
See server management event / error log
(Recovery)
for detailed information
```

格納されるイベントログは、以下のとおりです（ソース：Server Control）。

```
An error was recorded on server N400. See server
management event / error log (Recovery) for
detailed
information.
```

● リブート／シャットダウン時のエラーについて

リブートまたはシャットダウン時に、SVxxx.exe（SVFilterServer.exe、SVConvertServerList.exe など）のエラーが発生する場合があります。
しかし、再起動後のシステム動作には影響ありません。

● ブロードキャスト転送について

ご使用の Windows Messenger サービスの問題により、ブロードキャスト転送が正しく実行されない場合があります。
このサービスが正しく動作しているかどうかをテストするためには、コマンド プロンプトを開いて、以下のコマンドを実行してください。

- ドメインの全ユーザに対するブロードキャスト転送をテストする場合

```
net send * <message>
または
net send /domain:<yourdomain> <message>
```

- セッション中の全ユーザに対するブロードキャスト転送をテストする場合

```
net send /users <message>
```

- 特定の全ユーザに対するブロードキャスト転送をテストする場合

```
net send <user> <message>
```

これらのテストが 1 つでも失敗した場合は、ネットワークを確認してください。

重要

- テスト結果のメッセージが正常終了であった場合でも、ドメインのアドミニストレータに対する「net send」は常に動作しないように見えます。

● ステーションの転送モードについて

ステーションの転送モードは、「通常」と「ダイレクト」の 2 種類が指定できます。
「ダイレクト」指定時は、転送先のアラームモニタには、転送したアラームタイプが表示されます。
また、アラームマネージャでは、アラームタイプに「ServerView alarm passed through」と表示されます。

A.4 ServerView S2 のトラブルシューティング

● ServerView S2 が起動しない

Windows Server 2003 において、LAN 接続しない状態で、ServerView S2 をインストールした場合は、以下の手順を行ってください。

1. サーバの LAN を接続します。
2. サーバの IP アドレスを設定します。
3. 「スタート」ボタン→「プログラム」→「Fujitsu ServerView」→「ChangeComputerDetails」の順にクリックし、新しいコンピュータ情報を設定します。
4. サーバを再起動します。

● Windows 2000 Server で ServerView S2 を使用すると、エラーメッセージが表示されたり、サーバの一覧にサーバを追加できなかったりするのですが？

Windows 2000 Server で ServerView S2 を実行した場合に、以下のような問題が発生することがあります。

- 「Could not find <Installationpath_Html>¥uid¥1¥GettingStatus」や「Error on SnmpMgrTrapListen 1062」などのメッセージが表示される。
- サーバの一覧に新しいサーバを追加できない。
- サーバの一覧が表示されていない（ハングアップのように思われる）。

これは、以下の理由で発生する問題です。
ServerView S2 のインストール中（Setup.exe の実行中）は、通常 Administrator 権限を持つユーザとしてログインしています。
ServerView S2 実行中は、このユーザは通常「IUSR_<computername>」になります。したがってこのユーザには、ServerView S2 のデータベース（たとえばサーバの一覧）や ServerView S2 固有の設定ファイルを変更する権限がありません。
この問題を解決するには、以下の手順を行います。

1. デスクトップの［マイコンピュータ］アイコンを右クリックし、表示されたメニューから「管理」をクリックします。
「コンピュータの管理」画面が表示されます。

2 以下の手順で新規ユーザを作成します。

1. ［システム ツール］から［ローカル ユーザとグループ］をクリックし、［ユーザー］を右クリックして表示されたメニューから「新しいユーザー」をクリックします。
   「新しいユーザー」画面が表示されます。
2. 必要な情報を入力し、［作成］をクリックします。なお、新規ユーザは、ServerView S2 のインストールを行ったユーザ（つまり Administrator）と同じグループに入れる必要があります。

3 ServerView スクリプトディレクトリに新規ユーザを設定します。

［コンピュータの管理］の［サービスとアプリケーション］から［インターネット インフォメーション サービス］－［既定の Web サイト］－［scripts］－［ServerView］を右クリックして、「プロパティ」をクリックします。
「ServerView のプロパティ」画面が表示されます。

4 ［ディレクトリ セキュリティ］タブをクリックします。

5 「匿名アクセスおよび認証コントロール」の［編集］をクリックします。

「認証方法」画面が表示されます。

6 「匿名アクセス」の［編集］をクリックします。

「匿名ユーザー」画面が表示されます。

7 ［参照］をクリックし、手順 2 で作成したユーザ、または「Administrator」を選択します。

8 「IIS によるパスワードの管理を許可する」をチェックします。

9 表示されるすべての画面で、［OK］または［はい］をクリックします。

● 問題が解決しない場合

上記手順で問題が解決しない場合は、以下の操作または変更を行ってください。
なお、インストール先でデフォルトを指定して ServerView S2 をインストールした場合は以下になります。
<Installationpath_Html> = <Drive 名 >:¥InetPub¥wwwroot¥ServerView

1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」→「エクスプローラ」の順にクリックします。

2 「<Installationpath_Html>」を開きます。

3 「<Installationpath_Html>」を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。

4 ［セキュリティ］タブをクリックします。

5 「名前」で「Everyone」をクリックし、「アクセス許可」の「変更」と「書き込み」をチェックします。

6 ［適用］または［OK］をクリックします。

●「ServerStatus」プロセスを起動しない設定

ServerView S2 には固有のファイルを修正する権限がなかったため、ServerView S2 の「ServerStatus」プロセスが何度か起動することがあります。起動しないようにするには、以下の手順を行います。

1 サーバを再起動します。

2 タスクマネージャから以下の操作を行います。

1. ［Ctrl］+［Alt］+［Delete］キーを押します。
   「Windows のセキュリティ」画面が表示されます。
2. ［タスク マネージャ］をクリックします。
   「タスク マネージャ」画面が表示されます。
3. ［プロセス］タブを選択します。

3 以下の手順ですべての「ServerStatus.ex」プロセスを終了します。

1. 「ServerStatus.ex」を右クリックし、表示されたメニューから「プロセスの終了」をクリックします。
   「警告」画面が表示されます。
2. ［はい］をクリックします。
   プロセスが終了します

4 上記手順を繰り返して、すべての「ServerStatus.ex」プロセスを終了します。

5 「ServerStatus.ex」プロセスを終了する権限を持っていない場合は、サーバを再起動してください。

A.5　その他

■ 一般的な Q&A

●「Fujitsu Server Control」って何ですか？

ServerView Windows エージェント 、または RAS 支援サービスをインストールすると、同時にインストールされるソフトウェアです。ServerView および RAS 支援サービスを正しく操作するためには、「Fujitsu Server Control」が必要です。
ServerView Windows エージェントのアンインストールでは、初期状態で「Fujitsu Server Control」がインストールされていた場合、アンインストール処理後に、「Fujitsu Server Control」を再インストールしています。これは RAS 支援サービスで「Fujitsu Server Control」が必要となるためです。

●「Server Control Service」って何ですか？

「Fujitsu Server Control」をインストールした時に、インストールされるサービスです。

● Systemwalker と共存させる場合、Systemwalker を先にインストールする必要がありますか？

どちらが先にインストールされても問題はありません。ただし、同一マシン上に Systemwalker と ServerView を共存させる場合には、コマンドプロンプトで MPMSTS ON を実行してください。実行しない場合は、Systemwalker と ServerView ともに、そのマシン上でトラップを受信できなくなります。

● ServerView をインストールすると、C:¥Winnt¥Temp 内に「svtmpdir」というフォルダが作成されますが、これをインストールしたあとに消す事は可能ですか？

当フォルダにはデバック情報ファイルが格納されます。
当フォルダを削除しても問題ありませんが、システム（Fujitsu ServerView Service）を再起動すると、当フォルダは再作成されます。

● ServerView の管理コンソールから監視できるサーバの数は何台ですか？

ServerView の管理コンソールから監視できるサーバの数に制限はありません。
ただし、ServerView の管理コンソールからサーバを監視する場合に、SNMP サービスを使用して情報を採取しています。したがって、監視対象サーバが増加すると、それだけネットワークの負荷が大きくなります。

● ServerView で使用しているプロトコルとポート番号は何ですか？

ServerView 関連プログラムでは、以下のプロトコルとポートを使用しています。

ServerView

- SNMP（TCP/UDP：161,162）
- PING：ICMP（このプロトコルにはポート番号の概念はありません）

AlarmService、ServerView S2（Web サービス提供側）

- SNMP（TCP/UDP：161,162）
- HTTP（IIS 使用時 TCP：80、ServerView Web-Server 使用時 TCP：3169）

以下は SSL 接続を行うときのみ

- HTTPS（IIS 使用時 TCP：443、ServerView Web-Server 使用時 TCP：3170）

AlarmService、ServerView S2（管理コンソール側）

- SNMP（TCP/UDP：161,162）
- HTTP（IIS 使用時 TCP：80、ServerView Web-Server 使用時 TCP：3169）

以下は SSL 接続を行うときのみ

- HTTPS（IIS 使用時 TCP：443、ServerView Web-Server 使用時 TCP：3170）

● SMM（サーバモニタモジュール）をサポートしていますか？

サポートしていません。
ServerView がインストールされるサーバには、SMM を搭載することはできません。
ServerView では、リモートサービスボード（RSB）は連携して、SMM と同等の機能を実現できます。

● ServerView 管理コンソールをインストールすると、At*（ID 番号）の名前で登録されるタスクは何の役割をしていますか？

WebServer に ServerView Web-Server を選択して ServerView 管理コンソールのインストールを行った場合、タスクスケジューラに At*（ID 番号）の名前でタスクが登録されます。
このタスクでは、WebServer のログファイルの肥大化を抑止しています。
タスクのスケジューラを無効にする場合には、定期的に以下のファイルサイズに注意してください。
　［システムドライブ］:¥Program Files¥Fujitsu¥F5FBFE01¥ServerView Services ¥WebServer¥logs¥access.log

■ Systemwalker 連携のトラブルシューティング

Systemwalker/CentricMGR 連携を行うために SNMP トラップ変換ファイルを登録したときに、以下のメッセージが表示されることがあります。この場合は、Windows ディレクトリに保存されているログファイル（例：C:¥WINNT¥F5FBSW01.log）を添えて、下表のお問い合わせ先にご連絡ください。

表：エラーメッセージに関するお問い合わせ先

エラーコード	エラーメッセージ／解説	お問い合わせ先
2006	error detected in CNSetCnfMg.exe(Systemwalker).	Systemwalker 開発元
	Systemwalker のコマンド（CNSetCnfMg.exe）でエラーが発生しました。	
2008	fail to launch CNSetCnfMg.exe(Systemwalker)	
	Systemwalker のコマンド（CNSetCnfMg.exe）の起動に失敗しました。Systemwalker がインストールされているフォルダに、CNSetCnfMg.exe が存在するか確認してください。	
上記以外	上記以外のエラーメッセージ	ServerView 開発元

■ ブラウザのトラブルシューティング

ブラウザは常に正常に動作するとは限りません。多数の原因が考えられ、その影響もさまざまです。

● ServerView により、現在電源が入っているコンピュータしか検出されない

Microsoft Windows ネットワークの走査中に一部のネットワーク情報が検出されないことがあります。
この現象は、ネットワーク情報を取得するために Windows が使用している方法（ブロードキャスト方法の使用）により発生します。

● セキュリティポリシの設定により、ドメインにアクセスできない ドメインサーバにアクセスできないために、ドメインにアクセスできない 他のネットワークシステム（NetWare サービスなど）がアクセスできない

タイムアウトの期限を超えたあと、ブラウズ操作がキャンセルされます。ただし、これには数分かかることがあります。

● ブラウザが完全に失敗し、ブラウザウィンドウを数分間ブロックしている

ブラウザウィンドウがブロックされたり、ブラウザ処理中に ServerView アプリケーション全体がブロックされたりすることがあります。この現象は、Windows NT ドメインに問題がある場合や、ネットワークパフォーマンスが非常に悪い場合に発生します。
この場合は、そのブラウザ機能を使用しないでください。

● IP アドレスに対するコンピュータ名の解決に時間がかかる

ログインコンピュータで Windows Internet Name Services（WINS）または Domain Name System（DNS）が正しくセットアップされていない可能性があります。プライマリ WINS サーバやセカンダリ WINS サーバのアドレス、または DNS サーバのアドレスが有効でない可能性があります。WINS プロトコルが正しく起動されていない場合、IP アドレス解決では非常に低速の名前クエリブロードキャストが使用されます。WINS や DNS は、ネットワーク設定の TCP/IP プロパティで設定できます。

● IP アドレスが見つからなかった

以下のようないくつかの原因が考えられます。
- リモートコンピュータに TCP/IP がインストールされていない。
- ログインしているコンピュータで WINS が有効でない。
- LAN に WINS サーバ、DNS 情報、または LMHOSTS ファイルがない。
- WINS データベースが更新されていない。

● WINS、DNS、またはいずれかの LMHOSTS ファイルを用いてアドレスを解決できなかった

名前クエリブロードキャストが使用中です。このブロードキャストは、たとえばドメインのルータによって名前クエリブロードキャストが送信されない場合に、ネットワークトポロジやパフォーマンスの問題により失敗することがあります。

■ 全般的な留意事項

● アンインストール時の注意

アンインストール中にアプリケーションエラーが発生する場合がありますが、システム動作に問題はありません。

● ログファイル

ServerView をインストールすると、ログ情報格納フォルダ（「C:¥svtmpdir」、「C:¥winnt¥Temp¥svtmpdir」など）が作成されます。
ログ情報は正常動作時にも作成／更新されます。ディスクの空き容量が少なくなった場合などに、ログ情報を削除することができます。
ログ情報の削除は、ServerView を終了し、サービス画面から Fujitsu ServerView Service を停止してから行ってください。Fujitsu ServerView Service を停止時にアプリケーションエラーが発生する場合がありますが、システム動作に問題はありません。

● ServerView Web-Server と SSL について

インストール時に Web サーバとして ServerView WebServer を選択し、「SSL と認証を有効にする」を有効にした場合、ServerView Web-Server とともに ModSSL と OpenSSL がインストールされます。
この場合、URL として「http:」の代わりに「https:」、ポート番号として「3169」の代わりに「3170」を使用することで SSL 接続が可能になります。SSL を使用するには、セキュリティ証明書を取得する必要があります。デフォルトでインストールされるセキュリティ証明書はテスト目的に限定して使用してください。
詳しい情報は、以下の OpenSSL のサイト（http://www.openssl.org）を参照してください。
また、SSL を使用した URL は、接続時に認証が求められるようになります。
ユーザを追加するには、以下の操作を行ってください。

1 コマンドプロンプトから、以下の 2 つのコマンドを続けて実行します。

```
cd "［システムドライブ］:¥Program Files¥Fujitsu ¥F5fbfe01¥ServerView Services¥WebServer¥bin"
htpasswd passwd <ユーザ名>
```

2 新しいパスワードを入力します。

```
Automatically using MD5 format on Windows.
New password:
```

3 **確認のため、再度パスワードを入力します。**

```
Re-type new password:
```

パスワードが一致した場合、以下のメッセージが表示され、ユーザが追加されます。

```
Adding password for user <ユーザ名>
```

以下のメッセージが表示された場合は、パスワードが間違っています。コマンドの実行からやりなおしてください。

```
htpasswd: password verification error
```

ユーザを削除するには、以下のファイルをテキストエディタで開き、削除したいユーザ名が含まれる行を削除してください。

［システムドライブ］:¥Program Files¥Fujitsu¥F5fbfe01¥ServerView Services¥WebServer¥bin¥passwd

デフォルトでは、ユーザは「svuser」、パスワードは「fsc」が設定されています。
安全のため、このユーザを削除して、独自のユーザを追加してください。

● BootRetryCounter について

異常によるシャットダウン処理が発生した場合、正常に起動しても、「再起動リトライ回数の最大値」は減ったままで、自動的には回復しません。
この値を回復するには、以下の手順を行ってください。

1 **ServerView で該当するサーバを選択します。**

2 **右クリックし、「ASR のプロパティ」をクリックします。**
「ASR のプロパティ」画面が表示されます。

3 **［再起動設定］タブをクリックします。**

4 **「再起動リトライ回数の最大値」の右側にある［デフォルト］をクリックします。**
該当サーバへ一度もログイン作業を行っていない場合、ログインが要求されます。

● UPS 使用時の注意事項

UPS による復電またはスケジュール運転を行う場合、サーバに自動的に電源を入れるために、サーバ本体に BIOS 設定が必要です。
サーバ本体の BIOS 設定については、サーバ本体のユーザーズガイド、または、ServerView の Hints.txt を参照してください。

● リモートサービスボード搭載時の留意事項

リモートサービスボードを搭載した場合、サーバに接続されているキーボードが、英語 101/102 キーボード配列で動作する場合があります。本現象が発生した場合は、以下の手順で対処してください。

1 デバイスマネージャを起動し、キーボード配下の［101/102 英語キーボードまたは Microsoft Natural PS/2］をダブルクリックします。

2 ［ドライバ］タブを選択し、［ドライバの更新］をクリックします。
ドライバの更新ウィザードが起動します。

3 「このデバイスの既知のドライバを表示してその一覧から選択する」にチェックを付け、［次へ］をクリックします。

4 「このデバイスクラスのハードウェアをすべて表示」にチェックを付け、［日本語キーボード (106/109 キー)］を選択して［次へ］をクリックします。

5 ウィザードに従ってドライバを更新後、コンピュータを再起動します。

POINT

- 本現象に関する詳細な情報については、以下を参照してください。
  ・マイクロソフト サポート技術情報 - 416037
  「USB キーボードデバイス接続後に英語 101 キーボード配列になる」

● Windows 起動時に、SWITCH: TIMEOUT のエラーがイベントビューアに記録される

Windows 起動時、イベントビューアのアプリケーションログ内に以下のエラーが記録されることがあります。

```
イベントの種類: エラー
イベント ソース: Server Control
イベント カテゴリ: なし
イベント ID: 0
説明: SWITCH: TIMEOUT - extension module EM_xxx did not start
within yyy seconds.
```

以下の手順で ServerView Windows エージェントを再起動するか、Windows の再起動を行ってください。

1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「Fujitsu ServerView Agents」→「Diagnostic Tools」→「Restart ServerView Base Services」の順にクリックします。

2 「Search for management hardware」を有効にして、［Restart］をクリックします。

重要

- 通常は「Restart ServerView Base Services」を起動しないでください。

B　アンインストール

ServerView のアンインストール方法について説明します。

B.1　ServerView のアンインストール

重要

- ServerView をアンインストールする場合、すべての ServerView プログラムを終了させてから行ってください。ServerView をアンインストールしたあと、ディレクトリ、サブディレクトリ、ファイルが削除されないことがあります。また、アンインストールしたあとに ServerView がプログラムグループから削除されないことがあります。
- アンインストールを行う時に、途中で処理を中断したり、下記手順以外の操作を行うと、正しくアンインストールされません。アンインストールは最後まで確実に行ってください。
- サーバの BIOS に記憶された項目は、ServerView をアンインストールしても元の状態に戻りません。設定を元の状態にしてから、ServerView をアンインストールしてください。
- アンインストール画面において文字化けが生じることがありますが、動作には影響はありません。
- アンインストール終了後、ServerView のショートカットが残っている場合があります。手動で削除（ショートカットアイコンを右クリックし、「削除」を選択）してください。
- ServerView Windows コンソールのアンインストール後、タスクスケジューラに「At**（**：タスク ID）」というタスクが残っている場合があります。この場合は、タスクのプロパティを開いて「実行するファイル名」が下記と同じ場合は、タスクを削除してください。
  - ・ServerView のタスクスケジューラで実行されるファイル：
    システムドライブ：¥Program Files¥Fujitsu¥F5FBFE01¥ServerView¥Services¥WebServer¥ClearMyLogs.exe

■ ServerView Windows コンソールのアンインストール

重要

- アンインストールを行うため、サーバリストやアラーム設定などの設定は削除されます。自動的に設定を引き継ぐ機能はありませんので、アンインストール前に設定内容を控えておいてください。アップデートインストール後、再度設定してください。

サーバをレベルアップしてサーバの監視システムを再構築する場合は、以下の操作、および次項目の ServerView エージェントのアンインストールを行います。
また、管理端末を他のパソコンに切り替えて使用する場合、または ServerView をレベルアップする場合など管理端末から現在の管理コンソールをアンインストールするには、以下の操作を行います。
なお、管理コンソールおよび、ServerView S2 が一度に削除されます。削除する対象を選択することはできません。

1 管理者または管理者と同等の権限をもつユーザ名でログインします。

2 実行中のアプリケーションをすべて終了します。

3 「コントロールパネル」を起動し、「アプリケーションの追加と削除」をダブルクリックします。

4 「Fujitsu ServerView」を選択し、[削除] をクリックします。

ServerView Windows コンソールがアンインストールされます。

■ ServerView Windows エージェントのアンインストール

重要

- アンインストール前に、以下を確認してください。
  - ・ソフトウェアウォッチドッグ、起動ウォッチドッグ監視、Power ON/OFF 設定を「有効」に設定している場合は、「無効」に設定してください。
    →「■ [Power ON/OFF] タブ」(P.143)、
    →「■ [ウォッチドッグ設定] タブ」(P.144)
  - ・管理コンソールのしきい値マネージャによる監視を実行している場合は、停止してください。
    →「■ しきい値での監視を停止する」(P.235)
  - ・パフォーマンスマネージャでしきい値監視、レポート作成を適用している場合は、サーバへの適用を解除してください。
    →「3.6.6 サーバへの適用」(P.197)
  - ・アンインストールを行うため、電源スケジュールや ASR 機能などの設定（管理コンソール、ServerView S2 を使用して設定する項目）は削除されます。自動的に設定を引き継ぐ機能はありませんので、アンインストール前に設定内容を控えておいてください。
    アップデートインストール後、再度設定してください。

ServerView Windows エージェントをアンインストールするには、以下の操作を行います。

1 管理者または管理者と同等の権限をもつユーザ名でログインします。

2 実行中のアプリケーションをすべて終了します。

3 「コントロールパネル」を起動し、「アプリケーションの追加と削除」をダブルクリックします。

4 「ServerView Agents」を選択し、[削除] をクリックします。

ServerView Windows エージェントがアンインストールされます。

■ [Linux] ServerView Linux エージェントのアンインストール

重要

- アンインストール前に、以下を確認してください。
  - ・ソフトウェアウォッチドッグ、起動ウォッチドッグ監視、Power ON/OFF 設定を「有効」に設定している場合は、「無効」に設定してください。
    →「■ [Power ON/OFF] タブ」(P.143)、
    →「■ [ウォッチドッグ設定] タブ」(P.144)
  - ・管理コンソールのしきい値マネージャによる監視を実行している場合は、停止してください。
    →「■ しきい値での監視を停止する」(P.235)

・アンインストールを行うため、電源スケジュールや ASR 機能などの設定（管理コンソール、ServerView S2 を使用して設定する項目）は削除されます。自動的に設定を引き継ぐ機能はありませんので、アンインストール前に設定内容を控えておいてください。
アップデートインストール後、再度設定してください。

ServerView Linux エージェントをアンインストールするには、以下の操作を行います。

1 スーパユーザでログインします。

2 以下のコマンドを実行します。

```
# rpm -e srvmagt-agents
# rpm -e srvmagt-eecd
# rpm -e srvmagt-mods_src
```

ServerView Linux エージェントがアンインストールされます。
必要があれば /etc/snmp/snmpd.conf をデフォルトの設定に戻してください。

■［Linux］ServerView S2 / AlarmService のアンインストール

ServerView S2 / AlarmService をアンインストールするには、以下の操作を行います。

重要

- ServerView S2 は、RemoteControlService/Web がインストールされている場合、依存関係を設定しているため、アンインストールできません。先に、RemoteControlService/Web をアンインストールする必要があります。RemoteControlService/Web のアンインストールについては、「5.2.1 RemoteControlService/Web のインストール／アンインストール」（→ P.313）を参照してください。

1 スーパユーザでログインします。

2 以下のコマンドを実行します。

```
# rpm -e ServerView_S2
# rpm -e AlarmService
```

ServerView S2 / AlarmService がアンインストールされます。

C　アイコンリスト

各画面に表示されるアイコンのリストとその意味について説明します。
アイコンは、1 つまたは複数のオブジェクトのステータスやその変化が一目で分かるように表示されます。

C.1　Server List

Server List ウィンドウに表示されるアイコンのリストとその意味は、以下のとおりです。

表：Server List ウィンドウに表示されるアイコン

アイコン	意味
	OK。すべてのコンポーネントは OK。
	エラー。1 つまたは 1 つ以上のコンポーネントでエラーが発生。
	ステータスが悪化。1 つまたは 1 つ以上のコンポーネントのステータスが悪化。
	管理不可能。コンポーネントのステータスを特定できない。
	調査ステータス。調査プロセス中の未定義のステータス。
	不明。サーバにアクセスできない。
	DeskInfo。DeskInfo ツールを開始可能。
	拡張サーバマネージャを起動できます。
	Intel LANDesk® Server Manager（LDSM）を起動できます。
	ServerView がサーバからアラームを受信。
	このサーバでのしきい値測定を開始。
	このサーバでアーカイブデータが使用可能。
	クラスタのステータスは正常。
	調査ステータス！調査プロセス中に未定義のステータス。
	エラー！クラスタの 1 つ以上のコンポーネントでエラーが発生。
	OK! クラスタのすべてのコンポーネントは OK。
	管理不可能。クラスタのステータスを特定できない。

表：Server List ウィンドウに表示されるアイコン

アイコン	意味
	クラスタのステータスを特定できない。
	ステータスが悪化！クラスタの 1 つ以上のコンポーネントのステータスが悪化。
	サーバが反応しないため、RSB がセカンダリチャネルを介して応答します。

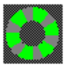
POINT

- サーバリストの LDSM サーバをダブルクリックすると、LDSM コンソールが開きます。異なる LDSM サーバを表示したい場合、まず LDSM コンソールを閉じてから、必要なサーバの LDSM コンソールをそのサーバをダブルクリックして開く必要があります。

C.2　ServerView メニュー

ServerView メニューに表示されるアイコンのリストとその意味は、以下のとおりです。

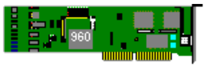
表：ServerView メニューに表示されるアイコンのリスト

アイコン	意味
	メンテナンス バッテリのサポート
	ASR: 自動サーバ再構成 自動サーバ検索
	再起動 サーバの再起動
	サーバのシャットダウンが中止
	シャットダウンと OFF サーバのシャットダウンと電源の切断
	メモリモジュール
	温度（赤色 : 危険、緑色 : 稼働中、黄色 : スタンバイ状態、青色 : センサが故障、灰色 : 不明）
	ファン （赤色 : 故障、緑色 : 稼働中、黄色 : スタンバイ状態、灰色 : 不明）
	サーバのドアが閉じられている
	サーバのドアが開いている
	サーバのケースが閉じられている
	サーバのケースが開いている

C.3 Mylex の Device View ウィンドウ

Device View ウィンドウに表示されるアイコンのリストとその意味は、以下のとおりです。

表：Device View ウィンドウに表示されるアイコン

アイコン	意味
	Mylex コントローラ
MB または GB の能力	Mylex 赤色の文字 : 停止中 黄色の文字 : スタンバイモード 緑色の文字 : OK で稼働中 赤紫色の文字 : S.M.A.R.T. が故障 青色の文字 : 不明な状態または再構築状態
	ホスト

C.4 DPT Disk Array Devices ウィンドウ

DPT Disk Array Devices ウィンドウに表示されるアイコンのリストとその意味は、以下のとおりです。

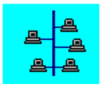
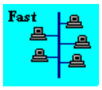
表：DPT Disk Array Devices ウィンドウに表示されるアイコン

アイコン	意味
	ステータス : 最適（緑色）
	ステータス : 調査、警告、ステータス悪化、再構築、調査終了（黄色）
	ステータス : エラー、デバイスのフォーマット中、デバイスのセットアップ中（赤色）
	ステータス : 無効、欠落、セットアップされていない、消去済み（青色）

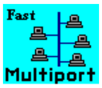
C.5 ネットワークインターフェースウィンドウ

ネットワークインターフェースウィンドウに表示されるアイコンのリストとその意味は、以下のとおりです。

表：ネットワークインターフェースウィンドウに表示されるアイコン

アイコン	意味
	イーサネットネットワークカード
	ファストイーサネットネットワークカード
	イーサネットネットワークカード (複数のネットワーク接続、マルチポート)

表：ネットワークインターフェースウィンドウに表示されるアイコン

アイコン	意味
	ファーストイーサネットネットワークカード (複数のネットワーク接続、マルチポート)
	トークンリングネットワークカード
	FDDI ネットワークカード
	統計情報の入力
	統計情報の出力

C.6　バスとアダプタウィンドウ

バスとアダプタウィンドウに表示されるアイコンのリストとその意味は、以下のとおりです。

表：バスとアダプタウィンドウに表示されるアイコン

アイコン	意味
	システムボード上のスロットの位置 : スロット 1 が一番下
	システムボード上のスロットの位置 : スロット 1 が一番上
	選択レベルの分岐が開いている
	選択レベルの分岐が閉じられている
	最低位置の選択レベル、これ以上選択できない

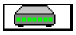
C.7　Alarm Manager ウィンドウと Alarm Monitor ウィンドウ

Alarm Manager ウィンドウと Alarm Monitor ウィンドウに表示されるアイコンのリストとその意味は、以下のとおりです。

表：Alarm Manager ウィンドウと Alarm Monitor ウィンドウに表示されるアイコン

アイコン	意味
	赤色のアラーム : 危険
	ピンク色のアラーム : 重度

表：Alarm Manager ウィンドウと Alarm Monitor ウィンドウに表示されるアイコン

アイコン	意味
	黄色のアラーム : 軽度
	青色のアラーム : 情報
	白色のアラーム : 不明
	ユーザのエントリによりアラームは確定済みである。
	このアラームにより、ほかの実行可能プログラムが起動された。
	このアラームに対してブロードキャスト メッセージが送信された。
	このアラームに対してメールが送信された。
	このアラームにより、ポケットベル呼び出しが起動された。
	このアラームは、マネージャまたは管理ステーションに送信される。
	このアラームは、ローカル NT イベントログに送信される。
	このアラームは、データベースに格納される。
	緑色 : ポケットベルを確認。
	黄色 : ポケットベルを完了。
	赤色 : ポケットベルあり（まだ動作中）
	緑色 : 転送を確認。
	黄色 : 転送を完了。
	赤色 : 転送あり（まだ動作中）

C.8 クラスタのステータス（未サポート）

クラスタオブジェクトを表したアイコンのリストとその意味は、以下のとおりです。

表：クラスタオブジェクトを表したアイコン

アイコン	意味
	クラスタのステータスアイコン
	クラスタサーバノードのステータスアイコン
	クラスタグループのステータスアイコン
	クラスタリソースのステータスアイコン
	クラスタネットワークのステータスアイコン

■ サーバノードのステータス

クラスタサーバノードのステータスアイコンとその意味は、以下のとおりです。

表：クラスタサーバノードのステータスアイコン

アイコン	意味
	不明 : ノードの状態を特定できない、または、この表のどの状態にも一致しない。
	アップ : サーバノードは稼働中。
	ダウン : サーバノードは故障中。
	停止 : サーバノードは、現在グループサービスを提供していない。
	結合 : サーバノードは現在クラスタサービスを開始しているが、まだ利用できる状態にはなっていない。
	使用不可 : サーバノードは使用できない。

■ グループのステータス

クラスタグループのステータスアイコンとその意味は、以下のとおりです。

表：クラスタグループのステータスアイコン

アイコン	意味
	不明 : グループの状態を特定できない、または、この表のどの状態にも一致しない。
	オンライン : グループはオンライン状態。
	オフライン : グループはオフライン状態。
	部分的オンライン : グループは部分的にオンライン状態。
	故障 : グループは故障中。
	使用不可 : グループは使用できない。

■ リソースのステータス

クラスタリソースのステータスアイコンとその意味は、以下のとおりです。

表：クラスタリソースのステータスアイコン

アイコン	意味
	不明 : リソースの状態を特定できない、または、この表のどの状態にも一致しない。
	オンライン : リソースは使用可能。

表：クラスタリソースのステータスアイコン

アイコン	意味
	オフライン : リソースは現在使用不可。
	故障 : リソースは故障中。
	オンライン待機中 : リソースの立ち上げ処理中。
	オフライン待機中 : リソースの停止処理中。
	オンラインステータス不確定 : リソースの状態を特定できず、現在使用できない。
	使用不可 : リソースは使用できない。
	継承済み : リソースは継承済み。
	初期化段階 : 現在リソースの初期化中。

■ ネットワークのステータス

クラスタネットワークのステータスアイコンとその意味は、以下のとおりです。

表：クラスタネットワークのステータスアイコン

アイコン	意味
	不明 : ネットワークの状態を特定できない、または、この表のどの状態にも一致しない。
	アップ : ネットワークインターフェースはフル稼働中。
	シャットダウン : ネットワークはシャットダウン済み。
	接続中断 : クラスタの 1 つ以上のノードで相互間の通信ができない。
	使用不可 : ネットワークは使用できない。

■ ネットワークインターフェースのステータス

クラスタネットワークインターフェースのステータスアイコンとその意味は、以下のとおりです。

表：クラスタネットワークインターフェースのステータスアイコン

アイコン	意味
	不明 : ネットワークインターフェースの状態を特定できない、または、この表のどの状態にも一致しない。
	アップ : ネットワークインターフェースは稼働中。

表 : クラスタネットワークインターフェースのステータスアイコン

アイコン	意味
	故障 : ネットワークインターフェースは稼動していない。
	アクセス不可 : ネットワークインターフェースはほかのノードからアクセスできない。
	使用不可 : ネットワークインターフェースは使用できない。

C.9　ブレードサーバのステータス

ブレードサーバのステータスアイコンとその意味は、以下のとおりです。

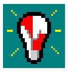
表 : ブレードサーバのステータスアイコン

アイコン	意味
	ブレードサーバのステータスは正常（すべてのブレードのステータスは OK）
	ブレードサーバのステータスを調査中
	ブレードサーバのステータスが悪化（少なくとも 1 つのブレードのステータスが悪化）
	ブレードサーバのステータスがエラー（少なくとも 1 つのブレードのステータスがエラー）
	管理不可能（ブレードサーバが応答しない）
	不明。ブレードサーバにアクセスできない

■ ブレードサーバのステータス LED

ブレードサーバのステータス LED アイコンとその意味は、以下のとおりです。

表 : ブレードサーバのステータス LED アイコン

アイコン	意味
	点灯中
	消灯中
	点滅中（システム異常を示します）

■ ブレードの種類

ブレードサーバ内の各ブレードの種類は、以下のとおりです。

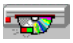
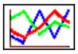
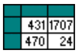
表：ブレードサーバ内の各ブレード

アイコン	意味
	マネジメントブレード（マスタ）
	マネジメントブレード（スレーブ）
	スイッチブレード
	サーバブレード

C.10 その他のアイコン

特定のウィンドウに対応付けられないアイコンのリストとその意味は、以下のとおりです。

表：特定のウィンドウに対応付けられないアイコン

アイコン	意味
	CD-ROM（赤色 : エラー、緑色 : オンライン、黄色 : スタンバイ、青色 : 不明）
	通信デバイス（赤色 : エラー、緑色 : オンライン、黄色 : スタンバイ、青色 : 不明）
	CPU（赤色 : エラー、緑色 : オンライン、黄色 : スタンバイ、青色 : 不明）
	ジュークボックス、自動 CD-ROM チェンジャ（赤色 : エラー、緑色 : オンライン、黄色 : スタンバイ、青色 : 不明）
	MOD（赤色 : エラー、緑色 : オンライン、黄色 : スタンバイ、青色 : 不明）
	プリンタ（赤色 : エラー、緑色 : オンライン、黄色 : スタンバイ、青色 : 不明）
	スキャナ（赤色 : エラー、緑色 : オンライン、黄色 : スタンバイ、青色 : 不明）
	テープドライブ装置（赤色 : エラー、緑色 : オンライン、黄色 : スタンバイ、青色 : 不明）
	WORM 装置（Write Once Read Many）（赤色 : エラー、緑色 : オンライン、黄色 : スタンバイ、青色 : 不明）
	ハードディスク ハードディスク（赤色 : 故障、緑色 : OK）
	不明デバイス（赤色 : エラー、緑色 : オンライン、黄色 : スタンバイ、青色 : 不明）
	グラフィック表示
	グラフ表示
	テキストまたは表による表示

表：特定のウィンドウに対応付けられないアイコン

アイコン	意味
	ポケットベル監視（赤色 : エラー、緑色 : オンライン、黄色 : スタンバイ、青色 : 不明）
	OK
	管理不可
	調査モード
	エラー
	初期設定、環境 [< サーバ >]、または電源 [< サーバ >]
	ネットワーク関連のすべてのウィンドウ : ネットワークインターフェース [<Server>]、トークンリング 統計情報 [<Server>]、イーサネット MAC 統計情報 [<Server>]、FDDI MAC 統計情報 [<Server>]
	外部記憶装置関連のすべてのウィンドウ : 外部記憶装置 [<Server>]、デバイスの表示 [<Server>]、外部記憶装置 : パーティションビュー [<Server>]、外部記憶装置 : ロジカルビュー [<Server>] Mylex ディスクアレイウィンドウ : デバイスビュー [<Server>]、アダプタビュー [<Server>]、物理デバイスビュー [<Server>]
	システム情報（特に OS）
	ベースボード [<Server>]
	Windows デスクトップ上の Server Manager、サーバリスト、ServerView[<Server>]、アラームマネージャ、しきい値マネージャ、レポートマネージャ、しきい値リスト、レポートリスト
	Windows デスクトップ上の Server Manager のヘルプシステム

D　トラップリスト

トラップは、SNMP エージェントから送信される SNMP Protocol Data Unit アラームです。これは、エラーメッセージや、選択したしきい値レベルを超えているために発生するステータスの変化など、予期しなかったイベントを管理ステーションに通知するためのものです。

アラーム設定の「共通設定」画面を起動して、各サーバと重大度（危険／重度／軽度／情報）に対して異なる対策を選択できます。

- ログ
  イベントがデータベース表にあるアラームログリストに書き込まれます。
- ポップアップ
  アラームモニタが起動します。

危険アラームイベントは、ログファイルのアラームログリストに常に書き込まれます。
アラームモニタには受信されるすべてのトラップが表示されますが、アラームマネージャにはログファイルに書き込まれたイベントだけが表示されます。
OS の SNMP トラップを ServerView が受信したときに表示されるメッセージ、および OS イベントログに格納するものの一覧表については、『ServerView トラップリスト』を参照してください。
トラップは、カテゴリ毎に分類され、カテゴリ内では Specific Code 順に分類されています。
AlarmService が受信格納したトラップのイベントログは、以下のソース名で記録されます。

- ソース名：Fujitsu ServerView Service

また、格納したイベントログには、下記メッセージが先頭に記録されます。

- ServerView received the following alarm from server < サーバ名 >:

■ トラップ一覧

トラップ一覧の詳細は、『ServerView トラップリスト』を参照してください。

E　しきい値リスト

しきい値の監視に使用する、ServerView 変数について説明します。

E.1　監視される値

次に示すしきい値が監視対象となります。

表：監視対象のしきい値

値	意味
DAC960-AdapterInfo-Values	DAC960 アダプタ設定のしきい値。
DAC960-PhysicalDevice-Values	DAC960 アダプタに接続するデバイスのデバイスエラーのしきい値。
Environment-Values	ファン速度のしきい値。
Ethernet-MAC-Statistics	イーサネット MAC エラーのしきい値。
FDDI-MAC-Statistics	FDDI-MAC エラーのしきい値。
FDDI-Port-Statistics	FDDI ポートエラーのしきい値。
Interface-Values	インターフェース統計情報とインターフェースエラーのしきい値。
IP-Info	IP 統計情報のしきい値。
Memory-Values	メモリエラーのしきい値。
NetWare-Info	NetWare 接続のしきい値。
OnOffTimes	電源のオン / オフ時間のしきい値。
PC-Inventory-CPUValues	CPU 使用のしきい値。
PC-Inventory-FileSystem	使用可能ブロックのしきい値。
PC-Inventory-Info	マウント済みファイルシステムのしきい値。
SystemBoard-Info	バスのロードのしきい値。
SystemControl-Info	キャビネット数のしきい値。
TokenRing-MAC-Statistics	TokenRing エラーのしきい値。
UPS-Values	バッテリによる稼動時間のしきい値。

E.2　各値の意味

■ DAC960-AdapterInfo-Values

表：DAC960-AdapterInfo-Values

値	意味
mylex.NumChannels	現在のチャネル数。
mylex.NumLogicalDrives	現在の論理ドライブ数。
mylex.NumPhysicalDevices	現在の物理デバイス数。

■ DAC960-PhysicalDevice-Values

表：DAC960-PhysicalDevice-Values

値	意味
physDev960.HardError Count	ハードウェアエラーカウント（設定済み DAC ディスクのみ）。
physDev960.MiscErrorCount	さまざまなエラーカウント（設定済み DAC ディスクのみ）。
physDev960.ParityError Count	パリティエラーカウント（設定済み DAC ディスクのみ）。
physDev960.SoftErrorCount	ソフト（通常）エラーカウント（設定済み DAC ディスクのみ）。

■ Environment-Values

表：Environment-Values

値	意味
fan.CurrentMaxSpeed	最大パワー時のファンの現在速度（回転 / 分）（-1 = 不明）。
fan.CurrentSpeed	ファンの現在速度（回転 / 分、-1 = 不明）。

■ Ethernet-MAC-Statistics

表：Ethernet-MAC-Statistics

値	意味
ethS.AlignmentErrors	長さは整数バイトではなく、FCS チェックをパスしていない特定のインターフェース上で受信したフレーム数。
ethS.CarrierSenseErrors	特定のインターフェース上でのフレームの送信時に、キャリア検出テストが失敗して実行されなかった回数。
ethS.DeferredTransmissions	媒体がビジー状態のため、特定のインターフェース上で最初の送信に遅れがあったフレーム数。
ethS.ExcessiveCollision	過度の衝突のため、特定のインターフェース上での送信に失敗したフレーム数。
ethS.FCSErrors	長さは整数バイトであるが、FCS チェックをパスしていな、特定のインターフェース上で受信したフレーム数。
ethS.FrameTooLongs	最大許容フレームサイズを超えた、特定のインターフェース上で受信したフレーム数。
ethS.InternalMacReceiveErrors	内部 MAC サブレイヤ受信エラーのため、特定のインターフェース上での受信に失敗したフレーム数。
ethS.InternalMacTransmit Errors	内部 MAC サブレイヤ送信エラーのため、特定のインターフェース上での送信に失敗したフレーム数。
ethS.LateCollisions	512 ビットを超えるパケットの送信後、特定のインターフェース上で衝突を検出した回数。
ethS.MultipleCollisionFrames	複数の衝突が発生したため送信が除去された特定のインターフェース上で、正常に送信されたフレーム数。
ethS.SingleCollisionFrames	1 つの衝突が発生したため送信が除去された特定のインターフェース上で、正常に送信されたフレーム数。
ethS.SQETestErrors	特定のインターフェースに対して、SQE TEST ERROR メッセージが PLS サブレイヤによって生成された回数。

■ FDDI-MAC-Statistics

表：FDDI-MAC-Statistics

値	意味
fddiM.ErrorsCts	Error_Count（ANSI MAC 2.2.1 を参照）
fddiM.FrameCts	Frame_Count（ANSI MAC 2.2.1 を参照）
fddiM.LostCts	Lost_Count（ANSI MAC 2.2.1 を参照）

■ FDDI-Port-Statistics

表：FDDI-Port-Statistics

値	意味
fddiP.LCTFailCts	接続管理中に、リンク信頼テストに連続して失敗した回数。
fddiP.LemCts	電源投入時、ゼロにリセットされるだけのリンクエラーモニタがカウントするエラー数。
fddiP.LemRejectCts	リンクが拒否された時間数のリンクエラー監視回数。

■ Interface-Values

表：Interface-Values

値	意味
if.InDiscards	上位レイヤプロトコルでパケットを使用できないようにしたエラーがないのに、廃棄するよう選択された進入パケット数。
if.InErrors	上位レイヤプロトコルでパケットを使用できないようにしたエラーが含まれている進入パケット数。
if.InNUcastPkts	上位レイヤプロトコルに送信された（ブロードキャストではない）非マルチキャストパケット数。
if.InOctets	フレーム指示キャラクタを含め、インターフェース上で受信した合計バイト数。
if.InUcastPkts	上位レイヤプロトコルに送信されたサブネットワークのユニキャストパケット数。
if.InUnknownProtos	不明またはサポートされないプロトコルのため廃棄された、インターフェース経由での受信パケット数。
if.OutDiscards	パケットを送信できないようにしたエラーが検出されなくても、廃棄するよう選択された送出パケット数。
if.OutErrors	エラーにより送信できなかった送出パケット数。
if.OutNUcastPkts	廃棄されたり送信されなかったパケットを含め、上位レベルプロトコルが非ユニキャストアドレスに送信を要求した合計パケット数。
if.OutOctets	フレーム指示キャラクタを含め、インターフェース上で送信された合計バイト数。
if.OutQLen	出力パケットキューの長さ（パケット内）。
if.OutUcastPkts	廃棄されたり送信されなかったパケットを含め、上位レベルプロトコルがサブネットワークのユニキャストアドレスに送信するよう要求した合計パケット数。
if.Speed	インターフェースの現在の帯域幅の見積もり（ビット / 秒）。

■ IP-Info

表：IP-Info

値	意味
ip.ForwDatagrams	このエンティティが最終 IP 宛先でないため、データグラムを最終宛先に転送する経路を検索しようと試みた、入力データグラム数。
ip.InReceives	誤って受信したデータグラムを含め、インターフェースから受信した合計入力データグラム数。
ip.OutRequests	送信を要求したため、ローカル IP ユーザプロトコル（ICMP を含む）が IP に提供した合計 IP データグラム数。

■ Memory-Values

表：Memory-Values

値	意味
memModule.Errors	最後のエラーカウントがリセットされてから、このモジュールで発生した（パリティ）エラー数（-1 = 不明）。

■ NetWare-Info

表：NetWare-Info

値	意味
sniNW.ConnectionsInUse	現在使用されている接続数。
sniNW.PeakConnectionsUsed	使用された接続のピーク数。

■ OnOffTimes

表：OnOffTimes

値	意味
#power.OffDuration	システムの存続期間において、電源がオフになっていた時間（時間で表示、-1 = 不明）。
power.OnCounts	サーバの存続期間において、電源がオンになった回数（-1 = 不明）。
power.OnDuration	システムの存続期間において、電源がオンになっていた時間（時間で表示、-1 = 不明）。

■ PC-Inventory-CPUValues

表：PC-Inventory-CPUValues

値	意味
sni.CPUUtilization	CPU がデータを処理している時間のパーセント。

■ PC-Inventory-FileSystem

表：PC-Inventory-FileSystem

値	意味
sni.AvailableBlocks	ファイルシステムの未使用ブロック数（未使用ブロック * ブロックサイズ = ファイルシステムで使用可能なバイト数）。

■ PC-Inventory-Info

表：PC-Inventory-Info

値	意味
sni.MountedFileSystems	現在マウントされているファイルシステム数。

■ SystemBoard-Info

表：SystemBoard-Info

値	意味
utilization.EisaLoad	EISA バス上のロード（パーセント表示、不明の場合は -1）。
utilization.PciLoad	PCI バス上のロード（パーセント表示、不明の場合は -1）。新たにインプリメンテーションする場合は、このオブジェクトを使用しないこと。このオブジェクトは pciUtilizationTable になりました。

■ SystemControl-Info

表：SystemControl-Info

値	意味
NumberCabinets.Detected	検出されたキャビネット数（サーバそのものが含まれるため、最小値は 1）。

■ TokenRing-MAC-Statistics

表：TokenRing-MAC-Statistics

値	意味
tokS.AbortTransErrors	送信中、ステーションが異常終了区切り記号を送信すると、このカウンタが増加される。
tokS.ACErrors	ステーションが A と C が等しく 0 である AMP フレーム、または SMP フレームを受信してから、最初に AMP フレームを受け取らずに、A と C が等しく 0 である別の SMP フレームを受信した場合に、このカウンタが増加される。これは、AC ビットを正しく設定できないステーションであることを示す。
tokS.BurstErrors	ステーションにより 5 つのハーフビット期間に遷移がないことが検出されると、このカウンタが増加される（バーストファイブエラー検出）。
tokS.FrameCopiedErrors	ステーションが特別なアドレスにアドレス指定されたフレームを認識し、FS フィールドの A ビットが 1 にセットされ、回線瞬断または重複アドレスの可能性があることを検出した場合に、このカウンタが増加される。
tokS.InternalErrors	ステーションが内部エラーを認識した場合に、このカウンタが増加される。
tokS.LineErrors	フレームまたはトークンが、ステーションによりコピーまたは繰り返され、フレームまたはトークンの E ビットが 0 であり、さらに以下の条件のいずれか 1 つが存在している場合に、このカウンタが増加される。 ・フレームまたはトークンの SD と ED との間に非データビットが存在する（J ビットまたは K ビット）。 ・フレームで FCS エラーが発生している。

付
付録

表：TokenRing-MAC-Statistics

値	意味
tokS.LostFrameErrors	ステーションが送信中で、その TRR タイマの期限が切れている場合に、このカウンタが増加される。
tokS.ReceiveCongestions	ステーションが特別なアドレスにアドレス指定されたフレームを認識しても、利用可能なバッファ容量がなく、ステーションで輻輳が発生していることを示す場合に、このカウンタが増加される。
tokS.SoftErrors	インターフェースが検出した通常の（ソフト）エラー数。この数は、このインターフェースが送信したことが記録されている不良 MAC フレーム数とちょうど一致する。
tokS.TokenErrors	稼動中のモニタとして動作しているステーションが、トークンを送信する必要のあるエラー状態を認識した場合に、このカウンタが増加される。

■ UPS-Values

表：UPS-Values

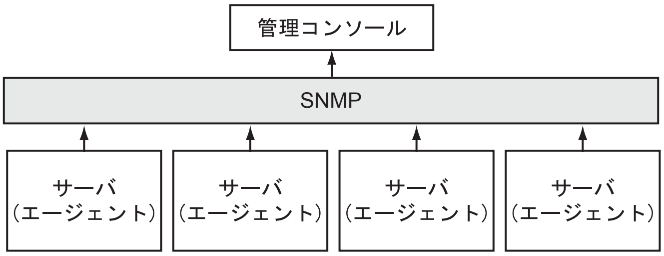
値	意味
ups.TimeOnBattery	UPS がバッテリ電源に切り換わってから経過した時間。

F　技術情報

ServerView を構成する各種技術について説明します。

F.1　エージェントと管理コンソール

ネットワーク、システム、およびアプリケーションの管理は、「管理コンソール」というソフトウェアパッケージを使って行います。管理コンソールは、ネットワークコンポーネントから提供される管理情報にアクセスできます。つまり、ネットワーク、システム、およびアプリケーションに関連する情報はすべて、管理コンソールによって提供されます。



管理コンソールとネットワークコンポーネントとの間で交換される情報は、以下の 2 つのカテゴリに分類することができます。

- 管理コンソールがネットワークコンポーネントに送信するジョブ。たとえば、アクションの開始やシステム利用のクエリを実行する命令など。
- ネットワークコンポーネントから管理コンソールへ送信される自発的メッセージ。たとえば、コンポーネントのステータスを管理コンソールに通知するメッセージなど。

この管理情報のレイアウトと管理情報の交換規則を正式に定義する必要があります。この定義を管理プロトコルと呼びます。SNMP（Simple Network Management Protocol）が標準の管理プロトコルです。

管理コンソールでは、このプロトコルに基づいて通信できる監視対象ネットワークコンポーネント側に、同じような機能を持つものを必要とします。この管理コンソールと同様の機能を持っているものがエージェントです。エージェントは、ローカルのリソースとコンポーネントにアクセスでき、プロトコルを使用すると情報にもアクセスできます。この管理コンソールとエージェントとの相互関係は、管理コンソールとエージェントの原則とも呼ばれます。

エージェントは、OS 依存のソフトウェアで、ネットワークのサーバすべてにインストールする必要があります。エージェントには以下の特性があります。

- プログラムとしては、きわめて小さく効果的である必要がある。エージェントの存在がコンポーネントそのものに影響を与えないように、大量のシステムリソースの使用は許されていない。
- 標準機能として、管理コンソールと通信する基本的な機能を備えている。
- 管理コンソールに対しては、影響を受けるネットワークコンポーネントとそれに関係する特性の代理となる。
- ネットワークの管理コンセプトに簡単に統合できる。

F.2 Management Information Base

管理コンソールとエージェントとの通信では、共通の管理プロトコルの実装が必要です。また、管理コンソールとそれに対応するエージェントは、どの情報の提供および要求が可能であるか、合意していなければなりません。したがって、リソース監視用の管理モデルが一致している必要があります。
管理モデルが一致すると、管理コンソールからエージェントに送信されたジョブが、受信したエージェントによって実行できることも保証されます。逆に言えば、管理コンソールは、ネットワークの特定のイベントに関連しているエージェントからのメッセージを正しく解釈できる必要があります。
したがって、両方の通信相手が、自由に使用できる共通の情報ベースを持っている必要があります。この共通の情報ベースは、Management Information Base（MIB）とも呼ばれます。
ネットワークのどのエージェントも MIB を提供しています。その結果、MIB により該当するコンポーネントの抽象データモデルが構成されます。
MIB の特殊な面としては、エージェントが MIB から提供された特別なリソースとして動作し、MIB を使ってエージェントが自身を設定できるという側面があります。これは、たとえば、Fujitsu エージェントが個々の MIB オブジェクトのしきい値の監視に使用される場合に行われます。
MIB に含める値を記述するには、正式な記述言語である ASN.1（Abstract Syntax Notation One）を使用します。ASN.1 は、国際標準規格 ISO 8824 および ISO 8825 で定義されています。
自分自身の担当範囲を認識するだけで済むエージェントとは反対に、管理コンソールでは、そのタスクを実行するために、ネットワーク全体の完全な情報ベースを必要とします。したがって、ネットワークでエージェントから提供されるすべての MIB ファイルが、管理コンソールシステムに存在する必要があります。
MIB 記述の以下の 2 つのカテゴリが、エージェントにとって重要です。

- 国際標準化委員会によって承認された標準 MIB ファイル。
  たとえば、このような標準 MIB ファイルの 1 つが「MIB II」ファイルであり、インターネットのあらゆるネットワークコンポーネントでその使用が義務づけられています。MIB II ではすでにシステムとルータの管理用の適切なデータモデルが規定されています。
- メーカ独自の拡張が含まれているプライベート MIB ファイル。
  通常、ネットワークコンポーネントの新製品を発売するメーカは、標準 MIB の適用範囲を超えた、コンポーネントの管理面を記述するプライベート MIB ファイルを規定しています。

F.3 SNMP の基本原理

ServerView プログラムでは、Simple Network Management Protocol（SNMP）を使用します。
SNMP は Internet Engineering Task Force（IETF）によって承認された標準プロトコルで、TCP/IP ネットワークの管理用に世界中で使用されています。

■ SNMP のデータ要素

MIB に含まれている情報の個々の部分は、MIB 独自のオブジェクトによって記述されます。各オブジェクトでは、世界中で一意のオブジェクト識別子を受け取ります。アクセスタイプも指定されます。

■ SNMP のプロトコル要素

情報はプロトコル要素を使用してネットワーク上を転送されます。SNMP では、管理情報に含まれている値の要求、設定、および表示に、4 つの異なるプロトコル要素を必要とします。5 つ目のプロトコル要素（trap）を使用すると、エージェントは非同期で重要なイベントをレポートできます。

表：SNMP のプロトコル要素

プロトコル要素	タイプ	機能
GetRequest PDU	0	管理コンソールからの MIB オブジェクト要求を読み込む
GetNextRequest PDU	1	管理コンソールからの以下の MIB 要求を読み込む（エンティティ ID 別）
GetResponse PDU	2	要求された値または設定された値が含まれている内容をエージェントから応答する
SetRequest PDU	3	管理コンソールからの MIB オブジェクトの要求を書き込む
Trap PDU	4	特別なイベント発生時の非同期メッセージ

SNMP メッセージは SNMP ヘッダと PDU（プロトコルデータ単位）で構成されます。ヘッダにはバージョン識別コードと認証チェック用のコミュニティストリングが含まれています。PDU そのものは、PDU タイプ（表を参照）と「変数のバインド」のリストです。変数のバインドとは、MIB オブジェクトに値を割り当てることです。このリストは、MIB オブジェクトの名前と割り当てられる値で構成されます。

■ コミュニティ

コミュニティとは、SNMP を使用して相互通信する複数のシステム（管理コンソールとエージェント）を 1 つのグループにまとめたものです。グループは、グループ用のコミュニティストリングで一意に識別されます。同じコミュニティに属するシステムのみが相互に通信可能です。1 つのシステムが複数のコミュニティに属していることもあります。管理コンソールとエージェントが相互通信する場合、このコミュニティストリングがパスワードのように使用されます。エージェントは、管理コンソールからコミュニティストリングを取得してからでなければ、エージェントシステムで情報提供はできません。この制限は、SNMP パケットごとに適用されます。

読み取り専用または読み書き可能など、実行可能なアクセスタイプは、MIB のオブジェクトごとに定義されます。管理コンソールのエージェント情報に対するアクセス権も、コミュニティストリングにバインドされます。コミュニティストリングにバインドされたアクセス権によって、MIB アクセスタイプをさらに制限できます。これらのアクセス権の拡張はできません。読み取り専用アクセス権をオブジェクトに定義するように MIB 定義で規定されている場合、コミュニティストリングが読み書きアクセス権にバインドされていたとしても、そのオブジェクトを読み書き可能で使用することはできません。

コミュニティストリングとアクセス権の使用方法を以下の例で説明します。

● 例

ある SNMP エージェントが、public という名前のコミュニティに属し、読み取り専用アクセス権を持っています。public コミュニティには管理コンソールも含まれていて、この管理コンソールは public コミュニティストリングを使用して対応するメッセージを送信することにより、この SNMP エージェントからの情報を要求できます。同時に、この SNMP エージェントは、net_5 という名前の 2 つ目のコミュニティにも属しており、このコミュニティには読み書きアクセス権が関連付けられています。net_5 コミュニティには、もう 1 つ管理コンソールが含まれています。この例では、2 つ目の管理コンソール、つまり net_5 コミュニティの管理コンソールに、SNMP エージェントを介して書き込み操作を実行する権限が与えられます。

■ トラップ

特別なイベントがネットワークコンポーネントで発生した場合、SNMP エージェントは 1 つ以上の管理コンソールにメッセージを送信してそのイベントの発生を通知できます。このメッセージのことを SNMP ではトラップと呼んでいます。管理コンソールは、受け取ったトラップに基づいて、ネットワークで発生したイベントに対処できます。管理コンソールが SNMP トラップを受け取ったことは、コミュニティストリングでも表示されます。SNMP エージェントがトラップメッセージを管理コンソールに送信する場合には、管理コンソールがメッセージを受け取るために必要なトラップのコミュニティストリングを使用する必要があります。

ServerView トラップについては、「D トラップリスト」（→ P.536）を参照してください。

■ Fujitsu サーバ管理

サーバ管理の背後には、管理コンソールがネットワークにあるサーバの管理情報にアクセスするという基本的な考え方があります。

この機能を実現するために、それに合わせてサーバのハードウェアとファームウェアが設計されています。

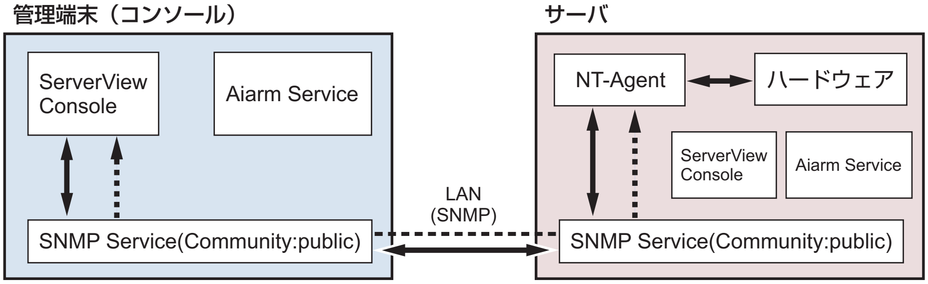
エージェントは既存情報にアクセスし、SNMP を使用して管理コンソールがその情報にアクセスできるようにします。

■ ServerView の構成

使用する OS により、サーバにインストールするコンポーネントが異なります。管理端末には ServerView Windows コンソールをインストールします。各図の破線部分は SNMP プロトコルによる通信です。

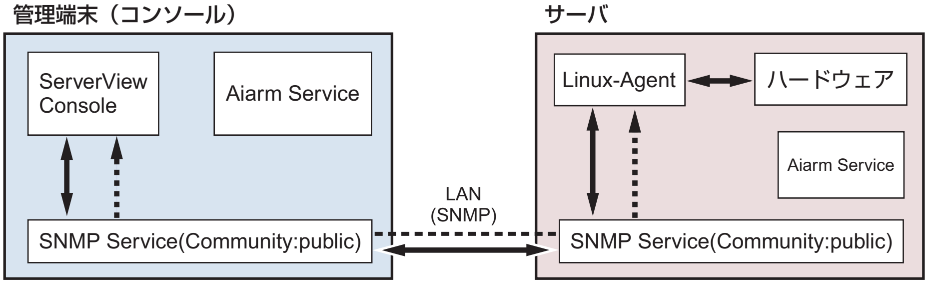
● Windows の場合

サーバに ServerView Windows エージェント s をインストールします。



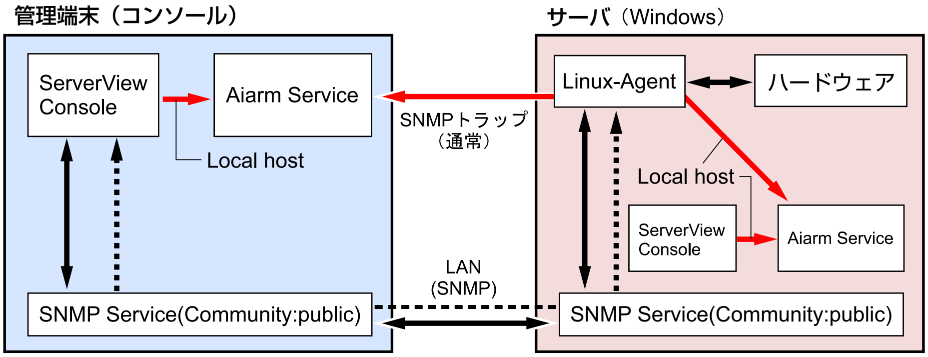
● Linux の場合

サーバに ServerView Linux エージェントと AlarrnService をそれぞれインストールします。



● トラップ送信について

トラップは、SNMP サービスのプロパティ設定によって設定された IP アドレスに送信されます。通常のトラップ送信では、サーバの NT-Agent のトラップをコンソールの Alarm Service で受信します。コンソールで自分自身からのトラップを受信するためには localhost の設定が必要です。サーバの AlarmService で自分自身のトラップを受信する場合も localhost の設定が必要です。



■ 監視機能

● ウォッチドッグ

ソフトウェアウォッチドッグにより、ServerView エージェントの機能が監視されます。
ServerView エージェントが BIOS に接続されると、ソフトウェアウォッチドッグが起動されます。
ServerView エージェントは、ウォッチドッグタイム設定により定義された間隔でサーバ管理ファームウェアに報告する必要があります。ServerView エージェントがサーバ管理ファームウェアへの報告を停止すると、システムが正常に実行していないと見なされ、その後、定義済みのアクション（再起動する、継続稼動する、または Off/On する）が起動されます。
時間間隔は、ウォッチドッグタイムアウトディレイにおいて分単位で設定できます。時間の妥当性は、管理コンソールとエージェントで確認されます。指定できる最小時間は 1 分です。
設定可能な値は「1 ～ 120」分です。なお、「1 ～ 120」分以外が設定されている場合、ServerView での表示は「N/A」となります。エージェントが停止すると（SNMP コマンドの net stop などによる）、ウォッチドッグが自動的に停止し、予定外の再起動が行われないようにします。

● 起動監視

ブートウォッチドッグにより、システムが起動してから、ServerView エージェントが利用可能になるまでの間隔が監視されます。ServerView エージェントにより、定義された期間内にサーバ管理ファームウェアとの接続が確立されないと、ブートアッププロセスが失敗したと見なされ、定義済みのアクション（再起動する、継続稼動する、または Off/On する）が起動されます。時間間隔はウォッチドッグタイムアウトディレイにおいて分単位で設定できます。
設定可能な値は「1 ～ 120」分です。なお、「1 ～ 120」分以外が設定されている場合、ServerView での表示は「N/A」となります。

F.4 バージョン管理（Inventory View）

ServerView のバージョン管理タスクの機能の一つに Inventory View があります。バージョン管理タスクとは ServerView の一部分で、サーバ管理タスクとバージョン管理タスクで共通のフレームワークを使用しています。
Inventory View のメインタスクは、指定されたマシンのハードウェアとソフトウェアの構成を検査します。また、Inventory View 独自のインベントリ情報取得をサポートするネットワークのすべてのサーバ上で、Inventory View 機能を実行できるようにする統合管理ツールも提供しています。このツールを使用すると、システム管理者は、Inventory View のタスクを実行する中央管理ステーションを 1 つ（または複数）定義できるようになります。この機能はサーバ管理機能と類似しているため、Inventory View は ServerView の管理コンソールに組み込まれています。ServerView と Inventory View のタスクでは、管理対象のサーバの一覧として同じものを使用します。
Inventory View は 2 つのモジュールで構成されています。

- 管理コンソール機能
  管理端末にて動作します。インストールしたコンポーネントに関するデータをエージェントから受け取るコンポーネントで構成されています。
  Inventory View では、インストールしたコンポーネントに関する情報を Inventory View SNMP エージェントから受け取ります。個々の結果は、Inventory View の更新済み表示とともにウィンドウに表示されます。
- エージェント機能
  各クライアントマシンで動作します。この機能は、各サーバのインベントリをネットワーク上で使用できるようにします。管理コンソールでは、特定サーバのこのインベントリ情報を取得し、それを評価して結果を表示します。

POINT

- SNMP エージェントにより、特定マシンに関する Inventory View 情報がすべて提供されます。管理コンソールが現在ダウンしているクライアントの情報を表示できるようにするには、インベントリ情報をファイルに保存します。

F.5 エクスポートされるコンテンツの一覧

エクスポートされるコンテンツは、以下のとおりです。

● サーバリスト コンテンツ

- Server_ID
- IP_Address
- Server_Group
- Server_Name
- Location
- Contact
- Model
- Serial_Number
- BIOS_Version
- Number_of_Processors
- Number_of_Processor_Sockets
- Processor_Type
- Memory_Size_MB
- Cache_KB
- Number_of_File_Systems
- Size_of_File_Systems_MB
- Largest_Available_Space_MB
- Operating_System

● コンテナリスト コンテンツ

- Server_ID
- Time

- Functional_Container_No
- Functional_Container_Name
- Container_Parent_No
- サーバ ID リスト コンテンツ
- Server_ID
- Time
- Server_Name
- IP_Address

● インベントリリスト コンテンツ

- Server_ID
- Time
- Component_Name
- Product_Number
- Vendor
- Version
- Component_Type
- Manufacturing_Date
- Serial_Number
- Language
- Functional_Container_No
- Functional_Container_Name
- Physical_Container_No
- Physical_Container_Name

● チェックリスト コンテンツ

- Server_ID
- Time
- Component_Name
- Product_Number
- Vendor
- Version
- Component_Type
- Manufacturing_Date
- Serial_Number
- Language
- Update_Status
- Update_Information
- Systemboard_Compatibility
- Missing_Required_Components
- Exclusion_Information
- ComponentsAddedByRequirement

- Functional_Container_No
- Functional_Container_Name
- Physical_Container_No
- Physical_Container_Name

F.6　SNMP 設定の変更方法

SNMP のコミュニティ名は、管理コンソール側とサーバ側で同一にしておく必要があります。

- SNMP Service のプロパティ設定（トラップ）
  サーバ側では、トラップ送信先に管理コンソールのホスト名または、IP アドレスを必ず入力してください。
- SNMP Service のプロパティ設定（セキュリティ）
  サーバ側で受け付けるコミュニティ名は、管理コンソール側の設定と同一の設定にする必要があります。

■ Windows でのコミュニティ名（public) の変更方法

● 管理コンソールでの設定方法

- すでに登録したサーバを変更する場合：
  ファイル（または対象サーバを選択し右クリック）→サーバのプロパティ→ネットワーク／ SNMP タブのコミュニティ名を変更します。
- 新しいサーバを追加する場合：
  1. ファイル（またはサーバの一覧で右クリック）→新しいサーバ→ネットワーク／ SNMP タブにコミュニティ名を入力します。
  2. サーバのアドレスを一旦開きます。
  3. 一度サーバブラウザを閉じます。
  4. 再度新しいブラウザを開いてください。

● サーバでの設定方法

「これらのホストから SNMP パケットを受け付ける」を選択した場合、下記の３つの設定値を必ず入力してください。

- 管理コンソールのホスト名または、IP アドレス
- 監視対象サーバのホスト名または、IP アドレス
- 監視対象サーバのループバックアドレス（127.0.0.1 または、localhost）

上記設定に誤りがある場合、監視機能が正常に動作致しません。

■ Linux でのコミュニティ名（public）の変更方法

POINT

- Linux での管理コンソールはサポートしていません。

● サーバでの設定方法

1 snmpd.conf 内の下記 3 行の "public" を、任意のコミュニティ名に変更してください。

snmpd.conf の格納場所については、「2.3.4 ［Linux］ServerView Linux エージェントのインストール」（→ P.50）を参照してください。

```
com2sec svSec localhost public
com2sec svSec default public
（中略）
trapsink 127.0.0.1 public
```

重要

- "com2sec svSec localhost public" の行は、ServerView Linux エージェント内部通信で public を使用するために変更しないでください。記載がない場合には、追記してください。

2 ご使用の ServerView Linux エージェントのバージョンが V4.30-16 以前の場合は、/etc/srvmagt/VersionView.ini および /etc/srvmagt/Status_MIB.ini の［Configuration］セクションに、下記の行を追加してください。

ServerView Linux エージェントのバージョンの確認方法については、「2.3.4 ［Linux］ServerView Linux エージェントのインストール」（→ P.50）を参照してください。

```
SnmpCommunity = 変更後のコミュニティ名
```

3 編集後、下記のコマンドを実行してください。

```
# /etc/init.d/srvmagt stop
# /etc/init.d/snmpd stop
# /etc/init.d/eecd stop
# /etc/init.d/eecd start
# /etc/init.d/snmpd start
# /etc/init.d/srvmagt start
```

重要

- SNMP のコミュニティ名を設定するソフトウェア（Systemwalker CentricMGR など）がインストールされている場合は、変更後のコミュニティ名と同一のコミュニティ名に設定してください。設定方法については、各ソフトウェアのマニュアルを参照してください。

F.7 リモートサービスボード（RSB）のファームウェア版数

リモートサービスボード（RSB）のファームウェア版数を参照するには、以下の方法があります。

■ PG-RSB101 の場合

● SERVICE PROCESSOR TOOL の使用

詳細は、「リモートサービスボード搭載キット」の「付録 A SERVICE PROCESSOR TOOL A.3 版数の参照」を参照してください。

● Web インターフェースの使用

Web インターフェースを起動し、[Service Processor] 内の Firmware Version を参照します。

● ServerView の使用

ServerView を起動し、バージョン管理タスクの Inventory View を実行します。リストの中の RSBA_PRIMERGY（リモートサービスコントローラの場合は、CopA_xxxx（xxxx は任意））のバージョンを参照します。

■ PG-RSB102 / PG-RSB103 / PG-RSB104 / PG-RSB105 の場合

● Web インターフェースの使用

- Web インターフェースの起動画面で、「Version N"　RSB_LP_A.X.X.XX.XX」を参照します。
- Web インターフェースにログオンし、［Card Config］タブの Software Revision:「RSB_LP_A.X.X.XX.XX」を参照します。

F.8 アクセス権設定

ServerViewS2（WebExtension）／ AlarmService に対するアクセス権設定について説明します。
ServerViewS2（WebExtension）／ AlarmService は、Apache ／ IIS を利用した Web ブラウザベースの SNMP 管理コンソールです。管理コンソールに対するアクセス権は、使用する WebServer の設定に依存します。

重要

▶ ここでは、ServerView コンソールを使用する上での最小限の設定について説明しています。さらに詳細な設定が必要な場合は、各 WebServer のマニュアルを参照してください。

■ Apache についての設定（Linux）

Linux では、各ディストリビューションにより ServerRoot ／ DocumentRoot が異なります。
以下では、Red Hat Enterprise Linux AS/ES v.4 を設定例として記述します。

● 接続ホストによるアクセス制限

この設定では、接続可能なホストを「192.168.0.2」のみに制限しています。
設定ファイル「/etc/httpd/conf/httpd.conf」に以下の記述を追加します。

```
<Directory "/var/www/cgi-bin/ServerView">
    Order deny,allow
    deny from all
    Allow from  192.168.0.2
</Directory>
<Directory "/var/www/html/ServerView">
    Order deny,allow
    deny from all
    Allow from  192.168.0.2
</Directory>
<Directory "/var/www/html/AlarmService">
    Order deny,allow
    deny from all
    Allow from  192.168.0.2
</Directory>
<Files "sv_www.html">
    Order deny,allow
    Deny from all
    Allow from  192.168.0.2
</Files>
<Files "AlarmService.html">
    Order deny,allow
    Deny from all
    Allow from  192.168.0.2
</Files>
<Files "svagent.html">
    Order deny,allow
    Deny from all
    Allow from  192.168.0.2
</Files>
```

● ユーザ認証によるアクセス制限

管理コンソールに接続するとユーザ認証を要求されます。以下のコマンドを実行して、ユーザの作成とパスワード設定を行います。

```
# htpasswd -c /etc/httpd/conf/svpasswd websvuser
New password: ******
Re-type new password: ******
Adding password for user websvuser
```

さらに「/etc/httpd/conf/httpd.conf」に以下の記述を追加します。

```
<Directory "/var/www/cgi-bin/ServerView">
    AuthType Basic
    AuthName "SV Console"
    AuthUserFile /etc/httpd/conf/svpasswd
    Require user websvuser
</Directory>
<Directory "/var/www/html/ServerView">
    AuthType Basic
    AuthName "SV Console"
    AuthUserFile /etc/httpd/conf/svpasswd
    Require user websvuser
</Directory>
<Directory "/var/www/html/AlarmService">
    AuthType Basic
    AuthName "SV Console"
    AuthUserFile /etc/httpd/conf/svpasswd
    Require user websvuser
</Directory>
```

■ Apache についての設定（Windows）

● SSL 有効でインストールを実施した場合

ServerView インストール時に SSL 有効を選択した場合、設定ファイルとして「ssl.conf」が有効となります。この場合、デフォルトの設定で WebServer 全体に対してパスワードによる制限が有効となっています。以下の設定をすると、デフォルトのパスワード設定は無効となります。

接続ホストによるアクセス制限

この設定では、接続可能なホストを「192.168.0.2」のみに制限しています。
設定ファイル「C:¥Program Files¥Fujitsu¥F5FBFE01¥ServerView Services¥WebServer¥conf¥ssl.conf」の以下の記述をコメントアウトします。

```
# settings for user/password authentication:
# wwwroot
＜中略＞
#</IfDefine>
```

付
付録

さらに「C:¥Program Files¥Fujitsu¥F5FBFE01¥ServerView Services¥WebServer¥conf¥ssl.conf」に以下の記述を追加します。

```
<Directory "C:/PROGRA~1/Fujitsu/F5FBFE01/SERVER~1/scripts/SERVER~1">
    Order deny,allow
    deny from all
    Allow from  192.168.0.2
</Directory>
<Directory "C:/PROGRA~1/Fujitsu/F5FBFE01/SERVER~1/wwwroot/SERVER~1">
    Order deny,allow
    deny from all
    Allow from  192.168.0.2
</Directory>
<Directory "C:/PROGRA~1/Fujitsu/F5FBFE01/SERVER~1/wwwroot/ALARMS~">
    Order deny,allow
    deny from all
    Allow from  192.168.0.2
</Directory>
<Files "sv_www.html">
    Order deny,allow
    Deny from all
    Allow from  192.168.0.2
</Files>
<Files "AlarmService.htm">
    Order deny,allow
    Deny from all
    Allow from  192.168.0.2
</Files>
<Files "svagent.html">
    Order deny,allow
    Deny from all
    Allow from  192.168.0.2
</Files>
```

ユーザ認証によるアクセス制限

管理コンソールに接続するとユーザ認証を要求されます。コマンドプロンプトから以下のコマンドを実行して、ユーザの作成とパスワード設定を行います。

```
C:¥>cd C:¥Program Files¥Fujitsu¥F5FBFE01¥ServerView Services¥WebServer¥bin
C:¥Program Files¥Fujitsu¥F5FBFE01¥ServerView Services¥WebServer¥bin
>htpasswd -c svpasswd websvuser
New password: ******
Re-type new password: ******
Adding password for user websvuser
```

設定ファイル「C:¥Program Files¥Fujitsu¥F5FBFE01¥ServerView Services¥WebServer¥conf¥ssl.conf」の以下の記述をコメントアウトします。

```
# settings for user/password authentication:
# wwwroot
＜中略＞
#</IfDefine>
```

さらに「C:¥Program Files¥Fujitsu¥F5FBFE01¥ServerView Services¥WebServer¥conf¥ssl.conf」に以下の記述を追加します。

```
<Directory "C:/PROGRA~1/Fujitsu/F5FBFE01/SERVER~1/scripts/SERVER~1">
    AuthType Basic
    AuthName "SV Console"
    AuthUserFile "C:/PROGRA~1/Fujitsu/F5FBFE01/SERVER~1/WebServer/bin/passwd"
    Require user websvuser
</Directory>
<Directory "C:/PROGRA~1/Fujitsu/F5FBFE01/SERVER~1/wwwroot/SERVER~1">
    AuthType Basic
    AuthName "SV Console"
    AuthUserFile "C:/PROGRA~1/Fujitsu/F5FBFE01/SERVER~1/WebServer/bin/passwd"
    Require user websvuser
</Directory>
<Directory "C:/PROGRA~1/Fujitsu/F5FBFE01/SERVER~1/wwwroot/ALARMS~">
    AuthType Basic
    AuthName "SV Console"
    AuthUserFile "C:/PROGRA~1/Fujitsu/F5FBFE01/SERVER~1/WebServer/bin/passwd"
    Require user websvuser
</Directory>
```

● SSL 無効でインストールを実施した場合

ServerView インストール時に SSL 無効を選択した場合、「ssl.conf」が有効となりません。
この場合、デフォルトの設定で WebServer に対してパスワードによる制限は行われていません。

接続ホストによるアクセス制限

この設定では、接続可能なホストを「192.168.0.2」のみに制限しています。

設定ファイル「C:¥Program Files¥Fujitsu¥F5FBFE01¥ServerView Services¥WebServer¥conf ¥httpd.conf」に以下の記述を追加します。

```
<Directory "C:/PROGRA~1/Fujitsu/F5FBFE01/SERVER~1/scripts/SERVER~1">
    Order deny,allow
    deny from all
    Allow from  192.168.0.2
</Directory>
<Directory "C:/PROGRA~1/Fujitsu/F5FBFE01/SERVER~1/wwwroot/SERVER~1">
    Order deny,allow
    deny from all
    Allow from  192.168.0.2
</Directory>
<Directory "C:/PROGRA~1/Fujitsu/F5FBFE01/SERVER~1/wwwroot/ALARMS~">
    Order deny,allow
    deny from all
    Allow from  192.168.0.2
</Directory>
<Files "sv_www.html">
    Order deny,allow
    Deny from all
    Allow from  192.168.0.2
</Files>
<Files "AlarmService.htm">
    Order deny,allow
    Deny from all
    Allow from  192.168.0.2
</Files>
<Files "svagent.html">
    Order deny,allow
    Deny from all
    Allow from  192.168.0.2
</Files>
```

ユーザ認証によるアクセス制限

管理コンソールに接続するとユーザ認証を要求されます。以下のコマンドを実行して、ユーザの作成とパスワード設定を行います。

```
C:¥>cd C:¥Program Files¥Fujitsu¥F5FBFE01¥ServerView Services¥WebServer¥bin
C:¥Program Files¥Fujitsu¥F5FBFE01¥ServerView Services¥WebServer¥bin
>htpasswd -c svpasswd websvuser
New password: ******
Re-type new password: ******
Adding password for user websvuser
```

設定ファイル「C:¥Program Files¥Fujitsu¥F5FBFE01¥ServerView Services¥WebServer¥conf ¥httpd.conf」に以下の記述を追加します。

```
<Directory "C:/PROGRA~1/Fujitsu/F5FBFE01/SERVER~1/scripts/SERVER~1">
    AuthType Basic
    AuthName "SV Console"
    AuthUserFile "C:/PROGRA~1/Fujitsu/F5FBFE01/SERVER~1/WebServer/bin/passwd"
    Require user websvuser
</Directory>
<Directory "C:/PROGRA~1/Fujitsu/F5FBFE01/SERVER~1/wwwroot/SERVER~1">
    AuthType Basic
    AuthName "SV Console"
    AuthUserFile "C:/PROGRA~1/Fujitsu/F5FBFE01/SERVER~1/WebServer/bin/passwd"
    Require user websvuser
</Directory>
<Directory "C:/PROGRA~1/Fujitsu/F5FBFE01/SERVER~1/wwwroot/ALARMS~">
    AuthType Basic
    AuthName "SV Console"
    AuthUserFile "C:/PROGRA~1/Fujitsu/F5FBFE01/SERVER~1/WebServer/bin/passwd"
    Require user websvuser
</Directory>
```

■ IIS についての設定（Windows）

ここでは、Windows 2003 で IIS に設定を変更していない場合を例として記述します。
ServerView のインストール前に IIS の DocumentRoot の変更などを行っている場合は、それに準じた設定を行ってください。
［スタート］→［プログラム］→［管理ツール］→［インターネットインフォメーションサービス (IIS) マネージャ］の順にクリックして、IIS マネージャを起動します。

● 接続ホストによるアクセス制限

以下の 3 つのフォルダに対して設定を行います。

- 既定の Web サイト ¥scripts¥ServerView
- 既定の Web サイト ¥ServerView
- 既定の Web サイト ¥AlarmService

1 各フォルダのプロパティから「ディレクトリセキュリティ」を開き、「IP アドレスとドメイン名の制限」の［編集］をクリックします。

2 「拒否する」を選択し、接続を許可したい IP ／ドメイン名のみを追加します。

3 「既定の Web サイト」配下の以下のファイルに対しても、同様のアクセス制限を行います。
AlarmService.htm、AlarmService.html、svagent.htm、sv_www.html

POINT

▶ 「既定の Web サイト」に ServerView 以外のコンテンツを格納しない場合、「既定の Web サイト」そのものにアクセス制限を設定することもできます。

● ユーザ認証によるアクセス制限

以下の 3 つのフォルダに対して設定を行います。

- 既定の Web サイト ¥scripts¥ServerView
- 既定の Web サイト ¥ServerView
- 既定の Web サイト ¥AlarmService

1 各フォルダのプロパティから「ディレクトリセキュリティ」を開き、「認証とアクセス制御」の［編集］をクリックします。

2 「匿名アクセスを有効にする」チェックボックスを外し、「認証済みアクセス」において実施したい認証を追加します。

3 「既定の Web サイト」配下の以下のファイルに対しても、同様のアクセス制限を行います。
AlarmService.htm、AlarmService.html、svagent.htm、sv_www.html

索　引

あ

アーカイブ 18
　アーカイブデータのインポート 214
　アーカイブデータの削除 212
　アーカイブデータの作成 207
　アーカイブデータの比較 211
　アーカイブデータの表示 210
　アーカイブデータのログ 213
　アーカイブマネージャ 206
　タスク設定 208
アイコンリスト 526
アラームグループ
　アクションの設定 164
　作成 162
アラームサービス 146
　起動 146
　アラームグループ 161
　アラームの設定 156
　アラームマネージャ 154
　アラームモニタ 147
　設定の一覧表示 180
　設定例 180
　トラブルシューティング 510
　Q&A 508
アンインストール
　RemoteControlService/Web 313
　ServerView Blade-Agent 524
　ServerView Linux 524
　ServerView S2/AlarmService 525

い

インストール
　Microsoft Virtual Machine 69
　MSA 405
　RemoteControlService/Web 313
　ServerView Agent 43
　ServerView Console 38
　ServerView Linux（通常のサーバ）. . . . 59
　ServerView Linux（ブレードサーバ）. . 50
　SNMP サービス 31
　TCP/IP プロトコル 31
　Web サーバ. 36
インストールスクリプト 51, 61

え

エージェント 14, 543
エクスポートマネージャ
　エクスポートデータの取得. 215
　エクスポートデータの表示. 220

お

オプション装置の割り込み情報の登録 73
温度異常時の対応. 138

か

外部記憶装置 119
各サービスの設定
　通常のサーバ 77
　ブレードサーバ 84
監視対象サーバ
　監視対象から削除. 230
　監視対象に追加 227
　グループの作成 230
　設定の確認／変更. 231
　追加時の留意事項. 228
管理コンソール 14, 222, 543
　アーカイブデータ表示 242
　アクション 242
　オペレーティングシステム. 242
　外部記憶装置 242, 246
　外部記憶装置 - DuplexWrite 252
　外部記憶装置 - MultiPath 251
　外部記憶装置 - RAID コントローラ . . .249
　環境の確認 243, 257
　起動 222
　構成情報. 242
　システム識別灯の表示 242
　システムステータス 242
　電源の確認 243, 255
　トラブルシューティング 502
　ハードウェアの監視. 241
　ベースボードの状態確認 243, 254
　Q&A 502
　RSB モード 241
　ServerView の操作 222
　サーバ設定値のコピー 240
　サーバの追加 227
　サーバのプロパティ 231
　しきい値マネージャ 232
　ハードウェアの監視 241
　ブレードサーバの状態確認. 258
　レポートマネージャ 236
　Network Discovery 228
管理ユーザの設定. 71

く

グラフィカルキーボード 494

さ

サーバ一覧画面
　アラームメニュー 224
　ウィンドウメニュー. 225
　しきい値メニュー 225
　設定メニュー 224
　タスクメニュー 224
　ツールメニュー 225
　表示メニュー 224
　ファイルメニュー 223
　フィルタリング 230
　ヘルプメニュー 225
　編集メニュー 223
　ポップアップメニュー. 226
　レポートメニュー 225
　画面説明 222
サーバ管理モード 222
サーバに異常が発生した場合の対処 138
サーバのアクション 244
　エラーメッセージバッファ 244
　ブートオプション 245
サーバの検索
　Network Discovery 228
サーバの構成情報 111
　アクション情報 114
　エージェントステータス 111
　外部記憶装置情報 113
　拡張ボードの情報 114
　システム情報 112
　ネットワーク インタフェースの情報. . 113
　ファン＆温度センサーの情報 115
　MIB- Ⅱ情報 115
サーバの再起動 117
サーバの再起動設定 138
サーバの再検出
　すべてのサーバ 106
　選択したサーバ 106
サーバのシャットダウン／電源切断 117
サーバの状態確認
　現在の状態 106
　構成情報 111
　詳細確認 108
　状態表示アイコン 104
　接続確認 105
サーバのプロパティ 231
サーバブラウザ画面
　監視対象サーバの追加 227

し

しきい値 17
　しきい値一覧 235
　しきい値監視の停止 235
　しきい値の設定 232
　しきい値マネージャ 233
　しきい値リスト 537
自動再構築＆再起動 18
シャットダウンの中止 117
信号灯制御プログラム 285
　使用できる信号灯 285
　連携の概要. 285

せ

設定値の他のサーバへのコピー 18

そ

ソフトウェアウォッチドッグ 144

て

ディレクトリサービス機能
　アカウントの設定 408
　パスワードの暗号化 407
　「DS Config」ページの設定 408
デフォルト設定. 240
電源異常後のサーバ動作. 138

と

トラップリスト. 536
トラブルシューティング
　アラームサービス 510
　インストールスクリプト 498
　管理コンソール 502
　ブラウザ 518
　ServerView S2 514

は

バージョン管理. 17
バージョン管理モード 222
ハードウェアの監視
　ブレードサーバ 258
　通常のサーバ. 241
バインド順序. 35
パフォーマンスマネージャ 186
　起動 187
　サーバへの適用 197
　しきい値 188
　しきい値の設定 193
　レポートの参照／設定. 197
　レポートの設定 196
　レポートの定義 194

ふ
ファン異常時の対応 138
ブリッジコントローラ 250
ま
マルチパスステータス 251
り
リモート管理 19
リモートサービスボード 19, 400
リモートサービスボード（PG-RSB101）. 340
管理ユーザの設定 351
シリアルインターフェースの設定 . . . 348
ダイヤルアップ接続 387
ドライバのインストール 343
LAN インターフェースの設定 345
Web インターフェースの起動 353
リモートサービスボード（PG-RSB102/PG-RSB103/PG-RSB104）. 400
アラーム機能の設定 439
各センサー値の表示 432
画面表示設定 412
機能 400, 452
サーバ情報の表示 437
自動ログオン設定 443
ディレクトリサービス機能 407, 448
電源操作 412
ユーザアカウントの設定 440
リモートサービスボードの設定 433
留意事項 400, 453
LAN インターフェイスの設定 402
Management Server Application（MSA）405
USB の設定 431
Web インターフェースの起動 409
リモートマネジメントコントローラ
対応機種 452
ユーザ名とパスワードの設定 454
IP アドレスの設定 454
Web インターフェースの機能 452
留意事項 453
リモートマネジメントコントローラ Web インターフェース
起動 456
終了 459
Component Status (Lightpath). 473
Email Alerting 481
iRMC Information 461
Network Settings 477
Power On/Off 463
Power Supply 472
Server Management Information 475
SNMP Trap Alerting 480
System Event Log 474
System Information 460
User Management 483
Console Redirection 488
れ
レポート 18
レポート作成停止 238
エクスポートされるコンテンツ 549
グラフ表示 239
詳細内容確認 .239
レポート一覧 .239
レポート作成 .236
レポートマネージャ 236
A
Advanced Video Redirection（AVR）. 413
AlarmService
システム要件 25
Apache2 . . . . .36, 37
ASR（異常発生時の対処方法）. 18, 138
ウォッチドッグ 144
温度センサ 142
再起動設定 142
ファン 141
Power ON/OFF 143
B
BOOT ウォッチドッグ 144
C
Configuration Tools. 260
H
hp OpenView Network Node Manager 連携279
httpd 36, 37
httpd サービスの自動起動設定 78, 82
I
Intel LANDesk Server Manager 303
Inventory View 548
IPMI 310
L
LDSM 連携 19, 303
M
Management Information Base 544
Microsoft Internet Information Server 36
MSA
インストール .405

起動 406
設定 406
必要な環境. 405

N

Network Discovery. 228

O

OpenView NNM. 279

Q

Q&A
アラームサービス 508
一般的な Q&A 516
管理コンソール 502

R

RCM 310
Remote Storage 機能. 418
iSCSI connection 接続 423
Local connection 接続 419
RemoteControlService. 19, 310
システム用件 312
RemoteControlService/LAN 310
IPMI への接続 337
RemoteControlService/Web. 310
アンインストール 313
インストール 313
起動（BMC 接続） 320
起動（RSB 接続）. 323
起動（ManagementBlade 接続). 325
リモートマネジメントコントローラへの接続. 327
RomPilot 310
RPM
バージョンアップ（ブレードサーバ）. . 59
バージョンの確認（ブレードサーバ）. . 59
RSB. 19, 340, 400
プロパティ 245

S

SCSI アレイコントローラカード
アダプタの表示 249
デバイスの表示 249, 250
ブリッジコントローラ. 250
ServerView エージェント 260
ServerView Agent
アンインストール 524
インストール 43
システム要件 22
ServerView Console
アンインストール 523
インストール 38
システム要件 23
ServerView Linux
インストール（通常のサーバ） 59
インストール（ブレードサーバ). 50
状態表示 266
使用方法 266
ServerView S2/AlarmService の使用 . . 267
ServerView Linux Agent
アンインストール 524
ServerView Linux エージェント
起動と停止. 267
システム要件 24
ログ 268
ServerView S2. 15
エクスポートマネージャ 215
外部記憶装置 119
環境の確認. 128
環境の確認（ブレードサーバ） 136
監視対象サーバの登録. 97
起動 92
使用方法 92
設定の確認／変更 100
電源の確認. 129
電源の確認（ブレードサーバ） 137
トラブルシューティング 514
ベースボードの状態確認 124
メニュー 95
MIB の登録. 103
システム要件（Linux）. 25
ServerView S2/AlarmService
アンインストール 525
ServerView Web-Server 36
ServerView エージェント
設定の復元. 264
ServerView エージェント
設定値の退避／復元 260
設定の退避. 264
リモートサービスボードの IP ／ UPS 装置の設定 261
ServerView の概要. 14
Service Pack の適用 36
SNMP 544
SNMP サービスの自動起動設定
通常のサーバ. 78, 82
ブレードサーバ 84
Systemwalker 連携 19, 270
トラブルシューティング 518
Systemwalker CentricMGR 連携 271
Systemwalker Desktop Monitor 連携 . . 272

U

UPS 管理ソフトウェア連携 295
UPS マネージャ 256

V

Video Redirection
画面構成 490
グラフィカルキーボード 494
マウスとキーボードの設定. 494
リモートストレージ接続 493

ServerView

ユーザーズガイド
B7FH-4661-01 Z0-00

発 行 日　2006 年 11 月
発行責任　富士通株式会社

●本書の内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
●本書に記載されたデータの使用に起因する、第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
●無断転載を禁じます。